

考古学的手法を用いた火山災害史研究

—十和田 10 世紀噴火と東北地方北部の社会—

丸 山 浩 治

(在籍時学籍番号 10GR104)

目 次

序章	本研究の背景と目的	1
第1章	考古学とテフラ	3
1	遺跡とテフラ	3
2	十和田と白頭山の10世紀噴火—概要と噴火年代研究—	4
3	考古学におけるTo-aテフラとB-Tmテフラの扱われ方— —広域降下テフラをどう扱ってきたか—	13
4	問題の所在	16
第2章	研究方法	20
1	作業と方法	20
2	本論における方法の詳細と対象地域	21
第3章	基礎的分析結果—各遺構放棄・廃棄時期の決定—	31
1	律令制・郡内	31
2	郡外	33
第4章	各噴火現象の堆積物確認範囲にみる被害推定	249
1	前提	249
2	火砕流の到達範囲と遺跡にみる被害	251
3	ラハールの到達範囲と遺跡にみる被害	251
4	降下テフラの堆積と被害推定	258
5	小結—十和田10世紀噴火を各期とした各地域集団の動態—	262
第5章	To-a・B-Tmの堆積様相からみた地域集団の動態	264
1	前提	264
2	各期の様相	264
3	小結—十和田10世紀噴火を画期とした地域社会動態—	268
第6章	9～10世紀における竪穴建物の形態変遷と十和田10世紀噴火	272
1	前提	272
2	分析する属性と方法	274
3	各期の様相	275
4	小結—住まいの形態からみた十和田10世紀噴火前後の人的動態—	323
第7章	9～10世紀における土器の変化と十和田10世紀噴火— —土師器甕に着目して—	328
1	前提	328
2	分析する属性と方法	338

3	各期の様相	338
4	小結—煮炊具からみた十和田 10 世紀噴火前後の人的動態—	350
終章	結論—十和田 10 世紀噴火に対する社会の反応—	355
1	火山災害史研究を進展させるために	355
2	十和田 10 世紀噴火の被害推定と人的動態	356
3	物質文化にみる地域集団の性格差	356
4	今後の課題	358
	参考・引用文献	360

序章 本研究の背景と目的

日本は「火山の国」である。今日までに無数の火山噴火が起こり、そのつど安定した自然環境が破壊され、いっぽうでは新しい大地が形成されてきた。ひとたび火山噴火が起これば、人間にはその変化を抑える術がない。火山噴火は、人間やその社会にとって災害となり、それらは多様な影響を被ることになる。当然、東北地方においてもそれは例外ではなく、幾多の火山噴火イベントを経験してきた。そして、いま現在も当該地域には 18 カ所の活火山が存在する。

青森・秋田県境に位置する十和田湖も、その活火山の一つである。十和田湖は、約 55000～15000 年前に発生した 3 回の火砕流噴火によって形成されたとされるカルデラである。その後も大規模な噴火を複数回繰り返し、大量のテフラ（火山碎屑物の総称）を噴出してきた。東北地方北部には、その痕跡が広く確認される。

この十和田カルデラで、平安時代中期の 10 世紀に非常に大規模な噴火が発生した。十和田火山噴火史の中で最も新しい「噴火エピソード A」(Hayakawa1985) と呼ばれるものである。この噴火は、過去 2000 年間に日本国内で発生した火山噴火のうち最大級の規模であったとされており（早川 1994）、噴出したテフラは南方 300km に及び東北一円に降り注いだ（町田・新井 2003）。

さらに、この十和田の噴火から数十年後、朝鮮半島北端に位置する白頭山（中国名：長白山）が非常に大規模な噴火を起こした。この噴火は、過去 2000 年間に発生した火山噴火のうち世界最大級の規模であったとされ（早川前掲）、噴出したテフラは偏西風に乗って北海道から東北地方北部に降り注いだ（町田・新井前掲）。白頭山から東北地方北部までの距離は、優に 1000 km を超える。日本海を渡り、はるか日本列島まで飛散・堆積したのである。

当時の東北地方北部に在った人々は、わずか数十年の間に、有史以降日本最大級、世界最大級という規模の火山噴火に続けざまに遭遇していたのである。

ところで、当時の東北地方北部には、近畿に中心を持つ律令国家に属する人々とは別の、「蝦夷」と呼ばれた諸集団が存在していた。ただ、一口に「蝦夷」といってもそれは一様ではなく、律令側への隷属度や居住地域によって異なる呼称を用いられていたことが文献資料からうかがわれ、また遺跡発掘調査資料からみた物質文化からも地域性が看取される。地域性は律令社会内部にも当然ながら存在し、特に奥羽山脈を隔てた陸奥国と出羽国の相違は、両地に設けられた城柵の物質文化からも明らかである。

平安時代の当該地域には、律令国家とその外側という概念での蝦夷領域があり、その境界域が存在した。律令国家の明確な支配地域は、郡郷制の敷かれた場所である。しかし、これまで積み上げられてきた考古学的・歴史学的成果をもってしても、その範囲すら明瞭に線引きできるわけではない。さらに互いの実質的な影響下がどこであったのか、どのように変化したのか、その問いには未だに答えられていない。

異社会の境界そして緩衝地帯という複雑な情勢の地域を襲った大規模火山噴火。この地域に在った人々はどのような影響を受け、その後どのような動向を示したのか。

これまで、遺跡・遺構単位の個別事例の検討はなされてきたものの、広域的・総合的な動向についてはほとんど論じられることがなかった。文化・社会史的にも災害史的にも重要な位置にありながら、不明瞭な状態が続いているのである。

その問いに答えるための鍵は、じつはテフラである。テフラは広域性と共時性という二つの特徴を併せ持ち、遠隔地の事物の同時性を担保する絶対年代指標となる。すなわち、国や社会などの違いにかかわらず、あまねく降り注ぐテフラがそれぞれの物質文化比較を可能にし、火山噴火イベントを画期とした動態の把握を可能にするのである。これを行うためには、当該期の人間が残した生活痕跡、すなわち遺跡・遺構にテフラがどう介在しているかを調査し、年代を与えて共時的・通時的に比較検討することが必要となる。

本論では、10世紀の東北地方北部を襲った二つの火山噴火のうち十和田カルデラに焦点を当て、上記作業によって遺跡にみえる被害状況を把握し、また、10世紀前後の東北地方北部各地域における物質文化の様相を明らかにして、その変遷・動向から十和田10世紀噴火の影響と社会の対応について論ずる。

第1章 考古学とテフラ

1 遺跡とテフラ

今日、考古学、埋蔵文化財発掘調査において、テフラ検出の重要性は一般的なこととして周知されているが、その背景には火山灰編年学の進展が大きく関係している。テフラは、マグマの性質や噴火様式によって構成物質の組成や形態が異なる。すなわち、同じ火山から噴出したテフラでも、個々の噴火ごとに差異があるのである。この個性を利用してテフラを分類することが可能で、個々のテフラの堆積範囲と層厚調査により給源を求めることもできる。さらに、理化学的年代測定（例えば熱ルミネッセンス法、フィッシュン・トラック法、放射性炭素年代測定法、年輪年代法など）によって絶対年代を得ることで、テフラを用いた時間軸・編年を構築することが可能となる。これが火山灰編年学であり、火山学・地質学の分野で研究が進められてきた。

埋蔵文化財発掘調査とテフラは、切っても切れない関係にある。発掘は、地層を相手としてその堆積様相を観察しながら当時の生活面を探り、遺構や遺物を検出していくという方法で進む。テフラもその地層を構成する堆積物の一部である。地層観察の最も基本的な考え方として地層累重の法則があるが、テフラも自然堆積の状態であれば下方のものほど古く、上方ほど新しいというその法則が当てはまる。上述の方法でテフラの素性と噴出年代が判断できれば、それを含む地層の堆積年代がわかる。例えば、遺構・遺物にテフラが介在していれば、それら考古学的事象の絶対年代を導出することも可能になる。地層から物質文化を探る考古学・埋蔵文化財発掘調査にとって、テフラは重要な年代指標となるのである。

さて、テフラを噴出する原因となった火山噴火が巨大であればあるほど、基本的にそのテフラは広域にかつ厚く堆積することとなる¹⁾。噴出源から数百km離れた地域でも確認できるテフラは、広域テフラと定義される。この存在が、テフラ分布圏内における共時的な考古事象対比と、その集合体としての遺構・遺物編年をも可能にする。考古学で用いられる絶対年代決定法は多種あるが、広域における共時性の提示が可能な方法は限定され、テフラはその代表格といえる。緊急発掘調査件数の増加と火山灰編年学の進展とが重なった1970年代以降、テフラの有効性が注目され、年代決定に用いる事例が急増した。

他方、物質から過去の文化や社会を探究する考古学にとって、火山噴火による災害痕跡としてのテフラの存在は、無論重要である。火山噴火災害は、人間社会に否応なく大きな影響を与え、変動させる要因となる。しかし、テフラを考古資料の年代決定指標に用いることは増したものの、災害視点で用いられる事例は限定的である。その理由は後述するが、遺構・遺物編年研究は人類史を編むためのいわば基礎作業であり、その途上に過ぎない。本来的にテフラから復元すべきものは、火山災害に対する人類史であり、能登健（1983・1993・1995など）のいう「災害史的アプローチ」が必要となる。

2 十和田と白頭山の 10 世紀噴火—概要と噴火年代研究—

本論で扱う二つのテフラについて、その概要を述べる。

(1) 十和田

(ア) 火山・十和田の概要

十和田は、北緯 40° 27′ 34″ 東経 140° 54′ 36″ (世界測地系) に位置するカルデラ湖で、活火山である。カルデラは、噴火エピソードQ (奥瀬噴火：約 55000 年前)、同N (大不動噴火：約 36000 年前)、同L (八戸噴火：約 15000 年前) の各火砕流噴火により形成されたと考えられている。Newhall and Self (1982) が提案した火山爆発度指数 VEI (Volcanic Explosivity Index) ²⁾ (表 1) を各噴火に当てはめてみると、前者は 5、後二者は 6 という (町田・新井前掲)。VEI 6 は「colossal (巨大な、途方もなく大きい、並はずれた)」と形容される規模である。前野深 (2014) によれば、日本列島で VEI 6

以上の噴火が起こる頻度は 10000 年に 1 度程度という。十和田もその統計に含まれる火山であり、東北地方で「最も盛んに爆発的活動を反復してきたのは十和田カルデラである」(町田・新井前掲) とされている。

エピソードLの八戸噴火以降、弥生時代早期頃までの間に VEI 4～5 の噴火が少なくとも 6 回確認されている (表 2)。特に、縄文時代早期に発生した噴火エピソードE

[Newhall and Self (1982) に加筆]

VEI	1	2	3	4	5	6	7	8
噴出物総体積 (km ³)	0.0001 ~	0.001 ~	0.01 ~	0.1 ~	1 ~	10 ~	100 ~	1000~
噴煙柱高度 (km)	0.1~1	1~5	3~15	10~25	>25			
	小噴火	中噴火		大噴火	巨大噴火		破局的噴火	
		爆発的噴火						
		テフロクロノロジーに利用						
	高頻度			低頻度				

表 1 火山爆発度指数 (町田・新井 2003)

表 2 十和田カルデラにおける過去1万年間の噴火イベント

※ ka=1000年前 西暦2000年を0kaとする

噴火イベント名	年代(ka)※	堆積物の種類	噴出物	VEI
噴火エピソードA	1.085	降下火砕物・火砕サージ→火砕流、泥流	大湯1軽石、大湯2火山灰、大湯3軽石、毛馬内火砕流、集宮洪水堆積物、十和田aテフラ(To-a) 十和田aテフラは毛馬内火砕流、大湯3軽石、大湯2火山灰、大湯1軽石の総称および給源遠方相の名称	5
噴火エピソードB	2.8	降下火砕物	惣辺火山灰、迷ヶ岱軽石 前者は大池(1972)による「十和田b降下火山灰」の上部、後者は同下部に相当	4
噴火エピソードC	6.2	降下火砕物→降下火砕物・火砕サージ	宇樽部火山灰、金ヶ沢軽石、中楸軽石 この3種を合わせて「中楸テフラ」と呼ぶ(早川1983)	5
噴火エピソードD'	7.6	降下火砕物→溶岩ドーム	御倉山溶岩ドーム、戸来火山灰	4
噴火エピソードD	8.3	降下火砕物	中ノ沢火山灰、小国軽石	4
噴火エピソードE	9.3	降下火砕物→降下火砕物・火砕サージ	南部軽石、貝守火山灰	5
噴火エピソードF	10.3	降下火砕物	椀山火山灰、夏坂スコリア	5

本表は国立研究開発法人産業技術総合研究所の1万年噴火イベントデータ集(ver. 2.3)から作成

(南部噴火: 9300 年前) と縄文時代前期に発生した噴火エピソードC (中撤噴火: 6200 年前) はともに VEI 5 とされ、降下軽石が青森・岩手両地域の広範囲に飛散した。なかでも、エピソードCの中撤噴火は十和田湖南半部に中湖 (なかのうみ) を形成した噴火とされており、福島県会津駒ヶ岳と山形県月山では山岳土壌から (荻谷ほか 2016)、長野県青木湖では湖成堆積物中から (石村ほか 2017) 当該テフラが確認されている。両噴火による降下テフラ (十和田南部テフラ: To-Nb、十和田中撤テフラ: To-Cu) は、昭和 50 年代から考古資料の年代指標として用いられてきた。例えば、縄文時代早期の貝殻文土器編年 (名久井 1989、領塚 2006 など) や、前期の円筒土器下層式出現過程の研究 (星・須原 2004、市川 2006、星・茅野 2006 など) などである。

中撤噴火以降最大規模の噴火と考えられているのが、最新の噴火である「エピソードA」である。そのイベント中に、南方 300km まで飛散・堆積した広域テフラの十和田 a テフラ (To-a) が噴出した。エピソードAが発生したのは 10 世紀で、噴火規模は VEI 5 とされている。弥生時代以降、少なくとも東北地方ではこれ以外に VEI 5 以上の噴火は起こっていない。なお、この噴火が過去 2000 年間で日本国内最大級の規模 (早川前掲) とされていることは、先に述べたとおりである。

(イ) 10 世紀噴火過程の研究

十和田 10 世紀噴火 (エピソードA) の噴火過程研究は、大池昭二 (1972)、町田洋・新井房夫・森脇広 (1981)、町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984)、早川由紀夫 (Hayakawa 1985)、松山力・大池昭二 (1986)、町田洋・白尾元理 (1998a)、早川由紀夫・小川真人 (1998)、田中倫久・宮本毅・谷口宏充 (2002)、松浦旅人・古澤明・澤井祐紀・宮城磯治 (2007)、工藤崇 (2007)、工藤崇・佐々木寿 (2007)、広井良美・宮本毅・田中倫久 (2015) などにより成されている。これを表 3 にまとめた。

10 世紀噴火のある段階で、広域テフラである細粒火山灰・十和田 a テフラ (To-a) が噴出した (図 1)。秋田県内陸北部域には軽石 (大湯軽石) の堆積が認められるが、これは To-a とは異なるタイミングの噴出物であり、エピソードA初期段階のものと推定されている。イベントの最終段階には大規模な火砕流が発生している。毛馬内火砕流 (KPF) と命名された

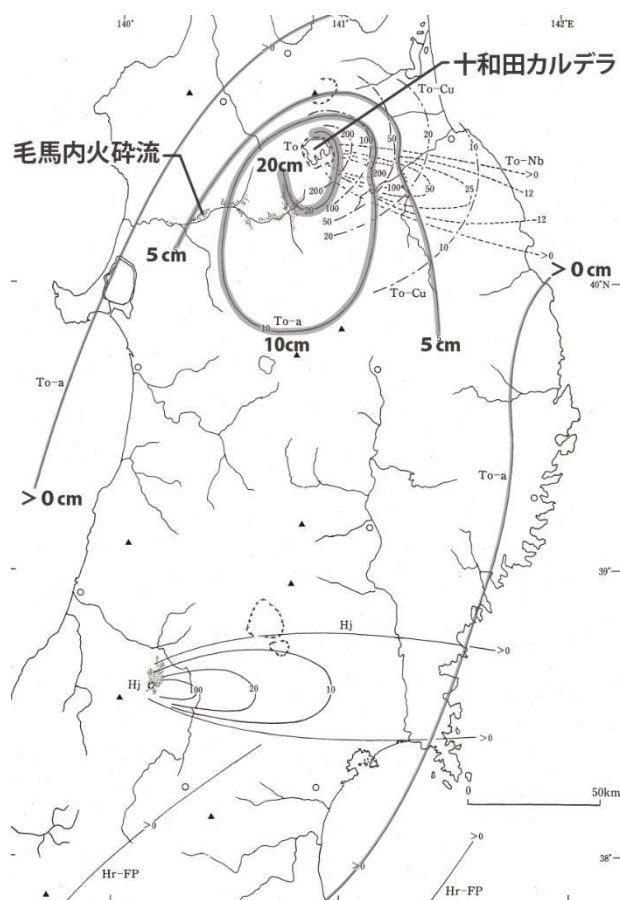


図 1 十和田 a テフラの等層厚線図
(町田・新井 2003 に加筆)

表3 十和田10世紀噴火(エピソードA)噴火過程の研究

大池昭二(1972)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
十和田a噴火より古期(弥生?)	大湯浮石	外輪山周辺(迷ヶ岱・二ノ倉ダム)から南西方向の秋田県旧十和田町付近に堆積
時間差あり?		
火山灰の降下	十和田a降下火山灰	十和田湖・八甲田山周辺から上北地方中部一帯に堆積 二ノ倉ダム付近で層厚約10cm
↓	↓	
火砕流の発生	毛馬内浮石流凝灰岩	外輪山南東腹(迷ヶ岱・田代森南方)から鷹巣盆地に堆積

町田洋・新井房夫・森脇広(1981)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
軽石・火山灰の降下 (十和田a火山灰・3ユニット)	降下軽石(大湯浮石)	
↓	↓	
	降下火山灰	主に南方に分布
	↓	
	降下火山灰	主に十和田湖周辺と東方に分布
ベースサージの発生	ベースサージ堆積物	発荷峠付近に分布
↓	↓	
火砕流の発生	毛馬内火砕流	米代川沿いに分布

町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
プリニアン噴火…軽石の降下	降下軽石(大湯浮石)	岩手・秋田県内
↓	↓	
湖水を巻き込んだ水蒸気プリニアン噴火…火山灰の降下とサージの発生	降下火山灰	南方へ300km 東北一円を覆う?
	サージ堆積物	
↓	↓	
火砕流の発生	火砕流堆積物(毛馬内火砕流)	米代川沿いに分布
↓	↓	
泥流の発生	火砕流から転化した河成堆積物	米代川沿いに日本海沿岸まで分布

早川由紀夫(1984)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
軽石・火山灰の降下	大湯1降下軽石(OY1)	十和田湖南西の小坂町付近で最大18cm
↓	↓	
	大湯2降下火山灰(OY2)	小坂町付近の層厚は3~10cm
	↓	
	大湯3降下軽石(OY3)	層厚・粒径ともにOY1より小さい 主体部は米代川の低地沿いに50km以上流下 十和田湖から20km以内の高所にも2~40cm堆積
火砕流の発生	毛馬内火砕流堆積物(KPf)	
↓	↓	
泥流の発生	集宮洪水堆積物(AF)	低地に堆積したKPfの直上に分布
↓	↓	
溶岩円頂丘の形成	御倉山溶岩円頂丘(OD)	御倉山 同所に十和田aテフラ層が載らないことからODが火道を埋めた噴火最終段階の堆積物と推定

松山力・大池昭二(1986)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
軽石の降下	大湯浮石	カルデラ南側外輪山に続く周辺地域(厚さ数~10cm±)から南西方向の秋田県旧十和田湖町付近に堆積
↓	↓	
火山灰・軽石の降下 (十和田a降下火山灰・地点により降下軽石挟む)	細粒火山灰	十和田湖周辺地域と岩手県北から青森県上北地方までの地域を中心に分布 迷ヶ岱付近で層厚20cm前後、二ノ倉ダム付近で層厚約10cm 町田ほか(1981)の「中部の降下火山灰層」に相当
↓	↓	
	降下軽石	南南東への分布域の西側のみ 層厚5cm程度あるいは浮石が横一列に並ぶ程度
	↓	
	細粒火山灰	町田ほか(1981)の「上部の降下火山灰層」に相当
↓	↓	
火砕流の発生	毛馬内浮石流凝灰岩	迷ヶ岱・発荷峠付近から南西麓に分布 発荷峠付近での層厚は1.5~3m、迷ヶ平付近では数十cm
時間差あり?		
溶岩円頂丘の形成	御倉山溶岩	十和田火山の最新噴出物と考えられるが形成時期は未特定

町田洋・白尾元理(1998)

p.79「鹿角盆地では、毛馬内火砕流に先立って噴出した降下軽石層(大湯軽石)が見出される。これは十和田市や二戸市付近で十和田aと呼ばれた白色の火山灰層に続くもので、毛馬内火砕流堆積物も含め十和田aテフラ(To-a)とまとめて呼ばれる。」		
文脈から右のような変遷が示唆される	十和田a火山灰	火山豆石含む＝マグマが湖水に接触したことによる激しいマグマ水蒸気爆発の結果 p.82「湿ったボタン雪のような灰が東北地方各地に降ったのであろう」
	↓ 大湯軽石	
	↓ 毛馬内火砕流堆積物	鹿角盆地から(米代川)上流に堆積 米代川中流部(大館・鷹巣)以西は発掘家屋の状態から火砕流到達せず火山泥流のみ
	↓ 火山泥流	

早川由紀夫・小川真人(1998)

p.403「疾走中の毛馬内火砕流の上には火山灰を多量に含む熱いサーマル雲が立ち上がり、それはやがて上空の風で南へ押し流された」＝To-aは毛馬内火砕流の発生に伴うものとの推定		
前段階は早川(1984)と同じ		
↓ 火砕流の発生	↓ 毛馬内火砕流堆積物	噴火口から20km以内に到達 発荷峠で層厚2m
↓ 広域火山灰の降下	↓ 十和田湖915年火山灰	
↓ 溶岩円頂丘の形成	↓ 御倉山溶岩ドーム	

田中倫久・宮本毅・谷口宏充(2002)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
プリニー式噴火による軽石降下 次第に爆発的となり火口拡大	↓ 降下軽石(OYU-1)	南～南西方向へ分布主軸をもつ
↓ 火口拡大による湖水等の流入がマグマと水の接触を引き起こし水蒸気プリニー式噴火発生 火山灰降下	↓ 降下火山灰(OYU-2a)	南～南西方向へ分布主軸をもつ
↓ 火砕流の発生	↓ 火砕流堆積物(OYU-2b)	
↓ プリニー式噴火による軽石降下	↓ 降下軽石(OYU-3)	分布が非常に狭い 地形的低所に比較的厚く堆積
↓ 火砕流の発生	↓ 毛馬内火砕流堆積物(KEM)	尾根においても薄く堆積している場合あり
OYU-1～KEMまでは同じマグマによる一連の噴火 分布主軸が南～南西と特殊であることから風向きが変化するまでの短時間(数日以内)に推移した		
↓ 溶岩円頂丘の形成 活動時期不明	↓ 御倉山溶岩ドーム	
(仙台に達した)To-aがどの噴火現象に対応するか不明。しかし、広域に分布する細粒火山灰の起源としてはOYU-2のような水蒸気プリニー式噴火の火山灰やOYU-2bやKEMのような火砕流によるco-ignimbrite ashの可能性が考えられる。		

松浦旅人・古澤明・澤井裕紀・宮城磯治(2007)

噴火過程	堆積物	堆積場所(紫明亭付近)・層厚
プリニー式噴火による噴煙柱の形成と軽石降下	↓ 大湯1降下軽石(Oyu-1)	20cm程度
↓ マグマと湖水の接触によるサージ発生と火山灰降下	↓ サージ堆積物(未命名)、大湯2降下火山灰(Oyu-2)	3m程度
↓ 噴煙柱の形成とサージ発生? 軽石降下	↓ サージ堆積物(未命名)、大湯3降下火山灰(Oyu-3)	
↓ 噴煙柱の倒壊(南方)による火砕流発生とコイグニンプライトの発生	↓ 毛馬内火砕流堆積物(KmF1)、To-a	1m程度

工藤崇(2007)

御倉山溶岩ドームの形成時期は西暦915年噴火(噴火エピソードA)の末期ではなく、約9700年前の噴火エピソードE(南部軽石)から約6000年前(年代はいずれも暦年代)の噴火エピソードC(中坩軽石)の間であり、噴火エピソードD(約8300年前)とD'(約7300年前)のいずれかに伴うものである可能性を指摘。

工藤崇・佐々木寿(2007)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
軽石の降下	大湯1軽石	
↓	↓	
火山灰の降下と火砕サージの発生	大湯2火山灰 少なくとも一部については火砕サージ堆積物	鹿角市熊取平付近では軽石火山礫から火山灰へと正級化する少なくとも3枚のユニットが存在 鹿角市田代川最上流部付近では側方に尖滅する層厚数cmの軽石火山礫層が火山灰層中に存在
↓	↓	
軽石の降下	大湯3軽石	
↓	↓	
火砕流の発生	毛馬内火砕流	

広井良美・宮本毅・田中倫久(2015)

噴火過程	堆積物	堆積場所・層厚
中湖カルデラでプリニー式噴煙柱を形成するマグマ噴火 数時間～半日程度継続	降下軽石(OYU-1)	南西方向に分布主軸をもち、給源から80km遠方まで堆積物を確認できる
↓	↓	
マグマ水蒸気噴火 ベースサージ	火山灰(OYU-2a) 高温ベースサージ(OYU-SL) 低温ベースサージ(OYU-2b)	OYU-2aは明瞭な分布主軸もたず、分布は7.5km以遠15km圏内 OYU-SLは給源近傍7.5km、それ以遠はOYU-2b OYU-2bは明瞭な分布主軸もたず、分布は南麓7.5km以遠15km圏外にも
↓	↓	
OYU-1より小規模なプリニー式噴煙柱を形成するマグマ噴火	降下軽石(OYU-3)	南南西に分布軸をもち、明瞭な層として確認できるのは25km圏内 OYU-1より分布範囲狭い
↓	↓	
マグマ水蒸気噴火 OYU-2bより小規模なベースサージ	高温ベースサージ(OYU-SU) 低温ベースサージ(OYU-4)	OYU-SUは南西縁および南東縁方向の6.5km圏内 OYU-4は6km以遠7.5km以内
↓	↓	
十和田カルデラリムから溢流した火砕流の噴出 co-ignimbrite ashの発生	火砕流(KPf) To-a	カルデラリム外では大湯川～米代川、奥入瀬川に沿って分布 南向きの分布主軸で東北地方ほぼ全域に分布
各降下堆積物(OYU-1,3およびKPfのco-ignimbrite ashであるTo-a)の分布がいずれも南西～南南西に主軸をもつのは、台風や低気圧の通過など1日単位で影響を及ぼす事象に由来した可能性があるとし、各噴出物の間に時間間隙を示す証拠が見つめられない点とOYU-1の噴煙柱継続時間を考慮して、平安噴火は風向きの変化を伴わない1日程度の短時間のうちに終止したと判断している。		

その本体は給源南方へ広がり、大湯川から米代川伝いに流下した。火砕流自体は大館盆地へ至る前に止まったようだが、火山泥流(ラハール)となり最終的には能代へ、そして日本海まで到達している。

To-a がどの段階で噴出したのかは研究者間で見解が分かれる。田中ほか(2002)によれば、水蒸気プリニー式噴火時の可能性と、毛馬内火砕流によるコイグニブライト火山灰³⁾の可能性が考えられるという。早川ほか(1998)、松浦ほか(2007)、広井ほか(2015)は後者の可能性を推定している。

また、噴火口についても諸説ある。Hayakawa(1985)は、御倉山が火口でありイベント最終段階にこの溶岩円頂丘が形成されたと主張しているが、工藤(2007)は縄文時代前期の中坩噴火以前に御倉山は形成されており、噴出源は中湖付近であると考えている。

(ウ) 10世紀噴火年代の研究

端緒となったのは、多賀城跡出土土器の編年を行った白鳥良一（1980）の見解である。その前年度、庄子貞雄と山田一郎は、宮城・岩手両県の古代遺跡などに存在する灰白色土が火山灰であること（灰白色火山灰と呼称）を明らかにした（庄子・山田 1980）⁴⁾。白鳥はこれを受けて、それまで貞観 11（869）年の大地震に関連する整地層と考えられていた灰白色土の年代を、陸奥国分寺跡の調査事例（陸奥国分寺跡発掘調査委員会 1961）から再検討した。塔基壇で確認された「白土」層の直上にある焼土層⁵⁾の存在と、「白土」層下の整地層に多量に含まれていた宝相花文や連珠文の軒瓦の製作年代⁶⁾から、白土層すなわち灰白色火山灰層の堆積年代を貞観 12（870）年から承平 4（934）年までの間と考えたのである。さらに、「これらの瓦が使用を終えて、整地層中に大量に廃棄されている事実を重視するならば、その時間幅をも考慮し、白土層の年代を 10 世紀前半頃とみることも可能であろう。焼土層が白土層を直接覆っていることや、相輪の破片が白土層直上から出土する状況も、この白土層が塔焼失に近い時期のものであることを示しているのかも知れない。」（白鳥前掲、32 頁）と述べた。発掘調査事例と史料から年代を導出したこの論考は、To-a 噴出年代研究において重要な位置を占めている。

その翌年、史料の記録に基づく見解が相次いで発表された。鈴木恵治（1981）と町田洋ほか（1981）による『扶桑略記』裡書・延喜 15 年 7 月 13 日条の解釈である。「出羽国言上雨灰高二寸諸郷農桑枯損之由。」という記載があり、これが To-a の降下・堆積による被害を示したものと推定した。延喜 15 年すなわち西暦 915 年に発生したとする見解である。なお、町田洋はこの中で、東北地方に広く分布する灰白色火山灰は十和田湖起源の同一テフラである可能性が高いと指摘した。この論考は、分布域と噴出年代両方においてその後の指標となっている。さらに、早川由紀夫ほか（1998）は、この年代を西暦（ユリウス暦）915 年 8 月 26 日と換算した。

ところで、『扶桑略記』は比叡山功德院の阿闍梨・皇円が寛治 8（1094）年以降に編纂したとされる私撰歴史書である。「出羽国…」は現地から都へもたらされた情報であり、7 月 13 日はあくまで記述者（不明）が書いた月日であるため、出羽国からの発信日ではない。当時の伝達日数を考えれば、数週間以上遡る出来事だったと推定される。

理化学的年代測定では、年輪年代法と ¹⁴C ウィグルマッピングによる測定結果が示されている（表 4）。なお、年輪年代法を行うためには白太を残す状態の良い木材がテフラによって被覆されていることが条件となるが、秋田県米代川流域ではラハール堆積物の影響で埋没建物が複数検出されており、それを可能にしている。

これらの結果は、『扶桑略記』の記載から導出された 915 年と非常に調和的であり、現在のところ 915 年噴火説が最も有力とされている。本論でもそれに従う。ただし最近、¹⁴C スパイクマッピングと酸素同位体比年輪年代法により、白頭山 10 世紀噴火を 946 年に「確定する」という報告がなされた。これにともない、十和田の噴火年代が 915 年ではなく、そこから数年～十数年下る可能性が指摘されている。これについては後述する。

表4 十和田10世紀噴火にかかわる理化学的年代測定結果

年輪年代			
試料の種類と出土場所		測定結果（伐採年）	掲載文献
胡桃館遺跡 家屋部材（秋田県北秋田市）		902年	奈良国立文化財研究所 1990
道目木遺跡 家屋部材（秋田県大館市）		912年	赤石ほか 2000
払田柵跡 角材列材（秋田県大仙市）		907年以降、917+ α 年以前	秋田県教育庁 1998
¹⁴ C ウィグルマッチング年代			
試料の採取場所と種類	較正曲線	測定結果	掲載文献
紫明亭 ベースサージ層 炭化樹幹2点 （秋田県小坂町）	IntCal98	915年前後 （901-925 cal AD, 95.4%）	宮本ほか 2013
		913年前後 （896-930 cal AD, 95.4%）	

降下時期については、宮城県仙台市赤生津遺跡の昆虫遺体検出事例（仙台市教育委員会 1990）や、小川原湖湖底堆積物コアの珪藻、鉄鉱物、磁鉄鉱の年層調査（町田ほか 1996）などによって検討が加えられている。前者では、テフラ層中で検出されたコガネムシ科 *Anomala* 属の出現時期から、6～8月と推定している。後者では夏期と推定しており、『扶桑略記』記載月日と併せて初夏～夏に噴火したとする説が主流となっている。

（2）白頭山

（ア）火山・白頭山の概要

白頭山（朝鮮語：ペクトゥサン、中国名：長白山・チャンパイシヤン）は、北緯 42° 00′ 36″ 東経 128° 03′ 43″（世界測地系）に位置する火山である。山頂部には天池（ティエンチ）と呼ばれるカルデラ湖がある。

噴火活動史については研究が進んでおらず、有史以前については約 4000 年前の大規模噴火が指摘されている（Liu and Wei 1996、魏等 1999）以外、不明である。明確なのは 10 世紀の噴火で、これは規模の大きさと降灰範囲の広さから多くの（特に日本の）研究者に注目されたために他ならない。

なお、東北大学東北アジア研究センターが主体となって 2000 年から 2003 年まで実施した現地調査とその検討によって、9 世紀噴火の可能性が指摘された（中川ほか 2004）。噴出物の分布軸と層厚から、その規模を「9 世紀噴火の規模が、10 世紀噴火よりは小さいかもしれないが、それに匹敵する程度であったと推定できる。おそらく 9 世紀噴火の噴出物量は数 10 km³ のオーダーであろう」と予想した。十和田 10 世紀噴火の噴出物量が 6.5 km³ と推定されていることから、これをはるかに凌ぐ規模であったということになる。ただし、現在のところこれに対応するテフラが日本列島で検出された例はない。結局、この「9 世紀噴火説」は、その後に実施された白頭山麓の 9 世紀噴火模式地採取炭化樹幹に対する ¹⁴C ウィグルマッチング年代測定により 10

世紀を示す結果が相次いで出ており（八塚ほか 2006・2009）、否定的に扱われている。

10 世紀噴火を最初に指摘したのは、町田洋ほか（1981）である。当該テフラの初検出地は北海道苫小牧市付近で、当初は「苫小牧テフラ」と命名され給源不明とされていた。町田らはその堆積分布を日本海側へたどり、給源が白頭山であることを突き止めた。このテフラが白頭山—苫小牧テフラ（B-Tm）と呼ばれる所以である。町田は、東北地方北部において B-Tm 層の直下 1 cm～2 cm 下位に To-a が発達するという状況を根拠に、915 年の十和田噴火後あまり時間を置かずに白頭山が噴火し、これが渤海国の滅亡（926 年）に大きな影響を与えたと推定した（町田 1992）。

（イ）10 世紀噴火過程の研究

白頭山 10 世紀噴火の過程は、町田洋・森脇広・Zhao Da-Chang（1990）、町田洋・光谷拓実（1994）、町田洋・白尾元理（1998b）、福澤仁之・塚本すみ子・塚本斉・池田まゆみ・岡村真・松岡裕美（1998）、宮本毅・中川光弘・大場司・長瀬敏郎・菅野均志・谷口宏充（2002）、宮本毅・中川光弘・長瀬敏郎・菅野均志・大場司・北村繁・谷口宏充（2003）、宮本毅・中川光弘・田中勇三・吉田まき枝（2004）、西本潤平・中川光弘・宮本毅・谷口宏充（2010）などにより成されている。

日本列島まで到達した降下テフラの発生過程について、Machida et al. (1990) は噴煙柱の崩壊による破局的な火砕流の流出と、それにとまなうコイグニンプライト火山灰の発生を推定した。すなわちこれが B-Tm だとする考えである。

他方、福澤ほか（1998）は、青森県小川原湖で採取した湖底コアの年縞堆積物を調査し、B-Tm 中に 1 枚の年縞が挟在すると報告した。これはつまり、噴火イベント中に休止期間があったということを示す。

2000 年代前半、東北大学東北アジア研究センターによって精力的な現地調査が行われたことは前述したが、その成果が数回にわたり発表されている（宮本ほか 2002・2003・2004）。これによると、噴煙柱崩壊型の火砕流が約半年～1 年の休止期間隙を挟んで二度発生し（フェイズ 1・フェイズ 2）それぞれからコイグニンプライト火山灰が生じて日本列島に飛来したとしている。なお、その規模はいずれも VEI 7 と算定されている。

柴正敏・岩下紗弥佳（2005）は、青森県内に分布する B-Tm の火山ガラスの化学組成を分析し、いずれもフェイズ 2 噴出物であることを確認した。つまり、青森県域にはおもに 2 回目の火砕流噴火時のコイグニンプライトが到達・降灰したということになる。

（ウ）10 世紀噴火年代の研究

白頭山 10 世紀噴火の年代研究は、年縞解析や ^{14}C ウィグルマッチングが多く行われてきたが、これら理化学分析の結果には多少のばらつきがある（表 5）。 ^{14}C 法の較正年代はある程度の時間幅を持つものであり、それはウィグルマッチングであっても避けられない。試料が異なれば測定結果が同一値になることは極めて少なく、ばらつくのは当然である。いっぽうの年縞解析は、1 年単位の年代決定を目的としたもので、方法論的にはどの解析も同一値となるはずである。しかし、ここでも 10 年弱の差があ

表5 白頭山10世紀噴火にかかわる理化学的年代測定結果

湖沼底堆積物の年縞解析				
試料の採取場所		解析結果	掲載文献	
小川原湖（青森県六ヶ所村）		937~938年	福澤ほか 1998	
二ノ目潟・三ノ目潟（秋田県男鹿市）		929年	上手ほか 2010	
¹⁴ C ウィグルマッピング年代				
試料の採取場所と種類		較正曲線	測定結果	掲載文献
白頭山周辺 火砕流層・ラハール層炭化樹幹		IntCal98	936+8/-6 cal AD (68.2%)	石塚ほか 2003
白頭山北東麓 山門西 ラハール層炭化樹幹（上）、未炭化樹幹（下）		IntCal04	934 cal AD	八塚ほか 2009
			946 cal AD (未炭化)	
白頭山北東麓 長白火砕流層炭化樹幹		IntCal04	934±6 cal AD (95.4%)	中村ほか 2011
¹⁴ C スパイクマッピング年代				
試料の採取場所と種類		測定結果		掲載文献
白頭山北東麓 埋没木（試料数1）		946年		Oppenheimer et al. 2017
白頭山北東麓 埋没木（試料数2）		946年		Hakozaki et al. 2018

り、堆積層の解析方法に課題を残す結果となっている。

文献史料からの検討はさらに難しく、国内外ともに有力な記述がみつからない。唯一、早川・小山（1998）は『高麗史』、『興福寺年代記』、『貞信公記』、『日本紀略』の記述から946年から947年にかけての冬と結論付けた。

ところが最近、¹⁴C スパイクマッピング法（箱崎ほか 2014、2016）と酸素同位体比年輪年代法（中塚・佐野 2014 など）という新しい年代法が確立され、これによって白頭山噴火年代は946年の冬であることが確定したと報告されている（Oppenheimer et al. 2017, Hakozaki et al. 2018）。

ここで問題となるのが、十和田10世紀噴火の年代である。年縞解析から白頭山の噴火年代を求めた上述2例は、いずれも年縞中のTo-a層を915年としてそこから数えて何年後、という算出方法を用いていた。白頭山噴火が946年で確定すれば、これから年縞分を差し引いた数が十和田噴火年代となる可能性がある。ただし、これはあくまで年縞解析自体が正しい場合のことで、その検証が求められる。もっとも、¹⁴C スパイクマッピング法が正確か否かということも焦点であり、両者に関する今後の分析事例増加を待ちたい。本論では、これらを含めた多くの測定結果が940年代前後に集中することを鑑み、白頭山10世紀噴火年代を「940年前後」として論を進める。

降下時期については、B-Tmの分布範囲が給源から東に伸び、南北には広がっていないことから、偏西風の強い冬期であったと推測されており、これは福澤ほか（1998）

による年縞解析による解釈とも符合する。

3 考古学における To-a テフラと B-Tm テフラの扱われ方

—広域降下テフラをどう扱ってきたか—

本章第1節で述べたとおり、考古学ではテフラを大別二つの方向で扱ってきた。一つは編年研究における鍵層として、もう一つは火山災害を考える上での物証として、である。本節ではそれぞれの研究史をみていく。

(1) 年代指標としてのテフラ

東北地方北部における古代研究では、To-a と B-Tm が編年のための鍵層としてしばしば用いられてきた。ここでは、その研究史を概観する。

広域の資料群を対象として堅穴建物内のテフラ堆積状況分類を行い、遺構・集落の編年を試みた先駆例として、秋田県鹿角盆地内の大湯浮石⁷⁾を対象とした富樫泰時(1978)、岩手県二戸市域の To-a を対象とした瀬川司男(1978)の論考が挙げられる。富樫は、大湯浮石層と遺構の新旧関係から構築・廃棄時期を降下前・後に二大別し、「広域的に絶対的な年代の分離ができる」と指摘した。なお、大湯浮石の降下年代は出土遺物との関係から平安時代後半～末期と推定している。瀬川は、To-a の堆積層位・状況から8つのパターンを提示し、各パターンと出土土師器型式との関係を論ずるとともに、ここから To-a の降下年代を9世紀(中葉以前)と推定した。

両論考が提出された1970年代後半から80年代にかけては、テフラの理化学的同定と文献史学、自然科学の両分野から降下年代の推定が進んだ時期であった。これにより、考古学分野においても年代指標としてテフラの有用性が高まり、遺構内部のテフラ堆積様相検討による時期推定作業が盛んに行われるようになる。1983年、高橋與右衛門らは北東北三県で検出される旧石器時代以降のテフラを整理し、自然科学的方法による絶対年代と遺跡・出土遺物との関係を論じた(高橋ほか1983)。小林克はこの中で、秋田県の古代住居における大湯浮石の堆積様相分析を基に、堆積様相と遺構構築・廃棄時期の関係を概念的に示した。これは、当時の資料群で考えうる分類と時期関係を網羅した包括的なもので、以後の(肉眼レベルでの)To-a・B-Tm堆積分類と時期検討はこれを基に行われてきたといえる。なお、この段階で粒状・ブロック状に堆積するパターンの時期推定が難しいことが指摘され、以後これが進展せぬまま今日に至っている。堆積過程の多様さに対して、それに対応可能な分析視点と方法の構築が個々の資料観察のみでは困難であったためである。

1997年、中嶋友文は青森県内における To-a・B-Tm 検出遺跡の集成を行い、両テフラ降下間の資料など5遺跡・12遺構の良好な堆積事例を提示し、出土土器を検討した(中嶋1997)。これは、2つのテフラの堆積事例を検討した研究例として評価できるものであるが、分類方法に起因する抽出数の少なさが影響し、土器検討から新知見を得るまでには至っていない。

2004年から2007年までの4ヵ年、丸山浩治らは岩手県内の発掘調査で確認された To-a 堆積遺構の集成と堆積様相分類を実施した(丸山ほか2004・2005・2006・2007)。

これを基に、岩手県北部地域（北緯 40° 以北）で検出された To-a 堆積堅穴住居の放棄・廃棄時期推定と、テフラ降下前～後における集落の動態検討を行っている（丸山 2008）。結果、給源に近い岩手県二戸地域ではテフラ降下後に遺構数が急減すること、いっぽうその南西側に位置する浄法寺・安代地域では増加することを指摘した。

2014 年、北東北古代集落遺跡研究会により北東北 3 県における 9～11 世紀の堅穴建物集成が行われた（北東北古代集落遺跡研究会 2014）。遺構の時期区分把握は基本的に遺物で行い、これに To-a、B-Tm テフラの堆積も加味して当該期の人口動態を押さえようとする試みである。ただし、あくまでも編年の中心は広域編年指標とした土器 5 器種⁸⁾であり、テフラは副次的である。船木義勝はこの中で、10 世紀前葉（To-a～B-Tm 降灰）に北半部（郡制未施行地域）では上北南部を除き堅穴建物軒数が増加するとし、これが十和田の噴火による影響だとしている（前掲、302 頁）。しかし、増加の具体的な理由と根拠は述べられていない⁹⁾。

広域的な視点の論考はこの程度に止まる。その背景には、当該研究に対する「限界意識」が起因していたと思われるが、これについては後述する。しかし、個々の調査報告が膨大に蓄積された現在、この再整理による新たな考察が可能である。

（2）災害痕跡としてのテフラ—古代を中心に—

物質文化を対象とする考古学は、文献史学による災害史研究では表せない具体的な物質的事象を示すことが可能で、これは極めて有効な方法といえる。しかし、遺跡発掘調査とテフラが極めて密接な関係にあるにもかかわらず、災害視点で検討され得る例は決して多くない。同視点はより直接的な被災状況がみえるほど持ちやすく、それは多分に地域的制限を受けるからである。古代における火山災害視点の研究は、特に群馬県と鹿児島県で進められてきた。

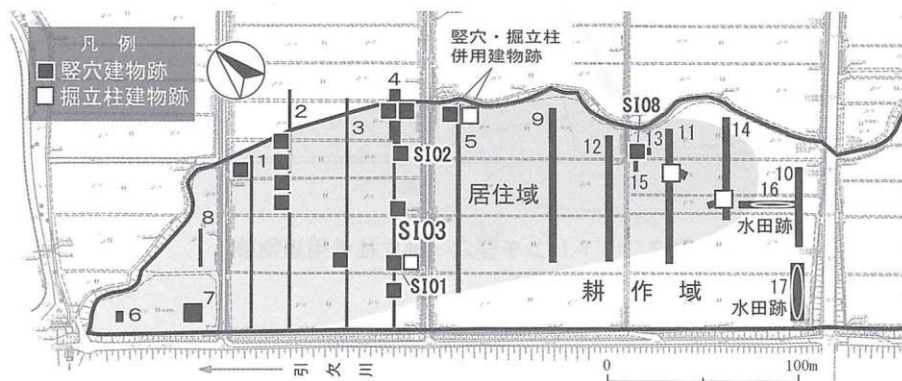
群馬県における当該研究は、能登健によって主導された。氏の一連の研究は、被災前後における地域変貌の具体的な分析から災害に対する時々の社会・民衆の対応を解明しようとするもので、その背景にある社会的価値観をも視野に入れたものであった。この視点（災害史的アプローチ）は極めて重要である。研究方法は、主として被災水田に対する対応状況の相違（放棄・再開発か、復旧か）から当時の社会情勢を読むというものである（群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983・1991、能登 1983・1989 など）。同県では、厚さ 2 m に及ぶ榛名二ツ岳伊香保テフラで埋没した古墳時代のムラが発見された子持村黒井峯遺跡（子持村教育委員会 1986 など）などの被災遺跡が多数調査され、その研究成果は枚挙に暇がない。

鹿児島県の例として、開聞岳起源のテフラに関する一連の研究が挙げられる。指宿市橋牟礼川遺跡では、7 世紀末と 874（貞観 16）年に噴出したテフラ¹⁰⁾でそれぞれ埋積された集落が検出され、前者では堅穴住居の再構築や貝塚形成の継続性から即時復旧が推定されるのに対し、後者では集落放棄に至ったと考えられ、その背景に噴火の影響差とともに被災民の性格差を読んでいる（下山 1990、鎌田ほか 2009 など）。

両県例とも、火山噴火が幾度も発生しそのつど被災している土地であるからこそ、各噴火イベントに対してはもとより、近接した時期であればその両方を受けて人間が

どう対処したのか、まさに災害視点に立脚した研究が成されてきた。

本論の対象である十和田 10 世紀噴火に関しては、二種の研究事例がある。第一は、秋田県の米代川流域における毛馬内火砕流由来の泥流堆積物に被覆された建物検出例とその研究（高橋 2006 など）である。通常環境では地上の構築物が残存しないため、極めて貴重な例である。同河川流域の埋没建物は江戸時代から平田篤胤、菅江真澄、黒沢道形らによって報告されており¹¹⁾、現代における発掘調査は北秋田市胡桃館遺跡（秋田県教育委員会 1968 など）、大館市道目木遺跡（板橋 2000 など）、同片貝家ノ下遺跡（秋田県埋蔵文化財センター2016 など）の 3 遺跡でなされている。胡桃館遺跡では板校倉形式の土台建物や掘立柱建物が検出され、木簡もみついている。竪穴住居がみつっていないのが特徴で、通常集落ではない、寺院もしくは役所的な場所と考えられている。郡の置かれていない地域に存在するという地理的な重要性もあり、非常に貴重な資料である。また、2015 年に発見された片貝家ノ下遺跡では、屋根の残存する伏屋形式の竪穴建物が検出された。試掘調査（遺跡全体の 10% 未満）であるた



上：片貝家ノ下遺跡主要遺構位置図（村上2017） 下：屋根が残存した伏屋形式の建物（筆者撮影）

図 2 片貝家ノ下遺跡の検出遺構

め遺跡全体の様子が明らかになったわけではないが、竪穴建物跡 13 棟、竪穴・掘立柱併用建物跡 1 棟、掘立柱建物跡 3 棟、板塀跡 9 条、土坑 6 基、焼土遺構 8 基、溝跡 15 条、水田跡、河川跡 1 条などが確認されており（図 2）、集落がそのまま残っている可能性がある。

ただし、現在のところ遺跡全域が発掘調査された事例はない。調査数もわずかであるため、集落間の様相はおろか、集落の被災前後の動向すら議論されることは少ない。

第二は、To-a により被覆された耕作痕跡を対象とした研究である。能登健ほか（2000・2001）は、岩手県二戸市で検出された「畝間状遺構」に対しておもに To-a の堆積状況から検討を加え、同遺構を畝とそれを復旧するために攪拌した痕跡に分け、テフラ降下直後から復旧行為が始まっていたことを明らかにした。また、高木晃（2005）は、To-a に被覆された水田跡の調査例を集成しその構造を検討した中で、岩手県南部から宮城県域においてテフラ層の除去と耕作土の攪拌による復旧痕跡がみられることを紹介している。

B-Tm に関しては、船木義勝による一連の論考がある。船木（2009）では、青森県青森市高屋敷館遺跡における堀と土塁の成立理由を同テフラ降灰に求め、噴火災害に対する物理的・呪術的な結界と捉えた。また、噴火年代は天慶出羽の乱（939 年）との関連性から 938～939 年の冬期と推定している（船木 2011a・b）。さらに、前述の北東北古代集落遺跡研究会による集成の総括で、10 世紀後葉に竪穴建物数が減少（＝人口減少）することは白頭山噴火による気候変動がその一因と結論付けた（船木 2014）。白頭山噴火をインドネシアのクラカタウ火山 1883 年噴火で記録されたデータと比較し、日本と中国の 938～939 年の文献史料にみえる異常気象、気候変動と考えられる記事を引用して、「白頭山火山噴火による気候変動モデル」も提案している。しかし現在、白頭山 10 世紀噴火の年代が大きく動いており、その結果如何で見直しを迫られる可能性がある。

両火山噴火が起こった 10 世紀の動向について、北東北古代集落遺跡研究会が一つの成果を示したことは大きな前進といえる。しかし、これは地域個々の遺構増減推定にとどまり、災害時における地域間の関係性を示すには至っていない。この他、具体的に災害を論じた研究例は、対象が一部の遺跡もしくは遺構（おもに生産遺構）に限定され、集落や地域全体の動向を総体的に論じたものはない。

4 問題の所在

現在までに、To-a・B-Tm 両テフラの噴出年代についての理化学的な研究は着実な進歩をみせ、また、両テフラが何らかの形で絡む遺構・集落はかなりの数が発見されてきた。竪穴建物だけでも、その数は 3500 棟を超える¹²⁾。しかし、これらが編年・災害両研究の指標として用いられた例は前述のとおり少なく、限定的である。その原因は、テフラのあり方と、その観察・記録に係る諸問題にある。そして、これは両テフラのみならず、多くの降下テフラに共通する問題である。

地域や時代を問わず、考古学における編年研究の主体は、遺物の型式学的・層位学

的検討によるものである。この相対編年研究を基に、集落や遺構の年代を決定する作業が行われる。古代の土器編年は、東北地方北部においても半世紀単位まで分化が進んだ。これに絡めて、ピンポイントの年代を示す鍵層として遺構内に堆積するテフラが重視されてきたのだが、あくまで副次的な扱いであった。その理由として、テフラが土器のように連続性を持つ物差しではないこと、あくまで人工物ではなく客体的な混入物であって考古学的な研究対象としては二の次であること、テフラ堆積過程にはさまざまな営力が絡み複雑であるうえ、実物として残り保存される遺物と異なり「記録」のみに止まること、などが挙げられる。

いっぽう、テフラから災害を読み解く研究は、既述のように主として給源周辺地域の遺跡を舞台に進められてきた。正確には、その地域でしか進めることができなかったと言ったほうがよい。火山噴火現象のうち、より広域に広がり堆積するものは降下テフラであるが、それは人間活動を一瞬にして途絶させる要因とはなりにくく、考古学的事象との関係も給源から遠ざかるほどに判断が難しくなり、結果、災害痕跡として認知可能な事例は減少する。

そもそも「災害」とは、人間が関与して初めて成立する概念である。たとえ人間が構築した遺構にテフラが介在していたとしても、それが人間活動と時間的にどのような関係にあるのか判断できなければ、自然現象としての（ただの物質としての）テフラでしかない。反対に、考古学的事象との時間関係が明らかとなれば、例えそれが間接的¹³⁾な痕跡であっても災害との関連性が検討可能となる。つまり、テフラを時間指標として読み取ること、すなわち編年研究を進めることが火山災害研究の進展に不可欠なのである。

ただし、堆積様相からの時期判断には実にさまざまな問題がつきまとう。

テフラ堆積様相の分析は、当該研究の基本である。テフラを年代決定指標とするためには、絶対年代を持つテフラが遺跡・遺構にどのように介在するか、堆積学的な見地から詳細に調査・記録することが求められる。だが、遺構を相手にするとき、調査担当者誰もが、極めて多様な要因が絡む埋没過程の再現性の限界に直面する。単純な解釈が可能な資料（例えば、テフラが一次堆積で成層している場合など）は一部にとどまり、結局、多くは「単なる堆積物」でしかなくなるのである。しかも埋没過程の解釈には調査者の知識・認識・意識が多分に影響し、個人差が生じる。この状況は、21世紀の現在でも変わらない。そして、発掘調査終了後の各事象検討材料は報告書のみとなり、基本的に実物の再検証は叶わない。結果、個々の報告例をそのままの状態ですべて一律に評価することが難しく、遺跡間・地域間での比較検討が積極的になされないまま、大半が粗い年代指標のレベルにとどまることとなり、災害史的アプローチはおろか編年学的アプローチすらままならず停滞を余儀なくされるのである。先に述べた「限界意識」が生じる理由である。

直接的被災痕跡は、火山噴火イベント全体からみればごく一部の事象に過ぎない。表面的には現れがたい降下テフラの被害、気候変動や環境変化の影響による物質的・社会的変化など、認識の困難な被災様相、いわば「目視できない被害」のほうが本来

的には多いはずである。これを探ることが、火山噴火災害を本質的に知るためには必要である。空間的にもより広域を相手にする必要がある、そのためには間接的な痕跡を検討対象として、噴火時期を画期とした前後の変化を物質文化や人的動向から捉え、そこから類推する作業が不可欠となる。

そしてこの「災害」を考えることが、当時の社会を考えるために極めて有効である。自然災害という非常事態が起こったときほど、社会の動向が活発化し、時には大きく変化する。また、その社会が抱えている根源的な問題が表面化しやすい。

以上のことから、本論では火山噴出物の中でも広域に痕跡を残す降下テフラを主たる検討対象として、給源周辺に当時存在した各地域集団の様相と、テフラ噴火イベントに対する動態を考察する。次章では、その具体的な方法を述べていく。

註

- 1) 当然、噴火様式や気象条件により様相は異なる。
- 2) 爆発の大きさを示す区分。噴出物量と噴煙柱の高度により0～8に区分される。値が1上がるごとに噴出物の量は10倍となる。
- 3) 火砕流から巻き上げられて作られた降下火山灰。いわゆる広域テフラはこの仕組みで発生することが多いと考えられている。
- 4) 灰白色土をテフラと断定したものの、それは宮城県北西部を噴出源とし、同県北部を中心に分布するものと推定している。岩手県奥州市胆沢城跡で採取したテフラとは岩質や粒径組成などが異なる、という分析結果から導き出されたものであった。よって、白鳥もこの段階では灰白色火山灰=To-aという認識は持っていない。しかし、町田ほか(1981)以降、同一テフラであるという見方が主流になり、白鳥(1980)の見解がTo-aの噴火年代研究に援用されるようになっていく。
- 5) 陸奥国分寺の七重塔が承平4(934)年閏正月15日に雷火によって焼失したと『日本紀略』に記されており、報告書(陸奥国分寺跡発掘調査委員会1961)では焼土層をこの火災によるものとしている。
- 6) 工藤雅樹(1998)の見解から。
- 7) 大湯軽石の別称。
- 8) 広域編年の指標とするため、5つの器種(須恵器長頸瓶・広口壺、高台付土器(皿・坏・埴 内外黒色を含まず)、内外黒色土器(坏・高台付坏類、外面ミガキだけのものも含む)、耳皿、小皿(小形坏含む))を選定し、このいずれかが含まれる一括土器(セット関係が良好な資料)を遺構ごとに抽出するという方法。
- 9) エリア区分に問題があると思われる(二戸地域など)。
- 10) 青コラ(Km11)、紫コラ(Km12)と呼ばれる開聞岳起源のテフラ。
- 11) 文化14(1817)年に小勝田(北秋田市脇神字小ケ田)で見つかったもの。平田篤胤は『皇国制度考』で、黒澤道形は『秋田千年瓦』で紹介し、菅江真澄の

図絵は『菅江真澄翁画』として大館市立中央図書館に保管されている。

- 12) 2009年度までに刊行された遺跡発掘調査報告書から、筆者が集計した。
- 13) あくまでも視覚的な意味での「間接的」であり、実質的な意味ではない。

第2章 研究方法

本章では、火山噴火イベントが社会や人間に与えた影響を考古学的事象から探る方法を提示する。これは、今日まで積極的に扱われることの少なかった降下テフラによる間接的被災痕跡を対象としたものである。この方法を用いることで、直接的被災痕跡からの研究だけでは見えてこなかった火山噴火イベントと社会・人間との係わりを検討・解明することが可能となる。

まず大本となる方法を述べた上で、本研究で扱うテフラ、地域に合わせた細かい方法について示す。

1 作業と方法

考古学的事象から火山災害をより広域的に捉えるための基本的な方法を述べる。方法は単純で、作業は次の3つである。

1) 対象テフラが介在する遺跡・遺構の集成

本研究は、良好な状態で遺存し、多くの情報量を持ち、単体でも検討可能な事象を扱うケーススタディではなく、対象となるテフラが介在する遺跡・遺構をなるべく多く扱い、それらから抽出した情報の集合体から総合的に災害や社会を考えようとするものである。ある遺跡・遺構にテフラが介在するかどうかは、基本的に発掘調査を経ねばわからない。そして、少なくとも現代の日本国内で実施された発掘調査では、報告書に堆積土層を記載することが一般化している。この記録を一つひとつ確認し、テフラ堆積事象を集成することが第一の作業である。

2) 遺構に対するテフラ介在状態の分析と廃絶（構築）時期の特定

次に、テフラが遺跡・遺構にどのように堆積しているか、特に遺構の堆積状況を確認して類別する。この類別は、遺構の廃絶時期あるいは構築時期を意識した分類とする。

テフラ堆積状況の分析にあたっては、さまざまな問題が生じる。まず、個々の遺構内堆積土に関して、その堆積過程と要因をすべて判断できるケースはほとんどない。既調査資料を対象とした堆積状況の判別は、報告書の事実記載、実測図、土層註記、写真などから行うが、第1章で述べたとおり、これらには発掘調査担当者個々の「視点」というフィルターがかかるため、個人差が多分に生じる。これらを超えてテフラを時期推定材料として活かすために、遺構埋没過程に係る諸要因や個々の解釈差を考慮せずともよいレベルでの最小公倍数的な要素によるテフラ堆積様相類型化と、これによる間接的事象の判読が求められる。当然、事象単体から得られる情報量は直接的事象のそれより少ないため、この作業を統計的に成立させるには相当量の事象検討とその比較・分析が必要である。日本各地では、1970年代以降に急増した緊急発掘調査によって、膨大な量の調査記録・資料が蓄積された。このいわば「ビッグデータ」を駆使すればそれが可能である。

なお、テフラの堆積時期を考える上で、一次堆積か再堆積かを認識することも重要である。報告書の記載では、自然堆積と人為堆積の区別を行っているものは多いが、

自然堆積層が一次堆積か再堆積か判断しているものは少ない。ただし、この区別がなされていない資料についても、地形環境を同じくする小地域内での堆積様相を相互に比較することで、その判別が可能である¹⁾。

3) 時期特定遺構およびその共伴遺物集成による時間的・空間的差異の検討

2) により時期が特定された遺構およびその共伴遺物を集成し、時間的・空間的な差異を検討する。これにより、各期における文化領域の推定と、噴火イベントを画期とした物質文化の動態をみるのが可能となる。絶対年代を付与できることも重要だが、何より火山噴火イベントを基点とした動態の検討が可能な唯一の方法であることが重要である。通常の遺物形態編年からは、火山噴火イベントとの関係性を直接指摘することはできないのである。

そして改めて強調しておくが、この方法は火山災害全体の影響を考えることのできる極めて有効な手段なのである。

2 本論における方法の詳細と対象地域

(1) 研究の対象

(ア) 地域と細分

本研究は、テフラの堆積様相分析を基礎的な根拠として論述するため、当然、その対象範囲は To-a および B-Tm の堆積地域内となる。ただし、基本的には給源からの距離が遠くなるほどテフラ降下量が少なく、堆積様相も不明瞭になり分析が困難となる。なお、両テフラの分布は町田・新井(2003)により示されており、To-a は東北一円(青森県は津軽地方北部以外)、B-Tm は北海道から青森県、岩手・秋田両県の北部に分布することが確認されている。

いっぽう、本研究の歴史的な対象は、9～10世紀における律令・王朝国家体制とそれ以北に存在した「蝦夷」社会である。当時は、東北地方北部に両社会の境界域が存在した。しかし、その実際は明確でない。テフラを年代指標として、各時期の情勢を物質文化から把握することでそれを追究し、さらに火山噴火イベントを基点としてその前後の各地域集団の動態を観察することで、火山噴火の影響と対応を明らかにする。

以上のことから、両方に適う地域である秋田城～志波城以北(およそ北緯40°以北)から本州島北端までを主対象地域とし、これに国家体制内の様相をより深く検討するために、岩手・秋田両県全域までを資料収集・分析地域として設定した。

対象地域内における集団の様相や動態を探るにあたり、細分地域ごとに統計的処理を行う必要がある。「集落」の単位で検討することが理想だが、厳密に集落を特定することは不可能であるし、それぞれを比較するだけの量が確保できない。よって、地理的状况と古代郡域、遺跡分布を考慮した29の地域区分を以下および図3のように設定した。

律令制・郡内 陸奥国

① 胆沢平野以南(胆沢・江刺郡以南)



図3 地域区分

- ② 和賀地域（和我郡）
- ③ 稗貫地域（稗縫郡）
- ④ 紫波地域（斯波郡）

律令制・郡内 出羽国

- ⑤ 本荘平野（飽海郡、小吉川下流域）
- ⑥ 横手盆地周辺（山本・平鹿・雄勝郡、雄物川中流域）
- ⑦ 秋田平野（秋田・河辺郡、雄物川下流域）

群外 太平洋側

- ⑧ 北上川上流域
- ⑨ 安比川流域
- ⑩ 馬淵川上流域（一戸地域）
- ⑪ 馬淵川中流域南部・十文字川流域（二戸地域）
- ⑫ 馬淵川中流域北部（三戸・南部地域）
- ⑬ 北上山地北部（瀬月内川・雪谷川流域、九戸西部）
- ⑭ 閉伊地域（幣伊）
- ⑮ 久慈地域（九戸東部）
- ⑯ 八戸平野周辺（馬淵川下流・新井田川流域）
- ⑰ 上北地域南部（奥入瀬川流域）
- ⑱ 上北地域中部（三本木原周辺～小川原湖湖沼群南部）
- ⑲ 上北地域北部（野辺地湾周辺～小川原湖湖沼群北部）
- ⑳ 下北地域

群外 日本海側

- ㉑ 能代平野周辺（米代川下流域）
- ㉒ 阿仁川流域
- ㉓ 米代川上～中流域（a:花輪盆地、b:大館盆地、c:鷹巣盆地に細分）
- ㉔ 津軽平野南部～南縁丘陵周辺
- ㉕ 津軽平野東縁～大釈迦丘陵
- ㉖ 青森平野周辺
- ㉗ 津軽平野西部～岩木山北東麓
- ㉘ 津軽平野北部
- ㉙ 西津軽・日本海沿岸

（イ）資料

主たる対象資料は、発掘調査が実施され、2009年度までに報告書が刊行された遺跡のうち、To-a もしくは B-Tm の堆積が確認された古代の遺構である。これに、2010年度以降に実施された発掘調査の成果から特筆すべきものを加えた。遺構は基本的に現存しないため、調査記録である発掘調査報告書の記載データが検討対象となる。

ただし、堆積様相分析の対象は、竪穴住居や竪穴状遺構などの竪穴建物類に限定し

た。本分析の第一目的は、遺構内に残存するテフラの在り方から遺構の廃絶時期を推定することにあるが、竪穴建物がこの作業を行うに最適と判断したからに他ならない。具体的な理由は以下の四つである。

- 1) 東北地方北部における9～10世紀の遺跡を構成する遺構として一般的に存在するという事。
- 2) 画一性が高く、同一基準を用いた分類作業に適していること。竪穴建物は土坑等に比べ遺構形態が画一的である。また、発掘調査方法についても、土層観察断面を十字形に設けた四分法（文化庁文化財保護部 1966）を用いて2面の断面記録を取ることが一般的となっており、記録的にも画一性が高い。
- 3) 覆土の他に構築土が存在するという事。構築土は、建物構築時および改修時に形成された人為堆積物であり、埋積時期を限定することが可能である。具体的には、貼り床、カマド、柱穴（掘り方埋土）にその堆積物を認めることができる。
- 4) 付属施設や共伴する遺物の在り方からさらなる時期編年や地域差の検討が可能になること。

以上がその理由である。

(2) 分析方法

(ア) テフラの同定基準

テフラ種別の同定は、基本的に報告書の記載内容に従った。理化学的なテフラ分析が実施された遺跡は、第3章の表10に示した。当然、検出テフラすべてに対し理化学分析を実施することが望ましいが、実際には一部の資料に限られる。未分析資料については、分析試料との色調・粒径・層相等の比較および層序関係など地質学的検討により相対的に同定される。なお、一地域もしくは調査組織で慣習的に固有名詞以外の表現を用いている場合でも、暗にそれが特定のテフラを指す場合²⁾は分析対象とした。ただし、その表現に矛盾が見られるものは具体的な検討作業から除外した。

(イ) 抽出する属性

抽出する属性は表6のとおりである。うち、テフラ種別ごとの堆積層位と状況（b）、焼失の有無と状況（c）、カマドに関する諸属性と柱穴配置（e）に関しては分類基準を設定し類別した。b・cについては（ウ）で、eは第6章で述べる。

ここで、cの焼失状況を抽出・分類する理由について述べておく。先学が指摘するとおり（石野 1990 など）、焼失建物は廃絶時期を特定しやすい上³⁾、建物構造の推定も可能であるなど多様な情報を内包する。これにテフラが介在してい

表6 調査記録から抽出する属性

個々の竪穴建物から抽出する属性	
a	理化学分析の有無と方法・結果
b	テフラ種別ごとの堆積層位と状況
c	焼失の有無と状況
d	遺構重複関係
e	遺構の構造（カマドに関する諸属性、柱穴配置、付属施設の有無と種類）
f	床・底面、構築土等出土遺物の集成
遺跡単位で抽出する属性	
g	遺跡位置（国土座標）
h	立地（地形分類、傾斜方向、標高）

れば、焼失層（上屋崩落層）とテフラの堆積関係からより高精度な時期特定や住居構造の推定も可能となる。竪穴建物の焼失の有無は極めて重要な事象であり、ゆえに抽出・分類対象とした。なお、焼失の認定は基本的に調査報告の見解に従っている。

（ウ）テフラ堆積様相分類基準

テフラ堆積層位・状況と焼失層との関係を表7のとおり5種・4種・6種に類別した。それぞれについて若干の解説を加える。堆積層位について、覆土中に堆積し床面と接しないものはすべて「上～下位」に一括している。この位置の差、つまり床面からの高さも堆積時期を反映する重要な指標であるが、堆積過程や速度が個々の遺構で異なるため、これ以上の細分化は意味を成さないと判断した。床bは、床面壁際（いわゆる三角堆積）や壁溝の堆積土中にテフラが存在するパターンである。これら堆積層位と状況を組み合わせて分類を実施した。To-a・B-Tm両者が存在する場合は、それぞれ個別に分類している。

堆積状況の分類で問題とするのは、自然堆積か人為堆積かという点である⁴⁾。基本的にテフラが成層もしくは断続的に成層するものは自然堆積、調査報告書に人為と記載のあるものおよび構築土中に混入しているものを人為堆積とした。ただし、塊状（粒状・ブロック状など）の混入状態を呈するものでも、上・下層との関係から人為堆積

表7 テフラ堆積層位・状況・焼失状態の分類基準

堆積層位	分類名称	状況
	上～下位	覆土の上～下位に堆積し、床・底面に接しないもの
床a	竪穴隅以外の一部で床面と接し、下層を有するもの	
床b	隅・壁際に堆積し床面と接するもの	
全体	全体に疎らに散在するもの	
構築土	貼り床、カマド等の構築土に混在するもの	
堆積状況	分類名称	状況
	1	成層するもの
	2	断続的に成層するもの
	3	粒状・ブロック状を呈するもの
	4	「混入」とのみ記載されているもの、および具体的な記載がなく状態不明のもの
焼失状況	分類名称	状況（テフラ層（複数ある場合は下位層）が焼失材・焼失層に対して）
	1	間層挟み上位
	2	直上位
	3	直下位
	4	間層挟み下位
	5	同一層準
	6	不明

※複数にまたがる場合は併記。

ではないと判断でき、調査報告書にも同様の記載があるものは自然堆積とみなした。なお、テフラが成層もしくは断続的に成層する場合の層厚については、テフラ降下量とその後の移動および再堆積現象、すなわち降灰にともなう被害を考えるための重要な指標となる。これについては第4章で詳述する。

焼失状況は、焼失材・層に対しテフラがどの位置に堆積しているかで分類した。

(エ) 堆積パターンと時期区分

これらを受けて、遺構構築・廃絶時期の推定が可能な堆積パターンを模式化したのが図4、その時期区分と時間軸を表したのが表8である。23パターン・6時期（Ⅰ～Ⅵ期）に分類している。

【Ⅰ期（To-a 降下前廃絶・古）】

To-a が遺構覆土の上～下位に堆積する例である。成層もしくは断続層を成すものを1a-1（図4を参照）とした。基本的に層状堆積を成さない限り To-a 降下以前の廃絶とは特定しかねるが、粒・ブロック状であっても複数層に混入せず、かつ上位層に B-Tm が同様に堆積する場合は累重の堆積を成すものとみなし、1a-2 としてここに含めた。

【Ⅱ期（To-a 降下前廃絶・新）】

To-a が床 a に堆積する例である。成層もしくは断続層を成すものを 1b-1 とした。1a-2 と同様の理由から、粒・ブロック状であっても複数層に混入せず、かつ上位層に B-Tm が堆積する場合は 1b-2 としてここに含めた。本時期は相対的にⅠ期よりも新时期となる。

【Ⅲ期（To-a 降下直前～降下時廃絶）】

To-a が床 b に堆積する例である。成層もしくは断続層を成すものを 2-1 とした。加えて、焼失住居の場合、焼失層が床 b に堆積し、その直上に間層をほとんど挟まず To-a が成層・断続層堆積するものを 2-2 とした。さらに、人為堆積層が床 b に載り、その直上に To-a が成層・断続層堆積するものを 2-5 とした。なお、この 2-5 は人為堆積層の堆積時期が明確に判断できる場合のみが対象となる。例えば、建物の上屋が崩落して堆積した場合などを想定している。

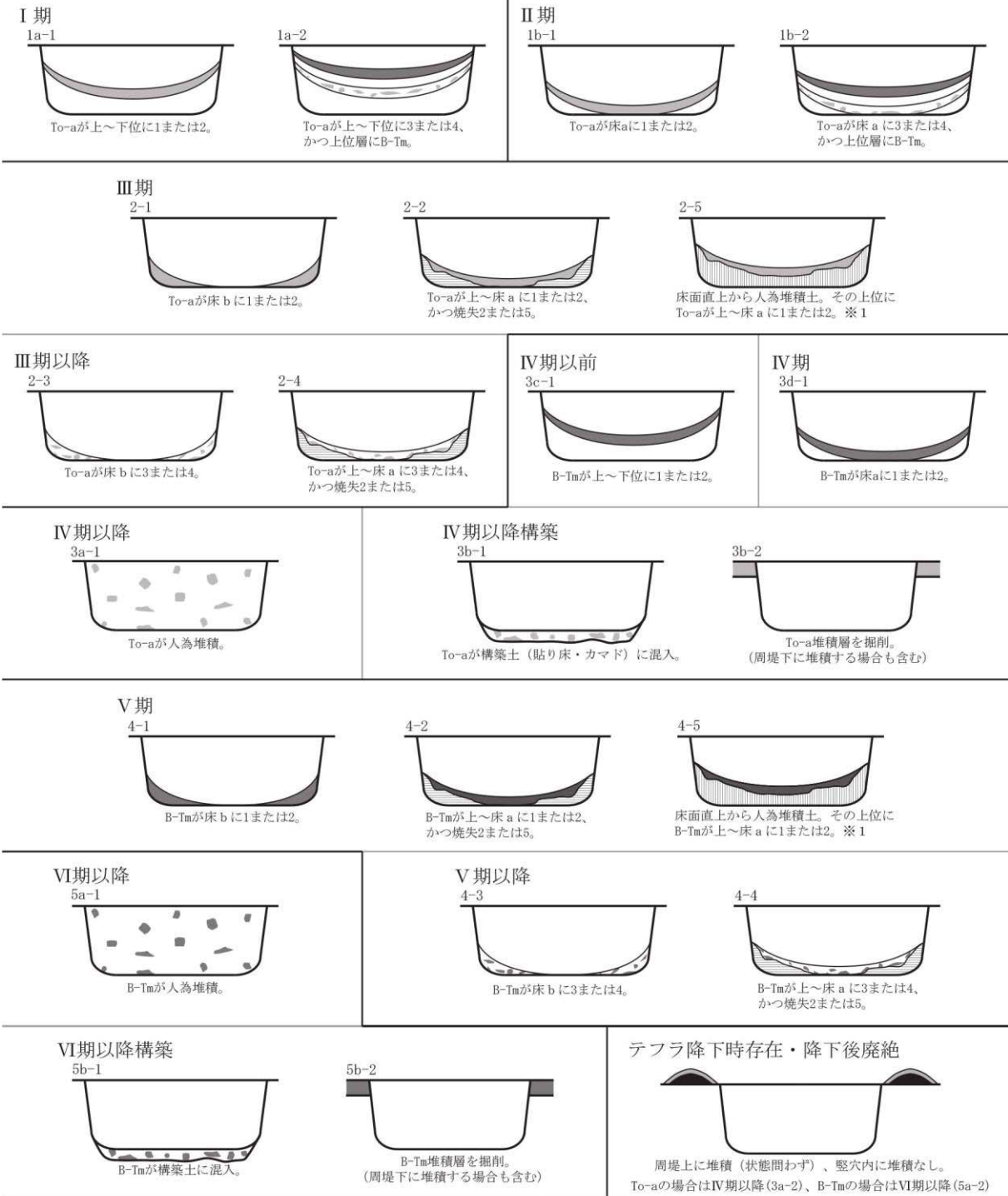
また、層位的には 2-1・2-2 と同様であるも、粒状・ブロック状・混入状態で堆積するものを 2-3・2-4 とした。粒状・ブロック状の堆積過程は多岐にわたり、その含有層の堆積時期がテフラ降下直後かそれ以降かの判別が困難である。よって、その時期幅はⅢ期以降となる。

ここで、Ⅲ期以降の検出比率について述べておく。当該時期区分は、廃絶上限年代はⅢ期、つまり To-a 降下期で、下限年代が不明なものを一括している。上述のとおり、降灰時に上屋があれば分類 2-3 のような堆積を成すものが相当数あったと推定されるが、この堆積様相は堅穴の使用期間中であれば降下後いつでも生じる可能性があり、決定打とならない。当該区分は総体的に検出比率が高く、これを用いないのはもどかしいことであるが、不確定要素を含むデータを基準資料にはできないため、本論の検討対象データからは除外する。

また、降灰量の多かった地域ほど上述 2-5 のような堆積を呈するⅢ期廃絶遺構例が

テフラ堆積様相分類基準（遺構断面）

…To-aテフラ
 …B-Tmテフラ
 …住居焼失土
 …人為堆積土



外周溝が存在する場合の堅穴部堆積様相との関係 ※2



外周溝に作り替えがある場合、新旧外周溝におけるテフラの切り合いが確認されるケースがあり、これに外周溝と堅穴部の堆積様相比較も加味できることから、住居の廃棄時期だけでなく使用期間も推定することが可能となる。

※1 人為堆積層の堆積時期が不明なものは、To-aの場合「III期以前」、B-Tmの場合「V期以前」となる。

※2 堅穴部の残存状態が良好（削平が少ない）で、テフラの堆積が外周溝に限定される場合は、テフラ降下時存在・降下後廃絶の可能性はある。これは、建物使用時に外周溝が露天状態（上屋構築物なし）という前提に基づく。

図4 テフラ堆積様相分類

表8 テフラ堆積様相分類と遺構廃絶・構築時期区分

テフラ	To-a ^{※1}							B-Tm ^{※2}		
堆積様相分類 ^{※3}	1a-1	1b-1	2-1	3a-1	3b-1	3c	3d	4-1	5a-1	5b-1
	1a-2	1b-2	2-2	3a-2	3b-2			4-2	5a-2	
廃絶・構築時期区分	To-a降下前 廃絶(古)	To-a降下前 廃絶(新)	To-a降下 直前～直後 廃絶	To-a降下後 廃絶	To-a降下後 構築・廃絶	B-Tm降下前 廃絶	To-a降下後 ～B-Tm降下 前廃絶	B-Tm降下 直前～直後 廃絶	B-Tm降下後 廃絶	B-Tm降下後 構築・廃絶
廃絶・構築 時間軸	1a-1・1a-2	1b-1・1b-2	2-1・2-2・2-5	3a-1・3a-2 ^{※4}	3b-1・3b-2 ^{※4}	3c ^{※4}	3d	4-1・4-2	5a-1・5a-2 ^{※5}	5b-1・5b-2 ^{※5}
			2-3・2-4 ^{※4}					4-3・4-4 ^{※5}		
時期区分	I 期	II 期	III 期	IV 期				V 期	VI 期	
				IV期～	IV期～	～IV期	IV期			

※1 To-aテフラの噴出年代は、西暦915年とする説(鈴木1981、町田ほか1981)に従う。

※2 B-Tmテフラの噴出年代は、研究者によって意見が分かれる。ただし940年前後とする分析結果が多いことから、本論では940年前後とする。

※3 堆積様相分類番号は図4と対応。

※4 堆積様相分類2-3、2-4、3a-1、3a-2、3b-1、3b-2、3cの遺構廃絶時期は新旧関係不明である。

※5 堆積様相分類4-3、4-4、5a-1、5a-2、5b-1、5b-2の遺構廃絶時期は新旧関係不明である。

※6 両テフラが堆積している場合、それぞれの分類を加味した複合的な分類および時期区分となる。(ex.分類3b～4、時期区分IV期構築～V期廃絶)

存在する可能性が高いが、その特定は他の分類に比して発掘調査段階でのより詳細な土層検討が必須である。今後、調査担当者の高い観察意識によって新しいデータを蓄積していかなければならない。

【IV期 (To-a 降下後～B-Tm 降下前廃絶)】

B-Tmが床aに成層もしくは断続層堆積する例で、分類基準3d-1としたものである。この堆積様相単体では、具体的に時期を限定することができず、1b-1と同じくテフラ降下以前としか言えない。しかし、管見で確認された3d-1堆積事例をすべて精査したところ、B-Tm層より下位にTo-a層が堆積するものは人為堆積による数例以外はなく、自然・層状堆積するものは皆無であった。これは、To-a降下以後に廃棄されたことを示す。念のため、成層・断続層以外のすべての床aパターンに対しても精査を行ったが、やはりTo-aの層状堆積は存在しない。よって、少なくとも現段階までに報告された既存の資料を扱う上で、3d-1はTo-a降下後～B-Tm降下前廃絶と限定してよい。

このほか、To-aが人為堆積する例(3a-1)、周堤上にのみ堆積する例(3a-2)、To-aが構築土に混入する例(3b-1)、To-a層を掘削して構築される例(3b-2)、B-Tmが上～下位に成層・断続層堆積する例(3c-1)をIV期に含めたが、いずれも限定的な時期を示すものではなく、3aはIV期以降廃絶、3bはIV期以降構築・廃絶、3cはIV期以前廃絶というレベルの推定にとどまる。

もう一点、III～IV期という時期区分が生じることと、その扱いについて説明しておく。一つの遺構からTo-aとB-Tmの両テフラが検出された場合は、それぞれの堆積様相を合わせた形で廃絶(構築)時期を特定する。例えば、To-aが分類2-3、B-Tmが3a-

1) であれば、廃絶時期はⅢ期以降Ⅳ期以前、すなわちⅢ～Ⅳ期となる。Ⅲ期は時間幅の狭い区分であるため、Ⅲ～Ⅳ期とⅣ期では廃絶に係る時間幅の差はおそらく数年である。しかし、これを同一視することはできない。火山噴火が引き起こした社会の動態、物質文化の変化を探ろうとする本論においては、Ⅳ期に何が起きていたかを知ることこそが核心であり、無視できない差である。よってⅢ～Ⅳ期は補助的に援用するにとどめる。

【Ⅴ期 (B-Tm 降下直前～降下時廃絶)】

B-Tm が床 b に堆積する例である。成層もしくは断続層を成すものを 4-1 とした。加えて、焼失住居の場合、焼失層の直上に間層をほとんど挟まず B-Tm が成層・断続層堆積するものを 4-2 とした。さらに、人為堆積層が床 b に載り、その直上に B-Tm が成層・断続層堆積するものを 4-5 とした。また、層位的には 4-1・4-2 と同様であるも、粒状・ブロック状・混入状態で堆積するものを 4-3・4-4 とし、2-3・2-4 の場合と同様の理由からその時期幅はⅤ期以降とした。

【Ⅵ期 (B-Tm 降下後廃絶)】

B-Tm が人為堆積する例 (5a-1)、周堤上にのみ堆積する例 (5a-2)、構築土に混入する例 (5b-1)、B-Tm 層を掘削して構築される例 (5b-2) である。5a はⅥ期以降廃絶、5b はⅥ期以降構築・廃絶となり、いずれも廃絶の下限が不明である。

なお、津軽地方で多く確認される外周溝をともなう堅穴建物は、外周溝改修による堅穴存続期の切り合い検討が可能なことから、構築・廃絶時期をより詳細に推定することができる (図 4 下段参照)。

以上が時期推定の可能な堆積様相である。なお前述のとおり、To-a と B-Tm が共存する場合は、両方を加味した時期区分となる。

註

1) 堆積の一次・二次性によってテフラの時間的評価が異なるため、これを無分別に扱うことには問題がある。近年、To-a に関しても改めて伊藤博幸により指摘された (伊藤 2010)。ただし、仮にその判読が成されていない資料でも、資料の相互比較で堆積過程の検討を行うことにより、成層資料に関しては少なくとも考古学的編年間隔からみて噴火と同一時期といえる資料の抽出が可能である。

文献史学の成果から噴火の年月日が議論可能になったが、これが逆に降下一次堆積でない限り情報不足・不明瞭と切って捨てる原因になっているのではないかと懸念する。瞬間的な情報を内包する資料はそのレベルで扱えばよい。そうでない資料にどのような評価を与えるか。それには資料の相対的な比較検討が有効かつ必要である。また、総合的な人的動態を考える上では再堆積層が与えた影響も考慮するべきで、この点においてもすべての事象を分析対象として用いることが重要となる。

2) 例えば、岩手県南地域や宮城県多賀城跡等の調査で用いられている「灰白色火山灰」という呼称など。

- 3) 建物構築部材が炭化し残存することから、これによる放射性炭素年代測定が可能である。また、床面と焼失し崩落した上屋との間に遺物が残存する場合、焼失時期すなわち廃絶時期の特定が可能となる。
- 4) 自然堆積層の一次性・二次性に関しては、本章第1節および脚注1)で述べたとおり、資料の相互比較で判断するため、それが不明な資料についても個々の分類段階では問題としない。

第3章 基礎的分析結果—各遺構廃絶時期の決定—

本章では、第2章で述べた方法に則って、発掘調査によって To-a もしくは B-Tm の堆積が確認された堅穴建物類の堆積様相分析を行い、建物の廃絶時期（一部は構築時期）を検討する。

To-a もしくは B-Tm の堆積が確認された堅穴建物類の棟数は、青森県域が 148 遺跡・1572 棟、岩手県域が 237 遺跡・1555 棟、秋田県域が 70 遺跡・417 棟で、合計 455 遺跡・3544 棟である。表9としてその455遺跡の番号、名称、市町村名、出典を、図5～7としてその位置を示した。遺跡番号は県域ごとに任意の順番で付し、先頭には青森を示す「Ao」、岩手を示す「Iw」、秋田を示す「Ak」を付けた。さらに、遺構個々の堆積様相分析結果として表10を提示した。また、表11には遺跡毎の時期区分別遺構数を示した。

以下、地域区分毎に検出遺跡・遺構数とその概要を述べていく（No.は表9～11および図5～7の遺跡No.に対応）。

1 律令制・郡内

最初に、律令制域（郡内）について国別にみていく。

（1）陸奥国

平安期の陸奥国域は、弘仁2（811）年に和我、葦縫、斯波の志波三郡が立郡されたことで、北上盆地の北端付近、現在の盛岡市付近まで北進した。10世紀後半、志和（斯波）郡の北に岩手郡が立郡され、北上川と馬淵川の分水嶺、すなわち現在の岩手町と一戸町の境界付近までさらに北進したとされている。ただし、その具体年代は不明である。本論は、10世紀前葉に発生した十和田噴火を画期とした社会変動を主たる研究課題としている。よって、岩手郡付近は郡外として取り扱う。

陸奥国域では、118 遺跡・509 棟でいずれかのテフラが確認された。この 99.9% は To-a で、B-Tm の堆積が報告されているのは紫波地域の小屋塚遺跡で見つかった 1 例だけである。しかし、この検出例については疑問の余地があり、今回の分析対象からは除外した。詳細は後述する。

堆積様相分析から時期区分を示せるものは、509 棟のうち 217 棟である。

① 胆沢平野以南（胆沢・江刺郡以南）

Iw-212～220・222～231・233～240 の 27 遺跡・67 棟で堆積が確認された¹⁾。検出テフラはすべて To-a で、B-Tm は 0 件である。時期分類が可能な堆積を示すものは、20 遺跡・31 棟存在する。I 期廃絶が全体の約半数を占め、II 期廃絶と特定できるものが 5 棟、同じく III 期が 2 棟確認された。

当地域では B-Tm の目視確認事例が皆無であり、よって V 期および VI 期に比定可能な遺構もない。これは、②和賀地域、③稗貫地域も同様である²⁾。

② 和賀地域（和我郡）

Iw-168～176・178～201・203～211 の 42 遺跡・181 棟で堆積が確認された³⁾。①胆沢平野以南の確認数と比較すると、255%と大幅に多い。検出テフラはすべて To-a で、

B-Tm は 0 件である。時期分類が可能な堆積を示すものは、29 遺跡・70 棟存在する。その時期別比率は胆沢平野以南と同傾向であり、I 期廃絶が 41% を占める。

③ 稗貫地域（稗縫郡）

Iw-155～167 の 13 遺跡・31 棟で堆積が確認された。検出テフラはすべて To-a で、B-Tm は 0 件である。時期分類が可能な堆積を示すものは、7 遺跡・15 棟存在する。

周辺地域に比して検出数が少ない。具体的には、当地域より南の、すなわちテフラ給源からの距離が当地域よりも遠い②和賀地域と比較しておよそ 4 分の 1 にとどまり、さらに遠方の①胆沢平野以南と比べても 2 分の 1 以下である。現代の開発が低調な地域ではないため、発掘件数の多少が原因とは思われない。

④ 紫波地域（斯波郡）

雫石川以南を当地域として扱う。Iw-119～154 の 36 遺跡・226 棟で堆積が確認された。左記の全遺構で To-a が検出され、唯一、Iw-139 小屋塚遺跡の RA8714 で B-Tm の断続層堆積が確認されたと報告されている（盛岡市教育委員会 1995）。しかし、当該地域より北に位置する⑧北上川上流域では B-Tm の検出事例がなく、RA8714 のような明瞭な堆積事例が空間的に離れて単独で存在することは不自然である。B-Tm の降灰様相を考える上で重要なポイントとなるため、ここでその妥当性について検討する。

前述報告書の事実記載では、当該テフラを「粉状パミス」としており、テフラ自体の観察では To-a と B-Tm の区別ができなかったことがわかる。これを B-Tm とした根拠は、「灰白色火山灰（いわゆる粉状パミス）」は 7 世紀代および 9 世紀後葉～10 世紀中葉の竪穴住居跡には堆積しておらず、8 世紀後葉と 10 世紀後葉の埋土に堆積している。このことから 2 時期にわたる降灰と理解される。古いものは十和田 a 火山灰、新しいものは白頭山火山灰に比定できるであろう。」（盛岡市教育委員会 1995、70 頁）とあり、RA8714 で出土した遺物の年代観から導き出したものと解釈される。しかし、このテフラは同定分析が成されておらず、前述の空間的様相を考えれば B-Tm とは考えにくい。よって、本稿ではこれを B-Tm 検出事例に含めることを避ける。

時期分類が可能な堆積を示すものは、22 遺跡・101 棟存在する。最も多いのはⅢ期以降廃絶の 45 棟で、これは①～③の地域と異なる傾向である。

（2）出羽国

16 遺跡・47 棟でいずれかのテフラが確認されている。この 98% は To-a で、B-Tm の堆積が報告されているのは⑥横手盆地周辺の Ak-059 姥ヶ沢窯跡における 1 例だけである。これは理化学分析により検出されたもので、出羽国域の集落で B-Tm の堆積が目視確認できた例はなく、よって本論の方法において V 期および VI 期に比定される遺構はない。

また、陸奥国域における検出数（118 遺跡・509 棟）に比して、出羽国域のそれは遺跡数で 14%、遺構数に至っては 9% とかなり少ない。これは基本的に To-a、B-Tm の降灰域・量に起因するものだが、他方、各自治体における発掘調査の記録・報告方法の違いも大きく影響している。

⑤ 本荘平野（飽海郡、小吉川下流域）

Ak-068・069の2遺跡・2棟で堆積が確認された。検出テフラはいずれもTo-aで、時期分類が可能な堆積を示すものは1遺跡・1棟（IV期以降廃絶）のみである。

当該地域は、今回の集成範囲の南西端にあたる。To-aの給源である十和田カルデラとの距離が遠く、To-a検出率が低い。

⑥ 横手盆地周辺（山本・平鹿・雄勝郡、雄物川中流域）

Ak-056～067の12遺跡・42棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-aのみが11、To-a・B-Tm両方が1で、B-Tmのみは0である。唯一のB-Tm事例であるAk-059姥ヶ沢窯跡はテフラ分析（火山ガラス屈折率測定）により検出されたものである⁴⁾。時期分類が可能な堆積を示すものは、9遺跡・24棟存在する。I期廃絶が79%を占め、III期廃絶、IV期以降構築も確認している。

⑦ 秋田平野（秋田・河辺郡、雄物川下流域）

Ak-054～055の2遺跡・3棟で堆積が確認された。検出テフラはすべてTo-aである。時期分類が可能な堆積を示すものは1遺跡・2棟のみで、いずれもIV期以降廃絶である。

秋田市では数多くの遺跡が発掘調査されているが、残念なことに遺構内堆積層の記録がない報告が大半を占める。つまり、第三者が堆積土の再検証を行うことが不可能である。このため、上述の検出数は本来の在り方を示すものとはいえ、本論で当該地域の議論を進めることは困難である。

2 郡外

次に律令制域外（郡外）をみていく。奥羽山脈を挟み、東の太平洋側と西の日本海側に分けて述べる。

奥羽脊梁山脈は、各時代の人間活動に対して地理的に影響を及ぼし、その東西を隔てる壁、時には障壁、またある時は防壁となった普遍的な存在である。よってこれを境に東西地域の様相を別個に把握していく。

（1）太平洋側

⑧ 北上川上流域

雫石川以北を当地域とする。Iw-099～117の19遺跡・105棟で堆積が確認された。検出テフラはすべてTo-aで、B-Tmは0件である。時期分類が可能な堆積を示すものは、15遺跡・70棟存在する。IV期以降構築が33%と①～④地域に比して多いのが特徴であるが、これはIw-100子飼沢山遺跡およびIw-101暮坪遺跡のいわゆる高地性（防壁性）集落検出遺構が多数含まれていることによる。

⑨ 安比川流域

郡外南端に位置し、⑧地域の北西側に接する地域である。奥羽山脈の東裾であり、流霞道（りゅうかどう、ながれしぐれみち）で山脈西側と連絡があったと推定される。流霞道は、日本三代実録に収められた元慶の乱関連記事に登場する。元慶二（878）年八月二十九日、陸奥権介坂上好蔭が陸奥兵二千人を率いて流霞道より秋田営に到着した、というものである⁵⁾。これによれば、遅くとも9世紀第4四半期には通行路とし

て認知されていたことになる。

安比川は馬淵川の支流であり、両河川は七時雨山を境に互いに北流し、北緯 40° 24′ 60″ 東経 141° 26′ 87″ 付近で馬淵川に合流する。

当地域では、Iw-043～070 の 28 遺跡・255 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 18、To-a・B-Tm 両方検出が 10 で、B-Tm のみは 0 である。遺構毎でみた場合、To-a のみが 221、B-Tm のみが 9、両方が 25 で、B-Tm 検出遺構数は 34 となり全体の約 13% である。当地域以北で B-Tm が目視検出されるようになり、青森県域へ北上するにつれて検出数が増加する。

時期分類が可能な堆積を示すものは、25 遺跡・211 棟存在する。このうちの約半数・52% は、To-a が堅穴壁際の最下位に粒状あるいはブロック状に堆積する 2-3 及び 2-4 の堆積パターンを示し、Ⅲ期以降に比定されるものである。次いでⅣ期以降構築が 22% と多い。本地域と同様の検出傾向を示す地域が 1ヶ所ある。奥羽山脈を隔てて当地域の西側に位置する㉓米代川上～中流域である。

⑩ 馬淵川上流域（一戸地域）

ここで、馬淵川流域の地域区分について説明しておく。馬淵川は、北上高地北部の岩手県葛巻町袖山高原（北緯 40° 03′ 03″、東経 141° 53′ 75″ 付近）に端を發し、青森県八戸市で太平洋に注ぐ延長 142 km の河川である。本論では、同河川流域段丘の發達度合いと集落の位置・集中度を考慮し、上流域（岩手県一戸地域）、中流域南部（同二戸地域）、中流域北部（青森県三戸・南部地域）、下流域（同八戸平野）の 5 地域に分けて検討を行う。

馬淵川上流域とした範囲は、安比川との合流点以南の地域である。これはすなわち、岩手県一戸町域の集落、ということになる。当地域では、Iw-023～042 の 20 遺跡・196 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 16、To-a・B-Tm 両方検出が 4 で、B-Tm のみは 0 である。遺構毎でみた場合、To-a のみが 168、B-Tm のみが 13、両方が 15 で、B-Tm 検出遺構数は 28 となり全体の約 14% である。

時期分類が可能な堆積を示すものは、18 遺跡・133 棟存在する。To-a 降下前で時期幅上限のないⅠ期が 55% と最も多い。

堅穴が自然埋没する場合に要する時間は、周辺地形の影響を大きく受け、一様ではない。地域によっては、例えば岩手県指定史跡である野田堅穴住居跡群（野田村）のように、現在でも凹みの残る、埋没しきっていないものもある。極論すれば、堅穴廃絶から 1000 年後に噴出したテフラでも、その堆積土を構成する可能性があるのである。本論では古代の遺跡・遺構に限定して集成しているので、7～9 世紀の集落が相当数存在すれば、当地域のようにⅠ期の検出比率が最多になるのが通常と考えられる。いっぽうで、この傾向を示さない地域、先述の㉑安比川流域などは、古代集落の發展時期（最盛期）がそれ以降に訪れたということがいえる。

⑪ 馬淵川中流域南部・十文字川流域（二戸地域）

当地域は、馬淵川流域のうち岩手県二戸市域の集落と、馬淵川の支流である十文字川流域の集落を集成したものである。Iw-001～022 の 22 遺跡・306 棟で堆積が確認さ

れた。遺跡毎の検出テフラ種別はすべて To-a で、B-Tm は未検出である。当地域以南の⑨安比川流域や⑩馬淵川上流域では B-Tm が検出されており、当地域に降灰しなかったとは考えづらい。後述するが、当地域は To-a の堆積量が最も多かった地域の 1 つと推定され、その影響で B-Tm が認知できなかつた可能性がある。

時期分類が可能な堆積を示すものは、21 遺跡・265 棟存在する。うち、I 期廃絶が 202 棟で全体の 76% を占める。

⑫ 馬淵川中流域北部（三戸・南部地域）

当地域は、馬淵川流域のうち青森県三戸町及び南部町周辺の集落を集成したものである。Ao-001～006 の 6 遺跡・22 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 3、To-a・B-Tm 両方検出が 3 で、B-Tm のみは 0 である。遺構毎でみた場合、To-a のみが 17、両方が 5 で、B-Tm 検出遺構数は全体の約 23% である。

時期分類が可能な堆積を示すものは 6 遺跡・21 棟存在し、その 91% が I 期廃絶である。

⑬ 北上山地北部（瀬月内川・雪谷川流域、九戸西部）

当該地域には新井田川水系の瀬月内川、雪谷川という二河川がある。これらの流域を一括して北上山地北部として集成を行う。Iw-071～089 及び Ao-026 の 20 遺跡・126 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 13、To-a・B-Tm 両方検出が 7 で、B-Tm のみは 0 である。遺構毎でみた場合、To-a のみが 80、B-Tm のみが 22、両方が 24 で、B-Tm 検出遺構数は 46 となり全体の約 37% である。なお、46 棟のうち 32 棟は Ao-026 砂子遺跡で検出されている。

時期分類が可能な堆積を示すものは、19 遺跡・98 棟存在する。

⑭ 閉伊地域（幣伊）

Iw-241・242 の 2 遺跡・4 棟で To-a の堆積が確認されたが、いずれも時期分類対象外である。統計的処理ができないため、当該地域は第 5 章以降の検討対象から除外する。

⑮ 久慈地域（九戸東部）

Iw-090～098 の 9 遺跡・97 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 3、To-a・B-Tm 両方検出が 6 で、B-Tm のみは 0 である。遺構毎でみた場合、To-a のみが 36、B-Tm のみが 24、両方が 37 で、B-Tm 検出遺構数は 61 となり全体の約 63% である。岩手県域では B-Tm の検出数が最も高い。

時期分類が可能な堆積を示すものは、8 遺跡・44 棟存在する。B-Tm の検出率が高い割には、V～VI 期に比定される竪穴は 10% 以下と多くない。

⑯ 八戸平野周辺（馬淵川下流・新井田川流域）

Ao-007～025・027～031 の 24 遺跡・275 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 2、B-Tm のみが 8、両方が 14 である。遺構毎でみた場合、To-a のみが 67、B-Tm のみが 159、両方が 49 で、B-Tm 検出遺構数は 208 となり全体の約 76% である。

時期分類が可能な堆積を示すものは、21 遺跡・136 棟存在する。この 43% にあたる

59 棟は、Ao-018 岩ノ沢平遺跡で検出されたものである。岩ノ沢平は I 期から VI 期まで存続した集落である。

⑰ 上北地域南部（奥入瀬川流域）

青森県上北地域の南部、奥入瀬川流域にあたる地域である。奥入瀬川は、十和田湖を水源とする唯一の河川である。

Ao-032～042 の 11 遺跡・122 棟で堆積が確認された。立地が奥入瀬川北岸に集中する傾向がみられる。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 2、両方が 9 で、B-Tm のみは 0 である。遺構毎でも同傾向で、B-Tm 検出遺構数は 74 で全体の約 61%となる。

時期分類が可能な堆積を示すものは、10 遺跡・58 棟存在する。その 72%が I 期廃絶である。

⑱ 上北地域中部（三本木原周辺～小川原湖湖沼群南部）

北八甲田火山群の東、三本木原台地から小川原湖周辺までを当該地域とした。Ao-043～060 の 18 遺跡・189 棟で堆積が確認されている。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 3、B-Tm のみが 1、両方が 14 である。遺構毎では To-a のみが 115、B-Tm のみが 13、両方が 61 で、B-Tm 検出遺構数は 74 となり全体の約 39%である。周辺地域は 60%を越えており、様相が異なる。

時期分類が可能な堆積を示すものは、15 遺跡・147 棟存在する。その約 28%が I 期廃絶で比率的に最も高いが、これに継ぐ約 22%が IV 期以降構築である。⑯八戸平野周辺、⑰上北地域南部両地域とはまったく異なる様相である。

⑲ 上北地域北部（野辺地湾周辺～小川原湖湖沼群北部）

Ao-061～076 の 16 遺跡・117 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、B-Tm のみが 6、両方が 10 で、To-a のみは 0 である。遺構毎でも To-a のみは 10 棟にとどまり、B-Tm の 6 分の 1 以下である。また、層堆積が確認されるのも B-Tm のみである。いっぽうで、当地域では両テフラとも基本土層中で成層している状況が複数の遺跡で確認されており、遺構内堆積状況と対照的である。

時期分類が可能な堆積を示すものは、15 遺跡・82 棟存在する。I 期から III 期に該当するものはなく、VI 期以降構築が約 44%と最も多い。当地域特有の傾向である。

⑳ 下北地域

町田・新井（2003）による To-a 等層厚線図（第 1 章図 1）によれば、その分布域外にあたる地域である。Ao-077・078 の 2 遺跡・2 棟で堆積が確認されたが、いずれも B-Tm のみの検出である。2 棟とも時期分類が可能で、それぞれ V 期と V 期以降であった。なお、Ao-077 最花南遺跡の 1 棟は層堆積を成す。

検出遺構数が少なく、加えて To-a が未検出であることから、当該地域は第 5 章以降の検討対象から除外する。

（2）日本海側

㉑ 能代平野周辺（米代川下流域）

Ak-047～052 の 6 遺跡・22 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳

は、B-Tmのみが5、To-a・B-Tm両方が1で、To-aのみは0である。遺構毎ではB-Tmのみが21と圧倒的に多い。B-Tmには成層資料がある。

時期分類可能な堆積を示すものは、4遺跡・14棟存在する。Ⅵ期以降構築が64%を占める。To-a検出数（降下量）の関係で、Ⅰ期からⅢ期に該当するものはない。

② 阿仁川流域

Ak-046の1遺跡・9棟で堆積が確認された。すべてTo-aのみの検出である。この9棟すべてが時期分類可能で、Ⅲ期以降廃絶とⅣ期以降廃絶が各4棟となる。

③ 米代川上～中流域

当該域には花輪、大館、鷹巣の3つの盆地がある。これにより区分をa～cに3細分する。aは花輪盆地、bは大館盆地、cは鷹巣盆地である。

Ak-001～044・070の45遺跡・340棟で堆積が確認された。（a…34遺跡・270棟、b…11遺跡・70棟）。これに片貝家ノ下遺跡（Ak-071）を加えると46遺跡となる（以降の集計には片貝家ノ下遺跡を含まず）。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-aのみが42、両方が3である。遺構毎でみた場合、To-aのみの検出数は336で全体の約99%である。B-Tm検出数は4で、B-Tmのみ単独の例は確認されない。ただし、このB-Tm検出4例はいずれも成層している。もちろん、To-aの成層例は多数存在する。

時期分類可能な堆積を示すものは、花輪盆地で30遺跡・188棟、大館盆地で10遺跡・49棟の計40遺跡・237棟存在する。Ⅳ期以降構築が全体の4分の1を占める。

なお、区分cにはテフラ埋没家屋が検出された胡桃館遺跡がある（c…1遺跡・4棟）。当遺跡検出建物はいずれも堅穴ではないが、十和田火山災害と噴火前の当該地域を語る上で極めて重要な位置を占めるため、集成に含めた（Ak-045）。これを加えると、③地域の総数は47遺跡・344棟となる。

④ 津軽平野南部～南縁丘陵周辺

Ao-079～087の9遺跡・51棟で堆積が確認された。遺跡数が少ないため一括したが、地形的には平野部（Ao-081・082・084～086）とその南縁丘陵部（Ao-079・080・083・087）に分かれる。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、B-Tmのみが7、両方が2で、To-aのみは0である。To-aが確認されたのはAo-082李平下安原遺跡とAo-084前川遺跡の計10棟であるが、前者は構築土に堆積していたもので、後者は洪水堆積物であり、純粋に堅穴内にTo-aが降下堆積していた例は皆無である。B-Tm検出遺構数は41で、全体の約80%である。なお、B-Tmは層堆積を成すものが確認される。

時期分類が可能な堆積を示すものは、7遺跡・42棟存在する。Ⅲ期以前に帰属するものは確認されていない。

⑤ 津軽平野東縁～大釈迦丘陵

Ao-088～107の20遺跡・216棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、B-Tmのみが15、両方が5で、To-aのみは0である。遺構毎でもTo-aは11棟と少なく、B-Tmの約20分の1にとどまる。また、両テフラ確認遺構も1棟のみである。なお、B-Tmは層堆積を成すものが確認される。

時期分類が可能な堆積を示すものは、18遺跡・125棟存在する。Ⅳ期以前が50%と

多数を占めるが、To-a 検出数（降灰量）の関係でⅢ期以前に帰属するものは確認されていない。

②⑥ 青森平野周辺

Ao-108～134 の 27 遺跡・485 棟で堆積が確認された。ほとんどが平野縁辺の高位部に立地する。Ao-130 玉松台(2)遺跡のみ平野北西部に位置するが、ここに含めた。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 3、B-Tm のみが 12、両方が 12 である。遺構毎では To-a のみが 121 棟と B-Tm のみの約 5 分の 2 にとどまるが、両テフラ堆積遺構も 66 棟あり、津軽地方にあつてはその多さが特筆される。また、両テフラとも層堆積を成すものが存在することも特徴である。

時期分類が可能な堆積を示すものは、26 遺跡・295 棟存在する。津軽地方で唯一、Ⅲ期以前の各期の該当遺構が確認できる。

②⑦ 津軽平野西部～岩木山北東麓

Ao-135～144 の 10 遺跡・38 棟で堆積が確認された。遺跡毎の検出テフラ種別の内訳は、To-a のみが 1、B-Tm のみが 7、両方が 2 である。遺構毎でも To-a は 4 棟と少なく、B-Tm の約 9 分の 1 程度である。層堆積を成すものも B-Tm のみである。

時期分類が可能な堆積を示すものは、7 遺跡・24 棟存在する。Ⅳ期以前が 50%を数える。

②⑧ 津軽平野北部

Ao-145 川倉小学校遺跡、Ao-146 花林遺跡の 2 遺跡・7 棟で堆積が確認された。すべて B-Tm のみ確認されたもので、層堆積するものも存在する。

時期分類が可能な堆積を示すものは、Ao-145 川倉小学校遺跡の 5 棟のみである。検出遺構数が少なく、加えて To-a が未検出であることから、当該地域は第 5 章以降の検討対象から除外する。

②⑨ 西津軽・日本海沿岸

当地域は、町田・新井（2003）による To-a 等層厚線図の分布域外にあたる地域である。Ao-147 葎野遺跡、Ao-148 津山遺跡の 2 遺跡・9 棟で B-Tm の堆積が確認された。層堆積を成すものも存在する。To-a は検出されていない。

時期分類が可能な堆積を示すものは 4 棟ある。ただし検出遺構数が少なく、加えて To-a が未検出であることから、当該地域は第 5 章以降の検討対象から除外する。

次章以降、この成果を用いて十和田 10 世紀噴火前後の諸様相検討を行っていく。

註

1) Iw-221、Iw-232 は欠番。

2) ④紫波地域の Iw-139 小屋塚遺跡 RA8714 における B-Tm 堆積報告（盛岡市教育委員会 1995）は誤認である可能性が高いため、当地域も B-Tm 目視確認事例がない地域として捉える。

3) Iw-177、Iw-202 は欠番。

4) Ak-059 姥ヶ沢窯跡の報告書（秋田県教育委員会 2001）は、事実記載の堆積層説

明および図の註記と、テフラ分析報告における試料採取層位の記載内容が一致しない。

5) 『日本三代実録』元慶二（878）年十月十二日甲戌条。

表9 To-aもしくはB-Tmの堆積が確認された竪穴建物のある遺跡

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑫	Ao-001	泉山	青森県教育委員会 1995 『泉山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第181集
⑫	Ao-002	沖中	三戸町教育委員会 2000 『沖中遺跡・沖中(2)遺跡発掘調査報告書』三戸町埋蔵文化財調査報告書第1集
⑫	Ao-003	山屋敷平	青森県教育委員会 2008 『山屋敷平遺跡・上平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第451集
⑫	Ao-004	館向	青森県教育委員会 2007 『館向遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第425集
⑫	Ao-005	上平	青森県教育委員会 2008 『山屋敷平遺跡・上平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第451集
⑫	Ao-006	西久根	青森県教育委員会 2006 『西久根遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第407集
⑬	Ao-007	蛇ヶ沢	八戸市教育委員会 1995 『上七崎遺跡・蛇ヶ沢遺跡・上蛇沢(2)遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第62集
⑬	Ao-008	境沢頭	八戸市教育委員会 1997 『境沢頭遺跡ほか』八戸市埋蔵文化財調査報告書第72集
⑬	Ao-009	丹内	青森県教育委員会 2000 『丹内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第273集
⑬	Ao-010	館平	八戸市教育委員会 2004 『館平遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第99集
⑬	Ao-011	坂中	八戸市教育委員会 1995 『八戸市内遺跡発掘調査報告書7』八戸市埋蔵文化財調査報告書第61集
⑬	Ao-012	市子林	八戸市教育委員会 1995 『八戸市内遺跡発掘調査報告書12』八戸市埋蔵文化財調査報告書第83集 八戸市教育委員会 2006 『八戸市内遺跡発掘調査報告書22』八戸市埋蔵文化財調査報告書第109集 八戸市教育委員会 2007 『八戸市内遺跡発掘調査報告書24』八戸市埋蔵文化財調査報告書第114集
⑬	Ao-013	新田	青森県教育委員会 2006 『新田遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第410集
⑬	Ao-014	潟野	青森県教育委員会 2006 『潟野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第412集
⑬	Ao-015	牛ヶ沢(4)	八戸市教育委員会 2001 『牛ヶ沢(4)遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第89集 八戸市教育委員会 2004 『牛ヶ沢(4)遺跡Ⅲ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第104集
⑬	Ao-016	田面木	八戸市教育委員会 1991 『八戸市内遺跡発掘調査報告書3』八戸市埋蔵文化財調査報告書第41集 八戸市教育委員会 1997 『八戸市内遺跡発掘調査報告書9』八戸市埋蔵文化財調査報告書第69集
⑬	Ao-017	根城跡	八戸市教育委員会 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅳ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第9集 八戸市教育委員会 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅴ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第11集 八戸市教育委員会 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅵ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第12集 八戸市教育委員会 1989 『史跡根城跡発掘調査報告書ⅩⅠ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第31集 八戸市教育委員会 1990 『史跡根城跡発掘調査報告書ⅩⅡ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第35集 八戸市教育委員会 1991 『史跡根城跡発掘調査報告書ⅩⅢ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第39集 八戸市教育委員会 1991 『八戸市内遺跡発掘調査報告書3』八戸市埋蔵文化財調査報告書第41集 八戸市教育委員会 1994 『八戸市内遺跡発掘調査報告書6』八戸市埋蔵文化財調査報告書第60集 八戸市教育委員会 1999 『八戸市内遺跡発掘調査報告書11』八戸市埋蔵文化財調査報告書第77集
⑬	Ao-018	岩ノ沢平	八戸市教育委員会 1992 『岩ノ沢平遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第46集 八戸市教育委員会 1993 『岩ノ沢平遺跡発掘調査報告書Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第50集 青森県教育委員会 2000 『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第287集 青森県教育委員会 2001 『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第301集
⑬	Ao-019	一日市	八戸市教育委員会 1999 『八戸市内遺跡発掘調査報告書11』八戸市埋蔵文化財調査報告書第77集
⑬	Ao-020	上野平(3)	青森県教育委員会 2001 『上野平(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第296集
⑬	Ao-021	根岸山添	青森県教育委員会 2005 『泉沢(3)遺跡・根岸山添遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第400集 八戸市教育委員会 1999 『屋場遺跡・根岸山添遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第78集
⑬	Ao-022	櫛引	青森県教育委員会 1999 『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第263集
⑬	Ao-023	風張(1)	八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集 八戸市教育委員会 2008 『風張(1)遺跡Ⅵ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第119集
⑬	Ao-024	小板橋(2)	階上町教育委員会 2002 『青森県階上町小板橋(2)遺跡』

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑬	Ao-025	黒坂	青森県教育委員会 2001 『黒坂遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第306集
⑬	Ao-027	田向	八戸市教育委員会 2004 『田向遺跡Ⅰ』八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第105集
⑬	Ao-028	田向冷水	八戸市教育委員会 2006 『田向冷水遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第113集
⑬	Ao-029	松館	青森県教育委員会 1997 『松館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第223集
⑬	Ao-030	大仏館	八戸市教育委員会 2003 『八戸市内遺跡発掘調査報告書16』八戸市埋蔵文化財調査報告書第96集 八戸遺跡調査会 2004 『大仏館遺跡発掘調査報告書Ⅱ』八戸遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第6集
⑬	Ao-031	林ノ前	青森県教育委員会 2005 『林ノ前遺跡(遺構編)』青森県埋蔵文化財調査報告書第396集 八戸市教育委員会 2005 『八戸市内遺跡発掘調査報告書21』八戸市埋蔵文化財調査報告書第108集 青森県教育委員会 2006 『林ノ前遺跡Ⅱ(遺物・自然科学分析編)』青森県埋蔵文化財調査報告書第415集
⑰	Ao-032	切田前谷地(2)	十和田市教育委員会 1993 『切田前谷地(2)遺跡発掘調査報告書』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告書第7号
⑰	Ao-033	大和田	青森県教育委員会 1998 『大和田遺跡 寺山(3)遺跡 平窪(1)遺跡 平窪(2)遺跡 伝法寺館跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第235集
⑰	Ao-034	六日町	十和田市教育委員会 2002 『六日町遺跡』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告第10集 十和田市教育委員会 2006 『六日町遺跡Ⅱ』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
⑰	Ao-035	坪毛沢(1)	青森県教育委員会 2007 『坪毛沢(1)遺跡 坪毛沢(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第430集
⑰	Ao-036	坪毛沢(3)	青森県教育委員会 2007 『坪毛沢(1)遺跡 坪毛沢(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第430集
⑰	Ao-037	立蛇(1)	下田町教育委員会 1999 『下田町内遺跡発掘調査報告書2』下田町埋蔵文化財調査報告書第12集 下田町教育委員会 2001 『立蛇(1)遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書第16集
⑰	Ao-038	向山(6)	下田町教育委員会 1998 『向山(6)遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書第11集
⑰	Ao-039	ふくべ(3)	青森県教育委員会 2005 『通目木遺跡・ふくべ(3)遺跡・ふくべ(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第392集 おいらせ町教育委員会 2006 『下田町内遺跡発掘調査報告書9』下田町埋蔵文化財調査報告書第22集 おいらせ町教育委員会 2007 『おいらせ町内遺跡発掘調査報告書1』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第2集 青森県教育委員会 2008 『ふくべ(3)遺跡Ⅱ ふくべ(4)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第457集
⑰	Ao-040	ふくべ(4)	青森県教育委員会 2005 『通目木遺跡・ふくべ(3)遺跡・ふくべ(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第392集
⑰	Ao-041	中野平	青森県教育委員会 1991 『中野平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第134集 下田町教育委員会 1996 『中野平遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書第7集 下田町教育委員会 1997 『中野平遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書第8集 下田町教育委員会 1997 『中野平遺跡』下田町埋蔵文化財調査報告書第9集 下田町教育委員会 2005 『下田町内遺跡発掘調査報告書8』下田町埋蔵文化財調査報告書第21集 おいらせ町教育委員会 2008 『中野平遺跡Ⅶ』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第3集 おいらせ町教育委員会 2008 『中野平遺跡Ⅷ』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第4集 おいらせ町教育委員会 2008 『中野平遺跡Ⅸ』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第6集
⑰	Ao-042	長谷	青森県教育委員会 1988 『長谷遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第241集
⑱	Ao-043	貝ノ口	七戸町教育委員会 1996 『貝ノ口遺跡Ⅱ』七戸町埋蔵文化財発掘調査報告書第15集 七戸町教育委員会 1996 『貝ノ口遺跡Ⅲ』七戸町埋蔵文化財発掘調査報告書第16集
⑱	Ao-044	赤平(1)	青森県教育委員会 2008 『坪毛沢(1)遺跡Ⅱ・柴山(1)遺跡Ⅱ・大坊頭遺跡・赤平(1)遺跡・赤平(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第449集
⑱	Ao-045	東道ノ上(3)	青森県教育委員会 2006 『東道ノ上(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第424集
⑱	Ao-046	平畑(3)	青森県教育委員会 1996 『平畑(3)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第14集
⑱	Ao-047	太田野(2)	青森県教育委員会 2007 『太田野(2)遺跡 太田野(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第427集 青森県教育委員会 2008 『太田野(2)遺跡Ⅱ・太田(1)遺跡・北野(1)遺跡・北野(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第455集
⑱	Ao-048	七戸城跡北東出丸矢館跡	七戸町教育委員会 1989 『史跡七戸城跡北東出丸矢館跡Ⅲ』七戸町埋蔵文化財調査報告書第4集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑱	Ao-048	七戸城跡北館	七戸町教育委員会 1997 『史跡七戸城跡北館VI』七戸町埋蔵文化財調査報告書第17集 七戸町教育委員会 2000 『史跡七戸城跡北館IX』七戸町埋蔵文化財調査報告書第31集 七戸町教育委員会 2001 『史跡七戸城跡北館X』七戸町埋蔵文化財調査報告書第34集 七戸町教育委員会 2002 『史跡七戸城跡北館XI』七戸町埋蔵文化財調査報告書第38集
⑱	Ao-049	大池館	青森県教育委員会 2005 『倉越(2)遺跡・大池館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第389集 青森県教育委員会 2006 『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡II・大池館遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第417集
⑱	Ao-050	倉越(2)	青森県教育委員会 2005 『倉越(2)遺跡・大池館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第389集 青森県教育委員会 2006 『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡II・大池館遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第417集 青森県教育委員会 2009 『倉越(2)遺跡III・太田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第464集
⑱	Ao-051	赤平(2)	青森県教育委員会 2007 『赤平(2)遺跡 赤平(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第438集
⑱	Ao-052	赤平(3)	青森県教育委員会 2007 『赤平(2)遺跡 赤平(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第438集
⑱	Ao-053	大坊頭	青森県教育委員会 2008 『坪毛沢(1)遺跡II・柴山(1)遺跡II・大坊頭遺跡・赤平(1)遺跡・赤平(2)遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第449集
⑱	Ao-054	山ノ外	十和田市教育委員会 2004 『山ノ外遺跡』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告第11集
⑱	Ao-055	内蛭沢蝦夷館	東北町教育委員会 1987 『内蛭沢蝦夷館遺跡』東北町埋蔵文化財調査報告書第2集
⑱	Ao-056	鳥口平(8)	東北町教育委員会 2010 『鳥口平(8)遺跡II』青森県東北町埋蔵文化財調査報告書第19集
⑱	Ao-057	往来ノ上(1)	東北町教育委員会 1996 『往来ノ上(1)遺跡』青森県東北町埋蔵文化財調査報告書第6集
⑱	Ao-058	白旗館	東北町教育委員会 1990 『白旗館遺跡』東北町埋蔵文化財調査報告書第1集
⑱	Ao-059	風穴	三沢市教育委員会 1997 『風穴遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第15集
⑱	Ao-060	猫又(1)	三沢市教育委員会 1998 『猫又(1)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第16集
⑲	Ao-061	向田(24)	野辺地町教育委員会 2003 『有戸鳥井平(4)遺跡II・向田(24)遺跡II』野辺地町文化財調査報告書第11集
⑲	Ao-062	向田(35)	青森県教育委員会 2004 『向田(35)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第373集
⑲	Ao-063	弥栄平(4)	青森県教育委員会 1987 『弥栄平(4)(5)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第106集
⑲	Ao-064	上尾駁(2)	青森県教育委員会 1988 『上尾駁(2)遺跡II(B・C地区)発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第115集
⑲	Ao-065	家ノ前	青森県教育委員会 1994 『家ノ前遺跡II・鷹架遺跡II発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第160集
⑲	Ao-066	坊ノ塚(2)	野辺地町教育委員会 2003 『坊ノ塚(2)遺跡』野辺地町文化財調査報告書第12集
⑲	Ao-067	唐貝地	青森県教育委員会 1992 『唐貝地遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第145集
⑲	Ao-068	幸畑(4)	青森県教育委員会 1998 『幸畑(4)遺跡・幸畑(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第236集
⑲	Ao-069	発茶沢(1)	青森県教育委員会 1989 『発茶沢(1)遺跡発掘調査報告書IV』青森県埋蔵文化財調査報告書第120集 青森県教育委員会 1990 『表館(1)遺跡IV・発茶沢(1)遺跡IV発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第126集
⑲	Ao-070	沖附(1)	青森県教育委員会 1986 『沖附(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第100集
⑲	Ao-071	二十平(1)	野辺地町教育委員会 2007 『二十平(1)遺跡』野辺地町文化財調査報告書第15集
⑲	Ao-072	有戸鳥井平(7)	青森県教育委員会 2003 『有戸鳥井平(7)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第348集
⑲	Ao-073	向田(34)	青森県教育委員会 2003 『野辺地蟹田(10)遺跡II 野辺地蟹田(12)遺跡 向田(34)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第343集
⑲	Ao-074	向田(37)	青森県教育委員会 2006 『向田(37)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第408集
⑲	Ao-075	向田(40)	野辺地町教育委員会 2007 『向田(38)・(39)・(40)遺跡』野辺地町文化財調査報告書第16集
⑲	Ao-076	家の後(6)	六ヶ所村教育委員会 2006 『家の後(3)(4)(5)(6)遺跡・干樽(2)遺跡』六ヶ所村埋蔵文化財調査報告書第8集
⑳	Ao-077	最花南	むつ市教育委員会 1985 『むつ市文化財調査報告』第11集
⑳	Ao-078	アイヌ野	青森県教育委員会 1982 『下北地点原子力発電所建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第71集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
②④	Ao-079	上牡丹森	大鰐町教育委員会 1986 『上牡丹森遺跡発掘調査報告書』大鰐町文化財調査報告書第1集
②④	Ao-080	浅井(1)	尾上町教育委員会 2001 『浅井(1)遺跡試掘調査報告書』尾上町文化財調査報告書第10集
②④	Ao-081	原	尾上町教育委員会 1989 『原遺跡発掘調査報告書』調査報告書第8集
②④	Ao-082	李平下安原	青森県教育委員会 1988 『李平下安原遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第111集 尾上町教育委員会 2004 『浅井(1)遺跡 浅井(2)遺跡 李平下安原遺跡』尾上町文化財調査報告書第12集
②④	Ao-083	板留(2)	青森県教育委員会 1980 『板留(2)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第59集
②④	Ao-084	前川	青森県教育委員会 2009 『前川遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第475集
②④	Ao-085	宮元	青森県教育委員会 2003 『宮元遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第359集
②④	Ao-086	水木館	青森県教育委員会 1995 『水木館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第173集
②④	Ao-087	小栗山館	弘前市教育委員会 1999 『小栗山館遺跡発掘調査報告書』
②⑤	Ao-088	羽黒平(1)A区	青森県教育委員会 1995 『松山・羽黒平(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第170集
		羽黒平(1)B区	青森県教育委員会 1995 『松山・羽黒平(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第170集
		羽黒平(1)C区	青森県教育委員会 1996 『羽黒平(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第194集
②⑤	Ao-088・089	羽黒平	青森県教育委員会 1979 『羽黒平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第44集
②⑤	Ao-089	羽黒平(3)	浪岡町教育委員会 1995 『羽黒平(3)遺跡発掘〔試掘〕調査報告書』浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第5集
②⑤	Ao-090	平野	青森県教育委員会 1996 『平野遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第193集
②⑤	Ao-091	山元(1)	青森県教育委員会 2005 『山元(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第395集
②⑤	Ao-092	山元(2)	青森県教育委員会 1995 『山元(2)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第171集
②⑤	Ao-093	山元(3)	青森県教育委員会 1994 『山元(3)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第159集
②⑤	Ao-094	中平	青森県教育委員会 2009 『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第474集
②⑤	Ao-095	松山	青森県教育委員会 1995 『松山・羽黒平(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第170集
②⑤	Ao-096	山本	青森県教育委員会 1987 『山本遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第105集
②⑤	Ao-097	隠川(12)	青森県教育委員会 1998 『隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第244集
②⑤	Ao-098	隠川(4)	青森県教育委員会 1998 『隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第244集
②⑤	Ao-099	野尻(1)	青森県教育委員会 1998 『野尻(1)遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第234集
			青森県教育委員会 1999 『野尻(1)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第259集
			青森県教育委員会 2000 『野尻(1)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第277集
			青森県教育委員会 2003 『野尻(1)遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第351集
青森県教育委員会 2004 『野尻(1)遺跡Ⅵ・野尻(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第366集			
②⑤	Ao-100	野尻(4)	青森県教育委員会 1996 『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 浪岡町教育委員会 2001 『平成12年度浪岡町文化財紀要Ⅰ』 浪岡町教育委員会 2004 『野尻(4)遺跡』浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第10集
②⑤	Ao-101	野尻(2)	青森県教育委員会 1995 『野尻(2)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第172集 青森県教育委員会 1996 『野尻(2)遺跡Ⅱ・野尻(3)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第186集
②⑤	Ao-102	野尻(3)	青森県教育委員会 1996 『野尻(2)遺跡Ⅱ・野尻(3)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 青森県教育委員会 2006 『野尻(3)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第414集
②⑤	Ao-103	高屋敷館	青森県教育委員会 1998 『高屋敷館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第243集 青森県教育委員会 2005 『高屋敷館遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第393集
②⑤	Ao-104	寺屋敷平	青森県教育委員会 2008 『寺屋敷平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第450集
②⑤	Ao-105	隈無(2)	青森県教育委員会 1998 『隈無(1)遺跡・隈無(2)遺跡・隈無(6)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第237集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
㉔	Ao-106	隈無(8)	青森県教育委員会 2002 『隈無(8)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第313集
㉔	Ao-107	隠川(2)外	五所川原市教育委員会 2000 『隠川(2)外遺跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第22集
㉔	Ao-108	雲谷山吹(7)	青森市教育委員会 2003 『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第65集
㉔	Ao-109	新町野	青森県教育委員会 1998 『新町野遺跡・野木遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第239集 青森県教育委員会 2000 『新町野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第275集 青森市教育委員会 2001 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第54集-1 青森市教育委員会 2006 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』青森市埋蔵文化財調査報告書第87集 青森市教育委員会 2008 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』青森市埋蔵文化財調査報告書第98集
㉔	Ao-110	安田(2)	青森県教育委員会 2001 『安田(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第303集 青森県教育委員会 2002 『安田(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第321集
㉔	Ao-111	近野	青森県教育委員会 1977 『近野Ⅲ遺跡・三内丸山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第33集 青森県教育委員会 2004 『三内丸山(5)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第370集 青森県教育委員会 2005 『近野遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第394集 青森県教育委員会 2007 『近野遺跡Ⅹ』青森県埋蔵文化財調査報告書第432集
㉔	Ao-112	野木	青森県教育委員会 1998 『新町野遺跡・野木遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第239集 青森県教育委員会 1999 『野木遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第264集 青森県教育委員会 2000 『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第281集 青森市教育委員会 2001 『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第54集
㉔	Ao-113	合子沢松森(2)	青森市教育委員会 2007 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第93集
㉔	Ao-114	小三内	青森市教育委員会 1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第22集
㉔	Ao-115	朝日山(1)	青森県教育委員会 1993 『朝日山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第152集 青森県教育委員会 1994 『朝日山遺跡Ⅲ』第一分冊 朝日山(1)遺跡—遺物編 青森県埋蔵文化財調査報告書第156集
㉔	Ao-116	朝日山(2)	青森県教育委員会 2001 『朝日山(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第298集 青森県教育委員会 2002 『朝日山(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第316集 青森県教育委員会 2002 『朝日山(2)遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第324集 青森県教育委員会 2002 『朝日山(2)遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第325集 青森県教育委員会 2003 『朝日山(2)遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第349集 青森県教育委員会 2003 『朝日山(2)遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第350集 青森県教育委員会 2004 『朝日山(2)遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第368集 青森県教育委員会 2004 『朝日山(2)遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第369集
㉔	Ao-117	三内丸山(9)	青森県教育委員会 2007 『三内遺跡Ⅱ・三内丸山(9)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第434集
㉔	Ao-118	三内丸山(2)	青森県教育委員会 1994 『三内丸山(2)遺跡』第1分冊 青森県埋蔵文化財調査報告書第157集 青森県教育委員会 1996 『三内丸山遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第204集
㉔	Ao-118	三内丸山(2)No.8鉄塔地点	青森県教育委員会 1994 『三内丸山(2)遺跡』第2分冊 青森県埋蔵文化財調査報告書第157集
㉔	Ao-119	三内丸山	青森県教育委員会 2005 『三内丸山遺跡26』青森県埋蔵文化財調査報告書第404集
㉔	Ao-120	雲谷山吹(6)	青森市教育委員会 2003 『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第65集
㉔	Ao-121	雲谷山吹(5)	青森市教育委員会 2003 『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第65集
㉔	Ao-122	葛野(1)	青森市教育委員会 2008 『葛野遺跡群発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第96集
㉔	Ao-123	月見野(1)	青森市教育委員会 2007 『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第90集
㉔	Ao-124	細越	青森県教育委員会 1979 『細越遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第49集
㉔	Ao-125	高間(1)	青森市教育委員会 2007 『石江遺跡群発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第94集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
㊥	Ao-126	宮田館	青森市教育委員会 2004 『市内遺跡発掘調査報告書12』青森市埋蔵文化財調査報告書第74集 青森県教育委員会 2006 『宮田館遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第411集 青森県教育委員会 2009 『米山(2)遺跡Ⅵ・宮田館遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第473集
㊥	Ao-127	岩渡小谷(2)	青森県教育委員会 2001 『岩渡小谷(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第300集
㊥	Ao-128	小牧野	青森県教育委員会 1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』青森市埋蔵文化財調査報告書第45集
㊥	Ao-129	三内沢部(3)	青森県教育委員会 2005 『三内沢部(3)遺跡 柴山(1)遺跡 洗平(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第390集
㊥	Ao-130	玉松台(2)	蓬田村教育委員会 2000 『玉松台(2)遺跡』蓬田村文化財調査報告書第2集
㊥	Ao-131	朝日山(3)	青森県教育委員会 1995 『朝日山(3)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第167集 青森県教育委員会 1997 『朝日山(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第215集
㊥	Ao-115・116・131	朝日山	青森県教育委員会 1984 『朝日山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第87集
㊥	Ao-132	二股(2)	青森県教育委員会 2007 『二股(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第437集
㊥	Ao-133	葛野(2)	青森市教育委員会 1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第44集
㊥	Ao-134	新田(2)	青森県教育委員会 2009 『新田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第471集
㊦	Ao-135	弥生平(1)	青森県教育委員会 2002 『弥生平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第332集
㊦	Ao-136	山ノ越	青森県教育委員会 2000 『山ノ越遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第285集
㊦	Ao-137	宇田野(2)	青森県教育委員会 1997 『宇田野(2)遺跡・宇田野(3)遺跡・草薙(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第217集
㊦	Ao-138	平野	青森県教育委員会 1998 『平野遺跡 今須(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第231集
㊦	Ao-139	八重菊(1)	森田村教育委員会 2001 『八重菊(1)遺跡』森田村緊急発掘調査報告書第7集 森田村教育委員会 2003 『八重菊(1)遺跡Ⅲ・鶴喰(6)遺跡・鶴喰(9)遺跡』森田村緊急発掘調査報告書第9集
㊦	Ao-140	外馬屋前田(1)	青森県教育委員会 1998 『外馬屋前田(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第242集
㊦	Ao-141	稲元	青森県教育委員会 2009 『稲元遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第468集
㊦	Ao-142	下恋塚	弘前市教育委員会 1996 『下恋塚遺跡発掘調査報告書』社会福祉法人つがの三和会
㊦	Ao-143	空沢	青森県教育委員会 1990 『空沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第130集
㊦	Ao-144	今須(3)	鏝ヶ沢町教育委員会 1999 『今須(3)遺跡』鏝ヶ沢町文化財シリーズ第14集
㊧	Ao-145	川倉小学校	五所川原市教育委員会 2006 『川倉小学校遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第28集
㊧	Ao-146	花林	車力村教育委員会 2002 『花林遺跡』青森県車力村文化財調査報告書第6集
㊧	Ao-147	蔭野	青森県教育委員会 2003 『尾上山遺跡・蔭野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第347集
㊧	Ao-148	津山	青森県教育委員会 1997 『津山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第221集
㊨	Iw-001	門松	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『門松遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第413集
㊨	Iw-002	寺久保	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『寺久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第239集
㊨	Iw-003	上台	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『上台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第334集
㊨	Iw-004	駒焼場	二戸市教育委員会 1983 『駒焼場遺跡緊急発掘調査報告書』 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 『駒焼場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第133集
㊨	Iw-004	駒焼場 (旧 府金橋)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『府金橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第72集
㊨	Iw-005	馬場	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1990 『馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第137集
㊨	Iw-006	荒田Ⅲ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『荒田Ⅲ・荒田Ⅳ遺跡第1次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第217集
㊨	Iw-007	上田面	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 上田面遺跡・大淵遺跡・火行塚遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第23集
㊨	Iw-008	戸花B	二戸市教育委員会 1991 『戸花B遺跡』
㊨	Iw-009	戸花C	二戸市教育委員会 1990 『戸花C遺跡』
㊨	Iw-010	堀野	福岡町教育委員会 1965 『堀野遺跡』 二戸市教育委員会 1982 『堀野遺跡緊急発掘調査報告書』
㊨	Iw-011	長瀬A	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 家の上遺跡・長瀬A遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第35集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑪	Iw-012	長瀬B	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 長瀬B遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第36集
⑪	Iw-013	長瀬C	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 長瀬C遺跡・長瀬D遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第22集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『長瀬C遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第51集
⑪	Iw-014	長瀬D	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 長瀬C遺跡・長瀬D遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第22集
⑪	Iw-011~014	長瀬	二戸市教育委員会 2000 『米沢遺跡群長瀬遺跡 平成11年度緊急発掘調査報告書』
⑪	Iw-015	荒谷A	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『荒谷A遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第57集
⑪	Iw-016	米沢	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『米沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第132集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『米沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第376集
⑪	Iw-017	下村	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『下村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第323集
⑪	Iw-018	中曽根	二戸市教育委員会 1992 『中曽根遺跡発掘調査報告書』 二戸市教育委員会 1978 『中曽根遺跡発掘調査報告書』
⑪	Iw-019	中曽根Ⅱ	二戸市教育委員会 1981 『中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(本文編)・(図版編)
⑪	Iw-020	前小路	二戸市埋蔵文化財センター 2009 『前小路遺跡Ⅴ』二戸市埋蔵文化財センター調査報告書第3集
⑪	Iw-021	火行塚	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 上田面遺跡・大淵遺跡・火行塚遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第23集
⑪	Iw-022	上里	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『上里遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第55集
⑩	Iw-023	川原田平	一戸町教育委員会 2001 『一戸城跡・川原田平遺跡』一戸町文化財調査報告書第44集
⑩	Iw-024	竹林	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『堀切・竹林遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第107集
⑩	Iw-025	親久保Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1987 『親久保Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第116集
⑩	Iw-026	小井田Ⅴ	一戸町教育委員会 1998 『町内遺跡発掘調査報告書 一戸城跡・小井田Ⅴ遺跡』一戸町文化財調査報告書第39集 一戸町教育委員会 1999 『小井田Ⅴ遺跡』一戸町文化財調査報告書第40集
⑩	Iw-027	蒔前	一戸町教育委員会 2003 『一戸城跡・蒔前遺跡』一戸町文化財調査報告書第45集
⑩	Iw-028	一戸城跡	一戸町教育委員会 1982 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅱ』一戸町文化財調査報告書第2集 一戸町教育委員会 2001 『一戸城跡・川原田平遺跡』一戸町文化財調査報告書第44集 一戸町教育委員会 2003 『一戸城跡・蒔前遺跡』一戸町文化財調査報告書第45集 一戸町教育委員会 2008 『下地切遺跡・蒔前遺跡・野里遺跡・一戸城跡 町内遺跡発掘調査報告書』一戸町文化財調査報告書第62集
⑩	Iw-029	野田Ⅱ	一戸町教育委員会 2009 『野田Ⅱ遺跡』一戸町文化財調査報告書第63集
⑩	Iw-030	北館	一戸町教育委員会 1991 『北館遺跡』一戸町文化財報告書第27集
⑩	Iw-031	北館B	一戸町教育委員会 1981 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ』一戸町文化財報告書第1集
⑩	Iw-032	上野	一戸町教育委員会 1981 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ』一戸町文化財報告書第1集 一戸町教育委員会 1983 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅳ』一戸町文化財報告書第5集 一戸町教育委員会 1984 『上野遺跡』一戸町文化財調査報告書第7集 一戸町教育委員会 1985 『上野遺跡』一戸町文化財調査報告書第13集 一戸町教育委員会 1987 『上野遺跡・一戸城跡 昭和61年度一戸遺跡群発掘調査報告書』一戸町文化財調査報告書第18集 一戸町教育委員会 1988 『上野遺跡』一戸町文化財調査報告書第20集 一戸町教育委員会 1990 『上野遺跡』一戸町文化財調査報告書第24集 一戸町教育委員会 2001 『上野遺跡』一戸町文化財調査報告書第43集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『上野遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第359集
⑩	Iw-033	田中5	一戸町教育委員会 1983 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅳ』一戸町文化財報告書第5集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑩	Iw-034	田中4	一戸町教育委員会 1981 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ』一戸町文化財報告書第1集
⑩	Iw-035	田中3	一戸町教育委員会 1981 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ』一戸町文化財報告書第1集
⑩	Iw-036	田中	一戸町教育委員会 2003 『田中遺跡』一戸町文化財調査報告書第46集
⑩	Iw-037	馬場平 (旧馬場平2)	一戸町教育委員会 1983 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅲ』一戸町文化財報告書第4集
⑩	Iw-038	下地切	一戸町教育委員会 2008 『下地切遺跡・蒔前遺跡・野里遺跡・一戸城跡 町内遺跡発掘調査報告書』一戸町文化財調査報告書第62集
⑩	Iw-039	御所野	一戸町教育委員会 2004 『御所野遺跡Ⅱ』一戸町文化財調査報告書第48集 一戸町教育委員会 2006 『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第53集
⑩	Iw-040	子守A	一戸町教育委員会 1981 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅰ』一戸町文化財報告書第1集
⑩	Iw-041	大平	一戸町教育委員会 2006 『大平遺跡』一戸町文化財調査報告書第56集
⑩	Iw-042	野里上	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『野里上遺跡・野中遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第492集
⑨	Iw-043	青ノ久保	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1987 『青ノ久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第118集
⑨	Iw-044	桑木田	二戸市教育委員会 2002 『在府小路遺跡区・諏訪前遺跡・堀野遺跡群・桑木田遺跡』
⑨	Iw-045	大向上平	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『大向上平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第335集
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『大向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第387集
⑨	Iw-047	天台寺跡 (伝天台寺跡)	浄法寺町教育委員会 1983 『天台寺跡一第7次発掘調査概報一』
⑨	Iw-048	広沖Ⅰ (旧広沖)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『広沖遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第111集
⑨	Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第120集
⑨	Iw-050	安比内Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『安比内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第106集
⑨	Iw-051	大久保Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1985 『海上Ⅰ・海上Ⅱ・大久保Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第90集
⑨	Iw-052	桂平Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『桂平Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第538集
⑨	Iw-053	桂平Ⅱ (旧桂平)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『桂平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第110集
⑨	Iw-054	沼久保Ⅰ (旧沼久保)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『沼久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第109集
⑨	Iw-055	浄法寺城跡	浄法寺町教育委員会 2001 『浄法寺城跡 平成12年度町内遺跡発掘調査概報』
⑨	Iw-056	海上Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1985 『海上Ⅰ・海上Ⅱ・大久保Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第90集
⑨	Iw-057	五庵Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『五庵Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集
⑨	Iw-058	五庵Ⅲ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『五庵Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第112集
⑨	Iw-059	五庵Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『五庵Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第97集
⑨	Iw-060	田余内Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『田余内Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第105集
⑨	Iw-061	北の城館跡	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『北の城館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第438集
⑨	Iw-062	関沢口	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『関沢口遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第95集
⑨	Iw-063	有矢野館跡	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『横間Ⅱ遺跡・谷地田Ⅰ遺跡・有矢野遺跡・有矢野館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集
⑨	Iw-064	谷地田Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『横間Ⅱ遺跡・谷地田Ⅰ遺跡・有矢野遺跡・有矢野館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集
⑨	Iw-065	上の山Ⅹ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『有矢野・上の山Ⅹ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第38集
⑨	Iw-066	上の山館	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『上の山館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第40集
⑨	Iw-067	上の山Ⅶ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『岩手県安代町上の山Ⅶ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第60集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑨	Iw-068	扇畑Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『扇畑Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第39集
⑨	Iw-069	扇畑Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書 二戸郡安代町 扇畑Ⅰ遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第17集
⑨	Iw-070	赤坂田Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『赤坂田Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第58集
⑬	Iw-071	糺口Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『糺口Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第175集
⑬	Iw-072	皂角子久保Ⅴ	軽米町教育委員会 2000 『皂角子久保Ⅴ遺跡・皂角子久保Ⅳ遺跡発掘調査報告書』軽米町文化財調査報告書第12集
⑬	Iw-073	皂角子久保Ⅵ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『皂角子久保Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第129集 軽米町教育委員会 2000 『皂角子久保Ⅴ遺跡・皂角子久保Ⅳ遺跡発掘調査報告書』軽米町文化財調査報告書第12集
⑬	Iw-074	君成田Ⅳ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『君成田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第62集
⑬	Iw-075	駒板	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『駒板遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第98集
⑬	Iw-076	丸木橋	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『丸木橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第189集
⑬	Iw-077	嶽Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『嶽Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第78集
⑬	Iw-078	江刺家Ⅰ (旧 江刺家)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『江刺家遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第70集
⑬	Iw-079	滝谷Ⅲ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『滝谷Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第49集
⑬	Iw-080	黒山の昔穴	九戸村教育委員会 2003 『黒山の昔穴遺跡 平成14年度村内遺跡発掘調査概報』九戸村文化財調査報告書第5集
⑬	Iw-081	南田Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『南田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第307集
⑬	Iw-082	川向Ⅲ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1982 『川向Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第26集
⑬	Iw-083	水吉Ⅵ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第219集
⑬	Iw-084	大鳥Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『大鳥Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第270集
⑬	Iw-085	大日向Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書-第6次～第8次調査-』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集
⑬	Iw-086	叭屋敷Ⅰa	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『叭屋敷Ⅰa遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第61集
⑬	Iw-087	叭屋敷Ⅰb	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『叭屋敷Ⅰb遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第63集
⑬	Iw-088	叭屋敷Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『叭屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第47集
⑬	Iw-089	宮沢	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『宮沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第358集 軽米町教育委員会 2001 『宮沢遺跡発掘調査報告書』軽米町文化財調査報告書第14集
⑬	Ao-026	砂子	青森県教育委員会 2000 『砂子遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第280集
⑮	Iw-090	高屋敷	山形村教育委員会 1995 『高屋敷遺跡』山形村埋蔵文化財調査報告書5
⑮	Iw-091	中田	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『中田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第478集
⑮	Iw-092	明神	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『明神遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第150集
⑮	Iw-093	源道	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 『源道遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第138集
⑮	Iw-094	鼻館跡	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『鼻館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第171集
⑮	Iw-095	田高Ⅰ	久慈市教育委員会 1997 『田高Ⅰ遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集
⑮	Iw-096	中長内Ⅰ (旧 中長内)	久慈市教育委員会 1988 『中長内遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑮	Iw-096	中長内 I (旧 中長内)	久慈市教育委員会 1989 『中長内遺跡(Ⅱ)』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
⑮	Iw-097	平沢 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『平沢 I 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第125集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『平沢 I 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第264集 久慈市教育委員会 2002 『平沢 I 遺跡発掘調査報告書Ⅵ』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第30集
⑮	Iw-098	平清水 II	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『平清水 II 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第449集
⑧	Iw-099	長者屋敷	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1980 『東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書 松尾村長者屋敷 I (遺構編1)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第12集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1980 『東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書 松尾村長者屋敷 II (遺構編2)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第20集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『長者屋敷遺跡発掘調査報告書(Ⅲ)(遺構編-本文)(遺物編-図版)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第77集
⑧	Iw-100	子飼沢山	福島大学行政社会学部考古学研究室 2000 「西根町小飼沢山遺跡、暮坪遺跡発掘調査概要Ⅱ」『岩手考古学』第12号、97～146頁
⑧	Iw-101	暮坪	福島大学行政社会学部考古学研究室 1996 「西根町子飼沢山遺跡、暮坪遺跡、岩手町横田館遺跡発掘調査概要」『岩手考古学』第8号、1～40頁 福島大学行政社会学部考古学研究室 2000 「西根町小飼沢山遺跡、暮坪遺跡発掘調査概要Ⅱ」『岩手考古学』第12号、97～146頁
⑧	Iw-102	上斗内 V	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『上斗内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第71集
⑧	Iw-103	野駄	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1980 『東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書 松尾村野駄遺跡・寄木遺跡 西根町崩石遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第11集
⑧	Iw-104	今松	岩手町教育委員会 1970 『仙波堤・今松遺跡』
⑧	Iw-105	仙波堤	岩手町教育委員会 1970 『仙波堤・今松遺跡』
⑧	Iw-106	秋浦 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『秋浦 I 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第346集
⑧	Iw-107	川口 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『川口 I 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第83集
⑧	Iw-108	才津沢	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『才津沢遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第278集
⑧	Iw-109	芦名沢 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『芦名沢 I 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第295集
⑧	Iw-110	芋田 II	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『芋田 II 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第304集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 『芋田 II 遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第457集
⑧	Iw-111	武道 V	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『平成18年度発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第505集
⑧	Iw-112	湯舟沢	滝沢村教育委員会 1986 『湯舟沢遺跡』第1分冊・第2分冊、滝沢村教育委員会文化財調査報告書第2集
⑧	Iw-113	外山 II	滝沢村教育委員会 1990 『外山 II 遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第14集
⑧	Iw-114	法誓寺 1	滝沢村埋蔵文化財センター 2006 『法誓寺 1 遺跡発掘調査報告書』滝沢村埋蔵文化財センター調査報告書第2集
⑧	Iw-115	諸葛川	滝沢村教育委員会 1987 『諸葛川遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第4集
⑧	Iw-116	高柳	滝沢村教育委員会 1987 『高柳遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第7集 滝沢村教育委員会 1989 『高柳遺跡 室小路 II 遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第9集
⑧	Iw-117	大館町	盛岡市教育委員会 1981 『大館遺跡群一昭和55年度発掘調査概報一』 盛岡市教育委員会 1982 『大館遺跡群一 大新町遺跡・大館町遺跡 昭和56年度発掘調査概報一』
④	Iw-119	天沼 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書 盛岡市繫 I・II・IV遺跡 雫石町熊野橋・広瀬 I・兎野・天沼・戸沢館遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第27集
④	Iw-120	南の又	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1980 『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書 盛岡市つなぎⅢ・つなぎⅣ・上野・南の又・堂ヶ沢 I・II 遺跡 雫石町広瀬 II 遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第13集
④	Iw-121	繫	盛岡市教育委員会 1996 『繫遺跡一平成7年度発掘調査概報一』
④	Iw-122	猪去館	盛岡市教育委員会 1989 『上平遺跡群 猪去館遺跡一昭和63年度発掘調査概報一』

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
④	Iw-123	館	盛岡市教育委員会 1992 『館・松ノ木遺跡—古代の遺構編—』 盛岡市教育委員会 1999 『館・松ノ木遺跡—古代の遺物編—』
④	Iw-124	志波城跡 (太田方八丁)	岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XⅢ』岩手 県文化財調査報告書第68集
④	Iw-125	大宮北	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『大宮北・本宮熊堂A遺跡発掘 調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第281集
④	Iw-126	鬼柳A	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A 遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第308集
④	Iw-127	稲荷	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『岩手県埋蔵文化財発掘調査 略報(平成15年度)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第455集
④	Iw-128	本宮熊堂B	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調 査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第226集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『本宮熊堂B遺跡第5次・台太 郎遺跡第16次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第293集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A 遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第308集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『熊堂B遺跡第10次発掘調査報 告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第377集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 『本宮熊堂B遺跡第18次発掘調 査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第458集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『本宮熊堂B遺跡第24次・本宮熊 堂B遺跡第25次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第470 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『本宮熊堂B遺跡第27次発掘調 査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第487集
④	Iw-129	野古A	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『野古A遺跡第12次発掘調査報 告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第420集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『野古A遺跡第15次発掘調査報 告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第421集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『野古A遺跡第23・24・29次発掘 調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第501集
④	Iw-130	飯岡沢田	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『飯岡沢田遺跡第5次発掘調査 報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第419集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『飯岡沢田遺跡第3次発掘調査 報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第418集
④	Iw-131	飯岡才川	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『飯岡才川遺跡第8・9次発掘調 査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第494集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『飯岡才川遺跡第7・13次・細谷 地遺跡第12次・矢盛遺跡第9次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調 査報告書第508集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『飯岡才川遺跡第12次発掘調 査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第515集
④	Iw-132	台太郎	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『台太郎遺跡第15次発掘調査 報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『向中野館跡第4次・小幅遺跡 第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調 査報告書第321集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『台太郎遺跡第23次発掘調査 報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『台太郎遺跡第26次発掘調査 報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『台太郎遺跡第54次発掘調査 報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第486集
④	Iw-133	向中野館	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『向中野館跡第4次・小幅遺跡 第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調 査報告書第321集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『向中野館遺跡第7・8次発掘調 査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第504集
④	Iw-134	細谷地	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『細谷地遺跡発掘調査報告書 —第4・5次調査—』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『細谷地遺跡第8次発掘調査報 告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第454集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『細谷地遺跡第9次・第10次発 掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第500集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『細谷地遺跡第13次・第14次発 掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第513集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
④	Iw-134	細谷地	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『細谷地遺跡第15次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第514集
④	Iw-135	二又	盛岡市教育委員会 2005 『盛岡市内遺跡群—平成15年度・16年度発掘調査報告—』
④	Iw-136	飯岡林崎Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『飯岡林崎Ⅱ遺跡発掘調査報告書(第1・3次調査)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第427集
④	Iw-137	オミ坂	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『オミ坂遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第289集
④	Iw-138	百目木	都南村教育委員会 1979 『百目木遺跡—発掘調査報告書—』
④	Iw-139	小屋塚	盛岡市教育委員会 1995 『小屋塚遺跡—第1～27次発掘調査報告—』
④	Iw-140	前野	盛岡市教育委員会 1999 『前野遺跡—浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ—』
④	Iw-141	上八木田Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集
④	Iw-142	上八木田Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『上八木田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第194集
④	Iw-143	上八木田Ⅲ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第177集
④	Iw-144	上八木田Ⅳ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第177集
④	Iw-145	町田	盛岡市教育委員会 2000 『盛岡市内遺跡群—平成11年度調査概報—』
④	Iw-146	乙部方八丁	盛岡市教育委員会 1998 『乙部遺跡群 乙部方八丁遺跡—平成6・7・9年度発掘調査概報—』
④	Iw-147	常光坊	矢巾町教育委員会 1996 『常光坊遺跡』矢巾町文化財報告書第17集
④	Iw-148	高水寺	矢巾町教育委員会 2001 『高水寺遺跡 第4次・第5次』矢巾町文化財報告書第29集
④	Iw-149	杉ノ上Ⅲ	岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』岩手県文化財調査報告書第35集
④	Iw-150	栗田Ⅰ・Ⅱ	岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』岩手県文化財調査報告書第69集
④	Iw-151	比爪館	紫波町教育委員会 1992 『比爪館 第9・10次発掘調査報告書』紫波町文化財報告書第24集 紫波町教育委員会 2013 『比爪館跡 第30次発掘調査報告書』紫波町埋蔵文化財調査報告書2012
④	Iw-152	犬淵谷地田Ⅲ	紫波町教育委員会 1993 『犬淵谷地田Ⅲ遺跡』昭和63年度県営ほ場整備事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書
④	Iw-153	西田	岩手県教育委員会 1980 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ(西田遺跡)』岩手県文化財調査報告書第51集
④	Iw-154	西田東	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『西田東遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第221集
③	Iw-155	白幡林	石鳥谷町教育委員会 1996 『白幡林遺跡発掘調査報告書—平成7年度—』
③	Iw-156	島岡Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『島岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第407集
③	Iw-157	貝の淵Ⅰ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『貝の淵Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第428集
③	Iw-158	大明神	岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』岩手県文化財調査報告書第34集
③	Iw-159	稲荷	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『稲荷遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第408集
③	Iw-160	中村	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『平成18年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第505集
③	Iw-161	庫理	花巻市教育委員会 2000 『庫理遺跡発掘調査報告書』花巻市埋蔵文化財調査報告書第24集
③	Iw-162	上台Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『上台Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第459集
③	Iw-163	高木中館	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『高木中館遺跡・下通遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第471集
③	Iw-164	桜町Ⅰ(旧桜町)	花巻市教育委員会 1995 『平成6年度 花巻市内遺跡発掘調査報告書(中野C遺跡・久田野Ⅱ遺跡・桜町遺跡)』花巻市埋蔵文化財調査報告書第13集
③	Iw-165	不動Ⅱ	花巻市教育委員会 2003 『不動Ⅱ遺跡第5次発掘調査報告書』花巻市埋蔵文化財調査報告書第30集
③	Iw-166	古館Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『古館Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第103集
③	Iw-167	法領	花巻市教育委員会 1992 『花巻遺跡群—平成3年度発掘調査概報—(熊堂古墳群、法領遺跡、諏訪Ⅰ遺跡)』
②	Iw-168	羽黒田	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010 『羽黒田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第548集
②	Iw-169	清水屋敷Ⅱ	東和町教育委員会 2005 『清水屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書—平安編—』東和町文化財調査報告書第35集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
②	Iw-170	高野畑	東和町教育委員会 1997 『高野畑遺跡発掘調査報告書』東和町文化財調査報告書第16集
②	Iw-171	森下	北上市教育委員会 2002 『森下遺跡(2001年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第50集
②	Iw-172	唐戸崎	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『唐戸崎・唐戸崎Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第279集 北上市教育委員会 1998 『唐戸崎遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第35集
②	Iw-173	向	北上市教育委員会 2002 『向遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第52集
②	Iw-174	築館	北上市教育委員会 2007 『築館遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第85集
②	Iw-175	堰向Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 『西川目・堰向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第464集
②	Iw-176	西川目	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 『西川目・堰向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第464集 北上市教育委員会 2006 『西川目遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第75集
②	Iw-178	八天	北上市教育委員会 1979 『八天遺跡』本文編 北上市文化財調査報告第27集
②	Iw-179	金成	北上市教育委員会 1995 『金成遺跡(Ⅰ)(1992・93年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第17集
②	Iw-179	金成	北上市教育委員会 1999 『金成遺跡(Ⅲ)』北上市埋蔵文化財調査報告第39集
②	Iw-180	横町	北上市教育委員会 1999 『横町遺跡(古代・中世編)』北上市埋蔵文化財調査報告第38集
②	Iw-181	牡丹畑 (旧 上川岸Ⅱ)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集
②	Iw-182	藤沢	岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ(北上地区)』岩手県文化財調査報告書第72集 北上市教育委員会 1989 『藤沢遺跡(1988年度)』北上市文化財調査報告第54集 北上市教育委員会 1990 『藤沢遺跡(Ⅱ)(1989年度)』北上市文化財調査報告第58集 北上市教育委員会 1993 『藤沢遺跡Ⅲ(1989年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第13集 北上市教育委員会 1999 『藤沢遺跡Ⅴ(1997・98年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第37集
②	Iw-183	鳩岡崎上の台	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『鳩岡崎上の台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第240集
②	Iw-184	江釣子和田野 (旧 和田野)	江釣子村教育委員会 1990 『江釣子遺跡群一平成元年度発掘調査報告一(和田野遺跡・五条丸古墳群)』
②	Iw-185	下江釣子羽場	北上市教育委員会 2003 『下江釣子羽場遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第59集
②	Iw-186	本宿羽場	江釣子村教育委員会 1981 『江釣子遺跡群一昭和55年度発掘調査報告一』 北上市教育委員会 1995 『北上遺跡群(1993・94年度)』蛭川館・本宿羽場』北上市埋蔵文化財調査報告第19集
②	Iw-187	江釣子古墳群猫谷地支群	江釣子村教育委員会 1981 『江釣子遺跡群一昭和55年度発掘調査報告一』 岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅵ(猫谷地遺跡)』岩手県文化財調査報告書第71集
②	Iw-188	八幡	江釣子村教育委員会 1984 『江釣子遺跡群 昭和58年度発掘調査報告 八幡遺跡』 北上市教育委員会 2009 『八幡遺跡(2006・2007年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第98集
②	Iw-189	高橋	江釣子村教育委員会 1981 『岩手県江釣子村高橋遺跡』
②	Iw-190	蛭川	北上市教育委員会 2002 『蛭川遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第51集
②	Iw-191	蟹沢館	北上市教育委員会 1993 『蟹沢館遺跡発掘調査概報』北上市埋蔵文化財調査報告第14集
②	Iw-192	八幡野Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『八幡野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第183集
②	Iw-193	本郷野 (旧 本郷)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『本郷遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第164集
②	Iw-194	煤孫	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『煤孫遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第196集
②	Iw-195	兵庫館跡	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『兵庫館跡・梅ノ木台Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第180集
②	Iw-196	梅ノ木台Ⅱ	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『兵庫館跡・梅ノ木台Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第180集
②	Iw-197	岩崎台地遺跡群	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第176集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第214集
②	Iw-198	六軒 (旧 上鬼柳Ⅱ・同Ⅲ・同Ⅳ)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『上鬼柳Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第160集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第161集

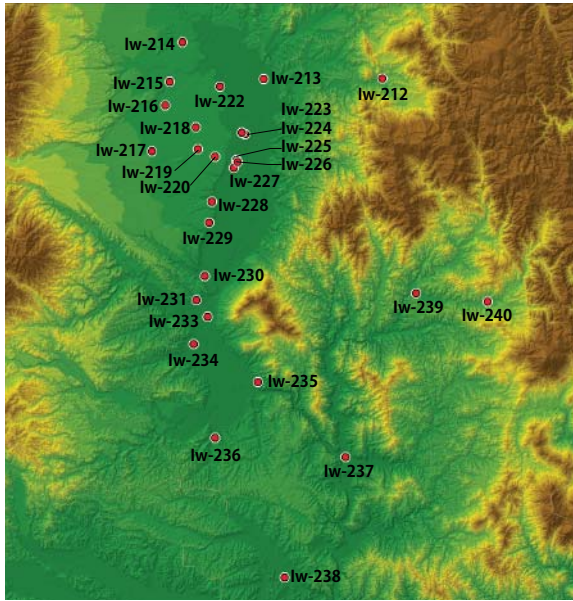
地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
②	Iw-199	柳上	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳上遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第213集
②	Iw-200	鹿島館	北上市教育委員会 1975 『鹿島館遺跡調査報告書Ⅰ』北上市文化財調査報告第14集
②	Iw-201	卯ノ木	北上市教育委員会 1975 『卯ノ木遺跡発掘調査報告書』北上市文化財調査報告第13集 北上市教育委員会 2007 『卯ノ木遺跡(2005・2006年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第89集
②	Iw-203	成沢	岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ(北上地区)』岩手県文化財調査報告書第72集
②	Iw-204	成沢Ⅱ	北上市教育委員会 1998 『成沢Ⅱ遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第32集
②	Iw-205	比久尼沢	北上市教育委員会 1984 『比久尼沢遺跡』北上市文化財調査報告第36集
②	Iw-206	滝ノ沢	北上市教育委員会 2003 『滝ノ沢遺跡Ⅵ』北上市埋蔵文化財調査報告第56集
②	Iw-207	大堤	北上市教育委員会 2000 『大堤遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第42集
②	Iw-208	南部工業団地内 (旧 高前壇Ⅱ)	北上市教育委員会 1993 『南部工業団地内遺跡Ⅰ(1998・1999年度)』(第1分冊 本文・実測図版)(第2分冊 写真図版)北上市埋蔵文化財調査報告第9集
		南部工業団地内	北上市教育委員会 1997 『南部工業団地内遺跡Ⅲ』北上市埋蔵文化財調査報告第27集
②	Iw-209	上大谷地	岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ(北上地区)』岩手県文化財調査報告書第72集 北上市教育委員会 1990 『上大谷地遺跡(1989年度)』北上市文化財調査報告第57集 北上市教育委員会 1997 『北上遺跡群(1996年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第29集
②	Iw-210	西野	岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』岩手県文化財調査報告書第34集
②	Iw-211	国見山廃寺	北上市教育委員会 1989 『国見山廃寺跡発掘調査概報(1988年度)』北上市文化財調査報告第52集
①	Iw-212	久田	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『久田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第406集
①	Iw-213	下惣田	岩手県教育委員会 1993 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成4年度)』岩手県文化財調査報告書第93集
①	Iw-214	上餅田	岩手県教育委員会 1981 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅹ(金ヶ崎地区)』岩手県文化財調査報告書第59集
①	Iw-215	館山	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『館山遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第65集
①	Iw-216	中半入	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『中半入遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第443集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005 『中半入遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第465集
①	Iw-217	尼坂	胆沢町教育委員会 1992 『尼坂遺跡第二次緊急発掘調査報告書』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第22集 胆沢町教育委員会 1993 『尼坂遺跡第三次(東)緊急発掘調査報告書』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第23集
①	Iw-218	寺領	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『石田Ⅱ・寺領・西光田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第130集
①	Iw-219	袖谷地Ⅰ (旧 袖谷地)	岩手県教育委員会 1981 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書ⅩⅠ(水沢地区)』岩手県文化財調査報告書第60集
①	Iw-220	龍ヶ馬場	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『龍ヶ馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第243集
①	Iw-222	伯濟寺	水沢市教育委員会 2002 『水沢遺跡群範囲確認調査 平成13年度発掘調査概報』水沢市文化財報告書第36集 水沢市教育委員会 2004 『水沢遺跡群範囲確認調査 平成14年度発掘調査概報』水沢市文化財報告書第37集
①	Iw-223	跡呂井	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『杉の堂遺跡第31次調査・跡呂井遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第473集
①	Iw-224	杉の堂	水沢市教育委員会 1998 『水沢遺跡群範囲確認調査 平成9年度発掘調査概報』水沢市文化財報告書第32集 水沢市教育委員会 2001 『水沢遺跡群範囲確認調査 平成12年度発掘調査概報』水沢市文化財報告書第35集
①	Iw-225	林前Ⅰ・Ⅱ (旧 林前)	水沢市教育委員会 1979 『林前遺跡』水沢市文化財報告書第3集
①	Iw-226	林前南館跡	水沢市教育委員会 2002 『水沢遺跡群範囲確認調査 平成13年度発掘調査概報』水沢市文化財報告書第36集 (財)水沢市文化振興財団水沢市埋蔵文化財調査センター 2003 『林前南館跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第16集 水沢市教育委員会 2005 『水沢遺跡群範囲確認調査—平成15年度発掘調査概報—』岩手県水沢市文化財報告書第38集
①	Iw-227	北野Ⅳ	岩手県教育委員会 1996 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成7年度)』岩手県文化財調査報告書第98集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
①	Iw-228	明後沢遺跡群	前沢町教育委員会 2005 『明後沢遺跡群第7・10・15次発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第18集
①	Iw-229	古城上野	前沢町教育委員会 2005 『古城上野遺跡第1次発掘調査報告書』岩手県前沢町文化財調査報告書第17集
①	Iw-230	大桜	岩手県教育委員会 1994 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成5年度)』岩手県文化財調査報告書第95集
①	Iw-231	瀬原 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『瀬原 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第257集
①	Iw-233	本町 II	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『本町 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第410集
①	Iw-234	志羅山	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『志羅山遺跡発掘調査報告書(第47・56・67・73・80次調査)』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第352集
①	Iw-235	清水	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『清水遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第382集
①	Iw-236	機織山 II	岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書 I』岩手県文化財調査報告書第33集
①	Iw-237	河崎の柵擬定地	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『河崎の柵擬定地発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集
①	Iw-238	五輪堂	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『五輪堂遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第447集
①	Iw-239	下洪民	大東町教育委員会 1998 『下洪民遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』大東町文化財調査報告書第19集
①	Iw-240	大明神 II	大東町教育委員会 1998 『大明神 II (第3次)遺跡発掘調査報告書』大東町文化財調査報告書第20集
⑭	Iw-241	高瀬 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『高瀬 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第155集
⑭	Iw-242	金浜 I	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010 『金浜 I・II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第553集
㉓a	Ak-001	丑森	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書 X II』秋田県文化財調査報告書第120集
㉓a	Ak-002	白長根館 I	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書 X II』秋田県文化財調査報告書第120集
㉓a	Ak-003	はりま館	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書 X』秋田県文化財調査報告書第109集 秋田県教育委員会 1990 『はりま館遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第192集
㉓a	Ak-004	大湯環状列石	鹿角市教育委員会 1990 『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(6)』鹿角市文化財調査資料38 鹿角市教育委員会 1993 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(9)』鹿角市文化財調査資料45 鹿角市教育委員会 1994 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(10)』鹿角市文化財調査資料49 鹿角市教育委員会 1997 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(13)』鹿角市文化財調査資料58 鹿角市教育委員会 2003 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(19)』鹿角市文化財調査資料72 鹿角市教育委員会 2007 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(23)』鹿角市文化財調査資料87
㉓a	Ak-005	物見坂 III	秋田県教育委員会 2003 『物見坂 III 遺跡』秋田県文化財調査報告書第354集
㉓a	Ak-006	物見坂 II	鹿角市教育委員会 2005 『物見坂 III 遺跡・物見坂 II 遺跡(1)』鹿角市文化財調査資料79
㉓a	Ak-007	鹿角沢 II	鹿角市教育委員会 2007 『鹿角沢 II 遺跡』鹿角市文化財調査資料88
㉓a	Ak-008	鳥野	秋田県教育委員会 1978 『鳥野遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第49集
㉓a	Ak-009	源田平	秋田県教育委員会 1978 『鳥野遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第49集
㉓a	Ak-010	小枝指館跡	鹿角市教育委員会 1992 『小枝指館跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料44
㉓a	Ak-011	小平	鹿角市教育委員会 1979 『小平遺跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料10
㉓a	Ak-012	高市向館跡	鹿角市教育委員会 1982 『高市向館跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料22
㉓a	Ak-013	太田谷地館跡	秋田県教育委員会 1989 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 V』秋田県文化財調査報告書第183集
㉓a	Ak-014	高屋館跡	秋田県教育委員会 1990 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 VI』秋田県文化財調査報告書第198集
㉓a	Ak-015	下乳牛	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書 X I』秋田県文化財調査報告書第119集
㉓a	Ak-016	柴内館跡	秋田県教育委員会 2003 『柴内館跡』秋田県文化財調査報告書第355集
㉓a	Ak-017	妻ノ神館跡 (旧妻ノ神 I)	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書 VIII』秋田県文化財調査報告書第107集

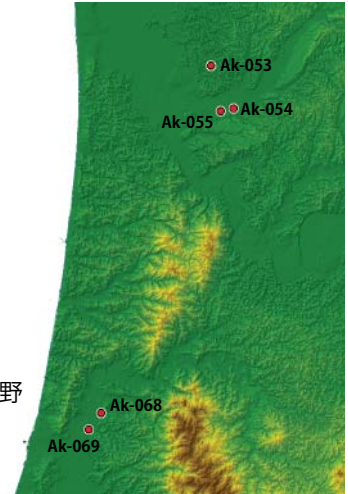
地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
㉓a	Ak-017	妻ノ神館跡 (旧妻ノ神Ⅰ)	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書ⅩⅠ』秋田県文化財調査報告書第119集
㉓a	Ak-018	用野目川向Ⅲ	秋田県教育委員会 1989 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』秋田県文化財調査報告書第182集
㉓a	Ak-019	天戸森	鹿角市教育委員会 1984 『天戸森遺跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料26
㉓a	Ak-020	堪忍沢	秋田県教育委員会 1987 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第152集
㉓a	Ak-021	御休堂	鹿角市教育委員会 1981 『御休堂遺跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料19
㉓a	Ak-022	花輪古館跡	鹿角市教育委員会 1994 『花輪古館跡発掘調査報告書』鹿角市文化財調査資料51
㉓a	Ak-023	案内Ⅲ	秋田県教育委員会 1983 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅵ』秋田県文化財調査報告書第99集
㉓a	Ak-024	案内Ⅳ	秋田県教育委員会 1984 『県道田山・花輪線関係遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第115集
㉓a	Ak-025	案内Ⅴ	秋田県教育委員会 1984 『県道田山・花輪線関係遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第115集
㉓a	Ak-026	案内Ⅰ	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書ⅩⅠ』秋田県文化財調査報告書第119集
㉓a	Ak-027	赤坂A	鹿角市教育委員会 1994 『赤坂A遺跡』鹿角市文化財調査資料50 鹿角市教育委員会 1995 『赤坂A遺跡(2)』鹿角市文化財調査資料53
㉓a	Ak-028	赤坂B	鹿角市教育委員会 1993 『赤坂B遺跡』鹿角市文化財調査資料48
㉓a	Ak-029	中の崎	秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅶ』秋田県文化財調査報告書第106集
㉓a	Ak-030	一本杉	秋田県教育委員会 1983 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅵ』秋田県文化財調査報告書第99集
㉓a	Ak-031	上葛岡Ⅳ	秋田県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅴ』秋田県文化財調査報告書第91集
㉓a	Ak-032	玉内	秋田県教育委員会 1988 『玉内遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第171集
㉓a	Ak-033	駒林	秋田県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅴ』秋田県文化財調査報告書第91集
㉓a	Ak-034	北の林Ⅱ	秋田県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅳ』秋田県文化財調査報告書第90集
㉓b	Ak-035	野崎	秋田県教育委員会 2008 『野崎遺跡』秋田県文化財調査報告書第429集
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	秋田県教育委員会 2009 『坂下Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第444集
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	秋田県教育委員会 2005 『狼穴Ⅳ遺跡』秋田県文化財調査報告書第391集
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	秋田県教育委員会 2008 『釈迦内中台Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第426集
㉓b	Ak-039	諏訪台C	秋田県教育委員会 1990 『諏訪台C遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第196集
㉓b	Ak-040	塚の下	秋田県教育委員会 1979 『塚の下遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第61集
㉓b	Ak-041	餌釣館跡(山王台)	大館市教育委員会 1990 『山王台遺跡発掘調査報告書』
		餌釣館跡(山王岱)	秋田県教育委員会 1992 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』秋田県文化財調査報告書第221集
㉓b	Ak-042	上野	秋田県教育委員会 1992 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ』秋田県文化財調査報告書第222集
㉓b	Ak-043	池内	秋田県教育委員会 1997 『池内遺跡—遺構編—』秋田県文化財調査報告書第268集
㉓b	Ak-044	袖ノ沢	秋田県教育委員会 1988 『味噌内地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—袖ノ沢遺跡・横沢遺跡—』秋田県文化財調査報告書第169集
㉓c	Ak-045	胡桃館埋没建物	秋田県教育委員会 1968 『胡桃館埋没建物発掘調査概報』秋田県文化財調査報告書第14集 秋田県教育委員会 1970 『胡桃館埋没建物遺跡第3次発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第22集
		地蔵岱	秋田県教育委員会 2008 『地蔵岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第434集
㉑	Ak-047	鴨巢Ⅰ・Ⅱ	秋田県教育委員会 2007 『鴨巢館跡・鴨巢Ⅰ遺跡・鴨巢Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第422集
㉑	Ak-048	上の山Ⅱ	秋田県教育委員会 1984 『此掛沢Ⅱ・上の山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第114集 秋田県教育委員会 1986 『上の山Ⅱ遺跡第2次発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第137集
		此掛沢Ⅱ	秋田県教育委員会 1984 『此掛沢Ⅱ・上の山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第114集
㉑	Ak-050	十二林	秋田県教育委員会 1989 『一般国道7号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』秋田県文化財調査報告書第178集
㉑	Ak-051	福田	秋田県教育委員会 1989 『一般国道7号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』秋田県文化財調査報告書第178集
㉑	Ak-052	土井	秋田県教育委員会 1984 『土井遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第111集
㉑	Ak-054	川辺松木台Ⅲ	秋田県教育委員会 2001 『松木台Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第326集

地域No.	遺跡No.	遺跡名	出典
⑦	Ak-055	戸島上野 I	秋田県教育委員会 2000 『上野遺跡』秋田県文化財調査報告書第295集
⑥	Ak-056	払田柵跡	秋田県教育委員会 1992 『払田柵跡—第88～91次調査概要—』秋田県文化財調査報告書第225集 払田柵跡調査事務所年報1991 秋田県教育委員会 1994 『払田柵跡—第98～101次調査概要—』秋田県文化財調査報告書第258集 払田柵跡調査事務所年報1994
⑥	Ak-056	払田柵跡	秋田県教育委員会 1996 『払田柵跡—第103～106次調査概要—』秋田県文化財調査報告書第266集 払田柵跡調査事務所年報1995 秋田県教育委員会 1999 『払田柵跡Ⅱ—区画施設—』秋田県文化財調査報告書第289集 秋田県教育委員会 2000 『払田柵跡 第115・116次調査概要』秋田県文化財調査報告書第307集 払田柵跡調査事務所年報1999 秋田県教育委員会 2002 『払田柵跡 第119・120次調査概要』秋田県文化財調査報告書第343集 払田柵跡調査事務所年報2001 秋田県教育委員会 2003 『払田柵跡 第121次調査概要』秋田県文化財調査報告書第364集 払田柵跡調査事務所年報2002 秋田県教育委員会 2004 『払田柵跡 第122～124次調査概要』秋田県文化財調査報告書第379集 払田柵跡調査事務所年報2003 秋田県教育委員会 2009 『払田柵跡 第137・138次調査概要』秋田県文化財調査報告書第447集 払田柵跡調査事務所年報2008
⑥	Ak-057	中屋敷Ⅱ	秋田県教育委員会 2005 『中屋敷Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第384集
⑥	Ak-058	十二牲B	秋田県教育委員会 2000 『十二牲B遺跡』秋田県文化財調査報告書第304集
⑥	Ak-059	姥ヶ沢窯跡	秋田県教育委員会 2001 『姥ヶ沢窯跡』秋田県文化財調査報告書第327集
⑥	Ak-060	大沼沢A	横手市教育委員会 2006 『大沼沢A遺跡』横手市文化財調査報告第4集
⑥	Ak-061	郷土館窯跡	横手市教育委員会 1999 『郷土館窯跡第3次』横手市埋蔵文化財調査報告16
⑥	Ak-062	田久保下	秋田県教育委員会 1992 『秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第220集
⑥	Ak-063	下田	秋田県教育委員会 1990 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅳ』秋田県文化財調査報告書第189集
⑥	Ak-064	江原嶋1	秋田県教育委員会 2001 『江原嶋1遺跡』秋田県文化財調査報告書第310集
⑥	Ak-065	会塚田中B	横手市教育委員会 2007 『会塚田中B遺跡』横手市文化財調査報告第7集
⑥	Ak-066	正願谷地	横手市教育委員会 2006 『正願谷地遺跡 下作の瀬遺跡』横手市文化財調査報告第6集
⑥	Ak-067	平鹿	秋田県教育委員会 1983 『平鹿遺跡』秋田県文化財調査報告書第101集
⑤	Ak-068	大坪	秋田県教育委員会 2004 『大坪遺跡』秋田県文化財調査報告書第375集
⑤	Ak-069	横山	秋田県教育委員会 2003 『横山遺跡』秋田県文化財調査報告書第363集
㉓b	Ak-070	道目木	板橋範芳2000「道目木遺跡埋没家屋調査概報」『火内 大館郷土博物館研究紀要』創刊号、28～46頁

①胆沢平野以南

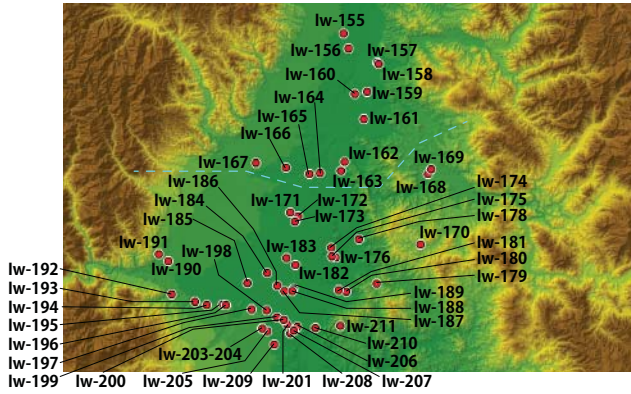


⑦秋田平野

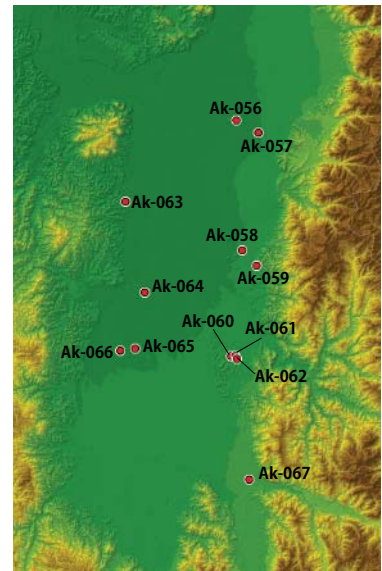


⑤本荘平野

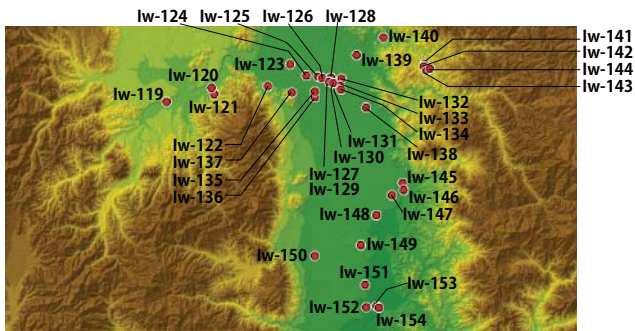
②和賀地域 ③稗貫地域



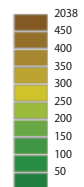
⑥横手盆地周辺



④紫波地域



基準地図情報
10mメッシュ



10 km

図5 分析対象遺跡の位置 (①~⑦地域)

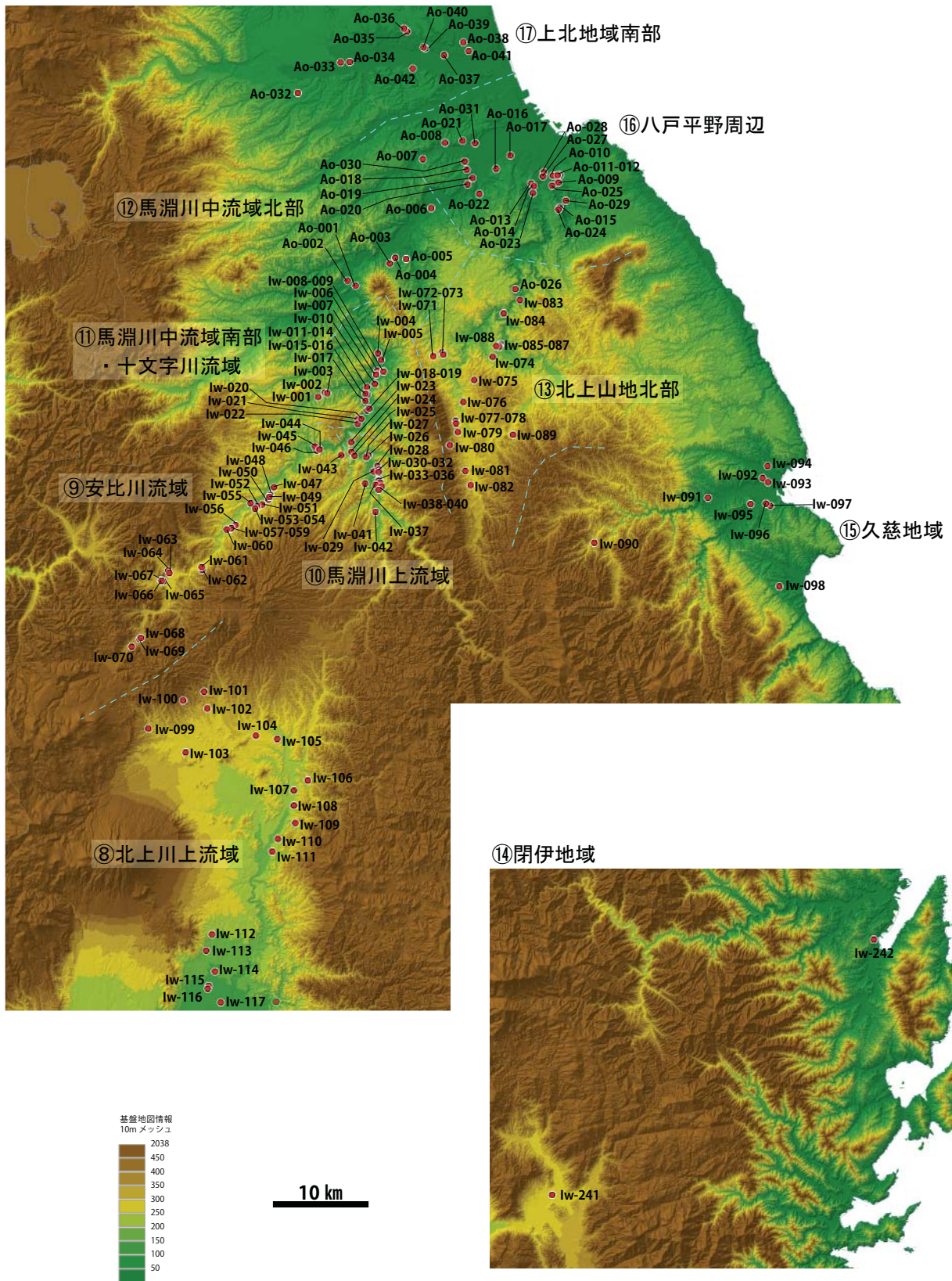


図6 分析対象遺跡の位置 (⑧～⑰地域)

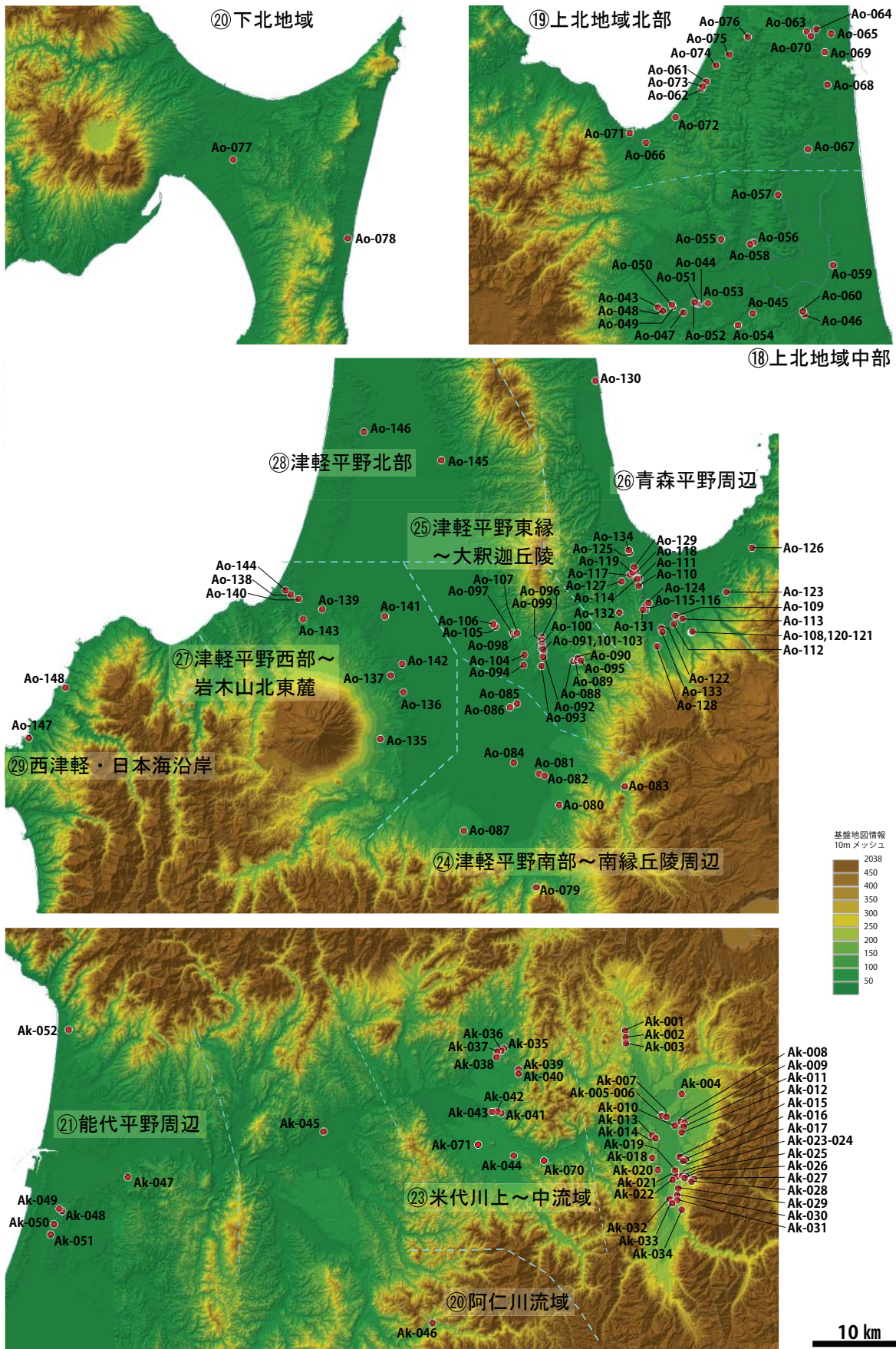


図7 分析対象遺跡の位置 (㉑～㉚地域)

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																											
			分析					覆土					構築土																																					
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設	自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考																									
上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤	備考																																							
Ao-017	根城跡岡前館第7地点	S158堅穴住居跡	●	●												2-1																				該当なし														
Ao-017	根城跡東構地区	S175堅穴住居跡	●														1																				該当なし													
Ao-017	根城跡東構地区	S191堅穴住居跡	●														1																					S192住に切られる。												
Ao-017	根城跡東構地区	S192堅穴住居跡	●														1																					S191住を切る。												
Ao-017	根城跡東構地区	S194堅穴住居跡	●	●													1																						1a-2		I期									
Ao-017	根城跡東構地区	S197堅穴住居跡	●	●													1																						1a-2		I期									
Ao-017	根城跡東構地区	S110堅穴住居跡	●														1																						S111・S112に切られる。											
Ao-017	根城跡東構地区	S112堅穴住居跡	●														1																							該当なし										
Ao-017	根城跡東構地区	S115堅穴住居跡	●														1																								該当なし									
Ao-017	根城跡東構地区	S116堅穴住居跡	●														1																									該当なし								
Ao-017	根城跡東構地区	S126堅穴住居跡	●	●													1																									1a-2		I期						
Ao-017	根城跡東構地区	S1320堅穴住居跡		●																																						該当なし								
Ao-017	根城跡岡前館第9地点	S1162堅穴住居跡	●	●													1							4																		4		堆積層未記載。図も無し。 堆積層未記載。図も無し。						
Ao-017	根城跡岡前館第19地点	S1302堅穴住居跡	●	●																																								S1301に切られる。		1a-2		I期		
Ao-017	根城跡岡前館第19地点	S1305堅穴住居跡	●																																										該当なし					
Ao-017	根城跡岡前館第23地点	S1311堅穴遺構	●	●													2																														1a-1+3c-1		I期	
Ao-017	根城跡岡前館第24地点	S148住居跡	●																																											該当なし				
Ao-017	根城跡岡前館第24地点	S1322住居跡	●														2																															1a-1		I期

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考
			分析					覆土					構築土		備考									
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部		付属施設			自然・人為	備考		堅穴部		付属施設						
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体				外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド					
Ao-018	岩ノ沢平	A区第19号堅穴住居跡	●					3								1		該当なし		故意の焼失と指摘。				
Ao-018	岩ノ沢平	A区第22号堅穴住居跡	●					1					1					1a-1+3c-1	I期					
				●				3																
Ao-018	岩ノ沢平	A区第23号堅穴住居跡		●				1						層厚22cm。				3c-1	IV期以前					
Ao-018	岩ノ沢平	A区第24号堅穴住居跡	●					2				2→1	テフラ混入層は自然堆積。					1a-1	I期					
Ao-018	岩ノ沢平	A区第25号堅穴住居跡		●				3		4			2	底には付属ピットのみ。			第71号・第72号住を切る。	4-3	V期以降					
Ao-018	岩ノ沢平	A区第31号堅穴住居跡		●				3					1											
Ao-018	岩ノ沢平	A区第34号堅穴住居跡		●				3					1											
Ao-018	岩ノ沢平	A区第43号堅穴住居跡	●					3					1											
Ao-018	岩ノ沢平	A区第44号堅穴住居跡	●					4	1				1	層厚10cm。			第45号・第73号住を切る。	2-3+3c-1	Ⅲ～IV期	堆積土から周堤の存在推定。				
Ao-018	岩ノ沢平	A区第45号堅穴住居跡		●												本遺構を切る第44号住中に層堆積。	第44号住に切られる。	3c-1	IV期以前	第44号住構築時にはすでに埋没していたと推定。				
Ao-018	岩ノ沢平	A区第46号堅穴住居跡		●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1					1					3c-1(To-a以降)	IV期					
Ao-018	岩ノ沢平	A区第50号堅穴住居跡		●				4					1											
Ao-018	岩ノ沢平	A区第51号堅穴住居跡		●				4	4				1						1					
Ao-018	岩ノ沢平	A区第54号堅穴住居跡		●						3			2→1	テフラ混入層は自然堆積。						4-3	V期以降			
Ao-018	岩ノ沢平	A区第56号堅穴住居跡	●					3					1								該当なし			
Ao-018	岩ノ沢平	A区第59号堅穴住居跡		●									1				第72号住を切る第29位の床a～中位に堆積。	第72号住を切る。			該当なし			
Ao-018	岩ノ沢平	A区第60号堅穴住居跡		●				4	4	4				ほぼ単層。							該当なし			
Ao-018	岩ノ沢平	A区第62号堅穴住居跡		●							4			単層。第63号住からの流れ込みと推定。							第63号住に切られる。	4-3	V期以降	
Ao-018	岩ノ沢平	A区第63号堅穴住居跡		●				1					1									第62号住を切る。	3c-1	IV期以前

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況															備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考									
			分析					覆土						構築土					備考																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設		自然・人為	備考	竪穴部				付属施設		不明															
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤																	
Ao-018	岩ノ沢平	A区第65号竪穴住居跡	●											2											本遺構を切る土坑の覆土上位に堆積。	第69号住に切られる。	3c-1	IV期以前									
Ao-018	岩ノ沢平	A区第69号竪穴住居跡	●																						第65号住を切る土坑の覆土上位に堆積。	第65号住を切る。	重複	IV期以前									
Ao-018	岩ノ沢平	A区第71号竪穴住居跡	●																						第25住床a～中位に堆積。	第25号・第72号住に切られる。	重複	V期以前※第72号住より古									
Ao-018	岩ノ沢平	A区第72号竪穴住居跡	●																						第25住床a～中位に堆積。	第25号・第59号住に切られ、第71号住を切る。	重複	V期以前※第71号住より新									
Ao-018	岩ノ沢平	A区第73号竪穴住居跡	●																						第44号住からの流れ込みと推定。	第44号住に切られる。	重複	Ⅲ期以前									
Ao-018	岩ノ沢平	B区第1号竪穴住居跡	●						4																				1	層厚3～5cm。	3c-1	IV期以前					
Ao-018	岩ノ沢平	B区第2号竪穴住居跡	●																											2	ほぼ単層。	5a-1	Ⅴ期以降				
Ao-018	岩ノ沢平	B区第3号竪穴住居跡	●																												3	単層。	4-3	V期以降			
Ao-018	岩ノ沢平	B区第4号竪穴住居跡	●																													2	層厚4cm。	3d-1	IV期		
Ao-018	岩ノ沢平	B区第5号竪穴住居跡	●																													3	ほぼ単層だが「上面に分布」とあり。カマド上位にも。	該当なし			
Ao-018	岩ノ沢平	B区第6号竪穴住居跡	●																													4	テフラ混入層は自然堆積。	該当なし			
Ao-018	岩ノ沢平	B区第7号竪穴住居跡	●																														3	新カマド上位にも。	該当なし		
Ao-018	岩ノ沢平	B区第11号竪穴住居跡	●																														1		3c-1	IV期以前	
Ao-018	岩ノ沢平	B区第12号竪穴住居跡	●																														3		該当なし		
Ao-018	岩ノ沢平	B区第13号竪穴住居跡	●																														4	カマドのみ。	3d-1	IV期	
Ao-018	岩ノ沢平	B区第14号竪穴住居跡	●																														3	三角埴積を除きほぼ単層だが「上位」とあり。	該当なし		
Ao-018	岩ノ沢平	B区第15号竪穴住居跡	●																														4		該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ														堆積層位・状況														焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析						覆土						構築土																								
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果		竪穴部				付属施設		自然・人為	備考	竪穴部			付属施設			不明	備考															
									上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤																	
Ao-018	岩ノ沢平	B区第77号竪穴住居跡	●												2														1		3c-1 (To-a以降)	IV期							
Ao-018	岩ノ沢平	B区第78号竪穴住居跡	●												3																	該当なし							
Ao-018	岩ノ沢平	第1号竪穴住居跡	●												4	4	3	3														5a-1	VI期以降						
Ao-018	岩ノ沢平	第3号竪穴住居跡	●												3																	1	該当なし						
Ao-018	岩ノ沢平	第6号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm									3																		該当なし						
Ao-018	岩ノ沢平	第7号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a									3																		該当なし						
Ao-018	岩ノ沢平	第8号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm									1																		3c-1	IV期以前					
Ao-018	岩ノ沢平	第9号竪穴住居跡	●																															底aにB-Tmが堆積する土坑を切る。 第6号土坑を切る。	VI期以降構築				
Ao-018	岩ノ沢平	第12号竪穴住居跡	●								3	3									1→2	テフラ混入層は人為堆積。												3a-1 (To-a以降)	IV期以降				
Ao-018	岩ノ沢平	第1号竪穴住居跡	●												2																			3c-1	IV期以前				
Ao-018	岩ノ沢平	第2号竪穴住居跡	●												2																			3c-1	IV期以前				
Ao-018	岩ノ沢平	第3号竪穴住居跡	●																																該当なし				
Ao-018	岩ノ沢平	第4号竪穴住居跡	●												3																				該当なし				
Ao-018	岩ノ沢平	第5号竪穴住居跡	●												4			3																	2	4-3	V期以降		
Ao-018	岩ノ沢平	第6号竪穴住居跡	●												2																				1	3c-1	IV期以前		
Ao-018	岩ノ沢平	第7号竪穴住居跡	●																																	第8号住を切る。	該当なし		
Ao-018	岩ノ沢平	第8号竪穴住居跡	●												4																					第7号住に切られる。	該当なし		
Ao-018	岩ノ沢平	第9号竪穴住居跡	●																																		該当なし		
Ao-018	岩ノ沢平	第10号竪穴住居跡	●												4																						1b-2	II期	
Ao-018	岩ノ沢平	第11号竪穴住居跡	●												4																						1b-2	II期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考									
			分析					覆土					構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				自然・人為	備考	堅穴部		付属施設								不明	備考							
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b			全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド								掘立柱建物	周堤					
Ao-047	太田野(2)	第9号竪穴住居跡	●					1						2→1	テフラ層は自然堆積。カマト底aにも4。								1			2-5?	Ⅲ期以前					
				●					2						2→1	テフラ層は自然堆積。								1								
Ao-047	太田野(2)	第10号竪穴住居跡	●					4	1					1	ビットにも4。													1a-1	Ⅰ期			
				●					2						1																	
Ao-047	太田野(2)	第11号竪穴住居跡	●					4	1	4				1															1a-1	Ⅰ期		
				●					3						1																	
Ao-047	太田野(2)	第12号竪穴住居跡	●					1	4					2→1	To-a層より下位は人為堆積。														2-5?	Ⅲ期以前		
				●					1						2→1																	
Ao-047	太田野(2)	第13号竪穴住居跡	●		柴	鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm, To-a	1						1															1a-1	Ⅰ期		
				●	柴	鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm	4							1																	
Ao-048	七戸城跡北東出丸矢館跡	第2号竪穴住居址	●		三辻	蛍光X線	To-a	4		4				1															2-3	Ⅲ期以降		
Ao-048	七戸城跡北東出丸矢館跡	第6号竪穴住居址	●		三辻	蛍光X線	To-a	1						1															第4号・第6号住に切られる。	1a-1	Ⅰ期	
Ao-048	七戸城跡北館	第42号竪穴住居跡	●					1						1	層厚30cm以上。図等詳細なく不明。														1a-1	Ⅰ期		
Ao-048	七戸城跡北館	第43号竪穴住居跡	●					1						1	層厚30cm以上。図等詳細なく不明。														1a-1	Ⅰ期		
Ao-048	七戸城跡北館	第61号竪穴住居跡	●					1						1	図等詳細なく不明。														1a-1	Ⅰ期		
Ao-048	七戸城跡北館	第64号竪穴住居跡	●							4				1																	該当なし	
Ao-048	七戸城跡北館	第65号竪穴住居跡	●					4						1																	該当なし	
Ao-048	七戸城跡北館	第67号竪穴住居跡	●									4		1															2-3	Ⅲ期以降		
Ao-048	七戸城跡北館	第68号竪穴住居跡	●							4				1																	該当なし	
Ao-048	七戸城跡北館	第53号竪穴住居跡	●											1									1	「覆いかぶっていた」と記載。						該当なし		
Ao-048	大池館	第1号竪穴住居跡	●					1						1	層厚13cm。														1a-1	Ⅰ期		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土						構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部			付属施設			自然・人為	備考	竪穴部		付属施設							不明	備考					
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤				
Ao-049	大池館	第2号竪穴住居跡	●					3	3	3				1	ピット、カマドにも。	1											3b-1	IV期以降構築			
Ao-049	大池館	第3号竪穴住居跡	●					3	3	3				1	ピット、カマドにも。	1												3b-1	IV期以降構築		
Ao-049	大池館	第4号竪穴住居跡	●					1	3	4				1	層厚8cm。ピット上～中位にも。												1a-1	I期			
Ao-049	大池館	第6号竪穴住居跡	●	●				3	1					1																	
Ao-049	大池館	第8号住居跡	●					1						1	層厚13cm。													1a-1	I期		
Ao-049	大池館	第8号住居跡	●					3	3	3				1														2-3	III期以降		
Ao-049	大池館	第9号住居跡	●					4							カマドのみ。														該当なし		
Ao-049	大池館	第10号住居跡	●					1						1												1	1a-1	I期			
Ao-049	大池館	第11号住居跡	●					3	3	3					ピットにも。											5	2-3	III期以降			
Ao-049	大池館	第12号住居跡	●					3	3						ピットにも。														該当なし		
Ao-049	大池館	第13号住居跡	●							3	3																	2-3	III期以降		
Ao-049	大池館	第14号住居跡	●					3	3	3				2	ピット、カマドにも。	1												3b-1	IV期以降構築		
Ao-049	大池館	第15号住居跡	●									2			単層中に堆積。											2	2-2	III期			
Ao-049	大池館	第17号住居跡	●					3						1															該当なし		
Ao-049	大池館	第19号住居跡	●					4																					該当なし		
Ao-050	倉越(2)	第1号竪穴住居跡	●					3	3	3	3			2	ピット・カマド上位にも。													3a-1	IV期以降		
Ao-050	倉越(2)	第2号竪穴住居跡	●					3	3	3	3				ピットにも。														2-3	III期以降	
Ao-050	倉越(2)	第3号竪穴住居跡	●		柴		館物組成、火山ガラス形態	To-a	3	3	3	3			カマドにも。														2-3	III期以降	
Ao-050	倉越(2)	第4号竪穴住居跡	●						3	3	3				底はピットのみ。											2	2-3	III期以降			
Ao-050	倉越(2)	第5号竪穴住居跡	●						3	3	3	3			構築時の掘削土(周堤等)が流入した可能性を指摘。ピットにも。													3a-1	IV期以降		
Ao-050	倉越(2)	第6号竪穴住居跡	●		柴		館物組成、火山ガラス形態・EPMA	To-a		3																6		3a-1	IV期以降		
			●						3	4																6					

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ													堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考		
			分析						覆土							構築土																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設			自然・人為	備考	堅穴部			付属施設			不明	備考								
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物			貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤											
Ao-050	倉越(2)	第7号堅穴住居跡		●						4	4	4	4														6		5a-1	VI期以降		
Ao-050	倉越(2)	第8号堅穴住居跡	●																										2-3	III期以降		
Ao-050	倉越(2)	第13号堅穴住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態	To-a																						該当なし		分析試料「カマド7a層」とあるが事実記載に照合はなく、カマド内にテフラ堆積の記述もなし。	
Ao-050	倉越(2)	第15号堅穴住居跡	●								3	3	3																2-3	III期以降		
Ao-050	倉越(2)	第16号堅穴住居跡	●								3	3	3			1													2-3	III期以降		
Ao-050	倉越(2)	第17号堅穴住居跡	●																										該当なし		個々の記載にテフラの特定なく、不明。	
Ao-050	倉越(2)	第9号住居跡	●							4	4	4	4			2→1													3a-1	IV期以降		
Ao-050	倉越(2)	第10号住居跡	●									4	4			2→1	テフラは人為堆積。カマド、ビットにも。	1												3b-1	IV期以降構築	
Ao-050	倉越(2)	第11号住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態・EPMA	To-a				1					1										1		1a-1	I期			
Ao-050	倉越(2)	第18号住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm, To-a			3	1					1													3b-1	IV期以降構築		
Ao-050	倉越(2)	第19号住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態	To-a, To-H			4	4	4	4			4													2-3	III期以降		
Ao-050	倉越(2)	第20号住居跡	●							4	4	4																	2-3	III期以降		
Ao-050	倉越(2)	第21号住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態	To-a			3	3	3	3			3													2-3	III期以降		
Ao-050	倉越(2)	第23号住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態	To-a					3																	5			
Ao-050	倉越(2)	第23号住居跡	●		柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm, To-a			4		3				4													5	4-3	V期以降	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析						覆土												構築土						
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設			自然・人為						備考	竪穴部			付属施設		
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物								貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤	
Ao-050	倉越(2)	第24号住居跡	●								3	3	3								5		2-3	Ⅲ期以降			
Ao-050	倉越(2)	第25号住居跡		●							4	4									6		2-3	Ⅲ期以降			
Ao-050	倉越(2)	第26号住居跡	●								1?	1									5		2-3	Ⅲ期以降			
Ao-050	倉越(2)	第26号住居跡		●							1?										1		1a-1	I期	B-Tmも層状堆積と本文にあるが、図と内容不整合で不明。		
Ao-050	倉越(2)	第27号住居跡	●								1										1		1a-1	I期			
Ao-050	倉越(2)	第27号住居跡		●							1										1		1a-1	I期			
Ao-050	倉越(2)	第28号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a					4	1									1		1a-1	I期			
Ao-050	倉越(2)	第28号住居跡		●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	B-Tm, To-a				1										1		1a-1	I期			
Ao-050	倉越(2)	第29号住居跡	●								3	3	3								1		該当なし				
Ao-050	倉越(2)	第30号住居跡	●								3												1a-2	I期			
Ao-050	倉越(2)	第30号住居跡		●							3																
Ao-050	倉越(2)	第31号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a					3	3	3	3		2							3a-1	Ⅳ期以降			
Ao-050	倉越(2)	第32号住居跡	●								4	4	4										2-3	Ⅲ期以降			
Ao-050	倉越(2)	第34号住居跡	●								1				1						1		1a-1	I期			
Ao-050	倉越(2)	第35号住居跡	●									4			1						2		該当なし				
Ao-050	倉越(2)	第36号住居跡	●								3					2							3a-1	Ⅳ期以降			
Ao-051	赤平(2)	第1号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a					3	3			3						1						
Ao-051	赤平(2)	第1号住居跡		●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	B-Tm > To-a									3						1		5b-1	Ⅵ期以降構築		
Ao-051	赤平(2)	第2号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a					3	3									1		2.3	3b-1	Ⅳ期以降構築		
Ao-051	赤平(2)	第3号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a					4													3b-1	Ⅳ期以降構築		
Ao-051	赤平(2)	第4号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a					4	4	4	4							2						
Ao-051	赤平(2)	第4号住居跡		●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	B-Tm > To-a				4	4	4	4							2		5a-1	Ⅵ期以降			
Ao-051	赤平(2)	第5号住居跡	●	柴	籠物組成、火山ガラス形態	To-a							3		1						1	1	1	2.3	3b-1	Ⅳ期以降構築	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考
			分析					覆土					構築土			備考									
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設	不明							
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝		掘立柱建物		貼り床	カマド					
Ao-069	発見沢(1)	第105号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a							1							1	盛土(周堤)下に2。		5b-2	VI期以降構築	
			●	三辻	蛍光X線	B-Tm								1							1	盛土(周堤)下に2。			
Ao-069	発見沢(1)	第106号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a							1							1	盛土(周堤)下に2。本文では「盛土中」と記載。		5b-2	VI期以降構築	
			●	三辻	蛍光X線	B-Tm								1							1	盛土(周堤)下に2。本文では「盛土中」と記載。			
Ao-069	発見沢(1)	第107号住居跡	●										1							1	盛土(周堤)下に2。	4	5b-2	VI期以降構築	
			●											1							1	盛土(周堤)下に2。			4
Ao-069	発見沢(1)	第108号住居跡	●										1							1	盛土(周堤)下に2。		5b-2	VI期以降構築	
			●											1							1	盛土(周堤)下に2。			
Ao-069	発見沢(1)	第109号住居跡	●										1							1	盛土(周堤)下に2。		5b-2	VI期以降	p.14第1表にTo-aも堆積とあるが本文には記載なし。
			●											1							1	盛土(周堤)下に4。断面図注記なし。			
Ao-069	発見沢(1)	第201号住居跡	●										1							1	盛土(周堤)下に4。断面図注記なし。		5b-2	VI期以降構築	
			●											1							1	盛土(周堤)下に4。断面図注記なし。			
Ao-069	発見沢(1)	第202号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a							1							1	盛土(周堤)下に4。断面図注記なし。		5b-2	VI期以降構築	
			●	三辻	蛍光X線	B-Tm								1							1	盛土(周堤)下に4。断面図注記なし。			
Ao-069	発見沢(1)	第203号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a							1							1	盛土(周堤)下に4。		5b-2	VI期以降構築	
			●	三辻	蛍光X線	B-Tm								1							1	盛土(周堤)下に2。			
Ao-069	発見沢(1)	第204号住居跡	●										1	ピットにも。									4-3	V期以降	
Ao-069	発見沢(1)	第205号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a							1							1	盛土(周堤)下に2。		5b-2	VI期以降構築	
			●	三辻	蛍光X線	B-Tm								1							1	盛土(周堤)下に2。			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考									
			分析				覆土					構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部						付属施設			不明	備考				
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物						貼り床	カマド	柱穴			掘立柱建物	周堤		
Ao-071	二十平(1)	第6号住居跡	●					4											カマドのみ。							該当なし				
Ao-071	二十平(1)	第28号住居跡		●				3	3	3										二次的。						第24号住を切る。	5a-1	VI期以降		
Ao-071	二十平(1)	第36号住居跡		●				4												二次的。					第34号住・内堀に切られる。	5a-1	VI期以降			
Ao-072	有戸島井平(7)	B-SI1		●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4																		該当なし				
Ao-073	向田(34)	第1号堅穴住居跡	●					3												ビツのみ。二次堆積。							5a-1	VI期以降		
Ao-073	向田(34)	第2号堅穴住居跡	●	●				3												ビツのみ。二次堆積。										
Ao-073	向田(34)	第2号堅穴住居跡	●	●				3												カマドのみ。							該当なし			
Ao-073	向田(34)	第3号堅穴住居跡	●						3					1						流れ込みによる二次堆積。カマド中位にも。							5a-1	VI期以降		
Ao-073	向田(34)	第3号堅穴住居跡		●						3				1						流れ込みによる二次堆積。カマド中位にも。										
Ao-074	向田(37)	第2号堅穴住居跡	●																						B-Tm・To-a堆積層を掘り込んで構築。		5b-2	VI期以降	現代でも堅穴埋まりきらず。	
Ao-074	向田(37)	第3号堅穴住居跡		●				4						1						ビツのみ。							該当なし		現代でも堅穴埋まりきらず。	
Ao-074	向田(37)	第6号堅穴住居跡		●				3																			該当なし			
Ao-074	向田(37)	第1号堅穴遺構		●				3						1						ビツのみ。							該当なし			
Ao-075	向田(40)	第1号堅穴住居跡		●													1								周堤下に1。		5b-2	VI期以降		
Ao-075	向田(40)	第2号堅穴住居跡		●													1								周堤下に2。		5b-2	VI期以降		
Ao-076	家の後(6)	第1号堅穴住居跡		●						3								1							周堤下に4。		5b-2	VI期以降		
Ao-077	最花雨	堅穴住居跡		●									1							カマドにも。							2	4-1	V期	
Ao-078	アイヌ野	第2号住居跡	●	山口				4																			2	4-4	V期以降	
Ao-079	上牡丹森	第9号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2																			3c-1	IV期以前		
Ao-080	浅井(1)	SI-09	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2																			3c-1	IV期以前		
Ao-080	浅井(1)	SI-10	●	三辻	蛍光X線	B-Tm											4								4	具体記載なし。		該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ										堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析					覆土					構築土					備考													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設		不明												
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床			カマド	掘立柱建物	周堤									
Ao-081	原	第1号堅穴遺構	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1																			3c-1	IV期以前				
Ao-082	李平下平原	4号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1																		3c-1	IV期以前					
Ao-082	李平下平原	6号堅穴住居跡	●				3																								
Ao-082	李平下平原	9号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a														1		評述無いが、建て替え時の貼り床と思われる。			7号住に切られる。	3b-1	IV期以降構築				
Ao-082	李平下平原	14号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4	1					1	層厚50cm。カマド中位にも。												15号・17号住を切る。	3d-1	IV期※17号住より新			
Ao-082	李平下平原	17号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4	1					1	層厚10cm。												18号・19号住を切る。	3c-1	IV期以前※14号住より古			
Ao-082	李平下平原	22号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a							1						4		6	分析結果(試料層不明)あるも事実記載なし。									
Ao-082	李平下平原	41号堅穴住居跡	●										2									本遺構を切る土坑にB-Tm層堆積。			13号土坑に切られる。	3c-1	IV期以前				
Ao-082	李平下平原	45号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1						1	間層挟み2層あり。上位は層厚20cm。												49号・50号・51号住を切る。	3c-1	IV期以前			
Ao-082	李平下平原	62号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1							極めて床aに近い。														3c-1	IV期以前		
Ao-082	李平下平原	63号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1							層厚15cm。極めて床aに近い。													61号住を切る。	3c-1	IV期以前		
Ao-082	李平下平原	64号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1							層厚18cm。極めて床aに近い。													116号住を切り、61号住に切られる。	3c-1	IV期以前		
Ao-082	李平下平原	66号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		1					1	層厚15cm以上。カマド中位にも。													68号・96号・102号住を切る。	3d-1	IV期		
Ao-082	李平下平原	148号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	2																			149号住を切る。	3c-1	IV期以前			
Ao-082	李平下平原	152号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	2	2						間層挟み2層あり。															3d-1	IV期	
Ao-082	李平下平原	第1号堅穴住居跡	●					4																					該当なし		
Ao-083	板留(2)	第1号住居跡	●																									5b-1	VI期以降構築		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ													堆積層位・状況							焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土								構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設				自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考					
								上位	中・下位	床・底面 a	床・底面 b	全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床			カマド	掘立柱建物	周堤														
Ao-083	板留(2)	第2号住居跡	●																					1	断面なく層位不明。		該当なし							
Ao-083	板留(2)	第5号住居跡	●																								該当なし							
Ao-083	板留(2)	第7号住居跡	●												2→1												1	3c-1	IV期以前					
Ao-083	板留(2)	第10号住居跡	●																									該当なし						
Ao-083	板留(2)	第11号住居跡	●	新井	火山ガラス屈折率	B-Tm									2→1	壁より上位。												3c-1	IV期以前	テフラ分析報告は免茶沢紙文中。				
Ao-084	前川	BSI-6	●																									3b-2	IV期以降構築					
Ao-084	前川	BSI-12	●																										3b-2	IV期以降構築				
Ao-084	前川	BSI-15	●																										3b-2	IV期以降構築				
Ao-084	前川	BSI-19	●																										3b-2	IV期以降構築				
Ao-084	前川	CSI-1	●																										4	1	地山崩落土。			
Ao-084	前川	CSI-2	●																										3b-2	IV期以降構築				
Ao-084	前川	CSI-6	●																										3b-2	IV期以降構築				
Ao-084	前川	CSI-7	●																										3b-2	IV期以降構築				
Ao-084	前川	C1SI-100	●																										5b-2	VI期以降構築				
Ao-084	前川	C1SI-105	●																										5b-2	VI期以降構築				
Ao-084	前川	C1SI-106	●																										5b-2	VI期以降構築				
Ao-084	前川	C1SI-107	●																										5b-2	VI期以降構築				

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ										堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																			
			分析					覆土					構築土																																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部			付属施設		不明	備考																									
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴			掘立柱建物						周堤																		
Ao-090	平野	第4号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2					1	カマドにも。														3d-1	IV期																	
Ao-090	平野	第5号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		4					1																		該当なし															
Ao-090	平野	第6号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2					1																		3d-1	IV期														
Ao-090	平野	第2号堅穴状遺構	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2					1																			3d-1	IV期													
Ao-091	山元(1)	第1号住居跡	●					3																								該当なし														
Ao-091	山元(1)	第3号住居跡	●					3					2	写真で人為と確認。ピット中位にも。																			5a-1	VI期以降	カマド祭祀。											
Ao-091	山元(1)	第4号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm,To-H		3						二次堆積。																			第26号住を切る。		該当なし											
Ao-091	山元(1)	第6号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態・EPMA	To-a		3						ほぼ単層。																					該当なし											
Ao-091	山元(1)	第8号住居跡	●					3	3				2																						5a-1	VI期以降										
Ao-091	山元(1)	第10号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm,To-a,To-H		3					2																						5a-1	VI期以降										
Ao-091	山元(1)	第15号住居跡	●					3	3				2	間層挟む。																						5a-1	VI期以降									
Ao-091	山元(1)	第16号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm,To-a,To-H		3	3																											第18号住を切る。	重複	VI期以降構築※第18号住より新								
Ao-091	山元(1)	第18号住居跡	●																																	第16号住に切られる。		5b-1	VI期以降構築※第16号住より古							
Ao-091	山元(1)	第20号住居跡	●					3						ピットのみ。																							第19号住を切る。		該当なし							
Ao-091	山元(1)	第21号住居跡	●																																				4-3	V期以降						
Ao-091	山元(1)	第23号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm,To-a,To-H		3	3	3			2																										5a-1	VI期以降						
Ao-091	山元(1)	第32号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm,To-a,To-H		3					2	極めて床aに近い。																									5a-1	VI期以降						
Ao-091	山元(1)	第33号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	B-Tm		3					2																											5a-1	VI期以降					
Ao-091	山元(1)	第35号住居跡	●																																						3	詳細記載なく不明。		該当なし		
Ao-091	山元(1)	第36号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態・EPMA	B-Tm		3	3				2																												第39号・47号住を切る。		5a-1	VI期以降		
Ao-091	山元(1)	第50号住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	To-H,To-a																																				4	詳細記載なく不明。		該当なし	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ			堆積層位・状況														焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																							
			分析			覆土							構築土																																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設				自然・人為	備考	堅穴部								付属施設				不明	備考																	
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド						柱穴	掘立柱建物	周堤																				
Ao-091	山元(1)	第58号住居跡	●						3							2												第56号・57号住居を切る。	5a-1	VI期以降																	
Ao-091	山元(1)	第67号住居跡	●						3	3																		第65号・67号住居を切り、第66号住居に切られる。	該当なし																		
Ao-091	山元(1)	第69号住居跡	●						3						二次的。															1	該当なし																
Ao-092	山元(2)	第9号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				4																					11号住居に切られる。	重複	IV期以前														
Ao-092	山元(2)	第10号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1								1																	1	3c-1	IV期以前													
Ao-092	山元(2)	第11号住居跡	●							1																						2	9号住居を切る。	3d-1+重複	V期												
Ao-092	山元(2)	第16号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a																		4	詳細記載なく不明。									該当なし													
Ao-092	山元(2)	第21号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a				4	4				2	カマドにも。																				第19号住居に切られる。	3a-1	IV期以降									
Ao-092	山元(2)	第32号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	1																													3c-1	IV期以前										
Ao-092	山元(2)	第59号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a				4					2																						第36(90)号住居に切られる。	3a-1	IV期以降								
Ao-092	山元(2)	第68号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a					4																										第69号住居を切り、第54(89)号住居に切られる。	2-3	III期以降								
Ao-092	山元(2)	第78号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm					4				2																						第77号住居を切る。	5a-1	VI期以降								
Ao-092	山元(2)	第79号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4								2																						第57号住居に切られる。	該当なし									
Ao-092	山元(2)	第85号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				2					2																							第80号住居を切る。	4-2	V期							
Ao-092	山元(2)	第88号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				2					2	層厚5cm。																							第81号住居を切る。	4-2	V期						
Ao-092	山元(2)	第96号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4	4	4	4					2																							第77号・96号・101号住居を切る。	5a-1	VI期以降							
Ao-092	山元(2)	第97号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				4	2				2																											4-2	V期				
Ao-093	山元(3)	第1号住居跡	●							4					1																										該当なし						
Ao-093	山元(3)	第3号住居跡	●								4																															5	第4号住居を切る。	該当なし			
Ao-093	山元(3)	第4号住居跡	●								4																																第3号住居に切られる。	該当なし			
Ao-093	山元(3)	第5号住居跡	●							4																																	該当なし				
Ao-093	山元(3)	第6号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm					2																																	3d-1	IV期		
Ao-093	山元(3)	第7号住居跡	●							4																																			該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																			
			分析					覆土						構築土																														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設								不明	備考																	
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤																
Ao-098	隠川(4)	第2号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		4		4		2→1	堅穴部の堆積要因は不明。外周溝は上位。															第7号住を拡張。	該当なし															
Ao-098	隠川(4)	第3号住居跡	●							4		1	外周溝ではなく外延溝(排水溝か)。単層。																															
Ao-098	隠川(4)	第5号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm						1																				本遺構を切る黒留木版上位に堆積。	3c-1	IV期以前										
Ao-099	野尻(1)	第6号建物跡	●				2			1		溝2→1	中位。																				3c-1	IV期以前										
Ao-099	野尻(1)	第17号建物跡	●							1		2→1	中位。													6							3c-1	IV期以前										
Ao-099	野尻(1)	第210号住居跡	●				3			1		1	中位。													1							3c-1	IV期以前										
Ao-099	野尻(1)	第211号住居跡	●				4			4		1	中位。ビットにも上～中位に1・4。																															
Ao-099	野尻(1)	第213号住居跡	●							1		1	中位。																						3c-1	IV期以前								
Ao-099	野尻(1)	第214号住居跡	●				2			1			床面近くまで。外周溝は上位。																							3c-1	IV期以前							
Ao-099	野尻(1)	第215号住居跡	●					1																												3d-1	IV期							
Ao-099	野尻(1)	第216号住居跡	●				3			1		1	ビットにも中位1。外周溝は中位。																								3c-1	IV期以前						
Ao-099	野尻(1)	第218号住居跡	●					1				1																									3d-1	IV期						
Ao-099	野尻(1)	第219号住居跡	●					2																			1										3d-1	IV期						
Ao-099	野尻(1)	第302号建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2		2		1	ビット上位。カマド中位にも。外周溝は中位。																									第301号建物を切る。	3d-1	IV期				
Ao-099	野尻(1)	第303号建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				2			中位。																										第304号建物を切る。	3c-1	IV期以前			
Ao-099	野尻(1)	第306号建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		4		4		2→1	ビット上位にも。外周溝は上～中位。																											第320号建物を拡張。	該当なし			
Ao-099	野尻(1)	第307号建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4	4	4	4		1	外周溝は上～中位。																											第306・第309号建物を切る。	該当なし			
Ao-099	野尻(1)	第309号建物跡	●							4			上位。																												第307号建物に切れ、第306号建物を切る。	該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ			堆積層位・状況																	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考														
			分析			覆土								構築土																											
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設				自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考												
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	掘立柱建物			掘立柱建物	柱穴	掘立柱建物	周堤																				
Ao-099	野尻(1)	第518号建物跡		●								2																			3c-1	IV期以前※ 第506号建物より古									
Ao-099	野尻(1)	第518号建物跡		●								2	3		外周溝は中位。掘立は単層。													6	第519号建物に切られる。	3c-1	IV期以前										
Ao-099	野尻(1)	第519(5)号建物跡		●	柴	館物組成、火山ガラス形態・EPMA	B-Tm					1	3	2→1	外周溝は中位。B-Tm層より下位は人為堆積。掘立は上位。																3c-1	IV期以前									
Ao-099	野尻(1)	第521号建物跡		●						3		1	1	1	外周溝は中位。																	3c-1	IV期以前								
Ao-099	野尻(1)	第601号建物跡		●					4																																
Ao-099	野尻(1)	第603号建物跡		●					3		4				2																		第604号建物に切られる。	重複	IV期以前						
Ao-099	野尻(1)	第604号建物跡		●						1		1	1	1	外周溝は中位。																			第603号建物を切る。	3d-1	IV期					
Ao-099	野尻(1)	第605号建物跡		●							4				1																			4-3	V期以降						
Ao-100	野尻(4)	SI008		●								1			上位。堅穴部残存浅い。																			3c-1	IV期以前						
Ao-100	野尻(4)	SI011		●						1																								SI10-12を切る。	3d-1	IV期					
Ao-100	野尻(4)	SI014		●									1		中位。堅穴部残存せず。																				SI15を切る。	3c-1	IV期以前				
Ao-100	野尻(4)	SI021		●	根本	EPMA	B-Tm						1		上～中位。堅穴部残存せず。																					3c-1	IV期以前				
Ao-100	野尻(4)	SI023		●									2		上位。堅穴部残存浅い。																						SI31を切る。	3c-1	IV期以前		
Ao-100	野尻(4)	SI024		●									4		層位不明。																										
Ao-100	野尻(4)	SI026		●									4		層位不明。																										
Ao-100	野尻(4)	SI033		●	根本	EPMA	B-Tm, B-Tm+To						4		層位不明。																						SI40を切る。	該当なし			
Ao-100	野尻(4)	SI037		●																			4														SI38を切る。	該当なし			
Ao-100	野尻(4)	SI038		●																			4															SI37に切られる。	該当なし		
Ao-100	野尻(4)	SI040		●	根本	EPMA	B-Tm, B-Tm+To																4																SI41を切り、SI33-37に切られる。	該当なし	
Ao-100	野尻(4)	SI041		●																			4																SI42を切り、SI40に切られる。	該当なし	

遺跡No	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			分析					覆土					構築土		不明	備考																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		堅穴部			付属施設															
								上位	中位	床・底面 a	床・底面 b	全体	外周溝	掘立柱建物			自然・人為	備考	貼り床						カマド	掘立柱建物	周堤					
Ao-100	野尻(4)	SI042A	●														4			SI41に切られる。		該当なし										
Ao-100	野尻(4)	SI043	●	根本	EPMA	B-Tm						4			上位。堅穴部 残存せず。											該当なし						
Ao-100	野尻(4)	SI045	●												中位。												SI48-52-53を切り、 SI44に切られる。	重複	VI期以降※ SI052より新			
Ao-100	野尻(4)	SI051	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To		2					1		中位。												SI65を切る。	3c-1	IV期以前			
Ao-100	野尻(4)	SI052	●								4																SI53を切り、 SI44・45・49に切られる。	4-3	V期以降※ SI045より古			
Ao-100	野尻(4)	SI057	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To												4		事実記載には 混入なしとあり。							SI70-58を切る。		該当なし			
Ao-100	野尻(4)	SI063	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To				4			1		中位。												SI64を切る。	3d-1	IV期			
Ao-100	野尻(4)	SI064	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To		4																			SI63に切られる。	重複	IV期以前			
Ao-100	野尻(4)	SI069	●												不明。															該当なし		
Ao-100	野尻(4)	SI073	●	根本	EPMA	B-Tm							1		上～中位。堅穴部 残存せず。													SI74を切る。	3c-1	IV期以前		
Ao-100	野尻(4)	SI075	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To							1		中位。堅穴部 残存浅い。													SI76を切る。	3c-1	IV期以前		
Ao-100	野尻(4)	SI077	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To							1		中位。															3c-1	IV期以前	
Ao-100	野尻(4)	SI078	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To							1		中位。堅穴部 残存浅い。													SI79-80-81-82- 84を切る。	3c-1	IV期以前		
Ao-100	野尻(4)	SI081	●	根本	EPMA	B-Tm							1		上位。堅穴部 残存浅い。													SI78-80に切られる。	3c-1	IV期以前		
Ao-100	野尻(4)	SI091	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To		4																				SI108を切る。		該当なし		
Ao-100	野尻(4)	SI097	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To					1											1								上位。	3d-1	IV期
Ao-100	野尻(4)	SI098	●	根本	EPMA	B-Tm			2				1		中位。							1							SI100を切る。	3d-1	IV期	
Ao-100	野尻(4)	SI107	●	根本	EPMA	B-Tm							1		上位。堅穴部 残存浅い。													SI106・110に切られる。	3c-1	IV期以前		
Ao-100	野尻(4)	SI110	●	根本	EPMA	B-Tm							2		上～中位。堅穴部 残存せず。														SI107・111を切る。	3c-1	IV期以前	
Ao-100	野尻(4)	SI113	●	根本	EPMA	B-Tm							2		上位。堅穴部 残存浅い。														SI146・113Bを切る。	3c-1	IV期以前	
Ao-100	野尻(4)	SI117	●	根本	EPMA	B-Tm、 B-Tm+To		1					1		上位。														SI120を切る。	3c-1	IV期以前	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ															堆積層位・状況											遺失	重複	堆積分類	時期判定	備考														
			分析					覆土					構築土					備考																													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	縦穴部				付属施設	自然・人為	備考	縦穴部		付属施設			不明																											
								上位	中位 S 下位	床・底面 a	床・底面 b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床		カマド		掘立柱建物	周堤																									
Ao-100	野尻(4)	第22号建物跡	●							4					断面無く層位不明。											第33号・第26号建物 ^a を切る。	該当なし																				
Ao-100	野尻(4)	第40号建物跡	●							4				1	上位。											第29号・第30号・第31(42)号建物 ^a を切る。	該当なし																				
Ao-101	野尻(2)	第9号住居跡	●							4																					1	該当なし															
Ao-101	野尻(2)	第101号竪穴住居跡	●							4																																					
Ao-102	野尻(3)	第4号建物跡	●											4	多層。											第2号溝、第12号建物 ^a を切る。	重複				VI期以降構築																
Ao-102	野尻(3)	第6号建物跡	●											4	下位。																		6	該当なし													
Ao-102	野尻(3)	第8号建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm							4	4	溝2 外周溝は底bまで多層。掘立は上・中～下層。											第2号溝を切る。	5b-2					VI期以降構築	分析は掘立出土試料。														
Ao-102	野尻(3)	第10号建物跡	●										4																							4-3	IV期以降										
Ao-102	野尻(3)	第12号建物跡	●											1	中位。											第2号溝、第4号建物 ^a に切られる。	重複						IV期以前														
Ao-102	野尻(3)	第6号竪穴住居跡	●											4	上～中位。																																
Ao-102	野尻(3)	第10号竪穴住居跡	●																							本遺構が切る円形周溝に層堆積。	第1号円形周溝を切る。	5b-2						VI期以降構築													
Ao-102	野尻(3)	第11号竪穴住居跡	●																							本遺構が切る円形周溝に層堆積。	第3号円形周溝を切る。	5b-2						VI期以降構築													
Ao-102	野尻(3)	第13号竪穴住居跡	●												1											本遺構より新しい円形周溝に層堆積。									3c-1	IV期以前											
Ao-102	野尻(3)	第15号竪穴住居跡	●	柴		館物組成、火山ガラス形態・EPMA	B-Tm,To-a,To-H						2		1												第16号住に切られる。	3c-1								IV期以前											
Ao-102	野尻(3)	第20号竪穴住居跡	●												1											本遺構を切る円形周溝に層堆積。	第3号円形周溝に切られる。	3c-1								IV期以前											
Ao-102	野尻(3)	第24号竪穴住居跡	●	柴		館物組成、火山ガラス形態	B-Tm							1	2→1											テフラ混入層は自然堆積。											3c-1	IV期以前									
Ao-103	高屋敷館	第49号住居跡	●										4		2	ピットのみ。																									該当なし						
Ao-103	高屋敷館	第59号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm								1	2																									3d-1	IV期						
Ao-103	高屋敷館	第62号住居跡	●	三辻	蛍光X線	不明(B-Tm?)								3	2																											5a-1	VI期以降				
Ao-103	高屋敷館	第75号住居跡	●											4	4	2																													5a-1	VI期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ																							焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土										構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設						自然・人為	備考	堅穴部			付属施設														
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴			掘立柱建物	周堤	不明	備考														
Ao-103	高屋敷館	第84号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm			4																										未調査のため詳細不明。		
Ao-103	高屋敷館	第107号堅穴住居跡	●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm										2												4						分析試料はカマドとあるが、本文中には記載なし。			
Ao-103	高屋敷館	第121号堅穴住居跡		●																															本遺構が切る円形周溝に層堆積。		
Ao-103	高屋敷館	第122号堅穴住居跡		●																															本遺構が切る円形周溝に層堆積。		
Ao-103	高屋敷館	第126号堅穴住居跡		●																															本遺構を切る円形周溝に層堆積。		
Ao-103	高屋敷館	第134号堅穴住居跡	●	柴	館物組成、火山ガラス形態	To-H,To-a		4?								2																			下層から出土とあるも図に記載なく不明。		
Ao-103	高屋敷館	第1号堅穴住居跡		●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm	4								2→1																			テフラ混入層は自然堆積。		
Ao-103	高屋敷館	第2号堅穴住居跡		●				3																													
Ao-103	高屋敷館	第3号堅穴住居跡		●				4								1																					
Ao-103	高屋敷館	第4号堅穴住居跡		●				4?	4?							1																					本文と図とで堆積層記載異なる。
Ao-104	寺屋敷平	第3号堅穴住居跡	●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm																														1	
Ao-104	寺屋敷平	第4号堅穴住居跡	●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm			3																												中位。
Ao-104	寺屋敷平	第6号堅穴住居跡	●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm			3																												ピット上位にも。
Ao-104	寺屋敷平	第9号堅穴住居跡	●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm			2																												中位。
Ao-104	寺屋敷平	第10号堅穴住居跡		●				4																												中位。	
Ao-105	限無(2)	第1号住居跡		●				3								1																					
Ao-106	限無(8)	BSI001建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm			4																												
Ao-106	限無(8)	BSI003建物跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm									1																						中位。新古いずれの外周溝にも。

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考															
			分析					覆土						構築土																									
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				自然・人為	備考	堅穴部			構築土																						
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b			全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴						掘立柱建物	周堤	不明												
Ao-109	新町野	4号住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4								1	カマドのみ。																	3c-1	IV期以前				
Ao-109	新町野	5号住居跡	●		●	三辻	蛍光X線	B-Tm	2							1																			1b-1	II期			
Ao-109	新町野	6号住居跡	●						2							1																			1b-1	II期			
Ao-109	新町野	7号住居跡	●		●	三辻	蛍光X線	To-a	4	2						1																			1a-1	I期			
Ao-109	新町野	8号住居跡	●						2							1																			1a-1	I期			
Ao-109	新町野	10号住居跡	●		●	三辻	蛍光X線	To-a			2					1																			1b-1	II期			
Ao-109	新町野	10号住居跡	●		●	三辻	蛍光X線	B-Tm	4							1																				3c-1	IV期以前		
Ao-109	新町野	11号住居跡	●		●	三辻	蛍光X線	B-Tm	2							1	極めて床aに近い。																			3c-1	IV期以前		
Ao-109	新町野	13号住居跡	●		●	三辻	蛍光X線	To-a			4					1																				1b-2	II期		
Ao-109	新町野	14号住居跡	●						2							1																					1a-1	I期	
Ao-109	新町野	15号住居跡	●		●				4							1																					1a-1	I期	
Ao-109	新町野	16号住居跡	●						1							1																				1b-1	II期		
Ao-109	新町野	17号住居跡	●						2							1																				1b-1	II期		
Ao-109	新町野	20号住居跡	●		●						2					1				1																3b-1+3d-1	IV期構築・廃絶		
Ao-109	新町野	21号住居跡	●						4	4						1																				1b-2	II期		
Ao-109	新町野	21号住居跡	●		●				4							1																				1b-2	II期		
Ao-109	新町野	22号住居跡	●								3					1	ビッドにも。																			2-3	III期以降		
Ao-109	新町野	24号住居跡	●		●						3					1																				3c-1	IV期以前		
Ao-109	新町野	25号住居跡	●							2						1	ビッド上位にも。																			1b-1	II期		
Ao-109	新町野	第1号竪穴住居跡	●		●				4							1																				該当なし			
Ao-109	新町野	第18号竪穴住居跡	●									4				1	ビッドにも。																			第44号住を切る。	2-3+3d-1	III～IV期	
Ao-109	新町野	第18号竪穴住居跡	●									4				1																				2-3+3d-1	III～IV期		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			分析					覆土						構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考						
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物								周堤					
Ao-109	新町野	第19号堅穴住居跡	●					1							1												1		1a-1	I期			
Ao-109	新町野	第22号堅穴住居跡	●							3					1														2-3+3c-1	Ⅲ～Ⅳ期			
Ao-109	新町野	第23号堅穴住居跡	●							4																		第24号住を切る。	1b-2	Ⅱ期			
Ao-109	新町野	第28号堅穴住居跡	●					4	1						1														1b-1	Ⅱ期			
Ao-109	新町野	第30号堅穴住居跡	●							4					1															該当なし			
Ao-109	新町野	第32号堅穴住居跡	●								1				1															2-1	Ⅲ期		
Ao-109	新町野	第33号堅穴住居跡		●						2																				3c-1	Ⅳ期以前		
Ao-109	新町野	第39号堅穴住居跡	●							1					1															1b-1	Ⅱ期		
Ao-109	新町野	第40号堅穴住居跡	●					3			1				1															1b-1	Ⅱ期		
Ao-110	安田(2)	第2号住居跡		●				3																						該当なし			
Ao-110	安田(2)	第3号住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4																		1	第4号住に切られる。	該当なし					
Ao-110	安田(2)	第5号住居跡	●		三辻	蛍光X線	B-Tm	4																					該当なし				
Ao-110	安田(2)	第7号住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4	4					2→1	テフラ混入層は自然堆積。											1		該当なし					
Ao-110	安田(2)	第11号住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4						2?												1		該当なし					
Ao-110	安田(2)	第15号住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a			2																				1		1b-1	Ⅱ期
Ao-110	安田(2)	第16号住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4																						2・3・5			
Ao-110	安田(2)	第16号住居跡	●		三辻	蛍光X線	B-Tm				4	4																		4-3	V期以降		
Ao-110	安田(2)	第17号住居跡	●		三辻	蛍光X線	B-Tm			3				2→1	テフラ混入層以上は自然堆積。															該当なし			
Ao-110	安田(2)	第18号住居跡	●					4						2→1	テフラ混入層は自然堆積。															該当なし			
Ao-110	安田(2)	第23号住居跡	●		三辻	蛍光X線	B-Tm	3						2→1												1		該当なし					

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			分析					覆土						構築土																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考			
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴								掘立柱建物	周堤	
Ao-111	近野	第E26号堅穴住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態・EPMA	B-Tm	4																	1			該当なし			
Ao-111	近野	第E27号堅穴住居跡	●				1							カマド上～中位に9。													3c-1	IV期以前		
Ao-111	近野	第E33号堅穴住居跡	●					4																			該当なし			
Ao-111	近野	第E36号堅穴住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態・EPMA	To-a		2																			1b-1	II期		
Ao-111	近野	第E42号堅穴住居跡	●				4						1														該当なし			
Ao-111	近野	第E44号堅穴住居跡	●	柴	鉱物組成、火山ガラス形態	To-a	4																	1			該当なし		事実記載はB-Tmだが分析結果はTo-a。	
Ao-111	近野	第C2号堅穴住居跡	●									3	4	外周溝は上位。掘立柱穴は単層。														該当なし		
Ao-111	近野	第C5号堅穴住居跡	●					4						風倒木底内のみ？													第C3号住に切り替わる。	該当なし		
Ao-112	野木	第201号堅穴住居跡	●	●			2	4	4																		2-3+3c-1	III～IV期		
Ao-112	野木	第203号堅穴住居跡	●				2																				3c-1	IV期以前		
Ao-112	野木	第205号堅穴住居跡	●				4																	1			該当なし			
Ao-112	野木	第206号堅穴住居跡	●				4																					1a-2	I期	
			●				4																							
Ao-112	野木	第207号堅穴住居跡	●	●			4	4																				1b-2	II期	
Ao-112	野木	第208号堅穴住居跡	●				4																					該当なし		
Ao-112	野木	第210号堅穴住居跡	●				2																					3c-1	IV期以前	
Ao-112	野木	第211号堅穴住居跡	●				4																					該当なし		
Ao-112	野木	第212号堅穴住居跡	●					3																				該当なし		
Ao-112	野木	第214号堅穴住居跡	●				4																					該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考													
			分析					覆土					構築土																							
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部								付属施設		不明	備考									
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床						カマド	柱穴			掘立柱建物	周堤							
Ao-112	野木	第215号堅穴住居跡	●						4	4						2								5	第216号住に切られる。	3a-1+重複	IV期構築・焼絶※第216住より古									
Ao-112	野木	第216号堅穴住居跡		●					1																	第215号住を切る。	3c-1+重複	IV期構築・焼絶※第215住より新								
Ao-112	野木	第217号堅穴住居跡	●						4	4							間層挟む。																			
Ao-112	野木	第218号堅穴住居跡	●								4					2																				
Ao-112	野木	第221号堅穴住居跡	●								4	4																								
Ao-112	野木	第224(A)号堅穴住居跡		●					4																		第224(E)号住を切る。									
Ao-112	野木	第225号堅穴住居跡		●					2																											
Ao-112	野木	第226号堅穴住居跡	●						4	4	4																									
Ao-112	野木	第227号堅穴住居跡		●					2																											
Ao-112	野木	第229号堅穴住居跡		●					4								カマドにも。										第230号住を切る。									
Ao-112	野木	第230号堅穴住居跡		●					2																		第229号住に切られる。	3c-1	IV期以前							
Ao-112	野木	第232号堅穴住居跡	●							4	4																									
Ao-112	野木	第235号堅穴住居跡		●					2																											
Ao-112	野木	第239号堅穴住居跡		●					4	4																										
Ao-112	野木	第268号堅穴住居跡		●																			4	4層とあるが、図・注記にはなし。		第273号住を切る。										
Ao-112	野木	第273号堅穴住居跡		●					4																		第268号住に切られる。									
Ao-112	野木	第278号堅穴住居跡		●							4						単層。上面に堆積。																			
Ao-112	野木	第304号堅穴住居跡		●					2																		第305号住を切る。	3c-1+重複	IV期							
Ao-112	野木	第305号堅穴住居跡	●								4																第340号住を切り、第304号住に切られる。	2-3+重複	III～IV期							

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況																焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考												
			分析						覆土								構築土																								
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設				自然・人為	備考	堅穴部				付属施設																			
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	張り床			カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤	不明	備考																		
Ao-112	野木	第389号堅穴住居跡		●				4	4	4																									該当なし						
Ao-112	野木	第391号堅穴住居跡		●				4									ビットにも。																		該当なし						
Ao-112	野木	第392号堅穴住居跡		●									1				ビットのみ。単層。																	第384号住に切られる。	4-3	V期以降					
Ao-112	野木	第395号(B)堅穴住居跡		●				4																										第395号(A)住に切られる。	該当なし						
Ao-112	野木	第403号堅穴住居跡	●							4																									4-3	V期以降					
Ao-112	野木	第406号堅穴住居跡	●							3	3																									1b-2	II期				
Ao-112	野木	第408号堅穴住居跡	●							3	4																									2-3	III期以降				
Ao-112	野木	第410号堅穴住居跡	●														ビットのみ。																				2-3+3c-1	III~IV期			
Ao-112	野木	第411号堅穴住居跡		●						4																											該当なし				
Ao-112	野木	第413号堅穴住居跡		●						4	4																										第416号住を切る。	該当なし			
Ao-112	野木	第416号堅穴住居跡	●							4																											第413号住に切られる。	該当なし			
Ao-112	野木	第417号堅穴住居跡		●				4																														該当なし			
Ao-112	野木	第419号堅穴住居跡		●						4																												該当なし			
Ao-112	野木	第421号堅穴住居跡	●					4																														該当なし			
Ao-112	野木	第461号堅穴住居跡	●					4									1																					第460号住に切られる。	該当なし		
Ao-112	野木	第473号堅穴住居跡	●							4																										2		第495号住を切り、第369号住に切られる。	2-4*重複	III期	
Ao-112	野木	第476号堅穴住居跡		●				4	4	4																												第478号住を切り、第477号住に切られる。	該当なし		
Ao-112	野木	第478号堅穴住居跡	●					4	4	4							ビット、カマドにも。																					第476号住に切られる。	該当なし		
Ao-112	野木	第483号堅穴住居跡	●					4																															1a-2	I期	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ										堆積層位・状況								遺失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土					構築土				備考															
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部			付属施設														
								上位	中・下位	床・底面 a	床・底面 b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤												
Ao-112	野木	第713号堅穴住居跡	●					4	4							1																
Ao-112	野木	第714号堅穴住居跡	●							3					1								2-5		2-3+3c-1	Ⅲ～Ⅳ期						
Ao-112	野木	第715号堅穴住居跡		●								3												1		4-3	V期以降					
Ao-112	野木	第716号堅穴住居跡	●						1	4	4				1										2-5	1a-1	I期					
Ao-112	野木	第717号堅穴住居跡	●						1	1	1																1b-1	Ⅱ期				
Ao-112	野木	第718号堅穴住居跡		●					4																				該当なし			
Ao-112	野木	第719号堅穴住居跡		●					4						1												第720号住を切る。	該当なし				
Ao-112	野木	第721号堅穴住居跡		●					4						1													該当なし				
Ao-112	野木	第723号堅穴住居跡	●																						3		第724号住を切る。	該当なし				
Ao-112	野木	第724号堅穴住居跡	●									3															第723号住に切られる。	2-3+重複	Ⅲ期※第723住より古			
Ao-112	野木	第725号堅穴住居跡		●					1	1					1														3c-1	Ⅳ期以前		
Ao-112	野木	第727号堅穴住居跡		●					3	3																			該当なし			
Ao-112	野木	第728号(A)堅穴住居跡		●						4																	第728号(B)住を切る。	該当なし				
Ao-112	野木	第729号(A)堅穴住居跡		●						1					1												第729号(B)住を切る。	3c-1	Ⅳ期以前			
Ao-112	野木	第803号堅穴住居跡	●						4																		第823号住を切る。	該当なし				
Ao-112	野木	第806号堅穴住居跡		●							4																		4-3	V期以降		
Ao-112	野木	第814号堅穴住居跡	●							1																		第812号住を切り、第815号住に切られる。	1a-1	I期		
Ao-112	野木	第822号堅穴住居跡	●						1						2-1												テフラ混入層より下位は人為堆積。			南東壁中央(カマド横)に張り出し。	2-5	Ⅲ期
Ao-112	野木	第825号堅穴住居跡(A)	●						4	4																			2-3	Ⅲ期以降		
Ao-112	野木	第830号堅穴住居跡	●							4					1															4-3	V期以降	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																										
			分析					覆土						構築土																																				
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設																																
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物						周堤	不明	備考																							
Ao-112	野木	SI-108		●				4																							1			該当なし																
Ao-112	野木	SI-109		●				3	3	3						2																		5a-1	VI期以降															
Ao-112	野木	SI-117		●				2							2→1	テフラ混入層より下位は人為堆積。															1		SI-118に切られる。	1a-1	I期															
Ao-112	野木	SI-118		●				3																										SI-117を切る。	3b-1	IV期以降構築														
Ao-112	野木	SI-123		●				2																											1a-1	I期														
Ao-112	野木	SI-129		●				3							2																				3a-1	IV期以降														
Ao-112	野木	SI-136		●	三辻	蛍光X線	To-a				4				2																				3a-1	IV期以降														
Ao-112	野木	SI-140		●						2																										3d-1	IV期													
Ao-112	野木	SI-142		●							4				2																		2,3			3a-1	IV期以降													
Ao-112	野木	SI-149		●				4							1																							該当なし												
Ao-112	野木	SI-156		●				4							2→1	テフラ混入層より下位は人為堆積。																							該当なし											
Ao-112	野木	SI-160		●						3	3				1																						4-3	V期以降												
Ao-112	野木	SI-162		●							4				2																							3a-1	IV期以降											
Ao-112	野木	SI-165		●				4							1																									該当なし										
Ao-112	野木	SI-177		●				4							2																								5a-1	VI期以降										
Ao-112	野木	SI-178		●				4	4	4																							1							該当なし										
Ao-112	野木	SI-179		●						3																																該当なし								
Ao-112	野木	SI-181		●							4																																4-3	V期以降						
Ao-112	野木	SI-188		●				3							2	部分的に人為堆積。																										1		該当なし						
Ao-112	野木	SI-192		●				2							1																													1a-1	I期					
Ao-112	野木	SI-196		●				3							2→1	テフラ混入層は自然堆積。																											1		該当なし					
Ao-112	野木	SI-197		●				2							1																															1		3c-1	IV期以前	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ							堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析				覆土			構築土				不明	備考													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部	付属施設		自然・人為		備考			堅穴部		付属施設										
上	中	下	位置	床・底面	a	床・底面	b	全体	外周溝	掘立柱建物	自然	人為		備考	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤										
Ao-115	朝日山(1)	第111号整穴住居跡	●																	注記に「十和田aと思われる火山灰」があるが、断面図に該当層なし。			該当なし					
Ao-115	朝日山(1)	第140号整穴住居跡	●						4		1												2-3	Ⅲ期以降				
Ao-115	朝日山(1)	第152号整穴住居跡		●					4	4				中～下位。									第153号住を切る。	4-3+重複	Ⅳ期以降構築※第153住より新			
Ao-115	朝日山(1)	第153号整穴住居跡		●						4				単層。									第152号住に切られる。	5a-1	Ⅳ期以降※第152住より古			
Ao-115	朝日山(1)	第159号整穴住居跡		●					4		1												第160号住に切られる。	該当なし				
Ao-115	朝日山(1)	第160号整穴住居跡		●					4		1												第159号住を切る。	該当なし				
Ao-115	朝日山(1)	第168号整穴住居跡		●					4		1													該当なし				
Ao-115	朝日山(1)	第173号整穴住居跡		●					4		1													該当なし				
Ao-115	朝日山(1)	第178号整穴住居跡		●						4														該当なし				
Ao-115	朝日山(1)	第182号整穴住居跡		●												1								第183号住を切る。	5b-1	Ⅳ期以降構築※第183住より新		
Ao-115	朝日山(1)	第183号整穴住居跡		●												1								第182号住に切られる。	5b-1	Ⅳ期以降構築※第182住より古		
Ao-115	朝日山(1)	第310号整穴住居跡		●						3		1													4-3	Ⅴ期以降		
Ao-115	朝日山(1)	第311号整穴住居跡		●					4		1														該当なし			
Ao-115	朝日山(1)	第312号整穴住居跡		●						4		1													4-3	Ⅴ期以降		
Ao-115	朝日山(1)	第342号整穴住居跡		●						4															4-3	Ⅴ期以降		
Ao-116	朝日山(2)	第5号整穴住居跡		●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2					極めて床aに近い。											3c-1	Ⅳ期以前		
Ao-116	朝日山(2)	第103号整穴住居跡		●																				本遺構が切る溝跡中にB-Tm堆積。	8号溝跡を切る。	5b-2	Ⅳ期以降構築	
Ao-116	朝日山(2)	汗館A線№1竃塔第1号整穴住居跡		●					3																該当なし			

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ										堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			分析						覆土					構築土																							
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	備考	堅穴部				自然・人為	備考	堅穴部			付属施設		不明	備考																
									上位	中↓下位	床・底面 a	床・底面 b			全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド			柱穴						掘立柱建物	周堤								
Ao-116	朝日山(2)	第1号竪穴住居跡	●					3	3						1→2	テフラ混入層は自然堆積。														該当なし							
Ao-116	朝日山(2)	第15 I 号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm									2			1											第102号・第101 II号・第101 I号・第15 III号・第15 II号住を切り、第11号住に切られる。	5b-1	VI期以降構築※第15 II住より新	第15 II号住を拡張したものが、上層構造、掘立柱建物付設等大きな変化が認められる。					
Ao-116	朝日山(2)	第15 II号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm												1											第102号・第101 II号・第101 I号・第15 III号住を切り、第15 I号・第11号住に切られる。	5b-1	VI期以降構築※第15 I住より古						
Ao-116	朝日山(2)	第16号竪穴住居跡	●						4																					該当なし							
Ao-116	朝日山(2)	第17号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				4			1-3					1												3c-1+5b-1	IV期以前構築※VI期廃絶						
Ao-116	朝日山(2)	第24号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm																		本遺構を切る溝跡の中心にB-Tm層状堆積。					第46号溝に切られる。	3c-1+重複	IV期以前						
Ao-116	朝日山(2)	第101 I 号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm			1						2→1	層厚3cm。テフラ層以下は人為堆積。														第101 II号・第102号住を切り、第11号・第15 I号・第11号住に切られる。	3d-1	IV期					
Ao-116	朝日山(2)	第160号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm			4																					2?	該当なし						
Ao-116	朝日山(2)	第203号竪穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a				4																							第203号B・第210号住を切る。	2-3+3c-1	III~IV期		
			●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2																													
Ao-116	朝日山(2)	第204号竪穴住居跡	●						4																								第201号・202号住に切られる。	該当なし			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																
			分析					覆土					構築土																										
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考														
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド								掘立柱建物	周堤												
Ao-116	朝日山(2)	第205号堅穴住居跡	●								4										6																		
				●								4											6		該当なし														
Ao-116	朝日山(2)	第208号堅穴住居跡		●							4	4	4	4													4-3	V期以降											
Ao-116	朝日山(2)	第209号堅穴住居跡		●									4														第207号住を切る。	該当なし											
Ao-116	朝日山(2)	第221号堅穴住居跡		●							4																4-3	V期以降											
Ao-116	朝日山(2)	第227号堅穴住居跡		●																							5b-1	VI期以降構築											
Ao-116	朝日山(2)	第352号(B)堅穴住居跡		●									1														2	第352号(A)住に切られる。	4-2	V期									
Ao-116	朝日山(2)	第355号堅穴住居跡		●							4																				該当なし								
Ao-116	朝日山(2)	第356号堅穴住居跡		●																	4							住居内ピットに堆積とあるが詳細不明。付属するかも不明。	6	第360号住を切る。	該当なし								
Ao-116	朝日山(2)	第302号堅穴住居跡		●								3	1															住居内ピットのみ。		第306号住を切る。	該当なし								
Ao-116	朝日山(2)	第12号堅穴住居跡		●	三辻	蛍光X線	B-Tm																					分析試料は「床面直上」だが「本文・図いずれ」にも記載なし。		第13号住を切る。	重複	VI期以降構築※第13号住より新							
Ao-116	朝日山(2)	第13号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a								4																	2	第12号住に切られる。外周溝3変遷あり。	2-3+4-2	III期以前構築～IV期廃絶					
				●	三辻	蛍光X線	B-Tm	3							3																	2							
Ao-116	朝日山(2)	第107 I号堅穴住居跡		●										4																					2	第103-108・111号住を切る。	重複	VI期以降構築※第108住・111住より新	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																			
			分析					覆土						構築土																														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為		備考	堅穴部			付属施設						備考																		
上	中	下	床・底面	床・底面	全体	外周溝	掘立柱建物	自然・人為	備考	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤	不明		備考																											
Ao-116	朝日山(2)	第741号堅穴住居跡		●					1																								3c-1	IV期以前										
Ao-116	朝日山(2)	第744号堅穴住居跡		●												4					上位。													第745号住を切る。	該当なし									
Ao-116	朝日山(2)	第747号堅穴住居跡		●												4																		第751号住に切られる。	該当なし									
Ao-116	朝日山(2)	第202号堅穴住居跡		●									3	3								2													第201号・207号住を切り、第208号住に切られる。	2-5+重複	V期	人為的な焼失後、埋め戻されたものと推定。						
Ao-116	朝日山(2)	第206号堅穴住居跡		●	三辻 / 柴	蛍光X線 / 鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm / B-Tm.To-a									4		3		2	外周溝付属ピット。上～底b。																205号住に切られる。	該当なし						
Ao-116	朝日山(2)	第207号堅穴住居跡	●																																	第201号・202号・206号・209号住に切られる。	3b-1+重複	IV期構築・廃絶						
Ao-116	朝日山(2)	第209号堅穴住居跡		●														4			底a・b。付属ピット上位にも。																	第201号・202号・207号住を切り、第208号住に切られる。	重複	VI期以降構築				
Ao-116	朝日山(2)	第210号堅穴住居跡		●																	ピットのみ。																	第101号島を切る。	4-3+重複	VI期以降構築	製練鍛冶が行われていた工房跡。島跡より後出。			
Ao-116	朝日山(2)	第212号堅穴住居跡		●																																	第214号住を切る。	5b-1	VI期以降構築※第214住より新					
Ao-116	朝日山(2)	第213号堅穴住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a										4						2															第211号住を切る。	3b-2+3c-1	IV期構築・廃絶					
			●	柴	鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm.To-a												4						1																				
Ao-116	朝日山(2)	第214号堅穴住居跡		●	三辻 / 柴	蛍光X線 / 鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm / B-Tm.To-a	4	3	3	4		1					2			外周溝は上位1、中～底b4。																				第211号住を切り、第212号住に切られる。	3c-1+重複	IV期以前※第212住より古	
Ao-116	朝日山(2)	第401号堅穴住居跡		●	三辻 / 柴	蛍光X線 / 鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm / B-Tm.To-a	4	1												付属ピット上位にも。																			第412号住を切る。	3c-1	IV期以前		
Ao-116	朝日山(2)	第406号堅穴住居跡		●	三辻 / 柴	蛍光X線 / 鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm / B-Tm.To-a										1																							第410号住を切り、第408号住に切られる。	3c-1	IV期以前		
Ao-116	朝日山(2)	第407号堅穴住居跡		●																																				第410号住を切り、第408号住に切られる。	4-3+重複	V期以降※第408住より古		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ							堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考		
			分析					覆土						構築土												
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴							
Ao-116	朝日山(2)	第408号竪穴住居跡	●							3										第407号・410号住を切る。	4-3+重複	V期以降※第407住より新				
Ao-116	朝日山(2)	第409号竪穴住居跡	●	三辻 / 柴	蛍光X線 / 鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm / B-Tm, To-a		4												第404号住に切られる。	該当なし					
Ao-116	朝日山(2)	第750号竪穴住居跡	●								4		上位。							第805号住を切り、第744号住に切られる。	該当なし					
Ao-116	朝日山(2)	第801号竪穴住居跡	●					2													3c-1	IV期以前				
Ao-116	朝日山(2)	第803号竪穴住居跡	●							1												3d-1	IV期			
Ao-116	朝日山(2)	第811号竪穴住居跡	●					1	4													3c-1	IV期以前			
Ao-116	朝日山(2)	第816A号竪穴住居跡	●							4			外周溝は単層。							第816号B住を切る。	該当なし					
Ao-116	朝日山(2)	第816B号竪穴住居跡	●								4		単層。							第816号A住に切られる。	該当なし					
Ao-116	朝日山(2)	第824号竪穴住居跡	●								4		ピットのみ。								4-3	V期以降				
Ao-116	朝日山(2)	第826号竪穴住居跡	●					2														3c-1	IV期以前			
Ao-116	朝日山(2)	第831号竪穴住居跡	●										ピットにも。							第829号住を切る。	該当なし					
Ao-116	朝日山(2)	第832A号竪穴住居跡	●									4	上位。							第821号・830号・832号B住を切り、第825号住に切られる。	該当なし					
Ao-117	三内丸山(9)	第2号竪穴住居跡	●														4	本文にカマド周辺に薄く堆積とあるが、図に記載なく不明。			該当なし					
Ao-117	三内丸山(9)	第3号竪穴住居跡	●	柴	鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm		3					2→1	テフラ層は自然堆積。								3c-1	IV期以前			
Ao-117	三内丸山(9)	第7号竪穴住居跡	●	柴	鏡物組成、火山ガラス形態	B-Tm		1					1									3c-1	IV期以前			
Ao-118	三内丸山(2)	第22号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		4					1										該当なし			
Ao-118	三内丸山(2)	第24号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm				4			1									4-3	V期以降			
Ao-118	三内丸山(2)	第25号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2					1									3c-1	IV期以前			
Ao-118	三内丸山(2)	第27号住居跡	●	三辻	蛍光X線	B-Tm		2					1									3c-1	IV期以前			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析					覆土				構築土				備考													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部			付属施設		自然・人為	備考	竪穴部		付属施設												
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝		掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴						掘立柱建物	周堤		
不明	備考																												
Ao-128	小牧野	Uトレンチ・第1号竪穴式住居跡	●						4														2		4-4	V期以降			
Ao-128	小牧野	ACTトレンチ・第1号竪穴式住居跡	●						4																	該当なし			
Ao-129	三内沢部(3)	第5号竪穴式住居跡	●	柴		鉱物組成、火山ガラス形態・EPMA	B-Tm, To-H				3														第4号住に切られる。	4-3	V期以降		
Ao-130	玉松台(2)	SI-01	●	三辻		蛍光X線	B-Tm							1												4-3	V期以降		
Ao-130	玉松台(2)	SI-02	●	三辻		蛍光X線	B-Tm												4		分析試料に本遺構名あるも、本文中には記載なし。					該当なし			
Ao-131	朝日山(3)	第405号住居跡	●	三辻		蛍光X線	B-Tm				4		3	4												4-3	V期以降		
Ao-131	朝日山(3)	第2号建物跡	●											4		1										第102号建物を改築したものの。	該当なし		
Ao-131	朝日山(3)	第102号建物跡	●											4		1										第2号建物に切られる。	該当なし		
Ao-131	朝日山(3)	第4号建物跡	●								3		3			1										4-3	V期以降		
Ao-131	朝日山(3)	第8号建物跡	●											4												該当なし			
Ao-131	朝日山(3)	第1号竪穴遺構	●								3		4	4		1										4-3	V期以降		
Ao-131	朝日山(3)	第2号竪穴遺構	●											4		2										該当なし			
Ao-115-116-131	朝日山	第1号住居跡	●	町田		鉱物・火山ガラス組成、火山ガラス・アルカリ長石屈折率	B-Tm							1												3c-1	IV期以前		
Ao-115-116-131	朝日山	第6号住居跡	●											3												該当なし			
Ao-115-116-131	朝日山	第8号住居跡	●								4	4	4	4												4-3	V期以降		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ										堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考														
			分析					覆土					構築土																												
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設	自然・人為	備考	堅穴部			付属施設		不明	備考																				
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b			全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド			柱穴						掘立柱建物	周堤												
Ao-115・116・131	朝日山	第17号住居跡		●								3																			該当なし										
Ao-132	二股(2)	第8号竪穴住居跡		●																						6		5b-2			V期以降構築										
Ao-132	二股(2)	第11号竪穴住居跡		●	柴	館物組成、火山ガラス形態	B-Tm,To-H						3												5		第9号住に切られる。	4-4		V期以降											
Ao-133	葛野(2)	第3号竪穴式住居跡		●									3	3	3																5a-1		V期以降								
Ao-133	葛野(2)	第5号竪穴式住居跡		●									4						1→ 2→ 1	テフラ混入層以上は自然堆積。カマドにも。												該当なし									
Ao-133	葛野(2)	第9号竪穴式住居跡		●										2																		3d-1		IV期							
Ao-133	葛野(2)	第15号竪穴式住居跡		●									4	4	4	4																	5a-1		V期以降						
Ao-134	新田(2)	第39号竪穴住居跡		●									3							二次堆積。								第33号住を切る。	5a-1				V期以降								
Ao-135	弥生平(1)	SH03		●										4						「床面付近」とだけあり図には示されず。													該当なし								
Ao-136	山ノ越	第2号住居跡		●									3																				該当なし								
Ao-136	山ノ越	第10号住居跡		●									3																					該当なし							
Ao-136	山ノ越	第11号住居跡		●									4																					該当なし							
Ao-136	山ノ越	第12号住居跡		●									4														1	第14号住を切り、第13号住に切られる。					該当なし								
Ao-136	山ノ越	第13号住居跡		●									4															第12号住を切る。						該当なし							
Ao-137	宇田野(2)	第4号住居跡		●	三辻	蛍光X線	B-Tm						4																					該当なし							
Ao-137	宇田野(2)	第11号住居跡		●	三辻	蛍光X線	To-a							4																					2-3		III期以降				
Ao-137	宇田野(2)	第12号住居跡		●	三辻	蛍光X線	To-a							4															第14号住に切られる。						該当なし						
Ao-138	平野	第1号住居跡		●									2																							3c-1		IV期以前			
Ao-139	八重菊(1)	A区1号		●	バリノ	火山ガラス・軽石形態、火山ガラス屈折率	B-Tm>To-a						1																							1		3c-1		IV期以前	鋳冶関連遺構。

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			分析					覆土						構築土																				
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考								
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤							
Ao-147	蘆野	第23号堅穴住居跡	●												3			2	カマド中位にも、いずれも図にはあるも本文には堆積なしと記載。											該当なし				
Ao-148	津山	第6号堅穴住居跡	●												4			1	二次堆積。											4-3	V期以降			
Ao-148	津山	第11号堅穴住居跡	●												4			1	二次堆積。											4-3	V期以降			
Iw-001	門松	AⅢh1住居跡	●	バリノ		軽石形態、火山ガラス形態・屈折率	To-a	1																						1a-1	I期			
Iw-001	門松	BⅡh6住居跡	●					1																							1a-1	I期		
Iw-001	門松	BⅠc5住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-001	門松	BⅡc8住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-001	門松	BⅢf3住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-001	門松	CⅡb6住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-001	門松	CⅡc8住居跡	●					1											層厚25cm。		1											1a-1	I期	
Iw-001	門松	BⅡb0住居状遺構	●					1																								1a-1	I期	
Iw-001	門松	BⅡc4住居状遺構	●					1																								1a-1	I期	
Iw-002	寺久保	第13号住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-002	寺久保	第14号住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-002	寺久保	第15号住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-002	寺久保	第16号住居跡	●					1																								1a-1	I期	
Iw-003	上台	第1号堅穴住居跡	●					1						1																		1a-1	I期	
Iw-003	上台	第2号堅穴住居跡	●					1						1					層厚92cm。													1a-1	I期	
Iw-003	上台	第3号堅穴住居跡	●						1					1																		1b-1	Ⅱ期	
Iw-003	上台	第4号堅穴住居跡	●					1						1																		1a-1	I期	
Iw-003	上台	第5号堅穴住居跡	●						1					1																		2	2-2	Ⅲ期
Iw-003	上台	第6号堅穴住居跡	●						1					1																		1a-1	I期	
Iw-003	上台	第7号堅穴住居跡	●					1						1																		1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考														
			分析					覆土						構築土																									
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設								不明	備考												
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤											
lw-004	駒焼場	ⅢA-11住居址	●									3																					ⅢA-102大溝に切られる。	2-3	Ⅲ期以降				
lw-004	駒焼場	ⅢA-13住居址	●																														ⅢA-3住、ⅢA-1住、ⅢA-101大溝に切られる。	2-3	Ⅲ期以降				
lw-004	駒焼場	ⅢA-16住居址	●										3																				ⅢA-102大溝に切られる。	2-3	Ⅲ期以降				
lw-004	駒焼場	ⅢA-18住居址	●										3																				ⅢA-102大溝に切られる。	重複	Ⅳ期以前				
lw-004	駒焼場	ⅢA-19住居址	●									1	3																				ⅣA-5住、ⅣA-101大溝、ⅢA-102大溝に切られる。	1a-1	I期				
lw-004	駒焼場	ⅢA-20住居址	●																														断面なく不明。		重複	Ⅳ期以前			
lw-004	駒焼場	ⅣA-2住居址	●											3																			残存不良。		ⅣA-3住を切る。	2-3+重複	Ⅳ期以降構築※ⅣA-3住より新		
lw-004	駒焼場	ⅣA-3住居址	●									3																					ビット埋土にも(焼失前に埋没)。		ⅣA-2住に切られる。	3a-1	Ⅳ期以降		
lw-004	駒焼場	ⅣA-4住居址	●																														最下部に小ブロック(断面なく不明)。		ⅣA-102溝に切られる。	該当なし			
lw-004	駒焼場	ⅣA-5住居址	●											3																			ⅢA-19住を切る。ⅣA-6住・ⅣA-101大溝に切られる。	2-3+重複	Ⅳ期以降構築※ⅢA-19住より新				
lw-004	駒焼場	ⅣA-6住居址	●											3																			大ブロック。		ⅣA-5住を切る。	2-3+重複	Ⅳ期以降構築※ⅣA-5住より新		
lw-004	駒焼場	ⅣA-7住居址	●											3																			ビット埋土にも	1	ⅣA-9住を切る。ⅣA-101大溝、ⅣA-103溝に切られる。	3b-2	Ⅳ期以降構築		
lw-004	駒焼場	ⅣA-8a住居址	●											3																			ビット埋土にも			5-3	3a-1+焼失	Ⅳ期以降	
lw-004	駒焼場	ⅣA-9住居址	●									1	3																					ⅣA-7住、ⅣA-101大溝に切られる。	1a-1	I期			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			分析				覆土					構築土			備考														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部		付属施設			自然・人為	堅穴部		付属施設													
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体		外周溝		掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物						周堤	不明			
lw-004	駒焼場(旧府金橋)	KI-H6住居址	●					3																		2-3	Ⅲ期以降		
lw-004	駒焼場	4号址	●					3																					
lw-004	駒焼場	5号址	●					3																					
lw-005	馬場	B I-01住居址	●					1					1→2→1	層厚15cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-005	馬場	C I-02住居址	●					1						層厚15cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-005	馬場	C I-03住居址	●					1																			1a-1	Ⅰ期	
lw-005	馬場	D I-01住居址	●					1						層厚16cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-005	馬場	D II-02住居址	●					1																1		1a-1	Ⅰ期		
lw-005	馬場	D II-03住居址	●					1																			1a-1	Ⅰ期	
lw-005	馬場	E II-02住居址	●					3																					
lw-005	馬場	E II-03住居址	●					1																			1a-1	Ⅰ期	
lw-005	馬場	F II-01住居址	●						3	1																	2-1	Ⅲ期	
lw-005	馬場	G I-01住居址	●					1																1		1a-1	Ⅰ期		
lw-006	荒田Ⅲ	1号竪穴住居跡	●					1					1	層厚20cm。水成少なくとも3回。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	D02住居址	●					1						層厚12cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	A03住居址	●					1						層厚10cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	C03住居址	●					1						層厚10cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	A05住居址	●					1						層厚25cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	C06住居址	●					1						層厚10cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	D09住居址	●					1						層厚5cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	B10住居址	●					1						層厚15cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	A11住居址	●					1						層厚25cm。										1			1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	C11住居址	●					1						層厚5cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	B15住居址	●					1						層厚4cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	D20住居址	●					1						層厚10cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	D26住居址	●					1						層厚39cm。													1a-1	Ⅰ期	
lw-007	上田面	B29住居址	●					1						層厚10cm。													1a-1	Ⅰ期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況														焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析					覆土					構築土				備考													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設	自然・人為	備考	竪穴部			付属施設												
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b				全体	外周溝		掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物						周堤			
不明																														
lw-007	上田面	A32住居址	●					1										層厚15cm。						1		1a-1	I期			
lw-007	上田面	C33住居址	●																									該当なし		
lw-007	上田面	B34住居址	●					1										層厚4cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	E34住居址	●					1										層厚14cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	B36住居址	●					1										層厚10cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	D39住居址	●					1										層厚25cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	C41住居址	●					1										層厚10cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	D41住居址	●					1										層厚10cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	B42住居址	●					1										層厚15cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	B50住居址	●															層厚15cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	C50住居址	●					1										層厚10cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	B52住居址	●					1										層厚10cm。									1a-1	I期		
lw-007	上田面	E06住居址	●																								2-3	Ⅱ期以降		
lw-007	上田面	D37住居址	●					3	3	3	2																5	2-1	Ⅲ期	
lw-007	上田面	A01住居址状	●						3																			該当なし		
lw-008	戸花B	2号址	●						1																1		1a-1	I期		
lw-009	戸花C	1号址	●					1										層厚20cm。								1		1a-1	I期	
lw-010	堀野	第一号住居址	●						1									層厚15cm。										1a-1	I期	
lw-010	堀野	第二号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第三号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第四号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第五号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第六号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第七号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第八号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第九号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第十号住居址	●						1																			1a-1	I期	
lw-010	堀野	第十一号住居址	●							1																		1a-1	I期	
lw-010	堀野	2号址	●						1																			1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			分析					覆土					構築土		備考																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考		堅穴部		付属施設														
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体				外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド						掘立柱建物	周堤						
																	不明	備考														
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																					1a-1	I期	
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-010	堀野	遺構名無	●						1																				1a-1	I期		
lw-011	長瀬A	Bb06住居址	●						3	3	3																		2-3	Ⅲ期以降		
lw-011	長瀬A	Bf15住居址	●						3	3																				該当なし		
lw-011	長瀬A	Bj21住居址	●						3	3																				該当なし		
lw-011	長瀬A	Ca09住居址	●						3	3																			3b-1	Ⅳ期以降構築		
lw-011	長瀬A	Cd12住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-011	長瀬A	Db03住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-011	長瀬A	Dw09住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Ah50住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Bj50住居址	●						4																					該当なし		
lw-012	長瀬B	Cd59住居址	●						4																					該当なし		
lw-012	長瀬B	Dc03住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Dg56住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Eg53住居址	●						4																					該当なし		
lw-012	長瀬B	Dd53住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Dg09住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Af59住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Bg50住居址	●						1																					1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Cb59住居址	●						1																					1a-1	I期	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況														焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考						
			分析					覆土							構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設				自然・人為	備考	堅穴部			付属施設												
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物			掘立柱建物	周堤	不明	備考												
lw-012	長瀬B	Cg50住居址	●					1																		1		1a-1	I期			
lw-012	長瀬B	Dj03住居址	●					1																		1		1a-1	I期			
lw-012	長瀬B	Ea12住居址	●					1																		1		1a-1	I期			
lw-012	長瀬B	Ei50住居址	●						1																			1b-1	II期			
lw-012	長瀬B	Gi06住居址	●					3																					Cj06住に切られる。	該当なし		
lw-012	長瀬B	Di03住居址	●					3																		2		Di06住に切られる。	2-4	III期以降		
lw-012	長瀬B	Cb53-1住居址	●							3																		Cb53-2住を切る。	2-3	III期以降		
lw-012	長瀬B	Cb53-2住居址	●								3																	Cb53-1住に切られる。	2-3	III期以降		
lw-012	長瀬B	Cj06住居址	●									3																Ci06住を切る。	2-3	III期以降		
lw-012	長瀬B	Da62住居址	●					3	3																	2?				2-4	III期以降	
lw-012	長瀬B	Dc09住居址	●					3	3										1							3		Dc03住を切る。	3b-1	IV期以降構築		
lw-012	長瀬B	Di06住居址	●					3	3	3																			Di03住を切る。	2-3	III期以降	
lw-012	長瀬B	Ea09住居址	●																1											3b-1	IV期以降構築	
lw-012	長瀬B	Ad62住居址	●					4																						該当なし		まとめ記載のみ。事実記載にはなし。
lw-012	長瀬B	Ba68住居址	●					4																						該当なし		まとめ記載のみ。事実記載にはなし。
lw-012	長瀬B	Be68住居址	●					4																	1					該当なし		まとめ記載のみ。事実記載にはなし。
lw-012	長瀬B	Bd03住居址	●					4																						該当なし		まとめ記載のみ。事実記載にはなし。
lw-012	長瀬B	Bi59住居址	●					4																	1					該当なし		まとめ記載のみ。事実記載にはなし。
lw-012	長瀬B	Da50住居址	●					4																						該当なし		
lw-012	長瀬B	Di15住居址	●					3																						該当なし		
lw-012	長瀬B	Bi06住居址状	●					1																						1a-1	I期	
lw-012	長瀬B	Ci62住居址状	●					3																						該当なし		
lw-012	長瀬B	Df12住居址状	●					3	3	3															2					2-4	III期以降	
lw-013	長瀬C	03B住居址	●					1																						1a-1	I期	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析					覆土					構築土		備考													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				自然・人為	備考	堅穴部		付属施設												
								上位	中位	床・底面a	床・底面b			付属施設		掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物						周堤			
					外周溝	付属施設																						
lw-013	長瀬C	03D住居址	●					1																1a-1	I期			
lw-013	長瀬C	07B住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	10A住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	11C住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	12A住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	14D住居址	●																								該当なし	図無く不明。
lw-013	長瀬C	15A住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	19A住居址	●					1															1	1a-1	I期			
lw-013	長瀬C	21B住居址	●																								該当なし	
lw-013	長瀬C	26B住居址	●					1															1	1a-1	I期			
lw-013	長瀬C	30A住居址	●																								該当なし	図無く不明。
lw-013	長瀬C	30B住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	30F住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	31D住居址	●					4	4	4	4															2-3	Ⅲ期以降	
lw-013	長瀬C	33C住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	34B住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	34D住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	36D住居址	●					4																			該当なし	
lw-013	長瀬C	47F住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	47H住居址	●					1															1	1a-1	I期			
lw-013	長瀬C	50G住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	54F住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	A-1住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	A-2住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	A-3住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-013	長瀬C	A-5住居址	●					3																			該当なし	
lw-013	長瀬C	B-1住居址	●					1																	1a-1	I期		昭和52年度調査の43E住居址。
lw-013	長瀬C	B-2住居址	●					1																	1a-1	I期		
lw-014	長瀬D	B03住居址	●					1																	1a-1	I期		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況														焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土							構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設								不明	備考					
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物			貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤													
lw-028	一戸城跡	S104竪穴住居跡	●					1																			1		1a-1	I期			
lw-028	一戸城跡	S110竪穴住居跡	●					1																					1a-1	I期			
lw-028	一戸城跡	S112竪穴住居跡	●					1																					1a-1	I期			
lw-028	一戸城跡	S113竪穴住居跡	●							3																							
lw-028	一戸城跡	S118竪穴住居跡	●							3																	1?						
lw-028	一戸城跡	S119竪穴住居跡	●					3																									
lw-028	一戸城跡	S120竪穴住居跡	●					3	3	3																	2		2-4	Ⅲ期以降			
lw-028	一戸城跡	S101		●	バリノ	組成、火山ガラス形態・屈折率	To-a・B-Tm					3															5		4-3	V期以降			
lw-028	一戸城跡	S108	●					1																					1a-1	I期			
lw-028	一戸城跡	S121	●					1																					1a-1	I期			
lw-028	一戸城跡	S101	●							4																			1				
lw-028	一戸城跡	S102(平成6年度調査S119)	●							4																			1				
lw-029	野田Ⅱ	S101	●							1																			1		1a-1	I期	
lw-030	北館	1号竪穴住居	●							4																		1					
lw-030	北館	2号竪穴住居	●							1																							
lw-031	北館B	AH09竪穴住居	●							1																			1		1a-1	I期	
lw-031	北館B	AH59竪穴住居	●							4																							
lw-031	北館B	BD03竪穴住居	●							1																			1		1a-1	I期	
lw-031	北館B	BG65竪穴住居	●										3																				
lw-031	北館B	BH56竪穴住居	●							4																							
lw-031	北館B	DI59竪穴住居	●							3		4	4																				
lw-031	北館B	ED53竪穴住居	●									4																					
lw-032	上野	ⅡD-1竪穴住居跡	●			古環境	鉱物組成・屈折率	To-a																									
lw-032	上野	ⅡD-5b竪穴住居跡	●									3																	1		ⅡD-5住に切られる。		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土					構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考					
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド								柱穴	掘立柱建物	周堤		
lw-032	上野	II D-16堅穴住居跡	●					1															1	II D-15住に切られる。	1a-1	I期				
lw-032	上野	II C-2堅穴住居跡	●					2	To-aかTo-Of																	1a-1	I期			
lw-032	上野	II C-3堅穴住居跡	●					3																1		該当なし				
lw-032	上野	II D-3堅穴住居跡	●					3	3																	該当なし				
lw-032	上野	II D-5堅穴住居跡	●					3	3	3																II D-5b住を切る。	3b-2	IV期以降構築		
lw-032	上野	II D-6堅穴住居跡	●					3																		該当なし				
lw-032	上野	II D-8堅穴住居跡	●							3																	2-3	III期以降		
lw-032	上野	II D-14堅穴住居跡	●								3																2-3	III期以降		
lw-032	上野	BH89堅穴住居	●																					4	図に層名なし。	BH83住を切る。	3b-2	IV期以降構築		
lw-032	上野	BH83堅穴住居	●					1																	1	BH89住に切られる。	1a-1	I期		
lw-032	上野	CB80堅穴住居	●					1																			1a-1	I期		
lw-032	上野	CF65堅穴住居	●					1																			1a-1	I期		
lw-032	上野	CI65堅穴住居	●																					3	図に層名なし。	該当なし				
lw-032	上野	CI71堅穴住居	●					1																			1a-1	I期		
lw-032	上野	BJ86堅穴状遺構	●																					1	図に層名なし。	該当なし				
lw-032	上野	BJ89堅穴状遺構	●																					1	図に層名なし。	該当なし				
lw-032	上野	AF54堅穴住居	●					1																			1a-1	I期		
lw-032	上野	AH42堅穴住居	●					2																			1a-1	I期		
lw-032	上野	AI57堅穴住居	●					4																			該当なし			
lw-032	上野	BA45堅穴住居	●					1																			BB42堅穴状、BA48住に切られる。	1a-1	I期	
lw-032	上野	BA48堅穴住居	●								3																BA45住を切る。	3b-2	IV期以降構築	
lw-032	上野	SI04	●					1?																	1	SI43に切られる。	該当なし			
lw-032	上野	SI12	●					1																			1a-1	I期		
lw-032	上野	F51堅穴住居	●					1																			1a-1	I期		
lw-032	上野	H33堅穴住居	●					1																			1a-1	I期		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土					構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考					
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド								掘立柱建物	周堤			
lw-032	上野	BF89整穴住居	●					1						1											1a-1	I期				
lw-032	上野	BC83整穴住居	●															4	図に層名なし。							該当なし				
lw-032	上野	AH62整穴住居	●									4														2-3	Ⅲ期以降			
lw-032	上野	CC09整穴住居	●					3																		該当なし				
lw-032	上野	BA09整穴住居	●					1					1	層厚20cm。						1						1a-1	I期			
lw-032	上野	BD09整穴住居	●									4								1						2-3	Ⅲ期以降			
lw-032	上野	BI59整穴住居	●					2					1	層厚20cm。												1a-1	I期			
lw-032	上野	3号址	●															4	図無し。							該当なし				
lw-032	上野	6号址	●															3	図無し。							該当なし				
lw-032	上野	7号址	●															3	図無し。							該当なし				
lw-032	上野	10号址	●															3	図無し。							該当なし				
lw-032	上野	BA33整穴住居	●															1	図に層名なし。							該当なし				
lw-032	上野	AF06整穴住居	●					4																		該当なし				
lw-032	上野	AJ12整穴住居	●					4						埋土外上方のみ。												該当なし				
lw-033	田中5	AI62整穴住居	●					1																		1a-1	I期			
lw-033	田中5	AI56整穴状遺構	●					3						2												該当なし				
lw-033	田中5	BE59整穴状遺構	●					1																		1a-1	I期			
lw-034	田中4	AF62整穴住居	●					1						1												1a-1	I期			
lw-034	田中4	BC59整穴住居	●					2?																		該当なし				
lw-034	田中4	BF68整穴住居	●									2														5	2-2	Ⅲ期		
lw-034	田中4	BI56整穴状遺構	●					1																		1a-1	I期			
lw-035	田中3	CJ65整穴住居	●					4	4	4																5	該当なし			
lw-035	田中3	CG62整穴状遺構	●					1																			2	2-2	Ⅲ期	
lw-036	田中	SI167	●											断面注記番号無し。													該当なし			
lw-036	田中	SI01	●					1																			1a-1	I期		
lw-036	田中	SI02	●					1																			1a-1	I期		
lw-036	田中	SI03	●					1																			1a-1	I期		
lw-036	田中	SI04	●					1																			1a-1	I期		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況																			
			分析					覆土							構築土									備考			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設			自然・人為	備考	竪穴部			付属施設			不明				
								上位	中↓下位	床・底面 a	床・底面 b	全体	外周溝	掘立柱建物			貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤							
遺失	重複	堆積分類	時期判定	備考																							
lw-036	田中	SI07	●					1															1a-1	I期			
lw-036	田中	SI09	●																	4					該当なし		
lw-036	田中	SI10	●					1														1			1a-1	I期	
lw-036	田中	SI11	●							3																該当なし	
lw-036	田中	SI13	●					1														1			1a-1	I期	
lw-036	田中	SI15	●					1																	1a-1	I期	
lw-036	田中	SI18	●						1																1a-1	I期	
lw-036	田中	SI20	●						1																1a-1	I期	
lw-036	田中	SI21	●						1																1a-1	I期	
lw-036	田中	SI22	●	●					3																1a-1	I期	
lw-036	田中	SI23	●						1													1			1a-1	I期	
lw-036	田中	SI21		●				4														1					
lw-036	田中	SI121			●			4																		3c-1	IV期以前
lw-036	田中	SI122	●					1														1			1a-1	I期	
lw-036	田中	SI101	●								3														SI135・136・146 を切る。	2-3	III期以降
lw-036	田中	SI102	●																			3				該当なし	
lw-036	田中	SI103	●								3															2-3	III期以降
lw-036	田中	SI105	●																			3				該当なし	
lw-036	田中	SI106	●							3?																該当なし	
lw-036	田中	SI107	●								4															2-3	III期以降
lw-036	田中	SI108	●																			3				該当なし	
lw-036	田中	SI109	●																						1	3b-1	IV期以降構築
lw-036	田中	SI110	●																			4				該当なし	
lw-036	田中	SI111	●								4															2-3	III期以降
lw-036	田中	SI112	●								4															2-3	III期以降
lw-036	田中	SI113	●								3														SI114に切られる	2-3	III期以降

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土						構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設		自然・人為	備考	竪穴部		付属施設								不明	備考					
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤												
lw-039	御所野	111号竪穴住居	●					3																	1? 2?		該当なし					
lw-039	御所野	115号竪穴住居	●						4																		209住を切る。	3b-1以降	IV期以降構築			
lw-039	御所野	138号竪穴住居	●						4																			2-3	III期以降			
lw-039	御所野	146号竪穴住居	●						4	4																		2-3	III期以降			
lw-039	御所野	158号竪穴住居	●								4																	2-3	III期以降			
lw-039	御所野	209号竪穴住居	●									4															115号住に切られる。	3a-1	IV期以降			
lw-039	御所野	67号竪穴住居	●					4	4	4																		該当なし				
lw-039	御所野	92号竪穴住居	●					4	4	4																	2-5	2-4	III期以降			
lw-039	御所野	100号竪穴住居	●							3	3																	2-3	III期以降			
lw-039	御所野	60号竪穴住居	●						1																							
lw-039	御所野	40号竪穴状遺構	●	●					2																							
lw-039	御所野	42号竪穴状遺構	●									4																				
lw-039	御所野	44号竪穴状遺構	●	●					4																							
lw-039	御所野	170号竪穴住居跡	●					4	4	4																			該当なし			
lw-040	子守A	AG56竪穴住居	●					4																				6	該当なし			
lw-041	大平	SI01	●						4																			2				
			●	●					4																			1		2-4	III期以降	
lw-041	大平	SI02	●						3		3																	2				
			●	●					4																			2		4-3	V期以降	
lw-041	大平	SI04	●						3	4																			該当なし			
lw-041	大平	SI05	●						1																					1a-1	I期	
lw-041	大平	SI07	●						1																			1	1a-1	I期		
lw-041	大平	SI08	●						3		3																			2-3	III期以降	
lw-041	大平	SI09	●									3																		2-3	III期以降	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ			堆積層位・状況										備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			分析			覆土					構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設	自然・人為	備考	竪穴部							付属施設							
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝							掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤			
lw-045	大向上平	2号竪穴住居跡	●							4															2-3	Ⅲ期以降			
lw-045	大向上平	3号竪穴住居跡	●										1												10号住を切る。	3b-1以降	Ⅳ期以降構築		
lw-045	大向上平	4号竪穴住居跡	●												1										3b-1	Ⅳ期以降構築			
lw-045	大向上平	5号竪穴住居跡	●							3						1									3b-1	Ⅳ期以降構築			
lw-045	大向上平	6号竪穴住居跡	●							3			1												2-3	Ⅲ期以降			
lw-045	大向上平	7号竪穴住居跡	●					3	3							1									3b-1	Ⅳ期以降構築			
lw-045	大向上平	8号竪穴住居跡	●					3	3	3															2-3	Ⅲ期以降			
lw-045	大向上平	9号竪穴住居跡	●							3															2-3	Ⅲ期以降			
lw-045	大向上平	10号竪穴住居跡	●							3			2	3号住構築時の埋め戻し。		1									3号住に切られる。	3b-1	Ⅳ期以降構築		
lw-046	大向Ⅱ	2号竪穴住居跡	●					3	3																4号住より新(遺物接合関係)。	該当なし			
lw-046	大向Ⅱ	4号竪穴住居跡	●																						畠作耕地復旧痕に切られる。	該当なし			
lw-046	大向Ⅱ	5号竪穴住居跡	●							3															2号(1号の隣り?)畠作耕地復旧痕跡に切られる。	2-3	Ⅲ期以降		
lw-046	大向Ⅱ	6号竪穴住居跡	●							3															2-5	2-3	Ⅲ期以降		
lw-046	大向Ⅱ	7号竪穴住居跡	●					1																		1a-1	I期		
lw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	●							3						1									3b-1	Ⅳ期以降構築			
lw-046	大向Ⅱ	9号竪穴住居跡	●							3						1									3b-1	Ⅳ期以降構築			
lw-046	大向Ⅱ	10号竪穴住居跡	●						1	1															6号・7号畠作耕地復旧痕跡に切られる。	2-1	Ⅲ期		
lw-046	大向Ⅱ	11号竪穴住居跡	●					3	3																	該当なし			
lw-046	大向Ⅱ	12号竪穴住居跡	●						1																	1a-1	I期		
lw-046	大向Ⅱ	13号竪穴住居跡	●					3	3																	該当なし			
lw-046	大向Ⅱ	14号竪穴住居跡	●						1																	1	1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考		
			分析						覆土				構築土												
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部			付属施設		自然・人為	備考	竪穴部		付属施設							不明	備考
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド							
lw-049	飛鳥台地 I	IV-2住居跡	●							3								3	2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	IV-3住居跡	●							3									2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	JIV-1住居跡	●						3	3	3								2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	JIV-2住居跡	●	●					4																
lw-049	飛鳥台地 I	JIV-2住居跡	●						3				ほぼ床b。						2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	FIV-2住居状遺構	●							3									2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	FIV-4住居状遺構	●												1				3b-1	Ⅳ期以降構築					
lw-049	飛鳥台地 I	BI-1住居跡	●						3										該当なし						
lw-049	飛鳥台地 I	BI-1住居跡	●	●					4	2									3d-1	Ⅳ期					
lw-049	飛鳥台地 I	CII-1住居跡	●								3								2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	CII-2住居跡	●								3								2-3	Ⅲ期以降					
lw-049	飛鳥台地 I	CIII-4住居跡	●							1									DIII-1住に切られる。	1b-1	Ⅱ期				
lw-049	飛鳥台地 I	CIII-5住居跡	●						4											該当なし					
lw-049	飛鳥台地 I	CIII-6住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a		1											1a-1	Ⅰ期				
lw-049	飛鳥台地 I	CIII-8住居跡	●						3											該当なし					
lw-049	飛鳥台地 I	CIII-9住居跡	●														4	図無し。		該当なし					
lw-049	飛鳥台地 I	DII-1住居跡	●								3								DII-4住に切られる。	2-3	Ⅲ期以降				
lw-049	飛鳥台地 I	DII-4住居跡	●								3								DII-1住を切る。	3b-2	Ⅳ期以降構築				
lw-049	飛鳥台地 I	DII-2住居跡	●								3								2-5	2-3	Ⅲ期以降				
lw-049	飛鳥台地 I	DII-3住居跡	●								3									2-3	Ⅲ期以降				
lw-049	飛鳥台地 I	DIII-1住居跡	●								3								CIII-4住、DIII-2住を切る。	3b-2	Ⅳ期以降構築				
lw-049	飛鳥台地 I	DIII-2住居跡	●	●					1										DIII-1住に切られる。	1a-1	Ⅰ期				
lw-049	飛鳥台地 I	DIII-4住居跡	●								3									2-3	Ⅲ期以降				

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			分析						覆土					構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設						不明	備考						
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド								柱穴	掘立柱建物	周堤			
lw-049	飛鳥台地 I	DⅢ-5住居跡	●							3	3																2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	DⅢ-9住居跡	●										3														2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	EⅢ-1住居跡	●										3														2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	EⅢ-2住居跡	●														1										3b-1	Ⅳ期以降構築			
lw-049	飛鳥台地 I	EⅣ-6住居跡	●										3														2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	EⅣ-10住居跡	●	●						3																				該当なし	
lw-049	飛鳥台地 I	FⅡ-1住居跡	●							3	3	3															2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	FⅢ-1住居跡	●							1																		1a-1	I期		
lw-049	飛鳥台地 I	FⅣ-5住居跡	●									3															2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	FⅣ-6住居跡	●									3															2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	FⅣ-9住居跡	●									3															2-3	Ⅲ期以降			
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-1住居跡	●									3															GⅢ-2住を切る。	3b-2	Ⅳ期以降構築		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-2住居跡	●									3															GⅢ-1住に切られる。	2-3	Ⅲ期以降		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-3住居跡	●									2																1b-1	Ⅱ期		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-4住居跡	●									3																2-3	Ⅲ期以降		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-5住居跡	●							3	3																	2-3	Ⅲ期以降		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-6住居跡	●	●								3																2-3	Ⅲ期以降		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-7住居跡	●									3																GⅣ-3住に切られる。	2-3	Ⅲ期以降	
lw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-3住居跡	●								3	3																GⅢ-7住を切る。	重複	Ⅳ期以降構築	
lw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-4住居跡	●							2																		1a-1	I期		
lw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-5住居跡	●							1																			1a-1	I期	
lw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-6住居跡	●							1																			1a-1	I期	
lw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-7住居跡	●									3																1	3b-1	Ⅳ期以降構築	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ													堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																															
			分析						覆土							構築土																																														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設			備考	堅穴部		付属施設		不明	備考																																									
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物		掘立柱建物	掘立柱建物	掘立柱建物																																												
lw-051	大久保 I	H-3住居址	●										3	3																					2-3	III期以降																										
lw-051	大久保 I	H-4住居址	●																																	2-3	III期以降																									
lw-051	大久保 I	H-5住居址		●	井上・山田	重・軽雑物組成	否	小牧火山灰							1						1	ほぼ床a。															3c-1	IV期以前																								
lw-052	桂平 I	SI01	●																																		2-3	III期以降																								
lw-052	桂平 I	SI02	●																																		2-3	III期以降																								
lw-052	桂平 I	SI03	●																																			2-3	III期以降																							
lw-052	桂平 I	SI04		●											1																							3c-1	IV期																							
lw-052	桂平 I	SI05	●																																				2-1	III期																						
lw-052	桂平 I	SI08		●	バリノ	重雑物・火山ガラス比分析、火山ガラス屈折率	否	B-Tm					4	1																							1			3c-1	IV期																					
lw-052	桂平 I	SI09	●										3	3	3																									2-3	III期以降																					
lw-052	桂平 I	SI11		●									4	1																											3c-1	IV期																				
lw-052	桂平 I	SI14		●											3	3																											2-3	III期以降																		
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-1住居址	●																																									5		2-3	III期以降															
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-2住居址	●										3	3																															VIC-5住状に切られる。		該当なし															
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-5住居址状遺構	●										3	3																																VIC-2住を切る。		該当なし														
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-3住居址状遺構	●										3	3																																			該当なし													
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-4住居址状遺構	●										3	3	3																																		2-3	III期以降												
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-3住居址	●																																															2-3	III期以降											
lw-053	桂平II (旧桂平)	VIC-2住居址	●																																																2-3	III期以降										
lw-053	桂平II (旧桂平)	VI E-2住居址状遺構	●												2																																					1a-1	I期									
lw-053	桂平II (旧桂平)	VI D-1住居址	●																																																			2-5					5b-1	VI期以降構築		
				●																																																					3-5					

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ													堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析						覆土							構築土																					
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設			自然・人為	備考	堅穴部			付属施設			不明	備考													
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物			貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤																	
Iw-053	桂平II(旧桂平)	VID-2住居址	●							4	4	4				1										3-5		3b-1	IV期以降構築								
				●						4																	1										
Iw-053	桂平II(旧桂平)	VID-3住居址	●							3																											
				●						2																	1										
Iw-053	桂平II(旧桂平)	VID-1住居址	●		三辻	蛍光X線	To-a				3				1	ほぼ床b。											5		2-3~3c-1	Ⅲ~IV期							
				●		三辻	蛍光X線	B-Tm				2				1												1									
Iw-053	桂平II(旧桂平)	WE-1住居址	●							1				1															3c-1	IV期以前							
Iw-053	桂平II(旧桂平)	WD-1住居址	●								2				1														4-2	V期							
Iw-053	桂平II(旧桂平)	WC-1住居址	●								2				1														3d-1	IV期							
Iw-053	桂平II(旧桂平)	XC-1住居址	●								2				1														4-2	V期							
Iw-053	桂平II(旧桂平)	XC-1住居址	●								2					一部床b。													3d-1	IV期							
Iw-054	沼久保I(旧沼久保)	IE-5住居址	●							3	3	3																	2-3~3c-1	Ⅲ~IV期							
				●						2																											
Iw-054	沼久保I(旧沼久保)	IF-6住居址	●									3			1			1	1										3b-1	IV期以降構築							
Iw-054	沼久保I(旧沼久保)	IF-8住居址	●									3	3?		1														2-5?	2-4	Ⅲ期以降						
Iw-054	沼久保I(旧沼久保)	IE-1住居址	●									3	3?		1														2?-5?	2-4	Ⅲ期以降						
Iw-054	沼久保I(旧沼久保)	VF-1住居址	●									3	3?																5	2-4~3c-1	IV期						
				●									2																2								
Iw-054	沼久保I(旧沼久保)	IF-10住居址状	●							4																					該当なし						
Iw-055	浄法寺城跡	KSI01	●																												検出のみ。						
				●																														検出のみ。			
Iw-055	浄法寺城跡	KSI02	●																													検出のみ。					
Iw-055	浄法寺城跡	KSI05	●																											1			3b-1	IV期以降構築			
Iw-055	浄法寺城跡	KSI06	●								3	3	3																					2-4	Ⅲ期以降		
Iw-055	浄法寺城跡	KSI06	●								4																										
Iw-056	海上I	IG24住居址	●									3			1																			2-5	2-4	Ⅲ期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			分析					覆土					構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部							付属施設		不明	備考				
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床						カマド	柱穴			掘立柱建物	周堤		
lw-062	関沢口	D V-2住居址	●					3		3					床bはピットの み。		1										3b-1	IV期以降構 築		
lw-062	関沢口	E IV-1住居址	●								4																2-3	III期以降		
lw-062	関沢口	E IV-2住居址	●					3																				該当なし		
lw-062	関沢口	H IV-1住居址	●						3																			該当なし		農鍛冶工房 跡？
lw-063	有矢野館跡	1号堅穴住居跡	●							3				1													2-3	III期以降		
lw-063	有矢野館跡	3号堅穴住居跡	●					3		3				1													2-3	III期以降		
lw-063	有矢野館跡	6号堅穴住居跡	●						3					2													3a-1	IV期以降		
lw-064	谷地田 I	II B-6住居跡	●							3				1													2-3	III期以降		
lw-064	谷地田 I	II B-7住居跡	●							3				1	床bに近い。													該当なし		
lw-064	谷地田 I	III A-1住居跡	●								3			2													3a-1	IV期以降		
lw-065	上の山X	A II-1住居址	●					3							床aに近い。													該当なし		
lw-066	上の山館	C I c6住居址	●								3																2-3	III期以降		
lw-067	上の山VII	B IV-1住居址	●					3							床aに近い。										2		2-4	III期以降		
lw-067	上の山VII	C II-1住居址	●								4																2-3	III期以降		
lw-067	上の山VII	C III-1住居址	●						3	3	3																2-3	III期以降		
lw-067	上の山VII	C IV-1住居址	●						2	3	3							1									3b-1	IV期以降構 築		
lw-067	上の山VII	C IV-2住居址	●					3	3																	1?		該当なし		
lw-067	上の山VII	D III-1住居址	●							3					焼失材下から 多く検出。										3		2-3	III期以降		
lw-067	上の山VII	E II-1住居址	●								4				ピットにも。												2-3	III期以降		
lw-067	上の山VII	E II-3住居址	●					3	3																2		2-4	III期以降		
lw-067	上の山VII	E III-1住居址	●									3															2-3	III期以降		
lw-067	上の山VII	E III-2住居址	●									3						1									3b-1	IV期以降構 築		
lw-067	上の山VII	E III-3住居址	●					3	3																			該当なし		
lw-067	上の山VII	F III-1住居址	●					4																				該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析					覆土						構築土														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考		
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤	
lw-067	上の山Ⅶ	GⅢ-1住居址	●							3														2・5	2-3	Ⅲ期以降		
lw-067	上の山Ⅶ	GⅢ-2住居址	●							3																2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	GⅢ-3住居址	●						3	3	3															2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	HⅡ-1住居址	●						3	3						1										3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-067	上の山Ⅶ	HⅢ-2住居址	●							3															2・5	2-4	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	IⅠ-3住居址	●								3															2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	IⅡ-1住居址	●								3													2	2-3	Ⅲ期以降		
lw-067	上の山Ⅶ	IⅡ-2住居址	●								3				1											3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-067	上の山Ⅶ	IⅡ-3住居址	●								3															2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	IⅢ-1住居址	●								3				1										2・5	3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-067	上の山Ⅶ	IⅢ-2住居址	●								3				1										2・5	3b-1+3c-1	Ⅳ期構築・廃絶	
lw-067	上の山Ⅶ	IⅢ-4住居址	●	●						2					1										1?	該当なし		
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-1住居址	●							3																該当なし		
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-2住居址	●								3														2	2-4	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-3住居址	●												1										2・5	3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-4住居址	●									3													2	2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	JⅢ-1住居址	●									3														2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	KⅡ-1住居址	●									3														2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	MⅢ-1住居址	●									3													2・5	2-3	Ⅲ期以降	
lw-067	上の山Ⅶ	NⅢ-1住居址	●							3	3	3													1?	該当なし		
lw-067	上の山Ⅶ	OⅢ-2住居址	●								3					1									2	3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-067	上の山Ⅶ	OⅢ-3住居址	●									3				1									2・5	3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-067	上の山Ⅶ	OⅣ-1住居址	●							3	3														2・5	2-3	Ⅲ期以降	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況																																					
			分析					覆土					構築土			不明	備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																							
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考								堅穴部		付属施設																				
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝										掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤																		
lw-067	上の山Ⅶ	PⅢ-1住居址	●						3																						該当なし														
lw-067	上の山Ⅶ	RⅢ-1住居址	●										3																		2-3			Ⅲ期以降											
lw-067	上の山Ⅶ	TⅣ-1住居址	●											4																2			2-3		Ⅲ期以降										
lw-067	上の山Ⅶ	DⅢ-21小屋址	●						3	3																								該当なし											
lw-067	上の山Ⅶ	HⅢ-21小屋址	●												3																			2-3		Ⅲ期以降									
lw-067	上の山Ⅶ	IⅡ-21小屋址	●																															2-3		Ⅲ期以降									
lw-067	上の山Ⅶ	IⅡ-22小屋址	●																															2-3		Ⅲ期以降									
lw-067	上の山Ⅶ	IⅡ-23小屋址	●						3																									3a-1		Ⅳ期以降									
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-21小屋址	●						3	3	2																									1b-1		Ⅱ期							
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-22小屋址	●												3																					2-3		Ⅲ期以降							
lw-067	上の山Ⅶ	JⅡ-23小屋址	●														3																			2-3		Ⅲ期以降							
lw-067	上の山Ⅶ	KⅠ-21小屋址	●																																	2-3		Ⅲ期以降							
lw-068	扇畑Ⅱ	HⅡc8住居址	●												4																						2-3		Ⅲ期以降						
lw-068	扇畑Ⅱ	HⅡi8住居址	●													4																						2-3		Ⅲ期以降					
lw-068	扇畑Ⅱ	HⅡj4住居址	●														3																						2-3		Ⅲ期以降				
lw-069	扇畑Ⅰ	AⅠ-1住居址	●						3																														該当なし						
lw-069	扇畑Ⅰ	BⅡ-1住居址	●											3																									該当なし						
lw-069	扇畑Ⅰ	CⅠ-1住居址	●												3																								2-3		Ⅲ期以降				
lw-069	扇畑Ⅰ	CⅠ-2住居址	●													3																							2-3		Ⅲ期以降				
lw-069	扇畑Ⅰ	CⅠ-3住居址	●												3																									3b-2		Ⅳ期以降構築			
lw-069	扇畑Ⅰ	CⅡ-1住居址	●													3																							3a-1		Ⅳ期以降				
lw-069	扇畑Ⅰ	DⅠ-1住居址	●																																					2-3		Ⅳ期以降構築			
lw-069	扇畑Ⅰ	DⅢ-1住居址	●																																						2-3		Ⅲ期以降		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況														備考	重複	堆積分類	時期判定	備考			
			分析					覆土							構築土														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設			自然・人為	備考	竪穴部			付属施設									
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物			掘立柱建物	掘立柱建物	周堤	不明	備考								
lw-069	扇畑 I	E II-2住居址	●								3												2-3	Ⅲ期以降	削平顯著。				
lw-069	扇畑 I	E II-3住居址	●								3												2-3	Ⅲ期以降	削平顯著。				
lw-070	赤坂田 I	KⅢa3住居址	●								4												2-3	Ⅲ期以降					
lw-071	菘口 I	第2号竪穴住居跡	●		三辻	未記載	To-a	1																1					
			●		三辻	未記載	B-Tm	2																	1				
lw-072	皂角子久保 V	2号住居	●						2		3													2-3~3c-1	Ⅲ~Ⅳ期				
lw-073	皂角子久保 VI	I A-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	3																		該当なし			
lw-073	皂角子久保 VI	II A-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a			3															2-3~3c-1	Ⅲ~Ⅳ期			
			●		三辻	蛍光X線	B-Tm	1																					
lw-073	皂角子久保 VI	IV A-1住居跡	●					3	3	3															2-3~3c-1	Ⅲ~Ⅳ期			
			●				1																						
lw-073	皂角子久保 VI	IV A-2住居跡	●					3	3	3															2-3~3c-1	Ⅲ~Ⅳ期			
			●				1																						
lw-073	皂角子久保 VI	2号住居	●								3													2-3	Ⅲ期以降	県埋文調査のⅢA-1住居跡。			
lw-073	皂角子久保 VI	3号住居	●								3	3													2-3	Ⅲ期以降			
			●				3																						
lw-074	君成田 IV	J51住居址	●					1																	1	1a-1	I期		
lw-074	君成田 IV	157住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	II G41住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	II G48住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	II I44-1住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	III B54住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	III C53住居址	●						1	1																1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	IV B36住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	IV D34住居址	●						1																	1	1a-1	I期	下位に浸透。
lw-075	駒板	IV D36住居址	●						1																	1	1a-1	I期	
lw-075	駒板	IV D39住居址	●						1																	1	1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考						
			分析					覆土					構築土																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考				
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド								柱穴	掘立柱建物	周堤	
lw-075	駒板	IVE37住居址	●					1															1		1a-1	I期			
lw-075	駒板	IVG37住居址	●					4	4	4																2-3	Ⅲ期以降		
lw-076	丸木橋	第2号住居跡	●					1																	1	1a-1	I期		
lw-076	丸木橋	第3号住居跡	●					1																	1	1a-1	I期		
lw-076	丸木橋	第4号住居跡	●					4																	1	該当なし			
lw-076	丸木橋	第5号住居跡	●					1																		1a-1	I期		
lw-076	丸木橋	第6号住居跡	●					1																		1a-1	I期		
lw-076	丸木橋	第7号住居跡	●					4																	1	該当なし			
lw-076	丸木橋	第9号住居跡	●					1																		1a-1	I期		
lw-076	丸木橋	第10号住居跡	●					1																	1	1a-1	I期		
lw-077	竪Ⅱ	第25号住居址	●		町田	未記載	To-a	4																			該当なし		
lw-077	竪Ⅱ	第26号住居址	●					4																			該当なし		
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	CⅠ-1住居址	●					3																			該当なし		
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	CⅡ-5住居址	●																								3b-2	Ⅳ期以降構築	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅠ-1住居址	●					3	3	3																2	2-4	Ⅲ期以降	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅡ-2住居址	●							2																	1b-1	Ⅱ期	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅡ-3住居址	●					3		3	3																2-3	Ⅲ期以降	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅡ-4住居址	●								4																2-3	Ⅲ期以降	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	EⅠ-1住居址	●								2																2-1	Ⅲ期	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	FⅡ-1住居址	●								4															5	2-3	Ⅲ期以降	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	FⅡ-2住居址	●								3																2-3	Ⅲ期以降	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	HⅡ-1住居址	●					1																			1a-1	I期	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	HⅡ-4住居址	●								3																2-3	Ⅲ期以降	
lw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	IⅡ-1住居址	●									3															2-3	Ⅲ期以降	

遺跡No	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土						構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部			付属施設			自然・人為	備考	竪穴部		付属施設								不明	備考					
上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	竪穴部	カマド	掘立柱建物	周堤																					
Ao-026	砂子	第17号竪穴住居跡	●					4	4	4								旧カマド上位にも。	1								最新のカマドのみ。		3b-1	IV期以降構築		
Ao-026	砂子	第18号竪穴住居跡		●				4	4								1	ビット中位、新期カマド中位・床aにも。											該当なし			
Ao-026	砂子	第19号竪穴住居跡		●				4	4	4																	2-5	4-3	V期以降			
Ao-026	砂子	第20号竪穴住居跡		●				4	4									旧カマドのみ。											遺構内重複	VI期以降		
Ao-026	砂子	第21号竪穴住居跡	●					4																					該当なし			
Ao-026	砂子	第22号竪穴住居跡		●				4	4									間層挟む。カマド床a・中位にも。											該当なし			
Ao-026	砂子	第23号竪穴住居跡	●					4	4								1	カマド天蓋設置室内にも。											該当なし			
Ao-026	砂子	第24号竪穴住居跡		●				4	4									旧カマド上位にも。									2	4-4	V期以降			
Ao-026	砂子	第25号竪穴住居跡		●				4	4									ビット上位にも。カマド上位に属	1										5b-1	VI期以降構築		
Ao-026	砂子	第26号竪穴住居跡	●						4									覆りなく床bに近い。カマド中位にも。											該当なし			
Ao-026	砂子	第27号竪穴住居跡		●				4	4									ビット上位、新旧カマド上～中位のみ。											該当なし			
Ao-026	砂子	第28号竪穴住居跡	●					4	4	4								ビット上～中位、カマド中～床aにも。											5a-1	VI期以降		
Ao-026	砂子	第29号竪穴住居跡		●				4	4	4																			該当なし			
Ao-026	砂子	第31号竪穴住居跡	●					4										張り出し部のみ。												2		
Ao-026	砂子	第31号竪穴住居跡		●				4	4									ビット・カマド上～中位にも。											4-4	V期以降		
Ao-026	砂子	第32号竪穴住居跡		●				4	4	4																				4-3	V期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況																					
			分析					覆土								構築土				備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設				自然・人為	備考	堅穴部								付属施設			
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床			カマド	掘立柱建物							周堤			
lw-097	平沢 I	第19住居跡	●					4																該当なし					
lw-097	平沢 I	第20住居跡	●						4																該当なし				
lw-097	平沢 I	第21住居跡		●				4																	該当なし				
lw-097	平沢 I	第22住居跡	●					4																	該当なし				
lw-097	平沢 I	第24住居跡		●				4																	該当なし				
lw-097	平沢 I	RA504	●						4						1											1b-1	II期		
lw-097	平沢 I	RA505	●					4							1										1	該当なし			
lw-097	平沢 I	RA507	●					2							1											1	1a-1	I期	
lw-097	平沢 I	RA508	●					3							1											1	該当なし		
lw-097	平沢 I	RA509	●					4							1											1	該当なし		
lw-097	平沢 I	RA510	●					4							1												該当なし		
lw-097	平沢 I	RA511		●				4							1												該当なし		
lw-097	平沢 I	RA512		●					4						1												該当なし		
lw-097	平沢 I	RA513	●					2							1											1	1a-1	I期	
lw-097	平沢 I	RA514	●					4							1												該当なし		
lw-097	平沢 I	RA515	●					4							1											1	該当なし		
lw-097	平沢 I	RA517		●					4																		該当なし		
lw-097	平沢 I	RA521	●					4							1												4-3	V期以降	
lw-097	平沢 I	RA522		●				2			4				1												3c-1	IV期以前	
lw-098	平清水 II	第11号住居跡	●					4							1												該当なし		
lw-099	長者屋敷	DV-1住居址	●					4																			1	該当なし	
lw-099	長者屋敷	DV-2住居址	●					4																			該当なし		
lw-099	長者屋敷	EIV-2住居址	●																	1							3b-1	IV期以降構築	
lw-099	長者屋敷	EIV-2住居址	●							4																		2-3	III期以降
lw-099	長者屋敷	EIII-1住居址	●					4		4																5	2-3	III期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況																								
			分析				覆土											構築土			備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設							堅穴部								付属施設				
								上位	中s 下位	床 底面 a	床 底面 b	全体	外周溝	掘立 柱建物	自然・ 人為	備考	貼り 床	カマド	掘立 柱建物	周堤	不明										
lw-099	長者屋敷	EV-9住居址	●				4	4	4												図のみ。本文なし(未報告)	1					3-5		3b-1	IV期以降構築	
lw-099	長者屋敷	EV-11住居址	●				4	4	4																				—	—	
lw-099	長者屋敷	EVI-1住居址	●							4																			2-3	Ⅲ期以降	
lw-100	子飼沢山	5号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	6号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	7号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	10号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	11号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	13号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	14号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	北区1号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-100	子飼沢山	北区2号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	2号整穴住居跡	●																1										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	7号整穴住居跡	●																1										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	1号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	4号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	11号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	16号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-101	暮坪	18号整穴住居跡	●																										3b-2	IV期以降構築	
lw-102	上斗内V	B-20整穴住居跡	●					1																		1		1a-1	I期		
lw-103	野駄	G I -3住居址	●					1																					1a-1	I期	
lw-104	今松	第3号住居	●					1																		1		1a-1	I期		
lw-104	今松	第4号住居	●					1																					1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			分析				覆土						構築土																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部			付属施設										
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴						掘立柱建物	周堤	不明	備考	
lw-105	仙波堤	第1号住居	●					1								層厚15cm。						1		1a-1	I期				
lw-105	仙波堤	第2号住居	●					1														1		1a-1	I期				
lw-105	仙波堤	第3号住居	●					1														1		1a-1	I期				
lw-105	仙波堤	第26号住居	●					1																1a-1	I期				
lw-106	秋浦 I	RA01	●						4	4						底bはピットの み。									2-3	Ⅲ期以降			
lw-106	秋浦 I	RA26	●						4																				
lw-107	川口 I	CⅡa3住居址	●	井上	粒径区分、重 鉱物鑑定	東岩手火山起 源 岩手a		3																					
lw-108	才津沢	5号住居跡	●					4																					
lw-108	才津沢	7号住居跡	●					1															1		1a-1	I期			
lw-109	戸名沢 I	4号住居跡	●	古環境	組成、火山ガラ ス・斜方輝石屈 折率	To-a			1							層厚10cm。							2		2-2	Ⅲ期			
lw-109	戸名沢 I	5号住居跡	●					4															1						
lw-109	戸名沢 I	6号住居跡	●						4	4						排水溝4。								2-5		2-3	Ⅲ期以降		
lw-109	戸名沢 I	7号住居跡	●								4												3		3b-1	Ⅳ期以降構 築			
lw-109	戸名沢 I	8号住居跡	●								4												3		3b-1	Ⅳ期以降構 築			
lw-109	戸名沢 I	9号住居跡	●						4	4																2-3	Ⅲ期以降		
lw-110	芋田 II	第1号住居跡	●					2																		1a-1	I期		
lw-110	芋田 II	第2号住居跡	●					4																					
lw-110	芋田 II	第3号住居跡	●					3															1						
lw-110	芋田 II	第4号住居跡	●					2															1			1a-1	I期		
lw-110	芋田 II	第5号住居跡	●					4																					
lw-110	芋田 II	第6号住居跡	●					4																					
lw-110	芋田 II	第8号住居跡	●					3																					
lw-110	芋田 II	第9号住居跡	●						4	4																	2-3	Ⅲ期以降	
lw-110	芋田 II	第11号住居跡	●					1																			1a-1	I期	
lw-110	芋田 II	第14号住居跡	●					1																			1a-1	I期	
lw-110	芋田 II	第15号住居跡	●							3							床bに最も多 い。											2-3	Ⅲ期以降

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況														遺失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析					覆土						構築土																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設									不明	備考		
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤									
lw-110	芋田Ⅱ	第17号住居跡	●						3																	該当なし				
lw-110	芋田Ⅱ	第18号住居跡	●						3																		該当なし			
lw-110	芋田Ⅱ	第19号住居跡	●						2																		1a-1	I期		
lw-110	芋田Ⅱ	第20号住居跡	●								3			床aに最も多い。													2-3	Ⅲ期以降		
lw-110	芋田Ⅱ	第21号住居跡	●						4																		該当なし			
lw-110	芋田Ⅱ	第2号住居状遺構	●								3																2-3	Ⅲ期以降		
lw-110	芋田Ⅱ	第3号住居状遺構	●						2																		1a-1	I期		
lw-110	芋田Ⅱ	第1号住居跡	●						1					1													1a-1	I期		
lw-110	芋田Ⅱ	第2号住居跡	●						1					1													1a-1	I期	カマド構築前に鍛冶関連作業の痕跡。	
lw-110	芋田Ⅱ	第3号住居跡	●						3					1													該当なし			
lw-110	芋田Ⅱ	第4号住居跡	●								3			1													2-3	Ⅲ期以降	煙達状施設と耳皿の存在から祭祀の可能性。	
lw-110	芋田Ⅱ	第5号住居跡	●						1					1													6号住に切られる。	1a-1	I期	
lw-110	芋田Ⅱ	第6号住居跡	●								3			1													5号・8号住を切る。	3b-2	Ⅳ期以降構築	土器工房としても機能。
lw-110	芋田Ⅱ	第7号住居跡	●						3					1									1				該当なし			
lw-110	芋田Ⅱ	第9号住居跡	●						1					1	床aに近い。												1a-1	I期		
lw-110	芋田Ⅱ	第10号住居跡	●						3	1				1													1a-1	I期		
lw-110	芋田Ⅱ	第11号住居跡	●						2					1													1a-1	I期		
lw-110	芋田Ⅱ	第12号住居跡	●						1					1	間層抜き断続層2層あり。To-aとしてしているが不明。													1a-1	I期	
lw-110	芋田Ⅱ	第13号住居跡	●						3					1	全体に含み、白っぽい。													該当なし		
lw-110	芋田Ⅱ	第14号住居跡	●							2				1														1b-1	Ⅱ期	
lw-110	芋田Ⅱ	第15号住居跡	●								3			1														2-3	Ⅲ期以降	
lw-110	芋田Ⅱ	第16号住居跡	●								3			1														2-3	Ⅲ期以降	祭祀関連施設の可能性がある。
lw-110	芋田Ⅱ	第2号住居状遺構	●						3					1	PP2埋土にも3。													該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考						
			分析					覆土						構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考				
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物								周堤			
lw-116	高柳	第2号堅穴住居址	●					4								1									1		該当なし				
lw-116	高柳	第3号堅穴住居址	●					4								1										1		該当なし			
lw-116	高柳	第4号堅穴住居址	●					4								1										1		該当なし			
lw-116	高柳	第5号堅穴住居址	●					4								1										1		該当なし			
lw-116	高柳	第6号堅穴住居址	●					4								1												該当なし			
lw-117	大館町	RA705	●					4								1												該当なし			
lw-117	大館町	RA706	●					4								1												該当なし			
lw-119	天沼 I	B968住居址状以降	●					2																				1a-1	I期		
lw-120	南の又	G-14住居址	●															1	1									3b-1	IV期以降構築		
lw-121	聚	RA801	●					4								1												該当なし			
lw-122	猪去館	RA506	●							4						1												該当なし			
lw-122	猪去館	RA507	●							1						1												1b-1	II期		
lw-122	猪去館	RA508	●					2								1												1a-1	I期		
lw-123	館	RA013	●							3						1												該当なし			
lw-124	志波城跡(太田方八丁)	57号(Sj74)堅穴住居跡	●		井上・山田	粒径・一次鉱物各組成、強磁性鉱物化学組成			3																			該当なし			
lw-124	志波城跡(太田方八丁)	25号-II(J12)堅穴住居跡	●								3																	2-3	III期以降		
lw-125	大宮北	RA01	●		三辻	蛍光X線	To-a			4																		該当なし			
lw-126	鬼柳A	RA001	●							1?																		該当なし			
lw-126	鬼柳A	RA004	●								2																		1b-1	II期	
lw-126	鬼柳A	RA005	●							4	4																	該当なし			
lw-126	鬼柳A	RA007	●								4															2		2-4	III期以降		
lw-127	稲荷	RA001	●							3																		該当なし			
lw-128	本宮熊堂B	RA016	●		古環境	重鉱物組成、火山ガラス・斜方輝石屈折率	To-a												1									3b-1	IV期以降構築		
lw-128	本宮熊堂B	RA024	●							4	4																	該当なし			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			分析					覆土						構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設						不明	備考								
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド								柱穴	掘立柱建物	周堤					
lw-129	野古A	RA063	●					3																					該当なし				
lw-129	野古A	RA076	●						4				1																	該当なし			
lw-129	野古A	RA077	●					3	3																	1				該当なし			
lw-129	野古A	RA078	●					3																						該当なし			
lw-129	野古A	RA079	●					3					1																	該当なし			
lw-129	野古A	RE002	●					3																						該当なし			
lw-130	飯岡沢田	RA016	●					3					1																	該当なし			
lw-130	飯岡沢田	RA018	●						3	3																				2-3		Ⅲ期以降	
lw-130	飯岡沢田	RE003	●					2																						1a-1		I期	
lw-130	飯岡沢田	RA011	●					2					1																	1a-1		I期	
lw-130	飯岡沢田	RA012	●					3					1																	該当なし			
lw-131	飯岡才川	RE011	●					3																						RA019を切る。	該当なし		
lw-131	飯岡才川	RA015	●							3																				2-3		Ⅲ期以降	
lw-131	飯岡才川	RA042	●					2					1																	1a-1		I期	
lw-131	飯岡才川	RA031	●					2					1																	1a-1		I期	
lw-131	飯岡才川	RA032	●					2																						1a-1		I期	
lw-131	飯岡才川	RA035	●					2																						1a-1		I期	
lw-131	飯岡才川	RA037	●					4	1				1																	1a-1		I期	
lw-131	飯岡才川	RA038	●					3					1																	該当なし			
lw-131	飯岡才川	RA041	●					2																							1a-1		I期
lw-132	台太郎	RA065	●			古環境	重鉱物組成、 火山ガラス・斜 方輝石屈折率	To-a				3																		2-3		Ⅲ期以降	分析はRG試料。
lw-132	台太郎	RA188	●					3																							該当なし		
lw-132	台太郎	RA227	●					2					1																		該当なし		
lw-132	台太郎	RE017	●						4																						1a-1		I期
lw-132	台太郎	RA215	●					4																							該当なし		
lw-132	台太郎	RA220	●					4																							該当なし		
lw-132	台太郎	RA262	●					4																							該当なし		
lw-132	台太郎	RA285	●					4																							該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																	
			分析					覆土						構築土																											
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部			付属施設						不明	備考															
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤														
Iw-134	細谷地	RA37	●					3																										該当なし							
Iw-134	細谷地	RA09	●					3																											該当なし						
Iw-134	細谷地	RA29	●					3																											該当なし						
Iw-134	細谷地	RA34	●						3																										該当なし						
Iw-134	細谷地	RA35	●					3																											該当なし						
Iw-134	細谷地	RA08	●							2																								2-1		Ⅲ期					
Iw-134	細谷地	RA16	●						3																								2	2-4		Ⅲ期以降					
Iw-134	細谷地	RA18	●					3	3	3																								2-3		Ⅲ期以降					
Iw-134	細谷地	RA19	●					3	3	3																								該当なし							
Iw-134	細谷地	RA21	●					3			3																							2-3		Ⅲ期以降					
Iw-134	細谷地	RA25	●					3	3	3	3			底bはピットのみ。																				2? 3? 5?	2-3		Ⅲ期以降				
Iw-134	細谷地	RA26	●					3		3																									RA32を切る。	2-3		Ⅲ期以降			
Iw-134	細谷地	RA32	●																															RA26に切られる。	1a-1		I期				
Iw-134	細谷地	RA33	●					3	3	3																								3-5	2-3		Ⅲ期以降				
Iw-134	細谷地	RA36	●					3	3	3																									2-3		Ⅲ期以降				
Iw-134	細谷地	RA39	●					3	3					底aはピットのみ。	1	1																		3		3b-1		Ⅳ期以降構築			
Iw-134	細谷地	RA034	●						3																										RA035を切る。	3b-2		Ⅳ期以降構築			
Iw-134	細谷地	RA047	●					3																													該当なし				
Iw-134	細谷地	RA035	●					3																											RA034に切られる。		該当なし				
Iw-134	細谷地	RA045	●					3		3				底bはピットのみ。																				3?5?	RA046を切る。	3b-2		Ⅳ期以降構築			
Iw-134	細谷地	RA046	●		パリエノ	スコリア・火山ガラス・軽石組成、火山ガラス屈折率	To-a	1																											RA045に切られる。	1a-1		I期			
Iw-134	細谷地	RA041	●							3																											該当なし				
Iw-134	細谷地	RA051	●					3	3	3																											該当なし				
Iw-134	細谷地	RA048	●							3				底bはピットのみ。		1																					3b-1		Ⅳ期以降構築		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土						構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考					
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物								周堤				
Iw-134	細谷地	RA049	●																									R2006-007に切られる。	1a-1	I期		
Iw-134	細谷地	RE006	●							3																				該当なし		
Iw-134	細谷地	RA053	●							3					1															該当なし		
Iw-134	細谷地	RA067	●							4																				該当なし		
Iw-134	細谷地	RA072	●																											2-3	III期以降	
Iw-134	細谷地	RA078	●							2																				1a-1	I期	
Iw-134	細谷地	RA074	●							4																				該当なし		
Iw-134	細谷地	RA121	●								2				1															1b-1	II期	
Iw-134	細谷地	RA123	●									4			2															3a-1	IV期以降	
Iw-134	細谷地	RA126	●								4				1→2															該当なし		
Iw-134	細谷地	RA127	●									4			1															2-3	III期以降	
Iw-134	細谷地	RA131	●								4				2															3a-1	IV期以降	
Iw-134	細谷地	RA132	●							2?					?												1	RA113を切る。	1a-1	I期		
Iw-134	細谷地	RA135	●												1															1b-1	II期	
Iw-134	細谷地	RA138	●									4																		2-3	III期以降	
Iw-134	細谷地	RA141	●							3																				該当なし		
Iw-134	細谷地	RA147	●								4				1															該当なし		
Iw-134	細谷地	RA148	●												1															該当なし		
Iw-134	細谷地	RA047	●							3																				該当なし		
Iw-134	細谷地	RA152	●							3																				該当なし		
Iw-135	二又	RA006	●							4					1															該当なし		
Iw-136	飯岡林崎Ⅱ	RA04	●							3																				1	該当なし	
Iw-136	飯岡林崎Ⅱ	RA08	●							3																				1	該当なし	
Iw-136	飯岡林崎Ⅱ	RA33	●							3																				1	該当なし	
Iw-137	オミ坂	1号住居跡	●							3																				該当なし		
Iw-138	百目木	No.6住居	●							4																				該当なし		
Iw-138	百目木	No.10住居	●									4																		2-3	III期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況																							
			分析				覆土				構築土				不明	備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考									
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設	自然・人為	備考	堅穴部								付属施設								
								上位	中位	床・底面a	床・底面b			全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤										
Iw-138	百目木	No.11住居	●				3	3	3								カマドのみ。						古期カマドのみ。			2-3	Ⅲ期以降			
Iw-138	百目木	No.14住居	●				2																			1a-1	Ⅰ期			
Iw-138	百目木	No.24住居	●						4																	No.25住に切られる。	該当なし			
Iw-138	百目木	No.25住居	●								4															No.24住を切る。	3b-2	Ⅳ期以降構築		
Iw-138	百目木	No.46住居	●						1							層厚4cm。											1b-1	Ⅱ期		
Iw-138	百目木	No.51住居	●						1																		1b-1	Ⅱ期		
Iw-138	百目木	No.76住居	●				1																				1a-1	Ⅰ期		
Iw-139	小屋塚	RA8714	●				2							1													1a-1	Ⅰ期	疑似高台掘出土。	
Iw-140	前野	RE102堅穴	●				1	3																			1a-1	Ⅰ期	小鍛冶施設。	
Iw-140	前野	RE104堅穴	●								4					埋土浅い。											2-3	Ⅲ期以降	小鍛冶施設。	
Iw-140	前野	RE105堅穴	●								4																2-3	Ⅲ期以降	小鍛冶施設。	
Iw-140	前野	RA108	●								4																2-3	Ⅲ期以降		
Iw-140	前野	RE113堅穴	●						4																			該当なし		
Iw-140	前野	RA115	●				4	4																				該当なし		
Iw-140	前野	RA117	●				4	4																				該当なし		
Iw-141	上八木田Ⅰ	X I C6b住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a				4?					注記に記載無く詳細不明。									?		該当なし			
Iw-141	上八木田Ⅰ	X I C9a住居跡	●								4																2-3	Ⅲ期以降		
Iw-141	上八木田Ⅰ	DXE2b住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4?	4?							注記に記載無く詳細不明。									?		該当なし			
Iw-142	上八木田Ⅱ	VH2b住居跡	●		古環境	組成、形態、火山ガラス屈折率	To-a	2?																		1?		該当なし		
Iw-142	上八木田Ⅱ	V G7g住居跡	●					3																			1?	該当なし		
Iw-143	上八木田Ⅲ	X I N7d住居跡	●		三辻	蛍光X線	十和田系				4																2-3	Ⅲ期以降		
Iw-144	上八木田Ⅳ	X VI K2c住居跡	●		三辻	蛍光X線	十和田系				4							1									3b-1	Ⅳ期以降構築		
Iw-145	町田	RA113	●					4						1														該当なし		
Iw-146	乙部方八丁	RA502	●					3						1														該当なし		
Iw-146	乙部方八丁	RA505	●					3						1														該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考									
			分析						覆土					構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	上位	堅穴部				自然・人為	備考	堅穴部			構築土							不明	備考							
									中位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴								掘立柱建物	周堤					
Iw-147	常光坊	S103	●		古環境	火山ガラス・斜方輝石屈折率	To-a	4							1															該当なし			
Iw-147	常光坊	S104	●		古環境	火山ガラス・斜方輝石屈折率	To-a	4							1											1				該当なし			
Iw-148	高水寺	S101	●																			4		図に注記番号なし。						該当なし			
Iw-149	杉ノ上Ⅲ	EB50住居跡	●							2						層厚10cm。														1a-1	I期		
Iw-149	杉ノ上Ⅲ	ED50住居跡	●									4																		ED03住に切られる。	該当なし		
Iw-149	杉ノ上Ⅲ	ED03住居跡	●										1																	ED50住を切る。	2-1	Ⅲ期	
Iw-150	栗田Ⅰ・Ⅱ	第3号(Dc12)住居跡	●										2												1・2				2-2	Ⅲ期			
Iw-151	比爪館	SI-115堅穴住居跡遺構	●							4					1															SI-128を切る。	該当なし		
Iw-151	比爪館	SI-119	●							4					1															該当なし			
Iw-151	比爪館	SI-120	●							1					1															1a-1	I期		
Iw-151	比爪館	SI-121	●							4					1															該当なし			
Iw-151	比爪館	SI-129	●							4	4				1															該当なし			
Iw-151	比爪館	SI-142	●							4					1															該当なし			
Iw-151	比爪館	SI-070	●							4																				該当なし			
Iw-152	犬淵谷地田Ⅲ		●							4					1															該当なし			
Iw-153	西田	FG21住居跡	●												1							4								該当なし			
Iw-153	西田	FI21住居跡	●							4					1															該当なし			
Iw-154	西田東	ⅡC-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a					4																		2-3	Ⅲ期以降		
Iw-154	西田東	ⅡE-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a					4		2																3a-1	Ⅳ期以降		
Iw-154	西田東	ⅡF-2住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a					4																		2-3	Ⅲ期以降		
Iw-154	西田東	ⅡF-3住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a					4																		2-3	Ⅲ期以降		
Iw-154	西田東	ⅡF-4住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a					3																		2-3	Ⅲ期以降		
Iw-154	西田東	ⅡG-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a			4																				該当なし			
Iw-154	西田東	ⅡG-2住居跡	●		三辻	蛍光X線	風化したTo-a					4																		2-3	Ⅲ期以降		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ													堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考
			分析						覆土							構築土														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	To-a	堅穴部				付属施設			自然・人為	備考	堅穴部			付属施設			不明	備考					
									上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤							
lw-162	上台Ⅱ	SI03	●		ハリノ	重鉱物・火山ガラス比分析、火山ガラス屈折率	To-a	3							1									1			該当なし			
lw-163	高木中館	SI01	●						2							二次堆積。											1b-1	Ⅱ期		
lw-164	桜町Ⅰ(旧桜町)	SI02整穴住居跡	●					1							1												1a-1	Ⅰ期		
lw-165	不動Ⅱ	3-1号住居跡	●					2																			該当なし			
lw-166	古館Ⅱ	B13住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4							2												該当なし			
lw-166	古館Ⅱ	F13-2住居跡	●					4																			該当なし			
lw-166	古館Ⅱ	F15-2住居跡	●								3																2-3	Ⅲ期以降		
lw-166	古館Ⅱ	F16住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a		2														2			2-2	Ⅲ期			
lw-167	法領	1号住居跡	●					3																			該当なし			
lw-168	羽黒田	住居跡2	●					4																			該当なし			
lw-169	清水屋敷Ⅱ	DH03	●					2																			1a-1	Ⅰ期		
lw-170	高野畑	1号住居跡	●					4															1				該当なし			
lw-170	高野畑	2号住居跡	●					4															2			2-4	Ⅲ期以降			
lw-171	森下	SI031整穴住居跡	●					4							1												該当なし			
lw-171	森下	SI032整穴住居跡	●					4							1												2-4	Ⅲ期以降		
lw-171	森下	SI033整穴住居跡	●					4							1												該当なし			
lw-171	森下	SI038整穴住居跡	●					4							1												該当なし			
lw-172	唐戸崎	SI01	●					3																			該当なし			
lw-172	唐戸崎	SI109整穴住居跡	●					4							1												該当なし			
lw-173	向	SI001整穴住居跡	●					4							2-1												該当なし			
lw-174	築館	SI001	●					3							1												該当なし			
lw-175	堰向Ⅱ	SI11	●					4	4						1	粒子状。											該当なし			
lw-175	堰向Ⅱ	SI12	●					4	4	4	4				1	粒子状。											2-3	Ⅲ期以降		
lw-175	堰向Ⅱ	SI18	●		古環境	火山ガラス比分析	不明	3															1				該当なし			
lw-175	堰向Ⅱ	SI20	●		古環境	火山ガラス比分析	To-a	4							1												該当なし			

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ			堆積層位・状況																	備考				
			分析			覆土				構築土			不明	備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考								
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部	付属施設	自然・人為	備考	堅穴部								付属施設	不明	備考					
					上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	自然・人為	備考	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤									
lw-175	堰向II	SI24	●				4					1	粒状。												該当なし		
lw-175	堰向II	SI28	●		古環境	火山ガラス比分析	To-a	3				1													該当なし		
lw-176	西川目	SI01	●							4		1													2-3	Ⅲ期以降	
lw-176	西川目	SI03	●					2				1													1a-1	I期	
lw-176	西川目	SI04	●		古環境	火山ガラス・斜方輝石屈折率	To-a	3				1													該当なし		
lw-176	西川目	SI052	●												1										3b-1	Ⅳ期以降構築	
lw-178	八天	1号住居跡	●							4	4														2-3	Ⅲ期以降	
lw-178	八天	2号住居跡	●					3																	該当なし		
lw-178	八天	3号住居跡	●					4																	該当なし		
lw-179	金成	SI001竪穴状遺構	●																1						該当なし		
lw-179	金成	SI009竪穴状遺構	●					2				1													1a-1	I期	
lw-179	金成	SI013竪穴状遺構	●					2				1													1a-1	I期	
lw-179	金成	SI087竪穴住居跡	●					4				1													該当なし		
lw-179	金成	SI107竪穴住居跡	●					4				1													該当なし		
lw-179	金成	SI122竪穴住居跡	●					2															2		2-2	Ⅲ期	
lw-179	金成	SI152竪穴住居跡	●					3				1													該当なし		
lw-180	横町	SI502竪穴住居跡	●					4				1													該当なし		
lw-180	横町	SI830竪穴住居跡	●					4				1													該当なし		
lw-180	横町	SI1008竪穴住居跡	●					4				1													該当なし		
lw-180	横町	SI1529竪穴住居跡	●							1		1													1b-1	Ⅱ期	
lw-181	牡丹畑(旧上川岸II)	VE-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	3														1			該当なし		
lw-182	藤沢	SI006竪穴住居跡	●							4		1													該当なし		
lw-182	藤沢	SI007竪穴住居跡	●					2				1											1		1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況																									
			分析						覆土						構築土				備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設																
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤													
Iw-182	藤沢	S1008竪穴住居跡	●					4								1																		
Iw-182	藤沢	S1021竪穴住居跡	●						2							1													2?	1b-1	II期			
Iw-182	藤沢	SK022土坑(→竪穴遺構)	●						2							1														1b-1	II期			
Iw-182	藤沢	S1262竪穴住居跡	●					4								1																該当なし		
Iw-182	藤沢	S1263竪穴住居跡	●					4								1																該当なし		
Iw-182	藤沢	S1265竪穴住居跡	●					4								1																該当なし		
Iw-182	藤沢	S1450竪穴住居跡	●					3								1														S1449・451を切る。		該当なし		
Iw-182	藤沢	S1485竪穴住居跡	●					3								1																該当なし		
Iw-182	藤沢	S1486竪穴住居跡	●						4							1																該当なし		
Iw-182	藤沢	S1495竪穴住居跡	●					4								1												1				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1508竪穴住居跡	●					4								1																該当なし		
Iw-182	藤沢	S1529竪穴住居跡	●					4								1												1?				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1570竪穴住居跡	●					4								1												1				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1599竪穴住居跡	●					4								1												2?				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1602竪穴住居跡	●					4								1											1					該当なし		
Iw-182	藤沢	S1611竪穴住居跡	●					4								1												1				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1661竪穴住居跡	●					4								1													1?			該当なし		
Iw-182	藤沢	S1713竪穴住居跡	●					1								1													2		1a-1	I期		
Iw-182	藤沢	S1715竪穴住居跡	●					4								1												1?				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1739竪穴住居跡	●					4								1												1				該当なし		
Iw-182	藤沢	S1751竪穴住居跡	●					4								1												1?				該当なし		
Iw-182	藤沢	SX676竪穴状遺構	●					4								1																該当なし		
Iw-182	藤沢	Ah-59住居跡	●					1																								1a-1	I期	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考						
			分析						覆土					構築土																
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設	自然・人為	備考	堅穴部			付属施設							不明	備考				
								上位	中位	下位	床・底面a				床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床								カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤
Iw-197	岩崎台地遺跡群	BVI v12住居跡	●						4	3	3					1			1									3b-1	IV期以降構築	
Iw-197	岩崎台地遺跡群	CVI c18住居跡	●						4						1													該当なし		
Iw-197	岩崎台地遺跡群	BVII 110住居跡	●						4						1													該当なし		
Iw-197	岩崎台地遺跡群	E I a23住居跡状遺構	●						4						1													該当なし		
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	I号住居跡	●						4							床aに近い。												該当なし		
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	II B2号住居跡	●							4																		該当なし		
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	III B3号住居跡	●		三辻		蛍光X線	To-a?	4																			該当なし		
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	VI B1住居跡	●						2																			1a-1	I期	
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	VII B2住居跡	●						2							床aに近い。												1a-1	I期	
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	VIII A1住居跡	●						4																			該当なし		
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	VIII B2住居跡	●		三辻		蛍光X線	To-a?	2																			1a-1	I期	
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	VIII B3住居跡	●						2																			1a-1	I期	
Iw-198	六軒(旧上鬼柳Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	C II e2住居跡	●		バリノ / 三辻		スコリア・火山ガラス・軽石組成・形態 / 蛍光X線	To-a / To-a	3																			該当なし		
Iw-199	柳上	I18住居跡	●						4																			該当なし		
Iw-199	柳上	M42 2住居跡	●		三辻		蛍光X線	To-a	3																			該当なし		
Iw-200	鹿島館	KC-1	●						2							層厚5cm。												1a-1	I期	
Iw-201	卯ノ木	I号住居跡	●						1							層厚5cm。												1a-1	I期	
Iw-201	卯ノ木	S1010	●								1																	2-1	III期	
Iw-203	成沢	D66 堅穴住居跡	●						1							層厚3cm。断面図なし。												1a-1	I期	
Iw-204	成沢Ⅱ	S1001 堅穴住居跡	●						1																			1a-1	I期	
Iw-204	成沢Ⅱ	S1002 堅穴住居跡	●						4																			該当なし		
Iw-204	成沢Ⅱ	S1004 堅穴住居跡(二段階)	●						1																2		2-2	III期		
Iw-205	比久尾沢	2号住居跡	●						4																			該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考																					
			分析					覆土					構築土																															
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明	備考																			
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤																		
lw-206	滝ノ沢	SI179堅穴住居跡	●					1					1													SI180を切る。	1a-1	I期																
lw-206	滝ノ沢	SI181堅穴住居跡	●					4					1																該当なし															
lw-207	大堤	S3004堅穴住居跡	●										1	一次堆積。															1b-1	II期														
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D001堅穴住居跡	●					1																					1a-1	I期														
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D009a堅穴住居跡	●																										D009bを切る。	3b-2	IV期以降構築													
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D009b堅穴住居跡	●					1																					D009aに切られる。	1a-1	I期													
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D030堅穴住居跡	●																											4		該当なし												
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D036堅穴住居跡	●																											4		三角堆積。		該当なし										
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D037堅穴住居跡	●																											4			該当なし											
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D052a堅穴住居跡	●																														D052b土坑を切る。	3b-2	IV期以降構築									
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D066堅穴住居跡	●					4																										該当なし										
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	D069堅穴住居跡	●																													4			2-3	III期以降								
lw-208	南部工業団地内(旧高前埋II)	G070堅穴住居跡	●																													2			1b-1	II期								
lw-208	南部工業団地内	N001堅穴住居跡	●																																	1b-1	II期							
lw-208	南部工業団地内	N003堅穴住居跡	●																																		該当なし							
lw-209	上大谷地	O1a(S1001)堅穴住居跡	●																																		1b-1	II期						
lw-209	上大谷地	SI008	●																																			該当なし						
lw-209	上大谷地	Bd12住居跡	●																																					2		2-3	III期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況															備考																						
			分析				覆土					構築土					備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定		備考																					
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部		付属施設			備考	堅穴部		付属施設								不明																				
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体		外周溝	掘立柱建物	掘立柱建物									掘立柱建物	周堤																		
Iw-217	尼坂	平安住居跡	●									1					層厚2～3cm。											1b-1	II期															
Iw-218	寺領	20号住居状遺構	●														周溝内。														該当なし													
Iw-219	袖谷地 I (旧袖谷地)	第3号(B/71)住居跡	●									1						2													1a-1	I期												
Iw-220	龍ヶ馬場	1号堅穴住居跡	●			三辻	蛍光X線	To-a				2																			1a-1	I期	本文と注記の層位合わず。											
Iw-220	龍ヶ馬場	2号堅穴住居跡	●									4																					該当なし											
Iw-220	龍ヶ馬場	3号堅穴住居跡	●			三辻	蛍光X線	To-a				4																					該当なし											
Iw-220	龍ヶ馬場	4号堅穴住居跡	●									4																						該当なし										
Iw-220	龍ヶ馬場	5号堅穴住居跡	●									4																						該当なし										
Iw-220	龍ヶ馬場	6号堅穴住居跡	●			三辻	蛍光X線	To-a				2																						1b-1	II期									
Iw-222	伯濟寺	SI06堅穴住居跡	●									4									1													3b-1	IV期以降構築									
Iw-222	伯濟寺	SI03堅穴住居跡	●																																該当なし									
Iw-222	伯濟寺	SI08堅穴住居跡	●									4																								該当なし								
Iw-223	跡呂井	SI01	●									4																								該当なし								
Iw-224	杉の堂	SI06堅穴住居跡	●									4																								1	22次調査。							
Iw-224	杉の堂	SI11堅穴住居跡	●									3																									1							
Iw-224	杉の堂	SI03堅穴住居跡	●												3																						2-3	III期以降 15次調査。						
Iw-225	林前 I・II (旧林前)	SI24住居跡	●									4																									該当なし							
Iw-225	林前 I・II (旧林前)	SI36住居跡	●									4																										該当なし						
Iw-225	林前 I・II (旧林前)	SI55住居跡	●																																			4	該当なし					
Iw-226	林前南館跡	SI0101	●									4																										註記に記載無く詳細不明。	該当なし					
Iw-226	林前南館跡	SI0103	●									4																											註記に記載無く詳細不明。	該当なし				
Iw-226	林前南館跡	SI0150	●									4																											カマドのみ。註記になく詳細不明。	該当なし				
Iw-226	林前南館跡	1号住居跡	●									4																											4	該当なし				
Iw-226	林前南館跡	3号住居跡	●									1																														1	1期	

遺跡No	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況																									
			分析						覆土						構築土				備考	焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設			自然・人為	備考	堅穴部		付属施設							不明									
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド								柱穴	掘立柱建物	周堤						
lw-226	林前南館跡	S102堅穴住居跡	●					1																										
lw-227	北野IV	3号住居跡	●																		4										該当なし			
lw-228	明後沢遺跡群	10SI-154	●					3						1	ピットのみ。																該当なし			
lw-228	明後沢遺跡群	10SI-372	●					4						1																	該当なし			
lw-228	明後沢遺跡群	15SI-6	●					3	3	3				1																	2-3	Ⅲ期以降		
lw-228	明後沢遺跡群	15SI-43	●							3				1																	該当なし			
lw-228	明後沢遺跡群	15SI-47	●							3				1																	該当なし			
lw-228	明後沢遺跡群	15SI-294	●									4		1																	2-3	Ⅲ期以降		
lw-228	明後沢遺跡群	15SI-310	●										4	1																	2-3	Ⅲ期以降		
lw-229	古城上野	SI-90	●					1						1																	1a-1	I期		
lw-230	大桜	第1号住居跡	●						4																						該当なし			
lw-231	瀬原 I	IVD-1号住居跡	●																		4										該当なし			
lw-231	瀬原 I	VE-1号住居跡	●					4																							該当なし			
lw-231	瀬原 I	II D-1号住居跡	●							4	4																				2-3	Ⅲ期以降		
lw-233	本町 II	8号堅穴住居跡	●												テフラ被覆層を切って構築。																崩跡を切る。	3b-2	Ⅳ期以降構築	
lw-233	本町 II	17号堅穴住居跡	●												テフラを切って構築。																崩跡に被覆される。	3b-2	Ⅳ期以降構築	
lw-233	本町 II	21号堅穴住居跡	●					1																							崩跡に被覆される。	1a-1	I期	
lw-234	志羅山	1号住居跡	●	三辻	蛍光X線	To-a			2						床aに近い。																	1a-1	I期	
lw-235	清水	住居跡O2H1	●							3																						該当なし		
lw-236	機織山 II	BA50住居跡	●						2																							1a-1	I期	
lw-237	河崎の棚掘定地	C区SI7	●						2					1																		1a-1	I期	
lw-237	河崎の棚掘定地	E区SI1	●							1				1																		1b-1	Ⅱ期	
lw-238	五輪堂	SI01	●							1																						1b-1	Ⅱ期	
lw-239	下洗民	I建築址	●						2					1																		4-7建築址を切る。	1a-1	I期
lw-240	大明神 II	I住居址	●							2				1														2	3住居址を切る。		2-2	Ⅲ期		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											備考	備考	備考	備考									
			分析					覆土					構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設														
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b			全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床					カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤	不明				
lw-240	大明神 II	4住居址	●										3												該当なし						
lw-240	大明神 II	5住居址	●										3													該当なし					
lw-241	高瀬 I	I-1住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4							1											該当なし					
lw-241	高瀬 I	II-2住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	4							1											該当なし					
lw-241	高瀬 I	II-4住居跡	●		三辻	蛍光X線	To-a	3							1											該当なし					
lw-242	金浜 I	I号住居	●										4													該当なし		土器製塩施設の可能性。			
Ak-001	丑森	SI02	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI10	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI11	●										4												4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI12	●										4												4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI13	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI14	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI15	●									4													4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI16	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI17	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI18	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI19	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-002	白長根館 I	SI20	●																						4	多量に混入という記載のみ。	該当なし				
Ak-003	はりま館	SI002	●										4	4	4	4														大湯軽石層を切って構築。	
Ak-003	はりま館	SI003	●										4																		大湯軽石層を切って構築。
Ak-003	はりま館	SI004	●										4	4	4	4										1					大湯軽石層を切って構築。
Ak-003	はりま館	SI005	●										4	4	4	4										1					大湯軽石層を切って構築。
Ak-003	はりま館	SI006	●										4	4		4															大湯軽石層を切って構築。壁板裏込土にも。

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況														焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考						
			分析					覆土							構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設			備考	堅穴部				付属施設							備考					
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物		自然・人為	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤											
Ak-003	はりま館	SI018	●							4						大湯軽石層を切って構築。ほぼほ層。													3b-2	IV期以降構築		
Ak-003	はりま館	SI020	●													大湯軽石層を切って構築。													3b-2	IV期以降構築		
Ak-003	はりま館	SI038	●					4	4	4						大湯軽石層を切って構築。													3b-2	IV期以降構築		
Ak-003	はりま館	SI101	●												2										テフラを切って構築。	2		3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI106	●												2										テフラを切って構築。			3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI107	●					3	3	3															テフラを切って構築。			3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI108	●					4	3	4					2													3a-1	IV期以降			
Ak-003	はりま館	SI109	●							4	4																	2-3	III期以降			
Ak-003	はりま館	SI113	●					3		4															テフラを切って構築。			3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI114	●							4															テフラを切って構築。			3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI115	●					4		4															テフラを切って構築。			3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI116	●					4		4															テフラを切って構築。	3.5		3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI119	●							4															ほとんど床b。壁際を帯状円形に巡る。	1		3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI120	●							4	4														テフラを切って構築。			3b-2	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI02	●					4							1										壁際を帯状円形に巡る。	1		3b-1	IV期以降構築			
Ak-003	はりま館	SI05	●																								3	詳細記載なし。		該当なし		
Ak-003	はりま館	SI08	●							4																壁際。				該当なし		
Ak-003	はりま館	SI10	●							4																壁際を帯状円形に巡る。			1b-1	II期		
Ak-003	はりま館	SI11	●							4					1											壁際を帯状円形に巡る。			1b-1	II期		
Ak-003	はりま館	SI19	●							4																テフラを切って構築。	6		3b-2	IV期以降構築		
Ak-003	はりま館	SI21	●							4																壁際を帯状円形に巡る。			1b-1	II期		
Ak-003	はりま館	SI300	●												2													3	詳細記載なし。	2?	該当なし	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													備考											
			分析					覆土						構築土																		
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設				不明	備考									
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤												
Ak-003	はりま館	SI301	●										3			1	カマド煙道。								3	詳細記載なし。		2-3	Ⅲ期以降			
Ak-003	はりま館	SI310	●										3			2	単層。											3a-1	Ⅳ期以降			
Ak-003	はりま館	SI314	●										3				単層。		1									2-3	Ⅲ期以降			
Ak-003	はりま館	SI323	●						4							1																
Ak-003	はりま館	SI325	●										3				単層。												2-3	Ⅲ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第401号竪穴住居跡	●													1									4	記載なし。	6	該当なし				
Ak-004	大湯環状列石	第402号竪穴住居跡	●						4	4	4	4				1	カマドにも。		1									2	2-3	Ⅲ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第404号竪穴住居跡	●						4	3	4	4				1												2	2-3	Ⅲ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第409号竪穴住居跡	●						4	4	4	4								1									3b-2	Ⅳ期以降構築		
Ak-004	大湯環状列石	第901号竪穴住居跡	●						4	4	4	4																	3b-2	Ⅳ期以降構築		基本的に遺物出土地点記載なし。
Ak-004	大湯環状列石	第301号竪穴住居跡	●																					4	記載なし。テフラ層を切って構築。			3b-2	Ⅳ期以降構築		基本的に遺物出土地点記載なし。	
Ak-004	大湯環状列石	第302号竪穴住居跡	●						4	4	4	4			2													3b-2	Ⅳ期以降構築			
Ak-004	大湯環状列石	第303号竪穴住居跡	●						4	4	3				1												2	第304号住を切る。	2-4	Ⅲ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第01号竪穴住居跡	●						4	4	4	4			1												2.3	2-3	Ⅲ期以降		基本的に遺物出土地点記載なし。	
Ak-004	大湯環状列石	第02号竪穴住居跡	●						4	4	4	4			2														3a-1	Ⅳ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第04号竪穴住居跡	●									4			1														2-3	Ⅲ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第05号竪穴住居跡	●									4			1														2-3	Ⅲ期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第06号竪穴住居跡	●						4	4	4	4			1												2.3	2-3	Ⅲ期以降			
Ak-004	大湯環状列石	第07号竪穴住居跡	●						4	4	4				1																	
Ak-004	大湯環状列石	第08号竪穴住居跡	●						4	4	4				1																	
Ak-004	大湯環状列石	第10号竪穴住居跡	●									4			1														2-3	Ⅲ期以降		基本的に遺物出土地点記載なし。

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ						堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考		
			分析						覆土					構築土												
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	備考	竪穴部			付属施設		自然・人為	備考	竪穴部		付属施設							不明	備考
									上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド							
Ak-004	大湯環状列石	第11号竪穴住居跡	●										2						4	記載なし。			3a-1	IV期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第12号竪穴住居跡	●										2						4	記載なし。			3a-1	IV期以降		
Ak-004	大湯環状列石	第13号竪穴住居跡	●										2						4	記載なし。テフラ層を切って構築。			3b-2	IV期以降構築		
Ak-004	大湯環状列石	第14号竪穴住居跡	●										2						4	記載なし。テフラ層を切って構築。			3b-2	IV期以降構築		
Ak-004	大湯環状列石	第1号竪穴住居跡	●						1												1		2-5	III期		
Ak-004	大湯環状列石	第2号竪穴住居跡	●							1	1			1									2-1	III期		
Ak-004	大湯環状列石	第3号竪穴住居跡	●						1														2-5	III期		
Ak-005	物見坂Ⅲ	SI303	●						3	3	3	3			2	壁溝、カマド。							3a-1	IV期以降		
Ak-005	物見坂Ⅲ	SI310	●						3	3														該当なし		
Ak-006	物見坂Ⅱ	第3号竪穴住居跡	●						1					1	カマド煙道にも。									1a-1	I期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第1号竪穴住居跡	●						1					1										1a-1	I期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第2号竪穴住居跡	●							1				2→1							1			1a-1	I期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第3号竪穴住居跡	●						1					2→1										2-5	III期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第4号竪穴住居跡	●						1					2→1										2-5	III期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第5号竪穴住居跡	●						1					2→1										2-5	III期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第6号竪穴住居跡	●						1					2→1										2-5	III期	
Ak-007	鹿角沢Ⅱ	第7号竪穴住居跡	●						1					2→1										2-5	III期	
Ak-008	島野	竪穴住居跡	●						1					1										1a-1	I期	
Ak-009	源田平	第1号住居跡	●						1															1a-1	I期	
Ak-009	源田平	第2号住居跡	●						1															1a-1	I期	
Ak-010	小枝指館跡	第101号竪穴住居跡	●								4	4		1										2-3	III期以降	
Ak-010	小枝指館跡	第102号竪穴住居跡	●						4	4	4	4		1							2	第103号住に切られる。		2-3	III期以降	
Ak-010	小枝指館跡	第103号竪穴住居跡	●						4	4	4	4		1	ほぼ単層。									2-3	III期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考									
			分析					覆土					構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設															
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床	カマド						掘立柱建物	周堤							
Ak-011	小平	第4号住居跡	●					1																					1a-1	I期		
Ak-012	高市向館跡	第1号堅穴住居跡	●										2	層位・状態不明。															3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第2号堅穴住居跡	●										2	層位・状態不明。															3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第3号堅穴住居跡	●					4																					該当なし			
Ak-012	高市向館跡	第4号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第5号住を切り、第2号住に切られる。	該当なし		
Ak-012	高市向館跡	第5号堅穴住居跡	●										2	層位・状態不明。															第4・6号住を切る。	3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第6号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第5号住に切られる。	該当なし		
Ak-012	高市向館跡	第9号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第1・13号堅穴遺構に切られる。	3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第10号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第21号堅穴遺構を切り、第7号堅穴遺構に切られる。	該当なし		
Ak-012	高市向館跡	第13号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第14号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第20号堅穴遺構を切り、第16号に切られる。	3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第15号堅穴住居跡	●						4						2															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第16号堅穴住居跡	●					4	4	4	4				2															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第17号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第18号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第6号堅穴遺構に切られる。	3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第19号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第22号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第23号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。														第1号堅穴遺構を切り、第28号住に切られる。	3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第24号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。															3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第25号堅穴住居跡	●												層位・状態不明。															3a-1	IV期以降	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			分析					覆土					構築土																			
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設		自然・人為	備考	堅穴部							付属施設		不明	備考						
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床						カマド	柱穴			掘立柱建物	周堤				
Ak-012	高市向館跡	第26号堅穴住居跡	●												2	層位・状態不明。												3a-1	IV期以降			
Ak-012	高市向館跡	第27号堅穴住居跡	●								4						単層。												2-3	III期以降		
Ak-012	高市向館跡	第28号堅穴住居跡	●							4	4	4	4			2											第23号住を切る。	3a-1	IV期以降			
Ak-012	高市向館跡	第29号堅穴住居跡	●							4	4	4				1													該当なし			
Ak-012	高市向館跡	第30号堅穴住居跡	●													2	層位・状態不明。												3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第31号堅穴住居跡	●							1	1					1													1a-1	I期		
Ak-012	高市向館跡	第1号堅穴遺構	●													2	層位・状態不明。										第9号住を切る。	3a-1	IV期以降			
Ak-012	高市向館跡	第2号堅穴遺構	●									4				2													3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第3号堅穴遺構	●							4						2													3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第4号堅穴遺構	●													2	層位・状態不明。												3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第6号堅穴遺構	●													2	層位・状態不明。									第18号住を切る。	3a-1	IV期以降				
Ak-012	高市向館跡	第7号堅穴遺構	●							4	4					2									第10号住、第21号堅穴遺構を切る。	3a-1	IV期以降					
Ak-012	高市向館跡	第8号堅穴遺構	●													2	層位・状態不明。												3a-1	IV期以降		
Ak-012	高市向館跡	第9号堅穴遺構	●							4	4	4	4			1													2-3	III期以降		
Ak-012	高市向館跡	第10号堅穴遺構	●										4			2	ほぼ単層。													3a-1	IV期以降	
Ak-012	高市向館跡	第11号堅穴遺構	●										4				単層。									第12号堅穴遺構を切る。	2-3	III期以降				
Ak-012	高市向館跡	第12号堅穴遺構	●														層位・状態不明。									第21号堅穴遺構を切り、第11号に切られる。	該当なし					
Ak-012	高市向館跡	第13号堅穴遺構	●										4				単層。									第9号堅穴遺構を切る。	2-3	III期以降				
Ak-012	高市向館跡	第14号堅穴遺構	●										4				単層。												2-3	III期以降		
Ak-012	高市向館跡	第16号堅穴遺構	●													2	層位・状態不明。									第9号住に切られる。	3a-1	IV期以降				
Ak-012	高市向館跡	第17号堅穴遺構	●							4	1					1													1a-1	I期		
Ak-012	高市向館跡	第18号堅穴遺構	●											4			単層。										第22号堅穴遺構を切る。	2-3	III期以降			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ										堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考														
			分析					覆土					構築土					備考																							
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考	堅穴部		付属施設		不明																						
								上位	中・下位	床・底面 a	床・底面 b	全体			外周溝	掘立柱建物	貼り床			カマド	掘立柱建物	周堤																			
Ak-016	柴内館跡	SI450	●																		3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし													
Ak-016	柴内館跡	SI807	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-016	柴内館跡	SI1029	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-016	柴内館跡	SI1200	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-016	柴内館跡	SI1264	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-016	柴内館跡	SI1265	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-016	柴内館跡	SI1269	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-016	柴内館跡	SI1623	●											1																	1a-1	I期									
Ak-016	柴内館跡	SI03	●																			3	覆土へ多く堆積と記載あるも層不明。						該当なし												
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴I)	SI126	●											4	4																	該当なし									
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴I)	SI009	●																														SI009に切られる。	該当なし							
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴I)	SI009'	●																			4	図に層名無し。										SI009を切る。	該当なし							
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴II)	SI001	●											4	1	1	4																	SI002を切る。	1b-1	II期					
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴II)	SI002	●																															2.5	SI001に切られる。	2-3	III期以降				
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴II)	SI003	●																																2.5	軸石下に堆積。	3b-1	IV期以降構築			
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ埴II)	SI007	●																			4	図、注記無し。														該当なし				
Ak-018	用野目川向Ⅲ	SI01	●											4																							SI02-03に切られる。	該当なし			
Ak-018	用野目川向Ⅲ	SI02	●											4	4	4																						SI03に切られる。	該当なし		
Ak-018	用野目川向Ⅲ	SI03	●											4	4	4	4																						SI02を切る。	2-3	III期以降

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			分析					覆土					構築土			備考														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設	自然・人為	備考	堅穴部		付属施設													
								上位	中・下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝		掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物						周堤				
																	不明													
Ak-018	用野目川向Ⅲ	SI06	●					4	4	4												2		2-4	Ⅲ期以降					
Ak-019	天戸森	第1号堅穴住居跡	●					4	1							2→1									2-5	Ⅲ期				
Ak-019	天戸森	第2号堅穴住居跡	●					4	4							2									3a-1	Ⅳ期以降				
Ak-019	天戸森	第3号堅穴住居跡	●					4	4	4	4					1		カマドにも。							3b-1	Ⅳ期以降構築				
Ak-020	塔忍沢	SI01	●								4														2-3	Ⅲ期以降				
Ak-020	塔忍沢	SI02	●									3													2-3	Ⅲ期以降				
Ak-020	塔忍沢	SI03	●								4														2-3	Ⅲ期以降				
Ak-020	塔忍沢	SI04	●						2			4											2.5		2-2	Ⅲ期				
Ak-020	塔忍沢	SI05	●									4													2-3	Ⅲ期以降				
Ak-020	塔忍沢	SI06	●									4													2-3	Ⅲ期以降				
Ak-020	塔忍沢	SK001	●							3																				
Ak-020	塔忍沢	SK002	●					4	4																					
Ak-021	御休堂	第3号堅穴住居跡	●					4	4		1				1											2-1	Ⅲ期			
Ak-021	御休堂	第4号堅穴住居跡	●					4	4	4	4				1											2-3	Ⅲ期以降			
Ak-022	花輪古館跡	第101号堅穴住居跡	●									4			1											第103号溝状遺構(テフラ堆積)を切る。	2-3	Ⅲ期以降		
Ak-022	花輪古館跡	第301号堅穴住居跡	●					4	4	4	4				2											3b-1	Ⅳ期以降構築			
Ak-023	案内Ⅲ	SI001	●					4	4	4	4							カマドにも。								3b-1	Ⅳ期以降構築			
Ak-023	案内Ⅲ	SI002	●					4	4	4	4														2-3	Ⅲ期以降				
Ak-023	案内Ⅲ	SI006	●					4	4	4	4														2-3	Ⅲ期以降				
Ak-023	案内Ⅲ	SI009	●					4	4	4																				
Ak-023	案内Ⅲ	SI010	●					4	4																	2	SI011・012を切る。	2-4	Ⅲ期以降	

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況										焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			分析				覆土					構築土														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設	自然・人為	備考	堅穴部							付属施設			不明	備考
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体			外周溝	掘立柱建物						貼り床	カマド	掘立柱建物		
Ak-027	赤坂A	第102号堅穴住居跡	●					4								カマドのみ。覆土か構築土か不明。			2-3	Ⅲ期以降						
Ak-027	赤坂A	第103号堅穴住居跡	●					4						2						3a-1	Ⅳ期以降					
Ak-028	赤坂B	第02号堅穴住居跡	●					4	4	4	4			1						2-3	Ⅲ期以降					
Ak-028	赤坂B	第03号堅穴住居跡	●									4		1	単層。					2-3	Ⅲ期以降					
Ak-028	赤坂B	第04号堅穴住居跡	●					4		4				1	カマド。					該当なし						
Ak-028	赤坂B	第05号堅穴住居跡	●					4						1						該当なし						
Ak-028	赤坂B	第06号堅穴住居跡	●					4	4	4	4			1					2	2-3	Ⅲ期以降					
Ak-028	赤坂B	第07号堅穴住居跡	●					4	4	4	4				ピットにも。				4度の拡張。	2-3	Ⅲ期以降					
Ak-028	赤坂B	第08号堅穴住居跡	●					4	4	4				1						該当なし						
Ak-028	赤坂B	第09号堅穴住居跡	●					4	4	4	4			1						2-3	Ⅲ期以降					
Ak-028	赤坂B	第11号堅穴住居跡	●					4						1						該当なし						
Ak-028	赤坂B	第12号堅穴住居跡	●					4		4	4			1						2-3	Ⅲ期以降					
Ak-028	赤坂B	第13号堅穴住居跡	●					4	4	4				1						該当なし						
Ak-028	赤坂B	第14号堅穴住居跡	●					4						1						該当なし						
Ak-028	赤坂B	第15号堅穴住居跡	●					4	4						カマドにも。					該当なし						
Ak-028	赤坂B	第105号堅穴住居跡	●					4	4	4	4			1	ほぼ単層。カマドにも。					2-3	Ⅲ期以降					
Ak-029	中の崎	SI001	●					3									1		5	3b-1	Ⅳ期以降構築					
Ak-029	中の崎	SI002	●					4	4	4					カマドのみ。				カマド構築土に堆積の可能性あり。	2-3	Ⅲ期以降					
Ak-029	中の崎	SI003	●														1			3b-1	Ⅳ期以降構築					
Ak-029	中の崎	SI008	●					4	4						カマドのみ。					該当なし						
Ak-029	中の崎	SI009	●					4	4		4									2-3	Ⅲ期以降					
Ak-029	中の崎	SI012	●					4	4		4				カマドのみ。				5	2-3	Ⅲ期以降					

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考						
			分析					覆土					構築土		不明	備考														
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		自然・人為	備考			堅穴部		付属施設											
								上位	中位	下位	床・底面a	床・底面b					全体	外周溝	掘立柱建物						貼り床	カマド	掘立柱建物	周堤		
Ak-029	中の崎	SI018	●					4	4	4	4														2-3	Ⅲ期以降				
Ak-029	中の崎	SI01	●								4														2	2-3	Ⅲ期以降			
Ak-029	中の崎	SI02	●																		3	カマド覆土。				該当なし				
Ak-029	中の崎	SI03	●													1										3b-1	Ⅳ期以降構築			
Ak-029	中の崎	SI06	●					1			4															1a-1	Ⅰ期			
Ak-029	中の崎	SI08	●								4	4					床bはカマド。		1								2-3	Ⅲ期以降		
Ak-029	中の崎	SI112	●					4	4		4																2-3	Ⅲ期以降		
Ak-029	中の崎	SI113	●					4	4		4						堅穴部は中位のみ。										2-3	Ⅲ期以降		
Ak-029	中の崎	SI301	●						4								カマド。		1								3b-1	Ⅳ期以降構築		
Ak-030	一本杉	SI003	●																				4				該当なし			
Ak-030	一本杉	SI004	●					4	4		4																3b-1	Ⅳ期以降構築		
Ak-030	一本杉	SI005	●					4	4	4	4						カマドにも。		1								3b-1	Ⅳ期以降構築		
Ak-030	一本杉	SI006	●					4		4	4						カマドにも。										2-3	Ⅲ期以降		
Ak-030	一本杉	SI010	●					4									カマドにも。										該当なし			
Ak-030	一本杉	SI011	●					4	4																		該当なし			
Ak-030	一本杉	SI012	●					4	4	4	4																2-3	Ⅲ期以降		
Ak-030	一本杉	SI013	●					4	4	4	4						カマドにも。										2-3	Ⅲ期以降		
Ak-030	一本杉	SI014	●								4						カマド。							4			2-3	Ⅲ期以降		
Ak-030	一本杉	SI016	●									4					単層。											2-3	Ⅲ期以降	
Ak-030	一本杉	SI017	●					4	4	4	4																2-3	Ⅲ期以降		
Ak-030	一本杉	SI018	●								4																	該当なし		
Ak-030	一本杉	SI019	●					4																				該当なし		
Ak-030	一本杉	SI030	●					4	4	4	4						カマドにも。										2-3	Ⅲ期以降		
Ak-030	一本杉	SI031	●									4															2-3	Ⅲ期以降		
Ak-031	上葛岡Ⅳ	第1号住居跡	●					4	4	4																		該当なし		

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況											焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考							
			分析					覆土					構築土																	
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部			付属施設		備考	堅穴部		付属施設								不明	備考					
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体		外周溝	掘立柱建物	自然・人為	貼り床	カマド								柱穴	掘立柱建物	周堤		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI04	●						4					2	一括埋め戻し。単層。柱穴にも。	1	1									SI03を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI06	●						4					2→1	床b～aは一括埋め戻し。これより上位は自然。	1	1									SI07を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI07	●						4					2	一括埋め戻し。柱穴にも。											SI06に切られる。	3a-1	IV期以降		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI08	●						4					2	一括埋め戻し。柱穴にも。	1	1									SI03に切られる。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI11	●					4	4	4	4			2→1	床b～中位は一括埋め戻し。上位のみ自然。		1								壁板の一部を残したまま柱材を除去し上層を解体。床面上で部材の一部を復元し開口部の埋め戻しを行ったと推定。	SI166を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI12	●						4					2	一括埋め戻し。柱穴にも。	1	1									SI165を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI13	●					4						2→1	床b～中位は一括埋め戻し。上位のみ自然で、テフラは上位にのみ混入。		1									SI165を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	●					4	4	4	4			2	壁溝内堆積土には混入しないが、いずれも壁板設置時の構築土と推定。											SI165を切る。	3a-1	IV期以降		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI16	●						4					2	一括埋め戻し。柱穴にも。		1								壁板裏込土にも混入。	SI49を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下Ⅱ	SI17	●					4	4	4	4			2→1	床b～中位は一括埋め戻し。上位のみ自然。壁溝内堆積土のうち壁板設置時の構築土には堆積せず。												SI165を切る。	3a-1	IV期以降	
Ak-036	坂下Ⅱ	SI21	●						4					2	一括埋め戻し。												SI165を切る。	3a-1	IV期以降	

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ				堆積層位・状況													焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考				
			分析				覆土					構築土			備考													
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設	自然・人為	備考		堅穴部		付属施設										
								上位	中・下位	床・底面 a	床・底面 b					全体	外周溝	掘立柱建物	貼り床						カマド	掘立柱建物	周堤	
Ak-036	坂下II	SI23	●						4			2	一括埋め戻し。柱穴にも。											3a-1	IV期以降			
Ak-036	坂下II	SI36	●						4			2	一括埋め戻し。	1	1									SI37・38を切る。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下II	SI37	●						4			2	一括埋め戻し。単層。柱穴にも。		1									SI38を切り、SI36に切られる。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-036	坂下II	SI38	●						4			2	一括埋め戻し。単層。柱穴にも。											SI36・37に切られる。	3a-1	IV期以降		
Ak-036	坂下II	SI49	●					4	4	4	4	2	一括埋め戻し。壁溝の壁板抜き後堆積土。柱穴にも。											SI16に切られる。	3a-1	IV期以降		
Ak-037	狼穴IV	SI01	●					4	4	4		1												該当なし				
Ak-037	狼穴IV	SI02	●					4	4	4		2	壁高覆土以外に混入。												2.5	3a-1	IV期以降	
Ak-037	狼穴IV	SI03	●									2		1											3b-1	IV期以降構築		
Ak-037	狼穴IV	SI05	●					4	4	4		2	壁高覆土以外に混入。	1	1									SI06A(排水溝件う)より新。	3b-1	IV期以降構築		
Ak-037	狼穴IV	SI06A	●					4	4				カマド。		1							本文では堆積なしとしているが、断面注記に記載あり。			3b-1	IV期以降構築		
Ak-037	狼穴IV	SI07A	●							4				1	1											3b-1	IV期以降構築	
Ak-037	狼穴IV	SI08	●							4		2														3a-1	IV期以降	
Ak-037	狼穴IV	SI09	●					4	4															2.5	該当なし			
Ak-037	狼穴IV	SI15	●							4		2	単層。								SI09構築時の埋め戻し。		SI09に切られる。	3a-1	IV期以降			
Ak-037	狼穴IV	SI10	●							4		1	単層。													2-3	III期以降	
Ak-037	狼穴IV	SI12	●							4		2												SI15を切る。	3a-1	IV期以降		
Ak-037	狼穴IV	SI13	●					4				1														該当なし		
Ak-037	狼穴IV	SI17	●					4	4	4		1														該当なし		
Ak-038	駅道内中台I	01-SI193	●						3			2												01-SI359を切り、01-SI190・192に切られる。	3a-1	IV期以降		

遺跡№	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況															備考	遺失	重複	堆積分類	時期判定	備考		
			分析					覆土							構築土															
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	堅穴部				付属施設			自然・人為	備考	堅穴部				付属施設									
								上位	中位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝	掘立柱建物			貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤	不明								
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI01	●									4														02-SI02を切る。	2-3	Ⅲ期以降		
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI02	●									4														02-SI03を切り、02-SI01に切られる。	2-3	Ⅲ期以降		
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI03	●									4														02-SI10を切り、02-SI03に切られる。	2-3	Ⅲ期以降		
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI10	●									4																2-3	Ⅲ期以降	
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI04	●						4						2				1									3b-1	Ⅳ期以降構築	
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI14	●									4			2													3a-1	Ⅳ期以降	
Ak-038	釈迦内中台 I	02-SI25	●						4																			該当なし		
Ak-038	釈迦内中台 I	03-SI853	●										4		1													3b-2	Ⅳ期以降構築	
Ak-038	釈迦内中台 I	05-SI27	●																									3b-2	Ⅳ期以降構築	
Ak-038	護訪台C	SI18	●						4	4	4	4			1				1									2-3	Ⅲ期以降	
Ak-038	護訪台C	SI32	●						4	4	4	4																		
			●	バリノ	組成、火山ガラス形態、斜方輝石・火山ガラス屈折率	B-Tm									1		1													

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ					堆積層位・状況												焼失	重複	堆積分類	時期判定	備考					
			分析					覆土						構築土															
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	竪穴部				付属施設		自然・人為	備考	竪穴部			付属施設						不明	備考			
								上位	中下位	床・底面a	床・底面b	全体	外周溝			掘立柱建物	貼り床	カマド	掘立柱建物								周堤		
Ak-040	塚の下	2号竪穴住居跡	●																	4	図、注記無し。			該当なし					
Ak-040	塚の下	4号竪穴住居跡	●																		4	図、注記無し。			該当なし				
Ak-040	塚の下	6号竪穴住居跡	●																		4	図無し。			該当なし				
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	SI108	●																		4	霜降り状。層位詳細記載なし。			該当なし				
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	SI144A	●						4	4	4	4				カマドにも。								SI144Bを切る。	2-3	Ⅲ期以降			
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	SI144B	●						4	4	4				カマドにも。	1								SI144Aに切られる。	3b-1	Ⅳ期以降構築			
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	第1号竪穴住居跡	●						4	4											1			1	該当なし				
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	第2号竪穴住居跡	●						4															2	2-4	Ⅲ期以降			
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	第4号竪穴住居跡	●						4															2	2-4	Ⅲ期以降			
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	第5号竪穴住居跡	●						1																1a-1	Ⅰ期			
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	第8号竪穴住居跡	●						4																	該当なし			
Ak-041	頼釣館跡(山王台)	第9号竪穴住居跡	●						4																	該当なし			
Ak-042	上野	SI40	●						1															6	3b-2	Ⅳ期以降構築			
Ak-043	池内	SI100	●						4						1	カマド。								4		該当なし			
Ak-043	池内	SI101	●						4	4					1	霜降り状。										該当なし			
Ak-043	池内	SI105	●												1									4		該当なし			
Ak-043	池内	SI121	●						4						1										1	該当なし			
Ak-043	池内	SI126	●						4						1											該当なし			
Ak-043	池内	SI423	●						4	1	4				1	カマド。										1a-1	Ⅰ期		
Ak-043	池内	SI610	●						4	1	4				1	カマド。										1a-1	Ⅰ期		
Ak-043	池内	SI722(古)	●																							該当なし			
Ak-043	池内	SI722(新)	●						4	4	4				1	霜降り状。										該当なし			
Ak-044	袖ノ沢	SI01	●						4	4						霜降り状。中位一部粗塊。									SI05を切る。	該当なし			
Ak-044	袖ノ沢	SI03	●						4							霜降り状。									大濠浮石層を掘り込む。	3b-2	Ⅳ期以降構築		
Ak-044	袖ノ沢	SI04	●						4							霜降り状。										該当なし			

遺跡No.	遺跡名	遺構名	テフラ													堆積層位・状況												備考	遺失	重複	堆積分類	時期判定	備考										
			分析						覆土							構築土																											
			To-a	B-Tm	分析者	分析方法	結果	上部	中位	床底面a	床底面b	全体	外周溝	掘立柱建物	自然・人為	備考	貼り床	カマド	柱穴	掘立柱建物	周堤	不明	備考																				
Ak-056	私田柵跡	SK11481 竪穴状遺構	●						1																										1a-1	I期							
Ak-056	私田柵跡	SK11651 竪穴状遺構	●																																3b-2	IV期以降構築							
Ak-056	私田柵跡	SK11922A 竪穴建物跡	●						1																										1a-1	I期							
Ak-056	私田柵跡	SK11924A~F 竪穴建物跡	●																																								
Ak-057	中屋敷Ⅱ	SI1034	●							4																																	
Ak-058	十二柱B	SK102	●	バリノ		軽石・火山ガラス組成・形態、火山ガラス屈折率	To-aとB-Tmが混在		1																											1a-1	I期						
Ak-059	姥ヶ沢窯跡	SK1140	●	バリノ		軽石・火山ガラス組成・形態、火山ガラス屈折率	To-a B-Tm僅かに混入																																				
			●	バリノ		軽石・火山ガラス組成、火山ガラス屈折率	To-aとB-Tmが混在		?																																		
Ak-060	大沼沢A	SI01	●						2																														1a-1	I期			
Ak-060	大沼沢A	SI02	●						2																															1a-1	I期		
Ak-060	大沼沢A	SI03	●						1																															1a-1	I期		
Ak-060	大沼沢A	SI04	●						2																															1a-1	I期		
Ak-060	大沼沢A	SI05	●						1																															1a-1	I期		
Ak-060	大沼沢A	SI06	●						2																															1a-1	I期		
Ak-061	獅子館窯跡	SI36	●						4																																1a-1	I期	
Ak-062	田久保下	SI320	●						1																																1a-1	I期	

連番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
lw-069	扇畑 I				5				1	2					8	
lw-070	赤坂田 I				1										1	
	計	22	8	2	109	4	2	9	5	46	2	1	0	1	211	
		10.4%	3.8%	0.9%	51.7%	1.9%	0.9%	4.3%	2.4%	21.8%	0.9%	0.5%	0.0%	0.5%		

⑩ 馬瀬川上流域(一戸地域)

連番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
lw-023	川原田平	2													2	
lw-025	親久保 II				1			3							4	
lw-026	小井田 V	2													2	
lw-027	壽前	2													2	
lw-028	一戸城跡	6			1							1			8	
lw-029	野田 II	1													1	
lw-030	北館	1													1	
lw-031	北館B	2			2										4	
lw-032	上野	16			4										23	
lw-033	田中5	2													2	
lw-034	田中4	2		1											3	
lw-035	田中3			1											1	
lw-036	田中	16			10	3				2					31	
lw-037	馬場平(旧馬場平2)	2							1						3	
lw-038	下地切	3		1	1										5	
lw-039	御所野	1			7				1	1					10	
lw-041	大平	14	1		6			2			6	1			30	
lw-042	野皇上	1													1	
	計	73	1	3	32	3	0	5	2	6	6	2	0	0	133	
		54.9%	0.8%	2.3%	24.1%	2.3%	0.0%	3.8%	1.5%	4.5%	4.5%	1.5%	0.0%	0.0%		

⑪ 馬瀬川中流域南部・十字川流域(二戸地域)

連番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
lw-001	門松	9													9	
lw-002	寺久保	4													4	
lw-003	上台	8	1	1											10	
lw-004	駒焼場	5	1		14	2			2	16					40	
lw-005	馬場	8		1											9	
lw-006	荒田 III	1													1	
lw-007	上田面	24		1	1										26	
lw-008	戸花B	1													1	
lw-009	戸花C	1													1	
lw-010	堀野	23													23	
lw-011	長瀬A	3			1					1					5	
lw-012	長瀬B	12	1		7					2					22	

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Iw-089	宮沢				1				1	1					3	
Ao-026	砂子			1	2							12	4	4	24	
	計	31	2	2	30	0	4	0	2	6	0	12	4	4	98	
		31.6%	2.0%	2.0%	30.6%	0.0%	4.1%	0.0%	2.0%	6.1%	0.0%	12.2%	4.1%	5.1%		

⑮ 久慈地域(九戸東部)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Iw-090	高屋敷		1							1					2	
Iw-091	中田	1													1	
Iw-092	明神			1				3							4	
Iw-093	源道	11												1	12	
Iw-094	鼻館跡	4							1					1	6	
Iw-095	田高 I														0	
Iw-096	中長内 I (旧中長内)	4													4	
Iw-097	平沢 I	6	2	2	1	1					1	2			15	
	計	26	3	3	1	1	0	3	1	1	1	2	0	2	44	
		59.1%	6.8%	6.8%	2.3%	2.3%	0.0%	6.8%	2.3%	2.3%	2.3%	4.5%	0.0%	4.5%		

⑯ 八戸平野周辺(馬淵川下流・新井田川流域)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-008	境沢頭	1													1	
Ao-009	丹内	1													1	
Ao-010	館平	1													1	
Ao-011	坂中	1													1	
Ao-012	市子林	4	1		1										6	
Ao-013	新田	2													2	
Ao-014	海野	4				4									8	
Ao-015	牛ヶ沢(4)	9	1			2	1					1			14	
Ao-016	田面木	2													2	
Ao-017	根城跡	7	1									1			9	
Ao-018	岩ノ沢平	9	4	1	3	15	2	13	1			6	2	1	59	※左記棟数以外に、III期以前(重複による)が1、V期以前(重複による)が2あり。計59棟。
Ao-020	上野平(3)					1									1	
Ao-021	根岸山添					1									1	
Ao-022	櫛引	2	1			8									11	
Ao-023	風張(1)					3									3	
Ao-024	小坂橋(2)					1									1	
Ao-025	黒坂		2												2	
Ao-027	田向				2										2	
Ao-029	松館											1			1	
Ao-030	大仏館				3							3			6	
Ao-031	林ノ前												1	3	4	
	計	42	10	1	9	35	3	13	1	0	0	12	3	4	136	
		31.6%	7.5%	0.8%	6.8%	26.3%	2.3%	9.8%	0.8%	0.0%	0.0%	9.0%	2.3%	3.0%		

⑪ 上北地域南部(奥入瀬川流域)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-033	大和田	4													4	
Ao-034	六日町	1	2												3	
Ao-035	埴毛沢(1)	2													2	
Ao-036	埴毛沢(3)	1							1						2	
Ao-037	立蛇(1)	2													2	
Ao-038	向山(6)	1													1	
Ao-039	ふくべ(3)	13	2												15	
Ao-040	ふくべ(4)		1												2	
Ao-041	中野平	18	4		1			1							24	
Ao-042	長谷														3	
	計	42	9	0	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	58	
		72.4%	15.5%	0.0%	1.7%	5.2%	3.4%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

⑫ 上北地域中部(三本木原周辺~小川原湖沼群南部)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-044	赤平(1)	2													2	
Ao-045	東道ノ上(3)	2													2	
Ao-046	平畑(3)	1													1	
Ao-047	太田野(2)	9													9	
Ao-048	七戸城跡	4			2										6	
Ao-049	大池館	4		1	3					3					11	
Ao-050	倉越(2)	6			12				6	2		1	1		28	
Ao-051	赤平(2)	2			3				2	5			4	2	18	
Ao-052	赤平(3)	8			3				14	21		2	2	7	57	
Ao-054	山ノ外	3								1					4	
Ao-056	鳥口平(8)							1							1	
Ao-057	往來ノ上(1)							2							2	
Ao-058	白旗館								1						1	
Ao-059	風穴					1		2			1				4	
Ao-060	猫又(1)											1			1	
	計	41	0	1	23	1	0	5	23	32	1	4	7	9	147	
		27.9%	0.0%	0.7%	15.6%	0.7%	0.0%	3.4%	15.6%	21.8%	0.7%	2.7%	4.8%	6.1%		

⑬ 上北地域北部(野辺地湾周辺~小川原湖沼群北部)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-061	向田(24)							1						1	2	
Ao-062	向田(35)				1				2	1			3	12	21	
Ao-063	弥栄平(4)					5		1			3	1			10	
Ao-064	上尾駸(2)					2						4		1	7	
Ao-065	家ノ前					4	1	2				1	1		9	
Ao-066	坊ノ塚(2)											1			1	
Ao-067	唐貝地											1			1	
Ao-068	幸畑(4)											2			2	
Ao-069	発茶沢(1)										1		1	12	14	
Ao-070	沖附(1)											1		6	7	
Ao-071	二十平(1)													2	2	
Ao-073	向田(34)												2		2	
Ao-074	向田(37)													1	1	

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-075	向田(40)													2	2	
Ao-076	家の後(6)				1	11	1	4	2	1	3	14	9	36	1	
	計	0	0	0	1.2%	13.4%	1.2%	4.9%	2.4%	1.2%	3.7%	17.1%	11.0%	43.9%	82	

㊦ 下北地域

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-077	最花南										1				1	
Ao-078	アイヌ野											1			1	
	計	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	2	

郡外 日本海側

㊦ 能代平野周辺(米代川下流域)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ak-047	鶴巢 I・II					1								1	2	
Ak-048	上の山II					1		1				1		7	10	
Ak-049	此掛沢II													1	1	
Ak-052	土井							1							1	
	計	0	0	0	0.0%	2	0.0%	2	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	9	14	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	64.3%		

㊦ 阿仁川流域

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ak-046	地藏岱				4				5						9	
	計	0	0	0	4	0	0	0	5	0	0	0	0	0	9	
		0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

㊦ 米代川上~中流域(a:花輪盆地 b:大館盆地 c:鷹巣盆地)

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ak-003	はりま館		3		4				2	19					28	
Ak-004	大湯環状列石			3	8				3	6					20	
Ak-005	物見坂III								1						1	
Ak-006	物見坂II	1													1	
Ak-007	鹿角沢II	2		5											7	
Ak-008	鳥野	1													1	
Ak-009	源田平	2													2	
Ak-010	小枝指館跡				3										3	
Ak-011	小平	1													1	
Ak-012	高市向館跡	2			7				29						38	
Ak-013	太田谷地館跡							2		3					5	
Ak-014	高屋館跡							1							1	
Ak-015	下乳牛			1	1										2	
Ak-016	案内館跡	1													1	
Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ神II)		1		1					1					3	
Ak-018	用野目川向III				2										2	
Ak-019	天戸森			1					1	1					3	

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ak-020	堀忍沢			1	5										6	
Ak-021	御休堂			1	1										2	
Ak-022	花輪古館跡				1					1					2	
Ak-023	案内Ⅲ				9					1					10	
Ak-024	案内Ⅳ	1			1										2	
Ak-026	案内Ⅰ				1										1	
Ak-027	赤坂A				3			1	3						7	
Ak-028	赤坂B				7										7	
Ak-029	中の崎	1			8				4						13	
Ak-030	一本杉				8				2						10	
Ak-031	上葛岡Ⅳ				5										5	
Ak-032	玉内								1						1	
Ak-034	北の林Ⅱ				2				1						3	
a 小計		12	4	12	77	0	0	3	37	43	0	0	0	0	188	
		6.4%	2.1%	6.4%	41.0%	0.0%	0.0%	1.6%	19.7%	22.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

Ak-035	野崎								2						2	
Ak-036	坂下Ⅱ								7	10					17	
Ak-037	狼穴Ⅳ				1				4	4					9	
Ak-038	釈迦内中台Ⅰ				4				2	3					9	
Ak-039	諏訪台C				1			1							2	
Ak-041	舘釣館跡(旧山王岱・山王台)	1			3					1					5	
Ak-042	上野									1					1	
Ak-043	池内	2													2	
Ak-044	榎ノ沢									1					1	
Ak-070	道目木			1											1	
b 小計		3	0	1	9	0	0	1	15	20	0	0	0	0	49	
		6.1%	0.0%	2.0%	18.4%	0.0%	0.0%	2.0%	30.6%	40.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
合計		15	4	13	86	0	0	4	52	63	0	0	0	0	237	
		6.3%	1.7%	5.5%	36.3%	0.0%	0.0%	1.7%	21.9%	26.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

Ak-045	胡桃館埋没建物			4*											4	*板壁・高床・掘立柱建物
c 小計		0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

㊦ 津軽平野南部～南緑丘陵周辺

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-079	上牡丹森					1									1	
Ao-080	浅井(1)					1									1	
Ao-081	原					1									1	
Ao-082	李平下安原					8		3	1						12	
Ao-083	板留(2)				2									1	3	
Ao-084	前川								8					15	23	
Ao-085	宮元											1			1	
計		0	0	0	0	13	0	3	0	9	0	1	0	16	42	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.0%	0.0%	7.1%	0.0%	21.4%	0.0%	2.4%	0.0%	38.1%		

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-124	細越									1					1	
Ao-125	高間(1)									1					1	
Ao-126	宮田館									1					6	
Ao-127	岩波小谷(2)					1						3		1	5	
Ao-128	小牧野											1			1	
Ao-129	三内浜部(3)											1			1	
Ao-130	玉松谷(2)											1			1	
Ao-131	朝日山(3)											3			3	
Ao-115・116・131	朝日山					1						1			2	
Ao-132	二股(2)											1		1	2	
Ao-133	葛野(2)							1					2		3	
Ao-134	新田(2)												1		1	
	計	24	31	5	23	62	15	32	12	4	3	49	11	24	295	
		8.1%	10.5%	1.7%	7.8%	21.0%	5.1%	10.8%	4.1%	1.4%	1.0%	16.6%	3.7%	8.1%		

㉗ 津軽平野西部～岩木山北東麓

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-137	宇田野(2)				1										1	
Ao-138	平野					1									1	
Ao-139	八重菊(1)					9		1							10	
Ao-140	外馬屋前田(1)					2		1			1	4	1		9	
Ao-141	稲元							1							1	
Ao-142	下恋塚									1					1	
Ao-143	李沢													1	1	
	計	0	0	0	1	12	0	3	0	1	1	4	1	1	24	
		0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	50.0%	0.0%	12.5%	0.0%	4.2%	4.2%	16.7%	4.2%	4.2%		

㉘ 津軽平野北部

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-145	川倉小学校					3	0	1							5	
	計	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	5	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%		

㉙ 西津軽・日本海沿岸

遺番号	遺跡名	I期	II期	III期	III期以降	IV期以前	III~IV期	IV期	IV期以降	IV期以降構築	V期	V期以降	VI期以降	VI期以降構築	計	備考
Ao-147	産野					1		1							2	
Ao-148	津山											2			2	
	計	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	4	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%		

第4章 各噴火現象の堆積物確認範囲にみる被害推定

1 前提

火山噴火イベントが人間に与える影響度は、噴火規模、噴火現象など噴火イベントそのものがベースとなり、そこに地形や気象など自然環境に関係する要因と、人文的環境による要因が加わることで決定される。噴火規模と人間が受ける影響の大きさは、基本的に比例する。ただし、同等の噴火規模であっても、噴火現象の違いによって影響範囲の広狭や強度が異なる。

噴出物はマグマの性質や噴火現象によって異なり、火砕流、火砕サージ、溶岩流、降下火砕物（軽石、スコリア、火山灰）、火山ガスなどが知られるが、例えば火砕流と降下火砕物では影響エリアと度合いが異なる。仮に、噴火規模（＝噴出物量として）が同等で火砕流を主とする噴火と降下火山灰を主とする噴火が発生した場合、前者は比較的近距离に、地形の影響を受けつつ低地を中心に壊滅的なダメージを与え、後者は気象の影響を受けながらより遠方へ飛散し、広域にしかも地形の制約を受けず比較的一様な被害を及ぼす。ただし、直撃を受けても瞬時に生命を奪われるという状態にはならない。環境に対する影響の度合いも、またダメージを回復するのに要する時間も、それらの地理的範囲も異なってくる。

ここに人間や社会が介在して初めて「災害」が発生するわけであるが、人間活動は時代や地域によって千差万別であり、立地も違えば活用する自然も、生業も、さらにはその規模や方法も一様ではない。仮に縄文時代と平安時代、現代に同じ噴火が起こったとして、社会が被る被害や生ずる問題とその度合いは異なるはずである。

本論で取り上げている十和田 10 世紀噴火における噴火過程研究については第 1 章で述べたが、火砕流噴火とそれにともなうコイグニンプライト火山灰（To-a）の発生説が複数の研究者によって唱えられている。高温の火山ガスや空気と火山灰・溶岩片などの火砕物とが一体となって高速度で運動する現象である火砕流は、最も危険な噴火現象である。本体部の温度は 600～700℃にもなり、速度は時速 100 kmにもなるという。事後に残された火砕流堆積物の多少に関わらず、粉体流の到達範囲内にあった生物に壊滅的なダメージを与えたであろうことは論を待たない。いっぽうで、コイグニンプライト火山灰すなわち細粒火山灰の降灰現象の場合、移動能力を持たない植物はさておき、人間に対して健康面への影響は当然あるものの、上述のとおり瞬間的に生命を奪われるような危機的影響を与えるものではない。ここで重要となるのは降灰量の多少であり、これによって影響度合いが異なることとなる。

噴火規模・現象、火山からの距離による災害度の差異・濃淡は、徳井由美や下山覚によって示されている。

徳井は、北海道における 17 世紀以降の火山噴火と日高西部地域のアイヌの反乱との関係性を論じた中で、「火山災害分級図」を提示している（図 8・徳井 1989）。火山噴火災害の規模、人的被害が生じるまでの時間、火山からの距離から被害度を 4 区分

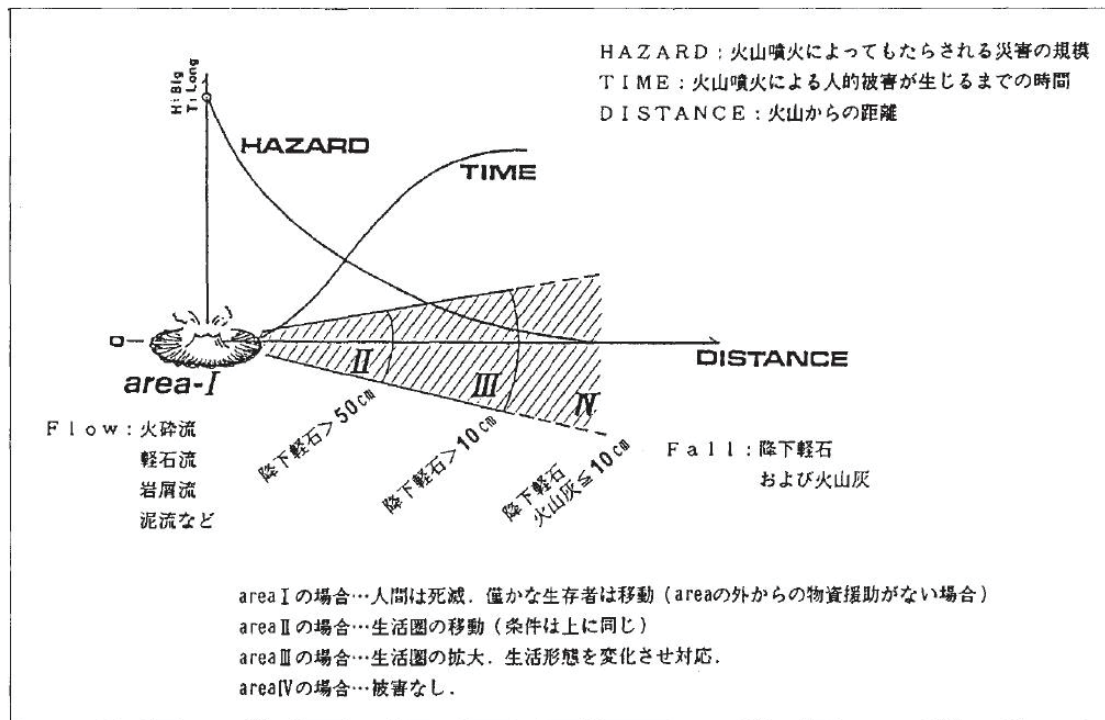


図 8 徳井 (1989) による「火山災害分級図」

し、人間が死滅しわずかな生存者は移動せざるを得ない範囲を area I (火砕流、岩屑流、泥流など流体の到達による被害範囲)、生活圏の移動を余儀なくされる範囲を area II (降下火砕物の層厚 50cm 以上)、生活圏は移動せずともよいがこれを拡大したり生活形態を変化させて対応していくような範囲を area III (降下火砕物の層厚 10 cm 以上)、被害の生じない範囲を area IV (降下火砕物の層厚 10 cm 以下) とした。なお、area III については、火山噴火当時の人々の生活状況や社会情勢が被害の程度に大きく影響する、としている。日高西部地域は、有珠山 1663 年噴火 (有珠 b 降下軽石が噴出) と樽前山 1667 年噴火 (樽前 b 降下軽石が噴出) に関していずれも area III に相当する地域であり、和人の社会的経済的圧迫によって生活形態を破壊され食料事情が悪化しつつあったところに両噴火が発生し、これがアイヌの歴史上最大の反乱であるシャクシャインの乱 (1669 年) 勃発のきっかけとなった可能性に言及している。

下山は、鹿児島県の開聞岳火山の噴出物で幾度も被覆された指宿市橋牟礼川遺跡の発掘調査結果をベースに、「災害のグラデーションの概念」を提示した。これは、災害の程度・質によって分けたいくつかの災害エリアを設定し、それらの文化がどう変化するかモデルを示したものである (下山 2002・2005)。なお、桑畑光博はこの理論を「火山災害エリア (テフラハザード) 区分論」と呼んだ (桑畑 2016)。その桑畑は、7200~7300 年前に南九州の鬼界カルデラで発生した鬼界アカホヤ噴火に関する研究の中で、徳井の分級概念を応用してアカホヤ噴火版の分級図 (「災害エリア区分図」と呼称) を提示した。4 区分であることと、各エリアが被る影響の内容は徳井の設定と同じである。

こういった考え方も踏まえた上で、十和田 10 世紀噴火で発生した噴火現象のうち堆積物が残存し影響範囲が特定もしくは復元可能な 3 つの現象、火砕流、ラハール、降下火山灰について、3 章で示したテフラ堆積堅穴建物の検出された遺跡の立地や状況とともに検討し、被害度の区分けを行ってみたい。

2 火砕流の到達範囲と遺跡にみる被害

十和田 10 世紀噴火で発生した火砕流は、毛馬内火砕流 (Kpf) と命名されている。この火砕流について早川由紀夫は、「噴火口から 20km 以内のすべてを破壊しつくした」(Hayakawa1985) としている。その毛馬内火砕流堆積物の現存分布および火砕流到達想定範囲が、原子力規制庁による報告書(国立研究開発法人産業技術総合研究所 2017)に示されている。これに本論における検出遺跡をプロットしたのが図 9 である。堆積物残存範囲内に立地する遺跡は確認されていないが、推定到達限界範囲北東端部に Ao-083 板留(2) 遺跡が、同南西端に Ak-004 大湯環状列石が含まれる。Ak-004 では十和田噴火期すなわちⅢ期廃絶の堅穴建物が 3 棟確認されているが、いずれも火砕流による被災痕跡は確認されない。それどころか、当遺跡ではⅣ期廃絶やⅣ期以降構築の堅穴も複数存在し、十和田噴火による集落の途絶が確認されない。いっぽうの Ao-083 では十和田のテフラ自体が検出されておらず、白頭山の噴火以降、すなわちⅥ期以降に構築された堅穴建物 1 棟が確認されたのみである。よって、毛馬内火砕流による被害遺跡は、現時点では確認されていない、ということになる。

3 ラハールの到達範囲と遺跡にみる被害

現在のところ、毛馬内火砕流にともなうラハール(火山泥流)が確認されている地域は、秋田県米代川流域と、青森県浅瀬石川～岩木川流域の 2 地域である。この 2 地域について被害状況を確認するとともに、それ以外の河川流域でラハールが生じていた可能性について検討する。

(1) 米代川流域

毛馬内火砕流発生後のある段階で、その堆積物を主たる母材とするラハールが米代川流域を西へ流下した。発生回数や収束に至った期間は不明である。同堆積物のつくる段丘面は毛馬内面(内藤 1966)に分類され、流域全体に存在し能代平野でも確認されている(内藤 1977)。

このラハールが、河川流域周辺の低地に当時存在していた集落を襲い、被覆した例が伝聞を含めて 10 件知られている。発掘調査が実施された 3 遺跡のうち、2015 年に発見された大館市片貝家ノ下遺跡の調査成果によって、低位面を利用し水田農耕を営む集落が存在したことが明らかとなった(秋田県埋蔵文化財センター2017)。段丘上の遺跡では水田の検出は皆無であり、イネの主たる生産場所は水がかりのよい河川流域の低地であったと解される。ラハール堆積物の層厚は 2 m を優に越え、まったく復旧不可能なレベルであった。米代川流域のいたるところで、同様の事態が発生していた可能性が高い。

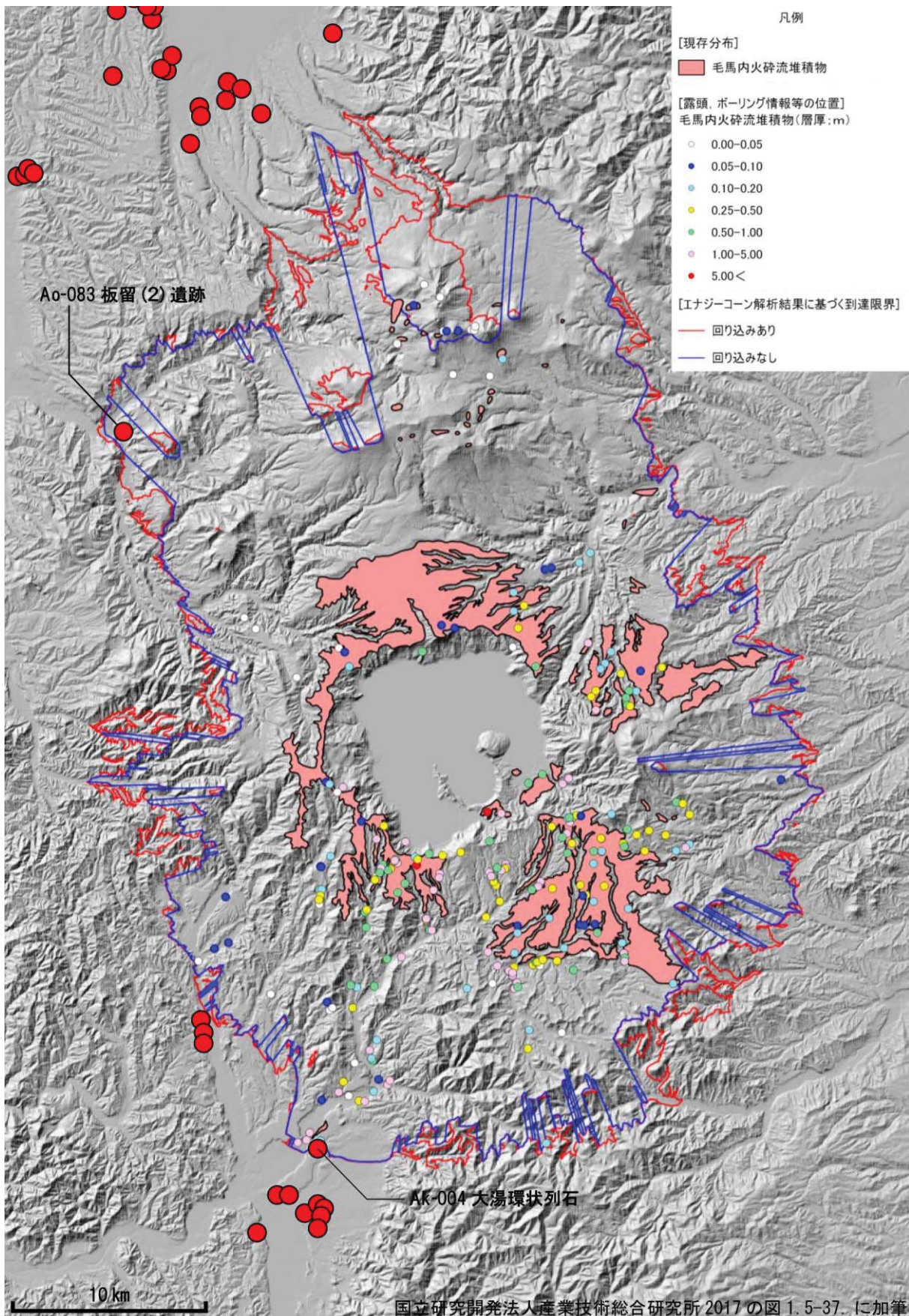


図9 毛馬内火砕流到達可能性範囲と遺跡立地

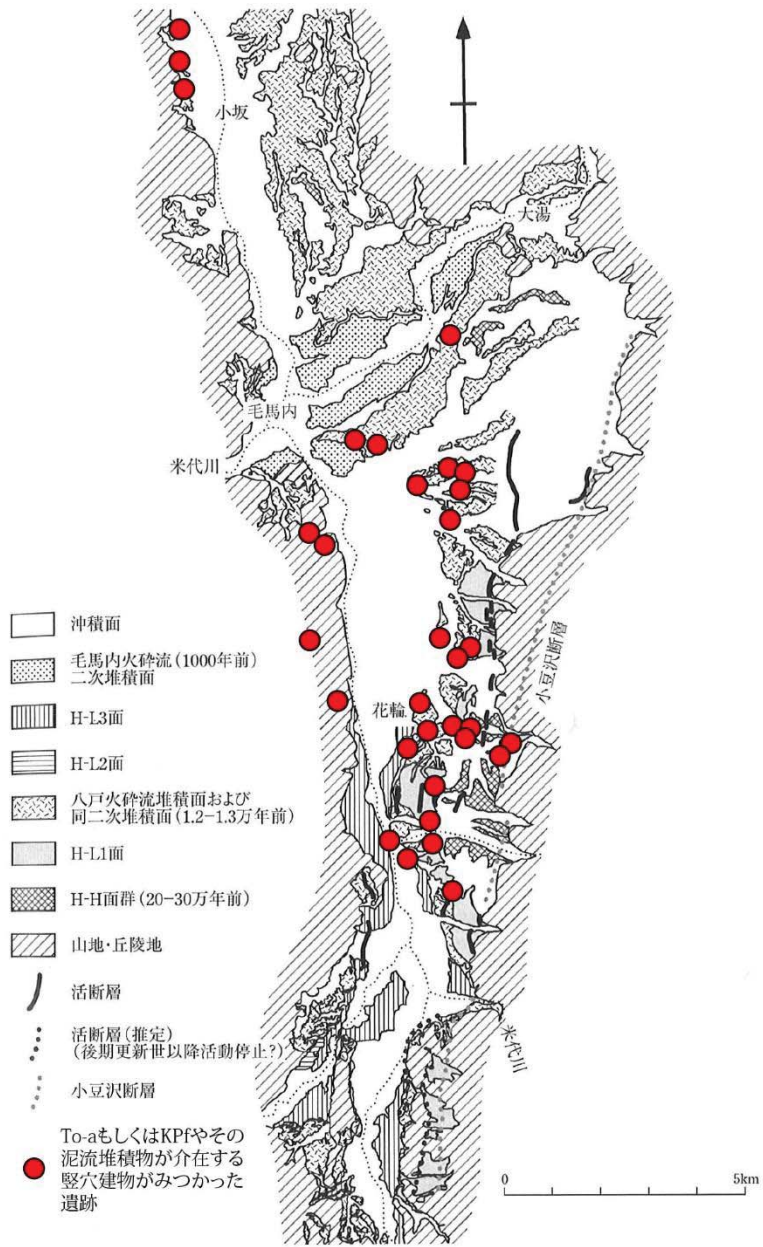


図 10 毛馬内面と遺跡立地（鹿角盆地）[大月 2005 一部加筆]

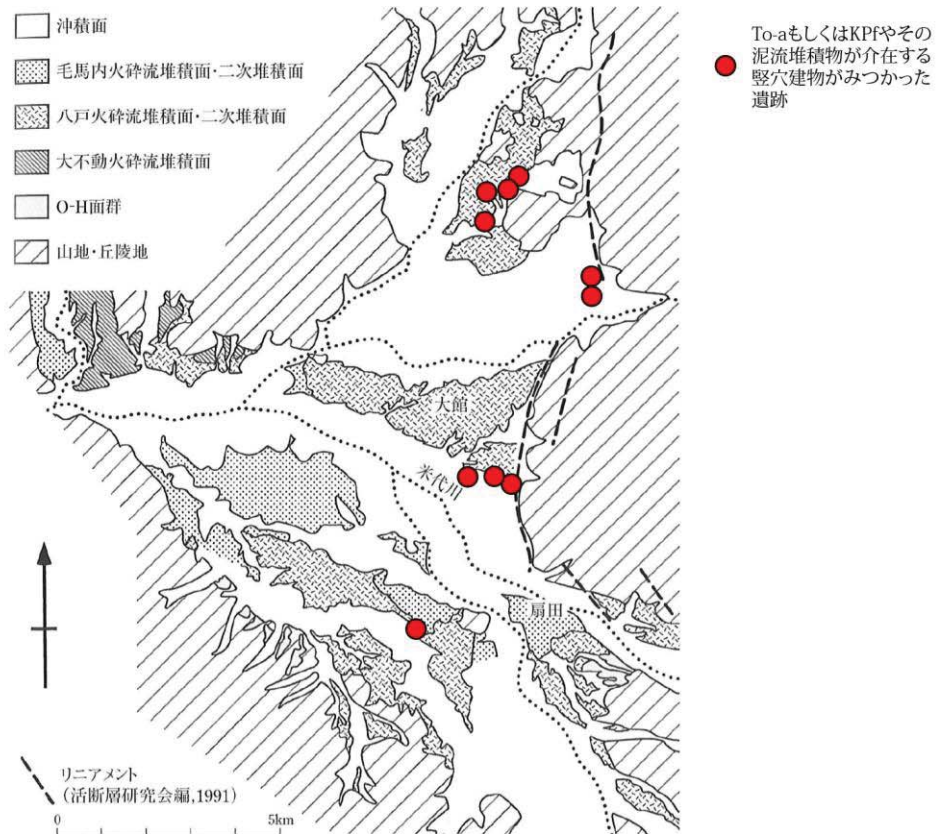


図11 毛馬内面と遺跡立地（大館盆地） [大月2005に一部加筆]

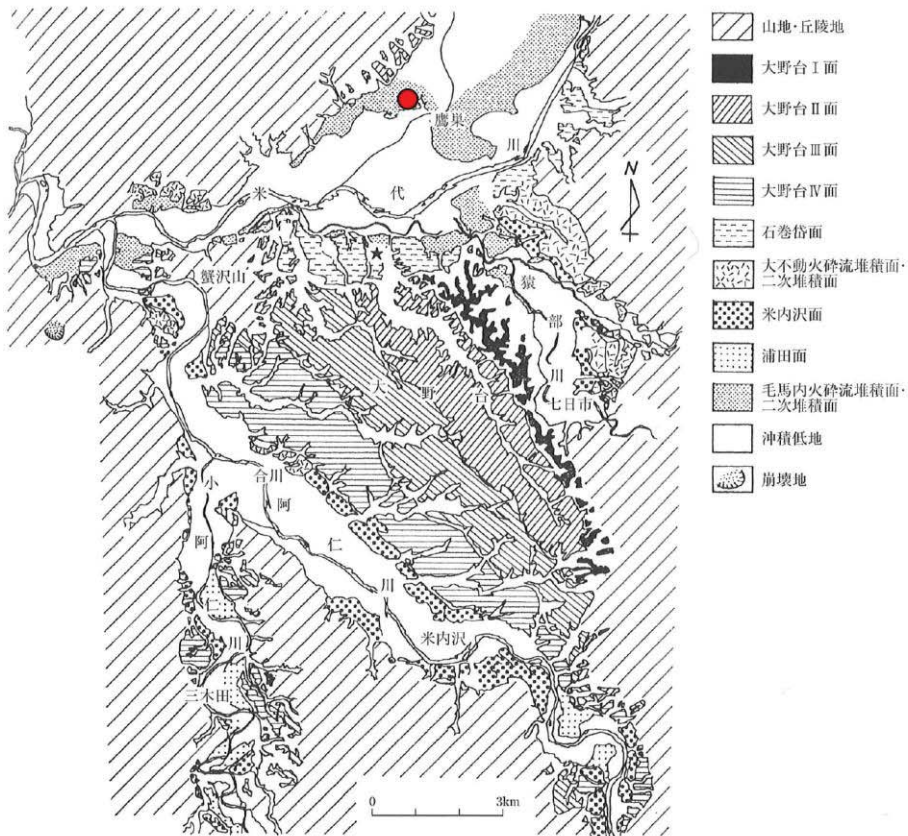
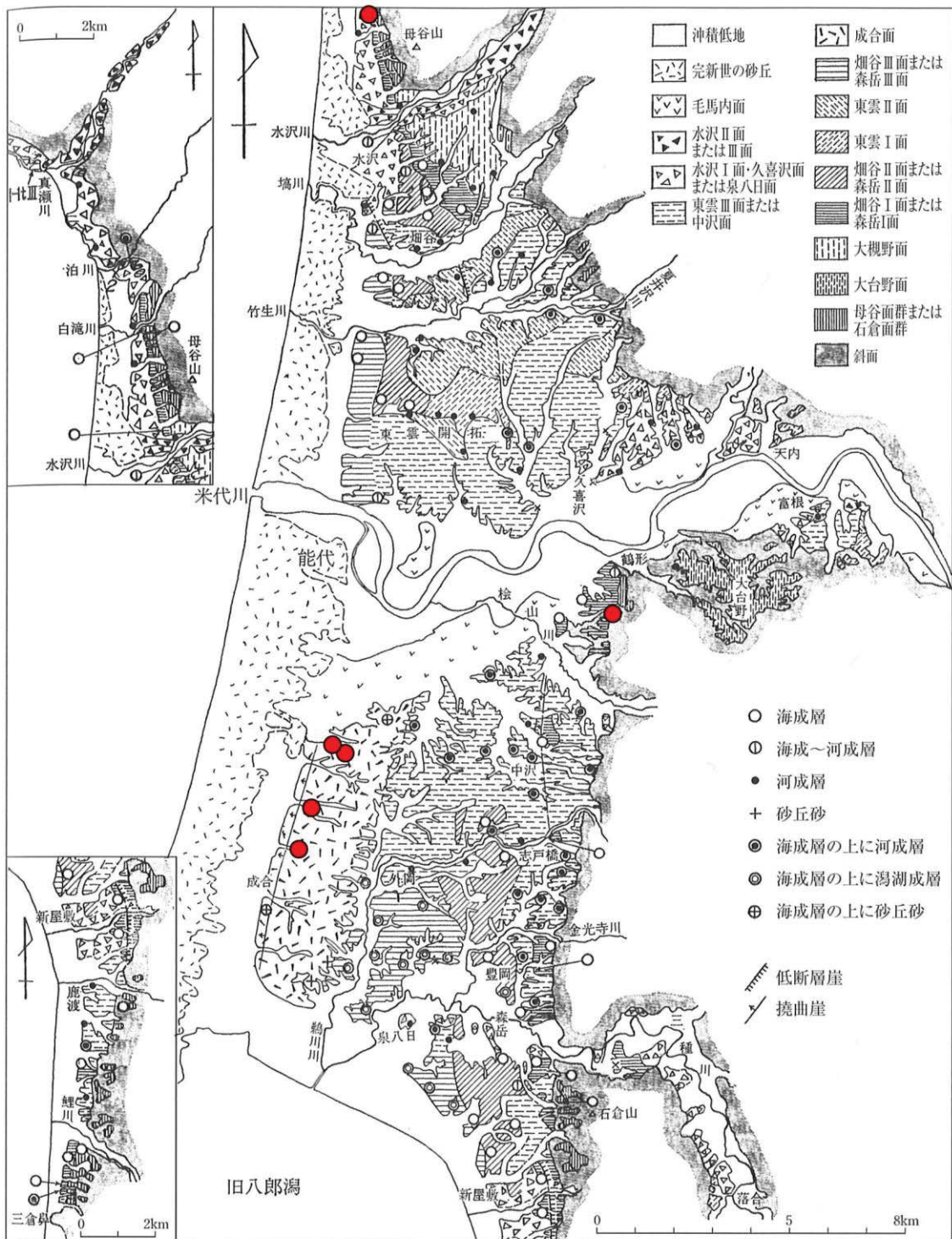


図12 毛馬内面と遺跡立地（鷹巣盆地） [大月2005に一部加筆]



● To-aもしくはKPfやその泥流堆積物が介在する竪穴建物が見つかった遺跡

図 13 毛馬内面と遺跡立地（能代平野）[大月 2005 に一部加筆]

さて、毛馬内火砕流堆積物およびラハール堆積物と、本論で抽出したテフラ堆積確認堅穴建物の立地を比較してみよう。鹿角盆地、大館盆地、鷹巣盆地、能代平野における毛馬内面の堆積位置図（大月 2005）にテフラ堆積確認遺跡をプロットしたのが図 10～13 である。毛馬内面の範囲内に位置するのは、Ak-045 胡桃館遺跡、Ak-070 道目木遺跡、そして Ak-071 片貝家ノ下遺跡のみで、十和田噴火後に毛馬内面上へ構築された平安期の遺跡・堅穴建物は確認されない。

この 3 遺跡は、建物を含め遺跡全体を 2 m 以上のラハール堆積物で被覆され、当時の生活面は完全に埋没している。この堆積物を除去しない限り、施設や生活根拠地として使用することは全く不可能であり、放棄せざるを得ない状態であった。人的被害を示す資料はこれまで確認されておらず、不明といわざるを得ない。しかし、胡桃館、片貝家ノ下両遺跡では建物が崩壊しておらず、しかも片貝家ノ下遺跡 S I 3 建物では、傾斜角 45° 程度もある屋根上に、ラハール到達前に降下・堆積した軽石がほぼ均一な層厚のまま残存していた。つまり、両遺跡を埋積した泥流は勢いが弱く、相当ゆっくりであった。仮に泥流の発生が夜間の就寝時であったとしても、人間は十分に避難可能な状況であったと考えられる。よって、米代川本流に近い地域は別として、泥流到達範囲であっても避難できた人々が相当数存在した可能性が極めて高い。

（2）浅瀬石川～岩木川流域

カルデラ北西側で当該期のラハールが発生していたことを最初に示唆したのは、2006～2007 年に実施された田舎館村前川遺跡（Ao-084）の発掘調査における柴正敏のテフラ分析結果である。水田跡を被覆していた十和田八戸火砕流堆積物を主体とするラハール堆積物中に To-a 由来の火山ガラスが含まれており、その発生は十和田 10 世紀噴火以後と解された（柴 2009、小野ほか 2009）。復旧痕跡は確認されておらず、この農地は放棄されたということになる。さらに、五所川原市十三盛遺跡では低湿地に流入したラハール堆積物が確認され、同堆積物はさらに B-Tm で被覆され、その上部に集落が構築されていた。小野映介はこの現象について、もともと湿地で居住に不向きだった当該域にラハールが流入・堆積することで砂地化が進み、居住適地となった可能性を指摘している（小野 2012）。また、ラハールの終息時期について、B-Tm との層序関係から十和田噴火後～白頭山噴火前の期間とした。津軽平野中部では 10 世紀後半から集落が増加すると考えられており、その理由の一つがラハールによる土地環境の変化だった、という推定である。

なお、両例以外にラハール堆積物の確認されている遺跡はなく、本論集成でもその状況が看取された遺跡・遺構はない。

（3）その他の河川でラハールが発生した可能性

大湯川～米代川流域と浅瀬石川～岩木川流域の他にラハールが発生した河川は無かったのだろうか。国立研究開発法人産業技術総合研究所（2017）が作成した毛馬内火砕流堆積物現存分布と現存主要河川の位置から、その可能性を検討する（図 14）。もちろん、火砕流の発生から今日まで約 1100 年間をかけて形成された状態であるから、分布の欠失がそのままラハールに結びつくとはいえない。しかし、図上の大湯川、浅

瀬石川付近の分布をみてわかるとおり、その周辺は明らかに分布が欠けている。同様の状態を呈する場所は、ラハールが発生しなかったとするのは逆に無理であろう。

ここで注目したいのは、奥入瀬川、五戸川、小坂川と砂小沢川である。これら河川流域周辺は、火砕流堆積物が現存していないことがわかる。火砕流堆積物は、少なくとも図上の桃色部分をおよそ同心円状に覆ったはずである。現存しない箇所は流出したことを示し、この4河川流域はそれが顕著である。

砂小沢川は小坂川の支流で、小坂川は米代川に合流する。米代川流域の状況は前述のとおりである。小坂川流域では本論集成で3遺跡を検出したが（Ak-001～003）、いずれも段丘上に立地しておりラハールによる被害痕跡は確認されていない。

奥入瀬川は、十和田湖を水源とする唯一の河川である。それだけでも、火山噴火にともなう水質汚染等、生活に悪影響を与える現象が生じていた可能性が推定されるところである。さらに火砕流堆積物の欠失状況から、ラハール発生の可能性が強く示唆

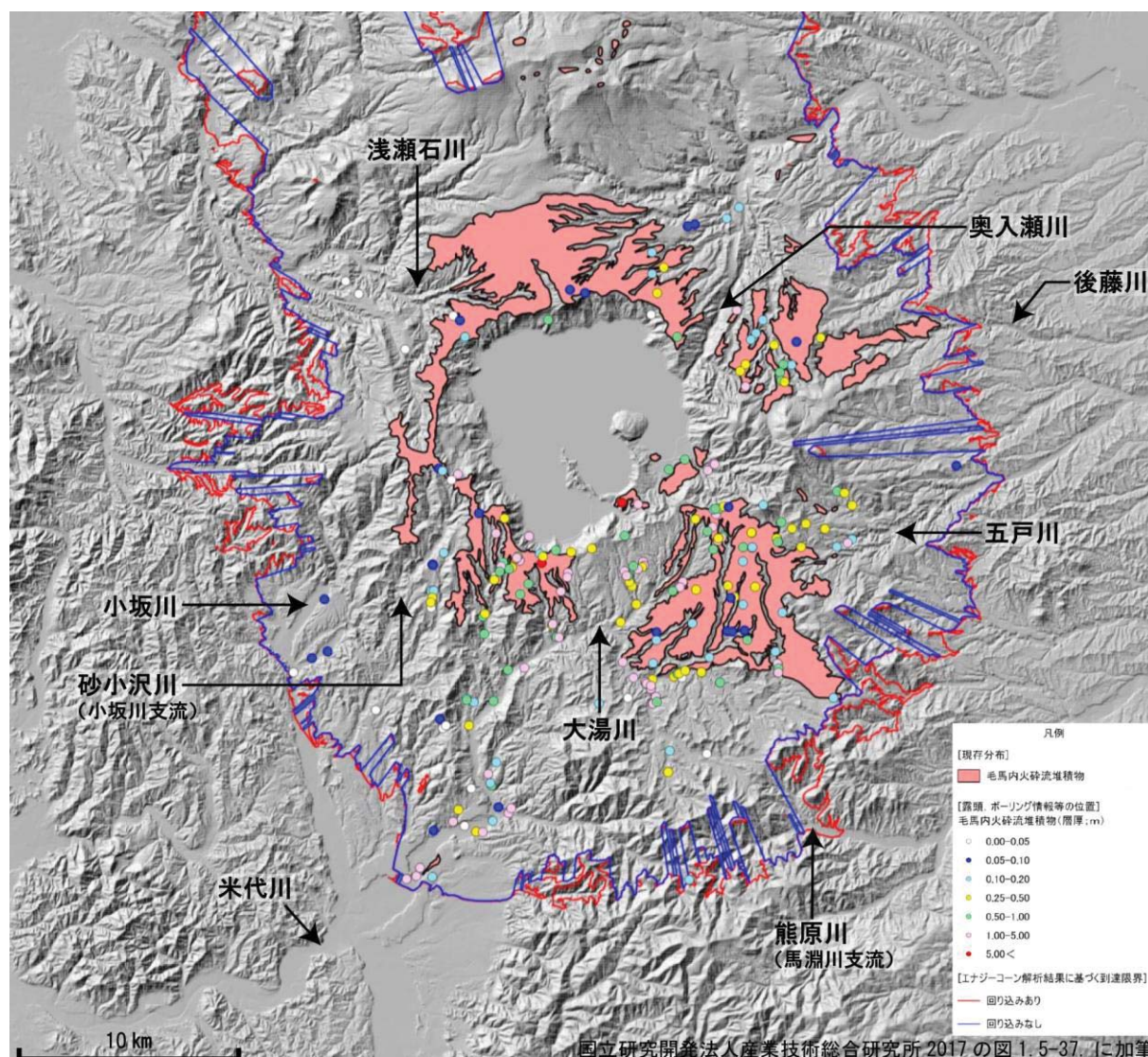


図 14 毛馬内火砕流堆積物の現存分布と周辺河川

される。なお、奥入瀬川の南にある後藤川は奥入瀬川の支流である。本論では奥入瀬川流域を⑰上北地域南部と括った。これに属する遺跡でラハールの痕跡は確認されていないが、噴火後に集落が急減することが分かっている。これについては次章で詳述する。

五戸川とその上流域支流周辺は、火砕流堆積物の分布が極めて少ない。カルデラ東側には戸来岳をはじめとする峰が連なり、五戸川とカルデラを画している。ただ、戸来岳以東にも火砕流堆積物は現存しており、この峰を越えていることに間違いはない。五戸川は上北平野南部へ流下していく。この周辺でもラハールの発生とその影響が疑われる。また、戸来岳以西にも火砕流堆積物がほとんど残存していない。ここから流出した堆積物は傾斜の関係でカルデラ内へ入ったはずで、湖から流出する河川、すなわち奥入瀬川に悪影響を与えたと考えられる。

ここまで、毛馬内火砕流堆積物の現存分布と河川の関係についてみてきた。カルデラ東側の各河川流域でもラハールが起こっていた可能性は十分にあり、今後は地質学的な調査によって、これを追究していく必要がある。

4 降下テフラの堆積と被害推定

(1) 被害度の推定方法

町田・新井は降下テフラの特性について、「降下テフラは、本来雪のように斜面にも谷間にも地表面をすべておおい尽くすように堆積する。風で飛ばされてきたのだから、いったん堆積しても風や流水で再移動しやすいことは当然である。」(町田・新井 2003、8頁)と説明している。細粒テフラは流動的であり、凹地に集積するかあるいは平坦地なら堆積後に上位層によってパックされない限りは、時間経過とともに移動し減少するのが常である。テフラ降灰量が少なければ、テフラが移動しその場所からは消失して、後世に残存しないというケースが増す。

十和田 10 世紀噴火の降下テフラも例に漏れず、これまで発掘調査が行われた遺跡の基本土層中にあまねく堆積している事例は皆無であり、残存場所は基本的に凹地に限定される。

本章第 1 節で紹介したとおり、徳井 (1989) は降下テフラの層厚で災害度を分級した。この概念を素地として、十和田 10 世紀噴火の降下テフラに関する被害度推定を行ってみたい。

まず基本となるのは、これまでに大池 (1972) や町田・新井 (2003) によって示された等層厚線図 (第 1 章図 1) である。これに、本研究で実施した竪穴建物に介在する十和田 10 世紀噴火の降下テフラ集成で知り得たデータを加味し、等層厚線図の更新を行う。

竪穴建物内部に堆積したテフラは、降下一次堆積の後、おもに水成の二次堆積層が被覆している場合が多い。これらは分けて考える必要がある。降下一次堆積物の判断と層厚計測は、発掘調査報告書の記述によった。しかしながら、堆積の一次・二次を区別して記述・作図している報告書は非常に少ない。よって写真からの判読を改めて

表 13 竪穴建物内に堆積した To-a（一次堆積）の層厚

遺跡No.	遺跡名	遺構名	層厚 (cm)	備考
Ak-004	大湯環状列石	第1号竪穴住居跡、第2号竪穴住居跡	25～30	降下堆積2層あり
Ak-006	物見坂Ⅱ遺跡	第3号竪穴住居跡	25	降下堆積2層あり
Ak-007	鹿角沢Ⅱ遺跡	第1号竪穴住居跡、第4号竪穴住居跡	20	降下堆積2層あり
Iw-003	上台遺跡	第2号竪穴住居跡	15～20	
Iw-038	下地切遺跡	SI05	10	
Iw-046	大向Ⅱ遺跡	第12号竪穴住居跡	10～15	
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ遺跡	CⅢ-4住居跡	10	
Iw-073	臼角子久保Ⅵ遺跡	ⅡA-1住居跡	10未満	
Iw-075	駒板遺跡	ⅡG46住居址	10未満	
Iw-102	上斗内Ⅴ遺跡	B-20住居跡	10	
Iw-110	芋田Ⅱ遺跡	第9号竪穴住居跡	8	

行い、降下一次堆積物の層厚が確認された遺構を表 13 にまとめた。

遺構内部に堆積しているテフラは、その大半が二次堆積物である。これは降灰～移動～集積という降灰後のテフラ移動に係る影響度を表すものである。堆積構造はラミナを呈する場合はほとんどで、遺構と同一面上で「小ラハール」とでも呼ぶべきテフラ流動が発生したことを示すものである。少なからず、生活に対する負の影響があったと考えられる。その発生要因として最も大きなものは地形で、選地や特に生業といった人文的環境が大きく影響してくる。

この遺構内テフラ二次堆積層に着目した研究事例は、少なくとも十和田カルデラ起源のテフラに関しては皆無である。その理由は大きく2つ考えられる。まず、二次堆積は地形環境を含め多様な要因から成り立っており、その結果が極めて個別的で、一次堆積層に比べて個々の事例の差が大きいため容易に比較検討ができない。そして、遺構内に集積したテフラを相互に比較検討する際は、正しくは体積を求めなければならない。ところが、発掘調査でそこまで記録できることは少なく、多くは断面記録にとどまる。個々の遺構に関する二次堆積量比較であれば、体積の算出が不可欠である。しかし、テフラ降灰から移動、集積（二次堆積）という一連の過程の発生頻度をみる（降灰後の影響を総合的に考える）レベルなら、層厚や堆積様相（ラミナの観察による流入回数の推定）などの情報を集成し、地域・地点ごとの傾向を出すことで成果が得られると考える。

この一次、二次堆積すべてを含めた総層厚からの被害度推定を考えた発端は、これまで大量の記録が蓄積されながら一次堆積層でないという理由から手付かずとなっていた発掘調査記録の活用にある。この活用方法として、小地域内（例えば単一河川流域）での立地の危険度推定（現代の防災にも通じる見方）と、広域的な統計処理による、等層厚線図と同じ性格の被害区分図の構築、この二つが考えられる。もちろん、

後者の実施においては特定の遺構¹⁾を対象とする必要がある。テフラ二次堆積物の量は基本的に一次堆積物に拠るのであるから、広域的にみれば一次堆積物の量を反映する結果となるはずである。To-aのように流動しやすく、現在では平坦地にほとんど残存しないテフラの降灰量を推定するには、この方法がより適しているとも考えられる。本論では後者について作業を実施し、被害区分図の作成を行う。前者については今後改めて検討を行うこととする。

(2) 等層厚線図の再構成

表 13 の各遺跡位置を基点として、20 cmと 10 cmの等層厚線を再構成したのが図 15 である。⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域はおよそ 20 cmの層厚があり、⑨安比川流域、⑩馬淵川上流域、⑬北上山地北部の各地域は層厚 10 cmのエリアに入る。

縄文早期末の南九州をテーマとした桑畑も、17 世紀の北海道・日高西部のアイヌをテーマとした徳井も、10 cm以上（桑畑は 30 cm未満、徳井は 50 cm未満に設定）堆積した地域は「生活圏は移動せずともよいがこれを拡大したり生活形態を変化させて対応していく」必要の生じるエリアだとしている。時代も場所もまったく異なるが、この概念も層厚も共通するのだろうか。徳井はこの areaⅢについて、「火山噴火当時の人々の生活状況や社会情勢が被害の程度に大きく影響する」（徳井前掲）とした。町田洋は火山噴火と人間の歴史の関係性を述べた中で、「大噴火と社会的変革との結びつきとそのしくみについて充分にわかっているとはいえない。時代と地域によって社会体制も異なり、したがってある自然の打撃に対する人間社会の反応の仕方も異なるであろう。この種の研究は優れて個別的である。」（町田 1993、285 頁）といった。まさにそのとおりである。10 世紀という時期に、律令国家と蝦夷社会のはざまに発生した VEI 5 という十和田カルデラの噴火によって、その噴火現象を被った各地の集団が

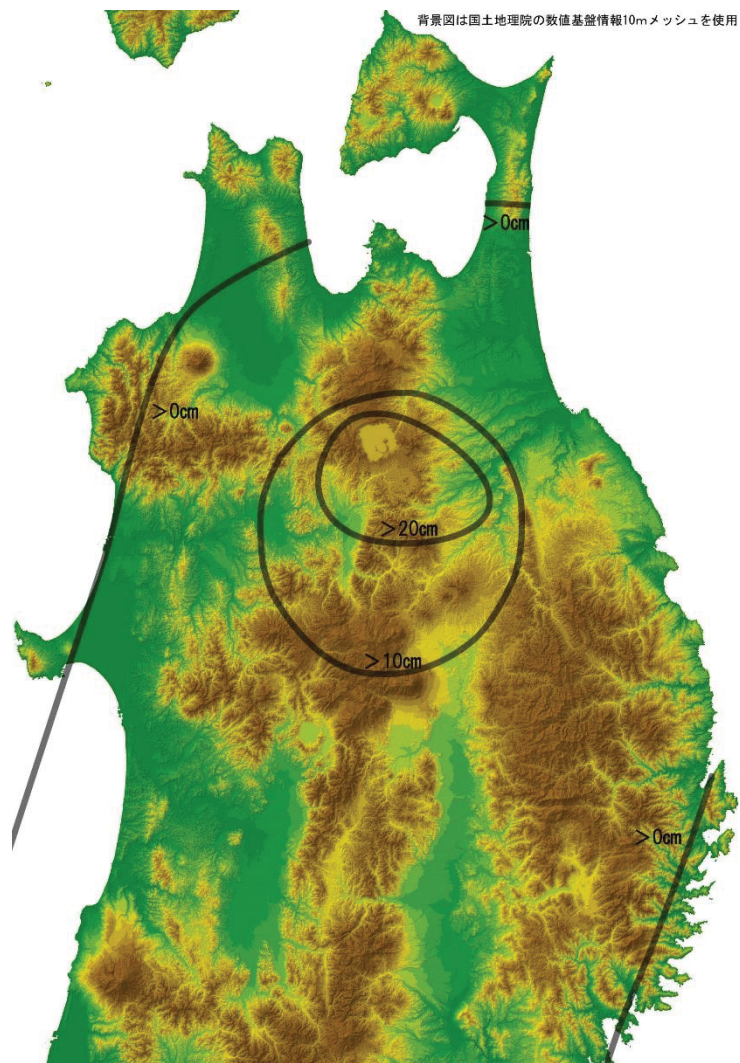


図 15 再構成した To-a 等層厚線図

どのような動きを見せたのか、本論では、各地域集団の動態（第5章）、竪穴建物の形態変遷（第6章）、土器（土師器甕）の形態変遷（第7章）をみていくことで降灰量との関係を検証していく。

（3）降下テフラの二次堆積

二次堆積物の層厚は降下一次堆積と異なり地形等の要因によって地点差が大きくなるが、同様の事象が起こりうる範囲としてのエリア分けを行う。図16に基点となる遺跡の位置（赤丸）と堆積層厚、AからDのエリア区分を示した。

岩手県北部地域の遺跡で頻繁に確認される写真1のような状態は、降灰量が多く、その後の流水によるテフラの移動・集積が頻繁に発生していたことを示している。例えば、この⑩馬淵川中流域南部・十文字川流域にあるIw-003 上台遺跡第2号竪穴住居跡堆積層の観察からは、最低7回の流入が確認される。その流入のユニット間には、土壌をほとんど含んでおらず、テフラの表層的な流動であったことを示す。

降下一次堆積と流入二次堆積の両者を合わせて、最も厚い堆積が確認されたのはこのIW-003 上台遺跡第2号竪穴住居跡で82cmを測る。これに次ぐのは⑨安比川流域北端部にあるIw-046 大向Ⅱ遺跡第12号竪穴住居跡の77cmで、両遺跡とも現在の岩手県二戸市域に所在する。同市内、⑩馬淵川中流域南部の諸遺跡では、Iw-021 火行塚遺跡

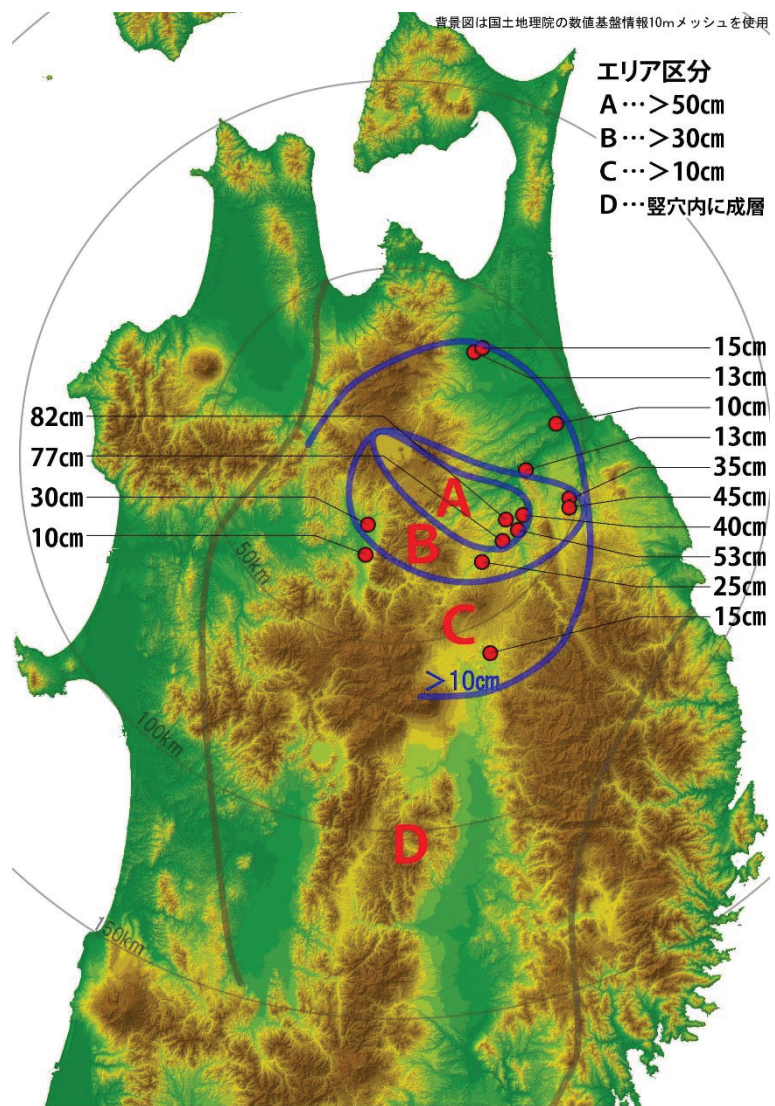


図16 竪穴建物内のテフラ堆積層厚にみる被害区分図

E14住居址の53cmをはじめとして20cm以上の堆積がみられた竪穴建物が40棟以上存在し、降灰量が多くかつテフラ流動が最も頻繁に起こっていた地域といえる。これらと給源の十和田カルデラを括った範囲をエリアAとする。これに次ぐのは、⑨安比川流域の北半部と⑬北上山地北部、⑭米代川上流域の北東端付近で、30cm超の遺構が数

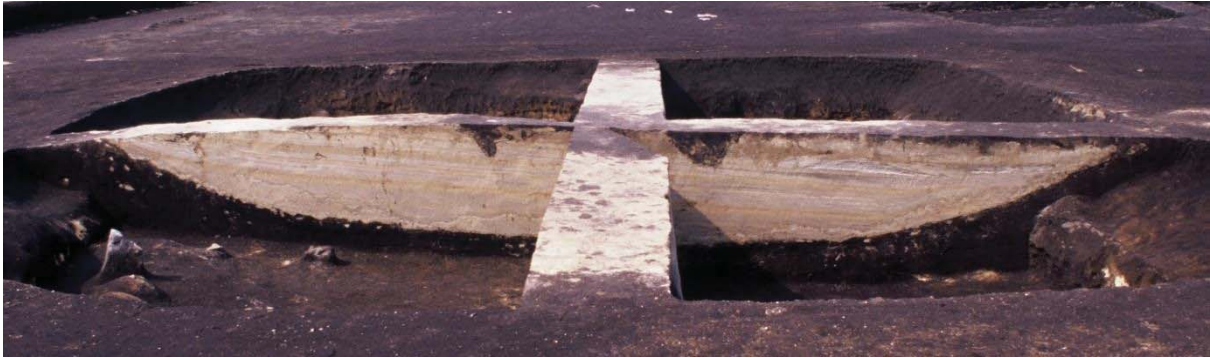


写真 1 ⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域 Iw-003 上台遺跡第 2 号竪穴住居跡の断面
〔(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター提供〕

棟確認されている。この 3 地域と給源の十和田カルデラを括った範囲をエリア B とする。さらに、層厚 10 cm 以上の堆積例が⑧北上川上流域、⑩八戸平野周辺、⑫上北地域中部で認められ、これらを結んだ範囲をエリア C とする。もう一つ、層厚は問わず To-a が成層する竪穴建物が存在する範囲をエリア D とする。このエリア D から外れるのは、太平洋側では⑭閉伊地域と⑯下北地域、日本海側では⑤本庄平野、⑦秋田平野、⑪能代平野周辺、⑬津軽平野東縁～大釈迦丘陵、⑮津軽平野西部～岩木山北東麓、⑰津軽平野北部、⑱西津軽・日本海沿岸の各地域で、これら以外はすべてエリア D 内となる。

以上、竪穴建物内で確認されるテフラ堆積層厚から A～D のエリア区分を行った。再構成した等層厚線図と合わせて、次章以降で確認する人的・物的動向との関係性を論じることとする。

5 小結

ここでは、十和田 10 世紀噴火イベントで発生した噴火現象のうち、火砕流、ラハール、降下テフラおよびその二次堆積現象について、堆積物確認範囲（火砕流は到達可能性範囲を含む）と遺跡立地を確認し、災害痕跡がみえるか否かを検証してきた。

火砕流に関して、その堆積物残存範囲に平安期の遺跡は確認されていない。ただし、これは当該域内が山地ということもあり、ただ単に遺跡が知られていないだけの可能性もあるため、今後状況が変わる可能性がある。火砕流到達可能性範囲でみると、北東端に Ao-083 板留(2)遺跡が、南西端に Ak-004 大湯環状列石が含まれる。Ak-004 では十和田噴火期すなわちⅢ期廃絶の竪穴建物が 3 棟確認されているが、いずれも火砕流による被災痕跡は確認されない。さらに、当遺跡ではⅣ期廃絶やⅣ期以降構築の竪穴が複数存在し、十和田噴火による集落の途絶が確認されないことが分かった。いっぽうの Ao-083 では、十和田のテフラ自体が検出されていない。よって、毛馬内火砕流による被害遺跡は、現時点では確認されていない、ということになる。

米代川流域を襲ったラハールの被害について、現時点で知られているのは伝聞を含めて 10 件である。うち、2015 年に発見された大館市片貝家ノ下遺跡の調査成果によって、同流域には低位面を利用し水田農耕を営む集落が存在したことが明らかとなっ

ている。段丘上の遺跡では水田の検出は皆無であり、イネの主たる生産場所はこれら低位面であったと解される。ラハール堆積物の層厚は2 mを優に越え、まったく復旧不可能なレベルであった。低位面における集落の数は不明といわざるを得ないが、相当数がラハールによって被災し復旧不可能な状態に追い込まれたと考えられる。本論で抽出したテフラ堆積確認竪穴建物の立地とラハール堆積物すなわち毛馬内面の位置を対比してみると、毛馬内面の範囲内に位置するのは、Ak-045 胡桃館遺跡、Ak-070 道目木遺跡、そしてAk-071 片貝家ノ下遺跡のみで、十和田噴火後に毛馬内面上へ構築された平安期の遺跡・竪穴建物は確認されない。少なくとも、ラハールによる被災後しばらくは低位面を居住域とはせず、台地上を選地したといえる。

降下テフラについては、先学による等層厚線図に本論資料集成によるデータを加えた新しい等層厚線図を作成した。加えて、やはり本論資料集成の過程で数値化した二次堆積を含む竪穴建物内テフラ堆積層厚のデータから、降灰～その後のテフラ流動による二次堆積までの影響度を総合的に示す被害区分図を作成した。後者はこれまで蓄積されてきた発掘調査の遺構断面記録が活用可能かを判断する試みでもあったが、基本的に等層厚線図と同傾向であることが確認され、活用の道が開けた。むしろ、等層厚線図には表すことのできない、降灰期の実態により近い状況を示すことができる可能性をもっているともいえる。B-Tm など他のテフラにおいても当該図の作成例を増やしてさらに検討していきたい。

次章以降では、この二つの図を用いて降灰と人的・物的動向との関係性を確認していく。

註

- 1) 容積がある程度の共通性を持つ遺構。竪穴建物など。

第5章 To-a・B-Tmの堆積様相からみた地域集団の動態

1 前提

第3章で述べたとおり、To-aもしくはB-Tmの堆積が確認された竪穴建物類の数は、青森・岩手・秋田の北東北3県で455遺跡・3544棟にのぼる。

しかし、このすべてが第2章図4および表8に示した遺構廃絶・構築時期の推定可能な分類に適うものではない。上述全資料のうち、この分類に適うものおよび重複関係等により時期推定可能なものは、362遺跡・2274棟であった。このデータを元に、各地域における集落動態を時期区分毎にみていく。

2 各期の様相

(1) I期 (To-a 降下前廃絶 (古))

I期は年代上限がなく、奈良時代の廃絶遺構も含まれる。To-a 降灰域の中で、集落が各期を通じて存在していれば、最も検出数が増えるはずの時期区分である。

I期の検出比率が高い地域は、①胆沢平野以南(地域内での検出比率45%以下カッコ内数字は同意)、②和賀地域(41%)、③稗貫地域(33%)、⑥横手盆地周辺(79%)、⑧北上川上流域(39%)、⑩馬淵川上流域(55%)、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域(76%)、⑫馬淵川中流域北部(91%)、⑬北上山地北部(32%)、⑮久慈地域(59%)、⑯八戸平野周辺(32%)、⑰上北平野南部(72%)、⑱上北平野中部(28%)である。

このうち、③稗貫地域はII期(33%)およびIII期以降(27%)の検出比率も高く、上述の時期幅から考えればII期以降が中心の地域といえる。

⑩～⑫・⑯の馬淵川各流域は、奈良時代から開発が進んでいた地域であった。特に、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域と⑫馬淵川中流域北部はI期の検出比率が70%以上と極めて高く、全期を通じて当該期に集落が集中していたことを物語る。⑰上北平野南部も同様である。

⑯八戸平野周辺は古墳時代から開発が興っていた地域で、各期を通じて集落が存在する。B-Tm 検出遺構数がTo-aを上回る地域であり、IV期以前が26%を数える。IV期以前という時期区分はB-Tm 噴火前廃絶で上限年代不明だが、To-a 降灰域である当地域ではTo-a 降灰後廃棄すなわちIV期の遺構が相当数含まれていると考えられる。ただし不確定であるため、このIV期以前の遺構については言及を避ける。

⑱上北平野中部のI期集落は三本木原周辺に集中し、沿岸部では確認できない。後述するが、当地域ではIV期以降廃絶とIV期以降構築をあわせて40%弱の比率となり、これらは沿岸部すなわち小川原湖湖沼群周辺に集中する。

(2) II期 (To-a 降下前廃絶 (新))

II期も本来はI期と同様に年代上限が掴めない時期区分である。第2章2節で述べたとおり、II期の堆積パターンは床aにTo-aが成層するもの(1b-1)とその亜種(1b-2)である。IV期の堆積パターンで、To-aがB-Tmに置き換わった形の3d-1については、自然堆積状態であればTo-a降下以後に廃棄されたことがわかっており、とすれば

床面を自然堆積土が覆うのに有する時間は、当然遺構個々で異なるものの 10 年弱～30 年程度要しているということになる。初期堆積（いわゆる三角堆積）は、発掘調査担当者なら周知のとおり、急速に進行する¹⁾。いっぽうで、現代まで埋まりきらずに凹みを残す堅穴も相当数存在するし、奈良時代の堅穴建物に 1a-1 の堆積をなすケースは多数確認できる。岩手県内では縄文時代の堅穴建物での確認例も多数あることから²⁾、初期堆積以降はそれなりの時間がかかっているようである。3d-1 で確認した現象を援用すれば、Ⅱ期の年代上限は To-a を 915 年と仮定した場合そこから -30 年、つまり 9 世紀第 4 四半期頃といえる。

さて、Ⅱ期の検出比率が高い地域は、①胆沢平野以南（16%）、②和賀地域（20%）、③稗貫地域（33%）、⑰上北地域南部（16%）、⑳青森平野周辺（11%）である。③稗貫地域は、前述のとおりⅠ期より堅穴棟数が増加していた可能性が指摘できる。

（3）Ⅲ期（To-a 降下直前～降下時廃絶）

Ⅲ期は極めて時間幅の狭い区分である。床面壁際に層状堆積する場合は対象で、これ以外はテフラが床面に接してもⅡ期扱いとなる。また、当該時期に堅穴建物が存在していたとしても、上屋があれば降灰現象だけなら床面壁際へ層状堆積することは少なかったと考えられる。粒・ブロック堆積を呈するものは不確定要素を含みⅢ期以降となるため、堆積パターンの的にもかなり限定的な区分となる。

その中で、㉓米代川上～中流域ではⅡ期の 3 倍検出されている。当該域は十和田カルデラに近く、降灰量の多かった地域である（町田・新井 2003）。しかし 1b の堆積パターンを示す事例は 2% しかなく、Ⅱ期の集落が少なかった可能性がある。当該域の集落立地について、To-a 降下以前は米代川周辺の低地に相当数営まれていたものが毛馬内火砕流とそれにとまうラハールで被害を受け、台地上に移転したという仮説が

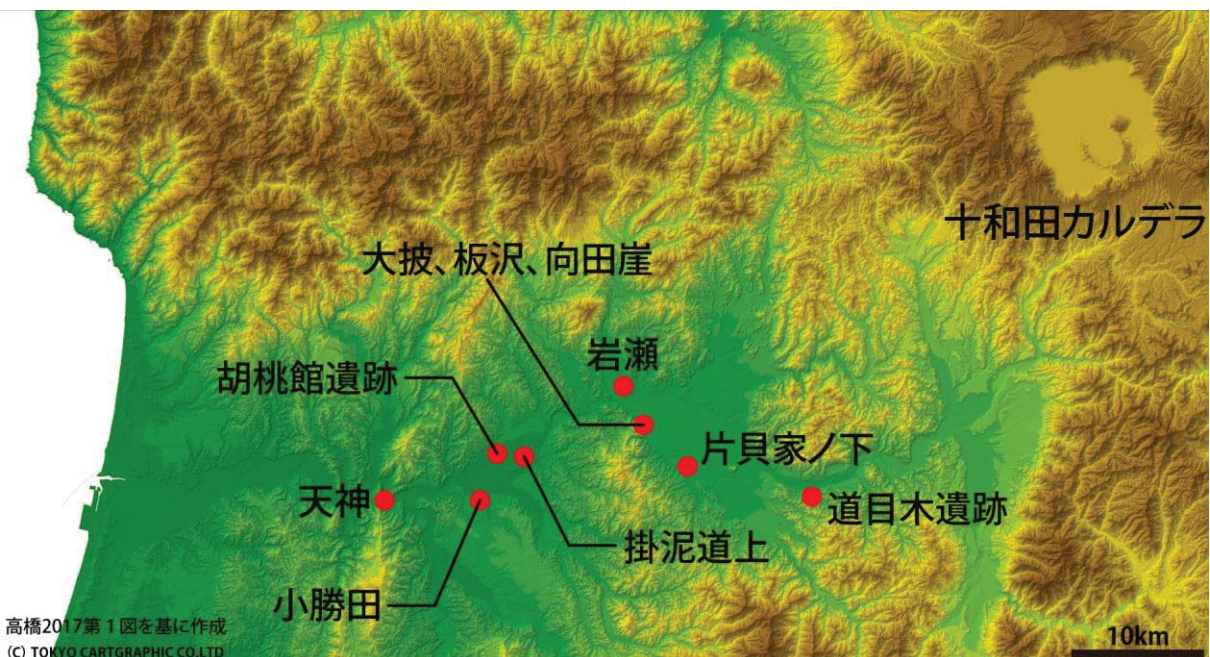


図 17 米代川流域における埋没家屋発見場所

ある（高橋 2006 など）。同河川流域では、ラハールで埋没した建物事例が伝聞を含め 10 ヶ所あり（図 17）、河川周辺を選地対象のひとつとしていたのは間違いない。また、Ak-041～043 は河川流域に立地するが、Ⅱ期資料が検出されず、むしろⅢ期資料がより多く検出されている。これらを考えると、Ⅱ期資料の少なさを河川流域立地とラハール堆積・埋没による未調査にともなう現象と結論付けるのは難しい。むしろ、単純にⅡ期は前後期に比して遺跡数が減少していたと考えるのが自然と思われる。なお、Ⅰ～Ⅲ期の合計が全体の約 13%と、Ⅳ期以降よりだいぶ少ない。ラハール下に埋もれた集落がどの程度あったかは推測の域を出ず、この数値をそのまま答えとすることはできないが、⑨安比川流域もⅠ～Ⅲ期合計が約 15%でこれに類似しており、こちらは十和田噴火後の遺構数増といえる。隣接する両地域が同傾向でも不思議はない。

検出数は少ないが、⑩馬淵川上流域、⑬北上山地北部、⑮久慈地域の各地域もⅡ期よりⅢ期の検出比率が高く、注意が必要である。⑰上北地域北部は 0%で、過疎であったようである。

（4）Ⅳ期（To-a 降下後～B-Tm 降下前廃絶）

十和田噴火後から白頭山噴火までの間に起こった出来事を把握するための重要な時期区分である。該当遺構は、その形態的特徴と共伴遺物の諸様相を検討する上での基準資料となる。これについては第 6・7 章で述べる。

Ⅳ期遺構の検出率が比較的高い地域は、⑳津軽平野東縁～大釈迦丘陵と㉑青森平野周辺である。それ以外は 10%以下と低い。

しかし、本時期区分の検出比率が低いからといって、単純に十和田噴火後の開発が低調になった、という図式ではないようである。Ⅳ期以降構築という区分を援用しながらみてみよう。この時期区分は、十和田噴火後の堅穴建物＝居住施設建築傾向を探る上で極めて重要である。高比率で確認されるのは、⑨安比川流域、⑱上北地方中部、㉒米代川上～中流域、㉔津軽平野南部～南縁丘陵周辺の各地域で、それぞれ 20%を越す。なお、⑱と㉒はⅣ期以降廃絶の比率も高く、これをⅣ期以降構築と合算すると、前者が約 37%、後者は約 49%となる。

このほか、⑧北上川上流域のⅣ期以降構築はおよそ 33%と高比率である。ただし、そのうちの 7 割弱はいわゆる「防御性集落」とされる Iw-100 子飼沢山遺跡と Iw-101 暮坪遺跡のもので、10 世紀後半と推定されている堅穴建物である。

次は逆に、Ⅳ期の堅穴が検出されない地域をみてみよう。B-Tm 降灰エリア内であっても、⑪馬淵川中流域南部、⑫馬淵川中流域北部、⑰上北平野南部の各地域では確認されていない。これらの地域は、Ⅳ期以降各分類の検出数も極端に低い。つまり、十和田噴火以後の開発が極端に落ち込んだと考えてよい。

ところで、⑪馬淵川中流域南部では B-Tm の検出例がない。地理的にみて、降灰しなかった可能性は極めて低い。多量の To-a に「埋没」して調査担当者の目に止まらなかった可能性も否定できないが、数十年にわたり多くの人間がさまざまな目で観察してもなお検出されないことには、別の理由を考えねばなるまい。写真 2 に示すとおり、岩手県二戸地域の遺構内で確認される To-a は、水成二次堆積による複数のユニット



写真2 Iw-046 大向Ⅱ遺跡 12号住居跡の To-a 堆積状況
〔(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター提供〕

で構成されることが多い。これは遺構周囲に堆積していた To-a が雨水等により何度も流入したことを示すものであるが、ユニット間にそれ以外の成因による堆積層を挟まないことから、テフラの流動が短期間のうちに頻繁に発生していたことを物語っている。ただし、どの程度の時間間隔でこれが発生し、いつ収束したのかは定かでない。仮にこの現象の完了前に B-Tm が降灰していたとしたら、その堆積を目視で確認することは難しい。

水成二次堆積のユニット単位でテフラ同定分析を実施すれば、これを明らかにできる可能性がある。そしてこれは単に B-Tm の有無を確認するだけにとどまらず、遺構の埋没速度を解明することにもつながる。つまり、降灰後のテフラ流動被害が、どの程度の期間継続したのかを明らかにすることにもなるのである。今後行われる発掘調査で水成二次堆積の複数層が確認された場合は、ぜひとも実施すべきである。

ここで、Ⅳ期以前廃絶の検出率についても触れておく。B-Tm 降灰域で、かつ To-a の降灰量が比較的少ない地域では、Ⅰ～Ⅲ期に比定される堆積パターンの検出率が低く、上限年代不明のⅣ期以前廃絶に集約される形となる。津軽地方各地域はおおむねこの傾向であり、②津軽平野東縁～大釈迦丘陵では約 50%にあたる 65 棟が当時期区分に比定される。ここには、いわゆる竪穴・掘立柱併用建物が含まれている。

(5) V期 (B-Tm 降下直前～降下時廃絶)

当期もⅢ期と同様に、極めて時間幅の狭い区分であり、該当数は限定される。なお、粒・ブロック堆積を呈するパターンは B-Tm 降下直前～降下時廃絶と B-Tm 降灰以降廃絶の両者を含む可能性があるため「V期以降」とし、「V期」とは区別した。

全地域の V期資料を合計しても 23 棟にとどまるため、これをもって前後期との検出数比較を行うことは難しい。実際、目立った動態は確認されない。

V期以降廃絶の比率をみてみよう。②青森平野周辺はⅠ～Ⅵ期の全区分で竪穴建物が確認されているが、V期以降廃絶の検出率が最も高く、約 17%を占める。Ⅳ期以前、Ⅳ期、V期以降といずれも 10%以上あり、大きな増減の波は確認されない。高比率の

地域がもう1ヶ所ある。⑭上北地方北部である。当期の検出率が約17%で、後述するがVI期以降廃絶と合わせて半数以上を占める。つまり、V期以前が希薄である。

話をV期に戻す。検出資料数は限られるが、白頭山10世紀噴火を画期とした物質文化の変化をみるとときにはこの区分が基点となるため、この資料群は重要な意味を持つ。第6・7章でこの資料提示を行うので参照願いたい。ただし、白頭山噴火イベントに対する本格的な社会動態研究は別稿で行う。なぜなら、その遂行には白頭山噴火後の一定期間を区切ることが可能な、テフラ以外の絶対年代指標を設定し検討を行う必要があるためである。しかし、暦年代表記のない物質文化はあくまで相対年代指標であり、変遷や変化、人的動態を考えるには適しているが、共時性・同時性を示す資料にはならない。白頭山噴火イベント以後の社会動態を広域で検討するには、新しい方法論の構築が必要となる。

(6) VI期 (B-Tm 降下後廃絶)

VI期以降廃絶、VI期以降構築の比率が目立って高い地域は、前述した⑭上北地方北部である。合わせて55%で、特にVI期以降構築は44%と極めて高い。集落の拡大、人口の増加が発生しているといつてよかろう。全体数は少ないが、⑮能代平野周辺、⑯津軽平野南部～南縁丘陵周辺も高比率である。⑰地域は秋田県内で最もB-Tmの堆積状況が良く、V期以降廃絶といえる資料が検出されるのは当該域だけである。いずれ、白頭山噴火以後に遺構数が増加している可能性がある。

3 小結—十和田10世紀噴火を画期とした各地域集団の動態—

前節までに述べた各時期の様相を基に、おもに十和田10世紀噴火前後における各地域集団の動態を連関的に考察し、噴火を画期とした変化を導出する。さらに、一部地域に限定となるが、白頭山噴火後の動態について予察を行う。

まず、十和田噴火前の様相をみていこう。噴火前時期の検出比率が50%を超える地域は、⑩馬淵川上流域(58%)、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域(80%)、⑫馬淵川中流域北部(95%)、⑬久慈地域(73%)、⑭上北地域南部(88%)である。この数値は、各地域に相当数の集落が存在したことを示す。うち、⑫地域はI期検出率が90.5%と極めて高く、IV期以降はゼロである。発掘調査件数の少なさや調査地点の偏り等の問題があるものの、少なくとも河川流域に関しては10世紀以降積極的な選地対象になっていないといえる。なお、II・III期の遺構がほとんど存在しないことから、集落の衰退とTo-a噴火イベントとの関連性はなく、噴火前のある時期にすでに過疎化していたものと考えられる。

⑭上北地域中部における十和田噴火前廃絶比率も30%弱を数えるが、これは地域に偏りがある。当地域は内陸の三本木原周辺域と太平洋側の小川原湖周辺域に大きく二分できるが、三本木原周辺域にI期集落が集中する。十和田噴火前、小川原湖周辺域は過疎であった可能性が高い。

いっぽう、⑮安比川流域、⑯米代川上～中流域は10%台と低い。いずれも十和田噴火後廃絶遺構の検出率が高いことを示すが、⑯地域は毛馬内火砕流にともなうラハー

ルによって米代川流域の低地が埋積されており、そもそもの程度の集落数・規模であったか推測の域を出ない。間違いないのは、ラハール襲来後は選地対象が低地ではなく高台へ移るということである。

加えて、同地域で特筆されるのがⅢ期の遺構数増加である。比率的にはⅡ期の3倍である。To-a 降下直前～降下時廃絶としたⅢ期は、Ⅱ期より時間幅が狭いため、通常は検出率が低い。それにもかかわらず高いことは、十和田 10 世紀噴火直前期に集落が増していることを示す。この現象に、元慶の乱後の人口移動が関与している可能性が指摘されていることは、先に述べたとおりである。

検出数が少ないため確実性は劣るが、⑩馬淵川上流域、⑬北上山地北部、⑮久慈地域の各地域もⅡ期よりⅢ期の検出比率が高い傾向にある。もし⑬米代川上～中地域と同様の原因で人口増が発生したのだとすれば、物質文化面に共通性が現れているはずである。これについては第6・7章で検証する。なお、⑰上北地域北部は0%で、十和田噴火前は過疎であったようである。

十和田噴火後、⑩馬淵川中流域南部・十文字川流域と⑰上北地域南部では検出率が急減する(図18)。第4章で述べたが、⑩地域は十和田噴火当時に集落が存在した場所の中で、降灰量が最も多く、またその後のテフラ流動現象も頻繁に発生していた地域と推定される。大量の降灰が及ぼすさまざまな影響が、集落存続を困難にしていた可能性が十分に考えられる。また、⑰上北地域南部はおもに奥入瀬川流域に集落が存在したが、同河川は十和田湖を水源とする唯一の河川である。前述のとおり、ラハールの発生が推定され、居住域に対する直接的な被害痕跡は確認されていないものの水質悪化による生態系の変化が発生していた可能性は極めて高い。噴火から1100年程度経過した現在ではその証拠をつかむことが難しく、具体的なデータに欠けるが、降灰とともに集落減少を呼んだ大きな原因と考える。唯一、Ⅳ期以降廃絶の竪穴建物が確認されたAo-036坪毛沢(3)遺跡は、最も河川から離れた丘陵上に位置する。よって、集落希薄期の生じる理由として、同地域内丘陵上への移動もしくは別地域への移動、あるいは消滅が想定される。

反対に、⑨安比川流域、⑱上北地域中部、⑲米代川上～中流域の各地域は、To-a 降下前と比較して検出率が大幅に増加する。地理的にみると、集落急減(人口減少)地域である⑩馬淵川中流域南部・十文字川流域は⑨安比川流域と、⑰上北地域南部は⑱上北地方中部とそれぞれ隣接している。これはそのまま両地域間における人の移動と捉えられまいか。仮に移動が発生しなかったとして、災害による人口減少(死滅)は起こるとしても、自然増は極めて考えにくい。降下テフラ災害は火砕流や火砕サージなどと異なり、それを受けたことによる直接的なダメージが小さく、その場で死に絶えるということは少ない。つまり、噴火現象を受けたあとで「避難」が可能な災害である。隣接地域の集落増減は、連関していると捉えるのが自然である。⑱上北地域中部の太平洋沿岸、小川原湖湖沼群周辺は過疎であった。先住者のいないこの地域は、社会の制限がないという意味で、移住適地であっただろう。

もういっぽうの増加地域を流れる安比川は馬淵川の支流で、⑩馬淵川中流域南部か

※増減はⅡ～Ⅲ期比

背景図は国土地理院の
数値基盤情報10mメッシュを使用

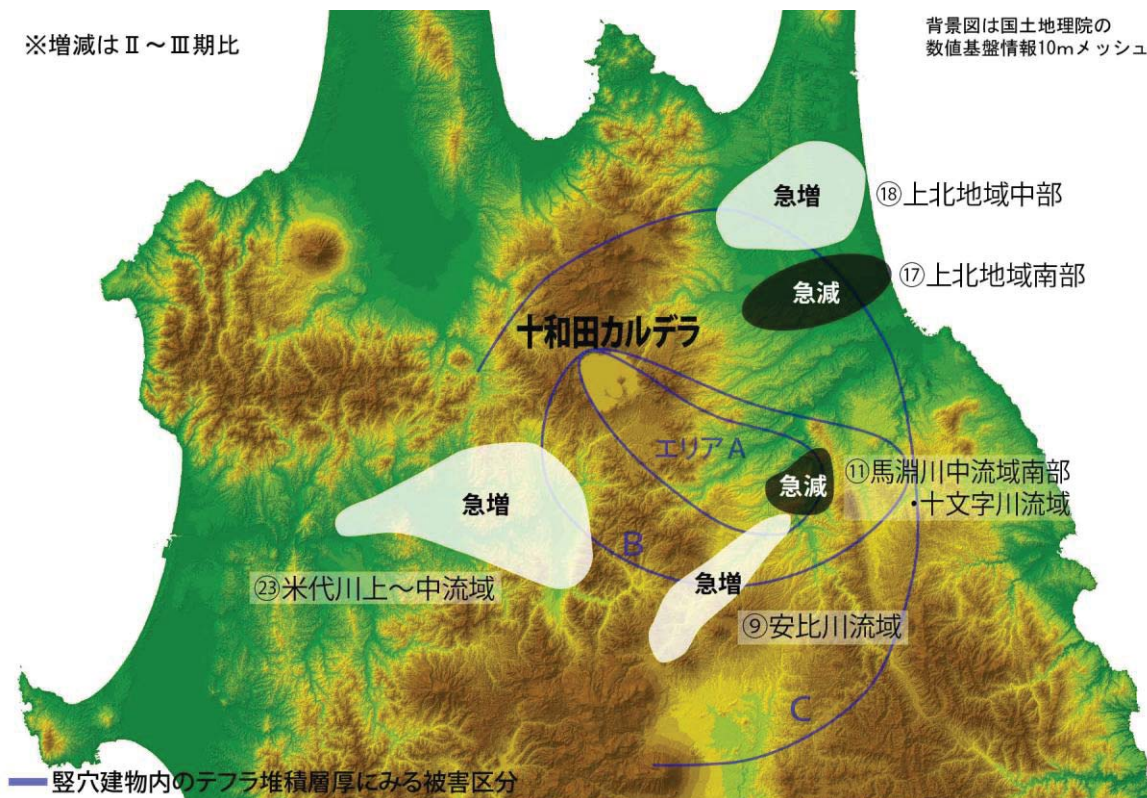


図18 十和田10世紀噴火後（Ⅳ期）における地域集団の動態

ら南へ遡ったところで合流している。⑨安比川流域の To-a 降灰量は決して少なくなかったが、⑪地域ほどではなかった。⑪地域から⑨地域へ避難・移住があったとして、その積極的な理由は何だったろうか。⑪地域は、馬淵川をそのまま遡れば⑩馬淵川上流域にたどり着き、東の山を越えれば⑬北上山地北部がある。両地域へ移住した可能性も十分あるが、棟数の増減率には現れていない。噴火後における⑪馬淵川中流域南部と周辺地域の関係については、物質文化の比較により探っていくことになる。これについては第6・7章で検討する。⑨安比川流域には、人口が増加する何らかの要因があったはずである。

もう1つの十和田噴火後検出率増加地域である⑬米代川上～中流域は、第4章に示したとおり、上流域の一部は火砕流で、これより下流はラハールに襲われている。ラハールは日本海まで達し、およそ流域全域が大きな被害を被った。しかも、河川環境の悪化も伴っていただろう。新出集落はこの低地を避け、段丘上に形成された。深刻なラハール被害を受けた当該地域におけるこの動向は、被害度の高さと人口減少率が単純な比例関係にないことを示す事例であり、その背景に別の要因が働いていることを示唆するものといえる。これについても⑨安比川流域と同様に次章以降で検討する。

最後に、白頭山噴火後のⅥ期にみられる動態をまとめておく。⑰上北地域北部は、To-a・B-Tm 両テフラの層状堆積範囲内でありながら、To-a 堆積遺構が極めて少なく、Ⅳ期以降に集中する。最も検出数の多い堆積パターンは 5b、つまり B-Tm 降灰以降の

構築である。他方、隣接地域の⑱上北地域中部のうち小川原湖湖沼群南部ではV期以降の検出比率が減り、VI期のものは確認されていない。しかし内陸の三本木原周辺では、継続性が認められる。

これらを勘合すると、B-Tm 降灰後の動態として、小川原湖湖沼群南部から三本木原周辺へ、すなわち⑱地域内における低地から台地上への移住、および⑲上北地域北部への移住が想定される。前者はラハール等の二次堆積物による影響を避けるための避難行動、と考えるのが最も単純である。いっぽう、後者は類似環境下への移動であり、テフラ給源との関係性をみても優位性があるとは思われない。なお、当該期における上北地域北部への移住について、佐藤智生は馬産や製塩等の生業の影響があったとし、竪穴建物の形態等から上北南部および津軽地方からの移住を推定している（佐藤2004）。西から東への移住は、B-Tm 給源との位置関係および水田耕作への影響を考えれば可能性が極めて高い。㉔青森平野周辺の集落は継続的であるが、V期以降を境にVI期は減少傾向にあり、東に隣接する⑲地域の増加と調和的である。いずれにしても、十和田噴火災害に対する避難・移住場所となった小川原湖湖沼群南部は、その後10～30年程度で選地対象ではなくなり、ふたたび過疎に戻ってしまったようである。

以上、竪穴建物に介在するTo-aおよびB-Tm テフラの堆積様相から導出した遺構廃絶（構築）時期を基にして、十和田と白頭山の10世紀噴火が引き起こした東北地方北部各地域集団の変動について考察してきた。次章では、これを物質文化という視点からさらに追及していく。

註

- 1) 発掘調査後、露天状態にある竪穴を一冬放置すると、壁面が崩落して三角堆積が進行する。
- 2) 岩手県二戸市沼久保遺跡（(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986）など。

第6章 9～10世紀における竪穴建物の形態変遷と十和田10世紀噴火

1 前提

本論で「竪穴建物」と呼んでいる遺構は、竪穴状に地面を掘りくぼめた半地下式の建物のことで、これは従来、主として「竪穴住居」と呼ばれていたものにあたる。竪穴建物という名称を用いる理由は、文化庁が「地表を掘り下げて床面をつくった建物を、竪穴建物と呼ぶ。屋根は掘立柱で支えるのが一般的だが、床面が地表より下に位置することから、掘立柱建物と区別されている。これらの建物については、「竪穴住居」という名称が長く用いられてきた。しかし、すべてが住居であったわけではなく、工房など、居住施設以外のものも存在する。そのため、掘立柱建物や礎石建物などの用語との対比関係も考慮して、竪穴建物と呼ぶこととする。」（文化庁文化財部記念物課監修 2010）と定義したことによる。確かに、遺構に対する「住居」の認定はおそらく解決をみることはなく、この定義付けが最も齟齬がないものと思われる。

ところで、縄文時代以降、日本列島各地で作られてきた竪穴建物は、古墳時代頃から徐々にその数を減じていく。これについて宮本長二郎は、「6世紀のころまず近畿中央部の集落で、7世紀には西日本各地で、8世紀には東海で、10世紀ごろには中部・関東で、竪穴住居は掘立柱住居へ移行する。ただし、寒冷な東北・北海道や中部山岳地帯では13世紀ごろまで竪穴住居の集落が残る。…中略…東北地方の12～17世紀の城館跡でも竪穴式の建物を工房や住居として掘立柱建物と併用した事例が多い。」（宮本 2002）と概説している。東北地方北部は、平安期になっても竪穴建物が相当数構築される地域である。竪穴内にテフラが堆積・残存しやすく、かつその様相が多様であるという遺構形態の特性を生かして、本論では研究分析対象に竪穴建物を選んだわけである。

しかし、東北地方北部でも平安時代を通じて居住関連施設における竪穴建物の割合が各地域一定であったわけではなく、やはり南の律令体制域から徐々に掘立柱建物などの平地式建物が増加していたと考えられている。

北東北3県における9～11世紀の竪穴建物を集成した北東北古代集落遺跡研究会（2014）によれば、出羽国内にあたる秋田県仙北・平鹿・雄勝地区では十和田10世紀噴火以降に、同秋田・八郎潟沿岸地区では10世紀中葉以降に、陸奥国内にあたる岩手県胆沢・江刺・磐井地区および稗貫・和賀地区では10世紀中葉以降に、同紫波地区では10世紀後葉以降にそれぞれ竪穴建物の棟数が急減するという。秋田・八郎潟沿岸地区では秋田城の廃絶との関連性も指摘されているが、いずれ上記各時期以降は竪穴建物の検出率が低下し、掘立柱建物が増加していくと考えられる。

本論考察の主たる対象地域は北緯40°以北としたが、それはTo-aテフラ降灰量に拠る制約と、上述の竪穴建物に関する状況を加味した結果である。

さて、本論を進める前に、東北地方北部の平安期における竪穴建物研究の現在について触れておく。

遺跡単位内での諸属性考察を超えた広域的な比較研究例は少なく、最初に大々的な

集成が行われたのは、1998年の第24回古代城柵官衙遺跡検討会であった。青森、岩手、秋田、山形、宮城各県の8～10世紀集落を集成したもので、竪穴建物については主として面積という属性から社会構造や時期的変遷を検討している（第24回古代城柵官衙遺跡検討会事務局1998a・1998b）。しかし、それ以外の属性については、各執筆担当者による担当地域内での検討にとどまるものであった。

最も新しく、共通のフォーマットで集成し統計的検討を加えているのが、北東北古代集落遺跡研究会（前掲）である。北東北3県の研究者15名が集合して成されたこの仕事は、竪穴建物1棟々々の存続年代決定を主要な検討課題としており、形態および構造、付属施設、カマドの各状態をまとめ¹⁾、地域ごとに各時期の様相検討を行っている。平安時代の北東北に存在した竪穴建物を集成し、そのデータベースを構築・公開することで広く当該時代研究に寄与しようとするものであり、研究レベルを次の段階へ押し上げる可能性を秘めた重要な仕事といえる。

ところで、北東北古代集落遺跡研究会が提示した成果の根幹となる竪穴建物の所属時期決定方法は、出土土器の編年上の位置に拠っている。具体的には、「北東北3県の9～11世紀の広域編年の指標とするため、広域に分布するとみられる特徴的な器種」として、須恵器長頸瓶・広口壺、高台付土器（内外黒色を含まず）、内外黒色土器、耳皿、小皿の土器5器種を選定し、そのいずれかが含まれる一括土器（「セット関係が良好な資料」としている）を遺構ごとに抽出して土器編年を構築した上で、各竪穴建物出土土器をそれに対比させて年代を決定する、というものである²⁾。しかし、地域や時期によっては、指標器種は検出されても、セット関係が良好な資料は認められないことも少なくない。

遺物は、考古学的研究において相対年代を導出するための主たるツールであり、各時代を通じて編年構築の中心的役割を担っている。ことに、広域に流通した物品は共通の時間軸を考えるために有効な資料と思われる。ただし、広域流通物品の性格を考えれば、その出土をもって単純に共時的と扱うことはできない。流通の過程、その特殊性から生じる保持年代幅の問題など、「一般物品」と同列に扱うことには注意が必要である。むしろ、後世まで残る可能性が十分にあり、動産と不動産のタイムラグが生じやすい遺物といえる。本来、日用雑器こそが保持集団の本質的な特徴や変化を誇張なく示しているのだろうが、他の道具に比べて変化が少ないために年代の把握が困難で、ゆえに地域間の比較も進まない。これは、考古学における遺物編年研究の根源的な課題ともいえよう。

こういった問題を踏まえた上で、本論では、人工遺物ではない、自然遺物を絶対年代指標として用い、竪穴建物の帰属年代を決定してきた。その指標こそがテフラである。広域性と共時性を有する稀有な遺物であり、年代指標として極めて有効かつ重要なツールである。本章では、第3章で特定した竪穴建物の廃絶（構築）時期を基に、地域細分ごとの形態的特徴をまとめ、東北地方北部における竪穴建物の地域性と変遷について、おもに十和田10世紀噴火を画期とした動態の有無の把握に焦点を当てて論じる。

2 分析する属性と方法

(1) 属性

第2章表6で示したとおり、筆者の集成作業においても遺構の諸属性を抽出した。以下、これについて若干の説明を加える。

観察項目は、カマド、付属施設、柱穴配置の大別3つで、カマドが主たる検討対象である(表13およびその凡例参照)。

カマドは、主軸方向の角度と壁面上での位置、煙道の構築方法や形態について集めた。主軸方向の角度はN-0°-Eとして360°表示とした。すなわち、真北は0°、真東は90°、真南は180°、真西は270°となる。設置位置は、設置壁を5等分し、建物内部からみて左側からL、CL、C、CR、Rとした。カマドの作り変えが認められる場合は、古いものから順に矢印で区切って列記した。なお、芯材の有無と種類についても集成を行ったが、カマドは破却率が高く不確実なデータとなりそうなので提示を控えた。

付属施設は、竪穴外に延びる排水溝、周堤、外周溝、掘立柱建物の有無を抽出した。これらの要素は当該期の竪穴建物に特徴的に付属するもので、その地域性が以前から指摘されている。各地域における発生と展開に火山噴火災害イベントが関与していないかを確認するため、集成を実施した。

柱穴配置は、竪穴建物構築に係る極めて重要な要素である。建物構造に強く影響する要素であり、建築文化の違いを示す大きな指標と考えられる。しかし、発掘調査段階でこれを正確に検出できているかといえば、そこには疑問符を付けざるを得ない。しかも、遺構重複やその後の攪乱によって竪穴全体が残存しないことが多く、完掘できる場合のほうがむしろ少ない。柱穴配置の把握はこのような影響を受けるため、本論ではデータ化・統計処理をせず、ほぼ全体が調査された竪穴建物の比較により、各地域における傾向抽出と相互比較を行った。これについては個別に遺構図を提示して説明を加える。

その他、上記分類では表せない構造的特徴などは個別に記録した。

ここで、カマドの主軸方向に関して1点述べておく。カマドの主軸方向は、遺構構築場所の傾斜方向との関係性について議論されることも多い。本論分析の過程で、全体形がおおむね残存する竪穴建物を対象に、勾配が2%以上ある場所に構築された際のカマド主軸方向と傾斜方向の関係性を観察した。その結果、カマド主軸方向が斜面上方を指向するといった明瞭な相関性は認められなかった。換言すれば、「カマド主軸方向の決定は、社会性に影響される。」といえそうである。

(2) 方法

次に、分析方法について述べる。

カマド主軸方向の角度について、地域ごとに統計処理を行い、グラフ化した(表14)。その際、角度を北(N)、北東(NE)、東(E)、南東(SE)、南(S)、南西(SW)、西(W)、北西(NW)の8区分に振り分けている。時期区分は、I期、II~III期、IV期以降(III~IV期、IV期、IV期以降、IV期以降構築、V期を統合)、VI期以降(VI期、VI期以降構

築を統合)の4つとした。ただし、VI期以降の検出数が5棟未満の地域についてはIV期以降をすべて統合して、津軽地方でI～III期が未検出もしくは検出数5棟未満の地域についてはIV期以前をIV期以降との比較資料として提示した。加えて、壁面上でのカマドの位置が判明した資料のうち、壁面中央に設置される割合を地域ごとにグラフ化し対比した(表15)。いずれの作業も、棟数が5棟以上の場合のみ実施した。

これら各データに、検出状態の良い遺構から看取される平面形態、柱穴配置などの特徴を合わせ、それを地域相互に、また時期区分ごとに比較するという方法で分析を行った。主たる検討対象地域は、To-a・B-Tmの両方が検出された地域である。周辺域は、これら地域の変動要因を考えるための資料として集成・提示する。

3 各期の様相

陸奥国域(①～④地域)、出羽国域(⑥地域のみ)、郡外太平洋側(⑧～⑱地域)、郡外日本海側(㉑～㉓地域)に大別して記載していく。地域区分については第2章図3を参照いただきたい。

(1) I期

第5章でも述べたとおり、I期は年代上限がなく、奈良時代の廃絶遺構も含まれる。ここではII期以降の動態を捉える前提として、各地域の概要をおさえておく。

陸奥国域(①～④地域)

陸奥国域では、カマドの主軸方向は東位が3割強を占め、北東・南東位を含めれば6割弱となる。いっぽうで北位も2割弱存在する。設置位置は、7割以上が中央ではなく左右どちらかに片寄る。柱穴配置は、無検出を除けば(以下すべて同様)中央4本柱のタイプが最も多い。なお、カマドの寄りに合わせて柱配置も壁際に片寄る例が各地で散見される。当該地域では、北壁中央カマドで中央4本柱の建物が奈良時代から続く古期的様相であり、平安期に至ってカマドは東位を志向し、柱穴配置も変化していくと理解されている。

出羽国域(⑥地域)

カマドの主軸方向は東位を志向し、設置位置は左右いずれかに片寄る。柱穴配置は中央4本柱のタイプのほか、壁柱穴のみによるもの(側柱建物構造³⁾)が認められる。Ak-065 会塚田中B遺跡 SI03(図19-1)はいわゆる竪穴・掘立柱併用建物であり、高橋学によれば、同様式の多くが側柱建物構造を採るという(高橋2015)。

郡外太平洋側(⑧～⑬・⑮～⑱地域)

地域ごとに傾向をみていく。カマド主軸方向は、⑧北上川上流域のみ南東位を志向するものが3割強を占め、南位も1割強存在する。このほか、西位、北西位、北東位とばらつきがある。いっぽう、これ以北の各地域は⑱上北地域中部に至るまで基本的に北西～北位を志向する。多くの地域は北西位が最多であるが、太平洋岸の⑮久慈地域、⑰上北地域南部は北位が最多で、⑯八戸平野周辺は北西位と北位が拮抗している。⑱上北地域中部のI期集落は沿岸部ではなく内陸の三本木原周辺に集中することから、北カマドは沿岸域の特徴といえそうである。また、⑧地域に隣接する⑨安比川流域は

表13 カマドと付属施設

凡例

カマドについて

- ・ 主軸方向の角度はN-O° -Eとして360° 表示とした。すなわち、真北は0°、真東は90°、真南は180°、真西は270°となる。
- ・ 設置位置は、設置壁を5等分し、建物内部からみて左側からL、CL、C、CR、Rとした。
- ・ カマド主軸方向、設置位置とも変遷がある場合は「→」で示した。変遷不明もしくは同時存在の可能性がある場合は「・」を付して列記した。

付属施設について

- ・ 付属施設が存在する場合は「●」で示した。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
①	lw-212	久田	B3住居跡	Ⅲ期	100	CR						煙道短い。
	lw-212	久田	B13住居跡	I期	125	CR						
	lw-213	下惣田	第2号住居跡	I期	85	CR						
	lw-215	館山	オ-C V b3住居址	I期	347	CR						
	lw-215	館山	カ-C II c3住居址	I期	78	CR						煙道短い。
	lw-216	中半入	SI04A	Ⅳ期以降構築	81	C?						
	lw-219	袖谷地 I (旧 袖谷地)	第3号(Bj71)住居跡	I期	120	隅						
	lw-220	龍ヶ馬場	1号竪穴住居跡	I期	140	CR						
	lw-220	龍ヶ馬場	6号竪穴住居跡	Ⅱ期	70	CR						主柱穴南東壁に接する(カマドの寄りと関係)。
	lw-222	伯濟寺	SI06竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	101	CR						
	lw-224	杉の堂	SI03竪穴住居跡	Ⅲ期以降	116	R						
	lw-226	林前南館跡	3号住居跡	I期	70							
	lw-226	林前南館跡	SI02竪穴住居跡	I期	10	CR						
	lw-228	明後沢遺跡群	15SI-6	Ⅲ期以降	80	R						煙道短い。
	lw-228	明後沢遺跡群	15SI-294	Ⅲ期以降		R						煙道短い。
	lw-228	明後沢遺跡群	15SI-310	Ⅲ期以降	82	CR						
	lw-229	古城上野	SI-90	I期	135	CR						
	lw-231	瀬原 I	II D-1号住居跡	Ⅲ期以降	260	CR						
	lw-233	本町 II	17号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	124	CR						
	lw-233	本町 II	21号竪穴住居跡	I期	90→85	CL→CL						主柱穴南壁に接する(カマドの寄りと関係)。
	lw-234	志羅山	1号住居跡	I期	80	CR	●					
	lw-236	機織山 II	BA50住居跡	I期	115	CR						
	lw-238	五輪堂	SI01	Ⅱ期	38	R	●					
lw-240	大明神 II	1住居址	Ⅲ期	0	北隅						焼土4基。	
②	lw-169	清水屋敷 II	DH03	I期	335	C						
	lw-171	森下	SI032竪穴住居跡	Ⅲ期以降	45	CR						
	lw-175	堰向 II	SI12	Ⅲ期以降	70	隅						
	lw-176	西川目	SI01	Ⅲ期以降	338	C						
	lw-176	西川目	SI03	I期	20	C						
	lw-176	西川目	SI052	Ⅳ期以降構築	22	CR						焼土。
	lw-178	八天	1号住居跡	Ⅲ期以降	104	CR						主柱穴南壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	lw-179	金成	SI122竪穴住居跡	Ⅲ期	330	CL						
	lw-180	横町	SI1529竪穴住居跡	Ⅱ期	110	CR						
	lw-182	藤沢	SI007竪穴住居跡	I期	7	C						
	lw-182	藤沢	SI021竪穴住居跡	Ⅱ期	44	CR						主柱穴南東壁に寄る(カマドの寄りと関係)。ロクロビット。炉。
	lw-182	藤沢	SI713竪穴住居跡	I期	10	C						
	lw-182	藤沢	Ah59住居跡	I期	325	C						
	lw-183	鳩岡崎上の台	SI01	I期	60	CR						主柱穴南東壁に接する(カマドの寄りと関係)。
	lw-183	鳩岡崎上の台	SI22	I期	0	C						
	lw-184	江釣子和田(旧 和田)	SI003竪穴住居跡	I期	340	C						
	lw-187	江釣子古墳群猫谷地支群	CE12竪穴住居跡	I期	190→180	CL→L						
	lw-187	江釣子古墳群猫谷地支群	CI53竪穴住居跡	Ⅱ期	145	CL						
	lw-188	八幡	SI004竪穴住居跡	I期	90	CL						主柱穴東壁に寄る(カマド側)。
	lw-188	八幡	SI055	Ⅲ期	110	CR						短煙道。
	lw-192	八幡野 II	E28-01住居址	Ⅳ期以降構築	200	CR						
	lw-192	八幡野 II	G28-02住居址	Ⅱ期	195	CL						
	lw-193	本郷野(旧 本郷)	I G-2号住居跡	Ⅲ期以降	105	CR						
	lw-194	煤孫	IVA1号住居跡	Ⅲ期以降	190	CL						
	lw-195	兵庫館跡	竪穴住居跡	I期	30	C						
	lw-196	梅ノ木台地 II	竪穴住居跡 I	Ⅲ期以降	80→175	CR→CL						平面長方形。
	lw-197	岩崎台地遺跡群	B-41-c住居跡	I期	1	C						
lw-197	岩崎台地遺跡群	E II a3住居跡-2	Ⅲ期以降	80	CR							

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
②	Iw-197	岩崎台地遺跡群	D II x6住居跡	II 期	145	L						煙道石組。主柱穴南東壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	Iw-197	岩崎台地遺跡群	D II t8住居跡-1	IV 期以降構築	55	C						
	Iw-197	岩崎台地遺跡群	D III k25住居跡	III 期以降	110	CR						平面長方形。主柱穴南壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	Iw-197	岩崎台地遺跡群	CVIp4住居跡	I 期	90	CR						
	Iw-197	岩崎台地遺跡群	CVIf22住居跡	IV 期以降	80	CL						
	Iw-197	岩崎台地遺跡群	B VII v12住居跡	IV 期以降構築	345	C						主柱穴南壁(カマド反対)に寄る。
	Iw-198	六軒(旧 上鬼柳 II・同 III・同 IV)	VIB2住居跡	I 期	5→85	CL→CL						
	Iw-198	六軒(旧 上鬼柳 II・同 III・同 IV)	VIB2住居跡	I 期	90	CR						
	Iw-198	六軒(旧 上鬼柳 II・同 III・同 IV)	VIB3住居跡	I 期	64	CL						
	Iw-200	鹿島館	KC-1	I 期	35	CR						
	Iw-201	卯ノ木	1号住居跡	I 期	75	CR						主柱穴南東壁に寄る(カマド側)。
	Iw-201	卯ノ木	SI010	III 期	82	CR						
	Iw-203	成沢	Db6竪穴住居跡	I 期	166	CL						
	Iw-204	成沢 II	SI001竪穴住居跡	I 期	150	CL						
	Iw-204	成沢 II	SI004竪穴住居跡(b 段階)	III 期	70	C						焼土多数。
	Iw-206	滝ノ沢	SI179竪穴住居跡	I 期	87	CR						
	Iw-207	大堤	SI004竪穴住居跡	II 期	110	CR						
	Iw-208	南部工業団地内(旧 高前壇 II)	D001竪穴住居跡	I 期	80	CR						
	Iw-208	南部工業団地内(旧 高前壇 II)	D009a竪穴住居跡	IV 期以降構築	90	L						ロクロピット。
	Iw-208	南部工業団地内(旧 高前壇 II)	D009b竪穴住居跡	I 期	120	L						
	Iw-208	南部工業団地内(旧 高前壇 II)	D052a竪穴住居跡	IV 期以降構築		CR						煙道なし。炉4基。ロクロピット。
	Iw-208	南部工業団地内(旧 高前壇 II)	D069竪穴住居跡	III 期以降	115	CL						炉1基。
	Iw-208	南部工業団地内(旧 高前壇 II)	G070竪穴住居跡	II 期	55	北東隅						
	Iw-208	南部工業団地内	N001竪穴住居跡	II 期	160	CL						炉1基。
	Iw-209	上大谷地	01a(SI001)竪穴住居跡	II 期	90	CL						
	Iw-209	上大谷地	Bd12住居跡	III 期以降	90	CL						主柱穴東壁に寄る(カマド側)。
	Iw-209	上大谷地	BI18住居跡	I 期	185	CR						
	Iw-210	西野	CI50住居跡	III 期以降	110	CR						主柱穴東壁に寄る(カマドの寄りと関係)。新旧2期とも。
	Iw-210	西野	CE36住居跡	II 期	120	CR						主柱穴6本、南東壁に寄る(カマド寄りと関係)。
	Iw-211	国見山廃寺	SI083	II 期		南東隅						
Iw-211	国見山廃寺	SI084	IV 期以降構築		北東隅							
③	Iw-155	白幡林	A-2住居跡	III 期以降	100							煙道短い。
	Iw-155	白幡林	A-4住居跡	III 期以降	80	CR						煙道短い。
	Iw-155	白幡林	B-1住居跡	I 期	105	CR						
	Iw-155	白幡林	B-3住居跡	II 期	85	C						
	Iw-155	白幡林	B-4住居跡	II 期	110	隅						
	Iw-156	島岡 II	6号竪穴住居	I 期	70	CR						
	Iw-157	貝の淵 I	2号住居跡	I 期	355	C						
	Iw-157	貝の淵 I	3号住居跡	II 期	85	CR						
	Iw-157	貝の淵 I	4号住居跡	I 期	340	C						
	Iw-158	大明神	BG50住居跡	III 期以降	115	CR						
	Iw-163	高木中館	SI01	II 期		CR						
	Iw-164	桜町 I (旧 桜町)	SI02竪穴住居跡	I 期	90	CR						煙道石組。
	Iw-166	古館 II	F15-2住居跡	III 期以降	107	CR						
	Iw-166	古館 II	F16住居跡	III 期	205	CL						煙道石組。
	④	Iw-120	南の又	G-14住居址	IV 期以降構築	135→135	C→CL					
Iw-122		猪去館	RA507	II 期	60	CR						煙道短い。焼土2基。
Iw-122		猪去館	RA508	I 期	355→80	CR→CR						新期カマド煙道短い。
Iw-124		志波城跡(太田方八丁)	25号-II (J12)竪穴住居跡	III 期以降	31→121	CR→L						I 期カマドの燃焼部下部構造は鉄滓敷き。
Iw-126		鬼柳A	RA004	II 期	90	CL						
Iw-128		本宮熊堂B	RA016	IV 期以降構築	115	CL						
Iw-128		本宮熊堂B	RA01	III 期以降	105	CR						主柱穴カマド壁側に寄る。
Iw-128		本宮熊堂B	RA02	III 期以降	125	CR						煙出し石組。主柱穴カマド壁側に寄る。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	lw-128	本宮熊堂B	RA021	I期	29	CR						
	lw-128	本宮熊堂B	RA035	IV期以降構築	345	CR						
	lw-128	本宮熊堂B	RA039	III期以降	122	CR						
	lw-128	本宮熊堂B	RA040	IV期以降構築	109	C						
	lw-128	本宮熊堂B	RA069竪穴住居跡	III期以降		CR						
	lw-128	本宮熊堂B	RA067	III期以降	100→290	L→C						
	lw-128	本宮熊堂B	RA111	III期以降	123	CL						
	lw-129	野古A	RA020	III期以降	120	CR						
	lw-129	野古A	RA024	III期以降	110	CL						
	lw-129	野古A	RA041	IV期以降構築	113	CR						
	lw-129	野古A	RA042	III期以降	110→105	CL→CR						
	lw-129	野古A	RA067	I期	315	C						
	lw-129	野古A	RA070	IV期以降構築	135	CR						主柱穴カマド反対壁に2本のみ。
	lw-130	飯岡沢田	RA018	III期以降	70→150	CR→CL						
	lw-130	飯岡沢田	RA011	I期	194	CL						
	lw-131	飯岡才川	RA015	III期以降	63	CR						
	lw-131	飯岡才川	RA042	I期	17	C						
	lw-131	飯岡才川	RA031	I期	100	CL						主柱穴カマド側壁に接する。
	lw-131	飯岡才川	RA032	I期	103	CL						
	lw-131	飯岡才川	RA035	I期	85	CL						北壁に棚状施設。
	lw-131	飯岡才川	RA037	I期	95	CL						
	lw-131	飯岡才川	RA041	I期	270	C						
	lw-132	台太郎	RA065	III期以降	15→100	CR→CL						
	lw-132	台太郎	RA290	III期以降	110	CL						
	lw-132	台太郎	RA403	III期以降	118→114	CL→CR						
	lw-132	台太郎	RA437	III期以降	101	C						
	lw-133	向中野館	RA06	I期	305・305・305・305・210	CL・C・C・CR・CL						
	lw-133	向中野館	RA013	III期以降	18・292	CR・C						主柱穴カマド反対壁に接する。棚状施設。
	lw-133	向中野館	RA032	III期以降	125	CR						
	lw-134	細谷地	RA01(Ⅱ期)	III期以降	223→302	CL→CR						主柱穴南西壁に接する。
	lw-134	細谷地	RA11	I期	271	C						
	lw-134	細谷地	RA15	I期	112・13→110・98	CL・CR→CR・CR						
	lw-134	細谷地	RA20	I期	332→55	CR→CL						間仕切り溝。
④	lw-134	細谷地	RA16	III期以降	140	CR						カマド3基あるが2基は伴うか不明。
	lw-134	細谷地	RA18	III期以降	0	CR						
	lw-134	細谷地	RA21	III期以降	7→183	CR→CL						
	lw-134	細谷地	RA25	III期以降	278	CR						
	lw-134	細谷地	RA26	III期以降	180	CL						
	lw-134	細谷地	RA32	I期	287	C						
	lw-134	細谷地	RA33	III期以降	87	CL						
	lw-134	細谷地	RA36	III期以降	112	CR						
	lw-134	細谷地	RA39	IV期以降構築	86・167→258	CL・CL→C						
	lw-134	細谷地	RA045	IV期以降構築	95	CL						
	lw-134	細谷地	RA046	I期	275	C						主柱穴カマド反対壁に接する。
	lw-134	細谷地	RA048	IV期以降構築	265	C						
	lw-134	細谷地	RA049	I期	90	CL						
	lw-134	細谷地	RA072	III期以降	62	CL						
	lw-134	細谷地	RA078	I期	60	CL						焼土。
	lw-134	細谷地	RA123	IV期以降	285・100	C・CL						
	lw-134	細谷地	RA127	III期以降	100	CL						
	lw-134	細谷地	RA131	IV期以降	292	C						鍛錬鍛冶炉。
	lw-134	細谷地	RA132	I期	82・168→258	CR・CL→CL						
	lw-134	細谷地	RA135	Ⅱ期	110	CR						柱穴は縁による。カマド側に屋外柱穴あり。
	lw-134	細谷地	RA138	III期以降	290	CL						
	lw-138	百目木	No.10住居	III期以降	215・225	CL・C						
	lw-138	百目木	No.11住居	III期以降	21→108	CR→CL						
	lw-138	百目木	No.14住居	I期	97	CR						
	lw-138	百目木	No.25住居	IV期以降構築	143→143	CL→R						新期煙道短い。主柱穴カマド壁に接する。
	lw-138	百目木	No.46住居	Ⅱ期	115	CL						
	lw-138	百目木	No.51住居	Ⅱ期	139	CL						
	lw-138	百目木	No.76住居	I期	61	CR						平面横長。主柱穴南壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	lw-140	前野	RA108	III期以降	200	C						平面横長。
	lw-141	上八木田Ⅰ	X I C9a住居跡	III期以降	25	CR						
	lw-143	上八木田Ⅲ	X I N7d住居跡	III期以降	120	CL						煙道石組。焼土1基。
	lw-144	上八木田Ⅳ	X VIIK2c住居跡	IV期以降構築	225	CL						
	lw-149	杉ノ上Ⅲ	EB50住居跡	I期	125	CL						
	lw-149	杉ノ上Ⅲ	ED03住居跡	III期	70	隅						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
④	lw-150	栗田Ⅰ・Ⅱ	第3号(Dc12)住居跡	Ⅲ期	78	CR					
	lw-151	比爪館	SI-120	Ⅰ期	60	CR					主柱穴南東壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	lw-154	西田東	ⅡE-1住居跡	Ⅳ期以降	108	CR					
	lw-154	西田東	ⅡF-3住居跡	Ⅲ期以降	90	CR					
	lw-154	西田東	ⅡG-2住居跡	Ⅲ期以降	0	CR					
	lw-154	西田東	ⅡH-2住居跡	Ⅲ期以降	87	CR					
	lw-154	西田東	ⅢH-2住居跡	Ⅲ期以降	90	CL					
⑥	lw-154	西田東	ⅢI-1住居跡	Ⅳ期以降構築	90	CR					
	Ak-056	払田柵跡	SI1431	Ⅰ期	190→110	CL→CR					焼土あり。
	Ak-060	大沼沢A	SI01	Ⅰ期	112	L					煙道ほとんどなし。
	Ak-060	大沼沢A	SI02	Ⅰ期	103	CL					柱穴竪穴外。
	Ak-060	大沼沢A	SI03	Ⅰ期	111	CL					
	Ak-060	大沼沢A	SI04	Ⅰ期	112	CL					焼土あり。
	Ak-060	大沼沢A	SI05	Ⅰ期	124	CL					焼土あり。
	Ak-060	大沼沢A	SI06	Ⅰ期	148	R					煙道ほとんどなし。
	Ak-063	下田	SI69	Ⅰ期	85	CR					
	Ak-064	江原嶋1	SI63B	Ⅰ期	71	CR					
	Ak-065	会塚田中B	SI03	Ⅰ期	250	CR				●	2間×2間。
	Ak-066	正願谷地	SI101	Ⅳ期以降	205	L					
	Ak-067	平鹿	SI003	Ⅲ期	215・350	CL・CR					
⑧	lw-099	長者屋敷	EⅣ-2住居址	Ⅳ期以降構築	228	CR					
	lw-099	長者屋敷	EⅤ-2住居址	Ⅲ期以降	228	CL					煙道短い？
	lw-099	長者屋敷	EⅤ-9住居址	Ⅳ期以降構築	190	CL					
	lw-099	長者屋敷	EⅥ-1住居址	Ⅲ期以降	240	CR					
	lw-100	子飼沢山	5号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	185	CR					主柱穴南壁に寄る(カマド側へ)。
	lw-100	子飼沢山	6号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	125	CL					主柱穴1本。
	lw-100	子飼沢山	7号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	95	CL					主柱穴2本。
	lw-100	子飼沢山	10号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	120	CR					主柱穴2本。南西壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	lw-100	子飼沢山	11号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	125	CR					
	lw-100	子飼沢山	13号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	150	CL					
	lw-100	子飼沢山	14号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	180	CL					
	lw-100	子飼沢山	北区1号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	130	CL					主柱穴南西壁に寄る(カマド側へ)。煙道石組。
	lw-100	子飼沢山	北区2号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	130	CL					
	lw-101	暮坪	2号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	134	CR					煙道石組。
	lw-101	暮坪	7号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	185	CR					
	lw-101	暮坪	1号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築		CR→CL					主柱穴北壁に寄る(カマドの寄りと関係)。煙道石組。
	lw-101	暮坪	4号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築		CR					主柱穴2本。煙道石組。
	lw-101	暮坪	11号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築		CL→CR					
	lw-101	暮坪	16号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築		CR					主柱穴1本。
	lw-101	暮坪	18号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築		CL					煙道石組。
	lw-102	上斗内Ⅴ	B-20竪穴住居跡	Ⅰ期	105	CR					
	lw-103	野駄	CⅠ-3住居址	Ⅰ期	340	R					煙道石組。
	lw-104	今松	第3号住居	Ⅰ期	265	C					
	lw-104	今松	第4号住居	Ⅰ期	260	C					
	lw-105	仙波堤	第1号住居	Ⅰ期	300	C					主柱穴7本。
	lw-105	仙波堤	第2号住居	Ⅰ期	295	C					
	lw-105	仙波堤	第3号住居	Ⅰ期	290	C					
	lw-105	仙波堤	第26号住居	Ⅰ期	270	C					
	lw-106	秋浦Ⅰ	RA01	Ⅲ期以降	70						焼土。
	lw-108	才津沢	7号住居跡	Ⅰ期	305	C					
	lw-109	芦名沢Ⅰ	4号住居跡	Ⅲ期	120	CL					
	lw-109	芦名沢Ⅰ	6号住居跡	Ⅲ期以降	305	CR		●			
	lw-109	芦名沢Ⅰ	7号住居跡	Ⅳ期以降構築	40	CR					
	lw-109	芦名沢Ⅰ	8号住居跡	Ⅳ期以降構築	30	CR					鍛冶炉？
	lw-110	芋田Ⅱ	第4号住居跡	Ⅰ期	60→155・163→160	CR→CL・C→CR					焼土。
	lw-110	芋田Ⅱ	第9号住居跡	Ⅲ期以降	130	CL					主柱穴北壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
lw-110	芋田Ⅱ	第11号住居跡	Ⅰ期	155→152	CL→L						
lw-110	芋田Ⅱ	第14号住居跡	Ⅰ期	55	CR						
lw-110	芋田Ⅱ	第15号住居跡	Ⅲ期以降	110	CL						
lw-110	芋田Ⅱ	第19号住居跡	Ⅰ期	160	CL						
lw-110	芋田Ⅱ	第20号住居跡	Ⅲ期以降	50	CR						
lw-110	芋田Ⅱ	第1号住居跡	Ⅰ期	155	CL					芯材礫煙出しまで設置。	
lw-110	芋田Ⅱ	第2号住居跡	Ⅰ期	38	C					芯材礫煙出しまで設置。主柱穴右壁に寄る。	
lw-110	芋田Ⅱ	第4号住居跡	Ⅲ期以降	135	CL					礫は袖になく、煙出しに設置。他の3壁に「煙道状施設」。	

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
⑧	Iw-110	芋田Ⅱ	第5号住居跡	I期	128	CL					焼土(小鍛冶か)。	
	Iw-110	芋田Ⅱ	第6号住居跡	IV期以降構築	136	CL					ロクロビット2基。	
	Iw-110	芋田Ⅱ	第9号住居跡	I期	115	CL						
	Iw-110	芋田Ⅱ	第10号住居跡	I期	135	CL					主柱穴Rに寄る。	
	Iw-110	芋田Ⅱ	第11号住居跡	I期	135	CR					壁柱穴四隅に。	
	Iw-110	芋田Ⅱ	第12号住居跡	I期	113	CR						
	Iw-110	芋田Ⅱ	第14号住居跡	II期	130	CL						
	Iw-110	芋田Ⅱ	第15号住居跡	III期以降	130	CL					主柱穴Lに寄る。	
	Iw-110	芋田Ⅱ	第16号住居跡	III期以降	148	L						
	Iw-111	武道V	RA001	IV期以降構築	90	CR						
	Iw-112	湯舟沢	XPI住居址	III期	40	CR					煙道土器・石組。	
	Iw-112	湯舟沢	XQn住居址	IV期以降構築	130	CL					煙道石組。	
	Iw-112	湯舟沢	XIII0e住居址	III期以降	175	CL					煙道石組。	
	Iw-114	法誓寺1	4号竪穴住居跡	I期	60	CR						
	Iw-116	高柳	Dh63竪穴住居	I期	180	CR						
	Iw-116	高柳	Di72竪穴住居	I期	150	CR						
	Iw-116	高柳	Ea60竪穴住居	I期	330	C					間仕切り溝。	
	⑨	Iw-043	青ノ久保	AIV01住居跡	I期	300	C					
		Iw-043	青ノ久保	BIII02住居跡	I期	298	CR					
		Iw-043	青ノ久保	CII02住居跡	I期	313	C					
		Iw-043	青ノ久保	CII03住居跡	I期	330	C					
Iw-043		青ノ久保	CIII01住居跡	I期	314	C						
Iw-043		青ノ久保	AIV02住居跡	IV期以降構築	130	CL						
Iw-043		青ノ久保	BIII01住居跡	IV期以降構築	95	CL					煙道短い。	
Iw-043		青ノ久保	CII01住居跡	IV期以降構築	85	R					煙道短い。	
Iw-043		青ノ久保	CIII02住居跡	IV期以降構築	155	CR					煙道短い。	
Iw-045		大向上平	1号竪穴住居跡	III期以降	112	CR						
Iw-045		大向上平	2号竪穴住居跡	III期以降	301	CR					煙道石組。	
Iw-045		大向上平	3号竪穴住居跡	IV期以降構築	287	C						
Iw-045		大向上平	4号竪穴住居跡	IV期以降構築	80	CR						
Iw-045		大向上平	5号竪穴住居跡	IV期以降構築	325→320	CR→C						
Iw-045		大向上平	6号竪穴住居跡	III期以降	22	CR					煙道短い？	
Iw-045		大向上平	7号竪穴住居跡	IV期以降構築	301	C						
Iw-045		大向上平	8号竪穴住居跡	III期以降	295→25	C→CR						
Iw-045		大向上平	9号竪穴住居跡	III期以降	260→0	C→CR						
Iw-045		大向上平	10号竪穴住居跡	IV期以降構築	292	CR						
Iw-046		大向Ⅱ	5号竪穴住居跡	III期以降	105	CL						
Iw-046		大向Ⅱ	6号竪穴住居跡	III期以降	80	CR						
Iw-046		大向Ⅱ	7号竪穴住居跡	I期	348	CR					焼土。	
Iw-046		大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	IV期以降構築		CR						
Iw-046		大向Ⅱ	9号竪穴住居跡	IV期以降構築	73→75	CL→CR			●			
Iw-046		大向Ⅱ	10号竪穴住居跡	III期	68	CR						
Iw-046		大向Ⅱ	12号竪穴住居跡	I期	265	CL					主柱穴北壁側に寄る。	
Iw-046		大向Ⅱ	14号竪穴住居跡	I期	25	CR			●		主柱穴東壁側に寄る(カマドの寄りと関係)。	
Iw-046		大向Ⅱ	17号竪穴住居跡	IV期以降構築	185	C						
Iw-046		大向Ⅱ	18号竪穴住居跡	III期以降	105	R						
Iw-046		大向Ⅱ	19号竪穴住居跡	IV期以降構築	15	CR						
Iw-047		天台寺跡(伝天台寺跡)	第1号竪穴住居址	II期	120	CL						
Iw-048		広沖Ⅰ(旧広沖)	AIV-1住居址	IV期以降構築	140	CL						
Iw-048		広沖Ⅰ(旧広沖)	BIII-2住居址	III期以降	275	CL						
Iw-048		広沖Ⅰ(旧広沖)	BIV-1住居址	III期以降	60→140	CR→CL						
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	FIV-1住居跡	IV期以降構築	126→306→306	CR→CR→CL						
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	FIV-3住居跡	I期	346	C					構築土、煙道なし。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	GIV-1住居跡	I期	318	C						
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	HIV-1住居跡	III期以降	185	CR					煙道短い。主柱穴南壁(カマド側)に寄る。焼土3基。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	HIV-2住居跡	III期以降	259	C						
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	HIV-3住居跡	IV期以降構築	182	R					煙道短い。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	HIV-5住居跡	III期以降	33	L						
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	IIV-1住居跡	IV期以降構築	33						鍛冶関連P。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	IIV-2住居跡	III期以降	184	CR					煙道石組。主柱穴南壁(カマド側)に寄る。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	IIV-3住居跡	III期以降	66	CR					煙道土器組。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	JIV-1住居跡	III期以降	146→56	CL→CR						
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	JIV-2住居跡	III期以降	217	C					平面長方形。	
Iw-049		飛鳥台地Ⅰ	BII-1住居跡	IV期	156	CR					煙道石組。	
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	CII-1住居跡	III期以降	60	CR					煙道短い。		
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	CIII-4住居跡	II期	144	CR							
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	CIII-6住居跡	I期	156	CL							
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	DII-4住居跡	IV期以降構築	57	CR					煙道短い。		
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	DII-2住居跡	III期以降	321	CL					主柱穴南東壁(カマド反対側)に寄る。		
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	DII-3住居跡	III期以降	130	CR					煙道石組。		
Iw-049	飛鳥台地Ⅰ	DIII-1住居跡	IV期以降構築	205	L					煙道石組。		

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Iw-049	飛鳥台地 I	DⅢ-4住居跡	Ⅲ期以降	139	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	DⅢ-5住居跡	Ⅲ期以降	133	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	EⅢ-1住居跡	Ⅲ期以降	147	R						煙道に土師器壺片利用。
	Iw-049	飛鳥台地 I	EⅣ-6住居跡	Ⅲ期以降	130	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	FⅢ-1住居跡	I期	173	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	FⅣ-5住居跡	Ⅲ期以降	323	C						主柱穴南東壁(カマド反対側)に寄る。
	Iw-049	飛鳥台地 I	FⅣ-6住居跡	Ⅲ期以降	121	CL						煙道短い。
	Iw-049	飛鳥台地 I	FⅣ-9住居跡	Ⅲ期以降	119→65	CR→R						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-1住居跡	Ⅳ期以降構築	320	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-2住居跡	Ⅲ期以降	320	C						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-3住居跡	Ⅱ期	315	C						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-4住居跡	Ⅲ期以降	141	R						煙道短い。主柱穴南東壁(カマド側)に寄る。焼土1基。
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-5住居跡	Ⅲ期以降	49→140	CR→CL						主柱穴南東壁(古期カマドのよりと関係?新期カマド側)に寄る。煙道礫・土器組。焼土。
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-6住居跡	Ⅲ期以降	168	L						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅢ-7住居跡	Ⅲ期以降	136	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-3住居跡	Ⅳ期以降構築	38・311	CL・C						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-4住居跡	I期	102	隅						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-5住居跡	I期	312	C						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-6住居跡	I期	335	C						
	Iw-049	飛鳥台地 I	GⅣ-7住居跡	Ⅳ期以降構築	47→138	CR→CL						焼土。
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-2住居跡	Ⅳ期以降構築	192	CR						煙道短い。
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-4住居跡	Ⅲ期以降	129→309	CR→C						主柱穴南東壁(古期カマド側)に寄る。煙道礫・土器組。焼土。
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-5住居跡	Ⅳ期以降構築	134	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-7住居跡	Ⅲ期以降	120	CR						平面長方形。
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-8住居跡	Ⅳ期以降構築	25	R						平面長方形。煙道短い。
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-9住居跡	Ⅲ期以降	56	CL						主柱穴北東壁(カマド側)に寄る。
	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅢ-10住居跡	Ⅲ期以降	116	CR						平面長方形。
⑨	Iw-049	飛鳥台地 I	HⅣ-6住居跡	Ⅱ期	180	CR						鍛冶施設。主柱穴南壁(カマド側)に寄る。
	Iw-049	飛鳥台地 I	IⅢ-2住居跡	I期	81	R						
	Iw-049	飛鳥台地 I	IⅢ-3住居跡	Ⅳ期以降構築	132	CR						
	Iw-049	飛鳥台地 I	JⅣ-3住居跡	Ⅲ期以降	147	CR						煙道短い。焼土1基。
	Iw-049	飛鳥台地 I	LⅣ-1住居跡	Ⅳ期以降構築	213	R						
	Iw-049	飛鳥台地 I	OⅡ-1住居跡	I期	105→285	CL→C						主柱穴南東壁(古期カマド側)に寄る。
	Iw-049	飛鳥台地 I	OⅢ-1住居跡	I期	118	R						主柱穴2本。
	Iw-049	飛鳥台地 I	OⅢ-2住居跡	I期	123	R						
	Iw-050	安比内 I	BⅠ-1住居址	I期	330	C						
	Iw-051	大久保 I	H-2住居址	Ⅱ期	260	C						
	Iw-051	大久保 I	H-3住居址	Ⅲ期以降	60	CR						
	Iw-051	大久保 I	H-4住居址	Ⅲ期以降	345	C						
	Iw-051	大久保 I	H-5住居址	Ⅳ期以前	5	R						
	Iw-052	桂平 I	S101	Ⅲ期以降	327	C						短煙道。
	Iw-052	桂平 I	S102	Ⅲ期以降	44	CR						
	Iw-052	桂平 I	S104	Ⅳ期	130	CL						短煙道。主柱穴北東壁側に寄る。カマド配置に関係。地床炉1基。
	Iw-052	桂平 I	S105	Ⅲ期	314	C						短煙道ではない。地床炉1基。
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢC-1住居址	Ⅲ期以降	340	CR						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢC-3住居址	Ⅲ期以降	160	CR						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢC-2住居址	Ⅲ期以降	160	CR						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢD-1住居址	Ⅵ期以降構築	25	C						煙道短い。
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢD-2住居址	Ⅳ期以降構築	75→345	CR→C						主柱穴南壁に寄る(旧カマド位置と関係)。
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢD-3住居址	Ⅳ期以前	310	C						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢD-1住居址	Ⅲ～Ⅳ期	305	C						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢE-1住居址	Ⅳ期以前	50	L						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢD-1住居址	V期	35	CR						9本柱?
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢC-1住居址	Ⅳ期	40→40	CR→CL						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢC-1住居址	V期	45	C						
	Iw-053	桂平Ⅱ(旧桂平)	VⅢC-1住居址	Ⅳ期	130	C						
	Iw-054	沼久保 I(旧沼久保)	I E-5住居址	Ⅲ～Ⅳ期	143	CR						
	Iw-054	沼久保 I(旧沼久保)	ⅢE-1住居址	Ⅲ期以降	189	CL						主柱穴カマド壁に接する。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
⑨	lw-054	沼久保 I (旧 沼久保)	V F-1 住居址	IV 期	272	C					煙道短い。主柱穴カマド反対壁に接する。
	lw-056	海上 I	I G24 住居址	III 期以降	115	CR					
	lw-056	海上 I	II B18 住居址	III 期以降	85						
	lw-057	五庵 II	IV F15 住居跡	IV 期以降	70	CR					煙道短い。
	lw-059	五庵 I	I C4 竪穴住居跡	III 期以降	359	CR					主柱穴東壁に寄る。
	lw-059	五庵 I	IV G7 竪穴住居跡	III 期以降	80	CL					煙道短い。
	lw-059	五庵 I	IV J2 竪穴住居跡	IV 期以降構築	60	CR					
	lw-059	五庵 I	V H1 竪穴住居跡	III 期以降	180→90	CL→CR					新期煙道短い。
	lw-059	五庵 I	V F13 竪穴住居跡	III 期以降	100	CL					煙道短い。
	lw-059	五庵 I	VII I6 竪穴住居跡	V 期以降	105	CR					煙道短い。
	lw-059	五庵 I	VII A16 竪穴住居跡	IV 期以降構築	115	CR					煙道石組。
	lw-059	五庵 I	VII B21 竪穴住居跡	III 期以降	115→115→115	CR→CR→CR					平面縦長。
	lw-059	五庵 I	VII E16 竪穴住居跡	IV 期	45→325	CR→C					
	lw-059	五庵 I	VII F18 竪穴住居跡	IV 期以前	30	CR					煙道短い。
	lw-059	五庵 I	VII G8 竪穴住居跡	II 期	180	CR					
	lw-060	田余内 I	I J7 竪穴住居跡	III 期以降	160	CR					
	lw-062	関沢口	D V-2 住居址	IV 期以降構築	150	L					
	lw-062	関沢口	E IV-1 住居址	III 期以降	100	L					
	lw-063	有矢野館跡	1号竪穴住居跡	III 期以降	61	CL					
	lw-063	有矢野館跡	3号竪穴住居跡	III 期以降	145	CL					
	lw-063	有矢野館跡	6号竪穴住居跡	IV 期以降	66	CL					
	lw-064	谷地田 I	III A-1 住居跡	IV 期以降	52	CR					
	lw-066	上の山館	C I c6 住居址	III 期以降	65	CL					煙道短い。
	lw-067	上の山 VII	C II-1 住居址	III 期以降	15						
	lw-067	上の山 VII	C III-1 住居址	III 期以降	115	CL					
	lw-067	上の山 VII	C IV-1 住居址	IV 期以降構築	140	CL					
	lw-067	上の山 VII	D III-1 住居址	III 期以降	120	CL					
	lw-067	上の山 VII	E II-3 住居址	III 期以降	125	CL	●				
	lw-067	上の山 VII	E III-1 住居址	III 期以降	120	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	E III-2 住居址	IV 期以降構築	115	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	G III-1 住居址	III 期以降	130	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	G III-2 住居址	III 期以降	170	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	G III-3 住居址	III 期以降	170	CL	●				袖構築時に刀子埋置。主柱穴西壁に接する。
	lw-067	上の山 VII	H II-1 住居址	IV 期以降構築	145	CL					主柱穴2本？
	lw-067	上の山 VII	H III-2 住居址	III 期以降	140	CL					煙道急激に立ちあがる。主柱穴南壁(カマド側)に接する。焼土1基。
	lw-067	上の山 VII	I II-1 住居址	III 期以降	130	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	I II-3 住居址	III 期以降	20	C					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	I III-1 住居址	IV 期以降構築	115	CR					
	lw-067	上の山 VII	I III-2 住居址	IV 期構築・廃絶	140	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	J II-2 住居址	III 期以降	125	CL					
	lw-067	上の山 VII	J II-3 住居址	IV 期以降構築	135	CL					煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	J II-4 住居址	III 期以降	115	CL	●				
	lw-067	上の山 VII	J III-1 住居址	III 期以降	115	CL	●				煙道急激に立ちあがる。
	lw-067	上の山 VII	K II-1 住居址	III 期以降	120	CL					
	lw-067	上の山 VII	O III-2 住居址	IV 期以降構築	110	CL	●				
	lw-067	上の山 VII	O III-3 住居址	IV 期以降構築	180	CL					
	lw-067	上の山 VII	O IV-1 住居址	III 期以降	150						煙道石組。
	lw-067	上の山 VII	R III-1 住居址	III 期以降	130	CL					煙道急激に立ちあがる。
lw-068	扇畑 II	H II c6 住居址	III 期以降	200→190	CL→CR					新カマド煙道石組。	
lw-068	扇畑 II	H II j4 住居址	III 期以降	65	CL						
lw-069	扇畑 I	C I-1 住居址	III 期以降	130	CL						
lw-069	扇畑 I	C I-2 住居址	III 期以降	168	CL						
lw-069	扇畑 I	C I-3 住居址	IV 期以降構築	175	CL					煙道短い。主柱穴南西壁(カマド側)に寄る。	
lw-069	扇畑 I	D I-1 住居址	IV 期以降構築	140	CL					煙道石組。	
lw-069	扇畑 I	D III-1 住居址	III 期以降	155	CR					煙道石組。主柱穴南壁(カマド側)に寄る。	
lw-069	扇畑 I	E II-3 住居址	III 期以降	170	CL					煙道石組。	
lw-070	赤坂田 I	K III a3 住居址	III 期以降	50	CL					煙道短い。	
⑩	lw-023	川原田平	SI01	I 期	310	C					
	lw-023	川原田平	SI02	I 期	300	C					
	lw-025	親久保 II	A II-1 住居跡	IV 期	303	C					
	lw-025	親久保 II	B I-1 住居跡	IV 期	309	C					
	lw-025	親久保 II	C III-1 住居跡	IV 期構築・廃絶	307	C					
	lw-025	親久保 II	D III-1 住居跡	III 期以降	316	C					
	lw-026	小井田 V	SI01	I 期	315						
	lw-026	小井田 V	SI02	I 期	325	C					
	lw-027	蒔前	FD88 竪穴住居	I 期	320	CR					
	lw-028	一戸城跡	SI01 竪穴住居跡	I 期	320						
	lw-028	一戸城跡	SI04 竪穴住居跡	I 期	331	C					
	lw-028	一戸城跡	SI10 竪穴住居跡	I 期	325						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	lw-028	一戸城跡	SI12竪穴住居跡	I期	321	C						
	lw-028	一戸城跡	SI20竪穴住居跡	Ⅲ期以降	277	CR						
	lw-028	一戸城跡	SI01	V期以降	350	CR						
	lw-028	一戸城跡	SI08	I期	345	CR						
	lw-028	一戸城跡	SI21	I期	330	C						
	lw-029	野田Ⅱ	SI01	I期	240	C						
	lw-030	北館	2号竪穴住居	I期	145	C						
	lw-031	北館B	BD03竪穴住居	I期	330							
	lw-031	北館B	DI59竪穴住居	Ⅲ期以降	70	CR						
	lw-032	上野	II D-1竪穴住居跡	I期	305	C						
	lw-032	上野	II D-16竪穴住居跡	I期	300	C						
	lw-032	上野	II C-2竪穴住居跡	I期	175	CR						
	lw-032	上野	II D-8竪穴住居跡	Ⅲ期以降	330・230・150	？・CL・CR						
	lw-032	上野	BH89竪穴住居	IV期以降構築	70	CR						煙道石組。主柱穴東壁に接する(カマドの寄り関係)。平面横長。
	lw-032	上野	BH83竪穴住居	I期	290	C						
	lw-032	上野	CB80竪穴住居	I期	300	C						
	lw-032	上野	CF65竪穴住居	I期	320	C						
	lw-032	上野	CI71竪穴住居	I期	320	C						
	lw-032	上野	AF54竪穴住居	I期	345	C						
	lw-032	上野	AH42竪穴住居	I期	310	C						
	lw-032	上野	BA45竪穴住居	I期	305	C						
	lw-032	上野	BA48竪穴住居	IV期以降構築	80	CR						主柱穴南壁に接する(カマドの寄り関係)。平面横長。
	lw-032	上野	SI12	I期	30	C						
	lw-032	上野	F51竪穴住居	I期	0	C						
	lw-032	上野	BF89竪穴住居	I期	350	C						
	lw-032	上野	AH62竪穴住居	Ⅲ期以降	335	CL						
	lw-032	上野	BA09竪穴住居	I期	331	C						
	lw-032	上野	BD09竪穴住居	Ⅲ期以降	68	CR						
	lw-032	上野	BI59竪穴住居	I期	50	CR						
	lw-033	田中5	AI62竪穴住居	I期	320	CL						
	lw-034	田中4	AF62竪穴住居	I期	310	C						
	lw-036	田中	SI01	I期	295	C						
	lw-036	田中	SI02	I期	290	C						
	lw-036	田中	SI03	I期	305	C						
⑩	lw-036	田中	SI07	I期	295	C						
	lw-036	田中	SI10	I期	305	C						
	lw-036	田中	SI13	I期	305	C						
	lw-036	田中	SI15	I期	310	C						
	lw-036	田中	SI18	I期	305	C						
	lw-036	田中	SI20	I期	300	C						
	lw-036	田中	SI21	I期	315	C						
	lw-036	田中	SI22	I期	300	C						
	lw-036	田中	SI23	I期	310	C						
	lw-036	田中	SI121	IV期以前	60	CR						
	lw-036	田中	SI122	I期	300	C						
	lw-036	田中	SI101	Ⅲ期以降	55	CR						
	lw-036	田中	SI103	Ⅲ期以降	25→300	CR→C						
	lw-036	田中	SI107	Ⅲ期以降	305	CL						
	lw-036	田中	SI109	IV期以降構築	315	CR						
	lw-036	田中	SI111	Ⅲ期以降	310	C						
	lw-036	田中	SI113	Ⅲ期以降	25→305	C→CR						
	lw-036	田中	SI114	Ⅲ期以降	145	CR→C						
	lw-036	田中	SI115	IV期以降構築	310	CL						
	lw-036	田中	SI116	Ⅲ期以降	50・310→220	CR・C→CL						
	lw-036	田中	SI117	Ⅲ期以降	280	C						
	lw-036	田中	SI121	IV期以前	60	CR						
	lw-037	馬場平(旧馬場平2)	A5竪穴住居	I期	355	CR						
	lw-037	馬場平(旧馬場平2)	A6竪穴住居	IV期以降	135・310	CR・CR						
	lw-037	馬場平(旧馬場平2)	B1竪穴住居	I期	120	CR						
	lw-038	下地切	SI05	I期	300	C						
	lw-038	下地切	SI06	Ⅲ期以降	305・40→135	C・CR→CL						
	lw-038	下地切	SI11	Ⅲ期	340	C						
	lw-038	下地切	SI17	I期	330	C						柱穴無いが4か所の硬化範囲有。
	lw-039	御所野	115号竪穴住居	IV期以降構築	130	CR						
	lw-039	御所野	138号竪穴住居	Ⅲ期以降	100	CR						
	lw-039	御所野	146号竪穴住居	Ⅲ期以降	95	CR						主柱穴カマド壁に寄る。
	lw-039	御所野	158号竪穴住居	Ⅲ期以降	215・215→120	CL・CL→CR						
	lw-039	御所野	209号竪穴住居	IV期以降	200	CL						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
⑩	lw-039	御所野	92号竪穴住居	Ⅲ期以降	115	CL						
	lw-039	御所野	100号竪穴住居	Ⅲ期以降	190→170	CL→CL						
	lw-039	御所野	60号竪穴住居	I期	295	C						
	lw-041	大平	SI01	Ⅲ期以降	313	CR						
	lw-041	大平	SI02	V期以降	310	C						
	lw-041	大平	SI05	I期	292	CL						
	lw-041	大平	SI07	I期	290	C						
	lw-041	大平	SI08	Ⅲ期以降	343・91→100	CR・CL→L						
	lw-041	大平	SI09	Ⅲ期以降	305→30	CR→CL						
	lw-041	大平	SI11	I期	295	C						
	lw-041	大平	SI13	I期	330	C						
	lw-041	大平	SI15	V期	310→305	C→CL						
	lw-041	大平	SI22	V期	50	CR						
	lw-041	大平	SI23	Ⅳ期	330	C						
	lw-041	大平	SI38	V期	305→35	CR→CR						
	lw-041	大平	SI46	Ⅳ期	305	C				●		
	lw-041	大平	SI53	V期	40	CR						
	lw-041	大平	SI91	I期	295	C						
	lw-041	大平	SI92	Ⅲ期以降	355	CL						主柱穴西壁に寄る。カマド配置に関係。
	lw-041	大平	SI93	V期	165→342	CR→C						主柱穴旧カマド設置壁に寄る。
	lw-041	大平	SI95	Ⅲ期以降	90	CR						
	lw-041	大平	SI109	I期	300							
	lw-041	大平	SI113	Ⅱ期		R						
	lw-041	大平	SI183	I期	310	C						
	lw-041	大平	SI186	Ⅲ期以降	112	CR						主柱穴南壁に寄る。カマド配置に関係。
	lw-041	大平	SI201	I期	285	C						
	lw-041	大平	SI202	I期	285	C						
	lw-041	大平	SI213	I期	315	C						
	lw-041	大平	SI219	I期	280	C						
	lw-041	大平	SI239	I期	305	C						
lw-041	大平	SI241	I期	280	C							
lw-042	野里上	SI02	I期	267	C							
⑪	lw-001	門松	BⅡh6住居跡	I期	335	C						
	lw-001	門松	BⅠc5住居跡	I期	185→185	C→CL						
	lw-001	門松	BⅡe8住居跡	I期	260→95	C→CR						主柱穴初期カマド反対壁側に接する。
	lw-001	門松	BⅢf3住居跡	I期	0	CR						主柱穴西壁側に寄る(カマドの寄りと関係)。
	lw-001	門松	CⅡb6住居跡	I期	10→20	C→CR						主柱穴4本から6本へ。
	lw-001	門松	CⅡc8住居跡	I期	105	CR						
	lw-002	寺久保	第13号住居跡	I期	315	C						
	lw-002	寺久保	第14号住居跡	I期	285							
	lw-002	寺久保	第15号住居跡	I期	300	C						
	lw-003	上台	第1号竪穴住居跡	I期	310	C						
	lw-003	上台	第2号竪穴住居跡	I期	303	C		痕跡あり				
	lw-003	上台	第3号竪穴住居跡	Ⅱ期	307	C						
	lw-003	上台	第4号竪穴住居跡	I期	303	C						
	lw-003	上台	第5号竪穴住居跡	Ⅲ期	133	CR						平面長方形。
	lw-003	上台	第6号竪穴住居跡	I期	318	C						
	lw-003	上台	第7号竪穴住居跡	I期	308	C						
	lw-004	駒焼場	ⅡA-3住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅢA-13住より新	134	CR						新时期煙道短い。
	lw-004	駒焼場	ⅡA-4住居址	Ⅲ期以降	43	CL						
	lw-004	駒焼場	ⅡA-5住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅡA-4住より新	133・43	CR・CR						
	lw-004	駒焼場	ⅢA-1住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅢA-13住より新	41							
	lw-004	駒焼場	ⅢA-2住居址	I期	311	C						
	lw-004	駒焼場	ⅢA-3住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅢA-2住より新	150	CR						
	lw-004	駒焼場	ⅢA-4住居址	Ⅲ期以降	155	CL						
	lw-004	駒焼場	ⅢA-5住居址	Ⅲ期以降	334	CL						
lw-004	駒焼場	ⅢA-6住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅡA-102大溝より新	105	CR						カマドでなく炉の可能性あり。	
lw-004	駒焼場	ⅢA-8住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅡA-101大溝より新	129	CR							
lw-004	駒焼場	ⅢA-9住居址	Ⅳ期以降構築	109	CL							
lw-004	駒焼場	ⅢA-11住居址	Ⅲ期以降	135	CL						煙道短い。	
lw-004	駒焼場	ⅣA-2住居址	Ⅳ期以降構築 ※ⅣA-3住より新	194	CL?							

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	lw-004	駒焼場	IVA-3住居址	IV期以降	145	CR						主柱穴カマド壁側に寄る。おそらく煙道短い。
	lw-004	駒焼場	IVA-5住居址	IV期以降構築 ※ⅢA-19住より新	157	CR						主柱穴カマド壁側に寄る。
	lw-004	駒焼場	IVA-6住居址	IV期以降構築 ※IVA-5住より新	215	CR						煙道短い。
	lw-004	駒焼場	IVA-7住居址	IV期以降構築	40→40	CL→CL						新期煙道短い。
	lw-004	駒焼場	IVA-8a住居址	IV期以降	134	CR						主柱穴カマド壁側に寄る。おそらく煙道短い。
	lw-004	駒焼場	IVA-9住居址	I期	297	C						
	lw-004	駒焼場	IVA-12住居址	IV期以降構築 ※IVA-17住より古		CR?						主柱穴カマド壁側に寄る。
	lw-004	駒焼場	IVA-13住居址	Ⅲ期以降	151	CR						焼土1基。
	lw-004	駒焼場	IVA-14住居址	I期	300	C						
	lw-004	駒焼場	IVA-16住居址	Ⅲ期以降	129	CR						煙道短い。
	lw-004	駒焼場	IVA-17住居址	IV期以降構築 ※IVA-12住より新	144	CR						主柱穴カマド壁側に寄る。
	lw-004	駒焼場	IVA-18住居址	Ⅲ期以降	57	CR						
	lw-004	駒焼場	VA-3住居址	IV期以降構築	159	CR						図と文のカマド方向違う。
	lw-004	駒焼場(旧府金橋)	KI a6住居址	Ⅲ期以降	60	C						
	lw-004	駒焼場(旧府金橋)	KI c4住居址	I期	62	C						焼土1基。
	lw-004	駒焼場(旧府金橋)	JI i3住居址	Ⅲ期以降	130	CR						
	lw-004	駒焼場(旧府金橋)	KI f4住居址	Ⅲ期以降	335	CR						
	lw-004	駒焼場(旧府金橋)	KI h6住居址	Ⅲ期以降	45	CR						
	lw-005	馬場	BI -01住居址	I期	300	C						
	lw-005	馬場	CI -03住居址	I期	300	C						6本柱。
	lw-005	馬場	DI -01住居址	I期		C						6本柱。
	lw-005	馬場	DI -02住居址	I期	295	C						
	lw-005	馬場	DI -03住居址	I期	290	C						
	lw-005	馬場	EII -03住居址	I期	300	C						
	lw-006	荒田Ⅲ	1号竪穴住居跡	I期	305	C						
	lw-007	上田面	D02住居址	I期	310	C						
	lw-007	上田面	A03住居址	I期	300	C						
	lw-007	上田面	C03住居址	I期	324	C						
	lw-007	上田面	C06住居址	I期	309	C						煙道まで石組。6本柱、中央2本は浅い。
⑪	lw-007	上田面	D09住居址	I期	300→300	C・C						
	lw-007	上田面	B10住居址	I期	310	C						
	lw-007	上田面	C11住居址	I期	258	C						
	lw-007	上田面	D20住居址	I期	320	C						
	lw-007	上田面	A32住居址	I期	332	C						
	lw-007	上田面	E34住居址	I期	322	C						
	lw-007	上田面	B36住居址	I期	317	C						煙道なし→炉?
	lw-007	上田面	D39住居址	I期	337	C						
	lw-007	上田面	C41住居址	I期	338	C						焼土1基。
	lw-007	上田面	C50住居址	I期	302	C						
	lw-007	上田面	E06住居址	Ⅲ期以降	25	CR						
	lw-007	上田面	D37住居址	Ⅲ期	60	CR						短煙道か。
	lw-008	戸花B	2号址	I期	275	C						
	lw-009	戸花C	1号址	I期	295	C						
	lw-010	堀野	第一号住居址	I期	335	C						
	lw-010	堀野	第二号住居址	I期	335	C						
	lw-010	堀野	第三号住居址	I期	25	C						主柱穴8本。
	lw-010	堀野	第四号住居址	I期	340	C						
	lw-010	堀野	第五号住居址	I期	335	CR						
	lw-010	堀野	第六号住居址	I期	340	CR						
	lw-010	堀野	第七号住居址	I期	340	CR						
	lw-010	堀野	第八号住居址	I期	340	CR						
	lw-010	堀野	第九号住居址	I期	305	C						
	lw-010	堀野	第十一号住居址	I期	350	C						
	lw-011	長瀬A	Bb06住居址	Ⅲ期以降	290	C						
	lw-011	長瀬A	Ca09住居址	IV期以降構築	280→20	C→CL						
	lw-011	長瀬A	Cd12住居址	I期	290	C						
	lw-011	長瀬A	Db03住居址	I期	280	C						
	lw-011	長瀬A	De09住居址	I期	270	C						
	lw-012	長瀬B	Dc03住居址	I期	300	CR						
	lw-012	長瀬B	Dg56住居址	I期	295	CR						
	lw-012	長瀬B	Dd53住居址	I期	290	C						
	lw-012	長瀬B	Dg09住居址	I期	325	C						
	lw-012	長瀬B	Af59住居址	I期	300	C						主柱穴6本。
	lw-012	長瀬B	Bg50住居址	I期	310	C						煙道石組。焼土1基。
	lw-012	長瀬B	Cb59住居址	I期	320	C						
	lw-012	長瀬B	Cg50住居址	I期	300	C						主柱穴カマド反対壁側に寄る。
	lw-012	長瀬B	Dj03住居址	I期	300	C						主柱穴6本。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期 判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	lw-012	長瀬B	Ea12住居址	I期	290	C						主柱穴6本。
	lw-012	長瀬B	Ei50住居址	II期	295	C						
	lw-012	長瀬B	Dh03住居址	III期以降	302	C						
	lw-012	長瀬B	Cb53-1住居址	III期以降	80	CR						煙道石組。
	lw-012	長瀬B	Cj06住居址	III期以降	20	CR						
	lw-012	長瀬B	Da62住居址	III期以降	190→350	CR→CL						煙道石組。
	lw-012	長瀬B	Dc09住居址	IV期以降構築	300→110	C→CL						煙道石組。
	lw-012	長瀬B	Di06住居址	III期以降	305→315	C→L						煙道石組。
	lw-012	長瀬B	Ed09住居址	IV期以降構築	330	C						
	lw-013	長瀬C	03B住居址	I期	309	C						
	lw-013	長瀬C	03D住居址	I期	318	C						
	lw-013	長瀬C	07B住居址	I期	337	C						主柱穴6本+カマド反対壁1。
	lw-013	長瀬C	10A住居址	I期	307	C						
	lw-013	長瀬C	11C住居址	I期	303	C						住居外柱穴4本。
	lw-013	長瀬C	19A住居址	I期	316	C						
	lw-013	長瀬C	26B住居址	I期	315	C						
	lw-013	長瀬C	30B住居址	I期	320	C						
	lw-013	長瀬C	30F住居址	I期	310	C						
	lw-013	長瀬C	33C住居址	I期	303	C						
	lw-013	長瀬C	34B住居址	I期	316	C						
	lw-013	長瀬C	34D住居址	I期	321	C						
	lw-013	長瀬C	47F住居址	I期	304	C						
	lw-013	長瀬C	47H住居址	I期	310	C						
	lw-013	長瀬C	50G住居址	I期	320	C						
	lw-013	長瀬C	A-2住居址	I期	290	C						
	lw-013	長瀬C	A-3住居址	I期	300	C						
	lw-013	長瀬C	B-1住居址	I期	297	C						主柱穴4本+カマド反対壁1。
	lw-014	長瀬D	B03住居址	I期	316	C						煙道石組。
	lw-014	長瀬D	D03住居址	I期	308	C						主柱穴6本。
	lw-014	長瀬D	B08住居址	I期	310	C						
	lw-014	長瀬D	C14住居址	I期	317	C						
	lw-011 ~014	長瀬	01竪穴住居	I期	275	C						
	lw-015	荒谷A	Ja53竪穴住居址	III期以降	305	C						
	lw-016	米沢	CIV-01住居址	I期	330	C						
	lw-016	米沢	第8号住居跡	I期	270	C						
	lw-016	米沢	第9号住居跡	I期	320	C						
	lw-016	米沢	第10号住居跡	I期	300	C						
	lw-016	米沢	第11号住居跡	I期	270	C						主柱穴6本。
	lw-016	米沢	第13号住居跡	I期	320	C						
	lw-016	米沢	第15号住居跡	I期	285	C						
	lw-016	米沢	第19号住居跡	I期	65	C						
	lw-016	米沢	第20号住居跡	III期以降	305							
	lw-016	米沢	第21号住居跡	III期以降	20	CR						
	lw-016	米沢	第22号住居跡	III期以降	15	C						
	lw-016	米沢	第24号住居跡	III期以降	90	R						
	lw-018	中曽根	3号址	I期	282	C						
	lw-018	中曽根	1号住居址	II期	320	CR						
	lw-018	中曽根	2号住居址	II期	40	CR						
	lw-018	中曽根	4号住居址	I期	305	C						
	lw-018	中曽根	5号住居址	II期	320	CR						平面横長。
	lw-018	中曽根	6号住居址	II期	325	C						
	lw-019	中曽根II	1号址	I期	306	CR						
	lw-019	中曽根II	2号址	I期	18	CR						
	lw-019	中曽根II	3号址	I期	277	C						
	lw-019	中曽根II	5号址	I期	331	C						
	lw-019	中曽根II	8号址	I期	306	C						
	lw-019	中曽根II	9号址	I期	284	C						
	lw-019	中曽根II	25号址	I期	268	C						
	lw-019	中曽根II	26号址	I期	269	C						
	lw-019	中曽根II	29号址	I期	302	C						
	lw-019	中曽根II	41号址	I期	302	C						
	lw-019	中曽根II	44号址	I期	295	C						
	lw-019	中曽根II	50号址	I期	300	C						
	lw-019	中曽根II	53号址	I期	321	C						
	lw-019	中曽根II	56号址	I期	283	C						
	lw-019	中曽根II	58号址	I期	303	C						
	lw-019	中曽根II	59号址	I期	285	C						
	lw-019	中曽根II	60号址	I期	303	C						
	lw-019	中曽根II	61号址	I期	296	C						
	lw-019	中曽根II	64号址	I期	278							主柱穴6本、壁柱穴。
	lw-019	中曽根II	75号址	I期	298	C						
	lw-019	中曽根II	77号址	I期	293	C						主柱穴6本。
	lw-019	中曽根II	82号址	I期	268	C						
	lw-019	中曽根II	83号址	I期	286	CR						

⑪

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
⑪	Iw-019	中曽根Ⅱ	84号址	I期	269	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	85号址	I期	260	CR						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	89号址	I期	266	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	92号址	I期	277	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	104号址	I期	287	CR						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	105号址	I期	266	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	130号址	I期	300	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	137号址	I期	272	CR						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	145号址	I期	279	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	146号址	I期	299	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	147号址	I期	292	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	166号址	I期	289	CR						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	167号址	I期	310	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	171号址	I期	286	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	173号址	I期	285	C						棚状施設四方。
	Iw-019	中曽根Ⅱ	190号址	I期	292	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	222号址	I期	280	C						
	Iw-019	中曽根Ⅱ	248号址	I期	312	C						
	Iw-021	火行塚	D22住居址	I期	283	C						
	Iw-021	火行塚	E14住居址	I期	300	C						
	Iw-021	火行塚	F23住居址	I期	297	C						
Iw-021	火行塚	I13住居址	I期	294	C						カマド2個掛け。	
Iw-021	火行塚	I26住居址	I期	272	C							
⑫	Ao-001	泉山	第5号住居跡	I期	135	CL						
	Ao-001	泉山	第9号住居跡	I期	130	R						
	Ao-002	沖中	SI-03	I期	330	C						
	Ao-002	沖中	SI-04	I期	330	C						
	Ao-002	沖中	SI-05	I期	334	C						
	Ao-002	沖中	SI-07	I期	334	C						
	Ao-002	沖中	SI-08	I期	345	C						
	Ao-002	沖中	SI-09	I期	332	C						
	Ao-002	沖中	SI-13	I期	339	C						
	Ao-002	沖中	SI-01	Ⅱ期	136	CR						焼土。
	Ao-002	沖中	SI-02	I期	139	R						
	Ao-002	沖中	SI-06	I期	151	CR						
	Ao-002	沖中	SI-10	I期	152	CR						
	Ao-002	沖中	SI-14	I期	143	CR						
	Ao-003	山屋敷平	第1号竪穴住居跡	I期	306→306	CL→C						芯材に板状粘土。
	Ao-003	山屋敷平	第2号竪穴住居跡	I期	320	C						
Ao-003	山屋敷平	第3号竪穴住居跡	I期	324	C							
Ao-003	山屋敷平	第4号竪穴住居跡	I期	310	C							
Ao-004	館向	第3号竪穴住居跡	I期	35	CR?							
Ao-006	西久根	第1号住居跡	I期	320	L?							
⑬	Iw-072	臼角子久保Ⅴ	2号住居	Ⅲ～Ⅳ期	310							
	Iw-073	臼角子久保Ⅵ	ⅣA-1住居跡	Ⅲ～Ⅳ期	335	C						壁柱穴は杭状。
	Iw-073	臼角子久保Ⅵ	ⅣA-2住居跡	Ⅲ～Ⅳ期	75	CR						
	Iw-073	臼角子久保Ⅵ	2号住居	Ⅲ期以降	320							
	Iw-073	臼角子久保Ⅵ	3号住居	Ⅲ期以降	295	CL						
	Iw-074	君成田Ⅳ	J51住居址	I期	320	C						平面長方形。
	Iw-074	君成田Ⅳ	I57住居址	I期	310	C						
	Iw-075	駒板	ⅡG46住居址	I期	320	C						平面長方形。
	Iw-075	駒板	ⅡI44-1住居址	I期	307	C						
	Iw-075	駒板	ⅢB54住居址	I期	335	C						
	Iw-075	駒板	ⅢC53住居址	I期	322	C						
	Iw-075	駒板	ⅣB36住居址	I期	310	C						
	Iw-075	駒板	ⅣD34住居址	I期	311	C						
	Iw-075	駒板	ⅣD39住居址	I期	288	C						
	Iw-075	駒板	ⅣE37住居址	I期	312	C						
	Iw-076	丸木橋	第2号住居跡	I期	330	C						
	Iw-076	丸木橋	第3号住居跡	I期	330	C						
	Iw-076	丸木橋	第5号住居跡	I期	345	C						
	Iw-076	丸木橋	第6号住居跡	I期	0	C						
	Iw-076	丸木橋	第10号住居跡	I期	0	C						主柱穴8本、間仕切り。
	Iw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	CⅡ-5住居址	Ⅳ期以降構築	190	CR						
Iw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅠ-1住居址	Ⅲ期以降	10	C							
Iw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅡ-2住居址	Ⅱ期	90	L							
Iw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	DⅡ-3住居址	Ⅲ期以降	90	CR						主柱穴南壁側に接する(カマドの寄りと関係)。	
Iw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	EⅠ-1住居址	Ⅲ期	115	CR						主柱穴カマド壁側に寄る。	
Iw-078	江刺家Ⅰ(旧江刺家)	FⅡ-1住居址	Ⅲ期以降	325	C						主柱穴カマド反対壁側に寄る。	

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	F II-2住居址	Ⅲ期以降	55	CL					煙道短い。主柱穴カマド壁側に寄る。
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	H II-1住居址	I 期	340	C					主柱穴カマド反対壁側に寄る。
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	H II-4住居址	Ⅲ期以降	70	CR					煙道短い。主柱穴カマド壁側に寄る。
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	I II-1住居址	Ⅲ期以降	335	C					主柱穴カマド壁側に寄る。
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	I II-2住居址	Ⅲ期以降	330→335、65	CL→C、CR					主柱穴南西壁に接する。
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	I II-4住居址	Ⅲ期以降	345	CL					主柱穴カマド反対壁側に寄る。
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	K II-3住居址	Ⅲ期以降	345						
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	K II-4住居址	Ⅲ期以降	0						
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	K II-5住居址	Ⅲ期以降	5・170	?・CR					
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	K III-1住居址	Ⅲ期以降	270→355	CL→CL					
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	K III-2住居址	Ⅲ期以降	260	CL					
	Iw-078	江刺家 I (旧 江刺家)	K III-3住居址	Ⅲ期以降	0→185	C→CR					
	Iw-079	滝谷Ⅲ	BE19住居址	Ⅳ期以降構築	340	C					
	Iw-080	黒山の昔穴	11号竪穴住居	Ⅳ期以降構築	95	CL					
	Iw-080	黒山の昔穴	39号竪穴住居	Ⅳ期以降構築	5	CR					
	Iw-081	南田 I	2号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	335	C					
	Iw-082	川向Ⅲ	G-24住居址	Ⅲ期以降	277	C					
	Iw-082	川向Ⅲ	J-40住居址	Ⅲ期以降	278	C					
	Iw-083	水吉Ⅵ	古代第1号住居跡	I 期	297	C					
	Iw-083	水吉Ⅵ	古代第2号住居跡	I 期	314	C					
	Iw-083	水吉Ⅵ	古代第3号住居跡	I 期	293	C					
	Iw-083	水吉Ⅵ	古代第4号住居跡	I 期	288	C					
	Iw-083	水吉Ⅵ	古代第5号住居跡	I 期	297	C					
	Iw-083	水吉Ⅵ	古代第7号住居跡	I 期	299	C					
	Iw-085	大日向Ⅱ	I II-2住居跡	I 期	310						
	Iw-085	大日向Ⅱ	J II-1住居跡	Ⅲ期	315						煙道短い。
	Iw-085	大日向Ⅱ	SA02住居跡	I 期	10	C					煙道短い。
	Iw-085	大日向Ⅱ	HIV04住居跡	Ⅲ期以降	125	CL					平面縦長。
	Iw-085	大日向Ⅱ	QⅢ01住居跡	Ⅲ期以降	130	CL					焼土。
	Iw-085	大日向Ⅱ	R II 06住居跡	Ⅲ期以降	135→135	CL→CL					
	Iw-085	大日向Ⅱ	SIV01住居跡	Ⅵ期以降構築	120	CL					馬蹄形焼土に囲まれたピット。
	Iw-086	吠屋敷 I a	B II-1住居址	Ⅲ期以降	115	CL					煙道短い。
	Iw-086	吠屋敷 I a	B III-9住居址	Ⅲ期以降	50	CL					煙道持たない。主柱穴カマド壁側に寄る?。焼土。
	Iw-088	吠屋敷Ⅱ	O-15住居址	Ⅱ期	355	CR					
	Iw-089	宮沢	RA04竪穴住居跡	Ⅲ期以降	334	C					
	Iw-089	宮沢	1号竪穴住居	Ⅳ期以降構築	135	CR					
	Iw-089	宮沢	2号竪穴住居	Ⅳ期以降	315	C					
	Ao-026	砂子	第2号竪穴住居跡	Ⅲ期	43	CR					
	Ao-026	砂子	第3号竪穴住居跡	Ⅵ期以降構築	233	C					焼土3基。
	Ao-026	砂子	第5号竪穴住居跡	Ⅵ期以降構築	128	CL					
	Ao-026	砂子	第9号竪穴住居跡	V 期以降	215	C					焼土。
	Ao-026	砂子	第12号竪穴住居跡	V 期以降	325	C					焼土2基。南東壁東端に出入口。
	Ao-026	砂子	第16号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	305	C					
	Ao-026	砂子	第17号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	317→46→218	C・CR→CR					
	Ao-026	砂子	第19号竪穴住居跡	V 期以降	49	CR					
	Ao-026	砂子	第20号竪穴住居跡	Ⅵ期以降	45・44・321→219	C・CR・C→C					焼土。
	Ao-026	砂子	第24号竪穴住居跡	V 期以降	126→207	CR→CL					
	Ao-026	砂子	第25号竪穴住居跡	Ⅵ期以降構築	301	CR					
	Ao-026	砂子	第28号竪穴住居跡	Ⅵ期以降	276→179	CL→CR					
	Ao-026	砂子	第31号竪穴住居跡	V 期以降	227	CL					焼土。
	Ao-026	砂子	第32号竪穴住居跡	V 期以降	133	C					
	Ao-026	砂子	第35号竪穴住居跡	V 期以降	39・123→207	CR・CL→C					
	Ao-026	砂子	第36号竪穴住居跡	V 期以降	147	CL					
	Ao-026	砂子	第37号竪穴住居跡	V 期以降	141	CR					北西壁北端に張り出し。
	Ao-026	砂子	第38号竪穴住居跡	V 期以降	160	C					
	Ao-026	砂子	第43号竪穴住居跡	V 期以降	130	CR					
	Ao-026	砂子	第44A号竪穴住居跡	Ⅵ期以降構築 ※44B住より新	136→43→312	C→C→C					煙道短い。主柱穴2本。
	Ao-026	砂子	第44B号竪穴住居跡	Ⅵ期以降※44A住より古	126	CL					主柱穴2本。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
⑬	Ao-026	砂子	第45号竪穴住居跡	VI期以降	204→291	C→C					
	Ao-026	砂子	第46号竪穴住居跡	V期以降	71	C					
	Iw-090	高屋敷	AC10竪穴住居	II期	159						
⑮	Iw-090	高屋敷	AA11竪穴住居	IV期以降構築	176	CL					焼土3基。
	Iw-091	中田	2号竪穴住居跡	I期	312	C					焼土。
	Iw-092	明神	2号住居跡	IV期	70	CR					
	Iw-092	明神	3号住居跡	III期	295	C					
	Iw-092	明神	10号住居跡	IV期	300	C					主柱穴カマド反対壁へ寄る。
	Iw-092	明神	11号住居跡	IV期	320	C					主柱穴カマド反対壁へ接する。
	Iw-093	源道	G15住居跡	I期	351	C					
	Iw-093	源道	I19住居跡	I期	20	CL					
	Iw-093	源道	L25住居跡	I期	1	CR					主柱穴カマド壁際に2。
	Iw-093	源道	I45住居跡	I期	353	C					
	Iw-093	源道	N7住居跡	I期	356	C					
	Iw-093	源道	J9住居跡	I期	354	C					
	Iw-093	源道	M10住居跡	I期	346	C					
	Iw-093	源道	Q11住居跡	I期	358	C					
	Iw-093	源道	N13-2住居跡	VI期以降構築	60	CR					主柱穴南東壁に寄る(カマドの寄りと関係)。
	Iw-093	源道	N22住居跡	I期	10	C					
	Iw-094	鼻館跡	C3-y住居跡	IV期以降	80	CR					
	Iw-094	鼻館跡	D4-c住居跡	I期	352	C					
	Iw-094	鼻館跡	E4-d住居跡	I期	351	C					
	Iw-094	鼻館跡	E4-g住居跡	I期	332	C					
	Iw-094	鼻館跡	E4-l住居跡	VI期以降	140→59→59	CL→CR→CL					
	Iw-094	鼻館跡	G3-m住居跡	I期	322	C					主柱穴6本。
	Iw-096	中長内 I (旧 中長内)	RA559	I期	334	C					
	Iw-096	中長内 I (旧 中長内)	RA560	I期	144	CR					平面横長。
	Iw-096	中長内 I (旧 中長内)	RA562	I期	51	C					
	Iw-097	平沢 I	DIII-1住居跡	III期以降	47	C					
	Iw-097	平沢 I	DIII-3住居跡	I期	319	C					
	Iw-097	平沢 I	DIII-4住居跡	I期	319	C					
	Iw-097	平沢 I	DIII-6住居跡	III期	295	CL					
	Iw-097	平沢 I	FIII-3住居跡	III期	322	C					
	Iw-097	平沢 I	FIII-4住居跡	V期以降	323	CR					
	Iw-097	平沢 I	GII-1住	I期	344	C					
	Iw-097	平沢 I	H I -1住居跡	II期	320	CR					
Iw-097	平沢 I	H II -1住居跡	V期	329	C						
Iw-097	平沢 I	第18住居跡	I期	315	C					煙道短い?	
Iw-097	平沢 I	RA504	II期	73	C						
Iw-097	平沢 I	RA507	I期	329	C						
Iw-097	平沢 I	RA513	I期	337	C						
Iw-097	平沢 I	RA521	V期以降	310	C						
Iw-097	平沢 I	RA522	IV期以前	11	CR						
⑯	Ao-008	境沢頭	SI9竪穴住居跡	I期	60	C					北東壁北半に出入り口。焼土。
	Ao-011	坂中	第1号住居跡	I期	36	CR					焼土。
	Ao-012	市子林	SI4竪穴住居跡	II期	325	C					
	Ao-012	市子林	SI53竪穴住居跡	III期以降	75	CR					
	Ao-012	市子林	SI58竪穴住居跡	I期	290	C					
	Ao-012	市子林	SI60竪穴住居跡	I期	110	C					
	Ao-012	市子林	SI61竪穴住居跡	I期	10	C					
	Ao-012	市子林	SI68竪穴住居跡	I期	9	CR					
	Ao-013	新田	第5号竪穴住居跡	I期	325	C					
	Ao-013	新田	第8号竪穴住居跡	I期	330	C					
	Ao-014	潟野	第1号竪穴住居跡	I期	345	C					土葺き屋根の可能性指摘。
	Ao-014	潟野	第2号竪穴住居跡	I期	340	C					
	Ao-014	潟野	第3号竪穴住居跡	I期	316	C					
	Ao-014	潟野	第5号竪穴住居跡	I期	319	C					
	Ao-014	潟野	第17号竪穴住居跡	IV期以前	348	C					
	Ao-014	潟野	第18号竪穴住居跡	IV期以前	302	C					南東壁中央にスロープ(出入り口)。
	Ao-014	潟野	第19号竪穴住居跡	IV期以前	309	C					
	Ao-014	潟野	第20号竪穴住居跡	IV期以前	320	C					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第64号竪穴住居跡	I期	63	CR					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第70号住居	I期	342	C					焼土。
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第80号住居	I期	340	C					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第83号住居	I期	340	C					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第87号住居	II期	72→349	CR→C					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第97号住居	IV期以前	334	C					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第104号住居	V期以降	21	CR					
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第106号住居	IV期以前	359	C					

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第107号住居	I期	64	C						
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第109号住居	I期	332	C						
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第114号住居	I期	356	CR						
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第117号住居	I期	46	C						
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第118号住居	I期	334	C						
	Ao-015	牛ヶ沢(4)	第121号住居	Ⅲ～Ⅳ期	316	C						
	Ao-016	田面木	SI12住居跡	I期	325	C						
	Ao-016	田面木	SI24住居跡	I期	336	C						
	Ao-017	根城跡東構地区	SI94竪穴住居跡	I期	74→339	CR→C						
	Ao-017	根城跡東構地区	SI97竪穴住居跡	I期	331	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-017	根城跡東構地区	SI126竪穴住居跡	I期	339	C						
	Ao-017	根城跡岡前館第19地点	SI302竪穴住居跡	I期	327	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-017	根城跡岡前館第24地点	SI322住居跡	I期	324	C						
	Ao-017	根城跡岡前館第31地点	SI6竪穴住居跡	Ⅱ期	333	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第2号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	347	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第12号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	56	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第15号竪穴住居跡	Ⅳ期	42	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第17号竪穴住居跡	Ⅳ期	325	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第22号竪穴住居跡	I期	327	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第23号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	78→337	C→C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第24号竪穴住居跡	I期	340	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第25号竪穴住居跡	V期以降	339	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第44号竪穴住居跡	Ⅲ～Ⅳ期	296	CL						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第45号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	63							
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第46号竪穴住居跡	Ⅳ期	61	L						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第54号竪穴住居跡	V期以降	20	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第62号竪穴住居跡	V期以降	91	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第63号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	290→26・115	C→CR・R						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第65号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	323	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第69号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	56							
	Ao-018	岩ノ沢平	A区第72号竪穴住居跡	V期以前※第71号住より新	345							
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第1号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	330→337	CR→C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第2号竪穴住居跡	Ⅵ期以降	4	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第3号竪穴住居跡	V期以降	326	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第4号竪穴住居跡	Ⅳ期	338	C						カマド意図的に破壊。
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第11号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	67	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第13号竪穴住居跡	Ⅳ期	110	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第19号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	340	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第23号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	325	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第40号竪穴住居跡	Ⅳ期	353→349→352	C→C→C						南壁東端にスロープ状の出入り口。
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第41号竪穴住居跡	Ⅱ期	329	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第44号竪穴住居跡	Ⅳ期	330	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第45号竪穴住居跡	Ⅳ期	33	CR						芯材に羽口も。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第46号竪穴住居跡	I期	325	C						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第48号竪穴住居跡	I期	105	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第49号竪穴住居跡	Ⅲ～Ⅳ期	109→356	CR→C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第52号竪穴住居跡	Ⅳ期	111	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第54号竪穴住居跡	Ⅳ期	336・64	C・CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第55号竪穴住居跡	Ⅳ期	69	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第56号竪穴住居跡	I期	72	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第57号竪穴住居跡	Ⅱ期	325	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第63号竪穴住居跡	Ⅲ期	359	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第66号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	74	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第68号竪穴住居跡	I期	344	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第69号竪穴住居跡	Ⅳ期	349→150	C→CR						周期の主柱穴はカマド反対側の壁際に寄る。
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第70号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	72	C				●?		カマド設置壁と反対側に掘立柱存在。
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第71号竪穴住居跡	I期	336	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第75号竪穴住居跡	V期以降	354	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	B区第77号竪穴住居跡	Ⅳ期	332	CR						鍛冶炉1基。
	Ao-018	岩ノ沢平	第1号竪穴住居跡	Ⅵ期以降	59							
	Ao-018	岩ノ沢平	第8号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	339	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	第9号竪穴住居跡	Ⅵ期以降構築	331	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	第12号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	35	CR						
	Ao-018	岩ノ沢平	第1号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	325・40・45→130	C・C・CR→CL						
	Ao-018	岩ノ沢平	第2号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	330	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	第5号竪穴住居跡	V期以降	175							
	Ao-018	岩ノ沢平	第6号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	335	2						カマド右側の柱穴が壁際に寄る。
	Ao-018	岩ノ沢平	第10号竪穴住居跡	Ⅱ期	307	C						
	Ao-018	岩ノ沢平	第11号竪穴住居跡	Ⅱ期	314	C						
	Ao-020	上野平(3)	第3号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	340	C						
	Ao-021	根岸山添	第1号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	300							
	Ao-022	楯引	第22号竪穴住居跡	Ⅱ期	300	C						
	Ao-022	楯引	第31号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	340	C						
	Ao-022	楯引	第32号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	10	CR						
	Ao-022	楯引	第33号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	315	C						袖破壊。粘土持ちさる?
	Ao-022	楯引	第35号竪穴住居跡	I期	345	C						カマドと反対側の主柱穴壁際に寄る。
	Ao-022	楯引	第39号竪穴住居跡	I期	10	C						
	Ao-022	楯引	第45号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	350	C						
	Ao-022	楯引	第46号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	17	CR						
	Ao-022	楯引	第47号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	321	C						
	Ao-022	楯引	第48号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	185→92	CR→CR						
	Ao-022	楯引	第53号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	47	CR						
	Ao-023	風張(1)	第17号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	324	C						
	Ao-023	風張(1)	第48号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	328→45	CR→C						
	Ao-023	風張(1)	第155号竪穴住居跡	Ⅳ期以前	87	CR						
	Ao-025	黒坂	第5号竪穴住居跡	Ⅱ期	344	C						
	Ao-025	黒坂	第33号竪穴住居跡	Ⅱ期	35→328	CR→C						
	Ao-027	田向	1S16	Ⅲ期以降	320	CR						
	Ao-027	田向	1S17	Ⅲ期以降	320	C						
	Ao-029	松館	第2号竪穴住居跡	V期以降	235	C						北東壁中央に張り出し(出入り口)。
	Ao-030	大仏館	S14竪穴住居跡	V期以降	52	CR						南西壁西端にスロープの出入り口。
	Ao-030	大仏館	S113竪穴住居跡	V期以降	78	CR						
	Ao-030	大仏館	S118竪穴住居跡	V期以降	349	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-031	林ノ前	SI-21	Ⅵ期以降構築 ※S126より新	90	L						
	Ao-031	林ノ前	SI-26	Ⅵ期以降構築 ※S121より古	110	CR						焼土。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
⑪	Ao-033	大和田	第1号竪穴住居跡	I期	166	C						腰板検出。
	Ao-033	大和田	第2号竪穴住居跡	I期	358	C						焼土。
	Ao-033	大和田	第3号竪穴住居跡	I期	349	C						腰板検出。
	Ao-033	大和田	第4号竪穴住居跡	I期	351	C						
	Ao-034	六日町	第2号竪穴住居跡	II期	340							
	Ao-034	六日町	第3号竪穴住居跡	I期	345							
	Ao-034	六日町	第5号竪穴住居跡	II期	330							
	Ao-035	埤毛沢(1)	第1号竪穴住居跡	I期	331	C						
	Ao-035	埤毛沢(1)	第2号竪穴住居跡	I期	346	C						焼土。
	Ao-036	埤毛沢(3)	第1号竪穴住居跡	I期	359	C						
	Ao-037	立蛇(1)	第2号竪穴住居跡	I期	340							
	Ao-038	向山(6)	第40号竪穴住居跡	I期	350	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第3号住居跡	I期	335	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第9号住居跡	I期	355	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第14号住居跡	I期	0・85	C・CR						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-039	ふくべ(3)	第19号住居跡	II期	350	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第24号住居跡	I期	330	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第28号住居跡	I期	355・165	C・CR						
	Ao-039	ふくべ(3)	第30号住居跡	I期	345	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第31号住居跡	I期	330	C						焼土。
	Ao-039	ふくべ(3)	第35号住居跡	I期	330	CR						
	Ao-039	ふくべ(3)	第37号住居跡	I期	325	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第42号住居跡	I期	335	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第43号住居跡	I期	60	CL						
	Ao-039	ふくべ(3)	第44号住居跡	I期	345	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第45号住居跡	I期	335	C						
	Ao-039	ふくべ(3)	第5号竪穴住居跡	II期	347→347	C→C						
	Ao-040	ふくべ(4)	第2号住居跡	III～IV期	330	C						
	Ao-040	ふくべ(4)	第3号住居跡	II期	325	C						
	Ao-041	中野平	第1号竪穴住居跡	I期	88	C						
	Ao-041	中野平	竪穴式住居跡	I期	30	隅						2本柱。
	Ao-041	中野平	第9号竪穴住居跡	I期	24→160	C→CR						
	Ao-041	中野平	第10号竪穴住居跡	I期	339	C						芯材に羽口破片。
	Ao-041	中野平	第17号竪穴住居跡	II期	339	CR						袖構築材にTo-a。
	Ao-041	中野平	第20号竪穴住居跡	I期	324	CL						
	Ao-041	中野平	第31号竪穴住居跡	I期	335	CR						
	Ao-041	中野平	第35号竪穴住居跡	I期	335→325	CR・C						
	Ao-041	中野平	A・B・C区第10号竪穴住居	II期	325	C						南西壁中央に出入り口。
	Ao-041	中野平	A・B・C区第14号竪穴住居	I期	351	C						
	Ao-041	中野平	E・F区第1号竪穴住居	I期	5・5・20→5	C・CR・R→CR						
	Ao-041	中野平	第1号竪穴式住居跡	II期	357	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-041	中野平	第2号竪穴式住居跡	I期	346→75	C→C						
	Ao-041	中野平	第13号竪穴式住居跡	II期	345	C						
	Ao-041	中野平	第6号住居跡	I期	334	CR					●	カマドと反対側に掘立。
	Ao-041	中野平	第8号住居跡	I期	352	C						
Ao-041	中野平	第16号住居跡	I期	5→5	CR→C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。	
Ao-041	中野平	第23号住居跡	I期	10	C							
Ao-041	中野平	第31号住居跡	I期	345								
Ao-041	中野平	第42A号住居跡	I期	347	C							
Ao-041	中野平	第45号住居跡	III期以降	358	C							
Ao-041	中野平	第49号住居跡	I期	16	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。	
Ao-041	中野平	第50号住居跡	I期	17	C							
Ao-042	長谷	第1号竪穴住居跡	IV期以前	355	C							
Ao-042	長谷	第3号竪穴住居跡	IV期以前	329	C→C							
Ao-042	長谷	第8号竪穴住居跡	IV期以前	326	C							
Ao-044	赤平(1)	第1号竪穴住居跡	I期	312	C							
Ao-044	赤平(1)	第2号竪穴住居跡	I期	316	C							
Ao-046	平畑(3)	3号竪穴住居跡	I期	20	C				●			
Ao-047	太田野(2)	第1号竪穴住居跡	III期以前	83→88・25	CL→CR・隅							
Ao-047	太田野(2)	第2a号竪穴住居跡	III期以前	276	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。東壁南端に出入り口。	
Ao-047	太田野(2)	第3号竪穴住居跡	I期	19・118	CR・CR							
Ao-047	太田野(2)	第5号竪穴住居跡	I期	48→318	CR→C							
Ao-047	太田野(2)	第6号竪穴住居跡	I期	39→305	CR→C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。	
Ao-047	太田野(2)	第7号竪穴住居跡	I期	27	C							
Ao-047	太田野(2)	第8号竪穴住居跡	I期	30	CR							
Ao-047	太田野(2)	第9号竪穴住居跡	III期以前	49	CR							

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	独立柱礎物		
	Ao-047	太田野(2)	第10号竪穴住居跡	I期	311	C						
	Ao-047	太田野(2)	第11号竪穴住居跡	I期	314・137	C・CR						
	Ao-047	太田野(2)	第12号竪穴住居跡	III期以前	4	CR						
	Ao-048	七戸城跡北東出丸矢館跡	第2号竪穴住居址	III期以降	130	CL						
	Ao-048	七戸城跡北館	第42号竪穴住居跡	I期	150	CR						
	Ao-048	七戸城跡北館	第43号竪穴住居跡	I期	110							
	Ao-048	七戸城跡北館	第61号竪穴住居跡	I期	30							
	Ao-049	大池館	第1号竪穴住居跡	I期	331	C						
	Ao-049	大池館	第2号竪穴住居跡	IV期以降構築	168	CR						
	Ao-049	大池館	第3号竪穴住居跡	IV期以降構築	161	CR						焼土5基。
	Ao-049	大池館	第4号竪穴住居跡	I期	329	C						
	Ao-049	大池館	第6号竪穴住居跡	I期	349	C						
	Ao-049	大池館	第8号住居跡	III期以降	65	CL						炉。
	Ao-049	大池館	第11号住居跡	III期以降	71	CL						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-049	大池館	第14号住居跡	IV期以降構築	76	CL						カマド側主柱穴壁際に寄る。焼土3基。
	Ao-050	倉越(2)	第1号竪穴住居跡	IV期以降	179	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第2号竪穴住居跡	III期以降	179	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第3号竪穴住居跡	III期以降	149	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第5号竪穴住居跡	IV期以降	129→142→142	CL→CR→CR						焼土。
	Ao-050	倉越(2)	第6号竪穴住居跡	IV期以降	186	R						
	Ao-050	倉越(2)	第7号竪穴住居跡	VI期以降	150	R						
	Ao-050	倉越(2)	第8号竪穴住居跡	III期以降	149	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第15号竪穴住居跡	III期以降	190	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第16号竪穴住居跡	III期以降	161							
	Ao-050	倉越(2)	第9号住居跡	IV期以降	155→155	CR→CL						
	Ao-050	倉越(2)	第10号住居跡	IV期以降構築	161	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第18号住居跡	IV期以降構築	151	CR					●	
	Ao-050	倉越(2)	第19号住居跡	III期以降	155	CR					●	
	Ao-050	倉越(2)	第20号住居跡	III期以降	160						●	
	Ao-050	倉越(2)	第21号住居跡	III期以降	35・130	CR・CR					●	
	Ao-050	倉越(2)	第23号住居跡	V期以降	154	CR					●	
	Ao-050	倉越(2)	第24号住居跡	III期以降	160	CR?					●	
	Ao-050	倉越(2)	第25号住居跡	III期以降	155	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第27号住居跡	I期	345	C						
	Ao-050	倉越(2)	第28号住居跡	I期	355							
18	Ao-050	倉越(2)	第31号住居跡	IV期以降	155	CR						
	Ao-050	倉越(2)	第34号住居跡	I期	349	C						
	Ao-051	赤平(2)	第1号住居跡	VI期以降構築	85	CL					●	
	Ao-051	赤平(2)	第2号住居跡	IV期以降構築	180	CL						カマド左脇にスロープ状の出入り口。
	Ao-051	赤平(2)	第3号住居跡	IV期以降構築	125	CL					●	カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。北東壁東端に張り出し。
	Ao-051	赤平(2)	第4号住居跡	VI期以降	40	CR						
	Ao-051	赤平(2)	第5号住居跡	IV期以降構築	205	CR					●	カマド設置壁CLに張り出し。スロープ状の出入り口。
	Ao-051	赤平(2)	第7号住居跡	IV期以降構築	220	CR						
	Ao-051	赤平(2)	第8号住居跡	VI期以降	130	CR						
	Ao-051	赤平(2)	第9号住居跡	VI期以降構築	205	CR					●	北西壁西端に張り出し。炉。
	Ao-051	赤平(2)	第10号住居跡	VI期以降	145	CR						
	Ao-051	赤平(2)	第12号住居跡	IV期以降構築	170	CR					●	
	Ao-051	赤平(2)	第14号住居跡	VI期以降	110	CR						
	Ao-051	赤平(2)	第16号住居跡	IV期以降※第17号住より新	220	CR						
	Ao-051	赤平(2)	第21号住居跡	III期以降	130→130	CR→C						
	Ao-051	赤平(2)	第23号住居跡	III期以降	150	CL						
	Ao-051	赤平(2)	第24号住居跡	I期	335	C						
	Ao-051	赤平(2)	第25号住居跡	III期以降	130	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第1号住居跡	IV期以降構築	165	L						
	Ao-052	赤平(3)	第4・5号住居跡	VI期以降構築	3	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第6号住居跡	IV期以降構築※第8号住より新	283	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第8号住居跡	IV期以降構築※第6号住より古	192							
	Ao-052	赤平(3)	第9号住居跡	IV期以降構築※第11号住より新	86	C						
	Ao-052	赤平(3)	第11号住居跡	IV期以降構築※第9号住より古	86	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第13号住居跡	IV期以降※第14号住より古	86	CR					●	煙道短い。
	Ao-052	赤平(3)	第14号住居跡	IV期以降構築※第13号住より新	264	L?						
	Ao-052	赤平(3)	第17号住居跡	IV期以降	87	CL						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ao-052	赤平(3)	第20号住居跡	VI期以降	85							
	Ao-052	赤平(3)	第21号住居跡	I期	348	C						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-052	赤平(3)	第25号住居跡	IV期以降	81	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第27号住居跡	V期以降	81	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第28号住居跡	VI期以降構築	94	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第29号住居跡	IV期以降構築	176	L						
	Ao-052	赤平(3)	第30号住居跡	IV期以降構築 ※第33号住より新	116	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第31号住居跡	VI期以降構築	84	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第32号住居跡	IV期以降構築	109	C					●	鍛冶炉。
	Ao-052	赤平(3)	第33号住居跡	IV期以降※第30号住より古	98	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第34号住居跡	IV期以降	1	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第35号住居跡	I期	335・335	C・CL						
	Ao-052	赤平(3)	第41号住居跡	IV期以降構築	87	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第42号住居跡	I期	335	C						
	Ao-052	赤平(3)	第44号住居跡	I期	321	C						
	Ao-052	赤平(3)	第45号住居跡	IV期以降	170	CR						西壁南端に張り出し。
	Ao-052	赤平(3)	第46号住居跡	III期以降	68	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第47号住居跡	IV期以降構築 ※第59号住より古	86	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第48号住居跡	VI期以降構築	95	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第51号住居跡	IV期以降	182	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第55号住居跡	VI期以降構築	187							
	Ao-052	赤平(3)	第60号住居跡	IV期以降	172							
	Ao-052	赤平(3)	第61号住居跡	IV期以降構築	105	CL						
18	Ao-052	赤平(3)	第62号住居跡	IV期以降	103	CL					●?	
	Ao-052	赤平(3)	第65号住居跡	IV期以降	83	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第66号住居跡	IV期以降構築	90	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第67号住居跡	VI期以降構築	90	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第68号住居跡	IV期以降構築	146	CR						
	Ao-052	赤平(3)	第69号住居跡	I期	332	C						
	Ao-052	赤平(3)	第70号住居跡	III期以降	104	C						
	Ao-052	赤平(3)	第71号住居跡	III期以降	44							
	Ao-052	赤平(3)	第72号住居跡	IV期以降	39	C						
	Ao-052	赤平(3)	第74号住居跡	I期	324	C						
	Ao-052	赤平(3)	第75号住居跡	VI期以降構築	192	CR						西壁南端に張り出し。
	Ao-052	赤平(3)	第77号住居跡	I期	330	C						
	Ao-052	赤平(3)	第78号住居跡	VI期以降	90	CL						北壁東端に張り出し。
	Ao-052	赤平(3)	第80号住居跡	IV期以降構築	296	CL						
	Ao-052	赤平(3)	第81号住居跡	IV期以降	92	CL					●	
	Ao-052	赤平(3)	第82号住居跡	IV期以降	95							芯材に焼成粘土塊。
	Ao-052	赤平(3)	第84号住居跡	IV期以降	77	CL						
	Ao-054	山ノ外	第1号竪穴住居跡(b)	IV期以降構築	115	CL						カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-056	鳥口平(8)	SI-8	IV期	315	C						
	Ao-057	往来ノ上(1)	第1号住居	IV期	20	CL			●			
	Ao-057	往来ノ上(1)	第2号住居	IV期	36	C			●			
	Ao-058	白旗館	第9号住居	IV期以降		C						
	Ao-059	風穴	1号住居跡	IV期	320	C			●			
	Ao-059	風穴	2号住居跡	IV期以前	350	C						
	Ao-059	風穴	3号住居跡	IV期	0	C						
	Ao-060	猫又(1)	第4号住居跡	V期以降	150	CR						主柱穴2本で、1本はカマド設置壁に接する。
	Ao-061	向田(24)	第1号住居跡	VI期以降構築	170	CR			●			
	Ao-061	向田(24)	第2号住居跡	IV期	185	CR						
	Ao-062	向田(35)	第1号住居跡	VI期以降構築	188	C			●			
	Ao-062	向田(35)	第2号住居跡	VI期以降構築	175	CR			●		●	
	Ao-062	向田(35)	第3号住居跡	VI期以降構築	180	CR			●		●	カマド脇に出入り口。西壁南端に張り出し。
	Ao-062	向田(35)	第5号住居跡	VI期以降構築	170	CR			●		●	
	Ao-062	向田(35)	第6号住居跡	VI期以降構築	157	C			●		●	間仕切り溝。
	Ao-062	向田(35)	第9号住居跡	VI期以降構築	177	CR			●		●	西壁南端に張り出し。
	Ao-062	向田(35)	第11号住居跡	VI期以降構築	160	CL			●			
19	Ao-062	向田(35)	第13号住居跡	VI期以降構築	181	CR			●		●?	西壁南端に張り出し。カマド設置壁東端に出入り口。
	Ao-062	向田(35)	第14号住居跡	VI期以降構築	180	CR			●			芯材に羽口。
	Ao-062	向田(35)	第16号住居跡	VI期以降構築	172	CL			●			
	Ao-062	向田(35)	第19号住居跡	VI期以降構築	153	CR			●			
	Ao-062	向田(35)	第23号住居跡	V期以降	92	CL						
	Ao-062	向田(35)	第26号住居跡	VI期以降	171	CR						
	Ao-062	向田(35)	第28号住居跡	III期以降	210	CR						北東壁北側に出入り口。
	Ao-062	向田(35)	第34号住居跡	VI期以降	150	CR						
	Ao-062	向田(35)	第35号住居跡	IV期以降	264	L						
	Ao-062	向田(35)	第141号住居跡	IV期以降	145	CR						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ao-062	向田(35)	第107号住居跡	IV期以降構築	135	CL						
	Ao-062	向田(35)	第130号住居跡	VI期以降	125→125	C→CR						
	Ao-062	向田(35)	第137号住居跡	V期以降	131	CL						
	Ao-063	弥栄平(4)	第3号竪穴住居跡	IV期以前	134	CL						
	Ao-063	弥栄平(4)	第13号竪穴住居跡	IV期以前	170	CL?						
	Ao-063	弥栄平(4)	第15号竪穴住居跡	IV期以前	155	CR						
	Ao-063	弥栄平(4)	第17号竪穴住居跡	IV期構築～V期廃絶	170	R		●				
	Ao-063	弥栄平(4)	第18号竪穴住居跡	IV期	143	CR						
	Ao-063	弥栄平(4)	第19号竪穴住居跡	V期	162	CR						焼土。
	Ao-063	弥栄平(4)	第101号竪穴住居跡	V期以降	323	C						
	Ao-063	弥栄平(4)	第102号竪穴住居跡	V期	153	CR						
	Ao-064	上尾駸(2)	第1号竪穴住居跡	V期以降	180	CL						カマド設置壁に出入り口。
	Ao-064	上尾駸(2)	第7号竪穴住居跡	IV期以前	135	R						小製錬炉有。
	Ao-064	上尾駸(2)	第10号竪穴住居跡	IV期以前	152	CR						
	Ao-064	上尾駸(2)	第13号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※第23号住より新	109→123	R→CL		●				カマド側主柱穴壁際に寄る。カマド設置壁に出入り口。焼土。
	Ao-064	上尾駸(2)	第15号竪穴住居跡	V期以降	148	CR						南西壁南端に張り出し(出入り口か)。
	Ao-064	上尾駸(2)	第21号竪穴住居跡	V期以降	165	CR						
	Ao-064	上尾駸(2)	第23号竪穴住居跡	V期以降※第13号住より古	342	CR						
	Ao-065	家ノ前	第1号住居跡	VI期以降	116	CR		●				
	Ao-065	家ノ前	第4号住居跡	IV期以前	77→77	C→CR						焼土。
	Ao-065	家ノ前	第5号住居跡	IV期以前	75	C						焼土。
	Ao-065	家ノ前	第6号住居跡	V期以降	350→100	C→C						焼土。
	Ao-065	家ノ前	第8号住居跡	IV期以前	76	C						焼土。
	Ao-065	家ノ前	第9号住居跡	IV期	182	CL						
	Ao-065	家ノ前	第10号住居跡	IV期	160	CR		●				
	Ao-065	家ノ前	第11号住居跡	IV期以前	182	C						第6号住居跡カマド芯材土師器壺が本遺構カマド出土破片と接合。
	Ao-065	家ノ前	第12号住居跡	Ⅲ～IV期	334	C						
	Ao-065	家ノ前	第13号住居跡	IV期以前	181	CR						
	Ao-067	唐貝地	H-2号住居跡	V期以降	345	C						
	Ao-068	幸畑(4)	第4号竪穴住居跡	V期以降	280→198	CL→CR						
	Ao-068	幸畑(4)	第6号竪穴住居跡	V期以降	285	C						
	Ao-069	発茶沢(1)	第101号住居跡	VI期以降	148	CR		●				
	Ao-069	発茶沢(1)	第102号住居跡	VI期以降	118	CL		●				腰板の痕跡あり。
	Ao-069	発茶沢(1)	第104号住居跡	VI期以降構築	155	CR		●				腰板。西壁に張り出し。
	Ao-069	発茶沢(1)	第105号住居跡	VI期以降構築	135	CL		●				柱穴・周溝から腰板推定。カマド設置壁に出入り口。
	Ao-069	発茶沢(1)	第106号住居跡	VI期以降構築	175	R		●				カマド芯材に土師器壺多用。
	Ao-069	発茶沢(1)	第107号住居跡	VI期以降構築	135	CR		●				カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-069	発茶沢(1)	第108号住居跡	VI期以降構築	138	CR		●				カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-069	発茶沢(1)	第109号住居跡	VI期以降	128	CL		●?				カマド側主柱穴壁際に寄る。カマド設置壁に出入り口。
	Ao-069	発茶沢(1)	第201号住居跡	VI期以降構築	150	CR		●	●			カマド側主柱穴壁際に寄る。掘立はカマド側に存在。柱穴・周溝から腰板推定。カマド設置壁に出入り口。
	Ao-069	発茶沢(1)	第202号住居跡	VI期以降構築	150	CR		●	●			掘立はカマド側に存在。
	Ao-069	発茶沢(1)	第203号住居跡	VI期以降構築	140	CR		●	●			カマド側主柱穴壁際に寄る。掘立はカマド側に存在。カマド設置壁に出入り口。
	Ao-069	発茶沢(1)	第204号住居跡	V期以降	175	CR			●			掘立はカマド側に存在。
	Ao-069	発茶沢(1)	第205号住居跡	VI期以降構築	135	CR		●	●			カマド側主柱穴壁際に寄る。掘立はカマド側に存在。柱穴・周溝から腰板推定。カマド設置壁に出入り口。
	Ao-069	発茶沢(1)	第402号住居跡	IV期構築～VI期廃絶	129	CR		●	●			掘立はカマド側に存在。カマド設置壁に出入り口。
	Ao-070	沖附(1)	第1号住居跡	VI期以降	177	CR		●				
	Ao-070	沖附(1)	第3号住居跡	VI期以降構築	169	CR		●				カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-070	沖附(1)	第17号住居跡	V期以降	173	CR→CL						
	Ao-070	沖附(1)	第20号住居跡	VI期以降	110	CR		●				焼土。
	Ao-070	沖附(1)	第21号住居跡	VI期以降構築	164	CR→C		●				

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
19	Ao-070	沖附(1)	第25号住居跡	VI期以降構築	145	CR		●			
	Ao-070	沖附(1)	第35号住居跡	VI期以降	160			●			
	Ao-071	二十平(1)	第28号住居跡	VI期以降	150	C					
	Ao-073	向田(34)	第1号竪穴住居跡	VI期以降	131	C				●?	
	Ao-073	向田(34)	第3号竪穴住居跡	VI期以降	127	CL					レンガ状の焼成粘土板が芯材。
	Ao-074	向田(37)	第2号竪穴住居跡	VI期以降	141	CL					カマド設置壁に出入り口。
	Ao-075	向田(40)	第1号竪穴住居跡	VI期以降	115	CL		●			
	Ao-075	向田(40)	第2号竪穴住居跡	VI期以降	120	CR		●			
Ao-076	家の後(6)	第1号竪穴住居跡	VI期以降	191	CL		●				
20	Ao-077	最花南	竪穴住居跡	V期	170	CR					南東隅に張り出し。出入り口。
	Ao-078	アイヌ野	第2号住居跡	V期以降	180	CR		●			カマド側主柱穴壁際に寄る。ビット底面に焼土。周堤はカマド設置壁以外の3辺。
21	Ak-047	鴨巢 I・II	SI764	IV期以前	87→174	CR→CL					
	Ak-048	上の山 II	SI06	VI期以降構築	195	CL					
	Ak-048	上の山 II	SI16	VI期以降構築	175	CL					南壁(カマドと同壁)西側に出入り口。
	Ak-048	上の山 II	SI18	VI期以降構築		CR?					
	Ak-048	上の山 II	SI27	VI期以降構築	190	CL					南壁(カマドと同壁)西側に出入り口。
	Ak-048	上の山 II	SI32	VI期以降構築	160	CL					カマド右脇にPit。
	Ak-048	上の山 II	SI33	VI期以降構築	175	CR					
	Ak-048	上の山 II	SI44	VI期以降構築	170	CR					
	Ak-048	上の山 II	SI45	V期以降	170	L					
	Ak-048	上の山 II	SI07	IV期以前	95	CL					煙道短い。
	Ak-048	上の山 II	SI09	IV期	180	CR					煙道短い。
Ak-049	此掛沢 II	SI11	VI期以降構築	155	CL						
Ak-052	土井	SI002	IV期	181	CL					南壁中央部(カマド脇)に出入り口。	
22	Ak-046	地藏岱	SI20032A	IV期以降	25	C					煙道ほとんどなし。焼土2基。
23	Ak-003	はりま館	SI002	IV期以降構築	349	CL					
	Ak-003	はりま館	SI004	IV期以降構築	163	CR					煙道ほとんどなし。
	Ak-003	はりま館	SI005	IV期以降構築	182	CR					煙道ほとんどなし。
	Ak-003	はりま館	SI020	IV期以降構築	205	CR					煙道ほとんどなし。
	Ak-003	はりま館	SI038	IV期以降構築	255	CR					
	Ak-003	はりま館	SI101	IV期以降構築	183	C					
	Ak-003	はりま館	SI106	IV期以降構築	185	CR					
	Ak-003	はりま館	SI107	IV期以降構築	345	CL					
	Ak-003	はりま館	SI108	IV期以降	50	CL					
	Ak-003	はりま館	SI109	III期以降	165	CR				●	カマド壁に出入り口。
	Ak-003	はりま館	SI113	IV期以降構築	145	CR					
	Ak-003	はりま館	SI114	IV期以降構築	180	CR					
	Ak-003	はりま館	SI115	IV期以降構築	200	CR					
	Ak-003	はりま館	SI116	IV期以降構築	85	CL					
	Ak-003	はりま館	SI119	IV期以降構築	180	CR					竹、羽口もカマド構築材。
	Ak-003	はりま館	SI120	IV期以降構築	100	CR					
	Ak-003	はりま館	SI02	IV期以降構築	85	CL					
	Ak-003	はりま館	SI19	IV期以降構築	155	CR					間仕切り溝。
	Ak-003	はりま館	SI21	II期	325	CL					
	Ak-003	はりま館	SI301	III期以降	140	CL					
	Ak-003	はりま館	SI310	IV期以降	135	CR					
	Ak-003	はりま館	SI314	III期以降	170	CR					
	Ak-003	はりま館	SI325	III期以降	245	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第402号竪穴住居跡	III期以降	155	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第303号竪穴住居跡	III期以降	145	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第01号竪穴住居跡	III期以降	180	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第02号竪穴住居跡	IV期以降	145	CL					
	Ak-004	大湯環状列石	第04号竪穴住居跡	III期以降	170	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第05号竪穴住居跡	III期以降	345	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第06号竪穴住居跡	III期以降	160	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第10号竪穴住居跡	III期以降	180	CR					
	Ak-004	大湯環状列石	第11号竪穴住居跡	IV期以降	175	CR					
	Ak-005	物見坂 III	SI303	IV期以降	140	CL					
Ak-006	物見坂 II	第3号竪穴住居跡	I期	130	CR						
Ak-007	鹿角沢 II	第1号竪穴住居跡	I期	140	CR						
Ak-007	鹿角沢 II	第2号竪穴住居跡	I期	330	C					壁板あり。	
Ak-007	鹿角沢 II	第3号竪穴住居跡	III期	315	CR						
Ak-007	鹿角沢 II	第5号竪穴住居跡	III期	125	CL						
Ak-007	鹿角沢 II	第7号竪穴住居跡	III期	95	CR						
Ak-008	鳥野	竪穴住居跡	I期	350	CR						
Ak-009	源田平	第1号住居跡	I期	120	CR					主柱穴の位置、カマド側は壁に接する。	

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ak-009	源田平	第2号住居跡	I期	140	CR						主柱穴の位置、カマド側は壁に接する。
	Ak-010	小枝指館跡	第102号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	14	C						
	Ak-010	小枝指館跡	第103号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	106							
	Ak-011	小平	第4号住居跡	I期	177	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第1号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	70	CL						煙道ほとんどなし。焼土あり。
	Ak-012	高市向館跡	第2号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	94	CL						
	Ak-012	高市向館跡	第5号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	94	CL						煙道ほとんどなし。
	Ak-012	高市向館跡	第9号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	188	CL						
	Ak-012	高市向館跡	第13号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	85	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第14号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	64	C						
	Ak-012	高市向館跡	第15号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	50	CL						
	Ak-012	高市向館跡	第16号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	158	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第17号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	101	CL						煙道ほとんどなし。焼土あり。
	Ak-012	高市向館跡	第22号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	113	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第23号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	77	CL						
	Ak-012	高市向館跡	第24号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	66	CR						煙道ほとんどなし。
	Ak-012	高市向館跡	第25号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	74	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第26号竪穴住居跡	Ⅳ期以降		CL						煙道ほとんどなし。
	Ak-012	高市向館跡	第27号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	135							
	Ak-012	高市向館跡	第28号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	154	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第30号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	184	CR						
	Ak-012	高市向館跡	第31号竪穴住居跡	I期	134→134	CL→CR						
	Ak-013	太田谷地館跡	SI150	Ⅳ期以降構築	155	CR						
	Ak-013	太田谷地館跡	SI151	Ⅳ期以降構築	180	CR?						
	Ak-013	太田谷地館跡	SI157	Ⅳ期	160	CR						
	Ak-013	太田谷地館跡	SI158	Ⅳ期	180	CL						
	Ak-014	高屋館跡	SI03	Ⅳ期構築・廃絶	114	CL						
	Ak-015	下乳牛	SI01	Ⅲ期	180	CR						
	Ak-016	柴内館跡	SI1623	I期	130	CR						
	Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ神Ⅱ)	SI001	Ⅱ期	162	CR						
	Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ神Ⅱ)	SI002	Ⅲ期以降	155	CR						
	Ak-017	妻ノ神館跡(旧妻ノ神Ⅱ)	SI003	Ⅳ期以降構築	155	CR						
23	Ak-019	天戸森	第1号竪穴住居跡	Ⅲ期	175	CR						煙道短い。
	Ak-019	天戸森	第2号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	180	CR						煙道短い。
	Ak-019	天戸森	第3号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	165	CR						
	Ak-020	堪忍沢	SI03	Ⅲ期以降	85	CL						煙道まで石主体のカマド。粘土は少量。
	Ak-020	堪忍沢	SI04	Ⅲ期	80	CL						間仕切り溝。主柱穴は間仕切り用。
	Ak-020	堪忍沢	SI05	Ⅲ期以降	145	CL						
	Ak-020	堪忍沢	SI06	Ⅲ期以降	145	CL						
	Ak-021	御休堂	第3号竪穴住居跡	Ⅲ期	175	CL						煙道短い。
	Ak-022	花輪古館跡	第101号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	100	C						
	Ak-022	花輪古館跡	第301号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	105	CR						
	Ak-024	案内Ⅳ	SI09	Ⅲ期以降	60	CR						
	Ak-026	案内Ⅰ	SI007	Ⅲ期以降	210							
	Ak-027	赤坂A	第07号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	92	CL						
	Ak-027	赤坂A	第10号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	96	CR						煙道短い。
	Ak-027	赤坂A	第12号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	104	CR						
	Ak-027	赤坂A	第15号竪穴住居跡	Ⅳ期以降構築	266	CR						
	Ak-027	赤坂A	第102号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	340→340	CR→CL						
	Ak-027	赤坂A	第103号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	105	CR						
	Ak-028	赤坂B	第02号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	165	CR						間仕切り溝。
	Ak-028	赤坂B	第03号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	165	CR						
	Ak-028	赤坂B	第06号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	80	CL						
	Ak-028	赤坂B	第07号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	170	CR						カマド壁に出入り口。
	Ak-028	赤坂B	第09号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	185	CR						
	Ak-028	赤坂B	第12号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	170	CR						
	Ak-028	赤坂B	第105号竪穴住居跡	Ⅲ期以降	170	CR						屋内カマド。
	Ak-029	中の崎	SI001	Ⅳ期以降構築	200	CR	●					
	Ak-029	中の崎	SI002	Ⅲ期以降	210	CR						
	Ak-029	中の崎	SI003	Ⅳ期以降構築	220	CR	●					
	Ak-029	中の崎	SI009	Ⅲ期以降	200	CR	●					
	Ak-029	中の崎	SI012	Ⅲ期以降	205	C	●					
	Ak-029	中の崎	SI018	Ⅲ期以降			●					
	Ak-029	中の崎	SI103	Ⅳ期以降構築	200	CL						
	Ak-029	中の崎	SI106	I期	220	C						
	Ak-029	中の崎	SI108	Ⅲ期以降	205	CR						
	Ak-029	中の崎	SI112	Ⅲ期以降	210→210	CR→CL						
	Ak-029	中の崎	SI113	Ⅲ期以降	205	CR						
	Ak-029	中の崎	SI301	Ⅳ期以降構築	215	CR						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ak-032	玉内	SI117	IV期以降構築	105	CL						
	Ak-035	野崎	SI01	IV期以降	50	CL						
	Ak-035	野崎	SI03	IV期以降	140→135	C→CR						
	Ak-036	坂下II	SI03	IV期以降構築	75	CR						
	Ak-036	坂下II	SI04	IV期以降構築	37	CL?						焼土2基。鉄関連工房か。
	Ak-036	坂下II	SI06	IV期以降構築	229	CR						
	Ak-036	坂下II	SI08	IV期以降構築	30	CL						カマド設置壁CRIに出入り口。
	Ak-036	坂下II	SI11	IV期以降構築	105	CR						壁板あり。南西壁南端に張り出しあり。
	Ak-036	坂下II	SI12	IV期以降構築	117	CR						
	Ak-036	坂下II	SI13	IV期以降構築	134	CR						
	Ak-036	坂下II	SI14	IV期以降	127	CL						壁板あり。南東壁東端に壁溝と壁柱穴を伴う張り出しあり。
	Ak-036	坂下II	SI16	IV期以降構築	119	CL						煙道短い。壁板あり。
	Ak-036	坂下II	SI17	IV期以降	132	CL						壁板あり。
	Ak-036	坂下II	SI21	IV期以降	129	CR						壁板あり。
	Ak-036	坂下II	SI23	IV期以降	119	CR						
	Ak-036	坂下II	SI36	IV期以降構築	123	CR						南西壁南端に壁溝と壁柱穴を伴う張り出しあり。カマド設置壁CLに出入り口。
	Ak-036	坂下II	SI37	IV期以降構築		CR						
	Ak-036	坂下II	SI49	IV期以降	130	CR						壁板あり。
	Ak-037	狼穴IV	SI02	IV期以降	145	CL						通常不向きな建築部材を使用。環境の影響を想定。
	Ak-037	狼穴IV	SI05	IV期以降構築	142	CL						
23	Ak-037	狼穴IV	SI06A	IV期以降構築	180	CR	●					煙道短い。
	Ak-037	狼穴IV	SI07A	IV期以降構築	66	CL						
	Ak-037	狼穴IV	SI08	IV期以降	148	CL						
	Ak-037	狼穴IV	SI10	III期以降	31							
	Ak-038	釈迦内中台I	01-SI193	IV期以降	160	CL						煙道ほとんどなし。
	Ak-038	釈迦内中台I	02-SI01	III期以降	151	CL						北東壁東寄りと南東壁南寄りに壁溝と壁柱穴を伴う張り出し(出入り口)あり。前者が古。
	Ak-038	釈迦内中台I	02-SI02	III期以降	150	CR						
	Ak-038	釈迦内中台I	02-SI03	III期以降	150	CR						
	Ak-038	釈迦内中台I	02-SI10	III期以降	160	CL						
	Ak-038	釈迦内中台I	02-SI04	IV期以降構築	150	CR						壁板あり。煙道ほとんどなし。
	Ak-038	釈迦内中台I	02-SI14	IV期以降	75	CL						壁板あり。煙道ほとんどなし。
	Ak-038	釈迦内中台I	03-SI853	IV期以降構築	161	CL						壁板あり。カマド設置壁CRIに出入り口。
	Ak-038	釈迦内中台I	05-SI27	IV期以降構築	160	CR						
	Ak-039	諏訪台C	SI18	III期以降	125							煙道短い。
	Ak-041	餌釣館跡(山王岱)	SI144A	III期以降	155							
	Ak-041	餌釣館跡(山王岱)	SI144B	IV期以降構築	155							
	Ak-041	餌釣館跡(山王台)	第2号竪穴住居跡	III期以降	165	CR						
	Ak-041	餌釣館跡(山王台)	第4号竪穴住居跡	III期以降	155	CL						北東壁北端に張り出しあり。
	Ak-042	上野	SI40	IV期以降構築	110							粘土は少量。
	Ak-043	池内	SI423	I期	SE	CR→CL						
	Ak-043	池内	SI610	I期	SE	CL						
	Ak-044	袖ノ沢	SI03	IV期以降構築	110→110	CR→CL						
	Ao-080	浅井(1)	SI-09	IV期以前	316	CL						
	Ao-081	原	第1号竪穴遺構	IV期以前	325	C						
	Ao-082	李平下安原	9号竪穴住居跡	IV期以降構築	5	CL						芯材に羽口も。
	Ao-082	李平下安原	14号竪穴住居跡	IV期※17号住より新	118	CR						
24	Ao-082	李平下安原	17号竪穴住居跡	IV期以前※14号住より古	118	CR						
	Ao-082	李平下安原	41号竪穴住居跡	IV期以前	115→110	CL→CR						
	Ao-082	李平下安原	45号竪穴住居跡	IV期以前	123	CL						
	Ao-082	李平下安原	63号竪穴住居跡	IV期以前	88	CR						
	Ao-082	李平下安原	66号竪穴住居跡	IV期	108	CR						
	Ao-082	李平下安原	148号竪穴住居跡	IV期以前	125							
	Ao-083	板留(2)	第1号住居跡	VI期以降構築	155	CL						
	Ao-083	板留(2)	第7号住居跡	IV期以前	170	CL						
	Ao-083	板留(2)	第11号住居跡	IV期以前	150	CL						
24	Ao-084	前川	BSI-6	IV期以降構築	210	CR						
	Ao-084	前川	CSI-1	IV期以降構築	25	CL						
	Ao-084	前川	CSI-2	IV期以降構築	17	CL						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
24	Ao-084	前川	C1SI-100	VI期以降構築	111						
	Ao-084	前川	C1SI-105	VI期以降構築	130						
	Ao-084	前川	C1SI-121	VI期以降構築	101						
	Ao-084	前川	C1SI-122	VI期以降構築 ※C1SI-132より新	107	C					
	Ao-084	前川	C1SI-125	VI期以降構築 ※C1SI-132より新	110	CL					
	Ao-084	前川	C1SI-129	VI期以降構築	275						
25	Ao-088	羽黒平(1)A区	第27号住居跡	I期					●		
	Ao-088	羽黒平(1)A区	第30号住居跡	III期以降					●		
	Ao-088	羽黒平(1)B区	第2号住居跡a	IV期以前	165	CR			●		
	Ao-088	羽黒平(1)D区	第1号住居跡	IV期以前	165	CR			●		
	Ao-088-089	羽黒平	第2号竪穴住居跡	IV期	156	CR					
	Ao-088-089	羽黒平	第7号竪穴住居跡	IV期以前	145	CR					
	Ao-088-089	羽黒平	第10号竪穴住居跡	IV期以前	148	CR					柱穴長方形。
	Ao-088-089	羽黒平	第26号竪穴住居跡	IV期以前	156	C					
	Ao-090	平野	第1号竪穴住居跡	IV期	166	CR					
	Ao-090	平野	第4号竪穴住居跡	IV期	149	CR					
	Ao-090	平野	第6号竪穴住居跡	IV期	155	CR→CL					
	Ao-091	山元(1)	第3号住居跡	VI期以降	125	CR					煙道短い。南壁東端に張り出し。
	Ao-091	山元(1)	第8号住居跡	VI期以降	120	CR					
	Ao-091	山元(1)	第10号住居跡	VI期以降	121	CR					煙道短い。
	Ao-091	山元(1)	第15号住居跡	VI期以降	145	CR					煙道短い。カマド側主柱穴壁際に寄る。間仕切り溝。
	Ao-091	山元(1)	第16号住居跡	VI期以降構築 ※第18号住より新	119	CR					南西壁南側に張り出し。
	Ao-091	山元(1)	第18号住居跡	VI期以降構築 ※第16号住より古	116	CR					
	Ao-091	山元(1)	第23号住居跡	VI期以降	103	CR					煙道短い。
	Ao-091	山元(1)	第32号住居跡	VI期以降	115	CR					南東壁東側に出入り口。
	Ao-091	山元(1)	第33号住居跡	VI期以降	132	CL					
	Ao-091	山元(1)	第36号住居跡	VI期以降	125	CR					煙道短い。
	Ao-091	山元(1)	第58号住居跡	VI期以降	94	CR					
	Ao-092	山元(2)	第10号住居跡	IV期以前	142	CR					
	Ao-092	山元(2)	第11号住居跡	V期	127	CL					
	Ao-092	山元(2)	第21号住居跡	IV期以降	144	CR					カマド側主柱穴壁際に寄る。カマド設置壁CLに出入り口。
	Ao-092	山元(2)	第32号住居跡	IV期以前	146	CR					
	Ao-092	山元(2)	第59号住居跡	IV期以降	150	CR					煙道短い。
	Ao-092	山元(2)	第68号住居跡	III期以降	318	C					カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-092	山元(2)	第78号住居跡	VI期以降	122	CR					煙道短い。カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-092	山元(2)	第85号住居跡	V期	148	CL					カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-092	山元(2)	第88号住居跡	V期	119	CL					煙道短い。
	Ao-092	山元(2)	第96号住居跡	VI期以降	128	CR					煙道短い。
	Ao-093	山元(3)	第6号住居跡	IV期	121	CR					カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-093	山元(3)	第15号住居跡	IV期以前	130	CR					煙道短い。
	Ao-093	山元(3)	第20号住居跡	V期以降	129	CL					煙道短い。
	Ao-094	中平	農道6号第1号竪穴住居跡	IV期以前	120	CR					
	Ao-095	松山	第1号住居跡	IV期以前	210	CR					
	Ao-096	山本	第18号竪穴住居跡	IV期以前					●		
	Ao-096	山本	第20号竪穴住居跡	IV期以前	140	CR			●		
	Ao-097	隠川(12)	第5号住居跡	IV期以前	131	CR→CL			●		煙道短い。ロクロビット1基。
Ao-098	隠川(4)	第5号住居跡	IV期以前	134	CR						
Ao-099	野尻(1)	第6号建物跡	IV期以前	110	CR			●	●		
Ao-099	野尻(1)	第17号建物跡	IV期以前	118	CR			●	●		
Ao-099	野尻(1)	第210号住居跡	IV期以前	115	CR			●		カマド側主柱穴壁際に寄る。外周溝に変遷あり。	
Ao-099	野尻(1)	第213号住居跡	IV期以前					●			
Ao-099	野尻(1)	第214号住居跡	IV期以前	100	CR						
Ao-099	野尻(1)	第215号住居跡	IV期	95	CR→CL	●		●	●	芯材は羽口。	
Ao-099	野尻(1)	第218号住居跡	IV期	115	CL						
Ao-099	野尻(1)	第302号建物跡	IV期	110	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-099	野尻(1)	第311号建物跡	IV期	125	CR			●			

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
25	Ao-099	野尻(1)	第313号建物跡	IV期以前	160	R	●					
	Ao-099	野尻(1)	第318号建物跡	IV期	115	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-099	野尻(1)	第319号建物跡	IV期以前	180	CR				●	西壁南端に張り出し。	
	Ao-099	野尻(1)	第501(315)号建物跡	IV期以前	135				●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-099	野尻(1)	第504号建物跡	IV期以前	136	CR			●	●		
	Ao-099	野尻(1)	第505号建物跡	IV期以前	96	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-099	野尻(1)	第506号建物跡	IV期以前※516号建物より新	135				●	●		
	Ao-099	野尻(1)	第511号建物跡	V期以降	123	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-099	野尻(1)	第515号建物跡	IV期以前	183	CR?			●	●		
	Ao-099	野尻(1)	第518号建物跡	IV期以前	120	CR			●	●		
	Ao-099	野尻(1)	第519(5)号建物跡	IV期以前					●		外周溝は埋め戻しと掘り返しが繰り返された可能性。	
	Ao-099	野尻(1)	第521号建物跡	IV期以前	118	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-099	野尻(1)	第603号建物跡	IV期以前	145→145	CR→CL			●		煙道短い。	
	Ao-099	野尻(1)	第604号建物跡	IV期	110	CR			●		煙道短い。	
	Ao-099	野尻(1)	第605号建物跡	V期以降	130	CR						
	Ao-100	野尻(4)	SI008	IV期以前	112	CR			●	●		
	Ao-100	野尻(4)	SI011	IV期	99	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-100	野尻(4)	SI014	IV期以前					●	●	竪穴未検出。	
	Ao-100	野尻(4)	SI021	IV期以前					●	●	竪穴未検出。	
	Ao-100	野尻(4)	SI023	IV期以前	139	C			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-100	野尻(4)	SI045	VI期以降※SI052より新	123	CL			●	●		
	Ao-100	野尻(4)	SI051	IV期以前					●	●		
	Ao-100	野尻(4)	SI052	V期以降※SI045より古	134	CR			●	●		
	Ao-100	野尻(4)	SI063	IV期	123	CR			●			
	Ao-100	野尻(4)	SI064	IV期以前					●			
	Ao-100	野尻(4)	SI073	IV期以前					●		竪穴未検出。外周溝作り変え。	
	Ao-100	野尻(4)	SI075	IV期以前	114	CR			●			
	Ao-100	野尻(4)	SI077	IV期以前					●	●	竪穴未検出。	
	Ao-100	野尻(4)	SI078	IV期以前	118	CR			●			
	Ao-100	野尻(4)	SI081	IV期以前					●			
	Ao-100	野尻(4)	SI097	IV期	110	CR				●	外周溝ではなく外周土坑あり。	
	Ao-100	野尻(4)	SI098	IV期	121	CR			●		カマド側主柱穴壁際に寄る。外周溝作り変え。	
	Ao-100	野尻(4)	SI107	IV期以前					●			
	Ao-100	野尻(4)	SI110	IV期以前					●	●	竪穴未検出。	
	Ao-100	野尻(4)	SI113	IV期以前	103→103	CR→CR			●			
	Ao-100	野尻(4)	SI117	IV期以前	109	CR			●			
	Ao-100	野尻(4)	SI124	IV期以前					●		竪穴未検出。	
	Ao-100	野尻(4)	SI126	IV期以前					●		竪穴未検出。	
	Ao-100	野尻(4)	SI129	IV期以前	112	CR			●	●		
	Ao-100	野尻(4)	SI137	V期	117	CR			●	●		
	Ao-100	野尻(4)	SI147	IV期以前					●			
	Ao-100	野尻(4)	SI151	IV期以前					●		竪穴未検出。	
	Ao-102	野尻(3)	第4号建物跡	VI期以降構築	106	CR			●	●	掘立はカマド側に存在。	
	Ao-102	野尻(3)	第8号建物跡	VI期以降構築	108	CR			●	●	掘立はカマド側に存在。	
	Ao-102	野尻(3)	第10号建物跡	V期以降	116	CL			●	●	掘立はカマド側に存在。	
	Ao-102	野尻(3)	第10号竪穴住居跡	VI期以降構築	100	C			●			
	Ao-102	野尻(3)	第13号竪穴住居跡	IV期以前	110	C						
Ao-102	野尻(3)	第24号竪穴住居跡	IV期以前	120	CR							
Ao-103	高屋敷館	第55号住居跡	IV期	89	CL							
Ao-103	高屋敷館	第62号住居跡	VI期以降	75	CL							
Ao-103	高屋敷館	第75号住居跡	VI期以降	128	CL							
Ao-103	高屋敷館	第121号竪穴住居跡	VI期以降構築※第122号住より新	113	C							
Ao-103	高屋敷館	第122号竪穴住居跡	VI期以降構築※第121号住より古	105	CR				●			
Ao-103	高屋敷館	第134号竪穴住居跡	IV期以降	110	CR							
Ao-104	寺屋敷平	第9号竪穴住居跡	IV期以前	140	CR							
Ao-106	隈無(8)	BSI003建物跡	IV期以前					●		外周溝2時期あり。		

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物	
25	Ao-106	隈無(8)	BSI018建物跡	IV期以前構築 ～VI期廃絶					●	●	拡張。外周溝2時期あり。
	Ao-107	隠川(2)外	第7号住居跡	VI期以降構築	150	CR					煙道短い。
	Ao-109	新町野	第250号竪穴住居跡	II期	170	C					
	Ao-109	新町野	第251号竪穴住居跡	III～IV期	105	CR					
	Ao-109	新町野	第11号竪穴住居跡	I期	222	CL					
	Ao-109	新町野	第22号竪穴住居跡	IV期	170	CR					西壁中央に張り出し。出入口？。
	Ao-109	新町野	第39号竪穴住居跡	IV期	120	CL					
	Ao-109	新町野	1号住居跡	II期	45	CR					北西壁北寄りに張り出し。
	Ao-109	新町野	2号住居跡	II期	105	CL					
	Ao-109	新町野	4号住居跡	IV期以前	26	CR					
	Ao-109	新町野	5号住居跡	II期	42→310	CR→C					
	Ao-109	新町野	6号住居跡	II期	335	CR					
	Ao-109	新町野	7号住居跡	I期	152→80	CL→CR					北西隅に張り出し。
	Ao-109	新町野	8号住居跡	I期	70→143	CR→CL					
	Ao-109	新町野	10号住居跡	II期	90	CL					
	Ao-109	新町野	11号住居跡	IV期以前	92→100	CR→CL					
	Ao-109	新町野	13号住居跡	II期	45	CR					
	Ao-109	新町野	14号住居跡	I期	220	C					
	Ao-109	新町野	15号住居跡	I期	67	CR					
	Ao-109	新町野	16号住居跡	II期	145	CL					
	Ao-109	新町野	17号住居跡	II期	40	L					
	Ao-109	新町野	20号住居跡	IV期構築・廃絶	125	CR					
	Ao-109	新町野	21号住居跡	II期	125	CR					
	Ao-109	新町野	22号住居跡	III期以降	90	CL					
	Ao-109	新町野	24号住居跡	IV期以前	114→201	CR→CL					
Ao-109	新町野	25号住居跡	II期	115	CL						
Ao-109	新町野	第18号竪穴住居跡	III～IV期	208	CL					カマド設置壁東端に張り出し。	
Ao-109	新町野	第19号竪穴住居跡	I期	129	CL						
Ao-109	新町野	第22号竪穴住居跡	III～IV期	112	CL						
Ao-109	新町野	第23号竪穴住居跡	II期	132・130→131	C・L→CL					カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-109	新町野	第28号竪穴住居跡	II期	120→256	CR→C						
Ao-109	新町野	第32号竪穴住居跡	III期	153							
Ao-109	新町野	第33号竪穴住居跡	IV期以前	116・112→114	C・CL→C						
Ao-109	新町野	第40号竪穴住居跡	II期	56	CR						
Ao-110	安田(2)	第15号住居跡	II期	93	CR						
Ao-110	安田(2)	第16号住居跡	V期以降	100→100・278	C→CR・C					カマド改築前、カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-110	安田(2)	第25号住居跡	III期以降	83	CL						
Ao-110	安田(2)	第29号住居跡	III期	85	CR						
Ao-110	安田(2)	第32号住居跡	I期	78	CL					腰板検出。	
Ao-110	安田(2)	第33号住居跡	I期	78	CL					カマド側主柱穴壁際に寄る。間仕切りあるいは根太痕。腰板検出。	
Ao-111	近野	第79号住居跡	I期	130	CR						
Ao-111	近野	第108号住居跡	I期	130	CR						
Ao-111	近野	第111号住居跡	IV期	140	CR					カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-111	近野	第112号住居跡	I期	130	CR						
Ao-111	近野	第115号住居跡	IV期	140	CR						
Ao-111	近野	第116号住居跡	IV期以前	140	CR						
Ao-111	近野	第1号竪穴住居跡	V期以降	114	CL			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-111	近野	第2号竪穴住居跡	V期以降	125	CL			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-111	近野	第6号竪穴住居跡	IV期	128	CR			●	●	カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-111	近野	第10号竪穴住居跡	IV期以前	130	CR			●	●		
Ao-111	近野	第15号竪穴住居跡	IV期	128	CL			●	●		
Ao-111	近野	第16号竪穴住居跡	IV期以前	130	CR	●		●	●		
Ao-111	近野	第E25号竪穴住居跡	IV期以前	131	CL			●	●		
Ao-111	近野	第E27号竪穴住居跡	IV期以前	131	CR			●	●		
Ao-111	近野	第E36号竪穴住居跡	II期	116	CR			●	●		
Ao-112	野木	第201号竪穴住居跡	III～IV期	175	CR					芯材は羽口。	
Ao-112	野木	第203号竪穴住居跡	IV期以前	342	CR					芯材は羽口と土師器。	
Ao-112	野木	第206号竪穴住居跡	I期	200	CR						
Ao-112	野木	第207号竪穴住居跡	II期	190	CR					芯材は羽口。	
Ao-112	野木	第210号竪穴住居跡	IV期以前	176	CR					芯材は羽口。	
Ao-112	野木	第215号竪穴住居跡	IV期構築・廃絶 ※216住より古	197	CR					カマド側主柱穴壁際に寄る。	
Ao-112	野木	第216号竪穴住居跡	IV期構築・廃絶 ※215住より新	87	CL						
Ao-112	野木	第218号竪穴住居跡	III期以降	180	L						
Ao-112	野木	第221号竪穴住居跡	III期以降	172	CR						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物		
	Ao-112	野木	第225号竪穴住居跡	IV期以前	181	CR						
	Ao-112	野木	第226号竪穴住居跡	III期以降	205	CR						
	Ao-112	野木	第227号竪穴住居跡	IV期以前	175	CR						
	Ao-112	野木	第230号竪穴住居跡	IV期以前	20	CL						芯材は羽口。
	Ao-112	野木	第232号竪穴住居跡	III期以降	195	CR						
	Ao-112	野木	第255号竪穴住居跡	IV期以前	155	CR						芯材は羽口。カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第304号竪穴住居跡	IV期	171	CR						煙道短い。カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第305号竪穴住居跡	III～IV期	170	CR						煙道短い。
	Ao-112	野木	第312号竪穴住居跡	III期以降	162	CR						
	Ao-112	野木	第313号(A)竪穴住居跡	V期以降	79	CL						
	Ao-112	野木	第319号竪穴住居跡	III期以降	172	CR						ロクロビット。
	Ao-112	野木	第320号竪穴住居跡	V期以降	88	CL						
	Ao-112	野木	第321号竪穴住居跡	III期以降	87	CR						
	Ao-112	野木	第322号竪穴住居跡	IV期	85	CL	●					カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第329号竪穴住居跡	III～IV期	158	CR						
	Ao-112	野木	第334号竪穴住居跡	V期以降	168	CR						
	Ao-112	野木	第335号竪穴住居跡	II期	161	CR						芯材は羽口。
	Ao-112	野木	第337号竪穴住居跡	III～IV期	118	CR						煙道短い。
	Ao-112	野木	第340号竪穴住居跡	II期以前	173	C						
	Ao-112	野木	第348号竪穴住居跡	III期以降	103	CR						
	Ao-112	野木	第369号竪穴住居跡	IV期	154	CR						
	Ao-112	野木	第371号竪穴住居跡	V期以降	92	CR						
	Ao-112	野木	第373号竪穴住居跡	IV期以前	168	CR						芯材に羽口。
	Ao-112	野木	第375号竪穴住居跡	V期以降	166	CR						
	Ao-112	野木	第380号竪穴住居跡	III期以降	150→149	CR→CR						芯材に羽口。
	Ao-112	野木	第386号竪穴住居跡	IV期以前	165→165	CR→C						カマド側主柱穴壁際に寄る。芯材に羽口。
	Ao-112	野木	第388号竪穴住居跡	III期以降	146	CR						
	Ao-112	野木	第392号竪穴住居跡	V期以降	139	CR						
	Ao-112	野木	第403号竪穴住居跡	V期以降	165	CR						
	Ao-112	野木	第406号竪穴住居跡	II期	145	C						煙道短い。芯材に羽口。カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第408号竪穴住居跡	III期以降	211	R						
	Ao-112	野木	第410号竪穴住居跡	III～IV期	161	CR						芯材に羽口。カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第473号竪穴住居跡	III期	163	CR						芯材に羽口。カマドと反対側の主柱穴は壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第484号竪穴住居跡	IV期構築・廃絶 ※486住より新	132→132	CL→CR						芯材に羽口。焼成粘土板も。
	Ao-112	野木	第486号竪穴住居跡	IV期※484住より古	133	CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第609号竪穴住居跡	II期	75→80	CR→CL						焼土。
	Ao-112	野木	第501号竪穴住居跡	IV期以前	155	CR						
	Ao-112	野木	第503号竪穴住居跡	V期以降	79	CL						
	Ao-112	野木	第504号(A)竪穴住居跡	III～IV期	178	CR						
	Ao-112	野木	第505号竪穴住居跡	V期以降	168	CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第507号(A)竪穴住居跡	V期以降	85	CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第509号竪穴住居跡	IV期	96	CL				●		
	Ao-112	野木	第517号(A)竪穴住居跡	III～IV期	155	CR						芯材に羽口。カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第520号竪穴住居跡	IV期	177	CR						
	Ao-112	野木	第521号竪穴住居跡	III期以降	164	C						
	Ao-112	野木	第522号竪穴住居跡	III～IV期	127	CR						
	Ao-112	野木	第527号竪穴住居跡	II期	159	CR						芯材に羽口。
	Ao-112	野木	第529号竪穴住居跡	III期以降	32	C						
	Ao-112	野木	第530号竪穴住居跡	V期以降	161	CR						
	Ao-112	野木	第534号竪穴住居跡	III期以降	159	CR						
	Ao-112	野木	第347号竪穴住居跡	II期	159→159	CR→CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第423号竪穴住居跡	IV期	168→170→170	CL→CR→CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。
	Ao-112	野木	第420号(A)竪穴住居跡	III期以降	295	隅						
	Ao-112	野木	第624号竪穴住居跡	IV期以前	195	CR						
	Ao-112	野木	第601号建物跡	IV期	1	CL		●	●			西壁中央に出入り口。
	Ao-112	野木	第705号竪穴住居跡	I期	141	CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考	
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱礎物		
	Ao-114	小三内	第3号住居跡	IV期以前	240	L?						
	Ao-114	小三内	第6号住居跡	IV期以前	119	L						
	Ao-114	小三内	第9号住居跡	II期	128	CR			●			
	Ao-114	小三内	第13号住居跡	IV期以前	152	CR						支脚も芯材。
	Ao-114	小三内	第15号住居跡	II期	128	CR						
	Ao-115	朝日山(1)	第20号竪穴住居跡	II期	125	CR	●?					煙道短い。
	Ao-115	朝日山(1)	第152号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※153住より新					●			
	Ao-115	朝日山(1)	第153号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※152住より古					●			
	Ao-115	朝日山(1)	第310号竪穴住居跡	V期以降	195	CR						
	Ao-115	朝日山(1)	第312号竪穴住居跡	V期以降	195	CR						
	Ao-115	朝日山(1)	第342号竪穴住居跡	V期以降	190	CR						
	Ao-116	朝日山(2)	第5号竪穴住居跡	IV期以前	70	CL						
	Ao-116	朝日山(2)	第103号竪穴住居跡	VI期以降構築					●			
	Ao-116	朝日山(2)	第15 I号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※15 II住より新						●		
	Ao-116	朝日山(2)	第15 II号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※15 I住より古	96	CR						
	Ao-116	朝日山(2)	第17号竪穴住居跡	IV期以前構築 ～VI期廃絶	105				●			
	Ao-116	朝日山(2)	第24号竪穴住居跡	IV期以前					●			
	Ao-116	朝日山(2)	第203号竪穴住居跡	III～IV期	113	CR?						
	Ao-116	朝日山(2)	第208号竪穴住居跡	V期以降	116	CR			●			
	Ao-116	朝日山(2)	第12号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※第13号住より新	175							
	Ao-116	朝日山(2)	第13号竪穴住居跡	III期以前構築 ～IV期廃絶	70	CR			●			
	Ao-116	朝日山(2)	第107 I号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※第108住、111住より新	90	CR?						外周溝2変遷あり。
	Ao-116	朝日山(2)	第110号竪穴住居跡	V期以降	174	CR						
	Ao-116	朝日山(2)	第113号竪穴住居跡	III期以降	138	CR						煙道短い。腰板、横木 検出。
	Ao-116	朝日山(2)	第115号竪穴住居跡	IV期構築～V 期以降廃絶	163	CR						
	Ao-116	朝日山(2)	第124 I号竪穴住居跡	V期以降			●		●	●		外周溝変遷あり。
	Ao-116	朝日山(2)	第126号竪穴住居跡	VI期以降構築					●	●?		外周溝変遷・修復痕跡 あり。
	Ao-116	朝日山(2)	第218号A竪穴住居跡	V期以降	115	CR						カマド側主柱穴壁際に 寄る。
	Ao-116	朝日山(2)	第225号竪穴住居跡	IV期以前	114	CR						
	Ao-116	朝日山(2)	第241号竪穴住居跡	IV期以前	115	CR			●			
	Ao-116	朝日山(2)	第202号竪穴住居跡	V期			●					
	Ao-116	朝日山(2)	第209号竪穴住居跡	VI期以降構築					●			
	Ao-116	朝日山(2)	第212号竪穴住居跡	VI期以降構築 ※214住より新	143→145	CR→CL						
	Ao-116	朝日山(2)	第214号竪穴住居跡	IV期以前※212 住より古					●			
	Ao-116	朝日山(2)	第401号竪穴住居跡	IV期以前	109	CR						カマド側主柱穴壁際に 寄る。
	Ao-116	朝日山(2)	第407号竪穴住居跡	V期以降※408 住より古	168							芯材は羽口。煙道短 い。
	Ao-116	朝日山(2)	第811号竪穴住居跡	IV期以前	185	CR	●					カマド側主柱穴壁際に 寄る。
	Ao-116	朝日山(2)	第826号竪穴住居跡	IV期以前	110	CL						
	Ao-117	三内丸山(9)	第3号竪穴住居跡	IV期以前	135	CR						
	Ao-117	三内丸山(9)	第7号竪穴住居跡	IV期以前	144	CR						
	Ao-118	三内丸山(2)	第24号住居跡	V期以降	135	CR						カマド側主柱穴壁際に 寄る?
	Ao-118	三内丸山(2)	第25号住居跡	IV期以前	135	CR						カマド側主柱穴壁際に 寄る。
	Ao-118	三内丸山(2)	第27号住居跡	IV期以前	125	CR						煙道短い。
	Ao-118	三内丸山(2)	第30号住居跡	III～IV期	141	CR						煙道短い。
	Ao-118	三内丸山(2)No.8 鉄塔地点	第77号住居跡	V期以降	130	CR						煙道短い。腰板検出。 カマド側主柱穴壁際に 寄る→四隅近くへと変 遷。
	Ao-118	三内丸山(2)No.8 鉄塔地点	第78号住居跡	IV期以前	125	CR						
	Ao-120	雲谷山吹(6)	SI-02	V期以降	92	CR						
	Ao-120	雲谷山吹(6)	SI-03	IV期	105→98	CL→L						
	Ao-120	雲谷山吹(6)	SI-05	IV期以前	108→114	CR→CL						カマド側主柱穴壁際に 寄る。
	Ao-120	雲谷山吹(6)	SI-06	IV期以前	160	CR						

地域No.	遺跡No.	遺跡名	遺構名	時期判定	カマド		付属施設				備考		
					主軸方向	設置位置	排水溝	周堤	外周溝	掘立柱建物			
26	Ao-121	雲谷山吹(5)	SI-11	IV期以前	132	CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-122	葛野(1)	第4号竪穴住居跡	IV期以前	135	CR							
	Ao-125	高間(1)	SI-01	IV期以降構築	106	CR							
	Ao-126	宮田館	第15号建物跡	IV期以降構築	157→157	CR→CL							
	Ao-126	宮田館	第21号建物跡	VI期以降構築	338	CR							
	Ao-126	宮田館	第29号建物跡	VI期以降構築	117	CR							
	Ao-126	宮田館	第2号建物跡	V期以降	90	CR	●					南壁東端に張り出し。	
	Ao-126	宮田館	第5号建物跡	V期以降	92	CR							
	Ao-127	岩渡小谷(2)	第1号竪穴住居跡	V期以降	180	CL							
	Ao-127	岩渡小谷(2)	第2号竪穴住居跡	V期以降	175	CR	●						
	Ao-127	岩渡小谷(2)	第3号竪穴住居跡	VI期以降構築	145→60	CR→CR							
	Ao-127	岩渡小谷(2)	第7号竪穴住居跡	IV期以前	215	CL			●	●		カマド側主柱穴壁際に寄る。間仕切り溝？	
	Ao-128	小牧野	ウトレンチ・第1号竪穴式住居跡	V期以降	208	C?							
	Ao-129	三内沢部(3)	第5号竪穴住居跡	V期以降	140	CR						南西壁南端に張り出し。	
	Ao-131	朝日山(3)	第405号住居跡	V期以降	205	CR?			●				
	Ao-131	朝日山(3)	第4号建物跡	V期以降					●				
	Ao-115・116・131	朝日山	第1号住居跡	IV期以前	120	CR						煙道短い。カマド側主柱穴壁際に寄る。	
	Ao-115・116・131	朝日山	第8号住居跡	V期以降	110	CR							
	Ao-132	二股(2)	第8号竪穴住居跡	VI期以降構築					●				
	Ao-132	二股(2)	第11号竪穴住居跡	V期以降	127								
	Ao-133	葛野(2)	第3号竪穴式住居跡	VI期以降	143	CR							
	Ao-133	葛野(2)	第9号竪穴式住居跡	IV期	170	CR							
	Ao-134	新田(2)	第39号竪穴住居跡	VI期以降	86	CR							
	27	Ao-137	宇田野(2)	第11号住居跡	III期以降	138	CR						カマド側主柱穴壁際に寄る。
		Ao-138	平野	第1号住居跡	IV期以前	70	CR						
		Ao-139	八重菊(1)	A区1号	IV期以前	115	CL						焼土。
Ao-139		八重菊(1)	E区1号	IV期以前	110→295	CL→C							
Ao-139		八重菊(1)	17号遺構	IV期以前	125	CR							
Ao-139		八重菊(1)	20号遺構	IV期以前	40	CR							
Ao-139		八重菊(1)	23号遺構	IV期	120								
Ao-139		八重菊(1)	32号遺構	IV期以前	30	CR							
Ao-139		八重菊(1)	34号遺構	IV期以前	125	CR							
Ao-139		八重菊(1)	41号遺構	IV期以前	140	R						カマドではなく鍛冶炉。	
Ao-140		外馬屋前田(1)	第1号住居跡	V期以降	98	CR		●				芯材に羽口。周堤はカマド側のみ切れる。腰板検出。	
Ao-140		外馬屋前田(1)	第3号住居跡	V期	122	CL						焼土。	
Ao-140		外馬屋前田(1)	第7号住居跡	IV期以前	78	CR							
Ao-140		外馬屋前田(1)	第8号住居跡	VI期以降	95	CR→CL						カマド側主柱穴壁際に寄る。腰板検出。	
Ao-140		外馬屋前田(1)	第9号住居跡	V期以降	114	CL						芯材に羽口。	
Ao-140		外馬屋前田(1)	第15号住居跡	V期以降	93	CR							
Ao-140		外馬屋前田(1)	第17号住居跡	IV期以前	8	CR						煙道貫通せず。結果的には2。	
Ao-140		外馬屋前田(1)	第101号住居跡	V期以降	106	CR→CL							
Ao-141		稲元	第13号竪穴住居跡	IV期	135	CR							
Ao-142		下恋塚	第6号竪穴住居跡	IV期以降構築	120							南西壁南端に張り出し。	
Ao-143	杣沢	第1号竪穴住居跡	VI期以降構築	70	CL						北壁に張り出し。カマド設置壁に出入り口。		
28	Ao-145	川倉小学校	SI02	IV期以前	142	CR							
	Ao-145	川倉小学校	SI03	VI期以降構築	139	CR							
	Ao-145	川倉小学校	SI05	IV期以前	136	CR							
	Ao-145	川倉小学校	SI06	IV期以前	138	CR						北隅にスロープ状の出入り口。腰板検出。	
	Ao-145	川倉小学校	SI07	IV期	147	CR							
	Ao-147	産野	第9号竪穴住居跡	IV期	150	C→CR			●				
	Ao-148	津山	第6号竪穴住居跡	V期以降	82	C							

表 14 カマド主軸方向の時期・地域別傾向

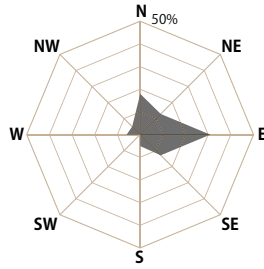
凡例

- ・ 本表は、カマドの主軸方位を地域・時期ごとにまとめ、方位ごとの検出率を%表示したものである。
- ・ 目盛りは10%きざみで、外枠が50%を示す。
- ・ カッコ内の数字は、各区分における検出棟数である。
- ・ カマドが複数設置されたケースで、新旧関係が判断できる場合は最終段階のカマド主軸方位を調査対象とした。新旧関係不明の場合は調査対象から除外した。

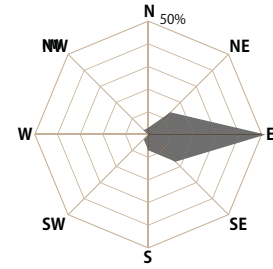
郡内

陸奥国域（①～④地域）

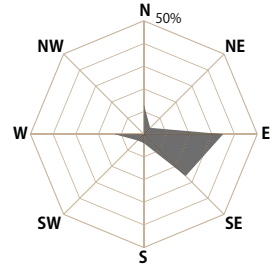
①～④ I 期（62 棟）



①～④ II～III 期（29 棟）



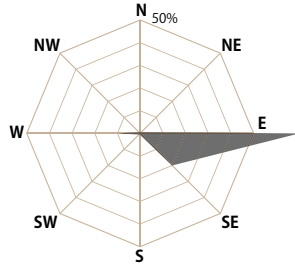
①～④ IV 期以降統合（23 棟）



十和田十世紀噴火

出羽国域（⑥横手盆地周辺）

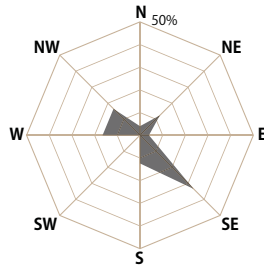
⑥ I 期（10 棟）



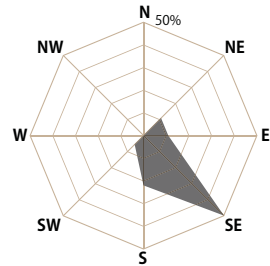
郡外・太平洋側

⑧北上川上流域

⑧ I 期（24 棟）

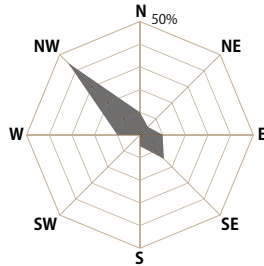


⑧ IV 期以降構築（18 棟）

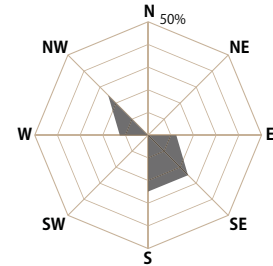


⑨安比川流域

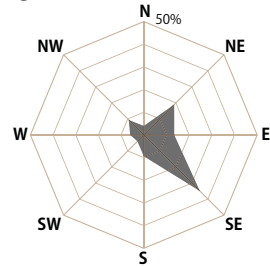
⑨ I 期（20 棟）



⑨ II～III 期（8 棟）

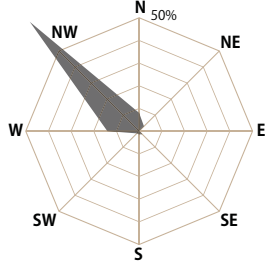


⑨ IV 期以降統合（55 棟）

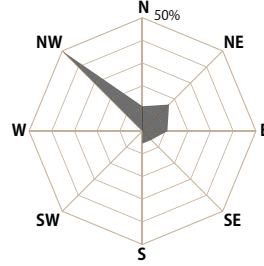


⑩馬淵川上流域

⑩ I 期 (63 棟)

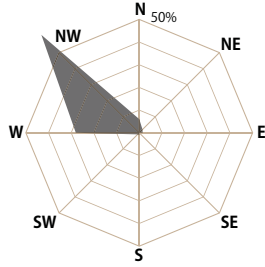


⑩ IV 期以降統合 (18 棟)

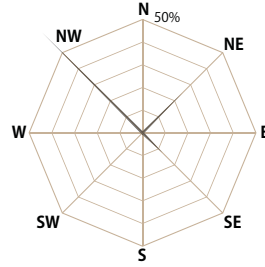


⑪馬淵川中流域南部

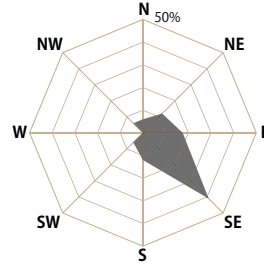
⑪ I 期 (142 棟)



⑪ II ~ III 期 (8 棟)

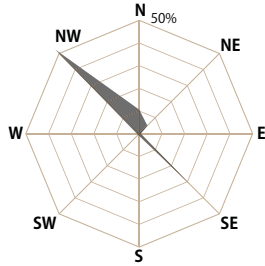


⑪ IV 期以降統合 (17 棟)



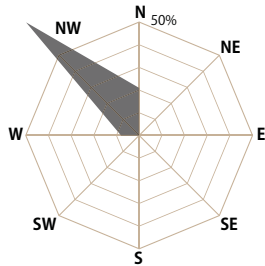
⑫馬淵川中流域北部

⑫ I 期 (19 棟)

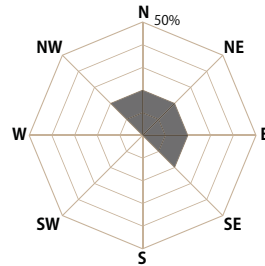


⑬北上山地北部

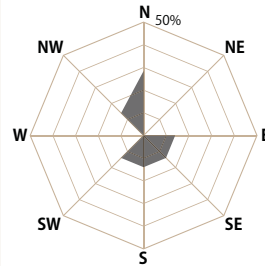
⑬ I 期 (24 棟)



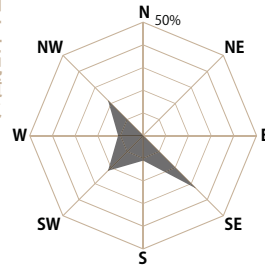
⑬ II ~ III 期 (5 棟)



⑬ IV 期以降 (7 棟)

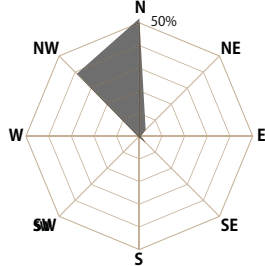


⑬ VI 期以降 (9 棟)

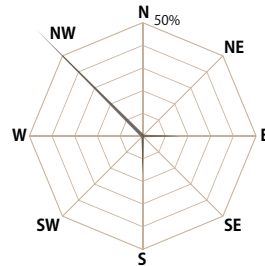


⑮久慈地域

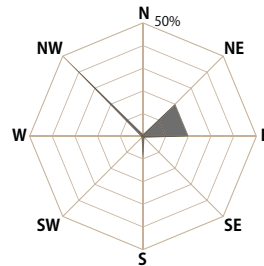
⑮ I 期 (23 棟)



⑮ II ~ III 期 (6 棟)

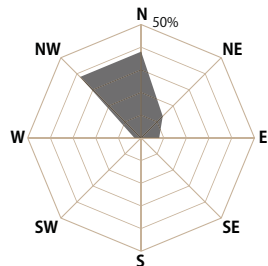


⑮ IV 期以降統合 (10 棟)

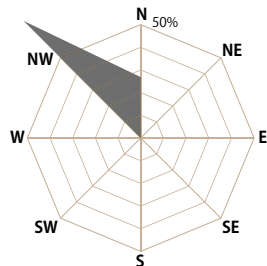


⑩八戸平野周辺

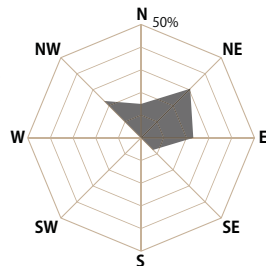
⑩ I 期 (37 棟)



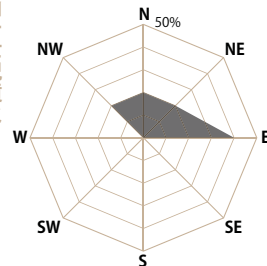
⑩ II ~ III 期 (11 棟)



⑩ IV 期以降 (13 棟)



⑩ VI 期以降 (5 棟)

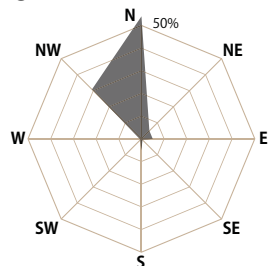


十和田十世紀噴火

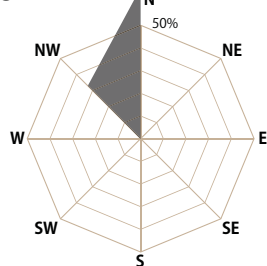
白頭山十世紀噴火

⑪上北地域南部

⑪ I 期 (39 棟)

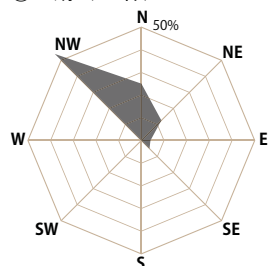


⑪ II 期 (9 棟)

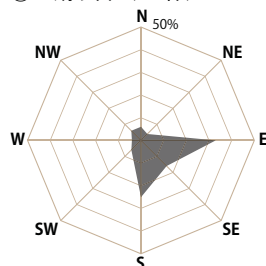


⑫上北地域中部

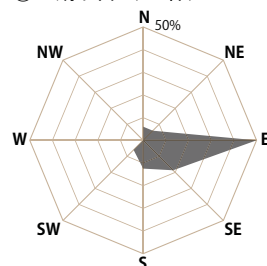
⑫ I 期 (24 棟)



⑫ IV 期以降 (51 棟)

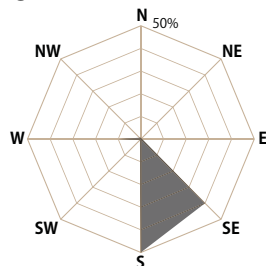


⑫ VI 期以降 (16 棟)

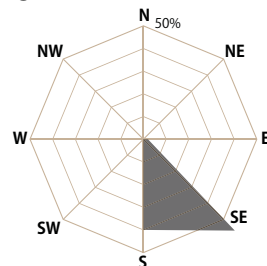


⑬上北地域北部

⑬ IV 期以降 (10 棟)



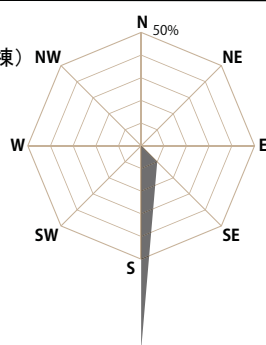
⑬ VI 期以降 (42 棟)



⑭能代平野周辺

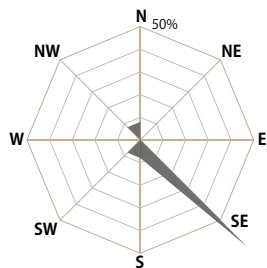
郡外・日本海側

⑭ IV 期以降統合 (10 棟)

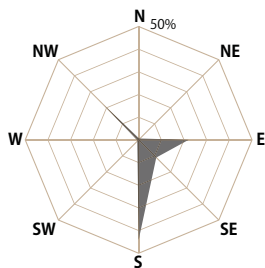


②③ 米代川上～中流域

②③ I 期 (12 棟)

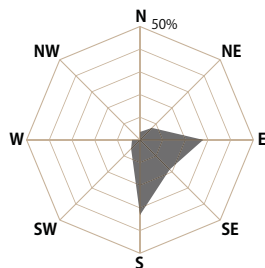


②③-a II～III 期 (9 棟)

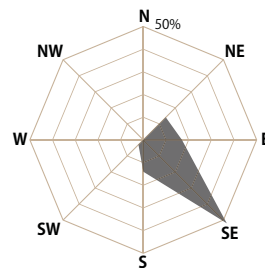


十和田十世紀噴火

②③-a IV 期以降 (54 棟)

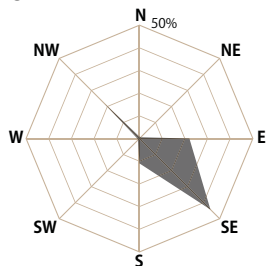


②③-b IV 期以降 (29 棟)

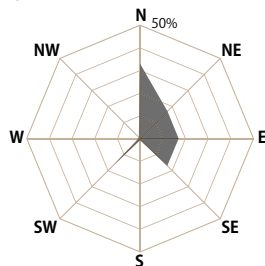


②④ 津軽平野南部～南縁丘陵周辺

②④ IV 期以前 (9 棟)

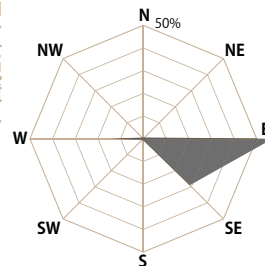


②④ IV 期以降 (6 棟)



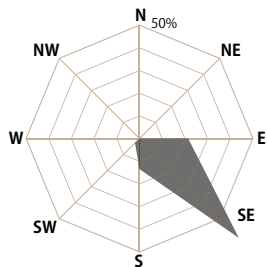
白頭山十世紀噴火

②④ VI 期以降 (7 棟)

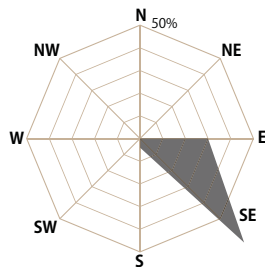


②⑤ 津軽平野東縁～大釈迦丘陵

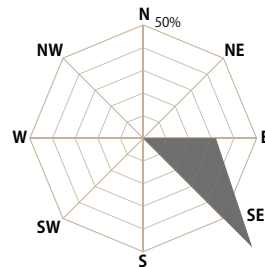
②⑤ IV 期以前 (37 棟)



②⑤ IV 期以降 (23 棟)

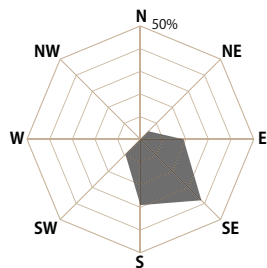


②⑤ VI 期以降 (22 棟)

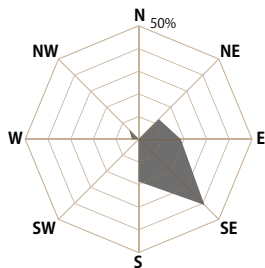


②⑥ 青森平野周辺

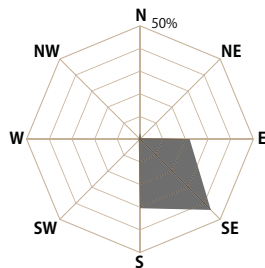
②⑥ I 期 (21 棟)



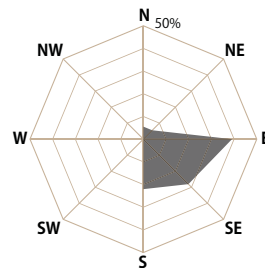
②⑥ II～III 期 (32 棟)



②⑥ IV 期以降 (36 棟)

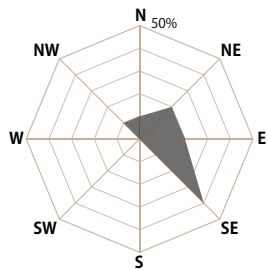


②⑥ VI 期以降 (18 棟)



②⑦ 津軽平野西部～岩木山北東麓

②⑦ IV 期以前 (10 棟)



②⑦ IV 期以降統合 (10 棟)

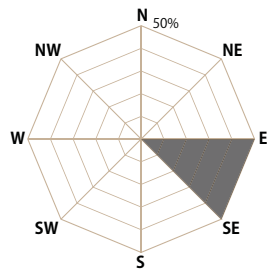


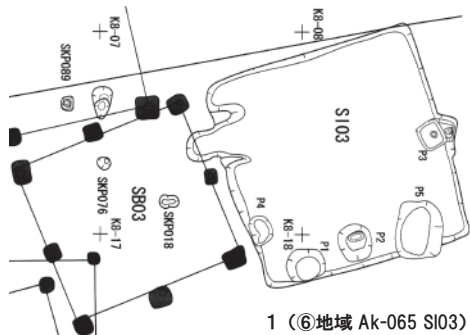
表 15 カマドが壁面中央に設置される割合

①～④陸奥国域	I 期 (17/62 棟)		27%
	II～III期 (2/31 棟)		6%
	IV期以降 (7/25 棟)		28%
⑥横手盆地周辺	I 期 (0/10 棟)		0%
⑧北上川上流域	I 期 (9/24 棟)		38%
	IV期以降構築 (0/23 棟)		0%
⑨安比川流域	I 期 (10/20 棟)		50%
	II～III期 (3/ 8 棟)		38%
	IV期以降統合 (10/52 棟)		19%
⑩馬淵川上流域	I 期 (49/57 棟)		86%
	IV期以降統合 (7/18 棟)		39%
⑪馬淵川中流域南部	I 期 (122/140 棟)		87%
	II～III期 (3/ 8 棟)		38%
	IV期以降統合 (1/17 棟)		6%
⑫馬淵川中流域北部	I 期 (11/19 棟)		58%
⑬北上山地北部	I 期 (23/24 棟)		96%
	II～III期 (0/ 5 棟)		0%
	IV期以降 (2/ 7 棟)		29%
	VI期以降 (4/ 9 棟)		44%
⑮久慈地域	I 期 (20/23 棟)		87%
	IV期以降統合 (4/10 棟)		40%
⑯八戸平野周辺	I 期 (32/37 棟)		87%
	II～III期 (11/11 棟)		100%
	IV期以降 (6/13 棟)		46%
	VI期以降 (1/ 5 棟)		25%
⑰上北地域南部	I 期 (27/35 棟)		77%
	II期 (6/ 7 棟)		86%
⑱上北地域中部	I 期 (19/21 棟)		91%
	IV期以降 (8/49 棟)		16%
	VI期以降 (0/14 棟)		0%
⑲上北地域北部	IV期以降 (0/10 棟)		0% ※III～IV期に1棟、V期以降に4棟確認
	VI期以降 (5/41 棟)		12%
㉑能代平野周辺	IV期以降統合 (0/11 棟)		0%
㉓米代川上～中流域	I 期 (2/12 棟)		17%
(a)	II～III期 (0/ 8 棟)		0%
(a)	IV期以降 (2/54 棟)		4%
(b)	IV期以降 (0/28 棟)		0%
㉔津軽平野南部～南縁丘陵周辺	IV期以前 (1/ 8 棟)		13%
	IV期以降統合 (1/ 9 棟)		11%
㉕津軽平野東縁～大釈迦丘陵	IV期以前 (3/35 棟)		9%
	IV期以降 (0/23 棟)		0%
	VI期以降 (2/22 棟)		9%
㉖青森平野周辺	I 期 (2/20 棟)		10%
	II～III期 (4/31 棟)		13%
	IV期以降 (0/36 棟)		0%
	VI期以降 (1/16 棟)		6%
㉗津軽平野西部～岩木山北東麓	IV期以前 (1/10 棟)		10%
	IV期以降統合 (0/ 8 棟)		0%

図 19 ～ 23 の凡例

- ・縮尺は 150 分の 1 で統一した。
- ・図版上が真北である。

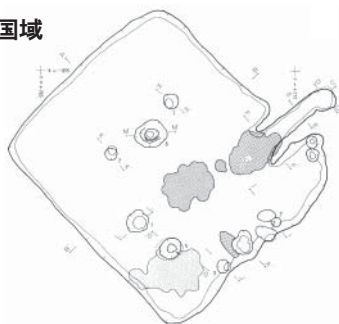
I 期 出羽国域



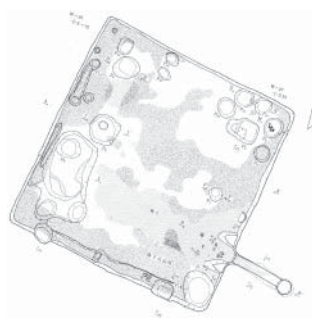
1 (⑥地域 Ak-065 SI03)

II 期

陸奥国域



2 (②地域 Iw-182 SI021)

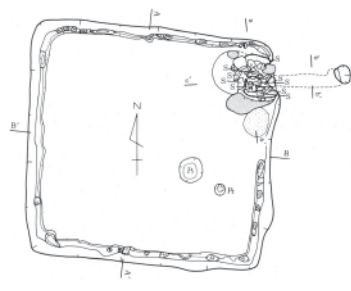


3 (②地域 Iw-210 CE36 住)

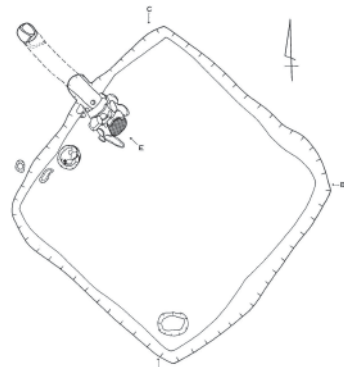
群外太平洋側



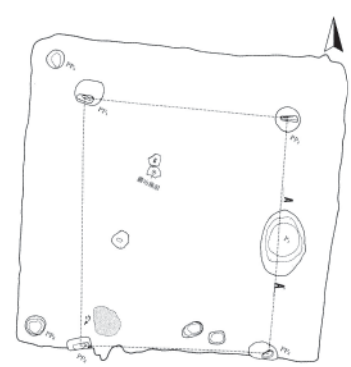
4 (⑨地域 Iw-047 1 号住)



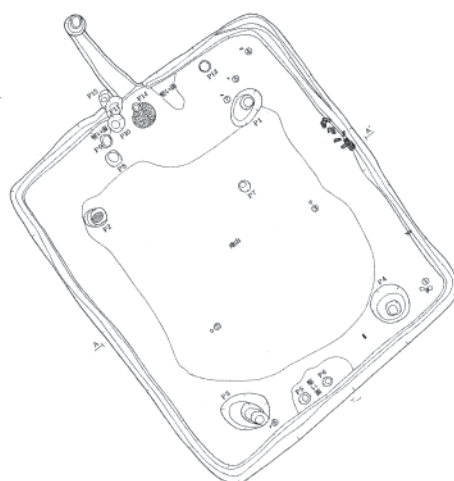
5 (⑬地域 Iw-078 DII-2 住)



6 (①地域 Iw-018 1 号住)



7 (⑨地域 Iw-049 HIV-6 住)



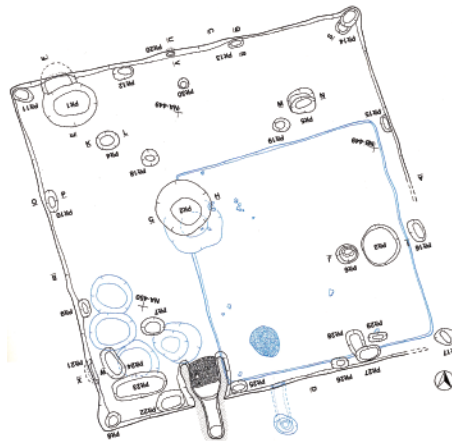
8 (⑩地域 Aa-012 SI4)

図 19 各地域の竪穴建物 (1)

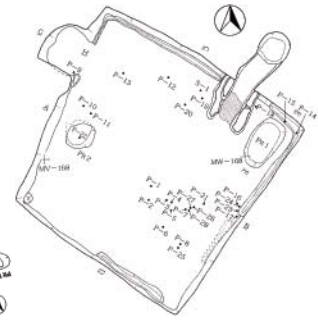
II～III期
群外日本海側



1 (㊸地域 Ak-020 SI04)
III期



2 (㊸地域 Ao-112 347号住)
II期



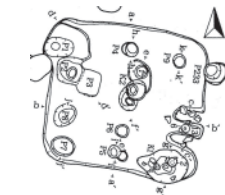
3 (㊸地域 Ao-109 1号住)
II期

IV期以降

陸奥国域



5 (㊸地域 Iw-134 RA39)
IV期以降構築



6 (㊸地域 Iw-222 SI06)
IV期以降構築

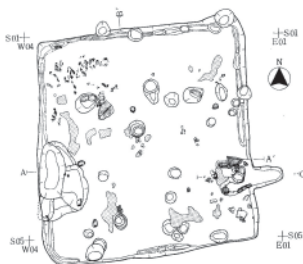


4 (㊸地域 Ao-114 9号住)
II期

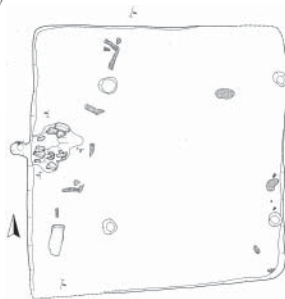
群外太平洋側



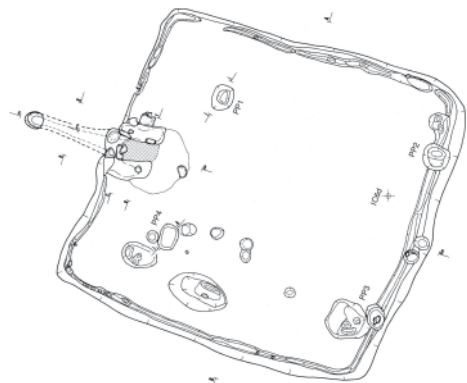
7 (㊸地域 Iw-049 HIII-5住)
IV期以降構築



8 (㊸地域 Iw-032 BA48住)
IV期以降構築



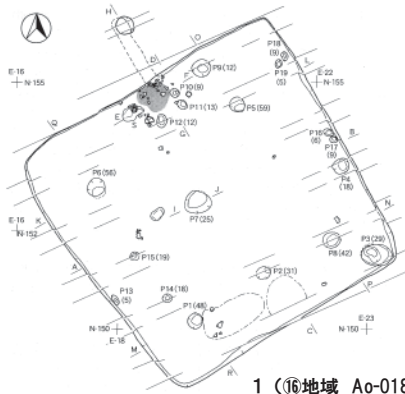
9 (㊸地域 Iw-054 VF-1住)
IV期



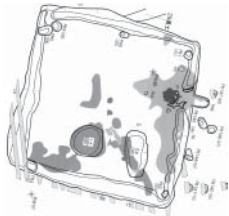
10 (㊸地域 Iw-045 3号住)
IV期以降構築

図 20 各地域の竪穴建物 (2)

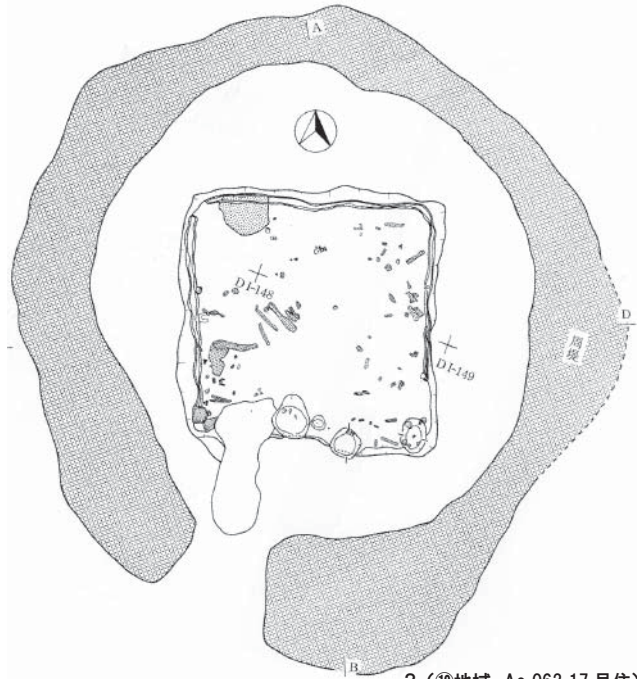
IV期以降 群外太平洋側



1 (⑩地域 Ao-018 B区4号住)
IV期

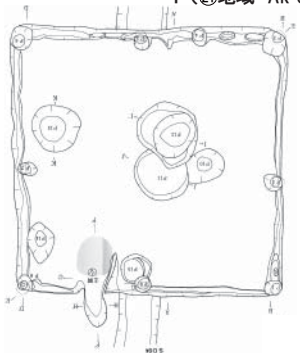


2 (⑩地域 Ao-052 62号住)
IV期以降

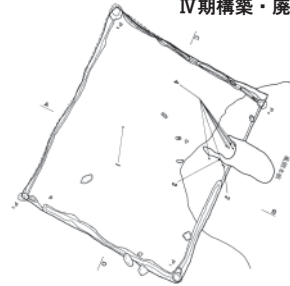


3 (⑨地域 Ao-063 17号住)
V期

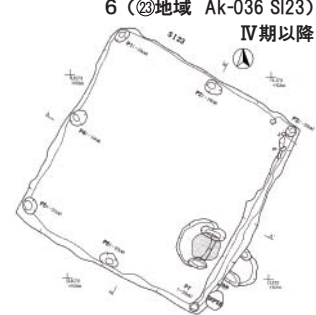
群外日本海側



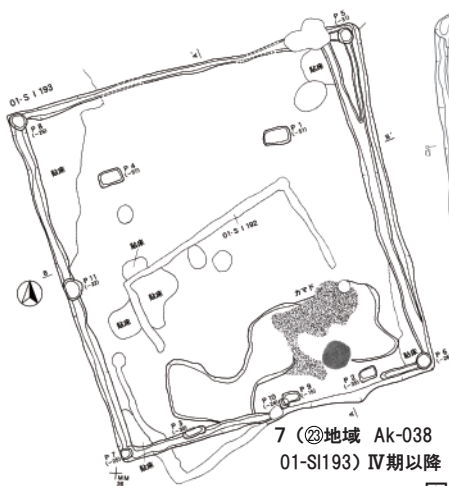
4 (②地域 Ak-048 SI09)
IV期



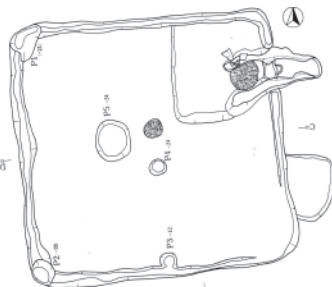
5 (②地域 Ak-014 SI03)
IV期構築・廃絶



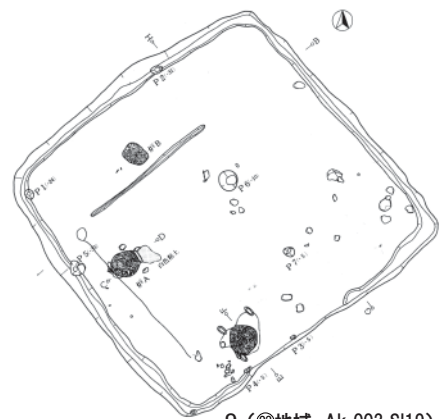
6 (②地域 Ak-036 SI23)
IV期以降



7 (②地域 Ak-038
01-SI193) IV期以降



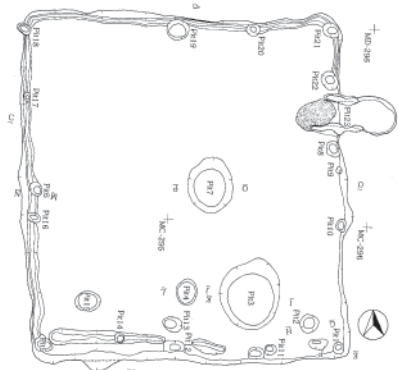
8 (②地域 Ak-003 SI116)
IV期以降構築



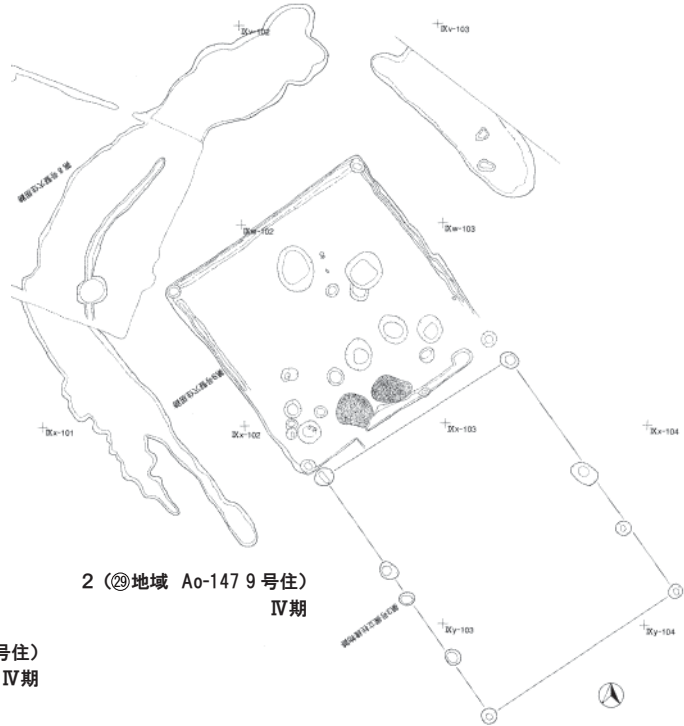
9 (②地域 Ak-003 SI19)
IV期以降構築

図 21 各地域の竪穴建物 (3)

IV期以降 群外日本海側



1 (㊸地域 Ao-112 216号住)IV期構築・廃絶

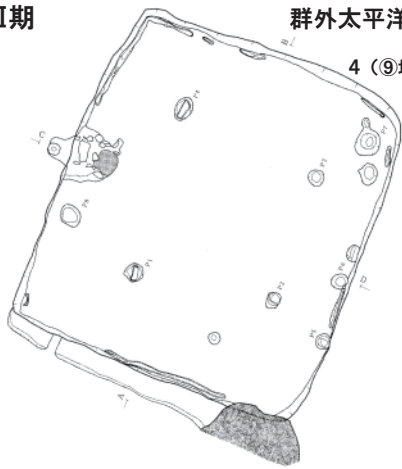


2 (㊸地域 Ao-147 9号住) IV期

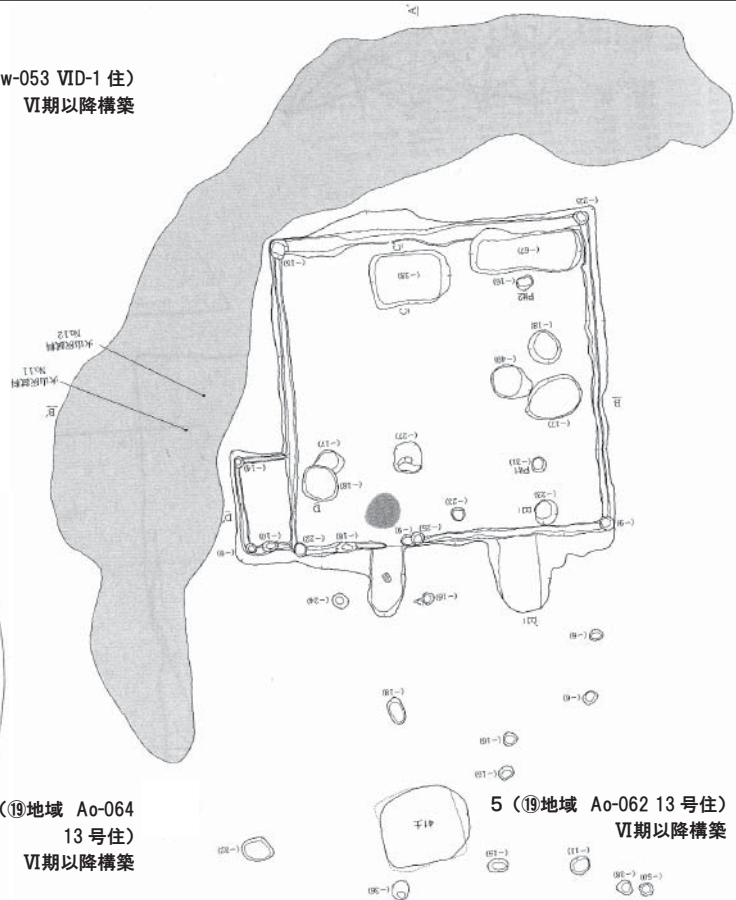


3 (㊸地域 Ao-112 322号住) IV期

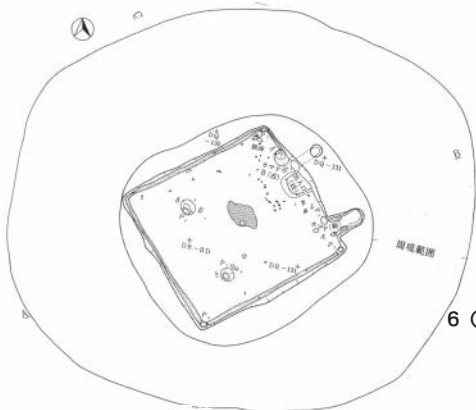
VI期 群外太平洋側



4 (㊸地域 lw-053 VID-1住) VI期以降構築



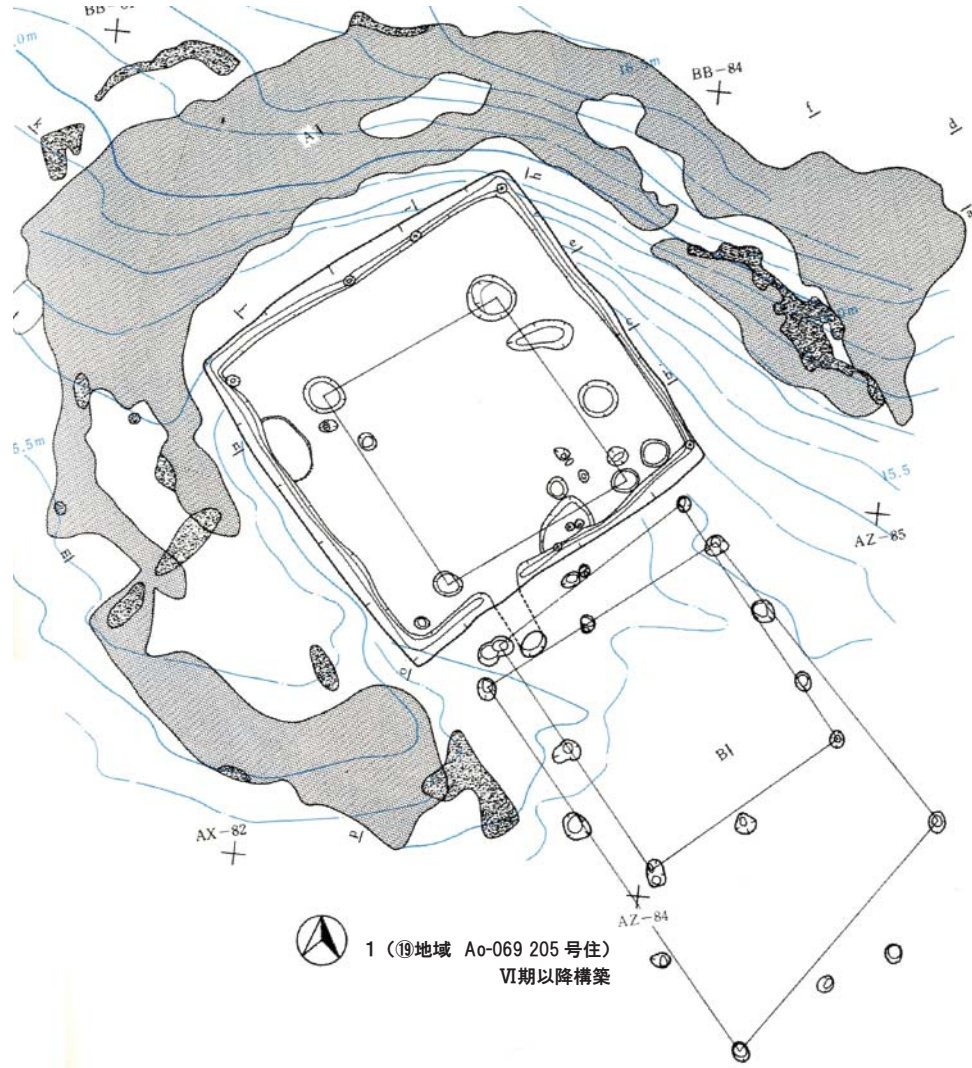
5 (㊸地域 Ao-062 13号住) VI期以降構築



6 (㊸地域 Ao-064 13号住) VI期以降構築

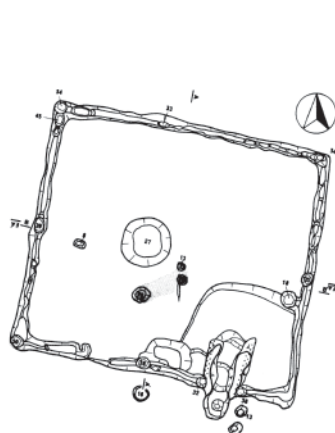
図 22 各地域の竪穴建物 (4)

VI期 群外太平洋側

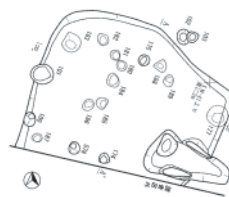


1 (①地域 Ao-069 205号住)
VI期以降構築

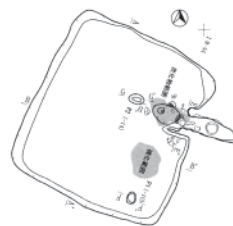
群外日本海側



2 (②地域 Ak-048 SI06)
VI期以降構築



3 (④地域 Ao-084 C1SI-100)
VI期以降構築



4 (④地域 Ao-084 C1SI-125)
VI期以降構築

図 23 各地域の竪穴建物 (5)

南東カマドが少数あり、⑧地域との共通性を有しているといえる。

カマドが壁面中央付近に設置される比率は、⑧北上川上流域で4割弱、⑨安比川流域が約5割であり、郡外太平洋側の中では低率である。これ以外は⑫地域を除き7割を超える。すなわち、北西～北壁の中央にカマドが設置されるものが大多数であったということである。⑧地域は陸奥国域と郡外北方両方の特徴を有し、⑨地域はこれより北方寄りの傾向を若干多く有していたといえる。

柱穴配置は、中央4本柱が最も多い。ただし、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域、⑬北上山地北部、⑯八戸平野周辺、⑰上北地域南部、⑱上北地域中部の各地域では、カマド設置壁の反対壁側に支柱穴が片寄る、もしくは接するものが確認される。陸奥国域にも少数存在するが、それ以外の地域ではほとんどみられない形態である。

平面形状は、多くが隅丸である。

郡外日本海側（⑳・㉑地域）

I期資料が確認された㉓米代川上～中流域と㉑青森平野周辺の様相をみる。㉓地域のカマド主軸方向は南東位を強く指向する。設置位置は8割強が左右いずれかに片寄る。㉑地域のカマドは、南東～南位を指向する。設置位置は約9割が左右いずれかに片寄る。柱穴配置は両地域とも中央4本柱が多い。

(2) II～III期

陸奥国域（①～④地域）

III期は検出数が少ないため、II期の様相のみ記す。I期と比べて、北を向くカマドは減少し、東位への指向がさらに高まる。同時に、壁中央の設置率も低下する。煙道部が短い短煙道タイプが各地に存在するも、少数である。平面形態の特徴として、各地域に横長が一定数確認できる(図19-2)。②和賀地域Iw-210西野遺跡CE36住居跡(図19-3)のように、四隅が明瞭に角張るものが確認される。柱穴配置の特徴として、カマドの寄りと同方向に柱穴が片寄るタイプ(上述図19-2・3など)が確認される。

郡外太平洋側（⑧～⑬・⑮～⑱地域）

⑨安比川流域は、カマド主軸方向が南・南東位で左右いずれかに片寄るものが増加し、北西壁中央設置の比率がI期より減少する(図19-4)。Iw-046大向II遺跡を例にとると、I期は西～北西位が多数であったが、II期に至って東～南位主体に変化する。⑬北上山地北部もI期と異なり東半を指向するものが多くなり、壁中央に設置されるものは激減する(図19-5)。⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域および⑮久慈地域は北西壁中央カマドが主体だが、北東～南位を向き左右に片寄るものが増加する。しかも、⑪地域例をみれば、壁中央とはいえ正中するものは減じているようである(図19-6)。

平面形態をみると、⑨・⑪・⑬各地域で横長を呈するものが小数ながら確認できる。この形態は、カマド位置が左右に片寄ることに連動したもので、南もしくは西の地域からもたらされたものであろう。また、⑨地域Iw-049飛鳥台地I遺跡HIV-6号住居跡(図19-7)のように四隅が角張るタイプも確認される。柱穴はカマド設置壁に接している。この遺構は鍛冶施設を有し、羽口が出土している。

以上のように、⑨・⑪・⑬・⑮の各地域においては、程度の差はあるが新規要素を持つ竪穴建物の増加が進んだようである。

いっぽうで、⑯八戸平野周辺と⑰上北地域南部のカマド方位・設置位置傾向はⅠ期と大きな変化がみられない。柱穴配置にも新要素の顕著な増加はみられず、⑯地域と⑱上北地域中部ではⅠ期と同様にカマド設置壁の反対壁側に支柱穴が片寄り、もしくは接するものが確認される（図 19-8）。

平面形態も隅丸が主体で、角張るものは少ない。規模は、2 m 台の超小形から 8 m 以上の超大形まで多様である。

郡外日本海側（㉓-a・㉔地域）

㉓米代川上～中流域は細分 a の上流域のみ検討対象数を超えた。ここのカマド主軸方向は南～東位主体で、Ⅰ期と基本的に同方向を指す。設置位置が中央のものは抽出されなかった。㉓地域は、日本海側で最もカマドの中央設置率が高い地域であったが、当期以降 10% を超えることはなくなる。

図 20-1 は、平面規模 6 m 超の正方形で隅が明瞭に角張るタイプである。間仕切溝を有し、カマド向かって右（南）壁に下部構造を有する張出施設が設けられている。この遺構は、羽口、鉄滓の存在から鉄生産に係わる建物とされている。

ここで、Ⅲ期に埋没し上屋構造をそのまま残す稀有な事例である Ak-071 片貝家ノ下遺跡の竪穴建物形態を押さえておく。試掘調査のため全容は明らかでないが、Ⅲ期に埋没した建物の 1 棟は腰板を有し、平面形が角張る伏屋形式を呈していた。そのほか、噴火前すでに埋没していた竪穴も確認されており（写真 3）、これをみると隅丸の建物であったことがわかる。検出面および周辺断面の確認から、Ⅱ期埋没と推定される。

㉔青森平野周辺のカマド主軸方向はⅠ期と変わらず、南東位主体である。設置位置



写真 3 Ak-071 片貝家ノ下遺跡の竪穴建物（Ⅱ期）（筆者撮影）

も9割弱が左右いずれかに片寄るもので、変動は看取されない。平面形態について、4 m超のものは概ね隅が角張り、辺は直線的である（図 20-2）。これ以下のもの、特に3 m未満は隅丸で辺が曲線的である。Ao-109 新町野遺跡1号住居跡（図 20-3）のように張り出しを有するものがあり、これはカマド向かって左壁に位置する。どうやら太平洋側では張り出しが向かって右壁に構築されるものが多いようであり、差異といえる。

このほか、Ao-114 小三内遺跡および㊸津軽平野東縁～大釈迦丘陵の Ao-088 羽黒平（1）遺跡A区では、外周溝をともなう竪穴建物（Ⅱ期廃絶）が確認されている（図 20-4）。溝は全周せず、カマド側が切れる馬蹄形を呈する。小三内遺跡の竪穴部は2 m台とかなり小形である。なお、竪穴建物、掘立柱建物、外周溝の組み合わせによるいわゆる「3点セット」の建物が浪岡地区に現れるのは9世紀後半とされている（高橋前掲）。本論における時期区分ではⅣ期以前にあたるものが複数あり、これらはⅡ～Ⅲ期にすでに存在していたものと理解される。

ここで、平面形態に関する郡外日本海側と太平洋側の基本的な差異を確認しておく。日本海側に広く確認される直線・直角的な形態の建物は、太平洋側特に郡外では少ない。東北地方北部における当該事例の初現は出羽国域で、律令体制内の陸奥国域へも城柵設置と同時に波及したと考えられている。太平洋側は、隅丸方形を基調とする。十和田噴火後もこの図式は基本的に崩れない。

奥羽脊梁山脈はいつの時代も人間活動に影響（制約）を与える大きな地理的要因であり、平安期も例外ではないことを示す一つの事例といえる。

（3）Ⅳ～Ⅴ期

陸奥国域（①～④地域）

B-Tm 目視確認域外のため、Ⅳ期以降を統合して記述する。まず、カマド主軸方向に前期との大きな相違はなく、主として東～南東位を志向する。いっぽうで、中央壁に設置される割合は3割弱でⅠ期とほぼ同率であり、日本海側各地域より高率である。ただしⅠ期のように正中するものではない。例えば、④紫波地域 Iw-134 細谷地遺跡 RA39（図 20-5）における南・東位から西位への作り替え事例がそうである。

平面規模について、一辺3 m台以下の小形が多く、6 m以上の大形は少数であったことが伺われる。なお、①胆沢平野以南の Iw-222 伯済寺遺跡 SI06（図 20-6）は、報文（水沢市教育委員会 2002）によれば To-a 降灰後・流出前の構築事例とされている。すなわち、降灰後まもなく構築されたもので、Ⅳ期に属する例となる。

郡外太平洋側（⑧～⑬・⑮～⑰地域）

全域的な傾向として、平面規模が3 m台と小形で隅丸のものが多数構築されることが挙げられる。

⑧北上川上流域は B-Tm 目視確認域外のため、Ⅴ期以降に分類された遺構がない。よって、Ⅳ期以降を統合して記述する。当地域ではⅣ期以降に構築された竪穴建物が一定数確認されている。その多くはいわゆる「防御性集落」とされる Iw-100 子飼沢山遺跡と Iw-101 暮坪遺跡で検出されたもので、10世紀後半すなわち白頭山噴火後の所産

と考えられている。これはおもに南東位にカマド主軸をもち、設置位置は左右に片寄る。両遺跡を除いた傾向をみると、カマド主軸方向は北東～南位を向き、設置壁は左右に片寄る。つまり、当地域では十和田噴火後に至って「北西壁中央カマド」はみられなくなったといえる。

⑨安比川流域、⑩馬淵川上流域、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域、⑮久慈地域の各地域もⅤ期以降に区分した資料が少数にとどまるため、Ⅳ期以降の様相をまとめて述べる。

先に⑪地域について言及しておく。ここは第5章で示したとおり、十和田噴火後に集落が激減する地域である。Ⅳ期以降の検出遺構の大半は、いわゆる「防御性集落」とされる Iw-004 駒焼場遺跡のもので、白頭山噴火後の10世紀後半に属すると考えられている。十和田噴火後数十年を経て出現したものと推定されるが、これらはすべて旧来的な北西壁中央カマド・中央4本柱様式の建物ではなく、東～南壁で左右いずれかに片寄る様式のカマドを有する建物である。短煙道で長辺6m超の横長型が一定数存在する。同様に一辺6mを超える大形の堅穴は、⑨地域 Iw-067 上の山Ⅶ遺跡、⑧地域 Iw-100 子飼沢山遺跡および Iw-101 暮坪遺跡で確認されるが、これらはいずれも「防御性集落」という点で共通する。もう一つ、これら各遺跡では支柱穴がカマド設置壁へ片寄るタイプが存在するという点も共通する。

Ⅳ期以降の⑨安比川流域では、十和田噴火前に比してカマド主軸が南東を向く建物の比率が増加し、壁面中央設置率も低下する(図20-7)。⑩馬淵川上流域と⑮久慈地域でもこの新規様相建物が増加する。Ⅳ期以降構築の⑩地域 Iw-032 上野遺跡 BA48 号住居跡(図20-8)は、カマドの寄りに合わせて柱穴も南壁に接するタイプで、これは陸奥国域にⅠ期段階からみられた様式である。こういった要素も入りつつ、⑩・⑮地域におけるカマド主軸方向の主体は依然として北西位であり、壁面中央設置率は低下するものの3割を越す。ただし、正中性は強くない。

⑨安比川流域のⅣ期で注目すべき事例は、Iw-054 沼久保Ⅰ遺跡 VF-1 住居跡(図20-9)である。抽出された建物の規模が3m台主体の中で5m以上と比較的大型であること、柱穴配置がカマド反対壁に片寄るタイプであることが特徴である。このタイプはⅠ期以来⑪～⑱各地域の中で確認されていた在地性の強い様式であり、それを有する人々がⅣ期の⑨地域に存在したことを意味する事象である。さらに、Iw-045 大向上平遺跡ではⅣ期以降に構築された同タイプが複数確認されている(図20-10など)。⑨地域の北半部に古様相が連綿と続くこと、この点は非常に重要である。

⑬北上山地北部は、十和田噴火前に比してカマド主軸が北西位を向くものの比率が若干増加し、壁面中央設置率も同時に上がる。前述のとおり、⑩馬淵川上流域、⑮久慈地域、それに本地域と⑯八戸平野周辺が高率を示しており、この一帯は在地的様相を一定数包含する地域(⑬地域については移入による増加?)、換言すれば足並みを揃えた地域といえそうである。

その⑯八戸平野周辺では、図21-1のような北西壁中央タイプが確認される。同地域におけるカマドの壁面中央設置率は5割弱で、全地域を通じてⅣ期以降最も高比率で

ある。いっぽうで、他の太平洋側各地域と同様に東半を志向するものが増加する。なお、上述の図 21-1 岩ノ沢平遺跡 B 区 4 号竪穴住居跡は中央 4 本柱であり、旧来的様相をすべて有するが、平面形が若干ひしゃげてカマド反対壁が短い。これと酷似する事例が⑱地域 Ao-059 風穴遺跡でも確認できる。

⑰上北地域南部においてⅣ期以降の検出率が激減することは、第 5 章で既述した。その北に位置する⑱上北地域中部は、これも既述のとおり、⑰地域とは逆にⅣ期に集落が急増する。上述のような旧来的様式も当該期に存在するが、主体はカマド主軸が東～南位を向き、左右いずれかに片寄るタイプである（図 21-2）。なお、⑱地域における当該期の最大の特徴は、竪穴周囲に周堤が構築される事例が複数検出されることである（Ao-059 風穴遺跡 1 号住居跡など）。

同様に周堤検出率が高いのが、⑲上北地域北部である（図 21-3）。当地域も十和田噴火前は過疎であった。カマド主軸は南～南東位を向き、設置位置は左右に片寄るものが 9 割を超える。

郡外日本海側（⑳・㉓～㉗地域）

㉒能代平野周辺検出のカマドは、主軸方向は南位で左右いずれかに片寄るタイプでほぼ一貫している。壁柱で建つ側柱建物が多いことも特徴である。平面形は、3 m 以下の小形以外は㉓地域のⅡ～Ⅲ期と同様に直線的で四隅が直角を成す（図 21-4）。

その㉓米代川上～中流域であるが、細分 a の花輪盆地の様相はⅡ期と大差ない。細分 b の大館盆地は、カマド主軸が南東位を向き、左右いずれかに片寄るものが多数である。基本的に、両細分地域に大きな差異は確認されない。なお、平面形態もⅡ期と同様で、隅が明瞭に角張るタイプが大半を占める（図 21-5）。平面規模について、細分 b の Ak-036 坂下Ⅱ遺跡では 4 m 台が多数で規格がほぼ揃い（図 21-6）、6 m 弱が少数ある。Ak-038 釈迦内中台Ⅰ遺跡では 6 m 超の大形（図 21-7）と 3 m 台の小形に分化している。坂下Ⅱ遺跡では、数は少ないもののカマド設置部や右（南西）側壁に張り出しを有するものがある。いっぽう、細分 a 地域で最も北東に位置する小坂町域では、平面形が隅の丸いタイプが目立つ（図 21-8）。柱穴配置の特徴としては、支柱穴がカマド設置壁へ片寄るタイプが規模の大小を問わず確認される。また、㉒地域と同じく側柱建物が一定数存在する。これは規模 4 m 台以下に多い。その他、Ak-003 はりま館遺跡の大形住居跡（6 m 超）で間仕切溝が確認されている（図 21-9）。Ak-020 堪忍沢遺跡におけるⅢ期の大形住居（6 m 超）で確認された間仕切溝と同位置に構築されたものである。

津軽地方各地域のカマド主軸方向は基本的に南東位とその周辺を志向し、これはⅣ期以前と基本的に同傾向である。ただ、㉔津軽平野南部～南縁丘陵周辺では北を向くものが現れる。これは、Ao-082 李平下安原遺跡および Ao-084 前川遺跡におけるⅣ期以降構築事例で、他の時期には確認できない。壁面中央設置率は各地域・時期とも 10 数%以下と低い。平面形態は、小形のものを除き四隅が角張り、辺が直線的なタイプが主体を成す（図 22-1）。局所的な特徴か、㉕青森平野周辺の Ao-112 野木遺跡では平行四辺形が複数確認される。付属施設は、外周溝をとまなうものや外周溝＋掘立柱建

物のいわゆる3点セットが㉔津軽平野東縁～大釈迦丘陵、㉕青森平野周辺、㉖西津軽・日本海沿岸の各地域で確認される(図 22-2)。掘立柱建物は竪穴のカマド設置壁に隣接し、周溝は掘立柱建物側が開口するU字形を呈する。また、㉔・㉕地域では、竪穴外にのびる排水目的と考えられる溝が構築された事例が複数確認される(図 22-3)。柱穴配置では、㉔・㉕地域で支柱穴がカマド設置壁に片寄るものが複数確認できる。また、平面規模が6 m程度かそれ以上のタイプは側柱が備わる傾向が強い。

(4) VI期

白頭山噴火後の時期区分である。本論では主たる検討年代から外れるため、予察的にまとめておく。

郡外太平洋側

表 14・15 で示した統計から白頭山噴火前後の比較が可能なのは、㉑北上山地北部、㉒八戸平野周辺、㉓上北地域中部、㉔上北地域北部の4地域である。

㉑地域では、VI期以降も北西壁中央カマドの建物が残る。壁面中央設置率は低下せず4割強まで上がるが、軸方向の主体は北西ではなく南東・南西へと変わる。㉒地域もIV期からVI期に至って軸主体が東に変わり、こちらは壁面中央設置率も低下する。㉓・㉔両地域は大きな変化が確認されない。

次に平面形態をみる。㉓・㉔両地域を除くと、VI期の竪穴建物で平面形がある程度確認されたものは10棟に満たない。ここから全体を類推することは難しいため、各事例の特徴を挙げていく。㉑安比川流域、㉑北上山地北部、㉑久慈地域の各地では6 m超の大形竪穴建物が各1棟検出され、これらはいずれもVI期以降構築である。うち、全体形が分かる2例はいずれも平面横長である。また、煙道を確認した2例はいずれも短煙道で、壁中央付近に設置されている。特に、㉑地域 Iw-053 桂平Ⅱ遺跡VID-1 住居跡(図 22-4)は、正中し中央4本柱をもつ。在地的な要素をすべて備えた竪穴建物が、白頭山噴火以後の当地に建てられたことの意味を重要視する必要がある。このほか、㉑・㉒の両地域で3 m前後の竪穴建物が複数確認されている。

㉓・㉔両地域は当該期の検出例がかなり多い。カマドの主軸方向、設置位置に前代と大きな変化はないが、短煙道が増加する。いっぽうで平面形態や構造には大きな変化がある。両地域ともに掘立柱建物の併設例が確認され、これはいずれもカマド設置壁側に構築されている。竪穴部は隅が角張り、辺が直線的である。当該期に至って、日本海側の様式が流入してきたものと推定される。規模は多くが5 m超で、7 m超が一定数確認されるなど、V期までに比して大型化が進むようである。横長の比率は規模を問わず少ない。また、規模とは関係なく張り出しを有するものがあり、いずれもカマド向かって右壁に位置するという特徴がある(図 22-5)。張り出しの位置について、先例としてIII期のAk-020 堪忍沢遺跡SI04が挙げられる(図 20-1)。また、Ak-036 坂下Ⅱ遺跡ではIV期以降の構築例があり、これとも共通する。この2例はいずれも㉑米代川上～中流域であり、㉑地域と㉓・㉔地域とのつながりが看取される。

さらに、㉑地域では竪穴建物に掘立柱建物と周堤が付属する、いわゆる3点セットが多数確認されている(図 23-1)。周堤は、掘立柱建物側が切れるU字型を呈する。

堅穴建物単独型でも周堤は確認されており、切れ目なくほぼ全周するものも相当数ある（図 22-6）。このタイプの堅穴建物の特徴として、平面規模 5 m 以下が多いこと、直線的でないものが多いことが挙げられる。

柱穴配置について、⑱・⑲両地域で側柱構造が確認されるようになる。内部柱については、⑲地域でカマド設置壁側に片寄るものが増加する。

郡外日本海側

カマド主軸方向・設置位置の統計は、㉔津軽平野南部～南縁丘陵周辺、㉕津軽平野東縁～大釈迦丘陵、㉖青森平野周辺の 3 地域で実施した。前述のとおり、㉔地域はⅣ期以降に北を向くものが現れるが、Ⅵ期以降は東位主体となる。㉖地域は前代の南東～南位主体から東位主体に変化する。これが何に起因するものか、現時点では言及できない。なお、㉕地域には変化がみられない。

平面形態について、㉗能代平野周辺の事例は四隅が明瞭に角張る側柱構造の建物が主体である（図 23-2）。この傾向は前代と変わらない。Ak-048 上の山Ⅱ遺跡では、平面規模が一辺 5.5m 前後のタイプと 4～4.5m のタイプに揃う。

現青森地域の各地域においても、小形のものを除き角張り直線的な形態が主体を成す。この傾向はⅣ～Ⅴ期と同様である。当該期の大きな特徴は、外周溝付属あるいは外周溝と掘立柱建物付属のいわゆる 3 点セットが多数確認されることであろう。掘立柱建物の配置と外周溝の形態は、前代までと同様である。ただし、Ⅳ期からⅥ期にかけて、堅穴建物の規模が大型化する傾向が看取される。他方、㉔地域 Ao-084 前川遺跡の検出遺構（図 23-3・4）はいずれも B-Tm 降下後構築であるが、4 m 前後で隅丸かつ非直線的な形態を成し、当該期の津軽地方では異質である。

4 小結—住まいの形態からみた十和田 10 世紀噴火前後の人的動態—

（1）堅穴建物建築様式にみる「律令的建物」と「在地的建物」

ここまで、To-a・B-Tm テフラという広域的絶対年代指標を用いて構築した堅穴建物廃絶（構築）時期データを基に、東北地方北部各地域における当該遺構形態の特徴および変遷把握を行ってきた。テフラを年代指標とすることによって、噴火後の変化があればそれを的確に捉えることができる。当然のことだが、火山噴火イベントを画期とした変動は、唯一、火山噴出物を年代指標とした場合にのみ検出することが可能となる。

今日までの東北地方北部における平安期研究においては、県を跨ぐような広域動態をみようとする場合、その目的が火山噴火イベントに起因する動態研究であっても、まず遺物を年代指標とした広域編年を組み、テフラは補完的に利用するレベルにとどまっていた。なぜなら、テフラは重要な年代指標とはいえ、これだけでは細かい時期区分の設定が難しく、編年が叶わないと思われていたからである。加えて、「テフラ」というフィルターをかけることで、物質文化的な重要度とは関係なく資料がふるい落とされる。しかし、この作業を経て初めて絶対年代を基に各地域の様相を比較検討することが可能となるのであり、ここから諸様相の考察へ派生させていく道が拓ける。

この順序が最重要である。そして本稿では、上述のような成果を示すことができた。

以下にその成果をまとめるが、議論を明確にするために、ここで一つの定義付けを行う。カマド主軸方向と設置位置の違いによる竪穴建物建築様式の区分である。少なくとも7～8世紀まで、東北地方北部に構築される竪穴建物のカマド構築位置の主体は、北壁中央であった。主軸方向が東位や南位、壁左右に寄る様式が出現・増加するのは、城柵設置すなわち律令国家の北進に係わる変化とされている（八木 2009）。これをそのまま10世紀段階の動態に援用して、イコール律令国家民の構築遺構とすることはできないが、いずれ建築作法としての律令の様式ということはできよう。よって、この様式による建物を「律令的建物」と呼ぶ。いっぽうの北（～北西）壁中央タイプは、在地的様相の強い様式であるから、この様式による建物を「在地的建物」と呼ぶ。

各地域における両者の様相から大きな線引きを行い、他の属性、すなわち柱穴配置や平面形態、付属施設の情報を加味して、さらに細分化する。

（2）両建物様式からみる十和田10世紀噴火前後の社会動態

十和田10世紀噴火を境にしたカマド主軸方向・設置位置の変化、すなわち竪穴建物建築作法の変化については、以下7種の動態で説明できる。

A 十和田噴火前、すでに律令的建物が半数以上あり、噴火後は在地的建物をほぼ凌駕する状態となる地域。

→⑧北上川上流域

B 十和田噴火前、すでに律令的建物が半数以上あり、噴火後はその比率が主となる地域。

→⑨安比川流域

ただし、在地的建物の新築事例(Iw-045 大向上平遺跡3号住居跡など)もあり、両者が並存している状態である。

C 十和田噴火前、すでに律令的建物が半数程度あり、噴火後も大きな変動がみられない地域。

→⑬北上山地北部

この地域は、白頭山噴火後のVI期まで在地的建物が根強く残る。周辺の⑩・⑮・⑯地域と共通性を有する。

D 十和田噴火前は在地的建物が主であったが、噴火後は律令的建物が主となる地域。

→⑱上北地域中部

噴火前、主としてI期に存在した集落は内陸部の三本木原周辺に在って、噴火後もここに在地的建物が作られる。ただし、地域全体からみれば少数で、より大規模な移入が沿岸部の小川原湖湖沼群南部に起こった。なお、本論集成では小川原湖湖沼群南部における白頭山噴火後の竪穴建物は検出されておらず、集落が減少したと考えられる。三本木原周辺は継続する。

E 十和田噴火前は在地的建物が主であったが、噴火後は集落自体がほとんど確認されなくなる地域。

→⑩馬淵川中流域南部・十文字川流域、⑰上北地域南部

⑩地域は一定期間を経た後、律令の様式が移入する。これは Iw-004 駒焼場遺跡などいわゆる「防御性集落」で、10 世紀後半期のことと理解される。また、⑫地域は第 5 章で述べたとおり噴火以前に集落が縮小しており、連関性はない。

F 十和田噴火前後とも主体は在地的建物であるが、噴火後は律令的建物の比率が増加する地域。

→⑩馬淵川上流域、⑮久慈地域、⑯八戸平野周辺

3 地域の中で、⑩地域は噴火後も在地的建物の比率が比較的高い。⑯地域は、白頭山噴火前後を比較すると噴火後に律令的建物が増加しており、これが主となったようである。いずれ、在地的な竪穴建物建築様式を他より長く保持していたのは、この 3 地域と⑬北上山地北部であったといえる。そして、十和田噴火後に集落が急減する⑩馬淵川中流域南部・十文字川流域と⑰上北地域南部から在地的建築様式を用いる住民が避難（移住）した先は、これら各地域であったと考えられる。

G 噴火前は過疎であり、噴火後に律令的建物が主となる地域。

→⑱上北地域北部

なお、⑱地域は白頭山噴火後の集落増加が確認できる。南に隣接する⑲上北地域中部の動態、そして遺構形態の同一性を合わせて考えれば、両者間に移動があった可能性が極めて高い。

これら A～G の各動態は、建築作法としての律令の様式と在地的様式を用いる人々の十和田 10 世紀噴火後の動態と言い換えることができる。前述のとおり、律令的建物とはあくまで律令国家側で生まれた建築様式による建物を示すものであって、すべて律令国家民が構築した建物という意味ではない。次章で遺物について述べるが、建物は律令的でも生活用具は在地（蝦夷）的という事象はめずらしくなく、またその逆もある。おそらく、蝦夷社会内における律令文化の受入度合いが各地域集団で異なり、その人々が十和田噴火後に行動した結果が、これら A～G の動態として現れたのだと理解される。

さらに、特徴的な柱穴配置や平面形態、付属施設の情報から以下の補足を加えておく。

(ア) II～III 期における⑳能代平野周辺と㉑米代川上～中流域の関係

㉑地域は I 期と II～III 期でカマド主軸方向、設置位置に相違があることは前述のとおりである。では、II～III 期の様相が当地域でどのようにして起こったのか。

㉑地域の下流にある㉒地域は町田・新井（2003）が示した To-a 等層厚線図の 0 cm 線付近にあたり、実際、竪穴建物で To-a が目視確認された例は 1 件のみである。よって、本論方法では I～III 期の様相をうかがうことはできない。当該地域の様相については宇田川浩一による詳細な考察があり（宇田川 2014）、能代地域の遺跡が 9 世紀末～10 世紀初頭（元慶年間～To-a 降灰）に急増し、その遺跡は 10 世紀前葉（To-a～B-Tm 降灰）まで継続するとしている。これを援用すれば、㉒・㉑両地域は II～III 期に同じ

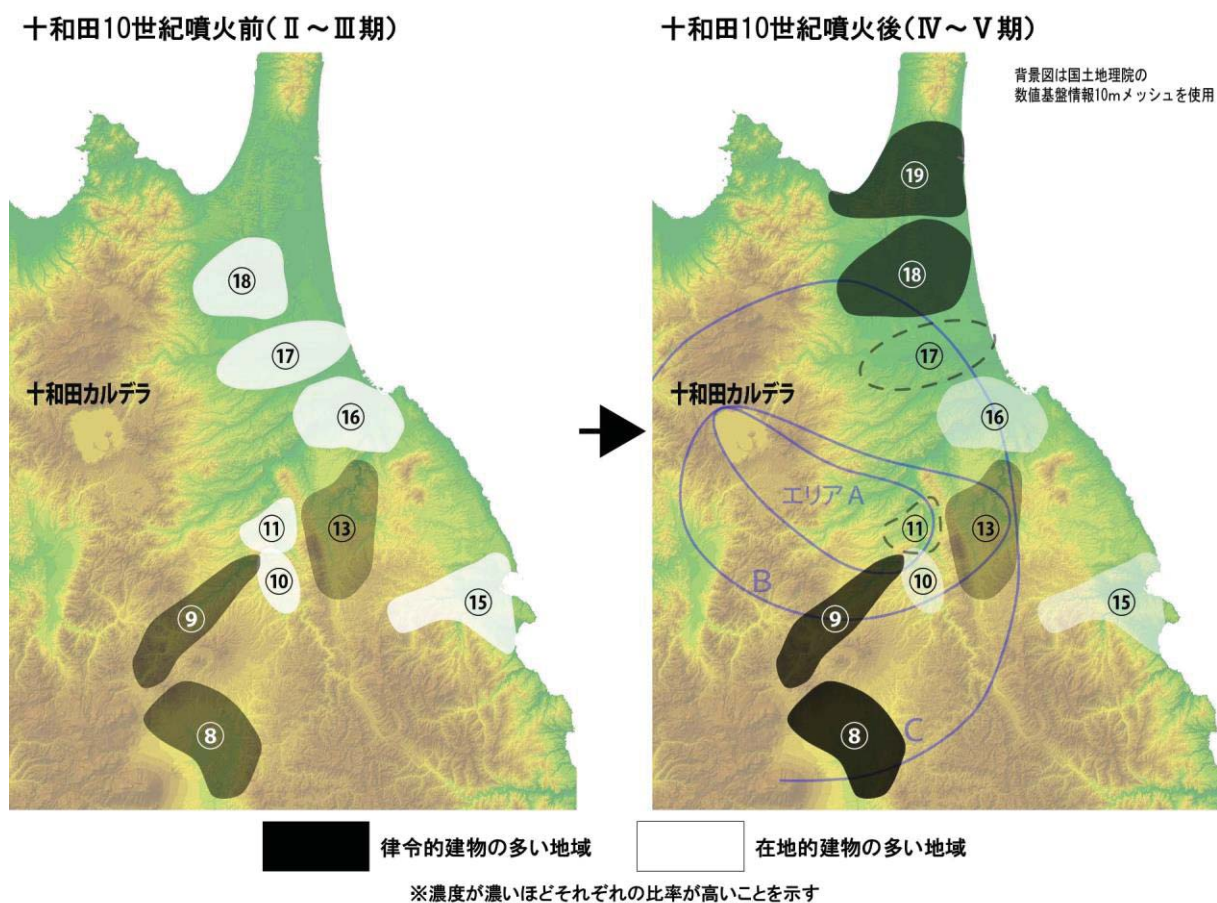


図24 建物様式にみる十和田10世紀噴火前後の動態

ような動きをしていたといえる。これは律令の様式の北進であり、地域的・時期的にはやはり元慶の乱の影響が要因の一つとして挙げてこよう。なお、両地域ともⅡ～Ⅲ期とⅣ期に大きな変化はみられない。

(イ) Ⅱ～Ⅲ期に太平洋側諸地域で増加する律令的建物の出自

太平洋側の⑨安比川流域、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域、⑬北上山地北部、⑮久慈地域の各地域でもⅡ～Ⅲ期に律令的建物が増加している。これが元慶の乱すなわち日本海側からの移動につながるかといえば、⑬米代川上～中流域に隣接する⑨地域についてはIw-049 飛鳥台地 I 遺跡 HIV-6 号住居跡 (図 19-7) など類似性が確認されることから、「ある」といえる。他地域は明瞭に現れず、太平洋側での北進が可能性として高い。

(ウ) カマドと柱がともに側壁へ寄るタイプの系譜

カマドの寄りとともに柱も側壁側へ寄るタイプの建物 (図 19-2・3、20-8) は、出羽国域では確認されておらず、陸奥国域から北進した系譜といえる。ただし、⑮八戸平野周辺より北では確認されず、いっぽうで日本海側の⑬米代川上～中流域以北には存在する。⑨安比川流域から⑬地域へ、さらに北へというルートで伝わったのだろう。この動態に関しては、木村高の土師器生産にかかわる論考が興味深い (木村 2016)。

木村は、青森県域におけるロクロピットの主体的な分布と出土遺物にみられる関東地方との関連をうかがわせる要素などから、隠川（4）・隠川（12）の両遺跡（㉕津軽平野東縁～大釈迦丘陵）は東北地方中南部太平洋側～関東地方の要素が濃い集落とみなしている。

（エ）在地的建物の系譜と避難・移住行動

カマド主軸方向が北周辺を向き、壁中央に設置される形態の建物は、9世紀中葉の②和賀地域でも確認されている（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2016）。十和田噴火前の⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域、⑬北上山地北部、⑯八戸平野周辺、⑰上北地域南部、⑱上北地域中部で確認されるこの様式は、十和田噴火後も⑨安比川流域でしばらくの間残る。また、動態Fの⑩・⑮・⑯各地域、そして動態Cの⑬地域でⅣ期以降も相当数が継続し、⑱地域でもその存在が確認できる。この一帯は、濃度の違いこそあれ在地的様式を維持していた地域であり、十和田噴火イベントに対して避難・移住を選択した⑪・⑰地域の「蝦夷」の行き先と考えられる。

（オ）周堤

十和田噴火後に⑱上北地域中部や⑲上北地域北部に移住した人々が構築した竪穴建物には、周堤が付される場合がある。周堤の存在自体は時代的にも地域的にもこれに限ったことではないが、盛土であるため検出が難しいとされる。⑱・⑲地域で多数検出されたのは単純に検出しやすかっただけで、本来特別な施設ではないという見方もある。ただし、当地域の事例は竪穴と周堤の間に空間を持っているものが相当数あり、例えば伏屋形式の建物に構築される周堤とは異なる構造だったと思われる。いずれ、十和田噴火後のこの地域に忽然と現れるこの一群を、火山噴火イベントと切り離して考えることはできない。

さらに、竪穴建物に掘立柱建物と周堤が付随するいわゆる「3点セット」の発生に関する問題がある。3点セットが生じる前段階に図21-3のような竪穴建物+周堤タイプがみられるが、この竪穴建物平面形態は同時期の日本海側に存在した竪穴建物+掘立柱建物+外周溝のそれとは異なる。太平洋側の建築作法に拠っていると考えられる。これが3点セットに発展する過程で日本海側集団（㉖青森平野周辺であろう）の関与があったはずで、竪穴平面形態の直線・直角化や側柱建物の増加もそれを物語っている。

以上、竪穴建物の形態から十和田10世紀噴火後における人的動態を地域単位で探ってきた。物質文化は、郡外でも地域によって律令的あるいは在地（蝦夷）的な濃度が異なり、十和田噴火後に複雑な動きをみせていることが明らかとなってきた。次章では遺物に焦点を当て、この問題をさらに検討する。

註

- 1) 北東北古代集落遺跡研究会2014の5～8頁。
- 2) 北東北古代集落遺跡研究会2014の3～5頁。

3) 高橋学 (2015) による。

第7章 9～10世紀における土器の変化と十和田10世紀噴火 —土師器甕に着目して—

1 前提

(1) 分析対象器種の選定とその理由

本章では、十和田10世紀噴火前後の人的動態を探るための一つのツールとして、土器を扱う。

本論の対象域である東北地方北部3県の古代土器研究は、土師器、須恵器、あるいは擦文土器といった種別面から、また、律令国家体制内（南方）とその外（北方）、奥羽脊梁山脈を挟んだ東西差などの地域差を視点とした議論がなされてきた。種別面では、最も出土数量が多く、成形・調整技法の多様性およびそれが製作・使用集団の差異を示すという観点から、土師器の議論が活発である。ただし、「赤焼土器」の議論が示すように、いわゆる非内黒の一群に対してはその性格や呼称の見解が複数あり、未だに一致をみていない¹⁾。これについて、本論では以下のような区分と呼称を用いる。

○土師器…酸化焰焼成されたもの。成形・調整技法で以下のように分ける。

- ・非ロクロ土師器…成形にロクロを用いず、酸化焰焼成されたもの。基本的に、食膳具には黒色処理がなされる。以下、「非ロクロ」とも表記する。
- ・ロクロ土師器（内黒）…ロクロ成形・酸化焰焼成・黒色処理されたもの。内面にロクロナデ以外の調整痕を有する。以下、「ロクロ内黒」とも表記する²⁾。
- ・ロクロ土師器（非内黒）…ロクロ成形・酸化焰焼成されたもの。内面にロクロナデ以外の調整痕を有しない。いわゆる「赤焼土器」「あかやき土器」「赤褐色土器³⁾」。以下、「ロクロ非内黒」とも表記する。

○須恵器…還元焰焼成されたもの。

これらはさらに器形から食膳具（坏、碗、皿など）、煮炊具（甕、鍋など）、貯蔵具（壺、大甕など）に大別される。

本論で取り扱うのは、この中の土師器甕である。煮炊具である土師器甕は、食膳具に対して変化が鈍く、個体差が大きい器種とされ、形態編年には不向きといわれる。そのいっぽうで、在地性が強い器種と考えられている。八木光則は甕の在り方について、おもに煮炊という用途から外見より機能的な形状が求められ、型式変化に乏しく保守性が強いものとし、坏が新たな文化要素を表現しているのに対して、甕は基層的な生活因習に裏付けられている、と考えた。例として陸奥国北端に設置された城柵を取り上げ、胆沢城はロクロ主体、徳丹城は非ロクロ主体とするものが一部にあり、志波城は土師器甕のほぼ半数が非ロクロというように様相が異なることを挙げ、城柵支配政策にバラつきがあったことを述べている（八木 2006a）。さらに別稿（八木 2006b）では、ロクロ甕類（八木のいう赤焼甕類）の製作は「城柵が主導したことが明らかで、その製作は須恵器などとともに城柵の管理下にあったとみられる。一般集落では遅れて普及し、また存在しても非ロクロ甕類と使い分ける集落も多い。陸奥側で一般集落に赤焼甕類が普及するのは9世紀第3四半期で、これは胆沢城が陸奥北半を管理する

唯一の城柵として機能し、政庁周辺の饗給官衙が整備された時期にあたる。よって、在地の蝦夷社会へ朝貢＝饗給関係を通じて赤焼甕を普及させていった」と考えている。さらに、同じロクロ成形品でも、甕が坏のように広範に普及しなかった理由について、「土師器生産は集落ごとに家内生産的に行われていたと考えられるが、小型でロクロ成形が容易な坏とは異なり、大型品の甕は回転力をつけるのが難しく、ある程度の設備と熟練が要求され専門工人による必要があった。よって管理生産されていたロクロ甕は十分な供給体制が取られず、また一般集落では従来の非ロクロ甕で十分であった」と説いている。

食生活に密着したその用途から、土器の中でも保守性・在地性が強いとされる甕など煮炊具は、各遺跡・集団の社会的位置を捉える上で重要な指標になるものと考えられる。

なにより、分析対象物には対象地域すべてに存在し相互比較できるものを選定しなければならぬが、これに適した器種が土師器甕である。筆者は以前、青森県域と秋田県域における To-a・B-Tm 堆積堅穴建物の集成とその共伴土器（床面、床面直上、カマド等出土）の編年検討を行ったが（丸山 2012・2013）、土師器食膳具は比較検討に十分な資料数が得られなかった。テフラという絶対年代指標を基準として、それが介在し廃絶（構築）年代が特定された堅穴建物の共伴遺物を対象資料とする、という研究方法のフィルターをかけていることが理由の一つだが、そもそも、本論の対象である十和田カルデラ周辺各地域では 10 世紀以降になると出土土器に占める食膳具の比率が下がる傾向がある。資料の性格からも、また統計的な検討を行うための数量面からも、土師器甕が最適な分析対象なのである。

（2）東北地方北部における平安期の土師器煮炊具編年研究の状況

土師器甕の具体的な分析・検討を行う前に、東北地方北部における平安期の土師器編年研究について、煮炊具を中心に概観する。特に注目する点は、形態変化とその時期、煮炊具に対するロクロ技術の使用動向とその地域差である。なお、既存研究は各県域あるいは県域内の地域細分単位で行われているものが多いため、青森、岩手、秋田の県域ごとにみていく。

青森県域

青森県域は岩手・秋田両県と異なり城柵遺跡が存在せず、絶対年代を有し長期にわたる連続的な編年が組まれた単一遺跡がない。しかし、逆にそれが各地の一般集落における相対的な編年活動を促したといえる。青森県は奥羽脊梁山脈を挟んで東の南部地方、西の津軽地方に二大別されるが、遺物研究においてもこの区分けが用いられることが多い。

煮炊具は、その性格から地域問わず基本的に内面黒色処理が施されないため、イコール非内黒の土師器となる。地域性をみる第一の指標はロクロ成形か否かであり、その組成が注目されてきた。八木光則は甕類の組成比率について、津軽・都母⁴⁾ともに 9～10 世紀を通じて非ロクロ成形品が主体を成すとしている（八木 2006b）。ロクロ成形品だけに限れば、南部地方より津軽地方のほうが、組成比率が高い。南部地方のロ

クロ成形甕は小型および鉢型が大半であり、長胴甕に関しては9世紀代の奥入瀬川流域資料を除き少ない。いっぽう、津軽地方では多様な器種が存在する。

非ロクロ成形甕の器形変化については、口縁部形態を指標として論じられることが多いが、最も顕著なのは長→短という変化である。津軽地方におけるこの変化の時期的傾向について、齋藤淳は9世紀中葉から（齋藤 2001）、三浦圭介・工藤清泰は10世紀前半からと述べている（三浦 1995、工藤 2000）。羽柴直人は南部地方の下田町（現おいらせ町）中野平遺跡出土遺物の検討を行ったなかで、第5群（10世紀前半）の土器にこの傾向が表れるとした（羽柴 1991）。宇部則保は、全県的に10世紀前半を契機と捉えている（宇部 2005）。ただし、変化過程の詳細や地域性の検討は進んでいない。この他の形態変化指標として、頸部の横走沈線・段差の有無がある。8世紀までは普遍的にみられたこの様相について、羽柴は中野平遺跡第3群（9世紀前半）資料までその存在を認めている。齋藤は、津軽地方では9世紀後葉～10世紀前葉までに消滅するという見解を示している。

ロクロ成形甕の器形変化についても、口縁部形態（開き具合と長さ）が指標とされる。なお、ロクロ成形甕は10世紀に減少するというのが各研究者の共通した見解であるが、その時期は10世紀前半以降（工藤 1998）、10世紀中葉（齋藤前掲、岩井 2009）と複数説がある。

鍋についてはロクロの使用・不使用問わず出土数が少なく、器形に関する論考もきわめて少ない⁵⁾。分布については、津軽地方を中心に上北地域の一部でも認められ、三八地域では出土例がないという宇部（前掲）の指摘がある。出現時期は、津軽地方では9世紀後半（三浦・工藤各前掲、岩井 2008・前掲）、上北地域では10世紀前半（宇部前掲）、終末は、三浦が10世紀中葉、工藤が10世紀後半までと想定している。

食膳具、煮炊具以外の器種として、器内面に黒色処理の施された壺、棒状の持ち手が付いた把手付がある。内黒壺の出現と一般化時期に関しては諸説あり、津軽地方に関しては齋藤が10世紀中葉、三浦が同中葉～後葉⁶⁾、岩井が同後葉と推定している（各前掲）。南部地域は出土例が比較的少なく、詳細な検討例はない。全県的な傾向として、宇部（前掲）は両器種とも10世紀後半に置いている。

岩手県域

岩手県域には胆沢城跡、志波城跡、徳丹城跡と3つの古代城柵遺跡があり、それぞれで土器の特徴把握が行われてきた。また、これら城柵設置時期である9世紀初頭が当該地域におけるロクロ導入時期と考えられており、在地集落への波及過程が議論の対象となってきた。城柵はいわゆる一般集落とは異質の存在であり、同時期存在の在地集落とは遺物組成が異なっていたと考えるのが普通である。城柵出土遺物は編年の軸や基点になる重要な存在だが、それをそのまま在地集落に摘要することには問題があり、そのタイムラグをどう解釈するかが課題となっている。この問題は秋田県域でも同様である。なお、岩手県域で10世紀代まで編年が可能な城柵は胆沢城のみで、以北は確固たる基軸が存在しない。

なお、県域内の地域区分は、律令国家の郡制域内である県央部を境に南北二大別さ

れることが多い。

絶対年代を持たせた全県的な編年を最初に示したのは、高橋信雄（1982）である。9世紀末から10世紀代における北上川中流域と県北部の煮炊具の相違について、前者は体部上半がロクロ調整された甕が多数あり、後者は非ロクロの雑な調整の甕であること、そしてこの非ロクロ甕が全器種組成の主体を占めるとした。

県央以南の地域すなわち郡制域内は、上述のとおり城柵遺跡を基軸に編年が組まれてきた。八木光則（1981）は、志波城跡郭内の竪穴住居出土土器を胆沢城跡出土土器と比較して年代を決定し、これを盛岡周辺の遺跡出土遺物に適応させ編年を行った。これによれば、非ロクロ甕は9世紀後半に組成比率が減少し、9世紀前半まで主体であった頸部有段がほとんどなくなって無段と頸部が短く外反する器形が主体となり、10世紀以降はさらに減少する。ロクロ甕は、9世紀前半まで多かったタタキ成形が9世紀後半に減少し、10世紀になると組成比率が増加し器種も増えるという。10世紀後半については、別稿（八木1989）で甕自体が僅少になるとしている。

なお、志波城跡における坏類の比率は、須恵器が6.75、ロクロ土師器非内黒（八木のいうあかやき土器）が2.25、ロクロ土師器内黒（同土師器）が1で、周辺遺跡も含めれば9世紀前半は須恵器が主体、同後半は須恵器が減少しロクロ内黒と同非内黒が増加しほぼ同量、10世紀にはロクロ非内黒がさらに増加してロクロ内黒は減少、須恵器は激減するという。10世紀後半では、須恵器1：ロクロ非内黒10：ロクロ内黒1という比率を示している。

さらに八木は、斯波郡（盛岡周辺）と爾薩体（二戸周辺）の土器を把握した中で、次のような様相と相違点を挙げている（八木1993）。9世紀後半の斯波郡における非ロクロ甕とロクロ甕の比率はほぼ同じで、前者は頸部の段が9世紀前半に比して不明瞭になり、9世紀後半の後半（筆者注：9世紀第4四半期のことか）に口縁部が短く強く外反～外湾するものが多くなる。この変化は爾薩体でも同様にみられるが、ロクロ甕の組成自体が少ない。10世紀前半、斯波郡ではロクロ甕の組成が急増し、非ロクロ甕の器形は口縁部が緩やかに短く外反するものとなる。いっぽうの爾薩体は非ロクロ甕が大多数を占め、組成面で斯波郡と大きく異なる。非ロクロ甕の器形は口縁部が緩やかに短く外反～外湾するもので、これは斯波郡と同傾向である。10世紀後半になると、斯波郡では甕自体が僅少となるが爾薩体では存続し、ロクロ甕の比率が増す。器形は非ロクロ・ロクロともに口縁部が短く外反するものとなるという。

県北部、すなわち郡制地域以北の研究は、高田和徳（1981）が一戸地域の資料について、関豊（1983）が二戸地域の資料について発掘調査報告書の中でまとめている。両者とも基本経過は同様である。以下、煮炊具に関する高田の記述を要約すると、9世紀後半はすべて非ロクロ成形で、長胴甕は9世紀前半に比して口縁がやや短く外反し、小甕は口縁が短く屈曲する。10世紀前半に比定した資料の年代的根拠は遺構内にブロック状堆積したTo-aであり、すべて非ロクロ成形で、甕は大きさ問わず口縁が短く屈曲し、ケズリ調整が顕著なことを挙げている。10世紀後半以降もすべて非ロクロ成形で、長胴甕と小甕は口縁がごく短く屈曲し、ケズリ調整であるとした。

ロクロ成形甕に関する論考では、器形と製作技法の違いから製作集団や系譜を探るものが伊藤博幸（2004）によって示されている。陸奥国側で出土する丸底の甕は北陸地方～出羽方面からの伝播とされるが、底部製作技法が叩き出しで内面当て具痕跡が平行線文のものは出羽国独自の手法であり（利部 1997）、9世紀中葉以降はこの「出羽型甕」のみになるという。この点から、陸奥国（斯波から和我地方に限られる）に対する9世紀中葉以降の出羽方面からの関与は、北陸地方を含めた支援体制が停止し、おもに出羽国のみでの支援体制に転換したと解した。なお、北陸・出羽方面に通有的な「北陸型甕」が志波城跡・徳丹城跡周辺から出土していることから、両城柵および周辺集落の経営維持に北陸―出羽―払田柵が関与していたと考えている。いっぽうの「出羽型甕」は青森県上北地域の中野平遺跡（9世紀中葉～後半）とふくべ(3)遺跡（9世紀後半？）でも出土しており、出羽国との関係を示す証左とした。

また、伊藤はこの「出羽型甕」と、ロクロ成形・平底でタタキ成形が入る「陸奥型甕⁷⁾」、非ロクロ成形・平底の「北奥型甕」の9世紀における分布から、各製作集団相互の交通、交流の在り方を検討した（伊藤 2006）。これによれば、「陸奥型甕」は9世紀初頭に須恵器製作（窯業生産）を掌握していた城柵官衙主導のもとで作られ、胆沢城跡・志波城跡および各周辺集落に流通・分布し、9世紀前半～中葉には客体的ではあるが令制外の地域（太平洋側では奥入瀬川以南、西部では津軽地方）にも点在分布する。上述のとおり「出羽型甕」の令制外域分布時期は9世紀中葉～後半であり（太平洋側では奥入瀬川以南、西部では津軽地方、日本海側では能代地方）、この時期差から9世紀前半と後半で陸奥・出羽から令制外域への国家的関与に温度差があることを示唆した。また、令制外域の主体はあくまで「北奥型甕」であり、ロクロ甕2種の分布位置から当該期の律令制的交流関係の多様性を看取するとともに、逆にその局所性から不安定さを読んでいる。いっぽう、「北奥型甕」の継続性から律令制的土器様式に転化せず、独自性を持ち続けたことも指摘した。

秋田県域

秋田県域における当該期の土師器編年研究は、秋田城跡と払田柵跡、二つの城柵出土遺物を中心にその調査担当者らによって進められてきたといえる。秋田城跡出土土器を主体とした編年の構築は、新藤靖、伊藤武士らによって（新藤 2002、伊藤 2008 など）、払田柵跡出土土器を主体とした編年は、船木義勝、高橋学らによって（船木 1985、高橋 2009 など）それぞれ検討されてきた。

そのいっぽうで、県全域資料を概観した例は少ない。城柵は特殊な遺跡であり、一般集落、特に在地集落出土資料と一概に比較できないことがその要因であろう。そのような中で、小松正夫は県域資料を概観し、南北の差異を意識した記述を行っている（小松 1996）。この南北とは、城柵支配圏内（南）・圏外（北）という意味合いをもつ。伊藤武士（1996・1997）も出羽全域を対象とした編年で、秋田城跡、払田柵跡、横手地域や能代地域の資料を扱っているが、県北部内陸、米代川流域の資料は含まれていない。県北内陸の資料に関しては、新海和宏が To-a 降下後の遺構・遺物が多量に出土した大館市狼穴IV遺跡（新海 2005）や同釈迦内中台 I 遺跡（新海 2008）の資料編年を

行っている。これらをもとに、9世紀後半から10世紀の煮炊具研究動向をまとめる。

9世紀後葉、ロクロ成形品に丸底長胴甕があることは、伊藤、小松とも指摘しており、小松はこれを県南半の特徴としている（小松前掲）。伊藤によれば、当該期に長胴甕（丸底・平底）と小型甕（平底）のセット関係が成立し主体を占め、秋田城跡の場合は9世紀第1四半期から大型の丸底長胴甕と平底の小型甕のセットがあるという。第2四半期には大・小型とも口唇部が最も発達して端部を大きく挽き出すこと、第3四半期には丸底長胴甕の口縁端部形態が一転して単純に内傾するものが増し、作りが厚くなること、第4四半期にはさらに厚ぼったくすることを指摘している（伊藤2008）。いっぽう、県北半の様相に関して小松は、平底で縦方向の手持ちケズリが多いこと、南半に比して非ロクロ成形品が多く、口縁部が強く外反する器形で粗いケズリが施されると述べている（小松前掲）。

10世紀前半に関する伊藤の指摘は、ロクロ成形の長胴甕・小型甕と鍋・鉢が存続し、特に鍋が増加すること、長胴甕の口縁部が10～11世紀にかけて作りが単純化する傾向にあることなどである。県南半の10世紀後半はロクロ・非ロクロとも資料が少なく様相が不明確であり、官衙とその周辺では10世紀中葉頃に鉄鍋へ変化した可能性を指摘している。非ロクロの長胴甕、鍋・鉢は秋田県北部以北で多く、県南半でも集落遺跡で10世紀代を通じ少量存続するという（伊藤1997）。小松は県北半のロクロ成形品に関して、口縁部外反後上方に屈曲する形態で、上半部ロクロ整形、下半部縦方向のケズリの平底という特徴を示し、これを南半との相違点としている。また、非ロクロ成形品は南半でほとんど姿を消し、北半では口縁部が短く外反して最大径が口縁部か胴部上半にある器形であること、粗い縦方向のケズリ、ナデ調整で、胎土に多くの砂粒を含むこと、底部木葉痕の他に砂底（米代川流域に多）がみられること、鍋が盛行することを挙げている（小松前掲）。

10世紀後半に関して小松は、ロクロ成形品は減少すること、北半の非ロクロ成形品は甕口縁部がさらに短・小で外反するものと粘土紐混の残る粗雑な作りで口縁部がほぼ直立する二種があること、調整は縦位ケズリ、底部圧痕は砂底が多いこと、把手付土器の出現（11世紀に増加）を指摘している（小松前掲）。

また、新海は釈迦内中台I遺跡の資料について、口縁部側面が平坦化されるロクロ甕から非ロクロで口縁部外反が強く長く反るものへ、さらに口縁部外反が弱く短いものへと組成主体が変化し、10世紀末～11世紀初頭には口縁部が直立気味に立ち上がるものが主体となるとした。なお、この段階に至って把手付土器がともなうという（新海2008）。

広域研究

最後に、県域を超えた広域研究事例を2つ挙げる。一つは、岩手・秋田県北・青森を対象地域として、赤焼土器（ロクロ土師器非内黒）の出土割合からその普及過程を比較し、北奥羽の9・10世紀における東西差・南北差を概観して重層的な地域社会の形成過程を明らかにしようとした八木光則の仕事である（八木2006b）。ここから煮炊具の記載を抜粋し、表16にまとめた⁸⁾。なお、遺物の年代根拠は、基本的に発掘調査

表16 八木光則(2006b)から煮炊具に関する記載の抜粋

目的	赤焼土器の出土割合からその普及過程を比較し、古代奥羽の9・10世紀における東西差・南北差を概観する。			
方法	甕は、各遺跡に一般的なものの比較という理由で、長胴甕と小形甕の出土比率を比較。酸化焰焼成・非ロクロ成形のものを土師器 ^{※1} 、酸化焰焼成・ロクロ成形のものを赤焼土器 ^{※2} としている。前者は本論でいう非ロクロ成形甕、後者はロクロ成形甕である。			
時期区分	地域	遺物分析		
		土師器 ^{※1}	赤焼土器 ^{※2}	備考
9世紀 第3四半期	津軽	10割	—	
	野代～上津野	主体(9割)	小形甕	
	秋田城跡	—	—	
	秋田郡	増加?	主体(7割) 減少?	
	都母	主体	出現(4割弱)	赤焼は以降減少。
	志波城跡	—	—	
	斯波郡	?	?	
	胆沢城跡	一旦消滅?	10割	
9世紀 第4四半期	野代～上津野	一旦消滅?	急増 主体	
	津軽	主体(9割)	出現	赤焼出現するも、各期1割程度で主体は土師器。
	野代～上津野	主体(6割)	増加。長胴甕あり。	赤焼増加するも、主体は全期通じて土師器。
	秋田城跡	—	—	
	秋田郡	全体比率大差ないが長胴甕減	全体比率大差ないが長胴甕減	
	都母	主体	減少	
	志波城跡	—	—	
	斯波郡	?	?	
10世紀前葉	胆沢城跡	—	10割	
	胆沢・江刺郡	僅少	主体(9割)	
	津軽	主体(9割)	比率変わらず	
	野代～上津野	主体。長胴・小形半々	比率変わらず	
	秋田城跡	—	—	
	秋田郡	消滅。	10割。小形甕増?	
	都母	主体	減少	
	志波城跡	—	—	
10世紀中葉	斯波郡	?	?	遺跡差激しい。赤焼主体集落と土師器主体集落がモザイク状に混在しており、地域全体が同じ動きをしているわけではない。
	胆沢城跡	再出現 5割	5割	
	胆沢・江刺郡	増加	主体(8割)	10世紀中葉にかけて土師器増加。
	津軽	主体(9割)	比率変わらず	
	野代～上津野	主体。長胴・小形半々	比率変わらず	
	秋田城跡	—	—	
	秋田郡	—	10割。長胴甕増?	
	都母	主体(9割)	減少	
10世紀後葉	志波城跡	—	—	
	斯波郡	?	?	
	胆沢城跡	消滅	10割。長胴甕のみ	
	胆沢・江刺郡	増加	主体(7割)	
	津軽	主体(ほぼ10割)	減少 僅少	
	野代～上津野	主体。長胴・小形半々	比率変わらず	
	秋田城跡	—	—	
	秋田郡	—	—	
10世紀後葉	都母	10割?	消滅?	
	志波城跡	—	—	
	斯波郡	?	?	
	胆沢城跡	—	—	
	胆沢・江刺郡	—	—	

報告書の記載内容と氏の編年観に拠るものである。これをみれば、郡制域外の各地は地域差を有しながらも基本的に非ロクロ土師器が煮炊具の組成主体であり、郡内から波及したロクロ土師器非内黒坏（赤焼土器坏）を9～10世紀のある段階で食膳具組成の主体に据えた日本海側の野代～上津野や津軽であっても、煮炊具は大きく置換しないことがわかる。

もう一つは、北東北古代集落遺跡研究会による9～11世紀の土器集成・編年である（北東北古代集落遺跡研究会 2014）。編年方法は、「北東北3県の9～11世紀の広域編年の指標とするため、広域に分布するとみられる特徴的な器種」として、須恵器長頸瓶・広口壺、高台付土器（内外黒色を含まず）、内外黒色土器、耳皿、小皿の土器5器種を選定し、そのいずれかが含まれる一括土器（「セット関係が良好な資料」としてい

表17 北東北古代集落遺跡研究会(2014)から煮炊具に関する記載の抜粋

目的	北東北3県の9~11世紀の広域編年の指標とする。			
方法	広域に分布するとみられる特徴的な器種として、須恵器長頸瓶・広口壺、高台付土器(内外黒色を含まず)、内外黒色土器、耳皿、小皿の土器5器種を選定し、そのいずれかが含まれる一括土器(「セット関係が良好な資料」としている)を遺構ごとに抽出し土器編年を構築した上で、各竪穴建物出土土器をそれに対比させて年代を決定する。 ※岩手・紫波地区は記載がないため除外。			
時期区分	地域	遺物分析		備考
		非ロクロ土器	ロクロ土器	
9世紀後葉	津軽地区	前代に比して ・胴径に対する器高比がやや小さい中胴器形が主体。 ・口縁部外反弱まり、口頸部短く。 ・頸部沈線急減。 ・胴部ナデ・ケズリ調整卓越。	組成: 甕、小形甕など。 ・体部下半タタキ調整が盛行。 ・口頸部短いもの卓越。 ・口唇部は丁寧な面取り、角状・凹状、下端部を若干引き出した形状が多い。 ・下半部ケズリ調整卓越。	
	鹿角・北秋田・能代地区	・長胴甕は単純に「く」の字状に外反するもの主体。 ・体部調整はヘラナデが主体。		
	秋田・八郎潟沿岸地区	組成: 長胴甕、平底の小型・中型甕。鍋が加わる。非ロクロ増加。甕は長胴甕と平底の小型・中型甕のどちらかが欠落する例多い。 ・長胴甕あり。口縁部はやや厚く単純に「く」の字に屈曲させるもの主体。胴部調整はハケ目主体。 ・ムシロ底や砂底の甕、鍋あり。 ・鍋は平底。	・長胴甕は砲弾型に加え平底も認められるようになる。口縁部は厚く受け口状に上方につまみ出すものが主体。 ・鍋は丸底。	官衙の影響が薄れ、在地化が進む傾向。
	仙北・平鹿・雄勝地区		・組成: 長胴甕、小型甕、羽釜。 ・小型甕は内面ミガキ、黒色処理。	
	下北・上北・三八地区	・新井田川流域は非ロクロ甕多。	・馬淵川流域、奥入瀬川流域はロクロ甕多。 ・奥入瀬川下流域は出羽型甕あり。	甕は遺跡間でロクロの普及度に差あり。 奥入瀬川下流域の出羽型甕は他地域からの局所的な移住を強く表している。
	二戸・九戸・閉伊地区	・非ロクロ甕主体。頸部段なくなり、口縁部短く外反しケズリ、ナデ調整増える。	・あり。 ・二戸で出羽型甕底部破片出土。	
	稗貫・和賀地区	・甕は口縁部が「く」の字状に開く単純口縁が主体。	・甕は口縁部が受け口状になるタイプが主体。 ・丸底の鍋あり。	
	胆沢・江刺・磐井地区	・甕は口縁部がやや短く外反。	・甕にタタキ成形痕みられず。口縁部は頸部からの屈曲と上方へのつまみ出しが強くなる。	甕はロクロ成形が一般的。胆沢城はロクロ成形多く、非ロクロは集落遺跡で一定量出土。
9世紀末~10世紀初頭(元慶年間~To-a降灰)	津軽地区	・組成: 甕、小形甕、鍋など。 ・非ロクロ、ロクロともに、やや膨らんだ胴部から短く外反する口頸部に至る器形。 ・平底の鍋あり。	・口唇部、上端部に引き出したものや内屈気味のもの多くなる。 ・丸底の鍋あり。	
	鹿角・北秋田・能代地区	・組成: 長胴甕、平底の小型・中型甕。 ・甕類の口縁部は「く」の字状に外反。 ・体部調整はヘラナデが主体。 ・口縁端部が凹線状に窪むタイプが一定量あり。 ・丸底風の鍋あり。	・小甕はロクロ成形の比率高い。	
	秋田・八郎潟沿岸地区	・ロクロ、非ロクロが同じような比率で認められる。 ・組成: 長胴甕、平底の小型甕。鍋?。ただし甕は長胴甕と平底の小型・中型甕のどちらかが欠落する例あり。 ・甕口縁部は単純に外反。胴部調整はハケ目主体。	・長胴甕、砲弾型確認されなくなる。口縁部は受け口状に屈曲し厚い。	
	仙北・平鹿・雄勝地区	・甕なし。 ・鍋は外面調整ケズリ。	・組成: 長胴甕、小型甕。 ・甕は前代より雑で歪み大きい。	
	下北・上北・三八地区	・頸部で「く」の字に屈曲する器形の甕主体。		
	二戸・九戸・閉伊地区	・非ロクロ甕主体。口縁部短く外反しケズリ、ナデ調整主体。 ・丸底の鍋あり。	・増え始める。	赤焼土器増加(~10世紀前葉)。
	稗貫・和賀地区	・甕は器壁が厚手のものが多い。基本は単純口縁だが、外方への屈曲が弱くほぼ直立するものも多い。	・甕は口縁部が受け口状のものが主体。断面形が逆三角形になるものもあり。 ・鍋あり。	甕の主体はロクロ成形。
	胆沢・江刺・磐井地区		・甕は口縁部がやや短く、外形がややなだらかになり上方へのつまみ出しもシャープさ弱くなる。	胆沢城で甕類減少するが、集落遺跡ではロクロ成形甕を多く使用。

時期区分	地域	遺物分析		
		非ロクロ土師器	ロクロ土師器	備考
10世紀前葉 (To-a~B-Tm降灰)	津軽地区	前代に類似。		
	鹿角・北秋田・能代地区	組成:長胴甕、鍋、小甕など。		食膳具の出土比率低下。
		・甕や鍋の大半が砂底。一部ムシロ底。 ・体部調整はハケ目、ヘラケズリ、ヘラナデ。 ・長胴甕には外面に指頭圧痕残すものやヘラミガキするものあり。	・小甕はロクロ成形の比率高い。 口縁部のつくりがさらに単純化。	
	秋田・八郎潟沿岸地区	・組成:長胴甕、鍋、小型甕など。ただし甕は小型甕のみの例がある。煮炊具セット関係はこの段階を最後に崩れる。	・甕口縁部のつくりがさらに単純化。	
	・甕、鍋にムシロ底や砂底あり。胴部調整はハケ目や手持ちケズリ。			
	仙北・平鹿・雄勝地区	・長胴甕の外面調整はハケ目。	・長胴甕、小型甕。	
	下北・上北・三八地区	・甕の組成は非ロクロ甕が大半。前代より口縁部が短く外反するもの多い。体部調整はハケ目がほとんど姿を消し、ナデ、ヘラケズリ中心。胎土に雑含む粗雑なつくり。		
	二戸・九戸・閉伊地区	・甕は非ロクロ、ロクロ両者あり。頸部は前代より短く外反し、体部は寸胴型に。		
稗貫・和賀地区	・甕は前代と変わらず厚手で、口縁部屈曲が弱いもの多い。	・甕は口縁部断面形が逆三角形が主体。断面角形の単純口縁も。		
胆沢・江刺・磐井地区	・甕は口部縁短く外反。		胆沢城で甕類さらに減少。集落遺跡では非ロクロ甕目立つ。	
10世紀中葉 (胆沢城・秋田城終焉まで)	津軽地区	組成:甕、小形甕など。		
	鹿角・北秋田・能代地区	・胴径に対する器高比が小さい短胴器形がみられる。 ・口縁部の外反弱まり、胴部と口縁の境界が判然としないもの増える。 ・鍋あり。 ・把手付土器の出現。	減少。	
		組成:長胴甕。鍋減少。甕。 ・長胴甕の外面調整は粗い手持ちヘラケズリ。 ・甕の口縁部はさらに単純化しわずかに外反するのみ。		
	秋田・八郎潟沿岸地区	・組成:長胴甕のみ。体部調整は粗い手持ちケズリ。口縁部のつくりがさらに単純化しわずかに外反するのみ。		これ以降、供膳具や煮炊具における古代の基本的器種構成は失われる。
	仙北・平鹿・雄勝地区		・長胴甕、小型甕。	
	下北・上北・三八地区	・甕の組成はほとんどが非ロクロ甕。ナデ、ケズリ調整が雑に施される。口縁部は極端に短いものみで体部と胴部の境目不明瞭。		供膳具の減少傾向顕著。非ロクロ甕主体の組成に変わる在地土器変遷の画期。
	二戸・九戸・閉伊地区	・甕はほとんどが非ロクロに。調整はケズリとナデのみで全体的に粗雑なつくり。		
	稗貫・和賀地区	・器壁が厚く口縁部が短く斜め上方に屈曲。	・口縁端部の断面形が逆三角形。	煮炊具(ほとんどが甕)の出土量低下。
胆沢・江刺・磐井地区	・口縁部は短く外反もしくはごく僅かに形式的に外反。		胆沢城では甕類みられず。集落遺跡ではロクロ成形なくなり非ロクロのみに。	

時期区分	地域	遺物分析		
		非ロクロ土師器	ロクロ土師器	備考
10世紀後葉	津軽地区	・組成: 甕、小形甕、把手付土器、甌、羽釜。 ・甕は胴径が大きく底径・器高が小さい短胴器形が主体。 ・成形や調整が簡略化され、幅広いヘラケズリによる粗い成形多い。		
	鹿角・北秋田・能代地区	・組成: 甕、小甕主体。把手付土器加わる。 ・甕は器高低くなり短胴化。器形左右非対称で大きく歪んだものも。 ・外面調整は口縁部にほとんどヨコナデ加えず、体部に粗いヘラケズリやヘラナデ。		食膳具さらに減少。
	秋田・八郎潟沿岸地区			
	仙北・平鹿・雄勝地区	・甕の口縁部はほぼ直線的、上部でわずかに外反、内湾など。口縁端部を水平に整える意識薄い。		一般集落は仙北郡北部でのみ確認。城館跡には明確な煮炊具なし。
10世紀後葉	下北・上北・三八地区	・土師器の主体は非ロクロ甕。頸部が独立せず体部からそのまま口縁部に至る器形目立つ。 ・把手付土器、羽釜あり。		
	二戸・九戸・閉伊地区	・組成主体が非ロクロ甕。 ・甕の口縁部はごく短く外反し、体部上半に最大径を持つもの多い。 ・前代に比べてさらに成形・調整技法雑に。 ・把手付土器あり。		土師器坏が極端に減る。
	稗貫・和賀地区	破片資料のみで全形不明。		
	胆沢・江刺・磐井地区	・口縁部短く外反するもの一定量。		甕かなり少なくなる。

る)を遺構ごとに抽出して土器編年を構築する、というものである。この方法に関する注意点は第6章で述べたので、ここでは繰り返さない。

さて、この成果の中から煮炊具に関する記述を抽出し、まとめたのが表17である。これにより、各地における変化の発生と流れを概観することができる。変化の発生時期については、編年の基準資料を何に置くかによって見解差が生じるためさておくとしても、相対的な流れについては現時点で最も詳しい成果といえよう。本論でもこのデータを参考とし、次節以降で展開する分析結果との対比や補完を行っていく。ただ注意したいのは、表17に示した各地域の言説におけるニュアンスの個人差である。おもに度合いの表現が問題となるが、共通の尺度が設定されていないためにその言説を同等に読むことができない。その点、ご注意いただきたい。

以上、本論対象各地域における土師器煮炊具編年研究の現状をみてきた。9世紀初頭以降、食膳具がロクロ製品に変わっても、また、非内黒坏(赤焼土器坏)が増えても、煮炊具におけるロクロ製品の組成比率はそれらと必ずしも比例せず、比較的小さい変化で推移していた。器形変化も少ないことから、煮炊具は他の器種に比して保持集団の基層的な性格をより濃く現す保守的な器種と考えてよかろう。この器種が十和田10世紀噴火イベントの前後でどのような在り方をしていたか、これを探ることが

モノではなく人の動きを明らかにする一つの指標になると考える。

2 分析する属性と方法

まず、第3章で集成した To-a および B-Tm 堆積竪穴建物のうち、第5章で廃絶・構築時期を特定した遺構の土器煮炊具を集成する。集成対象は遺構に共伴する資料に限る。ここでいう共伴資料とは、床面、床面直上およびカマドから出土した遺物を指す。つまり、テフラという絶対年代指標から導出した資料群、ということである。注意しなければならないのは、これら資料は遺棄年代が同一であるが、製作年代は一律ではないことである。つまり、古期の資料も含まれる可能性があることを念頭に入れておく必要がある。これが、最終的に遺棄された資料の普遍的なあり方である。よって、注目するのは新しい要素の出現と展開である。

先学の成果から、土師器甕の形態変化はおもに口縁部から頸部に現れることがわかっている。よって、集成・分析資料も口縁部から体部・胴部が残存するものを対象とする。特に、非ロクロ土師器甕は各地域に存在し、まとまった数量が得られることから、法量分析を実施する。この方法は、拙稿（丸山 2012・2013）で述べたところであるが、改めて説明しておく。

口縁部から頸部にかけての長さや外反度合いを数値化することを目的として、計測方法を以下のように設定する。計測位置は、口径、頸径（頸部最小径）、口縁高（口唇から頸部最小径部までの高さ）で、算出する指数は、口縁高指数（口縁高÷口径×100）、頸径指数（頸径÷口径×100）の2種である。この模式図を図25に、計測資料一覧を表18に、計測結果の散布図を図26・27に示した。

この法量計測結果に、目視で看取される形態的・製作技術的特徴を加味して、地域的・時期的な特徴の把握を行う。なお、器高が15 cm以下の個体は小型甕とし、編年検討対象からは除外した。小型甕は煮炊具とは異なる用途も担っていた可能性が高く、煮炊具は主として長胴甕であったと考えられる。これらを同一視して比較検討することは問題があるため、計測資料は非ロクロ成形の土師器長胴甕に限定した。

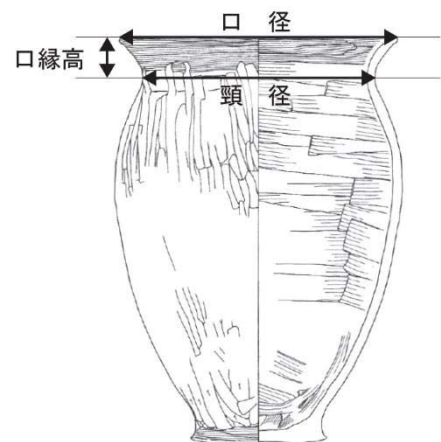


図25 法量計測位置凡例

3 各期の様相

陸奥国域（①～④地域）、出羽国域（⑥地域のみ）、郡外太平洋側（⑧～⑯地域）、郡外日本海側（㉑～㉒地域）に大別して記載していく。地域区分については第2章図3を参照いただきたい。

（1）Ⅱ期

陸奥国域（②～④地域）

表18 非ロクロ土師器甕の法量計測資料一覧

地域区分	遺跡No.	遺跡名	遺構名	帰属時期	頸径	口径	口縁高	口縁高 指数	頸径指数
②	Iw-187	江釣子古墳群 猫谷地支群	CI53竪穴住居跡	Ⅱ期	17.3	21.5	4.4	20.3	80.4
③	Iw-155	白幡林	B-3住居跡	Ⅱ期	16.4	20.0	2.7	13.5	82.0
④	Iw-138	百目木	No.46住居	Ⅱ期	18.0	19.5	2.3	11.5	92.3
⑨	Iw-049	飛鳥台地 I	CⅢ-4住居跡	Ⅱ期	20.0	21.8	2.0	9.0	91.7
⑪	Iw-012	長瀬B	Ei50住居址	Ⅱ期	18.8	23.0	3.5	15.0	81.7
⑪	Iw-012	長瀬B	Ei50住居址	Ⅱ期	16.1	20.9	3.2	15.1	77.0
⑪	Iw-012	長瀬B	Ei50住居址	Ⅱ期	17.6	21.2	2.7	12.8	83.0
⑪	Iw-012	長瀬B	Ei50住居址	Ⅱ期	14.3	16.8	2.9	17.0	84.8
⑪	Iw-018	中曽根	2号住居址	Ⅱ期	20.6	22.4	2.1	9.4	91.9
⑪	Iw-018	中曽根	2号住居址	Ⅱ期	17.6	18.6	2.7	14.5	94.4
⑬	Iw-078	江刺家 I	DⅡ-2住居址	Ⅱ期	15.9	17.9	1.8	10.1	89.1
⑬	Iw-078	江刺家 I	DⅡ-2住居址	Ⅱ期	24.5	27.3	2.1	7.7	89.6
⑮	Iw-090	高屋敷	AC10竪穴住居	Ⅱ期	15.5	19.1	2.9	15.0	81.1
⑮	Iw-097	平沢 I	HⅠ-1住居跡	Ⅱ期	20.0	22.7	2.0	8.6	88.1
⑯	Ao-017	根城跡岡前館	SI6竪穴住居跡	Ⅱ期	15.9	19.4	3.0	15.5	82.0
⑯	Ao-018	岩ノ沢平	第10号竪穴住居跡	Ⅱ期	17.2	19.5	2.9	14.9	88.2
⑯	Ao-025	黒坂	第33号竪穴住居跡	Ⅱ期	12.9	15.0	1.7	11.3	86.0
⑰	Ao-039	ふくべ(3)	第19号住居跡	Ⅱ期	15.5	16.3	2.2	13.5	95.1
⑰	Ao-041	中野平	第13号竪穴式住居跡	Ⅱ期	18.9	21.3	1.7	8.0	88.7
⑰	Ao-041	中野平	第13号竪穴式住居跡	Ⅱ期	16.4	17.9	3.2	17.9	91.6
⑰	Ao-041	中野平	第13号竪穴式住居跡	Ⅱ期	14.1	15.8	1.3	8.2	89.2
⑳	Ao-109	新町野	1号住居跡	Ⅱ期	15.1	17.0	3.0	17.6	88.8
⑳	Ao-109	新町野	1号住居跡	Ⅱ期	19.6	22.1	1.5	6.8	88.7
⑳	Ao-109	新町野	1号住居跡	Ⅱ期	13.3	14.2	1.3	9.2	93.7
⑳	Ao-111	近野	第E36号竪穴住居跡	Ⅱ期	18.6	20.5	2.3	11.2	90.7
⑳	Ao-112	野木	第347号竪穴住居跡	Ⅱ期	20.7	22.1	1.3	5.9	93.7
⑳	Ao-112	野木	第347号竪穴住居跡	Ⅱ期	19.6	22.2	2.4	10.8	88.3
⑳	Ao-112	野木	第406号竪穴住居跡	Ⅱ期	13.1	14.5	1.2	8.3	90.3
⑳	Ao-112	野木	第406号竪穴住居跡	Ⅱ期	20.8	23.0	1.9	8.3	90.4
⑳	Ao-114	小三内	第9号住居跡	Ⅱ期	24.0	27.5	2.4	8.7	87.3
㉑	Iw-188	八幡	SI055	Ⅲ期	15.0	17.3	3.5	20.3	86.5
㉑	Iw-188	八幡	SI055	Ⅲ期	16.4	20.1	3.8	18.6	81.4
㉑	Iw-188	八幡	SI055	Ⅲ期	17.3	22.1	4.8	21.5	78.3
⑧	Iw-109	芦名沢 I	4号住居跡	Ⅲ期	15.2	17.7	1.5	8.4	85.4
⑧	Iw-109	芦名沢 I	4号住居跡	Ⅲ期	19.7	21.5	1.8	8.4	91.3
⑧	Iw-109	芦名沢 I	4号住居跡	Ⅲ期	15.5	17.3	2.5	14.4	89.3
⑧	Iw-109	芦名沢 I	4号住居跡	Ⅲ期	13.3	15.1	1.9	12.6	88.0
⑧	Iw-109	芦名沢 I	4号住居跡	Ⅲ期	14.0	15.8	2.0	12.5	88.7
⑧	Iw-109	芦名沢 I	4号住居跡	Ⅲ期	17.4	19.7	2.1	10.4	88.3
⑧	Iw-112	湯舟沢	XPI住居址	Ⅲ期	12.5	13.6	1.9	13.8	92.1
⑧	Iw-112	湯舟沢	XPI住居址	Ⅲ期	20.5	21.3	1.0	4.8	96.1
⑧	Iw-112	湯舟沢	XPI住居址	Ⅲ期	18.5	19.9	1.9	9.7	92.8
⑧	Iw-112	湯舟沢	XPI住居址	Ⅲ期	21.0	21.5	1.9	8.9	97.8
⑨	Iw-052	桂平 I	SI05	Ⅲ期	20.8	21.9	0.7	3.4	95.2
⑩	Iw-034	田中4	BF68竪穴住居	Ⅲ期	16.8	19.7	3.3	16.8	85.5
⑩	Iw-034	田中4	BF68竪穴住居	Ⅲ期	21.9	24.3	2.2	9.0	89.8
⑩	Iw-038	下地切	SI11	Ⅲ期	22.9	24.6	3.4	14.0	93.0
⑪	Iw-007	上田面	D37住居址	Ⅲ期	18.5	19.5	2.7	13.8	94.6

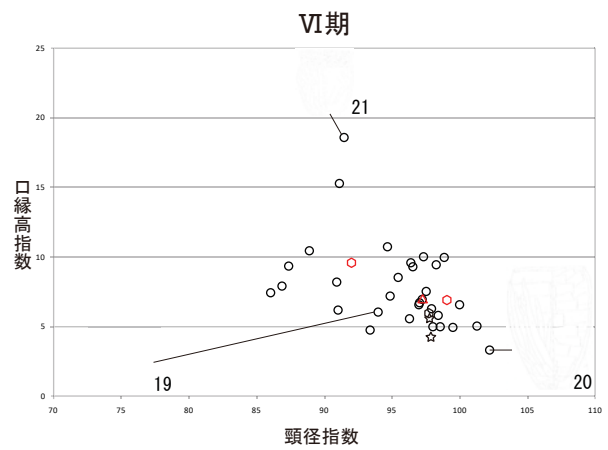
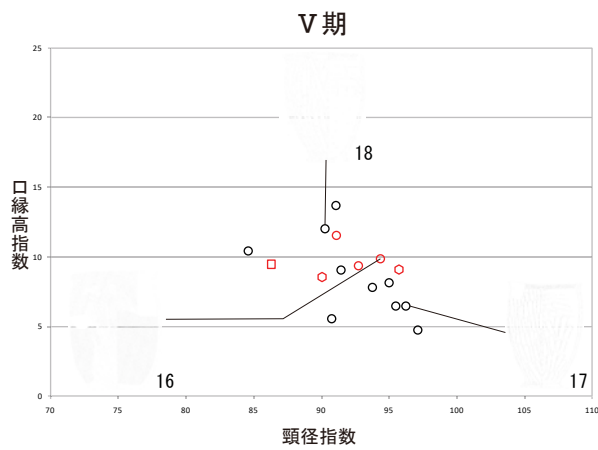
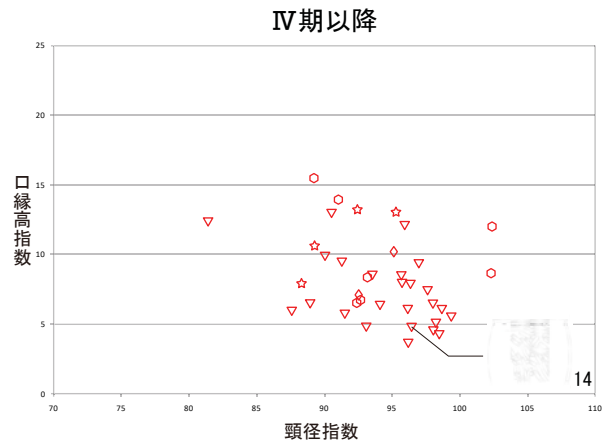
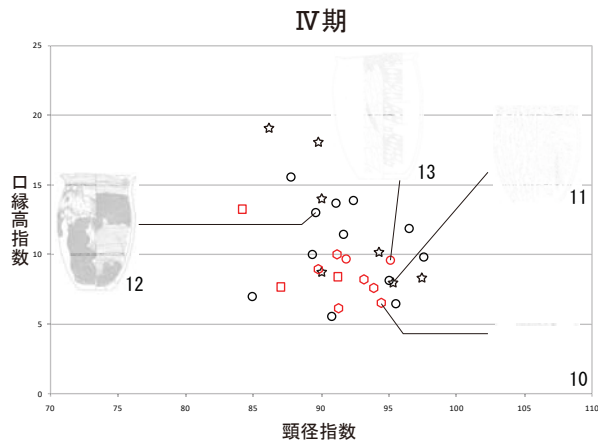
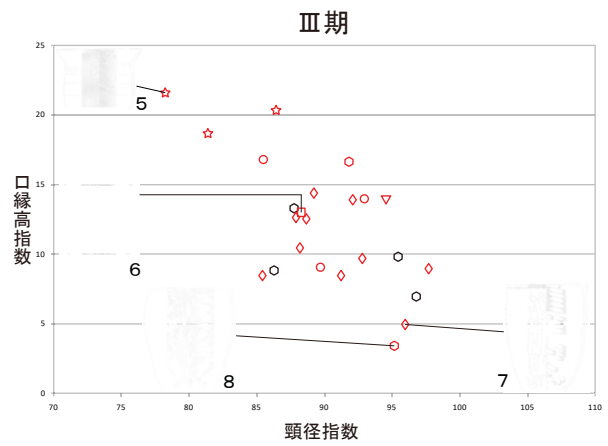
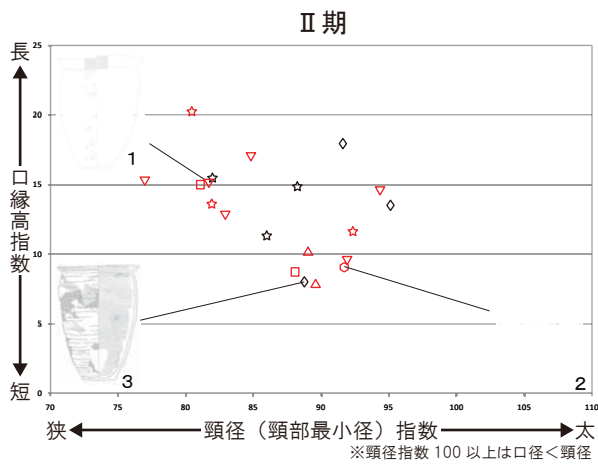
地域区分	遺跡No.	遺跡名	遺構名	帰属時期	頸径	口径	口縁高	口縁高 指数	頸径指数
⑮	Iw-097	平沢 I	FⅢ-3住居跡	Ⅲ期	17.3	19.6	2.5	12.9	88.4
⑳a	Ak-020	堪忍沢	SI04	Ⅲ期	16.9	18.5	1.8	9.6	91.2
⑳a	Ak-020	堪忍沢	SI04	Ⅲ期	16.1	17.5	2.1	11.7	92.3
⑳a	Ak-020	堪忍沢	SI04	Ⅲ期	21.2	23.3	3.1	13.3	91.1
⑳a	Ak-020	堪忍沢	SI04	Ⅲ期	14.9	15.3	0.9	5.7	96.9
⑳a	Ak-020	堪忍沢	SI04	Ⅲ期	18.2	19.1	2.2	11.6	95.2
㉑	Ao-112	野木	第822号竪穴住居跡	Ⅲ期	18.1	20.7	2.7	13.0	87.4
㉑	Ao-112	野木	第822号竪穴住居跡	Ⅲ期	18.8	21.8	3.1	14.2	86.2
㉑	Ao-112	野木	第822号竪穴住居跡	Ⅲ期	14.7	18.1	2.1	11.6	81.2
㉒	Iw-049	飛鳥台地 I	BⅡ-1住居跡	Ⅳ期	15.6	17.0	1.0	6.1	91.4
㉒	Iw-052	桂平 I	SI04	Ⅳ期	19.3	20.6	1.5	7.5	93.9
㉒	Iw-052	桂平 I	SI04	Ⅳ期	17.4	19.0	1.9	9.9	91.2
㉒	Iw-052	桂平 I	SI04	Ⅳ期	17.9	19.9	1.8	8.9	89.8
㉒	Iw-053	桂平Ⅱ	XC-1住居址	Ⅳ期	21.0	22.5	1.8	8.1	93.2
㉒	Iw-053	桂平Ⅱ	XC-1住居址	Ⅳ期	19.9	21.1	1.4	6.5	94.5
㉓	Iw-025	親久保Ⅱ	AⅡ-1住居跡	Ⅳ期	20.2	21.2	2.0	9.5	95.2
㉓	Iw-025	親久保Ⅱ	BⅠ-1住居跡	Ⅳ期	21.1	23.0	2.2	9.6	91.8
㉔	Iw-092	明神	2号住居跡	Ⅳ期	12.8	15.2	2.0	13.2	84.2
㉔	Iw-092	明神	10号住居跡	Ⅳ期	12.2	14.0	1.1	7.6	87.0
㉔	Iw-092	明神	11号住居跡	Ⅳ期	16.7	18.3	1.5	8.4	91.3
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	A区第17号竪穴住居跡	Ⅳ期	13.5	15.0	2.1	14.0	90.0
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	A区第17号竪穴住居跡	Ⅳ期	14.8	15.7	1.6	10.2	94.3
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	A区第17号竪穴住居跡	Ⅳ期	20.2	21.2	1.7	8.0	95.3
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	A区第17号竪穴住居跡	Ⅳ期	15.2	15.6	1.3	8.3	97.4
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	B区第4号竪穴住居跡	Ⅳ期	14.4	16.0	1.4	8.8	90.0
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	B区第13号竪穴住居跡	Ⅳ期	14.9	16.6	3.0	18.1	89.8
㉕	Ao-018	岩ノ沢平	B区第13号竪穴住居跡	Ⅳ期	14.9	17.3	3.3	19.1	86.1
㉖	Ao-057	往来ノ上(1)	第1号住居	Ⅳ期	17.2	19.2	2.5	13.0	89.6
㉖	Ao-057	往来ノ上(1)	第1号住居	Ⅳ期	14.6	17.2	1.2	7.0	84.9
㉖	Ao-057	往来ノ上(1)	第1号住居	Ⅳ期	13.8	14.3	1.7	11.9	96.5
㉖	Ao-057	往来ノ上(1)	第1号住居	Ⅳ期	19.9	20.4	2.0	9.8	97.5
㉖	Ao-057	往来ノ上(1)	第1号住居	Ⅳ期	17.6	19.2	2.2	11.5	91.7
㉖	Ao-057	往来ノ上(1)	第2号住居	Ⅳ期	19.1	21.4	2.4	11.2	89.3
㉗	Ao-061	向田(24)	第2号住居跡	Ⅳ期	15.8	18.0	2.8	15.6	87.8
㉗	Ao-061	向田(24)	第2号住居跡	Ⅳ期	13.3	14.4	2.0	13.9	92.4
㉗	Ao-063	弥栄平(4)	第18号竪穴住居跡	Ⅳ期	19.6	21.6	1.2	5.6	90.7
㉗	Ao-063	弥栄平(4)	第18号竪穴住居跡	Ⅳ期	14.8	15.5	1.0	6.5	95.5
㉗	Ao-063	弥栄平(4)	第18号竪穴住居跡	Ⅳ期	15.2	16.0	1.3	8.1	95.0
㉗	Ao-065	家ノ前	第10号住居跡	Ⅳ期	13.4	15.0	1.5	10.0	89.3
㉘	Ak-052	土井	SI002	Ⅳ期	24.8	26.2	2.8	10.6	94.6
㉘a	Ak-013	太田谷地館跡	SI157	Ⅳ期	17.2	18.3	1.3	7.1	94.0
㉙	Ao-099	野尻(1)	第215号住居跡	Ⅳ期	17.7	19.0	1.5	7.9	93.2
㉙	Ao-099	野尻(1)	第215号住居跡	Ⅳ期	21.6	22.9	1.6	7.0	94.3
㉙	Ao-099	野尻(1)	第215号住居跡	Ⅳ期	20.3	24.4	2.1	8.6	83.2
㉙	Ao-099	野尻(1)	第218号住居跡	Ⅳ期	19.6	22.9	3.1	13.5	85.6
㉚	Ao-111	近野	第6号竪穴住居跡	Ⅳ期	12.7	15.0	2.4	16.0	84.7
㉚	Ao-111	近野	第6号竪穴住居跡	Ⅳ期	19.7	23.6	3.2	13.6	83.5
㉚	Ao-111	近野	第6号竪穴住居跡	Ⅳ期	13.7	16.5	2.6	15.8	83.0
㉚	Ao-112	野木	第369号竪穴住居跡	Ⅳ期	20.8	22.1	1.6	7.2	94.1

地域区分	遺跡No.	遺跡名	遺構名	帰属時期	頸径	口径	口縁高	口縁高 指数	頸径指数
②⑥	Ao-112	野木	第601号建物跡	Ⅳ期	13.3	14.9	1.7	11.4	89.3
②⑥	Ao-120	雲谷山吹(6)	SI-03	Ⅳ期	22.9	25.5	1.7	6.7	89.8
②⑦	Ao-139	八重菊(1)	23号遺構	Ⅳ期	14.0	17.2	2.4	14.0	81.4
②⑦	Ao-139	八重菊(1)	23号遺構	Ⅳ期	14.6	16.2	1.8	11.1	90.1
②⑦	Ao-139	八重菊(1)	23号遺構	Ⅳ期	15.7	16.5	1.8	10.9	95.2
④	Iw-134	細谷地	RA39	Ⅳ期以降	15.2	16.0	2.1	13.1	95.2
④	Iw-138	百目木	No.25住居	Ⅳ期以降	16.5	17.8	2.4	13.2	92.3
④	Iw-138	百目木	No.25住居	Ⅳ期以降	17.6	19.8	2.1	10.6	89.3
④	Iw-138	百目木	No.25住居	Ⅳ期以降	19.3	21.9	1.7	7.9	88.3
⑧	Iw-109	芦名沢 I	8号住居跡	Ⅳ期以降	17.1	18.0	1.8	10.2	95.1
⑧	Iw-109	芦名沢 I	8号住居跡	Ⅳ期以降	20.2	21.9	1.5	7.1	92.5
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	19.3	21.6	3.4	15.5	89.3
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	16.7	17.9	1.5	8.4	93.1
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	16.5	16.2	1.4	8.7	102.2
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	14.4	15.9	2.2	13.9	91.0
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	17.6	18.9	1.3	6.8	92.6
⑨	Iw-046	大向Ⅱ	8号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	21.3	23.0	1.5	6.6	92.3
⑨	Iw-049	飛鳥台地 I	DⅢ-1住居跡	Ⅳ期以降	21.7	23.3	2.8	11.9	93.2
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅢA-7住居址	Ⅳ期以降	13.7	14.0	0.6	4.6	98.0
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-5住居址	Ⅳ期以降	13.7	13.8	0.8	6.1	98.6
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-6住居址	Ⅳ期以降	12.5	12.9	1.0	7.9	96.3
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-7住居址	Ⅳ期以降	17.8	21.9	2.7	12.4	81.4
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-7住居址	Ⅳ期以降	15.2	16.3	1.4	8.6	93.6
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-7住居址	Ⅳ期以降	18.6	19.3	1.0	5.0	96.4
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	12.7	13.2	0.8	6.1	96.1
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	19.7	20.1	1.0	5.2	98.1
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	20.3	21.2	0.8	3.6	96.1
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	22.2	24.3	1.4	5.8	91.5
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	17.6	18.4	2.3	12.2	95.8
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	20.7	20.9	1.2	5.5	99.3
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	19.9	20.3	1.3	6.5	97.9
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	14.7	15.1	1.1	7.5	97.5
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	19.0	19.6	1.8	9.4	96.9
⑪	Iw-004	駒焼場	ⅣA-17住居址	Ⅳ期以降	20.7	21.1	0.9	4.3	98.4
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	19.8	22.0	2.2	10.0	90.0
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	25.7	26.9	2.3	8.5	95.6
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	18.0	19.8	2.6	13.0	90.6
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	21.8	23.4	1.1	4.9	93.1
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	22.4	25.5	1.5	6.0	87.6
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	21.6	24.3	1.6	6.6	88.9
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	21.9	23.3	1.5	6.4	94.0
⑪	Iw-011	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	17.9	18.7	1.5	8.1	95.7
⑪	Iw-012	長瀬A	Ca09住居址	Ⅳ期以降	14.3	15.7	1.5	9.5	91.2
②③a	Ak-003	はりま館	SI003	Ⅳ期以降	16.1	17.0	1.5	9.0	95.0
②③a	Ak-003	はりま館	SI004	Ⅳ期以降	18.9	19.5	0.9	4.4	96.9
②③a	Ak-003	はりま館	SI018	Ⅳ期以降	18.8	20.1	2.2	10.9	93.1
②③a	Ak-003	はりま館	SI115	Ⅳ期以降	22.1	23.7	1.4	5.8	93.5
②③a	Ak-003	はりま館	SI120	Ⅳ期以降	15.6	16.8	1.4	8.1	93.1
②③a	Ak-003	はりま館	SI120	Ⅳ期以降	15.0	15.5	0.9	5.5	96.9

地域区分	遺跡No.	遺跡名	遺構名	帰属時期	頸径	口径	口縁高	口縁高 指数	頸径指数
㉓a	Ak-003	はりま館	SI02	Ⅳ期以降	19.0	20.9	1.6	7.7	91.1
㉓a	Ak-003	はりま館	SI19	Ⅳ期以降	19.5	20.2	0.9	4.7	96.4
㉓a	Ak-003	はりま館	SI310	Ⅳ期以降	19.1	21.3	1.9	8.7	90.0
㉓a	Ak-003	はりま館	SI310	Ⅳ期以降	19.4	20.7	2.5	12.0	93.7
㉓a	Ak-003	はりま館	SI310	Ⅳ期以降	20.0	21.9	1.5	6.8	91.3
㉓a	Ak-003	はりま館	SI310	Ⅳ期以降	20.4	20.9	0.7	3.2	97.6
㉓a	Ak-013	太田谷地館跡	SI150	Ⅳ期以降	17.0	17.9	1.5	8.5	95.3
㉓a	Ak-019	天戸森	第2号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	18.6	20.9	1.4	6.9	89.4
㉓a	Ak-019	天戸森	第3号竪穴住居跡	Ⅳ期以降	19.1	21.8	2.3	10.5	88.0
㉓a	Ak-030	一本杉	SI004	Ⅳ期以降	23.3	25.1	1.8	7.0	92.9
㉓b	Ak-035	野崎	SI01	Ⅳ期以降	21.0	22.3	2.9	13.2	94.0
㉓b	Ak-035	野崎	SI03	Ⅳ期以降	22.1	23.4	1.6	6.6	94.6
㉓b	Ak-035	野崎	SI03	Ⅳ期以降	17.7	18.1	1.2	6.7	98.0
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI03	Ⅳ期以降	22.5	23.6	2.5	10.6	95.1
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI03	Ⅳ期以降	14.6	15.8	1.5	9.4	92.8
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI03	Ⅳ期以降	22.1	22.2	1.1	4.8	99.5
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI06	Ⅳ期以降	19.2	20.0	1.3	6.7	96.0
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI06	Ⅳ期以降	14.8	15.1	0.7	4.8	98.1
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI11	Ⅳ期以降	18.0	20.1	2.2	11.0	89.6
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI11	Ⅳ期以降	17.6	19.8	2.1	10.3	88.6
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI11	Ⅳ期以降	18.3	20.0	2.9	14.3	91.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI11	Ⅳ期以降	23.8	24.2	1.7	6.8	98.0
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI13	Ⅳ期以降	19.4	21.2	2.3	10.7	91.4
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI13	Ⅳ期以降	23.2	23.6	0.8	3.2	98.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	18.1	19.5	2.4	12.4	92.6
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	16.2	16.5	0.9	5.2	97.9
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	15.1	15.2	1.3	8.3	99.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	19.9	20.5	1.5	7.1	97.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	19.8	20.9	1.7	8.3	94.7
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	19.4	20.2	1.2	6.0	95.7
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	21.9	22.3	0.6	2.5	98.2
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	16.3	16.8	0.9	5.2	97.4
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	22.9	23.1	0.6	2.8	99.2
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	14.2	13.8	1.3	9.6	102.4
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	15.2	14.7	1.2	8.3	103.2
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI14	Ⅳ期以降	22.0	21.8	1.0	4.5	100.8
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI16	Ⅳ期以降	22.1	24.2	2.6	10.9	91.2
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI16	Ⅳ期以降	23.8	25.5	3.1	12.2	93.2
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI16	Ⅳ期以降	22.8	24.4	2.2	9.1	93.5
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI16	Ⅳ期以降	12.9	13.6	1.8	13.1	94.9
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI16	Ⅳ期以降	23.4	25.1	1.3	5.1	93.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI17	Ⅳ期以降	16.7	18.8	3.0	15.7	89.1
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI17	Ⅳ期以降	21.2	23.1	2.7	11.8	92.1
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI17	Ⅳ期以降	21.1	21.2	0.4	2.0	99.5
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI17	Ⅳ期以降	14.1	14.3	0.7	4.8	98.6
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI17	Ⅳ期以降	13.8	13.6	0.8	5.5	101.0
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI21	Ⅳ期以降	19.5	20.9	2.0	9.5	93.5
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI21	Ⅳ期以降	14.5	16.1	1.1	6.7	90.1
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI21	Ⅳ期以降	18.8	19.4	1.8	9.5	96.8

地域区分	遺跡No.	遺跡名	遺構名	帰属時期	頸径	口径	口縁高	口縁高 指数	頸径指数
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI23	Ⅳ期以降	18.4	22.0	2.5	11.3	83.5
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI23	Ⅳ期以降	18.1	20.1	1.5	7.6	89.8
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI23	Ⅳ期以降	22.8	23.9	1.4	6.0	95.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI23	Ⅳ期以降	16.0	17.3	1.0	5.5	92.5
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI23	Ⅳ期以降	18.8	20.0	1.5	7.5	94.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI36	Ⅳ期以降	12.8	13.5	1.2	8.9	94.7
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI36	Ⅳ期以降	21.8	23.1	1.7	7.2	94.2
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI36	Ⅳ期以降	18.9	19.0	0.4	2.3	99.3
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI36	Ⅳ期以降	14.3	14.7	0.6	4.4	97.6
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI49	Ⅳ期以降	12.8	14.6	1.3	9.1	87.7
㉓b	Ak-036	坂下Ⅱ	SI49	Ⅳ期以降	19.4	20.3	1.1	5.4	95.6
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI02	Ⅳ期以降	24.7	26.3	2.5	9.5	93.8
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI02	Ⅳ期以降	12.0	13.2	1.9	14.3	91.5
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI02	Ⅳ期以降	21.7	22.7	1.1	5.0	95.6
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI02	Ⅳ期以降	23.2	24.8	2.2	8.8	93.3
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI02	Ⅳ期以降	23.5	23.7	1.0	4.1	99.1
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI05	Ⅳ期以降	24.0	25.3	2.4	9.4	94.7
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI05	Ⅳ期以降	18.6	18.8	0.6	3.4	98.6
㉓b	Ak-037	狼穴Ⅳ	SI08	Ⅳ期以降	20.6	21.1	0.7	3.5	97.4
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	01-SI193	Ⅳ期以降	14.0	15.3	2.1	13.6	91.1
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	01-SI193	Ⅳ期以降	20.4	23.7	3.1	13.1	85.9
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	01-SI193	Ⅳ期以降	21.1	22.2	1.6	7.3	95.0
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	01-SI193	Ⅳ期以降	19.2	21.0	1.4	6.7	91.5
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	02-SI14	Ⅳ期以降	20.2	21.1	1.5	7.3	95.6
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	02-SI14	Ⅳ期以降	21.1	22.0	2.3	10.3	95.6
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	02-SI14	Ⅳ期以降	20.0	20.4	0.7	3.3	97.7
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	03-SI853	Ⅳ期以降	18.9	20.4	1.7	8.3	92.6
㉓b	Ak-038	釈迦内中台Ⅰ	05-SI27	Ⅳ期以降	19.2	20.1	1.9	9.4	95.4
㊸	Iw-053	桂平Ⅱ	VⅢD-1住居址	V期	17.9	19.8	1.7	8.5	90.1
㊸	Iw-053	桂平Ⅱ	IXC-1住居址	V期	19.4	20.2	1.8	9.1	95.8
㊸	Iw-041	大平	SI53	V期	15.1	16.5	1.9	11.6	91.2
㊸	Iw-041	大平	SI53	V期	21.3	23.0	2.2	9.4	92.8
㊸	Iw-041	大平	SI53	V期	21.1	22.3	2.2	10.0	94.5
㊸	Iw-097	平沢Ⅰ	HⅡ-1住居跡	V期	18.4	21.3	2.0	9.5	86.4
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第17号竪穴住居跡	V期	19.2	21.0	1.9	9.0	91.4
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第17号竪穴住居跡	V期	17.3	19.0	2.6	13.7	91.1
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第17号竪穴住居跡	V期	17.9	18.6	1.2	6.5	96.2
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第19号竪穴住居跡	V期	15.4	18.2	1.9	10.4	84.6
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第19号竪穴住居跡	V期	18.0	19.2	1.5	7.8	93.8
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第19号竪穴住居跡	V期	20.4	21.0	1.0	4.8	97.1
㊸	Ao-063	弥栄平(4)	第102号竪穴住居跡	V期	19.5	21.6	2.6	12.0	90.3
㊸	Ao-092	山元(2)	第11号住居跡	V期	20.2	23.0	2.6	11.3	87.8
㊸	Ao-140	外馬屋前田(1)	第3号住居跡	V期	21.8	23.9	1.7	7.1	91.2
㊸	Iw-053	桂平Ⅱ	VID-1住居址	Ⅵ期	18.1	19.7	1.8	9.3	92.0
㊸	Iw-085	大日向Ⅱ	SIV01住居跡	Ⅵ期	17.6	18.1	1.2	6.7	97.2
㊸	Ao-031	林ノ前	SI-26	Ⅵ期	17.5	17.9	1.0	5.6	97.8
㊸	Ao-031	林ノ前	SI24竪穴住居跡	Ⅵ期	13.8	14.1	0.6	4.3	97.9
㊸	Ao-051	赤平(2)	第1号住居跡	Ⅵ期	21.3	21.8	1.3	6.0	97.7
㊸	Ao-061	向田(24)	第1号住居跡	Ⅵ期	16.8	17.6	1.5	8.5	95.5

地域区分	遺跡No.	遺跡名	遺構名	帰属時期	頸径	口径	口縁高	口縁高 指数	頸径指数
①	Ao-061	向田(24)	第1号住居跡	VI期	15.6	16.2	0.9	5.6	96.3
①	Ao-062	向田(35)	第2号住居跡	VI期	19.7	21.1	1.0	4.7	93.4
①	Ao-062	向田(35)	第3号住居跡	VI期	19.5	20.0	1.5	7.5	97.5
①	Ao-062	向田(35)	第3号住居跡	VI期	16.1	16.7	1.6	9.6	96.4
①	Ao-062	向田(35)	第3号住居跡	VI期	13.8	14.0	0.7	5.0	98.6
①	Ao-062	向田(35)	第3号住居跡	VI期	14.6	15.0	1.5	10.0	97.3
①	Ao-062	向田(35)	第3号住居跡	VI期	16.6	17.2	1.6	9.3	96.5
①	Ao-062	向田(35)	第11号住居跡	VI期	18.7	19.1	1.2	6.3	97.9
①	Ao-062	向田(35)	第11号住居跡	VI期	18.7	19.0	1.1	5.8	98.4
①	Ao-062	向田(35)	第11号住居跡	VI期	20.1	20.2	1.0	5.0	99.5
①	Ao-062	向田(35)	第16号住居跡	VI期	19.2	19.8	1.3	6.6	97.0
①	Ao-062	向田(35)	第16号住居跡	VI期	18.4	18.0	0.6	3.3	102.2
①	Ao-062	向田(35)	第16号住居跡	VI期	10.6	11.2	1.2	10.7	94.6
①	Ao-062	向田(35)	第19号住居跡	VI期	13.0	13.4	0.9	6.7	97.0
①	Ao-062	向田(35)	第19号住居跡	VI期	12.2	12.2	0.8	6.6	100.0
①	Ao-062	向田(35)	第19号住居跡	VI期	16.9	17.1	1.7	9.9	98.8
①	Ao-062	向田(35)	第19号住居跡	VI期	15.6	16.6	1.0	6.0	94.0
①	Ao-064	上尾駸(2)	第13号竪穴住居跡	VI期	20.0	22.0	1.8	8.2	90.9
①	Ao-069	発茶沢(1)	第108号住居跡	VI期	14.0	14.4	1.0	6.9	97.2
①	Ao-069	発茶沢(1)	第202号住居跡	VI期	15.9	18.2	1.7	9.3	87.4
①	Ao-069	発茶沢(1)	第202号住居跡	VI期	13.6	15.3	1.6	10.5	88.9
①	Ao-069	発茶沢(1)	第202号住居跡	VI期	16.2	17.8	1.1	6.2	91.0
①	Ao-069	発茶沢(1)	第203号住居跡	VI期	18.5	21.5	1.6	7.4	86.0
①	Ao-069	発茶沢(1)	第203号住居跡	VI期	18.5	19.5	1.4	7.2	94.9
①	Ao-069	発茶沢(1)	第205号住居跡	VI期	14.3	15.7	2.4	15.3	91.1
①	Ao-070	沖附(1)	第1号住居跡	VI期	16.7	17.0	1.6	9.4	98.2
①	Ao-070	沖附(1)	第35号住居跡	VI期	19.6	20.0	1.0	5.0	98.0
①	Ao-074	向田(37)	第2号竪穴住居跡	VI期	16.5	19.0	1.5	7.9	86.8
①	Ao-074	向田(37)	第2号竪穴住居跡	VI期	16.1	15.9	0.8	5.0	101.3
①	Ao-075	向田(40)	第1号竪穴住居跡	VI期	12.8	14.0	2.6	18.6	91.4
②	Ak-048	上の山Ⅱ	SI33	VI期	20.7	22.8	2.2	9.6	90.7
②	Ak-048	上の山Ⅱ	SI44	VI期	14.2	14.3	1.1	8.0	99.5
④	Ao-083	板留(2)	第1号住居跡	VI期	15.6	16.8	1.7	10.1	92.9
④	Ao-084	前川	C1SI-122	VI期	15.6	16.9	1.8	10.7	92.3
⑤	Ao-102	野尻(3)	第10号竪穴住居跡	VI期	19.2	21.1	2.0	9.5	91.0
⑤	Ao-102	野尻(3)	第10号竪穴住居跡	VI期	14.5	15.6	1.7	10.9	92.9
⑤	Ao-103	高屋敷館	第121号竪穴住居跡	VI期	18.0	19.9	1.4	7.0	90.5
⑤	Ao-103	高屋敷館	第122号竪穴住居跡	VI期	18.6	20.8	1.9	9.1	89.4
⑥	Ao-112	野木	第933号竪穴住居跡	VI期	20.3	20.8	2.7	13.0	97.6
⑥	Ao-126	宮田館	第29号建物跡	VI期	14.0	13.8	1.9	13.8	101.4
⑦	Ao-140	外馬屋前田(1)	第8号住居跡	VI期	14.3	15.4	1.3	8.4	92.9
⑦	Ao-140	外馬屋前田(1)	第8号住居跡	VI期	13.9	15.0	1.6	10.7	92.7
⑧	Ao-145	川倉小学校	SI03	VI期	15.2	15.8	1.3	8.2	96.2



ロクロ長胴甕

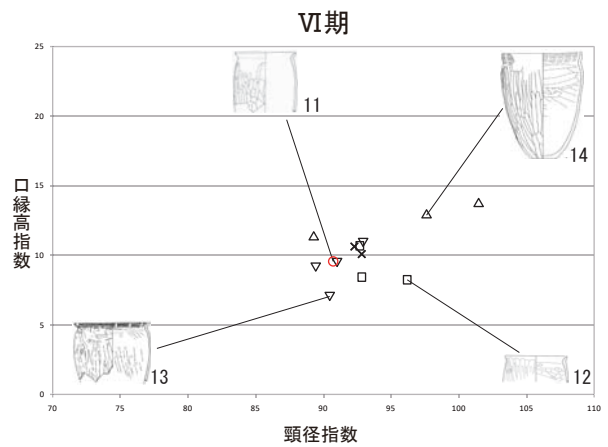
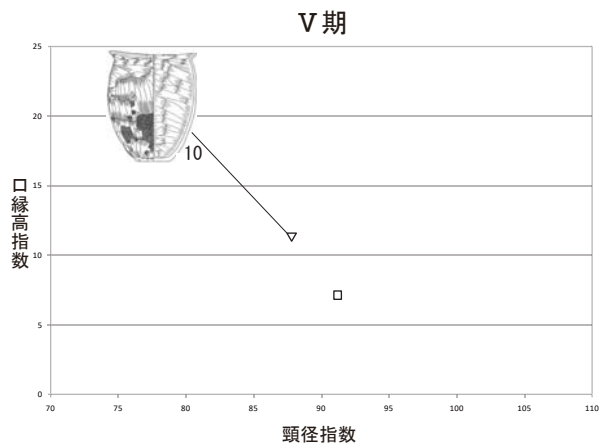
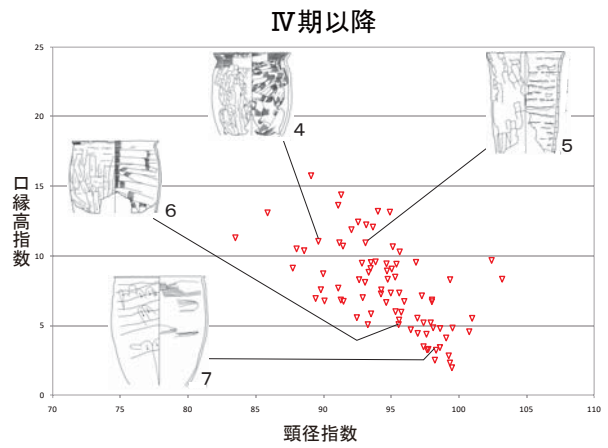
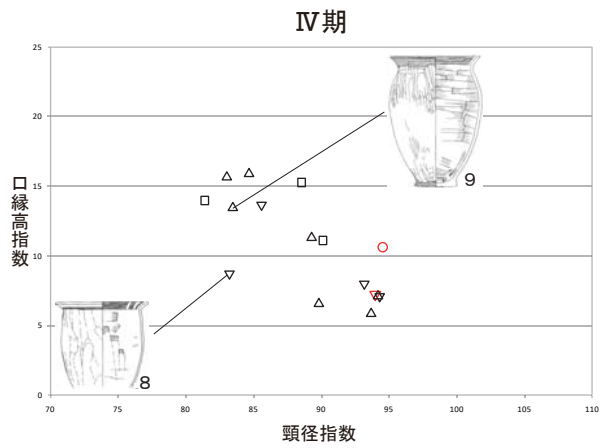
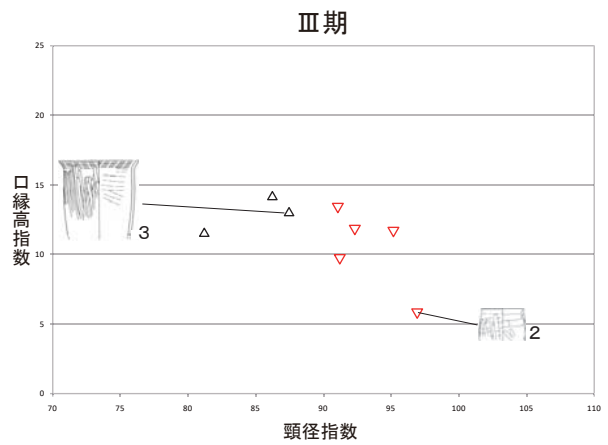
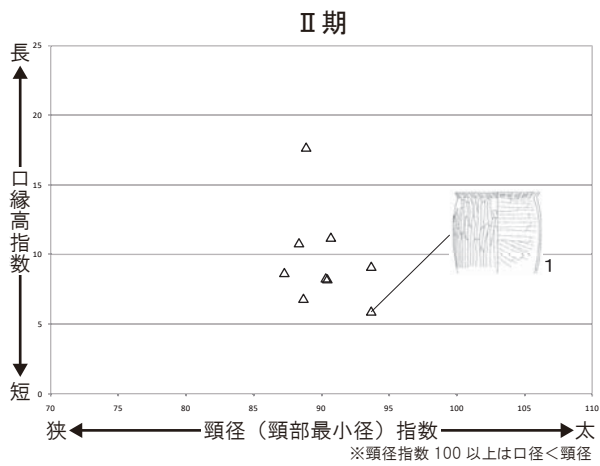


土器縮尺 1 : 20

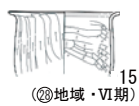
散布図凡例

- ☆…①～④郡内
- ◇…⑧北上川上流域
- …⑨安比川流域
- …⑩馬淵川上流域
- ▽…⑪馬淵川中流域南部
- △…⑬北上山地北部
- …⑮久慈地域
- ☆…⑯八戸平野周辺
- ◇…⑰上北地域南部
- …⑱上北地域中部
- …⑲上北地域北部

図 26 非ロクロ土師器甕の法量分析結果 (陸奥国域・郡外太平洋側)



ロクロ長胴甕



土器縮尺 1 : 20

散布図凡例

- …①能代平野周辺
- ▽…②米代川上～中流域
- ×…④津軽平野南部～南縁丘陵周辺
- ▽…⑤津軽平野東縁～大釈迦丘陵
- △…⑥青森平野周辺
- …⑦～⑨津軽平野西部～岩木山北東麓、津軽平野北部、西津軽・日本海沿岸

図 27 非ロクロ土師器甕の法量分析結果 (郡外日本海側)

ロクロ成形品が圧倒的に多い。口縁部が外反する角度や長さはさまざまであるが、受け口状を呈するものが多く、胴部中央が口縁部よりも張り最大径をもつという共通点がある。非ロクロは、④紫波地域 Iw-138 出土品のように口縁高指数 11.5・頸径指数 92.3 と比較的短めのタイプがみられるいっぽうで、②和賀地域 Iw-187 資料や③稗貫地域 Iw-155 資料のように口縁高指数 13.5・頸径指数 82.0 と長く外反するタイプが存在する。

郡外太平洋側（⑨・⑪・⑬・⑮～⑰地域）

非ロクロ甕の器形には地域差が看取される。⑨安比川流域、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域、⑮久慈地域、⑯八戸平野周辺の非ロクロ資料には、頸部に段を有するものがある（図 26-1）。⑪・⑮・⑯各地域資料は口縁高指数がおおむね 11 以上と総じて口縁部が長い。これに対し、⑨地域 Iw-049 出土資料（図 26-2）や⑰上北地域南部 Ao-041 出土資料（図 26-3）は比較的口縁部が短く、口縁高指数 8～9、頸径指数 90 前後を測る。ロクロ成形品は非ロクロに比して少ない。⑬北上山地北部の資料（Iw-078・図 26-4）は口唇部形態が極めて単純で、つまみ出し等がない。

郡外日本海側（⑳地域）

非ロクロ甕は、郡外太平洋側に比して口縁部が短めの資料が多く、口縁高指数・頸径指数はそれぞれおおむね 8 前後・91 前後を測る。ただし、口縁部ははっきり外反する（図 27-1）。胴部最大径位置は胴部中位より高く、比較的肩が張る。ロクロ資料は該当資料数が少なく詳述しかねるが、小型甕だけでなく長胴甕も存在する。

（2）Ⅲ期

時期区分の方法上、当該期は時間幅が短いため該当資料数も少ない。

陸奥国域（㉑地域）

ロクロ成形品の出土比率が高い。口縁部は受け口状を呈するものが多い。㉑和賀地域の Iw-188 八幡遺跡 SI055（図 26-5）では To-a 層直下から非ロクロ甕がまとまって出土しており、口縁高指数 18 以上と長く大きく外反する。

郡外太平洋側（㉒～㉓・㉕地域）

⑩馬淵川上流域や⑪同中流域南部、⑮久慈地域では、頸部に段を持つ非ロクロ成形の個体がまだ確認される（図 26-6）。いっぽうで、⑧北上川上流域と⑨安比川流域では口縁高指数 5 以下、頸径指数 95 以上と既存品にはなかったレベルの短化個体が確認される（図 26-7・8）⁹⁾。⑧地域 Iw-112 出土資料（図 26-7）は口唇部が先細りする。

ロクロ成形品の口縁部形態は、受け口状を呈さず単純なものが多い。

郡外日本海側（㉓-a・㉕地域）

㉓-a 米代川上流域は、当該期を含め全期を通して非ロクロ成形品が主体である。Ⅲ期の非ロクロ甕は、Ⅰ期に比して全体的に口縁部が短化している。口縁高指数 11～13 程度と口縁部が長い個体が存在するいっぽうで、口縁高指数 5.7、頸径指数 96.9 と既存品にはなかったレベルの短化個体が確認される（図 27-2）。当期の⑧北上川上流域・⑨安比川流域で確認されたものと類似する資料で、以後このタイプは㉓-a 地域から郡外太平洋側を中心に増加していく。その詳細は次項で述べる。

㊸青森平野周辺の資料について、非ロクロ甕は口縁高指数 11 以上、頸径指数 88 以下で、前代と同じく口縁部がしっかり外反するものが大半である（図 27-3）。ロクロ資料は、前代と同様に長胴甕が存在する。器形の変化は看取されない。

（3）IV期

郡外太平洋側（㊹・㊺・㊻・㊼・㊽・㊾地域）

㊹安比川流域は、非ロクロ成形品とロクロ成形品が拮抗する。他の地域は非ロクロが大半を占める。㊹地域のロクロ甕は口縁部のつくりが受け口状を呈するものが多い（図 26-9）。

非ロクロ甕では、III期に㊸・㊹・㊻-a の各地域で確認されたような頸部が弱くくびれ口縁部の外反が短く、口唇部が先細るタイプが㊹安比川流域・㊼八戸平野周辺・㊾上北地域北部で（図 26-10・11）確認される。羽柴直人は、おいらせ町中野平遺跡第 5 群土器（10 世紀前半・To-a 降下後～B-Tm 降下前）の特徴の一つに当該種の存在を挙げ（羽柴前掲）、宇部則保は岩ノ沢平遺跡出土資料の考察の中で当該種を「本遺跡の中で新しい特徴を備えたもの」（宇部 1993）とみなし、これを含む C 群を 9 世紀末～10 世紀初めを中心とした年代と推定している。なお、㊼八戸平野周辺および㊾上北地域南部においては煮炊具の組成主体がこのタイプに転換するようである。いっぽう、㊾上北地域北部の主体はしっかり外反するタイプである（図 26-12）。㊺馬淵川上流域と㊻久慈地域ではしっかり外反するタイプばかりが検出され、㊻地域の資料では頸部に段を有するものがまだ存在している。

当該期に急増した、口縁部の外反が短く口唇部が先細る非ロクロ甕は、体部調整がヘラケズリもしくはヘラナデで、胎土に粗い砂粒を多く含むことも大きな特徴である。筆者は、この様態の非ロクロ甕を「口縁短外反型甕」と呼称することとする。法量は、口縁高指数が 10 以下、頸径指数が 95 以上におおむね収斂する。

なおここで、B-Tm テフラが検出されないため V 期以降の比定資料がない㊸北上川上流域および㊺馬淵川中流域南部について、IV 期以降構築の資料を紹介しておく。IV 期資料よりも口縁短外反型甕の組成比率が上がり、短化傾向もさらに強まる。Iw-004 駒焼場遺跡に多く見られるが（図 26-14）、この遺跡はいわゆる防御性集落で、10 世紀後半すなわち VI 期の所産と考えられている。Iw-011・012 長瀬 A・B 遺跡にはロクロ甕も一定量存在する（図 26-15）。

郡外日本海側（㊿・㊽・㊾～㊿地域）

㊿米代川上～中流域では、III 期に確認されていた口縁短外反型甕が当期に至って増加し、さらに短化傾向が強まる。なお、B-Tm 降灰状況の関係で当地域では V 期以降に比定された資料がほとんどなく、IV 期以降もしくは IV 期以降構築とした分類に十和田噴火以後の資料の大半が含まれる。実質的に IV 期に収まらない資料も多数含むが、ここでその内容について記しておく。組成は、口縁高指数 7～15 程度、頸径指数 88～94 程度のしっかり外反するタイプ（図 27-4）、胴部から頸部にかけてまったくくびれない寸胴タイプ（図 27-5）、口縁高指数 5～10 程度、頸径指数 95～98 程度の短外反タイプ（図 27-6）、口縁高指数 5 以下主体、頸径指数 96.5～99.5 と口縁短化がさらに顕著

でほとんど外反しないか直立するタイプ（バケツ型・図 27-7）、頸径指数 100 以上の口縁内湾タイプなどがある。なお、短外反型やバケツ型には口唇が尖化したものが多く確認される。IV～VI期の郡外太平洋側の器形変遷過程をみれば、バケツ型や内湾型は比較的新しい形態と捉えられる。

なお、ここで㊸米代川上～中流域における煮炊具の変遷事例を発掘調査成果から引用しておく。Ak-037 狼穴IV遺跡と Ak-038 釈迦内中台 I 遺跡では、To-a 噴火後直ぐは口唇外面が平坦で端部を大きく引き出すロクロ甕が主流で（図 28）、次の段階は頸部が屈曲し口縁部が長く外反する非ロクロ甕に、さらにその後は口縁短外反型の非ロクロ甕主体に変化していくという指摘がなされている（新海 2005・2008）。いずれの遺跡も十和田噴火直後に出現する集落であり、その最初の住人は煮炊具にロクロ甕を用いていた。この点は非常に重要である。なお、Ak-037 狼穴IV遺跡では、口縁短外反型甕が主体となる時期を 10 世紀中葉（B-Tm 噴火期頃）としている。他方、Ak-036 坂下II遺跡では非ロクロ甕の口縁短化過程が同様に確認されるものの、ロクロ甕の出土は1点のみであり、前二遺跡の初期段階が存在しない。（加藤 2009）。

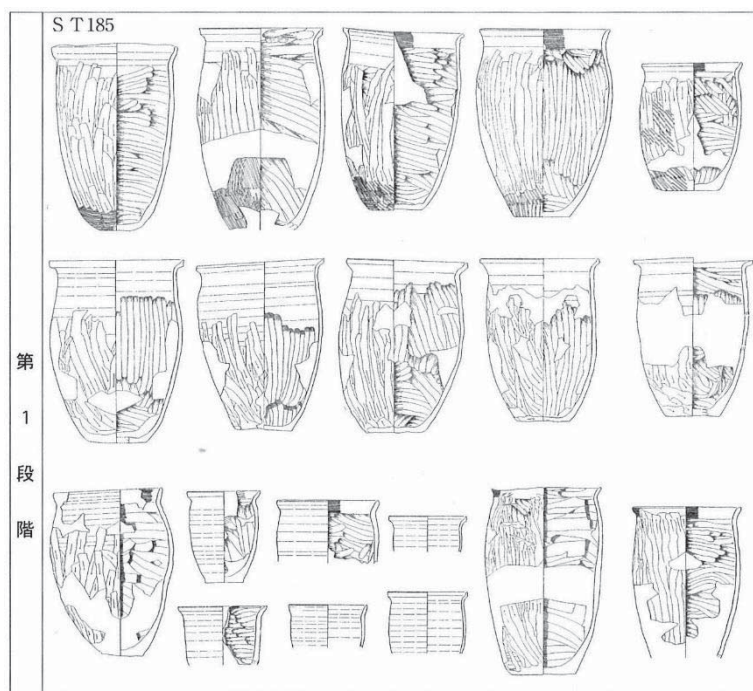


図 28 Ak-038 釈迦内中台 I 遺跡における十和田噴火直後期の煮炊具（新海 2008）

十和田カルデラ以北の非ロクロ甕は、各地域ともに頸径指数 90 以下の資料が大半で、口縁部がしっかり外反するタイプが主体である。㊹津軽平野東縁～大釈迦丘陵と㊺青森平野周辺には、頸部屈曲が曲線的で大きいタイプ（図 27-8・9）が存在する。ロクロの器種には、小型甕、長胴甕に加えて鍋が確認される。

（4）V期

III期と同様に時期区分の方法上、当該期は時間幅が短いため該当資料数も少ない。

郡外太平洋側（㊹・㊺・㊻・㊼地域）

㊺馬淵川上流域 Iw-041 大平遺跡はロクロ・非ロクロの組成差が小さく、他所は基本的に非ロクロ成形品主体である。大平遺跡の長胴甕は両成形品とも同形態で、口縁部径・胴部径・庭部径の差が小さく寸胴な形である。頸径指数も 91～94 と低くなく、口唇部も先細らない（図 26-16）。IV期の Iw-025 親久保II遺跡でも類似の長胴甕が出

土しており（図 26-13）、十和田噴火後における当該地域の特徴のようである。いっぽうで、⑭上北地域北部の非ロクロ長胴甕は底部径が小さい（図 26-17・18）。器形的には⑨・㉓地域出土品などと類似し、口縁短外反型が多数存在する。

郡外日本海側（㉕・㉗地域）

口縁がしっかり外反する非ロクロ甕が主体である（図 27-10）。IV期に見られた頸部屈曲が曲線的で大きいタイプはなく、前期以前と比べ比較的鋭角に外反するようである。

（5）VI期

時期区分の方法上、下限を明確に規定できないため当該期は時間幅が長い。

郡外太平洋側（⑨・⑬・⑯・⑰・⑱地域）

非ロクロ甕は、口縁短外反型が圧倒的多数を占める（図 26-19）。口縁高指数 5～6 の資料が最も多く、⑱上北地域北部では頸径指数が 95 以上の資料が激増し、100 以上のほとんど外反しないタイプも増加する。また、同地域には、頸部が全くくびれないバケツ型の一団が一定量存在し、口縁部が内湾するものもある（図 26-20）。いっぽうで、図 26-21 のように頸部が弱くくびれ、口縁部が直立するタイプ（口縁高指数 15.2～18.6・頸径指数 91.0～91.5）が出現することも特徴的である。

郡外日本海側（㉑・㉒～㉔地域）

㉑能代平野周辺のVI期は非ロクロ、ロクロ両者が存在し、当該期にしてはロクロ成形品の多さが特徴的である。非ロクロは口縁高指数 10 以下、頸径指数 90 以上で口縁部の外反は弱い、極端に短化するタイプはみられない（図 27-11）。口縁短化傾向は㉓米代川上～中流域より弱いようである。ロクロ成形品に関して、㉑地域の当該期資料は口唇が単純な形態を呈し、これは㉓地域のIV期以降資料にも共通する。

十和田カルデラ以北の非ロクロ甕には、図 27-12 のように口縁短外反型の範疇に入る資料が見られるようになる。しかし、群外太平洋側と比較すると、当該地域は口縁が比較的鋭角にしっかり外反する器形が主体である（図 27-13）。なお、図 27-14 のように頸部が弱くくびれ、口縁部が直立するタイプ（口縁高指数約 13 以上）が見られ、これは前述の⑱上北地域北部出土品（図 26-21）と近似する。ロクロ成形品では、図 27-15 のように口縁部が強く外反する資料がある。これは、五所川原産須恵器長頸壺類の器形変化（藤原 2003）と同種の過程と考えられる。なお、ロクロの組成比率はV期以降激減しており、これも大きな特徴である。

4 小結—煮炊具からみた十和田 10 世紀噴火前後の人的動態—

（1）「律令的土器」と「在地的土器」

前節で指摘した事象を整理し、各期における各地域の土師器長胴甕の在り方をまとめる。そこから当該器種の時間的・空間的差異を理解し、文化の繋がりや伝播の様相を読み解く。そしてこの動態と火山噴火災害の関連性について考える。

議論を進める前に、ロクロ成形甕と非ロクロ成形甕の性格について改めて整理しておく。前述のとおり、ロクロ成形品のうち大型のもの（長胴甕）は律令国家の管理下

において製作されたと考えられている（八木 2006b など）。郡外におけるロクロ長胴甕の出土状況を、律令国家域との位置関係や須恵器窯跡の有無と考え合わせればそれは理解でき、筆者も基本的にこれに同意する。よって、ロクロ長胴甕を「律令的土器」と定義付ける。ロクロ長胴甕の存在や保有比率が、律令国家の影響度を測る指標になるといえる。

いっぽうの非ロクロ長胴甕は、郡内・外を問わず存在する。日用雑器であり、各地域で製作されていたと考えられている。いわば「在地的土器」といえるものである。律令国家の北進前から存在し、平安期に入ってからでも連綿と製作が続けられた。その製作に関して律令国家による制約が加わったような様子はみられず、製作者（在地住民）の手により変化が可能なものであったといえる。つまり、非ロクロ長胴甕単独の変化がみえれば、それは在地独自の変化と考えられ、その動態は在地集団の動態と捉えられる。

この「律令的土器」と「在地的土器」という観点から、保持集団の性格を考えてみたいと思う。

（2）各地における土師器煮炊具の変化とその時期

時期ごとに様相をまとめていく。

まず、Ⅱ期の⑨安比川流域、⑪馬淵川中流域南部、⑮久慈地域、⑯八戸平野周辺の非ロクロ甕の中に頸部有段の個体があることと、⑪・⑮・⑯各地域資料は口縁高指数がおおむね 11 以上と口縁部が長いことが特徴として挙げられる。これは明らかに伝統的な様相で、Ⅲ期の⑩馬淵川上流域と⑪・⑮地域でも確認される。十和田噴火の直前まで同様相を有していることは、この一帯の大きな特徴といえる。いっぽう、郡外日本海側および⑳青森平野周辺は、これら地域に比して口縁部が短い傾向が看取される。ただし、短外反型の範疇ではない。

Ⅲ期の大きな特徴は、⑧北上川上流域、⑨安比川流域と㉓米代川上～中流域で口縁短外反型甕が確認されることである（図 26-7・8、27-2）。この手の非ロクロ甕の初見事例であり、それは十和田カルデラ南側の郡外領域、ただし律令国家の影響を比較的多く受けている地域で作られた煮炊具であることが判明した。また、郡内・陸奥国域ではロクロ成形甕が主体であり、郡外とは組成面で大きな差異がある。

Ⅳ期、大きな変化をみせる地域が相次ぐ。まず、⑨安比川流域ではロクロ甕の比率が非ロクロ甕と同数程度にまで増加する。ロクロ甕の口縁部形態は受け口状で、これは㉓米代川上～中流域 Ak-037 狼穴Ⅳ遺跡および Ak-038 釈迦内中台Ⅰ遺跡で集落開始とともに主体的に使用されたロクロ甕と類似する。⑨地域と㉓地域は奥羽脊梁山脈を挟んで隣接しており、この2つの地域で同時期に同様の変化が起こっていたのである。この出来事は、ロクロ甕の流通圏内にいた人々による両地域への移住、すなわち律令国家内からの移住を示すものと理解される。ここで一つ問題となるのが、Ak-037 狼穴Ⅳ遺跡と Ak-038 釈迦内中台Ⅰ遺跡におけるその後の動向である。ロクロ甕主体の段階から、頸部が屈曲し口縁部が長く外反する非ロクロ甕主体の段階へ、この転換は簡単には理解できない。単にロクロ甕の供給が停止したのか。それとも煮炊具使用者（住

人) 自体が変わったのか。ただし、釈迦内中台 I 遺跡ではロクロ長胴甕使用者の居住遺構がみつかっておらず、竪穴建物ではなく平地式建物に居住していた可能性を新海和宏は指摘している (新海 2008)。もしそうだとすれば、住まいと煮炊具の両方が変化したことになり、出自の異なる集団が当地へ入ったと解釈される。

そしてもう一つの大きな動きは、口縁短外反型甕の増加と拡散である。少なくとも⑨安比川流域、⑬八戸平野周辺、⑭上北地域北部、⑮米代川上～中流域で確認され、⑧北上川上流域および⑬上北地域中部も同様だったと考えられる。また、⑬北上山地北部ではⅢ～Ⅳ期とした資料に当型式類似資料が含まれており、やはりここにも存在した可能性が高い。これらの事象が示すものは、人の動きと解される。少なくともⅢ期に同型式が認められた⑧・⑨・⑮地域 of いずれかから、⑬・⑬・⑮・⑮各地域への移動・移住があったといえる (図 29)。なお、この動きにはロクロ長胴甕の顕著な組成変化は伴わず、在地集団独自の移住と考えられる。

そのいっぽうで、大きな変化がみられない地域もある。太平洋側では⑩馬淵川上流域と⑮久慈地域、日本海側では少なくとも⑯青森平野周辺は、前代と大差がない。従

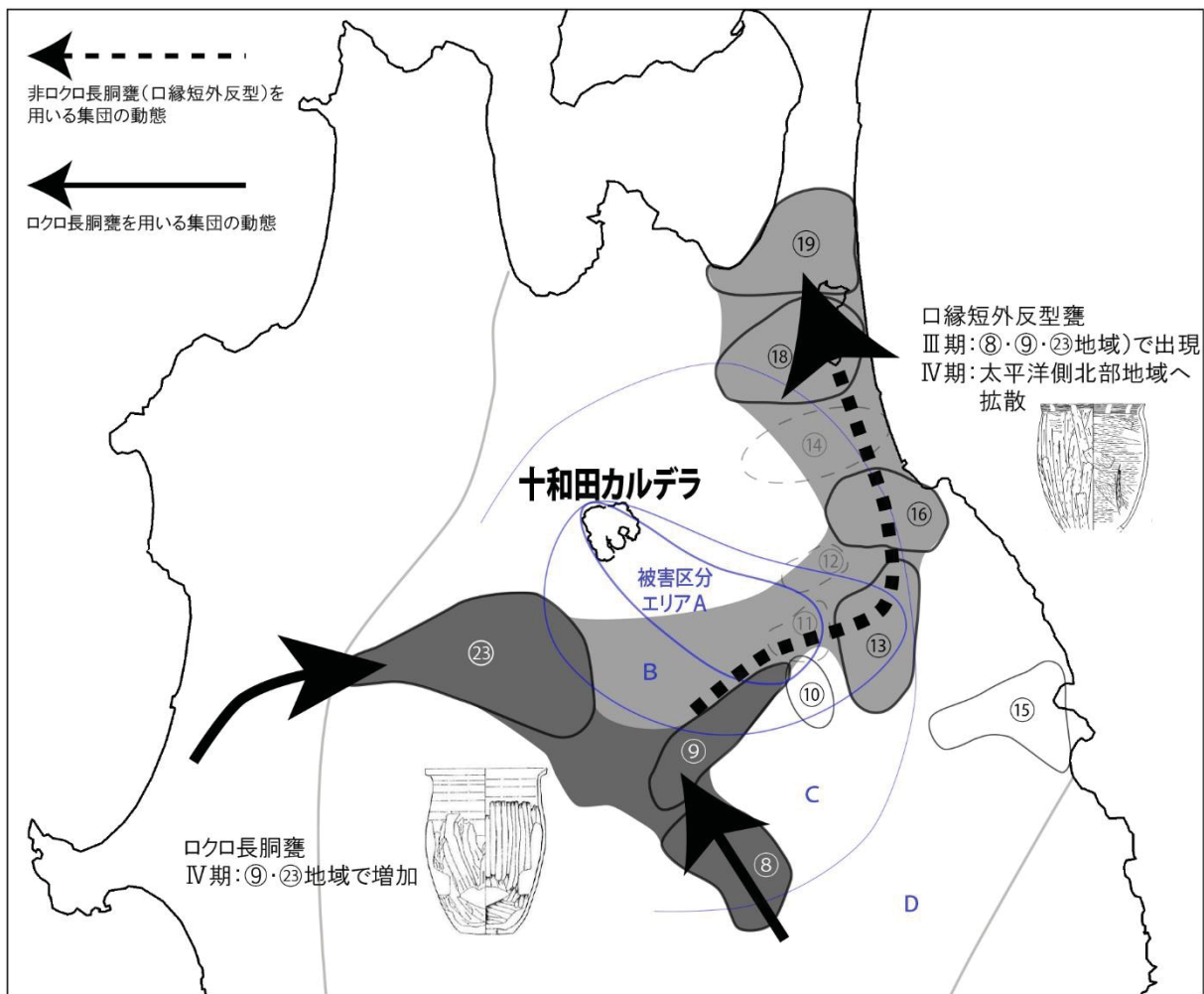


図29 煮炊具にみる十和田10世紀噴火後の動態

来の様相を維持している地域といえる。ただ、⑩地域はV期に至って独特の形態の煮炊具を有するようになる。

VI期になると、郡外太平洋側は確認可能なすべての地域で口縁短外反型甕が煮炊具の主体となる。日本海側でも⑬米代川上～中流域は同じ動きをみせる。さらに、⑭能代平野周辺、⑮津軽平野東縁～大釈迦丘陵、⑯津軽平野北部でも客体的ながら同型甕が確認でき、口縁短外反型甕は郡外地域全体に展開することとなる。

(3) 火山噴火との関連性

十和田10世紀噴火の前後において大きな変化を呈したのは、⑨安比川流域および⑬米代川上～中流域におけるロクロ甕の増加と、両地域を含む給源南側一帯から郡外太平洋側各地へ広がった口縁短外反型甕の拡散である。これらの事象単体ではその発生要因を理解できないが、両者とも火山噴火による被災度を考えれば理解が可能である。

⑬米代川上～中流域は、毛馬内火砕流とそれにとまなう大規模なラハールによって河川流域の低地が甚大な被害を被った。その地に突然、律令的土器を用いる集団が現れる。わざわざ被災地にこのような集団が入るという事象を、火山噴火と切り離して考えることはむしろ難しい。噴火後に何らかの形で律令国家が介入した、物質文化からはそう捉えられる。⑬地域に隣接する⑨安比川流域で同様の変化が起こったことは、共通した動きと考えてよかろう。

口縁短外反型甕の拡散元は、⑨安比川流域・⑬米代川上～中流域の両地域であり、ロクロ長胴甕増加地域と重なる。同一時期に同一地域で起こった二つの事象は、関連していたと捉えるのが自然である。つまり、両者とも十和田火山噴火にとまなうて発生した事象と考える。口縁短外反型甕の太平洋側北方への拡散は、この煮炊具を用いた在地集団、つまり蝦夷による当該地域への移住行動を示すものといえるが、第4章図15・16で示したTo-a等層厚線図と被害区分図をみれば、移住先は被害程度の小さい地域であったことがわかる。すなわち、火山噴火災害にとまなう移住行動と捉えられるのである。

ただし、口縁短外反型甕を用いる人々はその後の⑨・⑬両地域にも確認されることから、この物質文化を持つ集団すべてが移住を選択したわけではないことがわかる。蝦夷集団の中にも、温度差があったのかもしれない。そして、⑨安比川流域における煮炊具組成比率や第6章で述べた竪穴建物建築様式の在り方が示すように、残った蝦夷集団は律令国家側の集団（もしくは、律令国家側により近い集団）と同一地域内で共存する状態にあった。当時の⑨・⑬両地域における律令側住民と蝦夷側住民の関係は、基本的に敵対するものではなかったのであろう。

また、口縁短外反型甕の在り方からいえば、太平洋側に位置しながら同型式が拡散しなかった⑮久慈地域の集団は特異な存在といえる。第6章でみたように、遺構も大きな変化を示さず、在地的な様相をより長く維持した。その理由は、火山噴火の被害度にあったと考えられる。テフラ降灰量が少ないこの地域は、図16の被害区分図におけるエリアD内に位置する。この地域的には、変化の必要がなかったのだろう。しかも在地色の強い先住者がいるという点で上北地域中～北部とは異なるため、太平洋側

にありながら独自性を維持して存在し続けたのだといえる。

註

- 1) 地域や調査者・機関により呼称や定義に若干の差異があり、「赤焼土器」「あかやき土器」「赤褐色土器」「須恵系土器」「土師質土器」などさまざまに呼ばれてきた。
- 2) 本稿で非ロクロ土師器およびロクロ土師器内黒と呼称しているものを、秋田市教育委員会では「土師器」と呼んでいる。
- 3) 秋田市教育委員会では、ロクロ成形の食膳具で再調整や黒色処理のされない酸化焰焼成の土器を「赤褐色土器」と呼称している。「赤焼土器」「あかやき土器」と同種である。また、煮炊具のうちロクロ成形のものを「赤褐色土器」、ロクロ不使用のものを「土師器」と呼称している。
- 4) 八戸などの馬淵川下流域を含む範囲を「都母」と設定している（八木 2006b）。
- 5) 工藤清泰の 10 世紀後半に底径が縮小化するという指摘のみである（工藤 2000）。
- 6) 三浦圭介はこの時期区分を「B-Tm 噴火期」としている。
- 7) 八木光則（2006b）は伊藤博幸（2006）による「陸奥型甕」の定義について、タタキ成形が入ることを基準の一つとしているがロクロ成形の長胴甕にはこれが認められないものも多く、新期になればタタキ成形は減少するため、このような甕を範疇に入れていないことを問題視した。よってその名称を採用せず、出羽型甕とともにロクロ成形の甕類を赤焼土器と総称する、としている。
- 8) 8 世紀第 2 四半期から 10 世紀後葉まで記述があるが、本稿では 9 世紀第 3 四半期以降について示した。
- 9) ここで対象としているのは小型甕以上の器形の高い資料である。小型甕については口縁部の短いタイプがこれ以前からすでに存在する。器高が低いため口縁部も当然短く、外反しない器形も特別ではない。

終章 結論—十和田 10 世紀噴火に対する社会の反応—

1 火山災害史研究を進展させるために

十和田 10 世紀噴火の火山学的様相は、多くの当該分野研究者によって 1970 年代以降着々と明らかにされてきた。いっぽう、同じころから急激に増加した緊急発掘調査によって、古代の遺構から灰白色の火山灰が次々と発見され、調査担当者はその都度「事実記載」を残してきた。

災害という概念は、人間が関与して初めて生じるものであり、過去に起こった自然災害は考古学的・歴史学的検討が実施されなければ明らかにならない。いくら火山学側の研究が進展しても、考古学側が研究を進めなければ不明のままである。

十和田 10 世紀噴火もまさにその状況であった。灰白色火山灰が 10 世紀に発生した十和田カルデラの噴火によるものであり、その噴火規模が過去 2000 年間で日本国内最大規模であったと判明してから後も、この火山噴火イベントが人間に対してどのような影響を与えたのか、考古学的な研究成果はラホール被害が確認された秋田県米代川流域や、各地で散見される農耕痕跡などの事例に限定されてきた。より広域に影響を与えたであろう降下テフラに対する研究は進展せず、事実記載というビッグデータは蓄積されるままで、そのほとんどが活用されてこなかった。

発掘調査成果は、ただ後世に残すことを目的としたものではない。記録保存の重要性は、それを活用し、考古学的・歴史学的研究を進展させていくことにある。しかし、テフラ堆積・埋没過程の再現性の限界、調査記録の個人差などさまざまな理由から、テフラを研究対象として用いることに対する「限界意識」が生じ、年代指標として用いる研究は停滞して、火山災害史解明の対象として扱われることはほとんどなかった。

その限界意識もさることながら、データ量が膨大すぎるという点も大きな壁になっていたと思われる。しかし反対に、限界意識を生じさせたデータの質的な問題は、個々の記録に内包する解釈差に捉われない最小公倍数的な分類による統一基準を設けることで解決される。そしてその作業を統計的に成立させるには、対象資料が多いほど良い。つまり、ビッグデータを活用することで解決できる。むしろ都合が良いのである。2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以降、自然災害が頻発している現在では、過去の災害を検証することの重要性がよりいっそう叫ばれている。考古学がこれに寄与できる方法は、発掘調査の結果をなるべく詳細に記録することであり、それを活用して災害史を編んでいくことである。

本研究では、北東北 3 県で発掘調査が実施された 1 万件以上の竪穴建物の記録を確認し、そこから十和田 10 世紀噴火災害による広域的な人的動態を明らかにしようとして試みた。広域テフラに対して、3500 件を越える堆積遺構を集成し分析・検討した事例は本研究が初めてであろう。最後に、前章までに示してきた成果をまとめ、今後の課題を提示する。

2 十和田 10 世紀噴火の被害推定と人的動態

第 4 章では、十和田 10 世紀噴火イベントのうち火砕流とそれにともなう火山泥流（ラハール）、降下テフラの影響について考察した。給源の南西側、秋田県大湯川および米代川沿いを流下した火砕流とラハールが河川流域の集落に大災害を与えたことは複数の埋没遺跡が発見されていることから明らかで、毛馬内面上にその後の遺跡分布がみられないことから（第 4 章図 10～13）、しばらくその影響が続いていたかもしくは選地を避けていたことがわかる。しかし、㉓米代川上～中流域では噴火後まもなく高台に立地を移して集落が急増していた（第 5 章 2）。

給源北西側の浅瀬石川流域では水田耕作地の埋積事例があるが、それ以上の被害は確認されていない。下流の岩木川流域では被災痕跡はなく、逆に居住不適地だった湿地にラハールが堆積して乾燥化が進んだことで 10 世紀後半に集落が増加したという推定が成されている。

現在までのところ、給源東方にあたる太平洋側各河川流域でラハール堆積物が確認されたところはなく、その実態は不明である。しかし、毛馬内火砕流堆積物現存分布（第 4 章図 14）をみれば、奥入瀬川および五戸川の上流域は火砕流堆積物が流出しており、両河川沿いに流下したことがわかる。特に奥入瀬川は十和田湖が水源であり、さまざまな影響の発生は不可避であったと思われる。奥入瀬川流域の㉗上北地域南部は噴火を境に集落が急減しており、その影響が現れたものと解される（第 5 章 2）。

降下テフラの影響については、これまでほとんど不明であった。このため、今回の To-a テフラ堆積遺構集成の結果明らかとなった降灰量データを使用し、To-a 等層厚線図を再構成（第 4 章図 15）するとともに、二次堆積層までを含んだテフラ層厚の調査から被害区分図を作成した（第 4 章図 16）。これにより、給源南東側が比較的被害の大きい地域であることが判明した。ここに位置する㉑馬淵川中流域南部・十文字川流域は噴火を境に集落が急減しており、その影響が現れたものと解される（第 5 章 2）。なお、テフラ二次堆積層は基本的に水成堆積であり、これが幾度も繰り返していた様子が看取される。テフラの頻繁な流動が、被害を長期化させていた可能性がある。

3 物質文化にみる地域集団の性格差

上述のように、㉑馬淵川中流域南部・十文字川流域と㉗上北地域南部は十和田 10 世紀噴火を境に集落が急減した。反対に、㉙安比川流域、㉘上北地方中部、㉓米代川上～中流域の各地域は、降下前と比較して大幅に増加する。これが他所からの移住か否か、移住ならその出自を検討すべく、物質文化（竪穴建物と土師器煮炊具）の比較を第 6・7 章で実施した。竪穴建物は建築様式から「律令的建物」と「在地的建物」の 2 種に、土師器煮炊具（長胴甕）はロクロ使用の有無から「律令的土器」と「在地的土器」の 2 種にそれぞれ類別してそれぞれの動態を探った。両結果を合わせて、十和田 10 世紀噴火後の人的動態と噴火イベントとのかかわりを述べて本論のまとめとしたい。

上記 4 種の組み合わせから、律令国家の影響度を看取することができる（図 30 凡

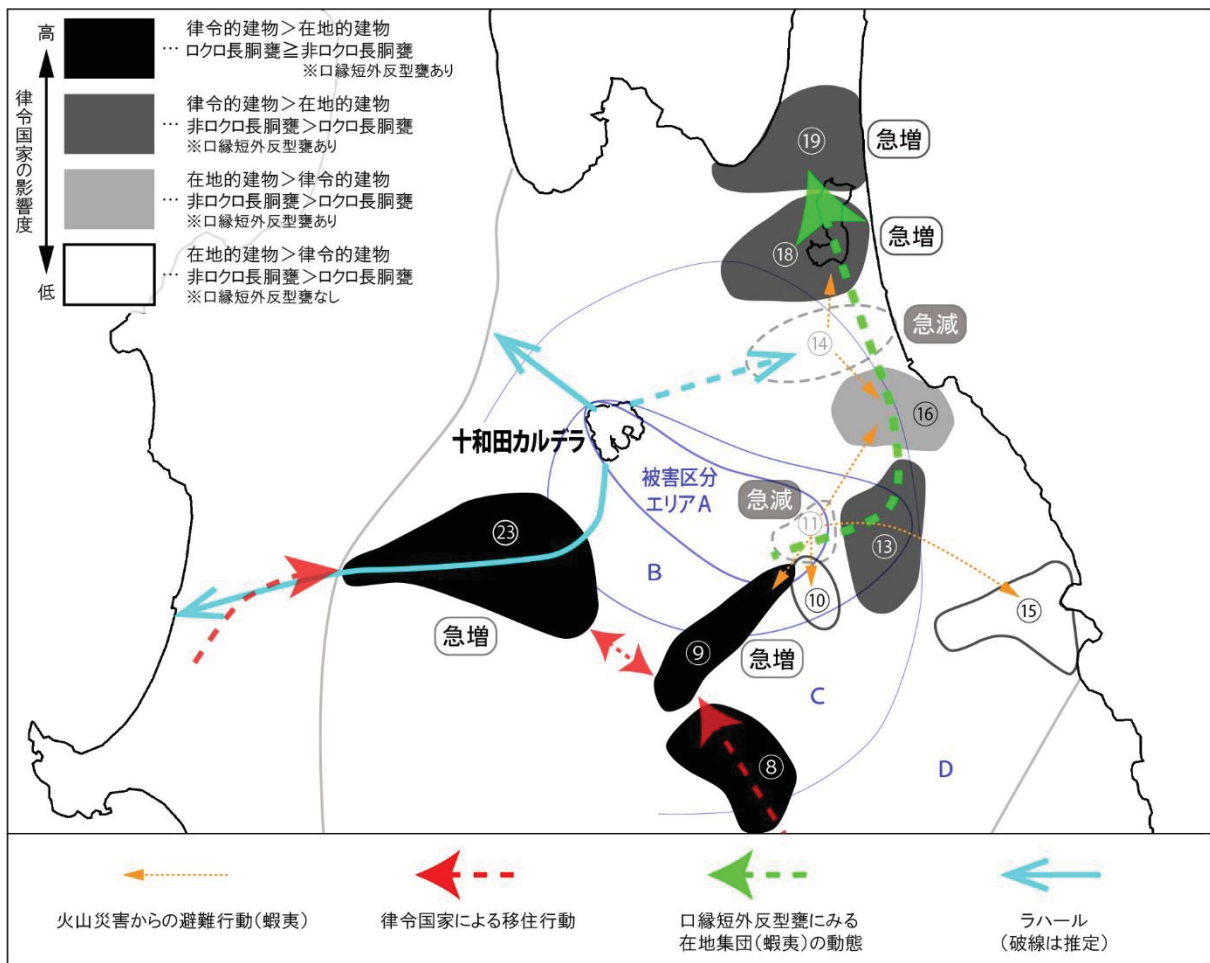


図30 十和田10世紀噴火による被害と各地域集団の動態

例)。律令的建物を主体とし、ロクロ長胴甕が半数以上の比率を占める場合が最も律令国家の影響度が強く、在地的建物と非ロクロ長胴甕を主体とする場合が最も影響度が低いといえる。ここで一つ注意したいのが、在地的建物とロクロ長胴甕を主体とする組み合わせは存在しないという点である。建物様式にも増して、ロクロ長胴甕は律令国家との関係性が強い道具ということがいえる。反対に、伝統的な非ロクロ長胴甕を保持し、IV期段階では口縁短外反型甕がみられない地域は総じて在地的建物が主体である。換言すれば、口縁短外反型甕は律令的建物と関連性が強いといえる。この甕の出現地域は律令国家との境界域に近い⑧北上川上流域・⑨安比川流域・⑬米代川流域の一角であり、律令国家との接触が比較的多い人々が製作した土器と考えられる。

以下、この組み合わせを基にして様相を述べていく。⑨安比川流域および⑬米代川上～中流域は、十和田噴火後にロクロ長胴甕が急激に増加することから、集落増は律令国家からの移住によるものといえる。そのいっぽうで、⑨安比川流域では噴火後に在地的建物が作られるなど伝統的様相をもつ蝦夷が存在していることもわかっており、特に地域北端にあたる安比川と馬淵川との合流点付近は、⑪馬淵川中流域南部・十文字川流域からの避難・移住先になったと考えられる。同じく、建物様相から⑩馬淵川

上流域、⑬北上山地北部、⑮久慈地域、⑯八戸平野周辺も移住先となった可能性がある。

⑱上北地域中部の竪穴建物は、噴火後に律令的建物主体へと変化する。同時に、口縁短外反型甕も出現する。噴火前まで過疎であった当地域の沿岸部へ移住した人々の出自は、⑧・⑨・㉓地域一帯と考えられる。⑲上北地域北部についても同様である。いっぽうで、⑱上北地域中部では噴火後に構築された在地的建物も存在する。地理的に考えても、隣接する⑰上北地域南部から避難した人々が相当数いたと思われる。また、⑰地域からの避難者は、南に隣接し伝統的な在地集団が在った⑯八戸平野周辺へも移ったであろう。その⑯地域でも、口縁短外反型甕が確認されるようになる。この甕を有する人々が⑨安比川流域から東の⑬北上山地北部へ、もしくは⑯八戸平野周辺へ北上し、さらに上北地域へと北上していったと考えられる。なお上述のとおり、⑨安比川流域と㉓米代川上～中流域には律令国家からの移住が発生しており、これと連関した、口縁短外反型甕を用いる在地集団の避難・移住行動の結果と考えられる。どちらの行動が先か、それに言及することは叶わないが、⑨安比川流域における共存状態をみれば、律令側が強制的に他所へ排除したとは思えない。火山災害に対して自主的に避難を実施し、被害の少ない新天地を求めたと考えられる。

被害の大きかった地域から避難・移住を行った在地集団すなわち蝦夷に対して、⑨安比川流域と㉓米代川上～中流域に移住した律令国家側の集団は、わざわざ被害の大きい地域に移り住んだことになる。そこには律令国家の強制力が働いたと考えるのが妥当である。㉓米代川上～中流域には、噴火前の段階から胡桃館遺跡のような施設が存在し、律令国家が進出していた。これは⑨安比川流域も同じで、噴火前すでに八葉山天台寺のエリアに礎石建物が建設され（浄法寺町教育委員会 1981・1983）、律令国家による介入が始まっていたと考えられる。噴火によって相当の被害を被った両河川流域を国家の北端として押さえ、復興を図ろうとした、そのための移住政策だったと考えられる。

大きな災害が発生したとき、社会によってその対応が異なることがある。十和田 10 世紀噴火後の人的動態は、律令国家と蝦夷、二つの社会の違いを表しているといえよう。

4 今後の課題

本論で明らかにしてきた十和田 10 世紀噴火後の動態については、今後、おもに各地での生活根拠となる生業や食性の面からも追及していく必要がある。

例えば、噴火前の米代川流域におけるおもな生業は、片貝家ノ下遺跡の検出例から水田耕作であったと考えられるが、毛馬内火砕流にともなうラハールで耕作適地は埋没し、その後に同地を開拓した痕跡はみつかっていない。噴火後、高台に構築された新興集落の食料基盤は何だったのか、その点を当該地域における今後の発掘調査で注意しなければならない。

この問題は、他の集落増加地域でも同様である。畠跡以外の耕作痕跡がみつかって

いない青森県太平洋側では、生業の解明が極めて重要である。多くの人々が移住した上北地域では、どのようにして生活を成り立たせていたのか。

また、そもそも律令と蝦夷の生業がどうであったか、その違いもはっきり分かっていない。両社会を理解する上で重要な課題である。

さらに、本論で指摘した非ロクロ土師器長胴甕の口縁部短化現象は、なぜ発生し、拡散したのか。煮炊具は生業や食性に直結するだけに、やはり生業・食性問題は重要である。

これら問題の解決は、今後実施されていく発掘調査の方法にかかっている。各種分析（花粉やプラント・オパールなど）を実施してデータを蓄積していくことが必要となるほか、最も安価でどの発掘現場でも実施でき、かつ直接的なのが、竪穴建物のカマド堆積土に対してフローテーション法を実施することである。カマドで加熱された動・植物遺体が検出できるこの作業を地道に続けていくことによって、今まで見えていなかった食性の様子が見えてくるはずである。これは、発掘に携わる考古学者・調査担当者にしかできない仕事である。

また、さらなる大きな仕事として、白頭山 10 世紀噴火後の人的動態研究がある。過去 2000 年間で世界最大級という噴火が日本に及ぼした影響は、どの程度であったのか。その主たる降灰域である北海道を含め、噴火後におけるテフラ以外の年代指標を物質文化で組んだ上で研究を進める必要がある。VEI 6 の巨大噴火の影響を知ることが、防災・減災面でも極めて重要な意味を持つであろう。

引用・参考文献 ※テフラ堆積様相分析に用いた発掘調査報告書は第3章表9に掲載

赤石和幸・光谷拓実・板橋範芳 2000「十和田火山最新噴火に伴う泥流災害一埋没家屋の発見とその樹木年輪年代一」『地球惑星科学関連学会 2000 年合同大会予稿集』、Qa-009 頁
秋田県教育委員会 1968『胡桃館埋没建物発掘調査概報』、秋田県文化財調査報告書第 14 集

秋田県教育庁払田柵跡調査事務所 1998『払田柵跡一第 110～112 次調査概要一』、秋田県文化財調査報告書第 280 集

秋田県教育委員会 2001『姥ヶ沢窯跡』、秋田県文化財調査報告書第 327 集

秋田県埋蔵文化財センター2016『講演会 十和田火山泥流と片貝家ノ下遺跡』

秋田県埋蔵文化財センター2017『米代川流域の古代社会～集落・生業・墓と祭祀～』、平成 29 年度秋田県埋蔵文化財センター企画展第Ⅱ期パンフレット

石塚友希夫・中村俊夫・奥野充・木村勝彦・金奎漢・金伯禄・森脇広 2003「白頭山火山の 10 世紀における巨大噴火の高精度 AMS¹⁴C 年代測定」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』14、名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究部、58～65 頁

石野博信 1990「第 5 章 火災住居跡の課題」『日本原始・古代住居の研究』、吉川弘文館、303～350 頁

石村大輔・吉永佑一・山田圭太郎・原口強・遠田晋次 2017「長野県、青木湖の湖成堆積物中に新たに見出された十和田-中掬テフラ」『第四紀研究』56-6、日本第四紀学会、265～270 頁

板橋範芳 2000「道目木遺跡埋没家屋調査概報」『火内 大館郷土博物館研究紀要』創刊号、大館郷土博物館、28～46 頁

市川金丸 2006「東北地方北部の円筒式・大木式土器編年と十和田中掬テフラ (To-Cu) について」『三内丸山遺跡の生態系史』、植生史研究特別第 2 号、日本植生史学会、139～149 頁

伊藤武士 1996「秋田城跡出土の 10 世紀前後の土器群について」『第 3 回古代末期土器群の勉強会資料』、42～44 頁

伊藤武士 1997「出羽における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』7、北陸古代土器研究会、32～44 頁

伊藤武士 2008「秋田城跡の出土土器編年」『秋田城跡Ⅱ一鶴ノ木地区一』、秋田市教育委員会、340～345 頁

伊藤博幸 2004「陸奥国の「出羽型甕」一その史的意義」『岩手考古学』16、岩手考古学会、113～124 頁

伊藤博幸 2006「陸奥型甕・出羽型甕・北奥型甕一東北地方の平安期甕の製作技法論を中心に一」『陶磁器の社会史 吉岡康暢先生古希記念論集』、桂書房、171～181 頁

伊藤博幸 2010「古代陸奥の歴史的景観の変移について一開発による森林破壊と自然災害一」『環境歴史学の風景』、岩田書院、65～96 頁

井上雅孝 1997「陸奥における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』7、北陸古代

土器研究会、45～56 頁

岩井浩人 2008「津軽地域における古代土器食膳具の変遷—9 世紀から 11 世紀を中心に—」
『青山考古』24、青山考古学会、17～43 頁

岩井浩人 2009「津軽南域における古代の土器様相」『扶桑 田村晃一先生喜寿記念論文集』、
青山考古学会、187～213 頁

宇田川浩一 2014「2. 鹿角・北秋田・能代地区」『9～11 世紀の土器編年構築と集落遺跡の
特質からみた、北東北世界の実態的研究』、北東北古代集落遺跡研究会、53～82 頁

宇部則保 1993「住居跡出土土器について」『岩ノ沢平遺跡発掘調査報告書Ⅱ』、八戸市埋
蔵文化財調査報告書第 50 集、八戸市教育委員会、26～32 頁

宇部則保 2005「飛鳥時代から平安時代の土師器」『青森県史資料編考古 3 弥生～古代』、
青森県史編さん考古部会、338～343 頁

宇部則保 2009「9 世紀前半の「爾薩体」、「都母」周辺の集落と土器」『第 35 回古代城柵官
衙遺跡検討会資料集』、古代城柵官衙遺跡検討会第 35 回事務局、192～201 頁

大池昭二 1972「十和田火山東麓における完新世テフラの編年」『第四紀研究』11-4、日本
第四紀学会、228～235 頁

大月義徳 2005「5-2 米代川流域の地形」『日本の地形 3 東北』、東京大学出版会、205～217
頁

小野映介・宮本真二・上中央子 2009「津軽平野，浅瀬石川扇状地に立地する前川遺跡周
辺の地形・地質」『前川遺跡』、青森県埋蔵文化財調査報告書第 475 集、第二分冊、青森県
埋蔵文化財調査センター、30～34 頁

小野映介・片岡香子・海津正倫・里口保文 2012「十和田火山 AD915 噴火後のラハールが
及ぼした津軽平野中部の堆積環境への影響」『第四紀研究』51-6、日本第四紀学会、317
～330 頁

鹿角市教育委員会 2005『特別史跡 大湯環状列石（Ⅰ）』、鹿角市文化財調査資料 77

加藤竜 2009「遺物について」『坂下Ⅱ遺跡』、秋田県文化財調査報告書第 444 集、秋田県
埋蔵文化財センター、207～209 頁

利部修 1997「出羽地方の丸底長胴甕をめぐって」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』
12、秋田県埋蔵文化財センター、1～18 頁

鎌田洋昭・中摩浩太郎・渡部徹也 2009『橋牟礼川遺跡 火山灰に埋もれた隼人の古代集落』、
日本の遺跡 40、同成社

上手真基・山田和芳・齋藤めぐみ・奥野充・安田喜憲 2010「男鹿半島，二ノ目潟・三ノ
目潟湖底堆積物の年縞構造と白頭山 - 苫小牧火山灰 (B-Tm) の降灰年代」『地質学雑誌』
116-7、日本地質学会、349～359 頁

苅谷愛彦・青木かおり・高岡貞夫 2016「東北地方南部，会津駒ヶ岳と月山火山で発見さ
れた完新世中期の十和田中掬テフラ」『第四紀研究』55-5、日本第四紀学会、237～246 頁
北東北古代集落遺跡研究会 2014『9～11 世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた、
北東北世界の実態的研究』

木村高 2016「青森地域の土師器生産」『一般社団法人日本考古学協会 2016 年度弘前大会

第Ⅱ分科会「北東北9・10世紀社会の変動」研究報告資料集』、日本考古学協会 2016 年度弘前大会実行委員会、253～267 頁

木村淳一 2008「新町野遺跡出土の古代の土器について」『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』、青森市埋蔵文化財調査報告書第 98 集、青森市教育委員会、686～694 頁

工藤清泰 1998「津軽平野の様相」『第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』、第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会事務局、67～76 頁

工藤清泰 2000「浪岡町の古代遺跡」『浪岡町史』第 1 巻、浪岡町史編集委員会、547～574 頁

工藤崇 2007「十和田火山，御倉山溶岩ドーム形成時期の再検討」『地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集』、V157-009 頁

工藤崇・佐々木寿 2007「十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年」『地学雑誌』116-5、東京地学協会、653～663 頁

工藤雅樹 1998「陸奥国分寺出土の宝相花文鏡瓦の製作年代について—東北地方における新羅系古瓦の出現—」『古代蝦夷の考古学』、吉川弘文館、379～405 頁

桑畑光博 2016『超巨大噴火が人類に与えた影響—西南日本で起こった鬼界アカホヤ噴火を中心として—』、雄山閣

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983『同道遺跡』

群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991『下小鳥遺跡』、群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 119

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2016『千苜遺跡発掘調査報告書』、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 652 集

国立研究開発法人産業技術総合研究所 2017『火山影響評価に係る技術知見の整備』、平成 28 年度原子力規制庁委託成果報告書、157 頁

国立研究開発法人産業技術総合研究所 “1 万年噴火イベントデータ集 (ver. 2.3)”
<https://gbank.gsj.jp/volcano/eruption/>, (参照 2018-09-01)

小松正夫 1996「秋田県の 9 世紀の土器」「秋田県の 10 世紀の土器」『日本土器事典』、雄山閣、984～987 頁

子持村教育委員会 1986『黒井峯遺跡確認調査概報』、子持村文化財調査報告 6

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986『沼久保遺跡発掘調査報告書』、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 109 集

齋藤淳 2001「津軽海峡領域における古代土器の変遷について」『研究紀要』4、青森大学考古学研究所、1～29 頁

佐藤智生 2004「平安時代における青森県上北郡の様相について—主に上北北部における 10～11 世紀の動向と予察—」『向田(35)遺跡(第 2 分冊)』、青森県埋蔵文化財調査報告書第 373 集、青森県教育委員会、123～150 頁

柴正敏・岩下紗弥佳 2005「青森県に分布する白頭山苦小牧テフラに含まれる火山ガラスの化学組成」『白神研究』2、弘前大学出版会、65～71 頁

柴正敏 2009「田舎館村前川遺跡に産出する火山ガラスについて」『前川遺跡』、青森県埋

蔵文化財調査報告書第 475 集、第二分冊、青森県埋蔵文化財調査センター、19～24 頁
下山覚 1990「鹿児島県指宿市橋牟礼川遺跡に見る火山災害史と文化変異」『日本考古学協会第 56 回総会研究発表要旨』、日本考古学協会、15～17 頁
下山覚 2002「火山災害の評価と戦略に関するアプローチ」『第四紀研究』41-4、日本第四紀学会、279～286 頁
下山覚 2005「災害と復旧」『列島の古代史 ひと・もの・こと 2 暮らしと生業』、岩波書店、249～286 頁
庄子貞雄・山田一郎 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』、97～102 頁
浄法寺町教育委員会 1981『伝天台寺跡一昭和 55 年度発掘調査概報一』
浄法寺町教育委員会 1983『天台寺跡一第 7 次発掘調査概報一』
白鳥良一 1980「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』7、宮城県多賀城跡調査研究所、1～38 頁
新海和宏 2005「出土遺物について」『狼穴IV遺跡』、秋田県文化財調査報告書第 391 集、秋田県埋蔵文化財センター、97～101 頁
新海和宏 2008「遺物について」『釈迦内中台 I 遺跡』、秋田県文化財調査報告書第 426 集、秋田県埋蔵文化財センター、611～623 頁
新藤靖 2002「遺物」『秋田城跡一政庁跡一』、秋田市教育委員会、115～136 頁
鈴木恵治 1981「古代奥羽での祥瑞災異」『紀要』1、(財)岩手県埋蔵文化財センター、17～36 頁
瀬川司男 1978「縄文期以降の火山灰と遺跡一岩手県を中心に」『どるめん』19、70～82 頁
関豊 1983「馬淵川上流域の古代土器の様相(二戸市出土の土師器を中心に)」『駒焼場遺跡緊急発掘調査報告書』、二戸市教育委員会、29～34 頁
仙台市教育委員会 1990『赤生津遺跡』、仙台市文化財調査報告書 139
第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会事務局 1998a『第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会事務局 1998b『第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム「城柵と地域社会の変容」資料集 東北地方の古代集落』
高木晃 2005「十和田 a 火山灰に覆われた水田跡について」『岩手考古学』17、岩手考古学会、37～52 頁
高田和徳 1981「考察およびまとめ」『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書 I』、一戸町文化財報告書第 1 集、一戸町教育委員会、352～371 頁
高橋信雄 1982「IV解説 3. 古代」『岩手の土器一県内出土資料の集成一』、岩手県立博物館、27～34 頁
高橋学 2006「十和田火山とシラス洪水がもたらしたもの」『十和田湖が語る古代北奥の謎』、校倉書房、11～28 頁
高橋学 2009「火山灰降下後の土器群の様相」『払田柵跡Ⅲ一長森地区一[本編]』、秋田県文化財調査報告書第 448 集、秋田県教育庁払田柵跡調査事務所、190～192 頁
高橋学 2015「竪穴・掘立柱併用建物」『季刊考古学』131、雄山閣、77～79 頁

- 高橋学 2017「米代川流域の埋没家屋から読み解く北東北の古代社会」『岩手考古学会第 49 回研究大会 古代の竪穴建物跡—機能と構造—』、岩手考古学会、1～10 頁
- 高橋與右衛門・鈴木克彦・小林克 1983「東北地方北部の遺跡と火山灰の検討」『考古風土記』8、1～56 頁
- 田中倫久・宮本毅・谷口宏充 2002「十和田火山平安噴火の火山地質」『地球惑星関連合同大会予稿集』、G030-002 頁
- 富樫泰時 1978「大湯浮石層と鹿角盆地の遺跡」『どるめん』19、JICC 出版局、55～69 頁
- 徳井由美 1989「北海道における 17 世紀以降の火山噴火とその人文環境への影響」『お茶の水地理』30、お茶の水地理学会、27～33 頁
- 内藤博夫 1966「秋田県米代川流域の第四紀火山砕屑物と段丘地形」『地理学評論』39、日本地理学会、463～484 頁
- 内藤博夫 1977「秋田県能代平野の段丘地形」『第四紀研究』16-2、日本第四紀学会、57～70 頁
- 中川光弘・宮本毅・田中勇三・吉田まき枝・谷口宏充 2004「白頭山火山の 9 世紀噴火の発見とその意義」『日本火山学会講演予稿集』、27 頁
- 中嶋友文 1997「青森県内の平安時代の火山灰について」『研究紀要』2、青森県埋蔵文化財調査センター、53～69 頁
- 中塚武・佐野雅規 2014「酸素同位体比を用いた新しい木材年輪年代法」『月刊地球号外』、海洋出版、106～113 頁
- 中村俊夫・奥野充・小田寛貴・南雅代 2011「中国・北朝鮮国境白頭山の 10 世紀巨大噴火」『考古学を科学する』、臨川書店、26～46 頁
- 名久井文明 1989「東北地方北部における縄文時代早期貝殻腹縁文土器の系統」『第 4 回縄文文化検討会シンポジウム 東北・北海道における縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器編年について』
- 奈良国立文化財研究所 1990『年輪に歴史を読む』、同朋舎出版
- 西本潤平・中川光弘・宮本毅・谷口宏充 2010「白頭山 10 世紀噴火のマグマ供給系システム：岩石学および地球化学的手法からの検討」『白頭山火山とその周辺地域の地球科学』、東北アジア研究センター叢書 41、東北大学東北アジア研究センター、71～94 頁
- 能登健 1983「群馬県下における埋没田畠調査の現状と課題—火山災害史への考古学的アプローチ—」『群馬県史研究』17、群馬県史編さん委員会事務局、14～51 頁
- 能登健 1989「古墳時代の火山災害」『第四紀研究』27-4、日本第四紀学会、283～296 頁
- 能登健 1993「考古遺跡にみる上州の火山災害」『火山灰考古学』、古今書院、54～82 頁
- 能登健 1995「災害と考古学」『考古学研究』42-1、考古学研究会、4～6 頁
- 能登健・中村直美・菊池貴広 2000「十和田 a 火山灰による災害と復旧—いわゆる畝間状遺構の再考—」『紀要』19、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、45～62 頁
- 能登健・中村直美・菊池貴広 2001「十和田 a 火山灰による災害と復旧(2)—復旧の着手時期についての詳細分析—」『紀要』20、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、47～52 頁

- 箱崎真隆・中村俊夫・大山幹成・木村淳一 2014 「 ^{14}C -spike matching による青森県新田 (1) 遺跡アスナロ材の年代決定」『第 29 回日本植生史学会大会講演要旨集』、66～67 頁
- 箱崎真隆・中村俊夫・大山幹成・木村淳一・佐野雅規・中塚武 2016 「西暦 774-775 年の ^{14}C イベントと酸素同位体比年輪年代法に基づく青森県新田 (1) 遺跡アスナロ材の暦年代の検証」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』27、34～39 頁
- 羽柴直人 1991 「土師器・須恵器について」『中野平遺跡』、青森県埋蔵文化財調査報告書第 134 集、青森県埋蔵文化財調査センター、297～317 頁
- 早川由紀夫 1983 「十和田火山中掇テフラ層の分布、粒度組成、年代」『火山』28-3、日本火山学会、263～273 頁
- 早川由紀夫 1994 「日本の 2000 年噴火カタログ」『群馬大学教育学部紀要 自然科学編』42、群馬大学教育学部、113～132 頁
- 早川由紀夫・小川真人 1998 「日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日—十和田湖と白頭山—」『火山』43-5、日本火山学会、403～407 頁
- 広井良美・宮本毅・田中倫久 2015 「十和田火山平安噴火(噴火エピソード A)の噴出物層序及び噴火推移の再検討」『火山』60-2、日本火山学会、187～209 頁
- 福澤仁之・塚本すみ子・塚本斉・池田まゆみ・岡村真・松岡裕美 1998 「年縞堆積物を用いた白頭山—苦小牧火山灰(B-Tm)の降灰年代の推定」『LAGUNA(汽水域研究)』5、55～62 頁
- 藤原弘明 2003 「考察」『五所川原須恵器窯跡群』、五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集、五所川原市教育委員会、115～145 頁
- 船木義勝 1985 「考察」『払田柵跡 I —政庁跡—』、秋田県文化財調査報告書第 122 集、秋田県教育庁払田柵跡調査事務所、133～151 頁
- 船木義勝 2009 「「堀と土塁」結界表現の諸相—青森県高屋敷館遺跡の基本的考察—」『秋田考古学』53、秋田考古学協会、23～48 頁
- 船木義勝 2011a 「白頭山(長白山)10 世紀噴火がもたらした『天慶出羽の乱』」『みちのくの考古学 40 周年記念論集』、みちのく考古学研究会、28～44 頁
- 船木義勝 2011b 「火山噴火災害と「天慶出羽の乱」」『秋田考古学』55、秋田考古学協会、23～36 頁
- 船木義勝 2014 「第 3 章 総括」『9～11 世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた、北東北世界の実態的研究』、北東北古代集落遺跡研究会、287～323 頁
- 文化庁文化財保護部 1966 「発掘の技法」『発掘調査の手びき』、(財)国土地理協会、52～53 頁
- 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査の手びき—集落遺構発掘編—』、同成社、131 頁
- 星雅之・須原拓 2004 「岩手県内の発掘調査事例からみた十和田中掇テフラ」『紀要』23、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、1～22 頁
- 星雅之・茅野嘉雄 2006 「十和田中掇テフラからみた円筒下層 a 式土器成立期の土器様相」『三内丸山遺跡の生態系史』、植生史研究特別第 2 号、日本植生史学会、151～180 頁

- 前野深 2014「カルデラとは何か：鬼界大噴火を例に」『科学』84-1、岩波書店、58～63 頁
- 町田洋・新井房夫 2003『新編 火山灰アトラス—日本列島とその周辺』、東京大学出版会
- 町田洋・新井房夫・森脇広 1981「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51-9、岩波書店、562～569 頁
- 町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 1984「テフラと考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ—」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』、古文化財編集委員会編、同朋舎出版、865～928 頁
- 町田洋 1992「火山噴火と渤海の衰亡」『謎の王国・渤海』、角川選書 229、角川書店、104～129 頁
- 町田洋 1993「大規模な爆発的噴火は自然と人間の歴史を変えたか？」『第四紀研究』32-5、日本第四紀学会、285～287 頁
- 町田洋・光谷拓実 1994「中国・北朝鮮国境における長白山の噴火年代に関する樹木年輪年代学的研究(中間報告)」『地学雑誌』103、東京地学協会、424～425 頁
- 町田洋・福澤仁之 1996「湖底堆積物からみた 10 世紀白頭山大噴火の発生年代」『日本第四紀学会講演要旨集』26、80～81 頁
- 町田洋・白尾元理 1998a「十和田カルデラと八甲田カルデラ—マグマ水蒸気噴火の産物」『写真で見る火山の自然史』、東京大学出版会、73～86 頁
- 町田洋・白尾元理 1998b「白頭山—北日本から解明された 10 世紀の大噴火」『写真で見る火山の自然史』、東京大学出版会、119～128 頁
- 松浦旅人・古澤明・澤井祐紀・宮城磯治 2007「十和田 a テフラの噴出過程と広域対比」『日本地球惑星科学連合 2007 年大会発表要旨集』、V157-024 頁
- 松山力・大池昭二 1986「十和田火山噴出物と火山活動」『十和田科学博物館』4、1～64 頁
- 丸山浩治・丸山直美・西澤正晴 2004「十和田 a テフラ (To-a) 堆積確認遺跡の集成(1)—岩手県北部地域における様相—」『紀要』23、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、113～128 頁
- 丸山浩治・丸山直美・西澤正晴 2005「十和田 a テフラ (To-a) 堆積確認遺跡の集成(2)—岩手県中央・南部地域における様相—」『紀要』24、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、67～82 頁
- 丸山浩治・丸山直美・西澤正晴 2006「十和田 a テフラ (To-a) 堆積確認遺跡の集成(3)—岩手県内各教育委員会調査分(1)—」『紀要』25、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、79～98 頁
- 丸山浩治・丸山直美・西澤正晴 2007「十和田 a テフラ (To-a) 堆積確認遺跡の集成(4)—岩手県内各教育委員会調査分(2)—」『紀要』26、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、89～96 頁
- 丸山浩治 2008「平安時代の十和田火山噴火と岩手県北部の集落—To-a テフラ降下時に存在した集落の推定とその動向—」『紀要』27、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、25～58 頁
- 丸山浩治 2011「テフラを指標とした古代集落研究の方法—青森県の平安時代集落を例に

- 一」『弘前大学大学院地域社会研究科年報』8、弘前大学大学院地域社会研究科、7～27 頁
- 丸山浩治 2012「テフラを指標とした古代土器編年とその地域差—青森県域における 9 世紀後半～10 世紀の土師器—」『紀要』31、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、25～48 頁
- 丸山浩治 2013「To-a・B-Tm テフラを指標とした古代集落研究—秋田県域における 9 世紀後半～10 世紀の集落と土器の様相—」『紀要』32、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、27～48 頁
- 丸山浩治 2015a「考古学的手法を用いた火山災害研究—10 世紀の巨大噴火と東北地方北部における人間活動—」『考古学研究』62-2、考古学研究会、43～55 頁
- 丸山浩治 2015b『火山灰から社会をよむ 10 世紀の巨大噴火と北東北』展示図録、岩手県立博物館
- 丸山浩治 2017「十和田平安噴火前後の遺跡動態」『一般社団法人日本考古学協会 2017 年度宮崎大会資料集』、日本考古学協会、83～92 頁
- 三浦圭介 1995「土器生産」『新編弘前市史資料編 1-1 考古編』、弘前市市長公室企画課、248～300 頁
- 水沢市教育委員会 2002『水沢遺跡群範囲確認調査 平成 13 年度発掘調査概報』、水沢市文化財報告書第 36 集
- 宮本長二郎 2002「竪穴住居」『日本考古学事典』、三省堂、544～548 頁
- 宮本毅・広井良美・菅野均志・長瀬敏郎・谷口宏充 2013「十和田火山平安噴火の炭素 14 ウィグルマッチング年代」『日本火山学会講演予稿集』、17 頁
- 宮本毅・中川光弘・大場司・長瀬敏郎・菅野均志・谷口宏充 2002「白頭山 10 世紀噴火の噴火推移」『月刊地球』号外 39、海洋出版、202～209 頁
- 宮本毅・中川光弘・長瀬敏郎・菅野均志・大場司・北村繁・谷口宏充 2003「白頭山（長白山）の爆発的噴火史の再検討」『東北アジア研究』7、東北大学東北アジア研究センター、93～110 頁
- 宮本毅・中川光弘・田中勇三・吉田まき枝 2004「白頭山 10 世紀噴火の噴火推移」『中国東北部白頭山 10 世紀巨大噴火とその歴史効果』、東北アジア研究センター叢書 16、15～43 頁
- 陸奥国分寺跡発掘調査委員会 1961『陸奥国分寺跡』
- 村上義直 2017「十和田平安噴火に伴う火山泥流罹災遺跡の様相—秋田県片貝家ノ下遺跡の概要—」『一般社団法人日本考古学協会 2017 年度宮崎大会資料集』、日本考古学協会、23～32 頁
- 盛岡市教育委員会 1995『小屋塚遺跡 第 1～27 次発掘調査報告書』、盛岡市教育委員会
- 八木光則 1981「志波城跡と周辺遺跡の土器様相」『志波城跡 I』、盛岡市教育委員会、103～126 頁
- 八木光則 1989「安倍・清原氏の城柵遺跡」『岩手考古学』1、岩手考古学会、1～28 頁
- 八木光則 1993「古代斯波郡と爾薩体の土器様相」『第 18 回古代城柵官衙遺跡検討会資料』、古代城柵官衙遺跡検討会、11～19 頁

- 八木光則 2006a 「陸奥北半における轆轤土師器の導入」『陶磁器の社会史 吉岡康暢先生古希記念論集』、桂書房、155～170 頁
- 八木光則 2006b 「北奥羽の赤焼土器」『考古学の諸相Ⅱ』、匠出版、743～758 頁
- 八木光則 2009 「陸奥北部における古代集落の動向（概要）」『第 35 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』、古代城柵官衙遺跡検討会第 35 回事務局、185～187 頁
- 八塚慎也・奥野充・中村俊夫・木村勝彦・宮本毅・谷口宏充・長瀬敏郎・金旭・高橋利彦 2006 「白頭山北麓，東方沢の炭化樹幹の ^{14}C ウィグルマッティング」『日本火山学会講演予稿集』、4 頁
- 八塚慎也・奥野充・中村俊夫・木村勝彦・澤田恵美・瀬戸間洋平・宮本毅・金奎漢・森脇広・長瀬敏郎・金旭・金伯祿・高橋利彦・谷口宏充 2009 「白頭山北東麓の炭化樹幹の ^{14}C ウィグルマッティング」『日本火山学会講演予稿集』、50 頁
- 領塚正浩 2006 「縄文時代早期中葉土器群の研究史～東北地方北部を中心として」『第 4 回縄文時代早期中葉土器群の再検討—資料集—』、海峡土器編年研究会
- Hakozaki et al. (2018) Verification of the annual dating of the 10th century Baitoushan Volcano eruption based on an AD 774-775 carbon-14 spike. *Radiocarbon*, 60, 261-268.
- Hayakawa Yukio. (1985) Pyroclastic Geology of Towada Volcano. *Bulletin of the Earthquake Research Institute*, Vol.60, 507-592, University of Tokyo.
- Liu R. and Wei H. (1996) The large eruption of Tianchi volcano, Changbaishan during 750-960 AD. *Abstracts of International Geological Congress*, Beijing, 428.
- Machida Hiroshi. Moriwaki Hiroshi. Zhao Da-Chang. (1990) The recent major eruption of changbai volcano and its environmental effects. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University*, 25, 1-20.
- Newhall, C. G. and Self, S. (1982) The volcanic explosivity index (VEI): An estimate of explosive magnitude for historical volcanism. *J. Geophys. Res.*, 87(C2), 1231-1238.
- Oppenheimer et al. (2017) Multi-proxy dating the ‘Millennium Eruption’ of Changbaishan to late 946 CE. *Quaternary Science Reviews*, 158, 164-171.
- 魏海泉・刘若新・樊祺诚・杨清福・李霓 1999 「长白山天池火山——多成因中央式火山」『地质论评』第 45 卷增刊、257～262 頁